

仙台市文化財調査報告書第 342 集

仙 台 城 跡

—— 仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書Ⅱ ——

2009年3月

仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書第 342 集

仙 台 城 跡

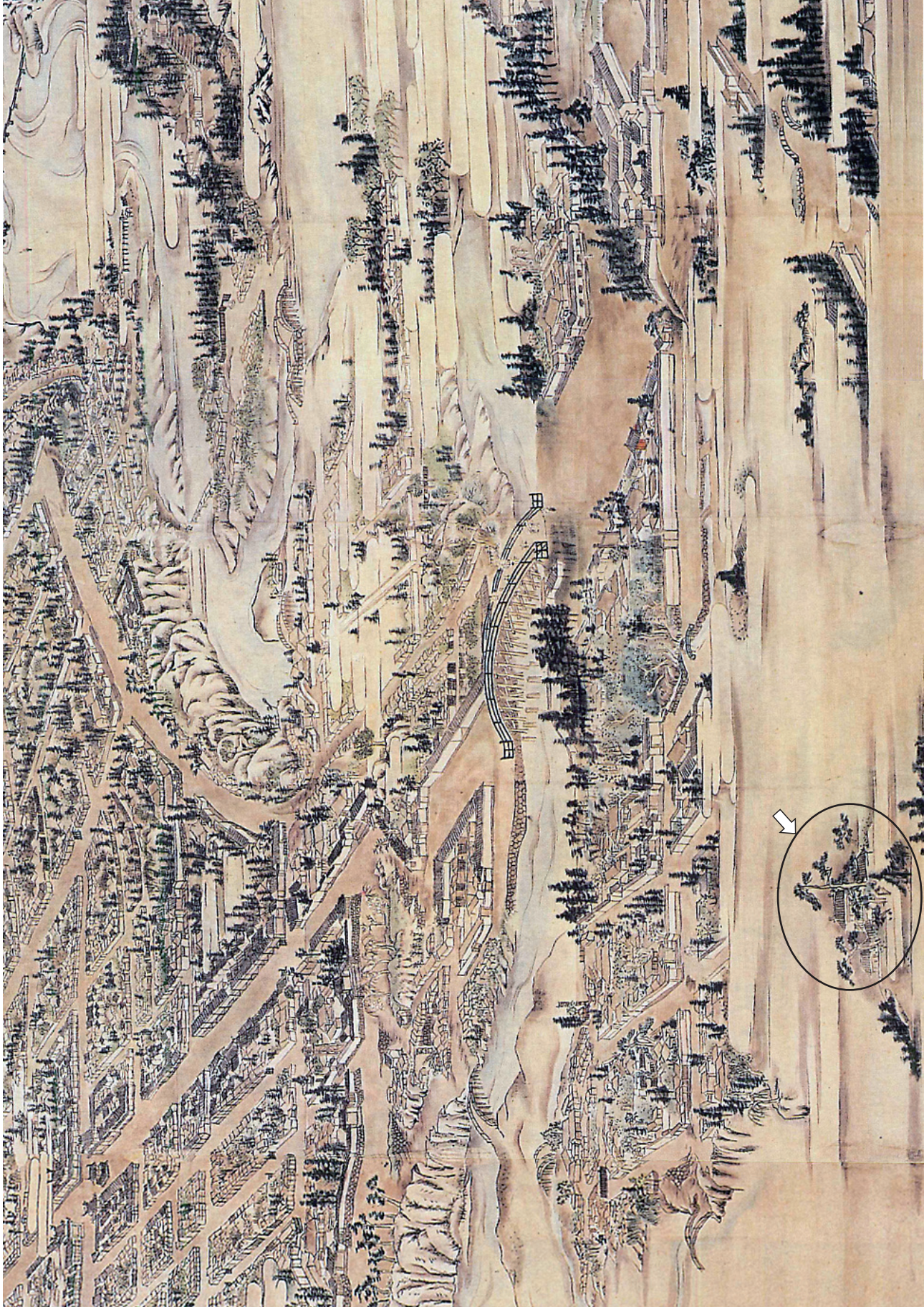
—— 仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書Ⅱ ——

2009年3月

仙台市教育委員会



調査区全景（東から）



文久2年(1862)仙台下城(○は調査区付近)

財団法人斎藤報恩会所蔵



I区 III層上面 全景写真（北東から）



II区 IV層上面 全景写真（東から）



Ⅲ区 Ⅳ層上面 全景写真
(南から)



Ⅲ区全景
(南西から)



1号池 (南西から)



4号池 (北から)



I 区出土遺物



II 区出土遺物



III区出土遺物



SN1 祭祀遺構出土土師質土器

序 文

仙台市の文化財保護行政につきまして、日ごろから多大なご協力を賜り、まことに感謝いたえません。

さて、当市では、地下鉄東西線事業を進め、地下鉄南北線やＪＲ、バスと連携して公共交通ネットワークを形成することにより、さらに暮らしやすく環境にやさしい新しい都市づくりを目指しております。

この計画路線内には、仙台城跡や関連する遺跡があり、また、未発見の遺跡も予測されることから、仙台市教育委員会では、施工主体者である仙台市交通局との協議を重ね、平成16年度より確認・試掘調査を行ってまいりました。このうち仙台城跡（亀岡トンネル開削部）は仙台城二の丸跡の北方に位置し、近世絵図によると伊達家家臣の屋敷地に相当します。平成16年度から翌年度にかけて実施した確認調査および試掘調査から、多くの近世遺構が発見されることが予想され、平成18年度には約1年にわたる本格的な発掘調査を行いました。調査の結果、仙台城をとりまく武家屋敷の様相を示す貴重な資料が多数得られております。本報告書は、この平成18年度の本発掘調査の成果をまとめたものです。

先人の残した貴重な文化遺産を保護し、保存活用を図りつつ次の世代に継承していくことは、現代に生きる私たちの大きな責務であると考えております。また文化財の保護につきましては、地域の皆様の深いご理解とご協力が必要となります。その意味でも、今回の調査成果が地域の歴史を解き明かしていくための貴重な資料となり、多くの方々に活用されれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本報告書の刊行に際しまして、ご協力くださいました皆様に深く感謝申し上げます次第です。

平成21年3月



仙台市教育委員会

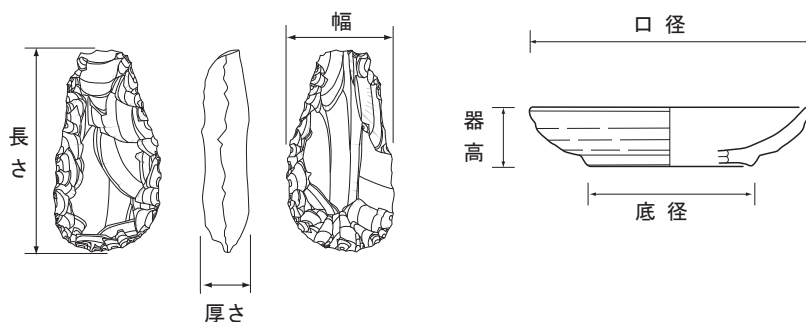
教育長 荒井 崇

例言

1. 本書は高速鉄道東西線建設事業の建設に伴い実施された、仙台城跡（亀岡トンネル開削部）の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、国際航業株式会社（現 国際文化財株式会社）が仙台市教育委員会の委託を受け、仙台市教育委員会の指導のもとに行った。
3. 本書の作成・編集・執筆は、仙台市教育委員会生涯学習部文化財課 原河英二・志賀雄一・大久保弥生の指導のもとに、国際文化財株式会社 土橋尚起・関美男・福井流星が担当した。
4. 本調査の実施及び報告書の作成に際し、次の諸氏・機関よりご指導、ご教示、さまざまご協力を賜った。記して謝意を表す次第である。（敬称略、順不同）
藤沢敦・高木暢亮・柴田恵子（東北大学埋蔵文化財調査研究センター） 大山幹成（東北大学植物園）
松本秀明（東北学院大学） 鈴木啓（福島県考古学会） 入間田宣夫（東北芸術工科大学）
齊藤鋭雄（宮城県農業短期大学名誉教授） 北垣聰一郎（石川県金沢城調査研究所） 深澤百合子（東北大学）
関根達人（弘前大学） 齋藤弘明（仙台市科学館） 東北大学 仙台市戦災復興記念館 仙台市交通局
仙台市建設局 仙台市博物館
5. 発掘調査に関わる一切の資料は、仙台市教育委員会が保管している。
6. 報告書掲載陶磁器の年代等の確認は佐藤洋（仙台市教育委員会主査）が行ない、木製品の図化に関しては荒井格（仙台市教育委員会主査）・大久保弥生（仙台市教育委員会主事）が指導した。

凡例

1. 本書の土色は、新版標準土色帖（農林水産省農林水産技術会議事務局 1998 年版）に準拠している。
2. 本書中の第 1 図は国土地理院発行の 5 万分の 1 地形図「仙台」と 1 万分の 1 地形図「青葉山」「仙台駅」を合成した。
3. 図中の座標値は日本測地系座標を使用した。
4. 本文図版等で使用した方位は真北を基準としている。
5. 標高値は、海拔高度（T.P）を示している。
6. 遺構図は 1/40 縮尺を基本とした。その他については各図のスケールを参照されたい。
7. 基本層の表記は、表土層からローマ数字を用い、遺構堆積土についてはアラビア数字で表記した。
8. 遺構図において、（トーン）は礫、（トーン）は木質部を示している。
9. 遺構・遺物の登録・整理及び報告書での表示には、以下の分類と略号を使用した。
SA：柱列跡、SD：溝跡、SE：井戸跡、SK：土坑、SN：祭祀遺構、P：ピット、SX：性格不明遺構
A：縄文土器、F：丸瓦・軒丸瓦、G：平瓦・軒平瓦、H：その他の瓦、I：陶器・瓦質土器・土師質土器
J：磁器、K：石器・石製品、N：金属製品、O：自然遺物、P：土製品、X：その他の遺物
なお、池、石垣、道路状遺構、土手状遺構、柵状遺構等には略号は用いていない。
10. 遺物実測図は原則として縮尺 1/3 としたが、瓦は 1/4、古銭は原寸で表示した。また、木製品は適宜縮尺を調整している。
11. 遺物実測図において、外形線・中心線・稜線は実線、推定線は破線で、釉薬部の境は一点鎖線で表した。中心線が一点鎖線の場合は、展開し図上復元したものである。
12. 遺物観察表で陶磁器類の成形技法は、大部分がロクロ形成であるために、他の技法を記載した。法量の記載で（ ）付きの数字は残存値を示している。



本文目次

第1章 調査概要	
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査要項	1
第3節 調査概要	3
第2章 位置と環境	4
第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	5
第3章 調査方法	9
第4章 調査区基本層序	11
第5章 検出遺構と遺物	20
第1節 I区	20
1 VI層上面	20
(1) 土坑	20
1) SK55 土坑	20
2) SK61 土坑	24
(2) その他の遺構	25
1) SX23 性格不明遺構	25
2 V層上面	26
(1) 柱列跡	26
1) SA3 柱列跡	26
2) SA4 柱列跡	28
3) SA6 柱列跡	29
(2) 溝跡	31
1) SD45 溝跡	31
2) SD51 溝跡	31
(3) 井戸跡	33
1) SE6 井戸跡	33
(4) 土坑	36
1) SK34 土坑	36
(5) その他の遺構	36
1) SX11・12・13・16・18・21 性格不明遺構	36
3 IV層上面	37
(1) 溝跡	37
1) SD43 溝跡	37
(2) 土坑	39
1) SK36 土坑	39
4 III層上面	40
(1) 溝跡	40
1) SD29 溝跡	40
(2) その他の遺構	43
1) 1号道路状遺構	43
2) 1号土手状遺構	44
5 II層上面	45
(1) 溝跡	45

1) SD28 溝跡	45
(2) その他の遺構	47
1) 1号木樋	47
2) 2号石垣	50
3) 1号埋甕	51
4) SX17 性格不明遺構	53
5) 建物(病馬廐)跡	54
6 遺構外出土遺物	55
(1) IV層出土遺物	55
(2) III層出土遺物	60
(3) I層・II層・攪乱出土遺物	71
第2節 II区	73
1 IV層上面	73
(1) 溝跡	73
1) SD27 溝跡	73
(2) 土坑	74
1) SK4 土坑	74
2) SK5 土坑	75
(3) その他の遺構	76
1) 1・2号竹樋	76
2) 1号柵状遺構	82
2 III層上面	84
(1) 柱列跡	84
1) SA1 柱列跡	84
(2) 溝跡	88
1) SD7 溝跡	88
2) SD18 溝跡	90
3) SD19 溝跡	91
4) SD33 溝跡	93
(3) 土坑	94
1) SK2 土坑	94
2) SK3 土坑	94
(4) その他の遺構	95
1) SX2 性格不明遺構	95
2) SX9 性格不明遺構	96
3) 1号飛び石	97
3 II層上面	98
(1) その他の遺構	98
1) 1号石垣	98
4 遺構外出土遺物	100
(1) IV層出土遺物	100
(2) II層出土遺物	101
(3) I層・攪乱出土遺物	101
第3節 III区	104
1 V層上面	104
(1) 柱列跡	104
1) SA13 柱列跡	104
2) SA14 柱列跡	104
3) SA15 柱列跡	104
4) SA16 柱列跡	110
5) SA27 柱列跡	110
6) SA17 柱列跡	113
7) SA18 柱列跡	113
(2) 溝跡	115
1) SD24 溝跡・SX14 性格不明遺構	115
2) SD34 溝跡	120
3) SD39 溝跡	120
4) SD40 溝跡	122
5) SD41 溝跡	123
6) SD49 溝跡	123
7) SD54 溝跡	125
8) SD55 溝跡	131
9) SD56 溝跡	133
10) SD63 溝跡	133
11) SD64 溝跡	135
12) SD65 溝跡	135
13) SD66 溝跡	137

(3) 土坑	138	
1) SK12 土坑	138	2) SK13 土坑
4) SK18 土坑	140	5) SK20 土坑
7) SK42 土坑	141	8) SK49 土坑
10) SK56 土坑	142	11) SK57 土坑
13) SK60 土坑	144	14) SK62 土坑
3) SK14 土坑	139	6) SK26 土坑
		9) SK50 土坑
		12) SK58 土坑
		15) SK64 土坑
(4) その他の遺構	147	
1) SX10 性格不明遺構	147	2) SX15 性格不明遺構
		3) SN1 祭祀遺構
2 IV層上面	160	
(1) 柱列跡	160	
1) SA2 柱列跡	160	2) SA5 柱列跡
4) SA11 柱列跡	166	5) SA12 柱列跡
7) SA20 柱列跡	168	8) SA21 柱列跡
10) SA23 柱列跡	172	11) SA24 柱列跡
13) SA26 柱列跡	177	12) SA25 柱列跡
3) SA7 柱列跡	164	
6) SA19 柱列跡	168	
9) SA22 柱列跡	172	
12) SA25 柱列跡	175	
(2) 溝跡	178	
1) SD 5 溝跡	178	2) SD6 溝跡
4) SD12 溝跡	181	5) SD15 溝跡
7) SD23 溝跡	183	8) SD31 溝跡
10) SD38 溝跡	189	11) SD47 溝跡
3) SD9 溝跡	179	6) SD22 溝跡
		9) SD32 溝跡
		12) SD61 溝跡
(3) 井戸跡	191	
1) SE1 井戸跡	191	2) SE5 井戸跡
2) SE5 井戸跡	194	
(4) 土坑	195	
1) SK1 土坑	195	2) SK6 土坑
4) SK8 土坑	196	5) SK9 土坑
7) SK16 土坑	198	8) SK17 土坑
10) SK25 土坑	200	11) SK27 土坑
13) SK31 土坑	202	14) SK32 土坑
16) SK47 土坑	204	15) SK37 土坑
19) SK70 土坑	205	17) SK59 土坑
22) SK73 土坑	206	18) SK69 土坑
25) SK81 土坑	208	19) SK19 土坑
		20) SK71 土坑
		21) SK72 土坑
		22) SK73 土坑
		23) SK74 土坑
		24) SK78 土坑
		25) SK81 土坑
		26) SK82 土坑
		27) SK84 土坑
(5) その他の遺構	209	
1) SX8 性格不明遺構	209	2) SX20 性格不明遺構
		3) 5号池
3 III層上面	215	
(1) 柱列跡	215	
1) SA8 柱列跡	215	
(2) 溝跡	216	
1) SD3 溝跡	216	2) SD4 溝跡
4) SD14 溝跡	223	5) SD30 溝跡
3) SD10 溝跡	222	
(3) 井戸跡	225	
1) SE2 井戸跡	225	2) SE3 井戸跡
		3) SE4 井戸跡

(4) 土坑	227
1) SK33 土坑	227
2) SK44 土坑	228
3) SK63 土坑	228
4) SK68 土坑・P2	230
(5) その他の遺構	231
1) SX3 性格不明遺構	231
2) SX6 性格不明遺構	233
3) 4号木樋	234
4) 2号枡状遺構	236
5) 1号池	237
6) 2号池	241
7) 4号池・2号木樋	244
8) 6号池・3号木樋	250
4 縄文時代の調査	252
1) SK89 土坑	253
2) SX30 性格不明遺構	253
5 遺構外出土遺物	255
(1) V層出土遺物	255
(2) IV層出土遺物	256
(3) III層出土遺物	257
(4) I層・II層・攪乱出土遺物	259
第6章 自然科学分析	263
第1節 樹種調査	263
第2節 放射性炭素年代測定調査	267
第3節 寄生虫卵分析	273
第4節 植物珪酸体分析	274
第5節 石材鑑定	282
第7章 出土遺物と検出遺構について	284
第1節 出土遺物について	284
(1) 出土した陶磁器について	284
(2) 瓦	290
(3) 金属製品	291
(4) 木製品	291
(5) 出土遺物のまとめ	293
第2節 検出遺構について	294
(1) I区	294
(2) II区	294
(3) III区	295
(4) 区画施設について	296
(5) 検出遺構のまとめ	301
第8章 まとめ	302
参考文献	303

挿 図 目 次

第1図 調査区位置図	2	第16図 I区 VI層上面遺構配置図	20
第2図 河岸段丘分布図	4	第17図 SK55土坑 平面図・断面図	21
第3図 絵図・地図における調査区周辺	6	第18図 SK55土坑 出土遺物	21
第4図 絵図・地図における調査区周辺	7	第19図 SK55土坑 出土遺物	22
第5図 周辺遺跡分布図	8	第20図 SK55土坑 出土遺物	23
第6図 調査区設定図	9	第21図 SK55土坑 出土遺物	24
第7図 グリッド設定図	10	第22図 SK61土坑 平面図・断面図	24
第8図 各調査区柱状図および対応関係図	12	第23図 SX23性格不明遺構 平面図・断面図	25
第9図 土層断面図作成位置図	12	第24図 I区 V層上面遺構配置図	26
第10図 I区 壁断面図	14	第25図 SA3柱列跡 平面図・断面図	27
第11図 II区 北壁断面図	15	第26図 SA4柱列跡 平面図・断面図	28
第12図 II区 南壁断面図	16	第27図 SA6柱列跡 平面図・断面図	30
第13図 III区 北壁断面図	17	第28図 SD45溝跡 平面図・断面図	31
第14図 III区 南壁断面図	18	第29図 SD51溝跡 平面図・断面図	32
第15図 III区 東壁断面図	19	第30図 SD51溝跡 出土遺物	33

第31图	SE6井戸跡 平面図・断面図	34	第87图	SA1柱列跡 出土遺物	87
第32图	SE6井戸跡 出土遺物	35	第88图	SD7溝跡 平面図・断面図	89
第33图	SK34土坑 平面図・断面図	36	第89图	SD7溝跡 出土遺物	90
第34图	I区 IV層上面遺構配置図	37	第90图	SD18溝跡 出土遺物	90
第35图	SD43溝跡 平面図・断面図	38	第91图	SD18溝跡 平面図・断面図	91
第36图	SD43溝跡 出土遺物	38	第92图	SD19溝跡 平面図・断面図	92
第37图	SK36土坑 平面図・断面図	39	第93图	SD19溝跡 出土遺物	92
第38图	I区 III層上面遺構配置図	40	第94图	SD33溝跡 平面図・断面図	93
第39图	SD29溝跡・1号道路状遺構・1号土手状遺構 平面図・断面図	41	第95图	SD33溝跡 出土遺物	93
第40图	SD29溝跡 出土遺物	42	第96图	SK2土坑 平面図・断面図	94
第41图	1号道路状遺構 出土遺物	43	第97图	SK3土坑 平面図・断面図	94
第42图	1号土手状遺構 出土遺物	44	第98图	SX2性格不明遺構 平面図・断面図	95
第43图	I区 II層上面遺構配置図	45	第99图	SX2性格不明遺構 出土遺物	95
第44图	SD28溝跡 平面図・断面図	46	第100图	SX9性格不明遺構 平面図・断面図	96
第45图	1号木樋 平面図・断面図	47	第101图	SX9性格不明遺構 出土遺物	96
第46图	1号木樋 出土遺物	48	第102图	1号飛石 平面図・断面図	97
第47图	1号木樋 出土遺物	49	第103图	1号石垣 出土遺物	98
第48图	2号石垣 平面図・断面図	50	第104图	1号石垣 平面図・断面図	99
第49图	2号石垣 出土遺物	51	第105图	II区IV層 出土遺物	100
第50图	1号埋襲 平面図・断面図	52	第106图	II区II層 出土遺物	101
第51图	1号埋襲 出土遺物	52	第107图	II区I層 出土遺物	102
第52图	SX17性格不明遺構 平面図・断面図	53	第108图	II区I層 出土遺物	103
第53图	建物(病馬廄)跡 平面図	54	第109图	III区 V層上面遺構配置図	105・106
第54图	I区IV層 出土遺物	55	第110图	SA13柱列跡 平面図・断面図	107
第55图	I区IV層 出土遺物	56	第111图	SA14柱列跡 平面図・断面図	108
第56图	I区IV層 出土遺物	57	第112图	SA15柱列跡 平面図・断面図	109
第57图	I区IV層 出土遺物	58	第113图	SA16・27柱列跡 平面図・断面図	111
第58图	I区IV層 出土遺物	59	第114图	SA16柱列跡 出土遺物	112
第59图	I区III層 出土遺物	60	第115图	SA17・18柱列跡 平面図・断面図	114
第60图	I区III層 出土遺物	61	第116图	SD24溝跡 出土遺物	115
第61图	I区III層 出土遺物	62	第117图	SD24溝跡・SX14性格不明遺構 平面図	116
第62图	I区III層 出土遺物	63	第118图	SD24溝跡・SX14性格不明遺構 断面図	117
第63图	I区III層 出土遺物	64	第119图	SX14性格不明遺構 出土遺物	118
第64图	I区III層 出土遺物	65	第120图	SX14性格不明遺構 出土遺物	119
第65图	I区III層 出土遺物	66	第121图	SD34溝跡 平面図・断面図	120
第66图	I区III層 出土遺物	67	第122图	SD39溝跡 平面図・断面図	121
第67图	I区III層 出土遺物	68	第123图	SD40溝跡 平面図・断面図	122
第68图	I区III層 出土遺物	69	第124图	SD41溝跡 平面図・断面図	123
第69图	I区III層 出土遺物	70	第125图	SD49溝跡 平面図・断面図	124
第70图	I区I層・II層・攪乱 出土遺物	71	第126图	SD49溝跡 出土遺物	124
第71图	I区攪乱 出土遺物	72	第127图	SD54溝跡 平面図・断面図	125
第72图	II区 IV層上面遺構配置図	73	第128图	SD54溝跡 出土遺物	126
第73图	SD27溝跡 平面図・断面図	74	第129图	SD54溝跡 出土遺物	127
第74图	SK4土坑 平面図・断面図	74	第130图	SD54溝跡 出土遺物	128
第75图	SK4土坑 出土遺物	75	第131图	SD54溝跡 出土遺物	129
第76图	SK5土坑 平面図・断面図	75	第132图	SD54溝跡 出土遺物	130
第77图	1・2号竹樋 平面図	78	第133图	SD54溝跡 出土遺物	131
第78图	1・2号竹樋 断面図	79	第134图	SD55溝跡 出土遺物	131
第79图	1号竹樋 出土遺物	80	第135图	SD55溝跡 平面図・断面図	132
第80图	2号竹樋 出土遺物	81	第136图	SD56溝跡 平面図・断面図	133
第81图	1号桁状遺構 平面図・断面図	82	第137图	SD63溝跡 平面図・断面図	134
第82图	1号桁状遺構 出土遺物	83	第138图	SD64溝跡 平面図・断面図	135
第83图	II区 III層上面遺構配置図	84	第139图	SD65溝跡 平面図・断面図	136
第84图	SA1柱列跡 平面図	85	第140图	SD65溝跡 出土遺物	136
第85图	SA1柱列跡 断面図	86	第141图	SD66溝跡 平面図	137
第86图	SA1柱列跡 断面図	87	第142图	SD66溝跡 断面図	138

第143图	SK12土坑	平面图·断面图	138	第199图	SD32沟迹	出土遺物	189
第144图	SK13土坑	平面图·断面图	139	第200图	SD38沟迹	平面图·断面图	189
第145图	SK14土坑	平面图·断面图	139	第201图	SD47沟迹	平面图·断面图	190
第146图	SK14土坑	出土遺物	139	第202图	SD61沟迹	平面图·断面图	191
第147图	SK18土坑	平面图·断面图	140	第203图	SE1井戸跡	平面图·断面图	192
第148图	SK20土坑	平面图·断面图	140	第204图	SE1井戸跡	出土遺物	193
第149图	SK26土坑	平面图·断面图	141	第205图	SE5井戸跡	平面图·断面图	194
第150图	SK42土坑	平面图·断面图	141	第206图	SE5井戸跡	出土遺物	194
第151图	SK49土坑	平面图·断面图	142	第207图	SK1土坑	平面图·断面图	195
第152图	SK50土坑	平面图·断面图	142	第208图	SK6土坑	平面图·断面图	195
第153图	SK56·57土坑	平面图·断面图	143	第209图	SK7土坑	平面图·断面图	196
第154图	SK58土坑	平面图·断面图	143	第210图	SK8土坑	平面图·断面图	196
第155图	SK60土坑	平面图·断面图	144	第211图	SK9土坑	平面图·断面图	197
第156图	SK62土坑	平面图·断面图	144	第212图	SK10土坑	平面图·断面图	197
第157图	SK62土坑	出土遺物	145	第213图	SK16土坑	平面图·断面图	198
第158图	SK64土坑	平面图·断面图	146	第214图	SK17土坑	平面图·断面图	198
第159图	SK64土坑	出土遺物	146	第215图	SK19土坑	平面图·断面图	199
第160图	SX10性格不明遺構	平面图·断面图	147	第216图	SK19土坑	出土遺物	200
第161图	SX10性格不明遺構	出土遺物	147	第217图	SK25土坑	平面图·断面图	200
第162图	SX15性格不明遺構	平面图·断面图	148	第218图	SK27土坑	平面图·断面图	201
第163图	SN1祭祀遺構	平面图·断面图	149	第219图	SK28土坑	平面图·断面图	202
第164图	SN1祭祀遺構	出土遺物	150	第220图	SK31土坑	平面图·断面图	202
第165图	SN1祭祀遺構	出土遺物	151	第221图	SK32土坑	平面图·断面图	203
第166图	SN1祭祀遺構	出土遺物	152	第222图	SK37土坑	平面图·断面图	203
第167图	SN1祭祀遺構	出土遺物	153	第223图	SK47土坑	平面图·断面图	204
第168图	SN1祭祀遺構	出土遺物	154	第224图	SK47土坑	出土遺物	204
第169图	SN1祭祀遺構	出土遺物	155	第225图	SK59土坑	平面图·断面图	204
第170图	SN1祭祀遺構	出土遺物	156	第226图	SK69土坑	平面图·断面图	205
第171图	SN1祭祀遺構	出土遺物	157	第227图	SK70土坑	平面图·断面图	205
第172图	SN1祭祀遺構	出土遺物	158	第228图	SK71土坑	平面图·断面图	205
第173图	SN1祭祀遺構	出土遺物	159	第229图	SK72土坑	平面图·断面图	206
第174图	SA2柱列跡	平面图·断面图	160	第230图	SK73土坑	平面图·断面图	206
第175图	Ⅲ区 Ⅳ層上面遺構配置图		161·162	第231图	SK74土坑	平面图·断面图	207
第176图	SA5柱列跡	平面图·断面图	163·164	第232图	SK78土坑	平面图·断面图	207
第177图	SA7柱列跡	平面图·断面图	165	第233图	SK78土坑	出土遺物	207
第178图	SA11柱列跡	平面图·断面图	166	第234图	SK81土坑	平面图·断面图	208
第179图	SA12柱列跡	平面图·断面图	167·168	第235图	SK82土坑	平面图·断面图	208
第180图	SA19·20柱列跡	平面图·断面图	169·170	第236图	SK84土坑	平面图·断面图	209
第181图	SA21柱列跡	平面图·断面图	171	第237图	SX8性格不明遺構	平面图·断面图	209
第182图	SA22柱列跡	平面图·断面图	172	第238图	SX20性格不明遺構	平面图·断面图	210
第183图	SA23柱列跡	平面图·断面图	173	第239图	5号池	平面图·断面图	211
第184图	SA24柱列跡	平面图·断面图	174	第240图	5号池	出土遺物	212
第185图	SA25柱列跡	平面图	175	第241图	5号池	出土遺物	213
第186图	SA25柱列跡	断面图	176	第242图	5号池	出土遺物	214
第187图	SA26柱列跡	平面图·断面图	177	第243图	SA8柱列跡	平面图·断面图	215
第188图	SD5沟迹	平面图·断面图	178	第244图	SA8柱列跡	出土遺物	216
第189图	SD6沟迹	平面图·断面图	179	第245图	SD3沟迹	出土遺物	216
第190图	SD9沟迹	平面图·断面图	180	第246图	Ⅲ区 Ⅲ層上面遺構配置图		217·218
第191图	SD12沟迹	平面图·断面图	181	第247图	SD3沟迹	平面图·断面图	219
第192图	SD12沟迹	出土遺物	182	第248图	SD4沟迹	出土遺物	220
第193图	SD15沟迹	平面图·断面图	183	第249图	SD4沟迹	平面图·断面图	221
第194图	SD22沟迹	平面图·断面图	184	第250图	SD10沟迹	平面图·断面图	222
第195图	SD23沟迹	平面图·断面图	185	第251图	SD14沟迹	出土遺物	223
第196图	SD23沟迹	出土遺物	186	第252图	SD30沟迹	平面图·断面图	223
第197图	SD31沟迹	平面图·断面图	187	第253图	SD14沟迹	平面图·断面图	224
第198图	SD32沟迹	平面图·断面图	188	第254图	SE2井戸跡	平面图·断面图	225

第255図	SE3井戸跡 出土遺物	225	第292図	Ⅲ区Ⅴ層 出土遺物	255
第256図	SE3井戸跡 平面図・断面図	226	第293図	Ⅲ区Ⅳ層 出土遺物	256
第257図	SE4井戸跡 平面図・断面図	227	第294図	Ⅲ区Ⅲ層 出土遺物	257
第258図	SK33土坑 平面図・断面図	227	第295図	Ⅲ区Ⅲ層 出土遺物	258
第259図	SK44土坑 平面図・断面図	228	第296図	Ⅲ区Ⅰ層・Ⅱ層 出土遺物	259
第260図	SK44土坑 出土遺物	228	第297図	Ⅲ区Ⅰ層・Ⅱ層・攪乱 出土遺物	260
第261図	SK63土坑 平面図・断面図	229	第298図	Ⅲ区Ⅰ層・Ⅱ層・攪乱 出土遺物	261
第262図	SK63土坑 出土遺物	229	第299図	Ⅲ区Ⅰ層・攪乱 出土遺物	262
第263図	SK68土坑・P2 平面図・断面図	230	第300図	仙台城跡(亀岡トンネル開削部)出土木製品の顕微鏡写真	265
第264図	SK68土坑・P2 出土遺物	231	第301図	仙台城跡(亀岡トンネル開削部)出土木製品の顕微鏡写真	266
第265図	SX3性格不明遺構 出土遺物	231	第302図	仙台城跡(亀岡トンネル開削部)における植物珪酸体分析結果	279
第266図	SX3性格不明遺構 平面図・断面図	232	第303図	仙台城跡(亀岡トンネル開削部)における植物珪酸体分析結果	280
第267図	SX6性格不明遺構 平面図・断面図	233	第304図	仙台城跡(亀岡トンネル開削部)の植物珪酸体(プラント・オパール)	281
第268図	SX6性格不明遺構 出土遺物	233	第305図	仙台城跡(亀岡トンネル開削部)出土石材	283
第269図	4号木樋 出土遺物	234	第306図	各区出土陶磁器数量	284
第270図	4号木樋 平面図・断面図	235	第307図	Ⅰ区 年代別産地組成	285
第271図	2号枡状遺構 平面図・断面図	236	第308図	Ⅰ区 層一産地別出土陶磁器	285
第272図	2号枡状遺構 出土遺物	237	第309図	外底部漆書	286
第273図	1号池 平面図・断面図	237・238	第310図	Ⅱ区 年代別産地組成	286
第274図	1号池 出土遺物	238	第311図	Ⅱ区 層一産地別出土陶磁器	286
第275図	1号池 出土遺物	239	第312図	Ⅲ区 年代別産地組成	287
第276図	1号池 出土遺物	240	第313図	Ⅲ区 層一産地別出土陶磁器	288
第277図	2号池 平面図	241	第314図	機能別出土数量	289
第278図	2号池 断面図	242	第315図	食膳具産地別割合	289
第279図	2号池 出土遺物	243	第316図	軒丸瓦	290
第280図	2号池 出土遺物	244	第317図	軒平瓦	290
第281図	4号池・2号木樋 平面図・断面図	245	第318図	桃瓦	291
第282図	4号池 出土遺物	246	第319図	舟形木製品	292
第283図	4号池 出土遺物	247	第320図	漆付着状況	294
第284図	4号池 出土遺物	248	第321図	Ⅰ区 近代地図と遺構配置	294
第285図	2号木樋 出土遺物	249	第322図	Ⅲ区 池と溝の変遷	296
第286図	6号池・3号木樋 出土遺物	250	第323図	17世紀の区画	297
第287図	6号池・3号木樋 平面図・断面図	251	第324図	18世紀の区画	297
第288図	トレンチ設定図	252	第325図	Ⅲ区Ⅳ層の区画変遷	298
第289図	SK89土坑 平面図・断面図	253	第326図	19世紀の区画	299
第290図	SX30性格不明遺構 平面図・断面図	253	第327図	各区・層別の遺構方位	300
第291図	トレンチ出土の縄文土器	254			

表目次

第1表	遺跡地名表	8	第6表	仙台城跡(亀岡トンネル開削部)における植物珪酸体分析結果	278
第2表	調査区基本土層注記表	13	第7表	Ⅲ区Ⅴ層遺構方位	296
第3表	樹種一覧	264	第8表	Ⅲ区Ⅳ層遺構方位	297
第4表	仙台城跡(亀岡トンネル開削部)出土木製品の炭素14年代測定結果	268	第9表	Ⅰ～Ⅲ区 主要遺構方位	298
第5表	仙台城跡(亀岡トンネル開削部)における寄生虫卵分析結果	274			

写真図版目次

図版1	Ⅰ区壁面(1)	305	図版8	Ⅲ区壁面(4)	312
図版2	Ⅰ区壁面(2)・Ⅱ区壁面(1)	306	図版9	Ⅲ区壁面(5)	313
図版3	Ⅱ区壁面(2)	307	図版10	Ⅲ区壁面(6)	314
図版4	Ⅱ区壁面(3)	308	図版11	Ⅲ区壁面(7)	315
図版5	Ⅱ区壁面(4)・Ⅲ区壁面(1)	309	図版12	Ⅲ区壁面(8)	316
図版6	Ⅲ区壁面(2)	310	図版13	Ⅰ区Ⅵ層	317
図版7	Ⅲ区壁面(3)	311	図版14	Ⅰ区Ⅴ層(1)	318

图版 15	I 区V層 (2)	319	图版 72	Ⅲ区Ⅲ層 (1)	376
图版 16	I 区V層 (3)	320	图版 73	Ⅲ区Ⅲ層 (2)	377
图版 17	I 区V層 (4)	321	图版 74	Ⅲ区Ⅲ層 (3)	378
图版 18	I 区V層 (5) · IV層	322	图版 75	Ⅲ区Ⅲ層 (4)	379
图版 19	I 区Ⅲ層	323	图版 76	Ⅲ区Ⅲ層 (5)	380
图版 20	I 区Ⅱ層 (1)	324	图版 77	Ⅲ区Ⅲ層 (6)	381
图版 21	I 区Ⅱ層 (2)	325	图版 78	Ⅲ区Ⅲ層 (7)	382
图版 22	Ⅱ区IV層 (1)	326	图版 79	Ⅲ区Ⅲ層 (8)	383
图版 23	Ⅱ区IV層 (2)	327	图版 80	Ⅲ区Ⅲ層 (9)	384
图版 24	Ⅱ区IV層 (3)	328	图版 81	Ⅲ区Ⅲ層 (10)	385
图版 25	Ⅱ区IV層 (4) · Ⅲ層 (1)	329	图版 82	Ⅲ区Ⅲ層 (11)	386
图版 26	Ⅱ区Ⅲ層 (2)	330	图版 83	Ⅲ区Ⅲ層 (12)	387
图版 27	Ⅱ区Ⅲ層 (3)	331	图版 84	Ⅲ区Ⅲ層 (13) · Ⅲ区VI層	388
图版 28	Ⅱ区Ⅲ層 (4)	332	图版 85	I 区出土遺物	389
图版 29	Ⅱ区Ⅲ層 (5) · Ⅱ層	333	图版 86	I 区出土遺物	390
图版 30	Ⅲ区V層 (1)	334	图版 87	I 区出土遺物	391
图版 31	Ⅲ区V層 (2)	335	图版 88	I 区出土遺物	392
图版 32	Ⅲ区V層 (3)	336	图版 89	I 区出土遺物	393
图版 33	Ⅲ区V層 (4)	337	图版 90	I 区出土遺物	394
图版 34	Ⅲ区V層 (5)	338	图版 91	I 区出土遺物	395
图版 35	Ⅲ区V層 (6)	339	图版 92	I 区出土遺物	396
图版 36	Ⅲ区V層 (7)	340	图版 93	I 区出土遺物	397
图版 37	Ⅲ区V層 (8)	341	图版 94	I 区出土遺物	398
图版 38	Ⅲ区V層 (9)	342	图版 95	I 区出土遺物	399
图版 39	Ⅲ区V層 (10)	343	图版 96	I 区出土遺物	400
图版 40	Ⅲ区V層 (11)	344	图版 97	I 区出土遺物	401
图版 41	Ⅲ区V層 (12)	345	图版 98	I 区出土遺物	402
图版 42	Ⅲ区V層 (13)	346	图版 99	I 区出土遺物	403
图版 43	Ⅲ区V層 (14)	347	图版 100	I 区出土遺物	404
图版 44	Ⅲ区IV層 (1)	348	图版 101	Ⅱ区出土遺物	405
图版 45	Ⅲ区IV層 (2)	349	图版 102	Ⅱ区出土遺物	406
图版 46	Ⅲ区IV層 (3)	350	图版 103	Ⅱ区出土遺物	407
图版 47	Ⅲ区IV層 (4)	351	图版 104	Ⅱ区出土遺物	408
图版 48	Ⅲ区IV層 (5)	352	图版 105	Ⅱ区出土遺物	409
图版 49	Ⅲ区IV層 (6)	353	图版 106	Ⅱ区 · Ⅲ区出土遺物	410
图版 50	Ⅲ区IV層 (7)	354	图版 107	Ⅲ区出土遺物	411
图版 51	Ⅲ区IV層 (8)	355	图版 108	Ⅲ区出土遺物	412
图版 52	Ⅲ区IV層 (9)	356	图版 109	Ⅲ区出土遺物	413
图版 53	Ⅲ区IV層 (10)	357	图版 110	Ⅲ区出土遺物	414
图版 54	Ⅲ区IV層 (11)	358	图版 111	Ⅲ区出土遺物	415
图版 55	Ⅲ区IV層 (12)	359	图版 112	Ⅲ区出土遺物	416
图版 56	Ⅲ区IV層 (13)	360	图版 113	Ⅲ区出土遺物	417
图版 57	Ⅲ区IV層 (14)	361	图版 114	Ⅲ区出土遺物	418
图版 58	Ⅲ区IV層 (15)	362	图版 115	Ⅲ区出土遺物	419
图版 59	Ⅲ区IV層 (16)	363	图版 116	Ⅲ区出土遺物	420
图版 60	Ⅲ区IV層 (17)	364	图版 117	Ⅲ区出土遺物	421
图版 61	Ⅲ区IV層 (18)	365	图版 118	Ⅲ区出土遺物	422
图版 62	Ⅲ区IV層 (19)	366	图版 119	Ⅲ区出土遺物	423
图版 63	Ⅲ区IV層 (20)	367	图版 120	Ⅲ区出土遺物	424
图版 64	Ⅲ区IV層 (21)	368	图版 121	Ⅲ区出土遺物	425
图版 65	Ⅲ区IV層 (22)	369	图版 122	Ⅲ区出土遺物	426
图版 66	Ⅲ区IV層 (23)	370	图版 123	Ⅲ区出土遺物	427
图版 67	Ⅲ区IV層 (24)	371	图版 124	Ⅲ区出土遺物	428
图版 68	Ⅲ区IV層 (25)	372	图版 125	Ⅲ区出土遺物	429
图版 69	Ⅲ区IV層 (26)	373	图版 126	Ⅲ区出土遺物	430
图版 70	Ⅲ区IV層 (27)	374	图版 127	Ⅲ区出土遺物	431
图版 71	Ⅲ区IV層 (28)	375			

第1章 調査概要

第1節 調査に至る経緯

平成11年5月、仙台市教育委員会と当時事業主管局であった仙台市都市整備局との間で、高速鉄道東西線建設事業に伴う遺跡の取り扱いについての第1回目の協議が持たれた。その後、事業主管局は仙台市交通局に移され、平成15年度より仙台市教育委員会との本格的な協議が開始された。

高速鉄道東西線事業計画予定路線内における、周知の遺跡及び遺跡外の状況把握のため確認調査及び試掘調査をまず実施し、その結果を踏まえ本調査を実施する箇所を決定し、これを基に発掘調査を順次、事業計画に沿いながら進めていくことが両者間で確認された。

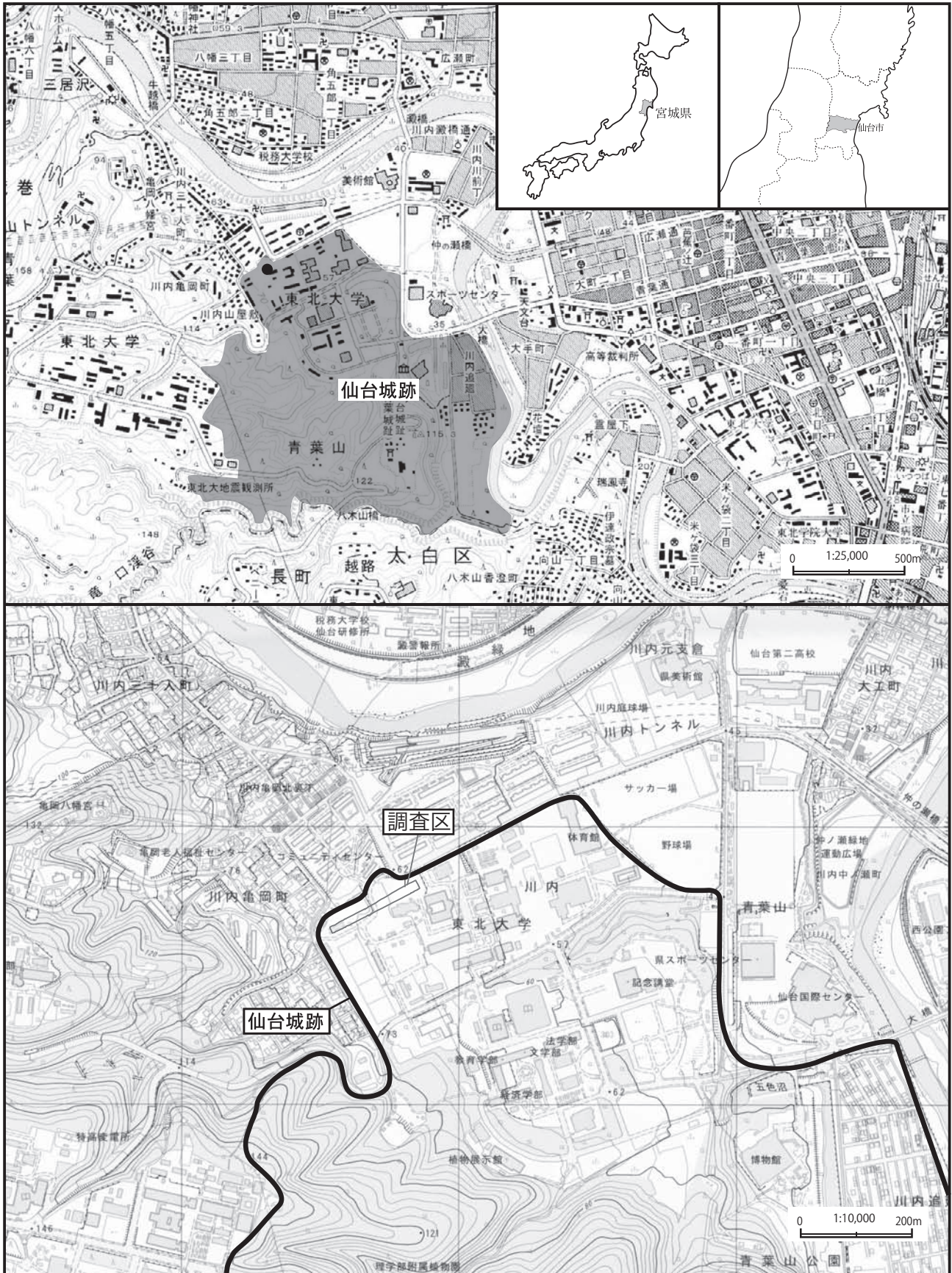
以上の協議事項に基づき、平成16年度より確認調査及び試掘調査を開始した。平成16年度の対象地域は、高速鉄道東西線予定路線西部の川内地区、青葉山地区、西公園地区で、18箇所の調査区、総面積448㎡の調査を実施した。このうち、亀岡トンネル開削部（この対象地域の確認・試掘調査での便宜的区割りのC区）は、平成16年8月18日から9月3日までの間、5箇所（120㎡）の試掘調査が行われ、その翌年の平成17年7月25日から8月30日の間に1箇所（24㎡）の試掘調査が実施された。その結果、近世を主とする遺構・遺物の存在が確認された（註1）。これを受け、仙台市教育委員会と仙台市交通局との協議の末、平成18年度に本調査を実施する運びとなり、平成18年6月5日より本調査を開始した。

第2節 調査要項

遺跡名	： 仙台北城跡（亀岡トンネル開削部）
所在地	： 仙台市青葉区川内41・43番地
調査主体	： 仙台市教育委員会（生涯学習部文化財課）
調査担当	： 調査係主査 佐藤甲二 ： 調査係主査 原河英二 ： 調査係文化財教諭 在川宏志
調査機関	： 国際航業株式会社（現 国際文化財株式会社）
	主任調査員 竹内俊之
	調査員 園村維敏・関美男・秋本雅彦・土橋尚起
	調査補助員 福井流星・長林大・野神伸・小林孝彰
	計測員 佐々木亨・諸熊和彦
	計測補助員 佐藤和巳・植松満彦・押野久雄・石垣忠彦
調査面積	： 2000㎡
調査期間	： 平成18年6月5日～平成19年3月1日

註1：仙台市文化財調査報告書第289集 『仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査(1) 概要報告書』 仙台市教育委員会、2005
 註2：仙台市文化財調査報告書第302集 『仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査(2) 概要報告書』 仙台市教育委員会、2006

第2節 調査要項



第1図 調査区位置図

第3節 調査概要

(1) 現地調査

調査は平成16年および17年に行われた試掘調査(註1)を受け、平成18年6月5日から平成19年3月1日までの期間に実施した。調査実働日数は162日で、調査面積は2000㎡である。

6月にⅡ区、Ⅲ区から着手し、試掘調査の資料を基に基本層を確認しつつ表土層を重機により除去した。第二師団建物による攪乱を除去している段階で、Ⅱ区西側およびⅢ区西側は大部分が削平を受けていることが確認された。一方でⅡ区東側とⅢ区中央から東側では近世の整地層が比較的良好に残っていた。Ⅱ区では利水関係の施設が検出され、Ⅲ区では近世の池、溝、柱列等が確認された。また、Ⅲ区東側では指標テフラである十和田a火山灰を含む層が確認され、その下層から縄文土器片も少量ながら出土したため縄文時代を対象とした下層トレンチ調査を平成19年2月に実施した。

I区の調査は東北大学のクラブハウス撤去工事が終了した10月以降に着手することになった。Ⅱ区Ⅲ区と同様に試掘調査の資料を基に基本層を確認しつつ表土層を重機により除去した。重機掘削の過程で、良好な整地面(Ⅲ層)を確認したため、以下は人力による掘り下げを行った。I区では近世の柱列やその区画性を踏襲したと思われる近代初頭の道路状遺構、土手状遺構等が検出された。

Ⅱ区⇒I区⇒Ⅲ区西側と、調査の終了した区から順次埋め戻しを行い、平成19年2月26日にⅢ区東側の土層サンプル採取、壁面土層記録を行い全調査過程を終了し、3月1日に現場撤収を完了した。

(2) 整理作業

遺物量はコンテナ(内法54.5cm×33.6cm×15cm)255箱である。近世～近現代の陶磁器、瓦、瓦質土器が主で、少量ながら縄文土器も含まれる。その他に近世～近代の木樋・枅等の大型木製品を20m四方のプール一杯分取り上げている。遺物は洗浄を行い、終了したものは十分な乾燥の後に、接合関係を確認し注記、接合を行った。注記は、遺跡名(仙台城(カメオカ)1)、遺物番号(1111)、区名(I区)、出土地点・層位(Ⅲ層)、取り上げ番号の記述を基本とした。なお、基本層出土の遺物については出土グリッドを記入している。接合にはパラロイドB72を使用した。脆弱な土器はバインダーを用いての強化を行った後、同様の作業を行った。これらの作業後、時期の判別可能な破片など主要な遺物は選別し遺物の登録を行った。登録した資料は、プライトン、モビニール、エレホンなどを用いて欠損部の充填、復元を行い、写真撮影および遺物実測図に耐えうるようにした。遺物写真は1000万画素級のデジタル一眼レフを用いて撮影した。陶器、磁器は、見込み、高台内文様、高台の形態の撮影を行った。撮影した遺物の点数は個別写真で700カットにおよんだ。

遺構平面図は現地で計測したデータを福井コンピューティング社製のブルートレンド上で編集して、DXFデータ形式で保存した。DXFデータを「Illustrator」形式に変換した後に、変換で生じる線種の不具合などを修正した上で、編集を行った。手実測、写真計測による土層断面図は、それぞれ「Illustrator」でトレース図化した。

遺物実測図にはオルソイメージャー(正射投影写真撮影機)で撮影したデジタル写真を用い実測図を作成した。また、アドビシステムズ社製のアプリケーション「Photoshop」を用いてデジタル正射投影写真から、文様を抽出した。トレース作業には同社のアプリケーション「Illustrator」を用いたデジタルトレースを実施し、同時に「Photoshop」で抽出した文様を貼り込む作業を行った。レイアウト作業は同社のアプリケーション「InDesign」を用いた。

註1： 仙台市文化財調査報告書第289集 『仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査(1)概要報告書』 仙台市教育委員会、2005
 仙台市文化財調査報告書第302集 『仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査(2)概要報告書』 仙台市教育委員会、2006

第2章 位置と環境

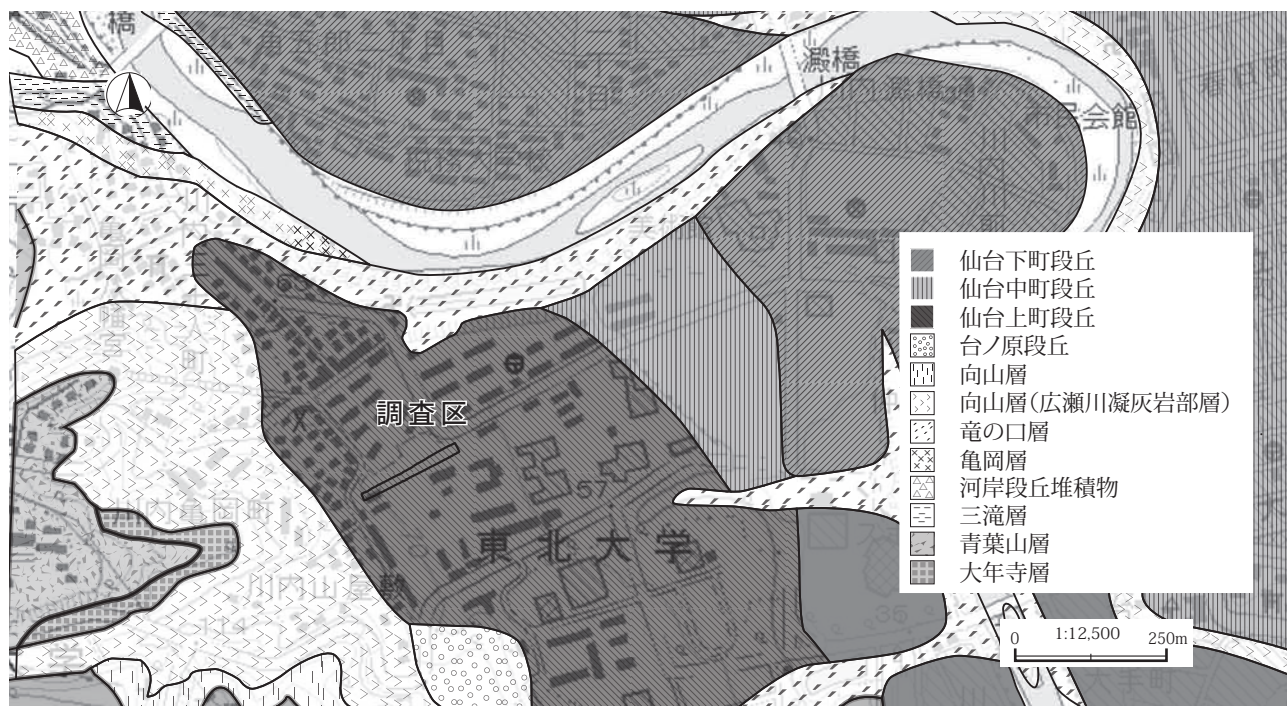
第1節 地理的環境

仙台城跡（亀岡トンネル開削部）は仙台市青葉区川内に所在する。本調査区は広瀬川の蛇行と浸食によって形成された、青葉山から北東に張り出す緩く傾斜した仙台上町段丘面上に位置し、仙台城二の丸跡（東北大学川内キャンパス）の北西部にあたる。北側は約300mで広瀬川に至る。

標高はもっとも西側のⅠ区が約70m、東側のⅢ区では約65mを測る傾斜地に位置している。調査区及びその東側には5箇所の石垣が構築されており、東に行くにしたがって標高が低くなっていく。西側から1つ目の石垣は調査区内に位置しており、Ⅱ区1号石垣として調査を行った。2つ目の石垣は、本調査区の東側に接しており、平成19年度「川内駅部」の調査の際、3つ目の石垣（川内駅部東端部・東北大学マルチメディア棟北西に位置する）とともに調査が行われた。4つ目の石垣は東北大学構内と東北大学グラウンドを分ける、高さ10m強ある大規模なもので、この石垣は仙台上町段丘と仙台中町段丘の段丘崖部に構築されている。この箇所での仙台中町段丘の標高は約48mを測る。

仙台市の河岸段丘は上位より青葉山段丘・仙上台ノ原段丘・仙台上町段丘・仙台中町段丘・仙台下町段丘の順で5面に区分される（註1）。段丘面の形成時期は、関東平野の成立過程と対比して考察されており、台の原段丘：下末吉期（13～12万年前）、仙台上町段丘：武蔵野期（10万～5万年前）、仙台中町段丘：立川期（3万年前）、仙台下町段丘は有楽町期に比定され、数千年前程度と考えられる（註2）。

調査区東側では10世紀前半に堆積した十和田a火山灰層と、その前後に黒褐色粘質土層が見られ、一時期は湿地化していたことが窺われる。また、調査区の西には青葉山に連なる開口部があり、この谷からの開析土が土石流となって調査区内に一部堆積していることが確認された。



第2図 河岸段丘分布図（註3）

註1：松本秀明『仙台空中写真集・柱の都のいまむかし』仙台市観光局,2001

註3：(1:50000 地質図 仙台および建設省国土地理院発行の5万分の1地形図を使用)

註2：中川久夫他『仙台付近の第四系および地形(1)』第四期研究,1.1960

第2節 歴史的環境

本調査区は「仙台城跡」として登録されており、当該遺跡の北辺部にあたる。本調査区は仙台城本丸から北約800m、二の丸から北約450mに位置している。周囲には縄文時代の包含地である青葉山B遺跡、青葉山E遺跡（第5図-22・23）等が所在しており、南東方向には中世の板碑群（第5図-7～9）や茂ヶ崎城跡（第5図-11）が分布している。また、さらに南東方向の丘陵麓付近には愛宕山横穴墓群（第5図-15・16）、大年寺山横穴墓群（第5図-17）が所在する地域である。

仙台城は慶長5年（1600）、伊達政宗により築城が開始された山城である。本丸の北面に置かれた二の丸は二代藩主伊達忠宗により、寛永15年（1638）に着工、翌年に完成しており、本調査区は二の丸の北側に配置された家臣団の居住地にあっている。二の丸は東西310メートル、南北200メートルの規模を測る。江戸時代を通して藩政の中心であり、数度の地震や火災で建物等が損壊するが、その都度修築された。調査区周辺の近世遺跡としては東方約500mに川内B遺跡、約600mに川内A遺跡、同じく約1kmに桜ヶ岡公園遺跡があり（第5図-2・3・4）、本遺跡と同様の武家屋敷地である。また、南西約1.4kmに伊達家初代藩主政宗、二代忠宗、三代綱宗の墓所である経ヶ峯伊達家廟（第5図-5）などがあり、四代綱村以降の歴代藩主の墓所がある大年寺は南東約3kmに位置している（第5図-6）。

仙台城関連の絵図資料等から、本調査区周辺のおおよその変遷を追ってみる（註1）。正保2・3年（1645・1646）の「奥州仙台城絵図」（第3図-1）では、本調査区は侍屋敷と記されている。17世紀中葉には、すでに武家屋敷が造営されていたことが分かる。寛文4年（1664）の「仙台城下絵図」（第3図-2）及び延宝・天和年間（1673～1683）の「仙台城下絵図」（第3図-3）では、永沼作左衛門の名前が見られ、その北側には成田作太夫が居している。元禄4・5年（1691・1692）の「仙台城下五釐掛絵図」（第3図-4）では遠山帯刀（着座・奉行）、享保9年（1724）の「仙台城下絵図」では伊達肥前殿（伊達村興。一門。宮床伊達家二代当主）、宝暦・明和年間（1751～1772）の「仙台城下絵図」（第3図-5）では伊達出羽殿（伊達村嘉。一門。宮床伊達家四代当主）と大町将監（一族・奉行）の屋敷境付近に相当し、天明6年～寛政元年（1786～1789）の「仙台城下絵図」（第3図-6）においては泉田大隅（一家・奉行）と伊達六郎殿（伊達村烈。一門。宮床伊達氏当主）の屋敷境付近にあっている。安政3年～6年（1856～1859）の「安政補正改革仙府絵図」（第4図-1）では、亀岡御殿の名称がみとめられる。亀岡御殿については弘化4年（1847）の「楽山公治家記録」に記載が見られ、この年に栄心院（12代藩主伊達斉邦の正室徽子）が亀岡邸に移居しており、この後、文久2年（1862）には同治家記録から延寿院（13代藩主伊達慶邦の生母）が居していることがわかる。

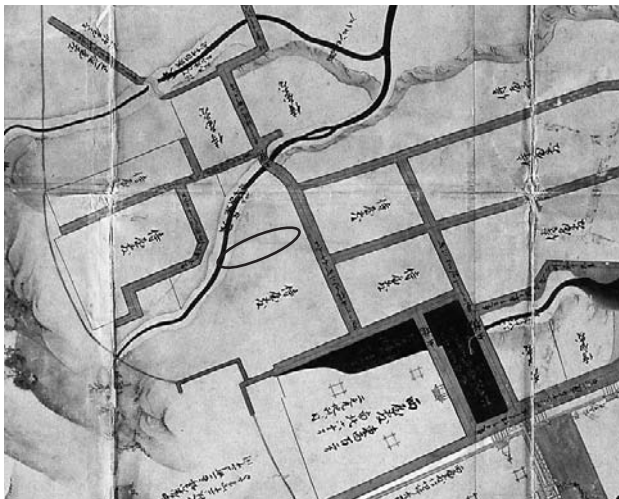
明治初年に至り15代藩主伊達慶邦が亀岡御殿に一時滞在し（「遠藤泰通日記」）、その後明治3年（1870）の「入生田康欣日記」に慶邦の養女徳子が居していたことが記載されている。この頃の仙台城は明治2年（1869）に勤政庁となり、明治4年（1871）廃藩置県後、仙台城の管轄が明治政府の兵部省に移管されている。

明治8年（1875）の「宮城郡仙臺町地引圖」（第4図-2）では亀岡御殿の位置に鎮台病院の記載が見られるが、建て直しが行われたかは不明で、この時期まで亀岡御殿の建物が継続して使用されていた可能性もある。明治13年（1880）には勧業試験場用地となっていたことが「宮城縣仙臺區全圖」（第4図-3）から窺える。その後、明治15年（1882）の「偃臺區及近傍村落之圖」（第4図-4）では陸軍省用地となり、明治21年（1888）には陸軍第二師団が置かれることになる。この頃、川内地区で大規模な用地改修が行われたとみられ、明治26年（1893）の「仙台市測量全図」（第4図-5）（当地は輜重兵第二大隊用地となっている）に見られる亀岡通など、ほぼ現在と同じ通り筋となっている。

戦後はGHQが駐留した。昭和32年（1957）に返還され、東北大学川内キャンパスとなり現在に至っている。

註1：高倉淳ほか編『絵図・地図で見る仙台 第一輯』今野印刷株式会社、1994
高倉淳ほか編『絵図・地図で見る仙台 第二輯』今野印刷株式会社、2005

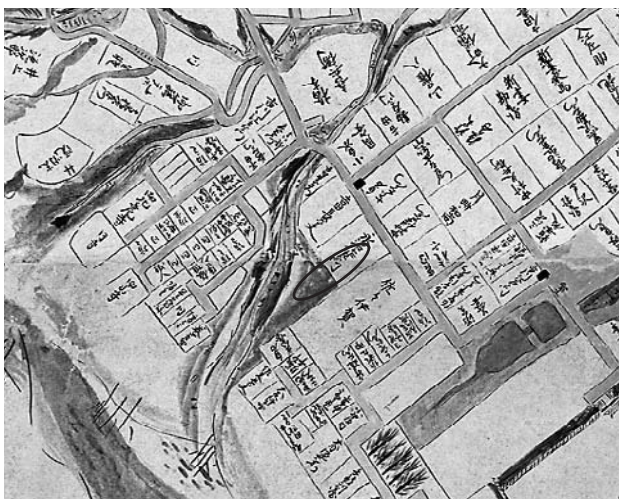
第2節 歴史的環境



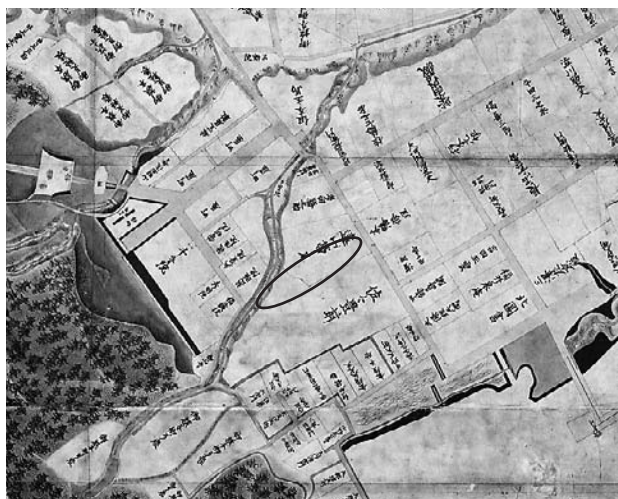
1. 正保2・3年(1645・1646)「奥州仙台城絵図」 斎藤報恩会所蔵



2. 寛文4年(1664)「仙台下絵図」 宮城県図書館所蔵



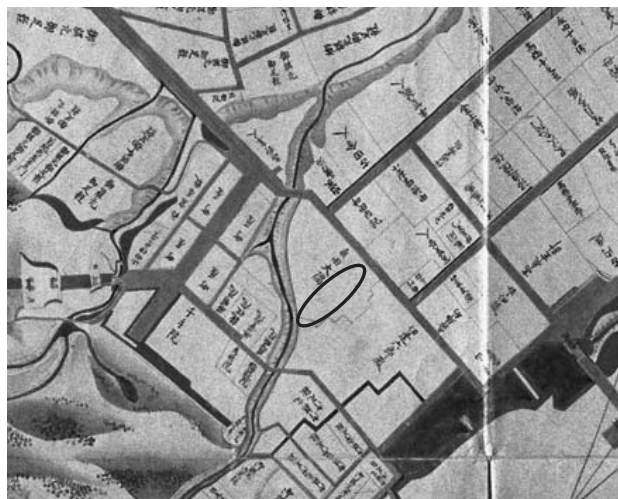
3. 延宝・天和年間(1673～1684)「仙台下絵図」 仙台市歴史民俗資料館所蔵



4. 元禄4・5年(1691・1692)「仙台下五釐掛絵図」 斎藤報恩会所蔵



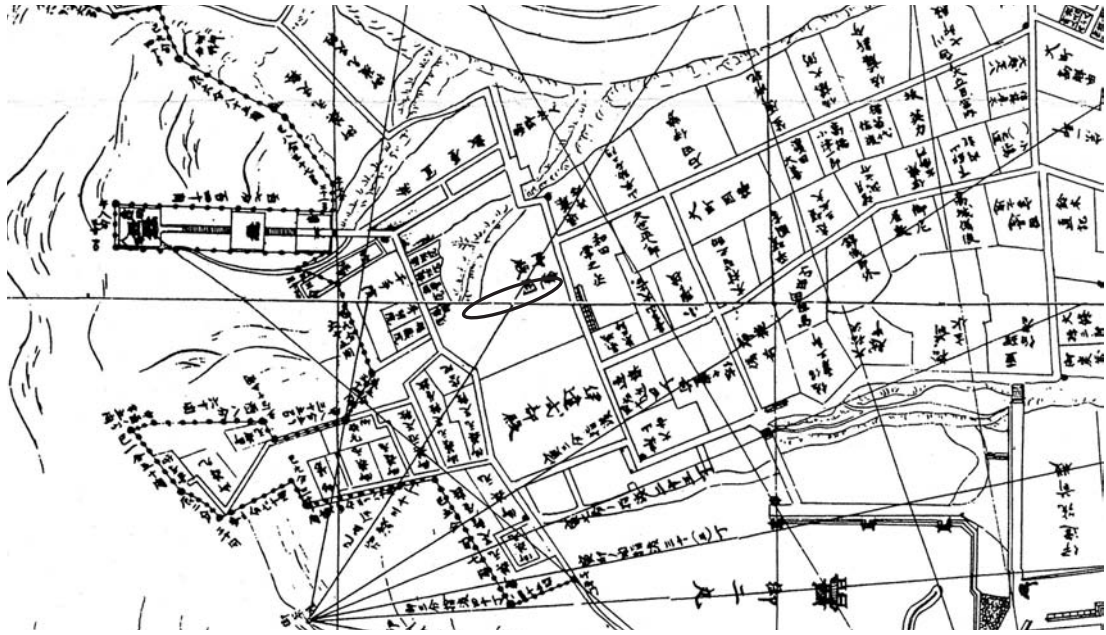
5. 宝暦・明和年間(1751～1772)「仙台下絵図」 斎藤報恩会所蔵



6. 天明6年～寛政元年(1786～1789)「仙台下絵図」 仙台市博物館所蔵

第3図 絵図・地図における調査区周辺(○が調査区付近) (註1)

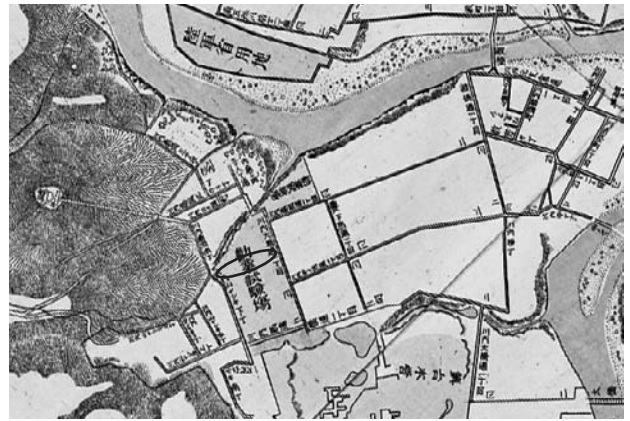
註1：高倉淳ほか編『絵図・地図で見る仙台 第一輯』今野印刷株式会社,1994
高倉淳ほか編『絵図・地図で見る仙台 第二輯』今野印刷株式会社,2005



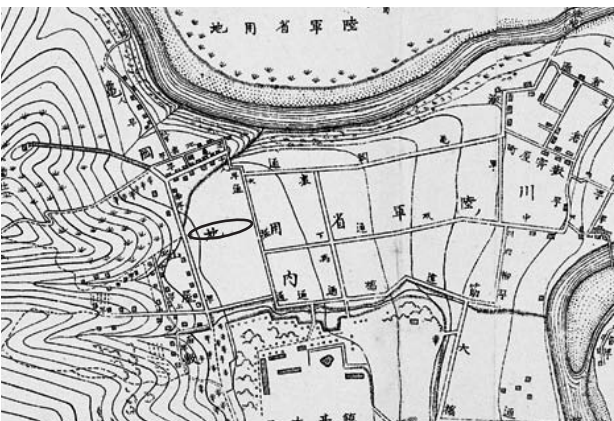
1. 安政3～6年(1856～1859)「安政補正改革仙府絵図」



2. 明治8年(1875)「宮城郡仙臺町地引圖」 宮城県公文書館所蔵



3. 明治13年(1880)「宮城縣仙臺區全圖」 仙台市歴史民俗資料館所蔵



4. 明治15年(1882)「櫻臺區及近傍村落之圖」 仙台市博物館所蔵



5. 明治26年(1893)「仙台市測量全図」 仙台市歴史民俗資料館所蔵

第4図 絵図・地図における調査区周辺 (○が調査区付近) (註1)

註1：高倉淳ほか編『絵図・地図で見る仙台 第一輯』今野印刷株式会社,1994
高倉淳ほか編『絵図・地図で見る仙台 第二輯』今野印刷株式会社,2005

第2節 歴史的環境



第5図 周辺遺跡分布図

番号	遺跡名称	時代	所在地	性格	番号	遺跡名称	時代	所在地	性格
1	仙台城跡	中世・近世	青葉区川内・荒巻	城館跡	16	愛宕山横穴墓群B・C地点	古墳末・奈良	太白区向山4丁目他	横穴墓
2	川内A遺跡	縄文・近世	青葉区青葉山2丁目	武家屋敷・散布地	17	大年寺山横穴墓群	古墳後期	太白区向山4丁目	横穴墓
3	川内B遺跡	縄文・近世	青葉区青葉山	武家屋敷・散布地	18	八木山緑町遺跡	縄文・奈良・平安	太白区八木山緑町	散布地
4	桜ヶ岡公園遺跡	縄文・近世	青葉区桜ヶ岡公園	武家屋敷・散布地	19	萩ヶ丘遺跡	縄文晩・奈良・平安	太白区萩ヶ丘	散布地
5	経ヶ峯伊達家墓所	近世	青葉区霊屋下	墓所	20	土樋遺跡	縄文	青葉区土樋1丁目	散布地
6	大年寺跡	近世	太白区茂ヶ崎1丁目	墓所	21	向山高裏遺跡	縄文中期	太白区八木山緑町	散布地
7	長徳寺板碑	中世	青葉区向山2丁目	板碑	22	青葉山E遺跡	縄文早・中・晩・弥生・平安	青葉区荒巻字青葉	包含地
8	川内古碑群	中世	青葉区川内・荒巻	板碑	23	青葉山B遺跡	縄文早・中・弥生・古代	青葉区荒巻字青葉	包含地
9	片平仙台大神宮の板碑	中世	青葉区片平1丁目	板碑	24	松ヶ丘遺跡	縄文	太白区八木山本町1丁目	散布地
10	瀧不動尊文永十年板碑	中世	青葉区広瀬町	板碑	25	二ツ沢遺跡	縄文	太白区八木山弥生町	散布地
11	茂ヶ崎城跡	中世	太白区茂ヶ崎1丁目他	城館跡	26	萩ヶ丘B遺跡	縄文	太白区萩ヶ丘・長嶺	散布地
12	青山2丁目遺跡	奈良・平安	太白区青山2丁目	散布地	27	青山2丁目B遺跡	旧石器・縄文	太白区青山2丁目	散布地
13	茂ヶ崎横穴墓群	古墳末・奈良	太白区二ツ沢	横穴墓群					
14	二ツ沢横穴墓群	古墳	太白区二ツ沢	横穴墓群					
15	愛宕山横穴墓群A地点	古墳末	太白区向山4丁目他	横穴墓					

第1表 遺跡地名表

第3章 調査方法

(1) 調査方法

調査方法は東北大学のアスファルト・盛土層（Ⅰ層）および部分的に第二師団整地層（Ⅱ層）を残しながら重機により表土除去を行い、以下は人力により調査を実施した。調査区を、現地表面で確認できる段差を基準にⅠ～Ⅲ区に分け、西側の最も高い地区をⅠ区、中央をⅡ区、東側の最も低い地区をⅢ区とし、調査を行った。

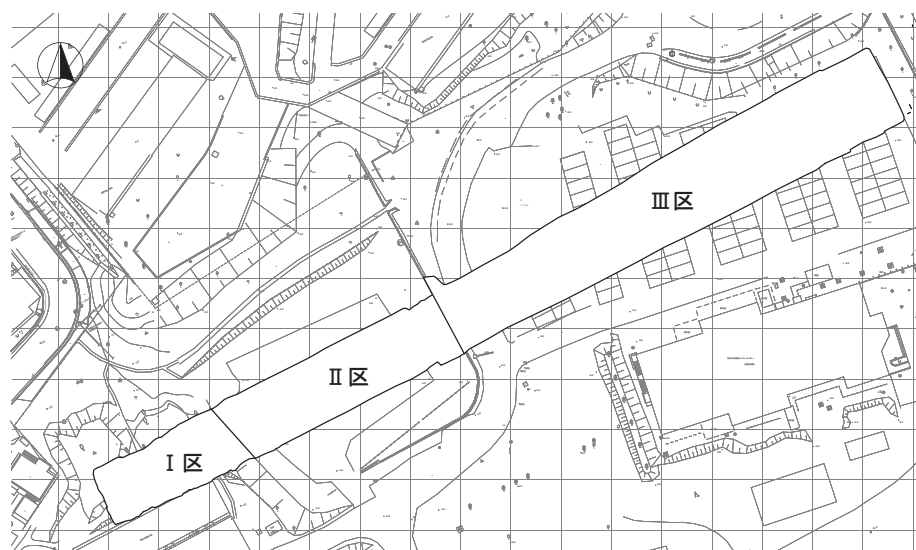
計測作業は日本測地系座標に基づいて既知点を利用し、また使用容易な箇所に基準点を新設し、グリッドを設置した。遺構平面図、遺構断面図はトータルステーションとデジタル写真および手実測を併用して図化を行った。写真撮影に使用した機器は、35mm版およびデジタルカメラ（500万画素以上）を併用した。調査前、遺構検出状況、土層断面、完掘、調査区全景等をカラーポジ、モノクロの2種類で撮影した。また、デジタルカメラでは同様の調査写真のカットを撮影した他、作業状況なども撮影し、調査日誌に添付するなどして、日々変化する遺跡の状況を記録した。その他、調査区全景撮影においては、調査期間中に20mの高所作業車を使用し、撮影を行った。出土遺物は出土年月日順に番号を付け、遺構別、グリッド別、層位別に取り上げ、登録を行った。出土遺物のうち、報告書掲載資料及び観察資料に関しては、新たに遺物登録番号を付記した。遺物の実測に関しては、手実測と正射投影のデジタル画像を併用して実測図の作成を行った。

(2) 調査区グリッドの設定

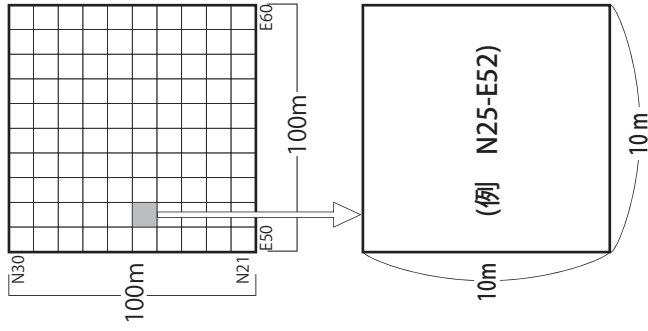
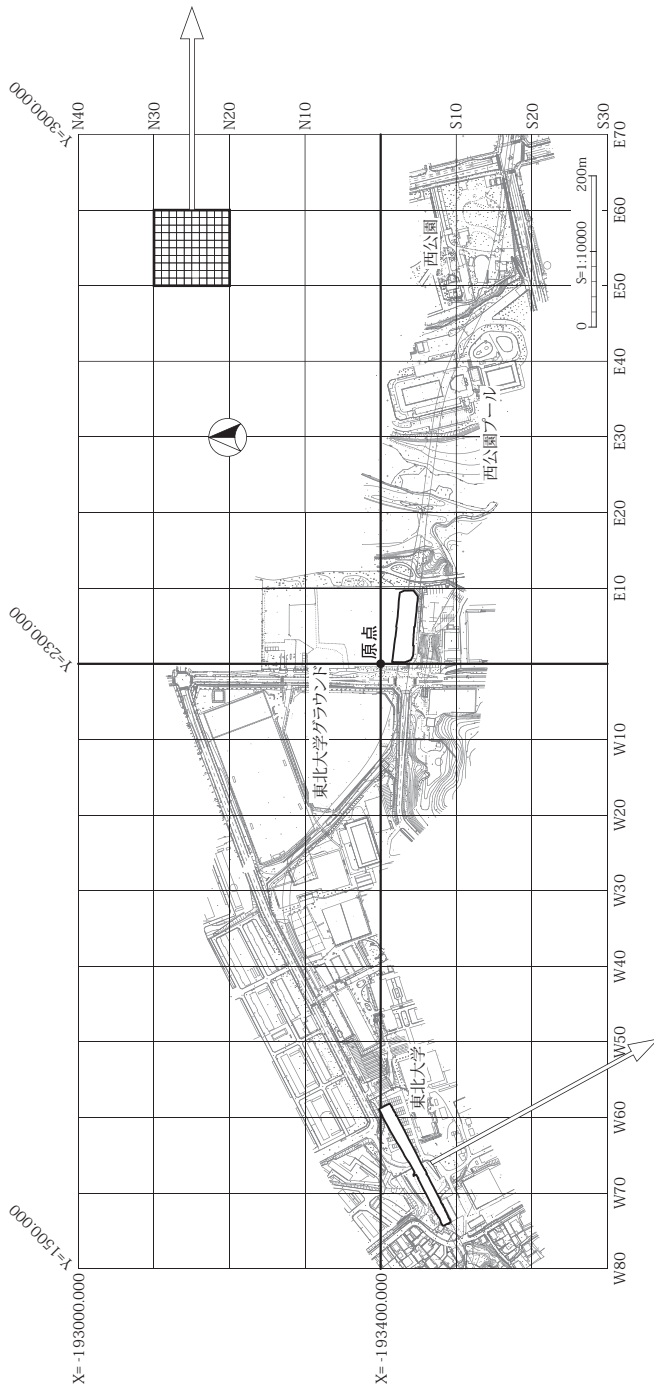
高速鉄道東西線予定路線内に係わる川内地区、青葉山地区、西公園地区の全域を網羅するグリッドを設定した。川内A遺跡（平成17年度本調査実施）の北西部に原点（日本測地系・X=-193400m、Y=2300m）を求め、グリッドの単位は10m×10mとした。グリッドの名称は原点から、Y軸は北方向をN、南方向をSとし、X軸は東方向をE、西方向をWとし、原点からの方向と距離によりN1-E1グリッド（北へ0m～10m、東へ0m～10m）、S2-W2グリッド（南へ10m～20m、西へ10m～20m）等とし、表記した。

(3) 遺構名称について

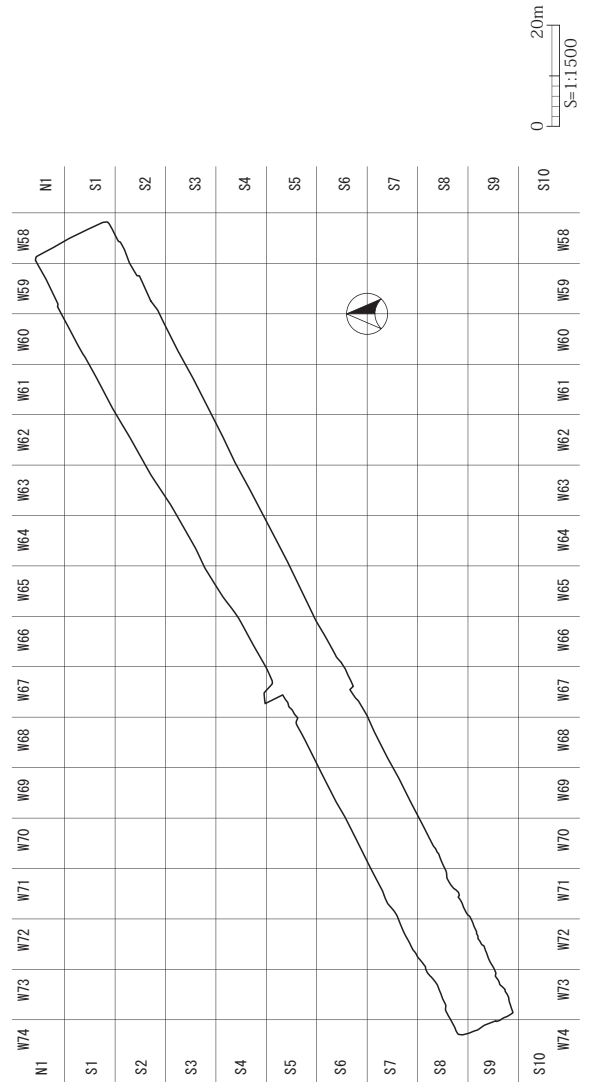
遺構番号は遺構の種類毎に、検出順に通し番号を付した。遺構の種類を表す略号は凡例に示した通りである。略号を設定していない遺構として、池、石垣、道路状遺構、土手状遺構、柵状遺構等は漢字表記を行った。また、ピット、土坑、溝の一部は報告書整理の段階で並ぶものを抽出し、柱列と認定できたものについては現場段階の遺構番号を変更・再登録を行った。



第6図 調査区設定図（1：1500）



調査用グリッドは日本測地系に基づき図中の●を原点とし、10m×10mに設定した。



第7図 グリッド設定図

第4章 調査区基本層序

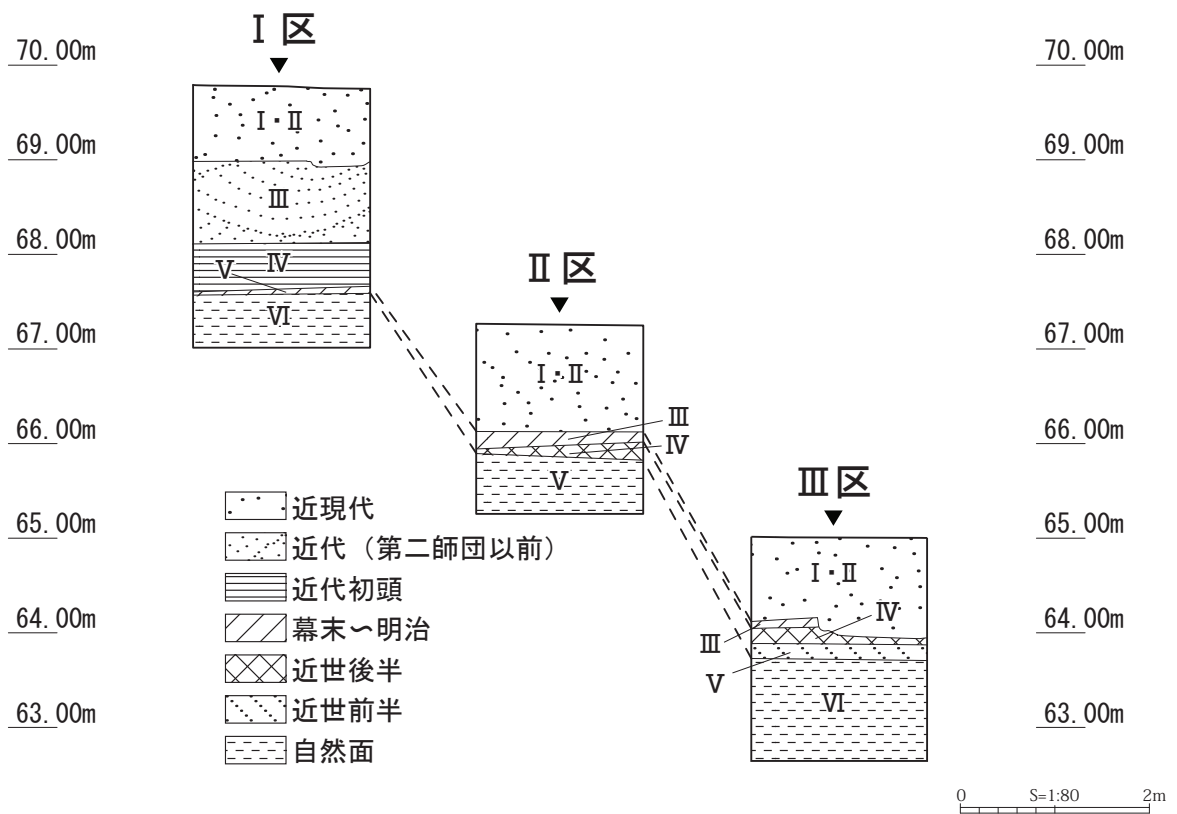
調査区の基本層序は、各調査区において堆積状況が異なることからⅠ区、Ⅱ区、Ⅲ区で個別に層名をつけている。以下、それぞれの基本層序について述べ、それぞれの対応関係については第8図に示した。

Ⅰ区の基本層は大別6層、細別36層が確認されている。Ⅰ層は東北大学造成の盛土・整地層、Ⅱ層は陸軍第二師団による盛土・整地層である。Ⅰ層、Ⅱ層はⅡ区、Ⅲ区においても同様の土層が確認されている。Ⅰ区の調査においては、埋甕が検出されたため(1号埋甕)、部分的にⅡ層上面から調査を行った。Ⅱ層はさらに3層に細別される。Ⅲ層以下は近世以前～近代初頭の土層である。Ⅲ層は砂質シルトを主体とし、シルト質砂、粗砂、礫を多量に含む層で、さらに18層に細分される。調査区の南西側から、北東方向に向かって大規模な盛土がなされたと考えられる。層厚は最大で1.3mを測る。出土遺物、検出遺構などから近代初頭～第二師団設置前の年代が考えられる。Ⅳ層は砂質シルトを主体とした土層からなり、一部シルト質の強い土層を含む。さらに6層に細分される。層厚は40～50cmを測る。出土遺物、検出遺構などから近代初頭の年代が考えられる盛土・整地層である。Ⅴ層は褐色～暗褐色のシルト層からなる。さらに3層に細分される。層厚は10～30cmを測る。出土遺物、検出遺構などから近世末頃の年代が考えられる盛土・整地層である。Ⅵ層は自然堆積層で、下部では仙台上町段丘の段丘礫層が確認された。

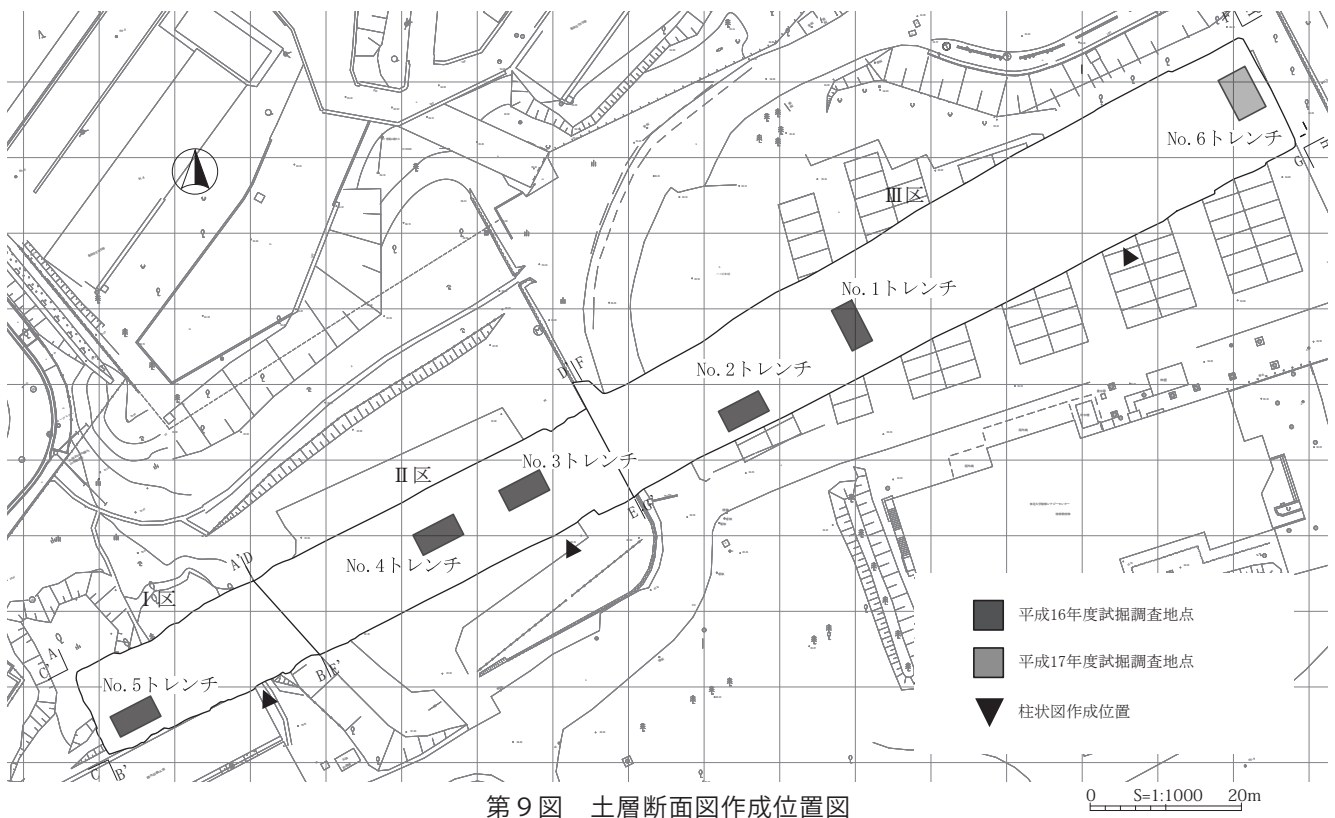
Ⅱ区の基本層は大別5層、細別8層が確認されている。Ⅰ層、Ⅱ層についてはⅠ区と同様の近現代の盛土層である。Ⅲ層以下は近世以前～近代初頭の土層である。Ⅲ層は褐色灰色シルト層からなり、層厚は8～20cmを測る。出土遺物、検出遺構などから近代初頭の年代が考えられる盛土・整地層である。Ⅳ層は褐灰色シルト層からなり、さらに2層に細分される。層厚は10～25cmを測る。出土遺物、検出遺構などから近世後半の年代が考えられる盛土・整地層である。Ⅴ層は自然堆積層で、Ⅰ区と同様に下部では仙台上町段丘の段丘礫層が確認された。

Ⅲ区の基本層は大別6層、細別16層が確認されている。Ⅰ層、Ⅱ層についてはⅠ区と同様に近現代の盛土層である。Ⅲ層以下は近世以前～近代初頭の土層である。Ⅲ層は黄灰色のシルト質砂からなる薄層で、層厚は6～10cmを測る。出土遺物、検出遺構などから近世末～近代初頭の年代が考えられる整地層である。Ⅳ層は砂質シルトを主体とした土層からなり、さらに3層に細別される。層厚は20～60cmを測る。出土遺物、検出遺構などから近世後半の年代が考えられる盛土・整地層である。Ⅴ層はシルト～砂質シルトからなり、さらに3層に細別される。層厚は15～30cmを測る。出土遺物、検出遺構などから近世前半の年代が考えられる盛土・整地層である。Ⅳ層とⅤ層は、調査区の東側に顕著にみられ、西側では大部分が攪乱され残っていない。Ⅵ層は自然堆積層で、さらに7層に細別される。Ⅵc層には10世紀前半に降下した十和田a火山灰が含まれていた。Ⅲ区の東側ではⅢ層、Ⅳ層、Ⅴ層の残りが比較的良好であり、指標テフラの検出および縄文土器の出土が認められた。

各調査区において確認された基本層序の対応関係は、Ⅰ区Ⅴ層⇔Ⅱ区Ⅲ層⇔Ⅲ区Ⅲ層、Ⅱ区Ⅳ層⇔Ⅲ区Ⅳ層、Ⅰ区Ⅵ層⇔Ⅱ区Ⅴ層⇔Ⅲ区Ⅵ層となっている(第7図)。



第8図 各調査区柱状図および対応関係図



第9図 土層断面図作成位置図

I 区壁面土層注記

層名	色調	土質	粘性	しまり	混入物・備考	
I	10YR2/2	黒褐色	シルト質砂	なし	なし	瓦礫多量、黄褐色土粒少量、暗褐色シルトとの混合土
II a	10YR6/8	明黄褐色	砂質シルト	あり	あり	黄褐色土粒・径5～10cm以下の礫多量
II b	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	なし	なし	灰白色砂質シルト粒多量、5mm以下の炭化物少量
II c	2.5Y6/1	黄灰色	砂質シルト	なし	なし	灰白色砂質シルト粒多量、5mm以下の炭化物少量
II d	10YR4/1	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	あり	灰白色砂質シルト粒多量、5mm以下の炭化物少量
III a	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	浅黄褐色砂質シルトブロック、5cm以下礫少量
III b	2.5Y5/4	黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	3cm程度の礫少量
III c	10YR4/1	褐色灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	10～20cmの礫少量
III d	5Y7/4	浅黄色	シルト質砂	なし	ややあり	粗砂多量、10cm程度の礫微量
III e	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質砂	なし	ややあり	粗砂・褐灰色砂質シルト多量、5cm程度の礫微量
III f	10YR6/1	褐灰色	シルト質砂	なし	ややあり	粗砂多量、5～10cmの礫少量
III g	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	ややあり	あり	粗砂・1～3cmの礫多量
III h	2.5Y5/4	黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	3cm程度の礫少量
III i	2.5Y7/3	浅黄色	砂質シルト	あり	あり	3～5cmの礫少量
III j	10YR4/1	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	あり	灰白色砂質シルト粒多量、5mm以下の炭化物少量
III k	2.5Y8/2	灰白色	砂質シルト	あり	ややあり	炭化物粒・10cm程度の礫微量
III l	2.5Y6/1	黄灰色	砂質シルト	なし	なし	灰白色砂質シルト粒多量、5mm以下の炭化物少量
III m	10YR4/1	褐色灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	10～20cmの礫少量
III n	10YR5/1	褐灰色	砂質シルト	あり	あり	炭化物粒・10cm程度の礫微量
III o	2.5Y6/1	黄灰色	砂質シルト	なし	なし	灰白色砂質シルト粒多量、5mm以下の炭化物少量
III p	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	あり	ややあり	炭化物粒多量、10cm程度の礫微量
III q	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	あり	灰白色砂質シルト粒多量、5mm以下の炭化物少量
III r	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質砂	なし	ややあり	粗砂・褐灰色砂質シルト多量、5cm程度の礫微量
IV a	10YR6/1	褐灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	炭化物粒・3cm程度の礫微量
IV b	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	ややあり	あり	径10cm以下の礫多量
IV c	10YR2/3	黒褐色	砂質シルト	ややあり	あり	径10cm以下の礫多量
IV d	10YR5/1	褐灰色	シルト	ややあり	あり	径3cm以下の礫少量
IV e	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	ややあり	あり	径10cm以下の礫多量
IV f	7.5YR3/4	暗褐色	砂質シルト	ややあり	あり	径10cm以下の礫多量
V a	10YR4/1	褐灰色	シルト	なし	あり	砂粒多量
V b	10YR4/1	褐灰色	シルト	あり	あり	径10cm以下の礫多量
V c	7.5YR3/3	暗褐色	シルト	ややあり	あり	径10cm以下の礫多量
VI a	10YR5/1	褐灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	自然堆積層 1～3cm程度の礫微量
VI b	10YR7/3	砂質シルト	砂質シルト	ややあり	ややあり	自然堆積層 1～3cmの礫
VI c	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂礫	なし	ややあり	自然堆積層(段丘礫層) 粗砂と1～3cm程度の礫からなる

II 区壁面土層注記

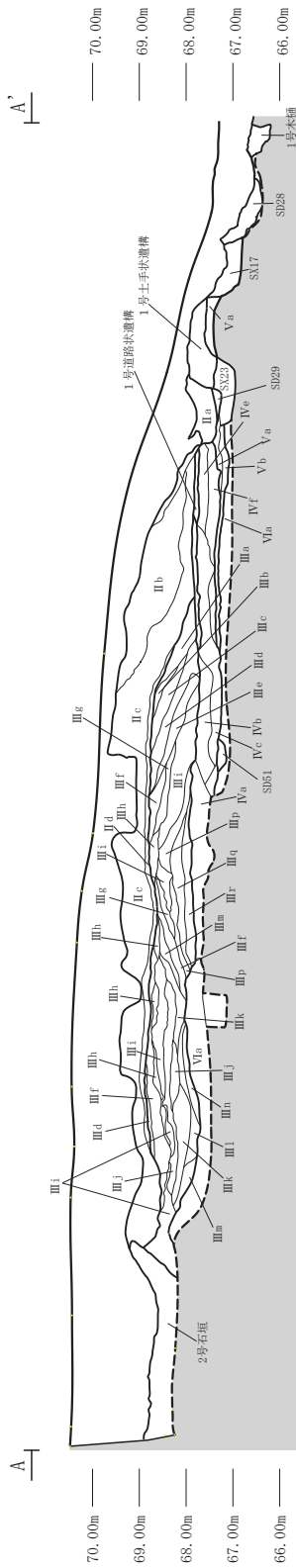
層名	色調	土質	粘性	しまり	混入物・備考	
I	10YR2/2	黒褐色	シルト	なし	なし	瓦礫多量、黄褐色土粒少量、暗褐色シルトとの混合土
II	10YR5/6	黄褐色	シルト	あり	あり	黄褐色土粒・径5～10cm以下の礫多量
III	10YR5/1	褐灰色	シルト	なし	あり	径3cm以下の礫少量
IV a	10YR4/1	褐灰色	シルト	なし	あり	砂やや多量
IV b	10YR4/1	褐灰色	シルト	あり	あり	径10cm以下の礫多量
V a	10YR5/1	褐灰色	砂質シルト	なし	なし	自然堆積層 径10cm以下の礫少量
V b	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	あり	自然体積層
V c	10YR5/1	褐灰色	砂礫	なし	なし	自然堆積層(段丘礫層)

III 区壁面土層注記

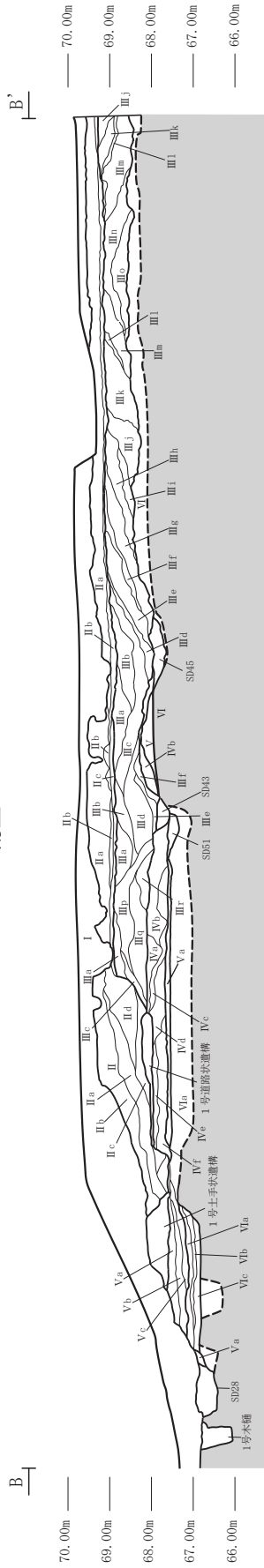
層名	色調	土質	粘性	しまり	混入物・備考	
I	10YR2/2	黒褐色	シルト	なし	なし	瓦礫多量、黄褐色土粒少量、暗褐色シルトとの混合土
II	10YR5/6	黄褐色	シルト	あり	あり	黄褐色土粒・径5～10cm以下の礫多量
III	2.5Y5/1	黄灰色	シルト質砂	なし	あり	砂粒、1～2cmの礫少量
IV a	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	砂粒多量、5cm程度の礫微量
IV b	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	砂粒、5cm程度の礫多量
IV c	7.5YR4/4	褐色	シルト	あり	あり	5～10cmの礫
V a	10YR2/2	黒褐色	シルト	あり	あり	白色砂粒
V b	10YR5/1	褐灰色	シルト	ややあり	ややあり	炭化物粒微量
V c	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	あり	あり	3～10cmの礫少量
VI a	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	あり	あり	自然堆積層 白色砂粒
VI b	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	自然堆積層 砂粒多量
VI c	10YR5/1	褐灰色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	自然堆積層 十和田火山灰を含む
VI d	10YR2/1	黒色	粘土質シルト	あり	あり	自然堆積層 砂粒・1～2cmの礫少量
VI e	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	あり	あり	自然堆積層 砂粒・3～8cmの少量
VI f	10YR4/1	褐灰色	シルト質粘土	あり	あり	自然堆積層 段丘礫層上のローム層
VI g	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂礫	なし	ややあり	自然堆積層(段丘礫層) 粗砂と1～3cm程度の礫からなる

第2表 調査区基本土層注記表

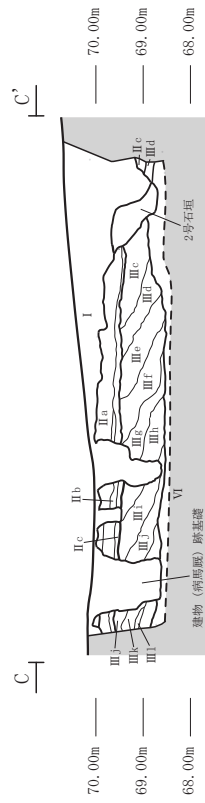
北壁



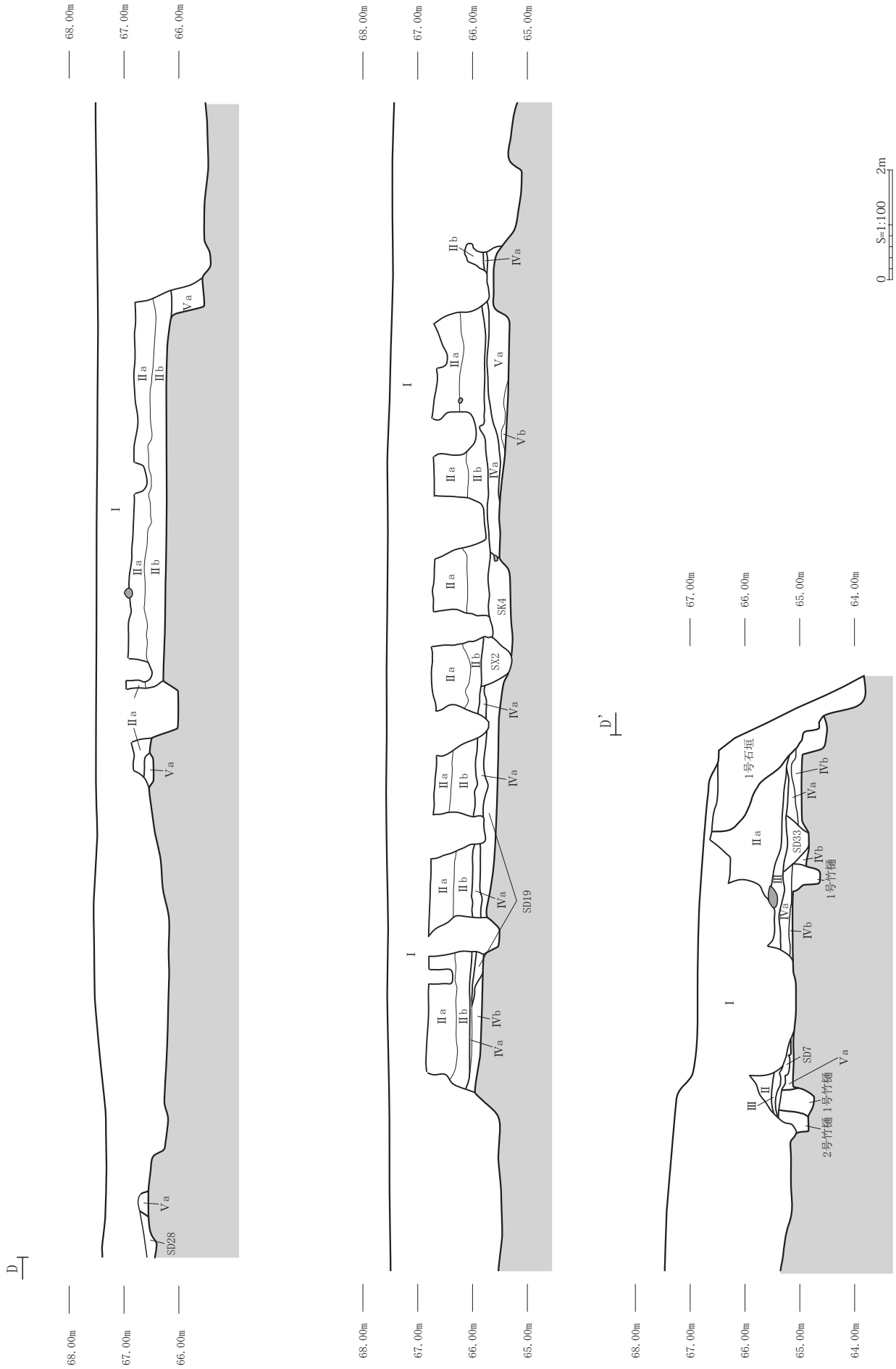
南壁



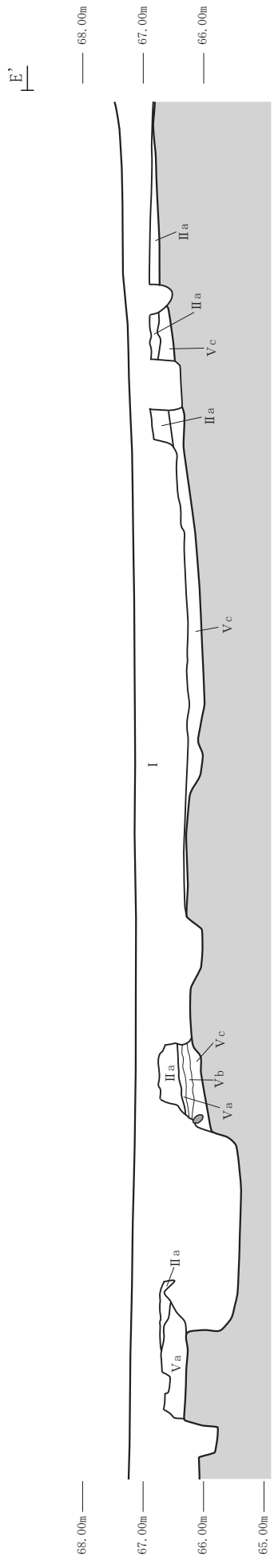
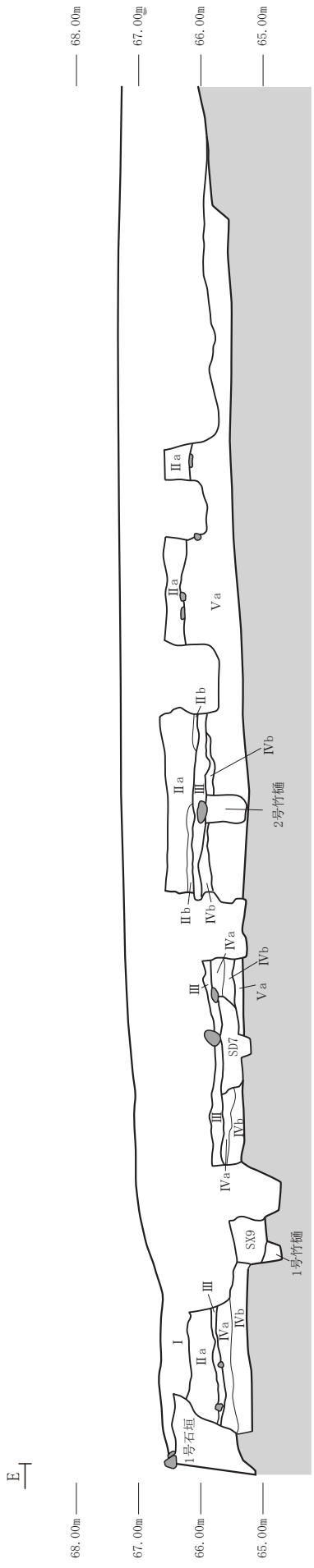
西壁



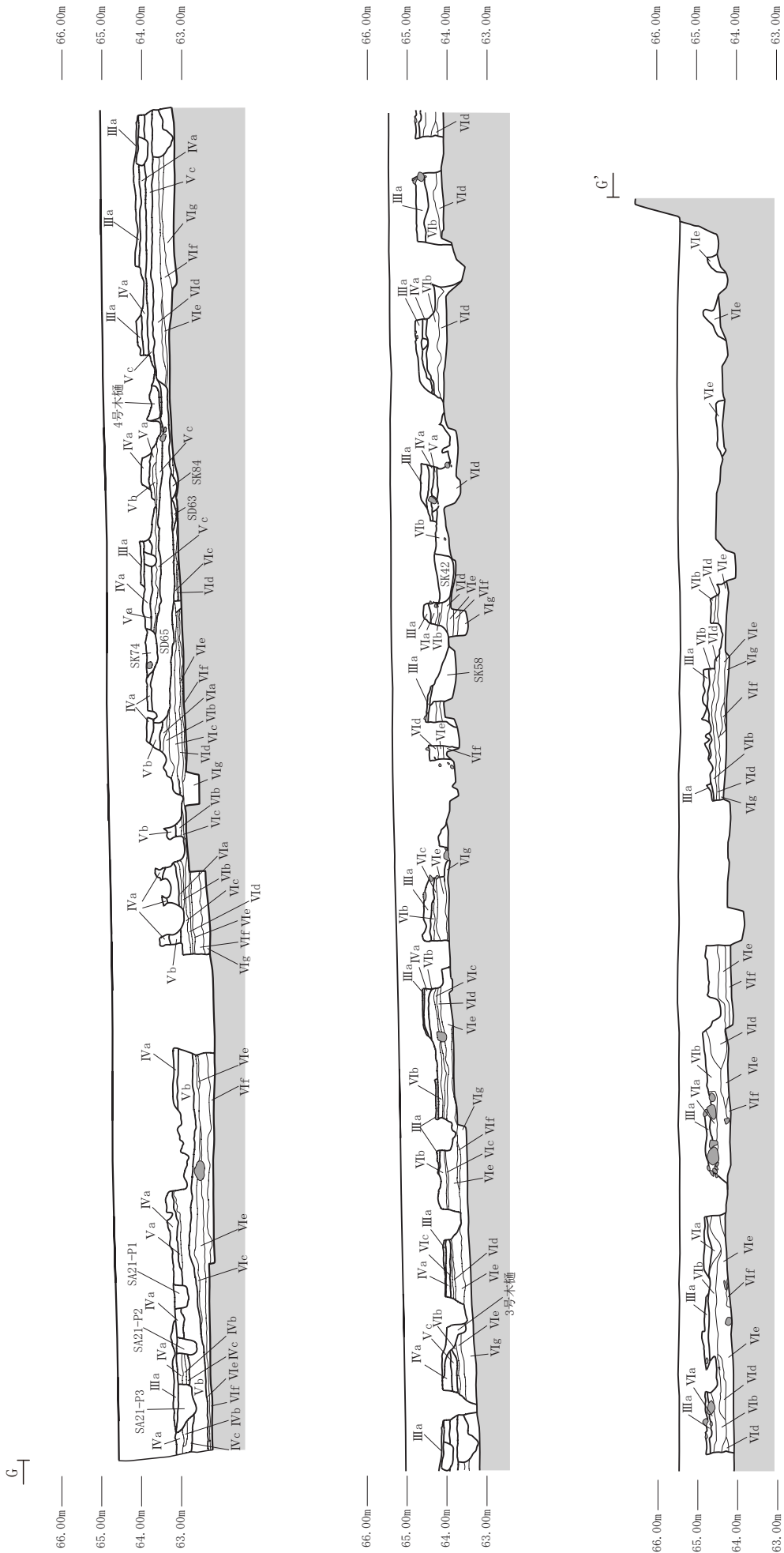
第10图 I区 壁断面图



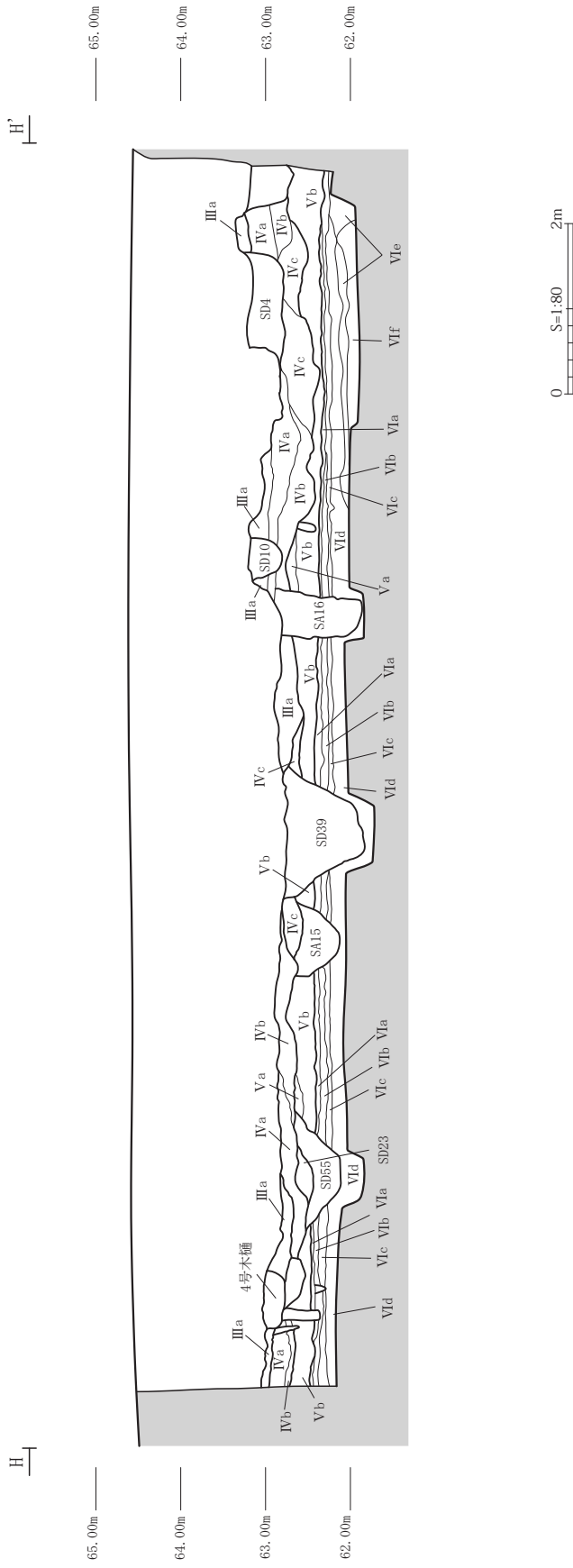
第11図 II区 北壁断面図



第12图 II区 南壁断面图



第14图 III区 南壁断面图



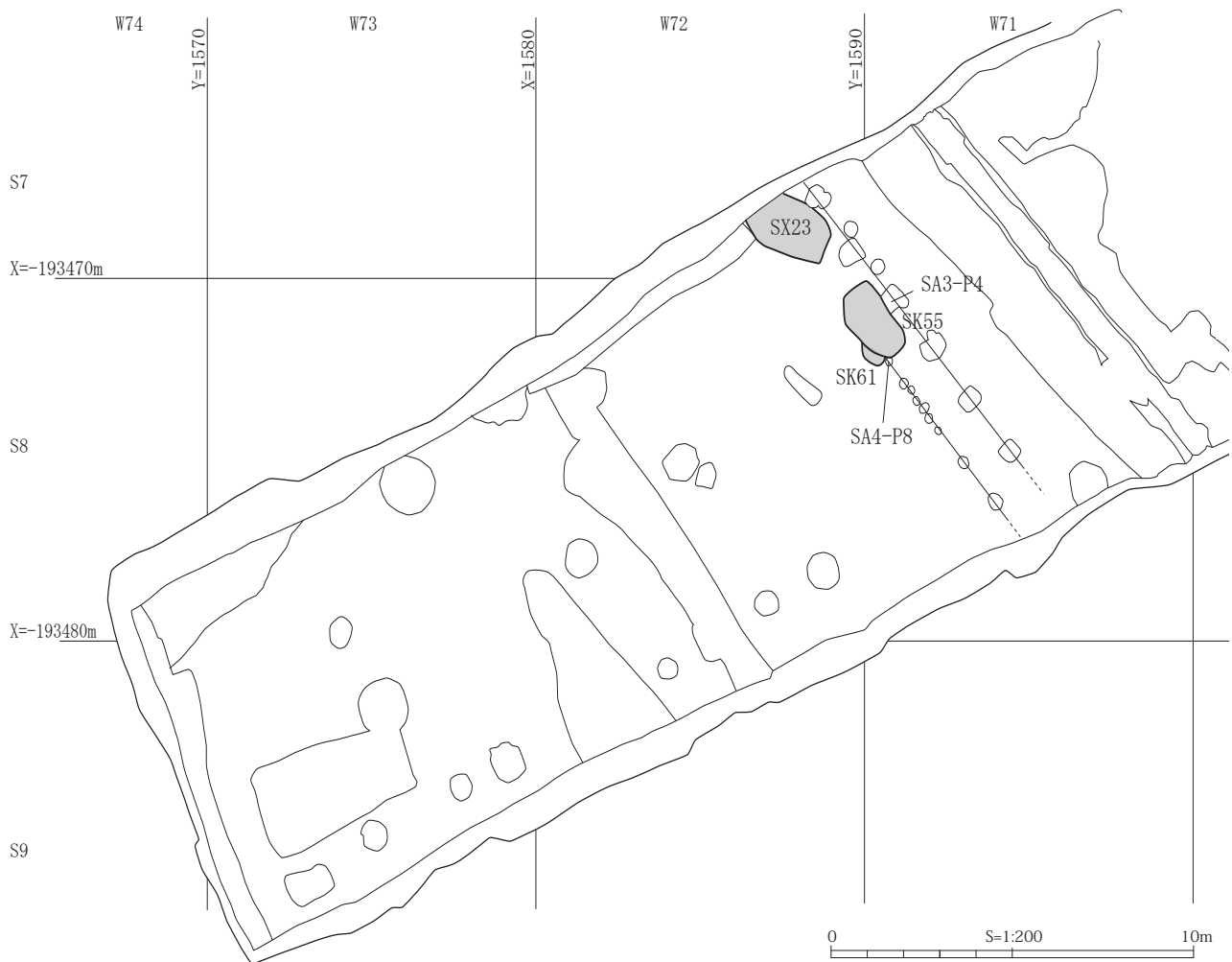
第15図 III区 東壁断面図

第5章 検出遺構と遺物

第1節 I区

1 VI層上面

VI層上面で検出された遺構は、土坑2基、その他の遺構1基の計3基である。



第16図 I区 VI層上面遺構配置図

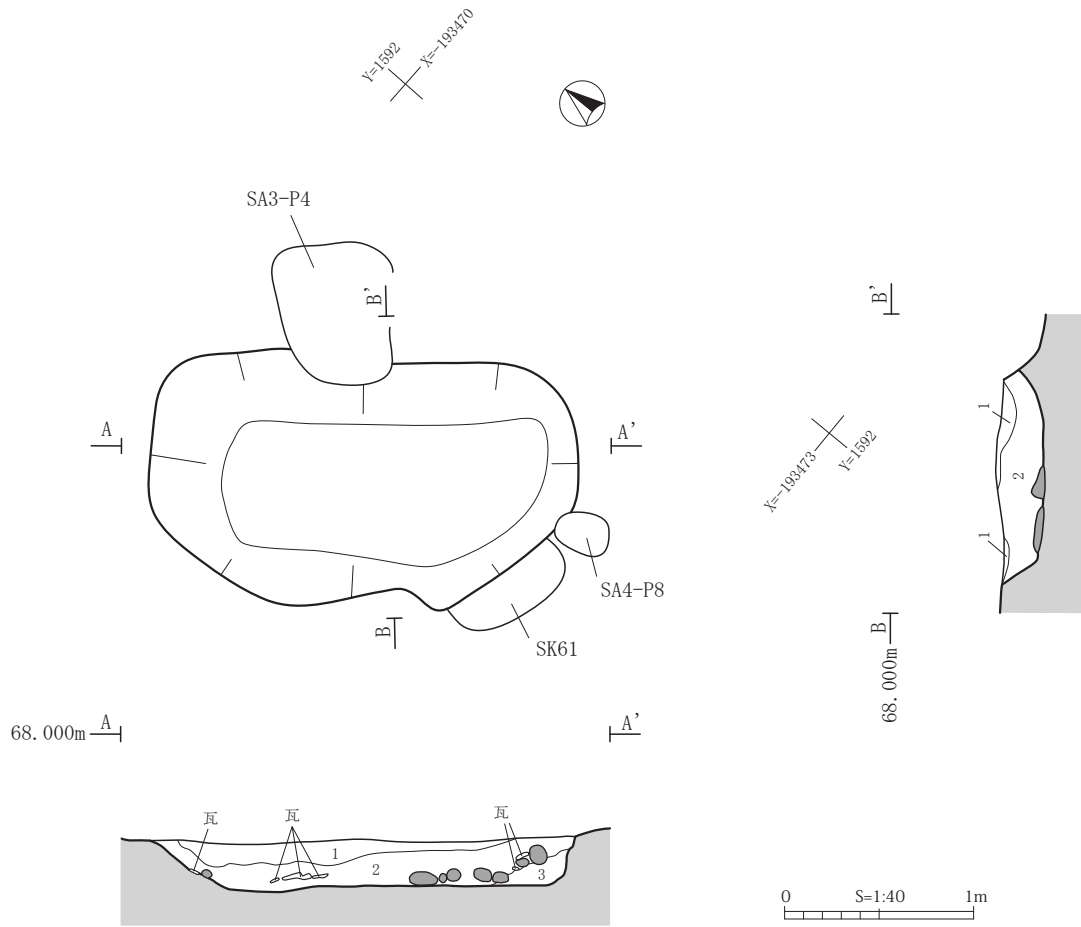
(1) 土坑

1) SK55 土坑 (第17～21図、図版13-1～4)

S8-W71・S8-W72 グリッドに位置する。SK61 を切り、SA4-P8、SA3-P4 によって壊される。

確認された規模は長軸 2.3m、短軸 1.35m、深さ 24cm を測る。平面形は不整隅丸方形で、断面形は皿状を呈する。堆積土は黄褐色土、褐色土からなり、瓦・礫を多く含み人為的に埋め戻されたと考えられる。

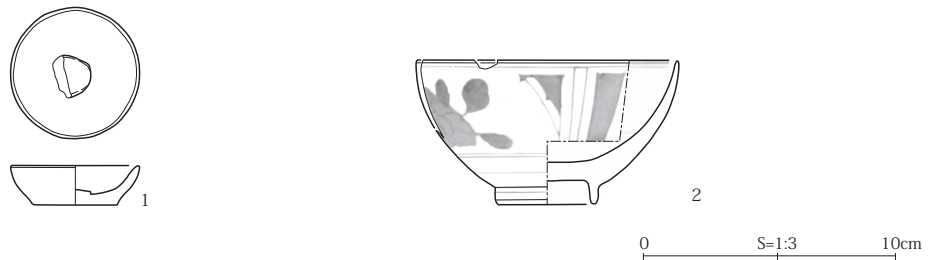
遺物は陶磁器、土師質土器、瓦質土器、瓦、金属製品、漆漉し布が出土している。第18図-1は堤産の鉄釉乗燭で、19世紀前半の年代が考えられる。第18図-2は肥前産の染付碗で、内面には赤色顔料を含む漆が付着しており、漆を塗る際にパレットとして使用したものと思われ、18世紀代の年代が考えられる。第21図-1～12は漆漉し布で、1・2は赤漆を漉したものの、3～12は漆液の不純物を取り除くために使用したものと考えられる。



SK55 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	10YR6/8	明黄褐色	シルト	ややあり	ややあり	径 3cm 以下の褐灰色シルトブロックを斑状に少量
2	10YR4/1	褐色灰色	シルト	ややあり	ややあり	こぶし大以上の礫・径 5mm 以下の炭化物微量、瓦多量
3	10YR4/4	褐色	シルト	ややあり	ややあり	黄褐色シルト粒多量、褐色シルト粒少量

第 17 図 SK55 土坑 平面図・断面図

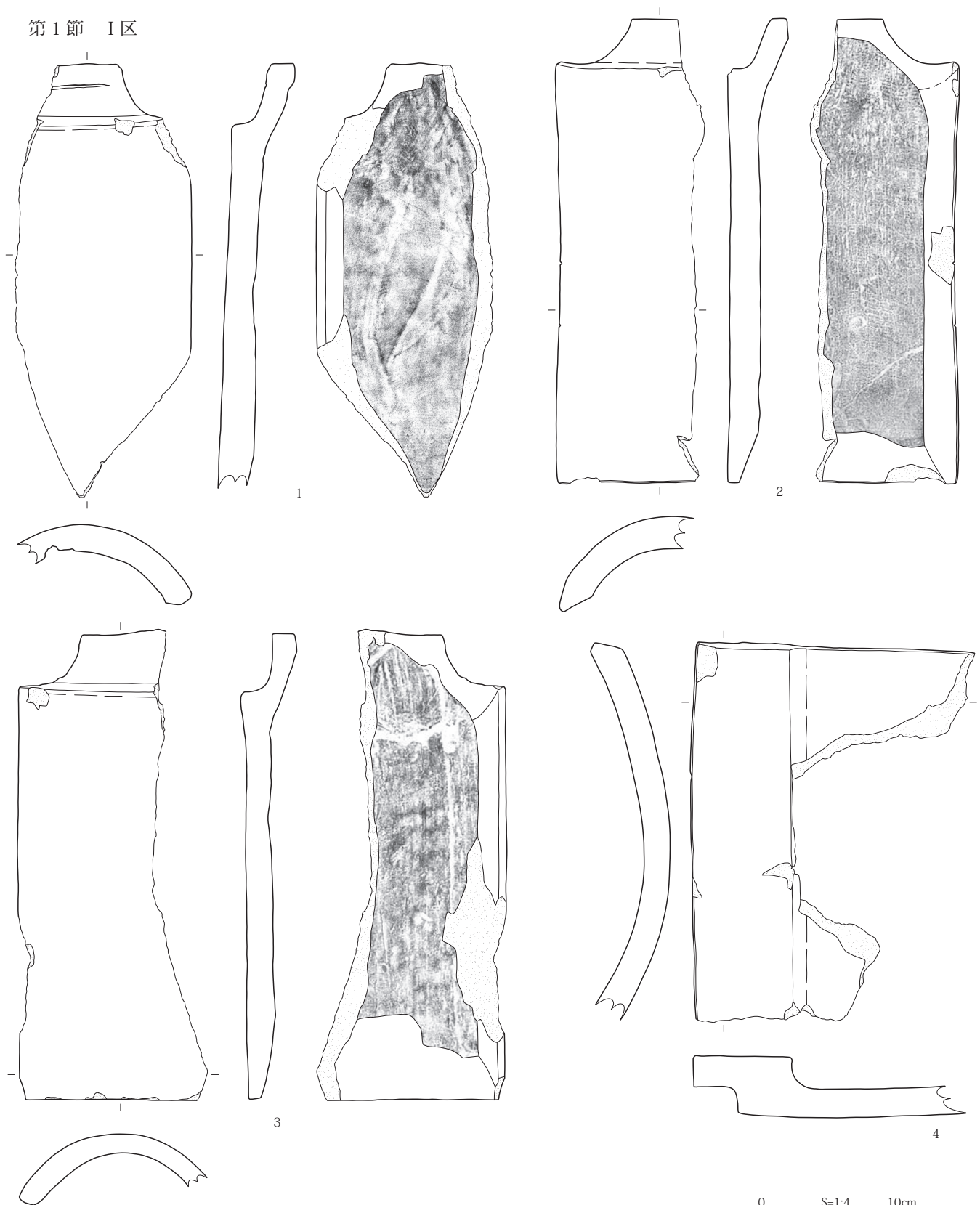


SK55 土坑 出土遺物観察表 (陶磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備 考	登録番号
								口径	底径	器高				
18-1	85-1	S8-W71・72 SK55 2層	陶器	乗燭	口縁～底部	緻密	鉄釉	5.1	3.4	1.5	堤	19世紀前半		I-47
18-2	85-2	S8-W71・72 SK55 2層	磁器	碗	口縁～底部	緻密	染付草花文	10.4	3.8	5.8	肥前	18世紀	内面に赤漆付着	J-28

第 18 図 SK55 土坑 出土遺物

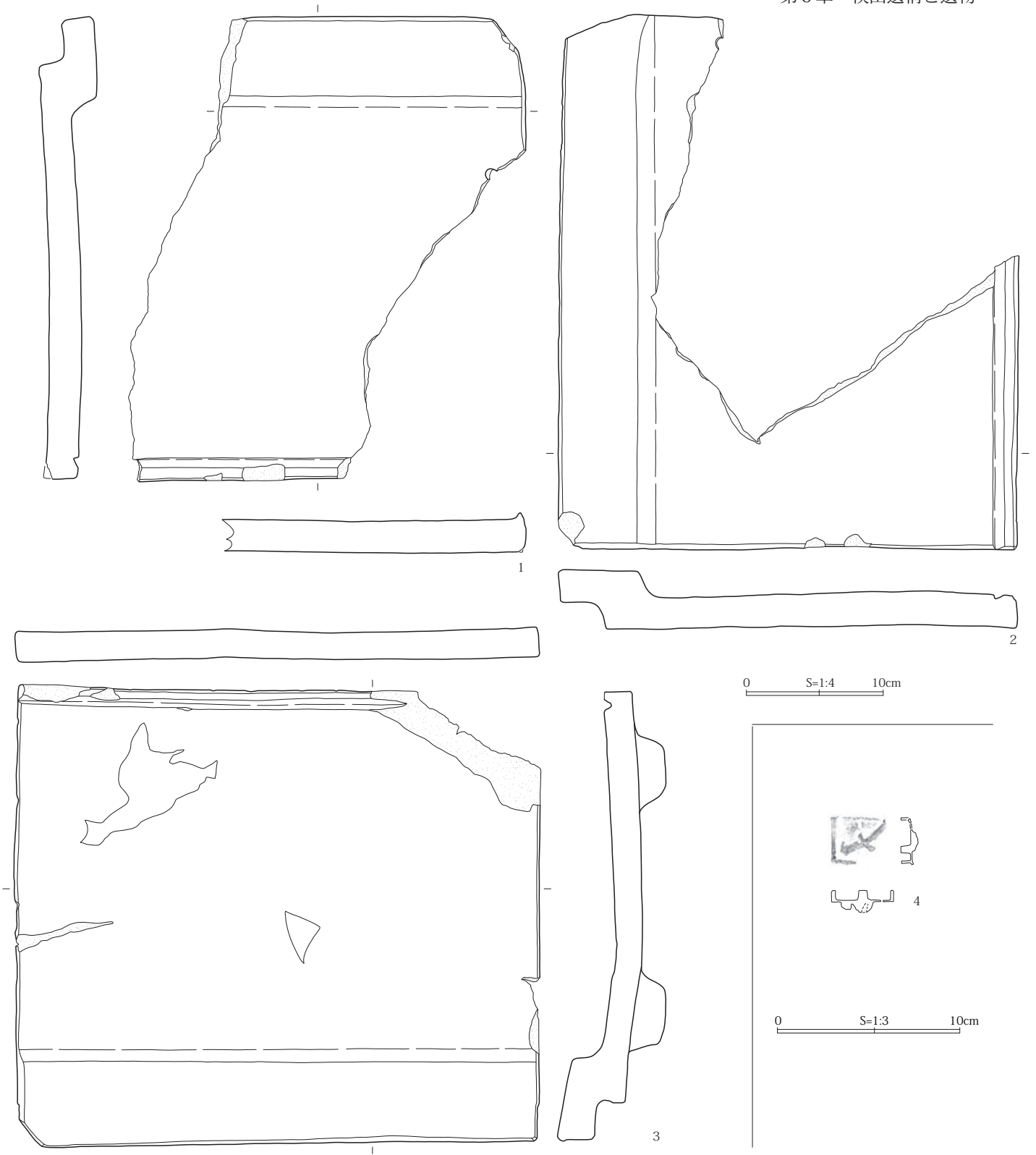
第1節 I区



SK55 土坑 出土遺物観察表 (瓦)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
19- 1	85-3	S8-W71・72	丸瓦	31.6	12.8	2.2		F-1
		SK55 2層						
19- 2	85-4	S8-W71・72	丸瓦	33.8	10.8	2.2		F-2
		SK55 2層						
19- 3	85-5	S8-W71・72	丸瓦	34.4	33.8	2		F-3
		SK55 2層						
19- 4	85-6	S8-W71・72	棟瓦	27.6	20.4	2		H-3
		SK55 2層						

第19図 SK55 土坑 出土遺物



SK55 土坑 出土遺物観察表 (瓦)

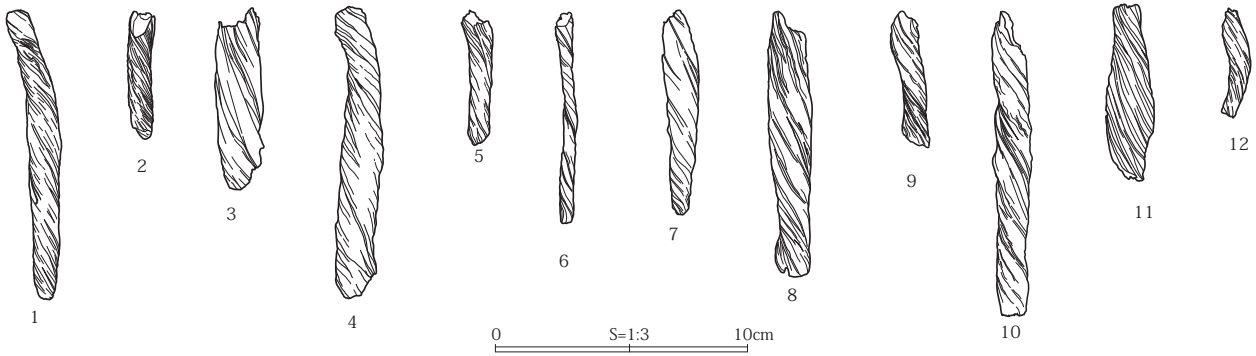
図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
20-1	85-7	S8-W71・72 SK55 2層	板塀瓦	33.8	22.6	2.4	溝あり	H-17
20-2	85-8	S8-W71・72 SK55 2層	板塀瓦	39.2	33.6	2.6	溝あり	H-18
20-3	86-1	S8-W71・72 SK55 2層	板塀瓦	33.8	38.6	2.2	溝あり	H-19

SK55 土坑 出土遺物観察表 (金属製品)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	部位	法量 (cm・g)				備考	登録番号
					長さ	幅	厚さ	重さ		
20-4	86-2	S8-W71・72 SK55 2層	飾り金具	(2.55)	(2.7)	0.3	16.01		N-1	

第20図 SK55 土坑 出土遺物

第1節 I区



SK55 土坑 出土遺物観察表 (布)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)		備考	登録番号
				長さ	幅		
21-1	86-3	S8-W71・72 SK55 2層	漉し布	11.4	1.5	赤色顔料付着	R-2
21-2	86-4	S8-W71・72 SK55 2層	漉し布	5.3	1.1	赤色顔料付着	R-7
21-3	86-5	S8-W71・72 SK55 2層	漉し布	7.2	1.9		R-1
21-4	86-6	S8-W71・72 SK55 2層	漉し布	11.6	1.8		R-3
21-5	86-7	S8-W71・72 SK55 2層	漉し布	4.8	1		R-4
21-6	86-8	S8-W71・72 SK55 2層	漉し布	8.7	0.6		R-5
21-7	86-9	S8-W71・72 SK55 2層	漉し布	8.3	1.5		R-6
21-8	86-10	S8-W71・72 SK55 2層	漉し布	10.7	1.8		R-8
21-9	86-11	S8-W71・72 SK55 2層	漉し布	5.5	1.2		R-9
21-10	86-12	S8-W71・72 SK55 2層	漉し布	12.3	1.9		R-10
21-11	86-13	S8-W71・72 SK55 2層	漉し布	7	1.9		R-11
21-12	86-14	S8-W71・72 SK55 2層	漉し布	4.4	0.9		R-12

第21図 SK55 土坑 出土遺物

2) SK61 土坑 (第22図、図版13-5～6)

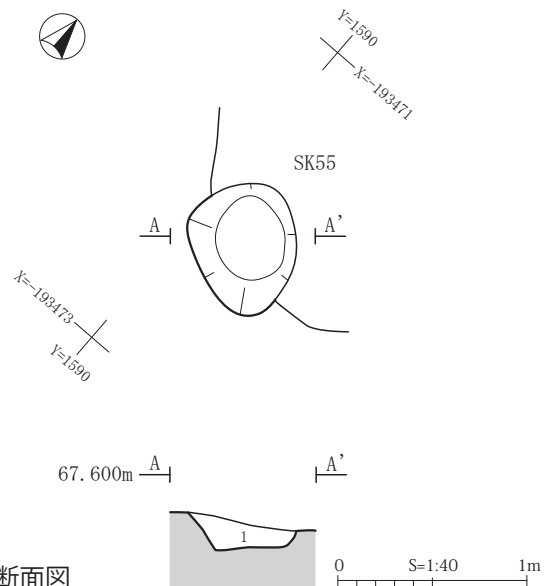
S8-W71・S8-W72 グリッドに位置する。北側の上部をSK55によって壊される。

確認された規模は長軸70cm、短軸56cm、深さ20cmを測る。平面形は不整楕円形が推定され、断面形は開いたU字形を呈するものと思われる。堆積土は褐灰色砂質シルトの単層で、礫少量、酸化鉄を多量に含む人為的埋め戻し土と考えられる。

遺物は出土していない。

SK61 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	Na	色				
1	10YR5/1	褐灰色	砂質シルト	なし	あり	径5cm以下の礫少量、酸化鉄多量



第22図 SK61 土坑 平面図・断面図

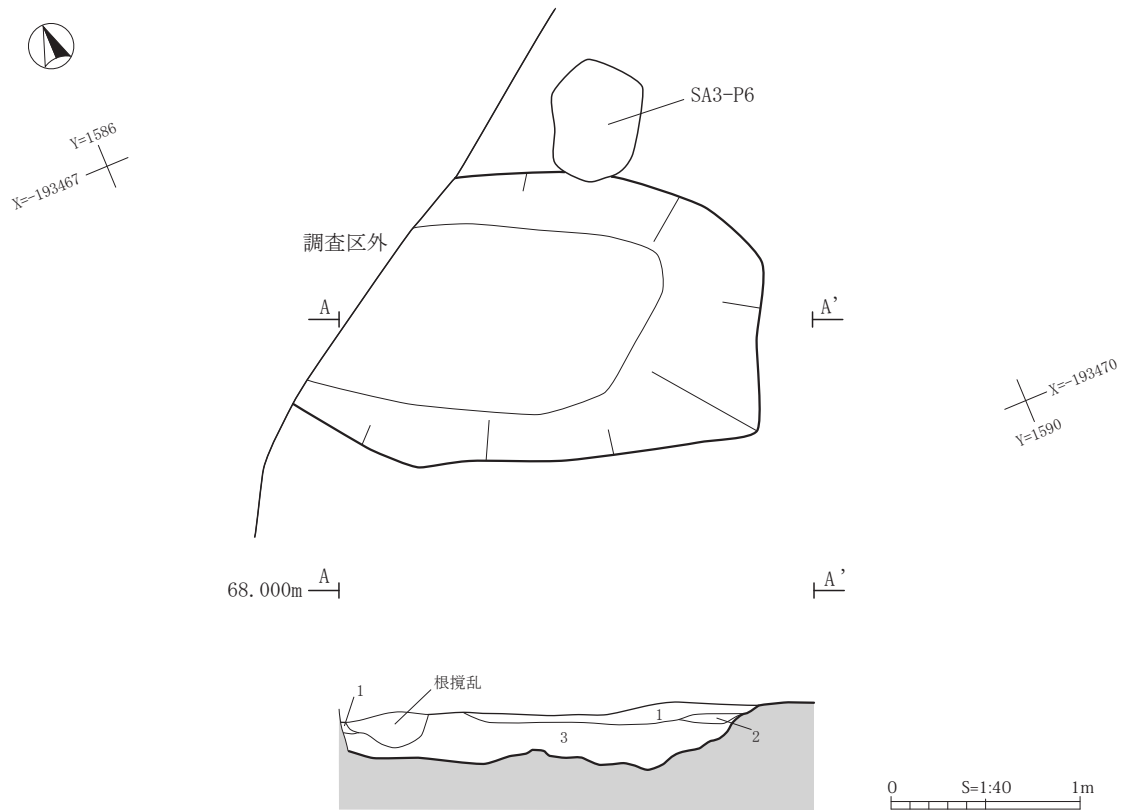
(2) その他の遺構

1) SX23 性格不明遺構 (第23図、図版13-7～8)

S7-W72 グリッドに位置する。北側を SA3-P6 に切れ、西側は調査区外へ延びる。

確認された規模は長軸 2.2m、短軸 1.5m、深さ 40cm を測る。平面形は不整隅丸方形が推定され、断面形は底面に凹凸のある皿状を呈する。堆積土は黒褐色、灰褐色、褐灰色の砂質シルトからなり、断面の観察から自然堆積したものと考えられる。

遺物は肥前産の陶磁器、丸瓦、平瓦が少量出土しているが細片のため図化し得なかった。



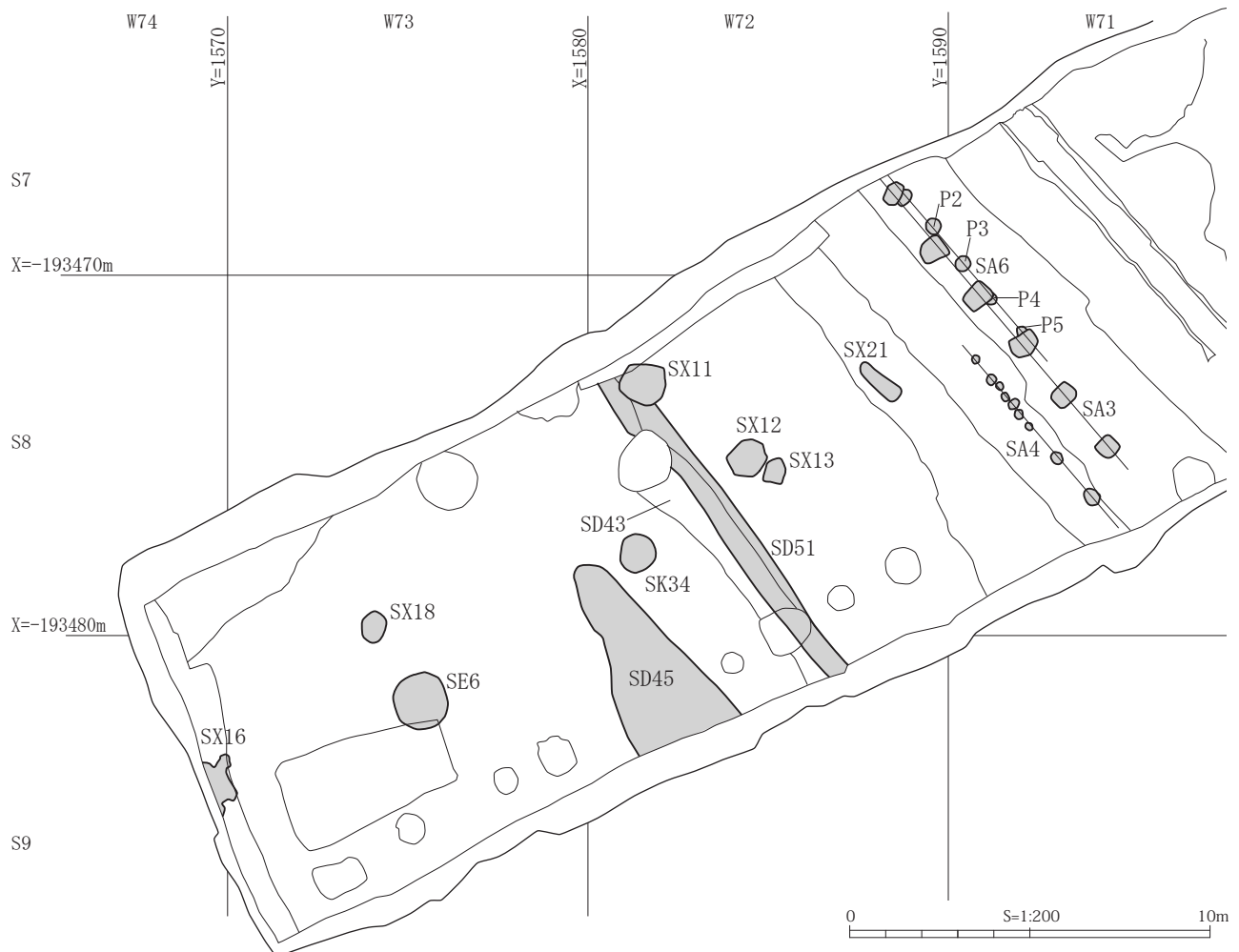
SX23 性格不明遺構 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	7.5YR3/2	黒褐色	砂質シルト	なし	ややあり	径 5 mm の明褐色土粒少量、径 5 mm 以下橙色ロームブロック少量
2	7.5YR4/3	灰褐色	砂質シルト	なし	ややあり	径 5 mm 以下の明褐色土粒微量
3	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	なし	ややあり	径 5 mm 以下の明褐色土粒と炭化物を微量

第23図 SX23 性格不明遺構 平面図・断面図

2 V層上面

V層上面で検出された遺構は柱列跡3条、溝跡2条、井戸跡1基、土坑1基、その他の遺構6基である。IV層上面で確認されている土手状遺構の直下に柱列が検出された。また、炭化物の集中する箇所が調査区全体に分布していることが確認された。



第24図 I区 V層上面遺構配置図

(1) 柱列跡

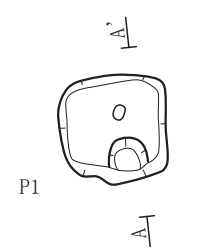
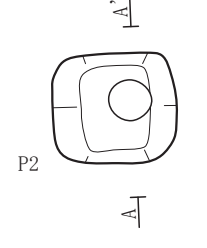
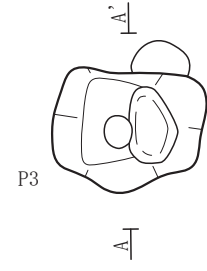
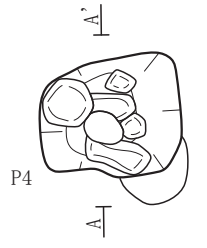
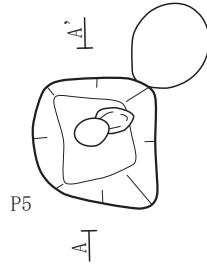
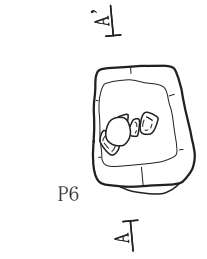
1) SA3 柱列跡 (第25図、図版14-1～7・15-6)

S7-W71・S7-W72・S8-W71グリッドに位置する。南北方向に直線的に並ぶ6基の柱穴からなる。

確認された長さは9.35m、柱間寸法は南端から1.84m(6尺1寸)・1.74m(5尺7寸)・1.80m(5尺9寸)・1.88m(6尺2寸)・1.72m(5尺7寸)を測る。主軸方向はN-41°-Eを示す。南側は途切れるが、北側は調査区外へ延びる可能性がある。P3～P6はSA6と重複してこれを切る。径10～18cmの柱痕がすべてに見られ、P3・P4・P5・P6では8～40cmの川原石が根固め石として使用される。またP4では38cmの細長い川原石が礎板石として置かれている。掘り方の規模は平面が短軸30～55cm、長軸50～80cm、深さ8～40cmを測る。平面形はP2・P6が隅丸方形を、P1・P3・P4・P5が不整隅丸方形を呈する。断面形は開いたU字形が多く、皿状や方形を呈するものもある。

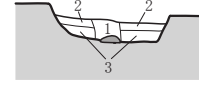
堆積土は1～5層の褐色シルト、黒褐色砂、灰黄褐色シルトを主体としており、砂粒、明褐色土ブロックを含む。遺物は瓦片、陶器片、金属製品等が出土しているが細片のため図化し得なかった。

X=-193467
Y=1598

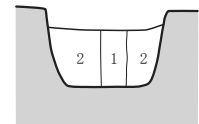


X=-193470
Y=1594

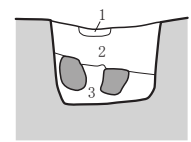
68.000m A P6 A'



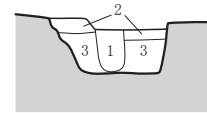
68.000m A P5 A'



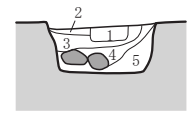
68.000m A P4 A'



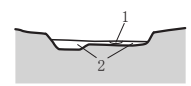
68.000m A P3 A'



68.000m A P2 A'



68.000m A P1 A'



0 S=1:40 1m

第1節 I区

SA3 柱列跡 土層注記表

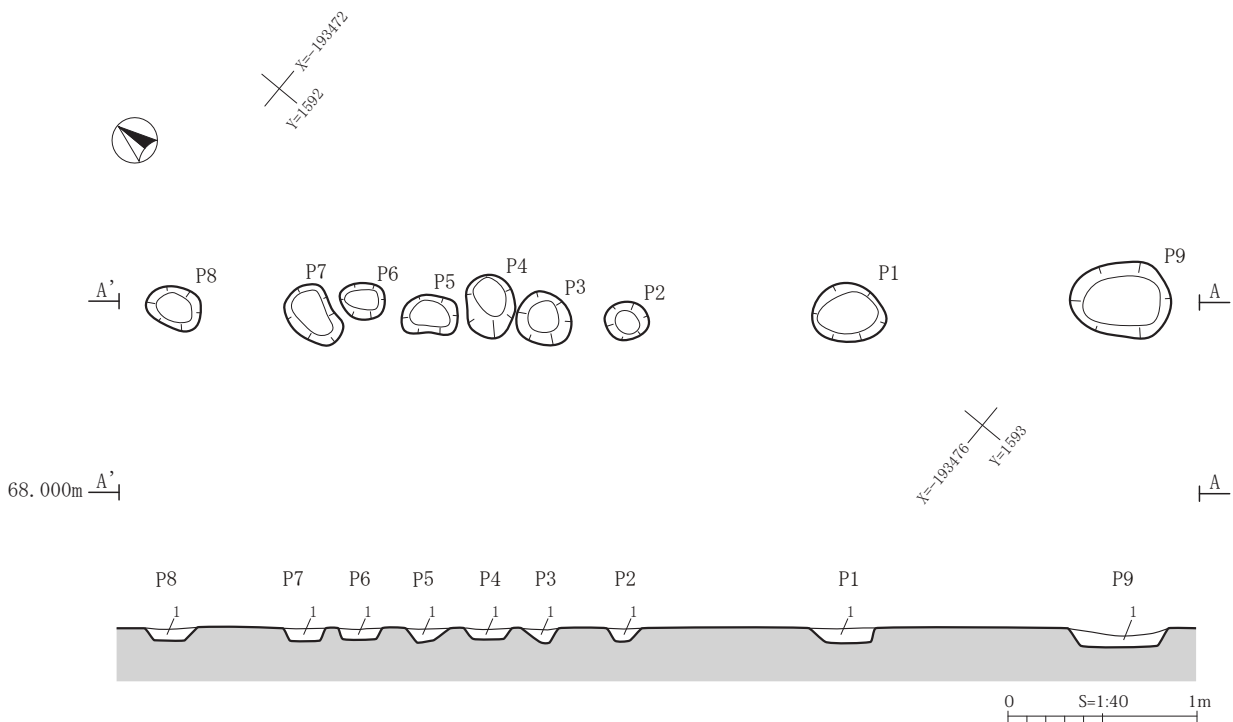
遺構番号	層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
		No	色				
P1	1	7.5YR4/6	褐色	シルト	なし	なし	径5mm未満の炭化物微量
P2	1	7.5YR4/6	褐色	砂質シルト	なし	なし	明褐色ブロック、径5mmの暗褐色ブロック入る
	2	7.5YR3/4	暗褐色	砂質シルト	なし	なし	砂粒、赤褐色粒、1mm以下の炭化物少量
	3	7.5YR4/3	褐色	砂質シルト	なし	あり	砂粒、赤褐色粒、粘性のある下層のブロック少量
	4	10YR6/2	灰黄褐色	粘土質シルト	ややあり	あり	径15cm未満の礫はある 砂粒、酸化鉄を含み、2層に似た土がブロック状に入る
	5	10YR4/6	褐色	砂質シルト	なし	ややあり	砂粒、明褐色ブロック、酸化鉄多量
P3	1	7.5YR4/4	褐色	砂質シルト	なし	なし	径5cmの礫 砂粒多量
	2	10YR4/6	褐色	砂質シルト	なし	なし	砂粒、赤褐色粒多量、植物遺体少量
	3	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト	なし	なし	砂粒、酸化鉄多量
P4	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	砂粒、酸化鉄、炭化物微量
	2	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	なし	あり	砂粒、酸化鉄、炭化物微量
P5	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂		なし	所々に隙間有り
	2	10YR6/6	明黄褐色	砂	なし	ややあり	明褐色ブロック少量
	3	10YR4/4	黒褐色	砂	なし	なし	赤褐色粒少量
	4	10YR4/5	黒褐色	砂	なし	ややあり	径5mm明褐色ブロック、炭化物粒少量
	5	10YR4/6	褐色	砂	なし	ややあり	明褐色ブロック、酸化鉄
P6	1	10YR4/4	褐色	砂質シルト	なし	なし	底面より径10cmの礫 砂粒、シルト多量 鉄釘出土
	2	7.5YR4/4	褐色	砂質シルト	なし	なし	白色粒、赤褐色粒多量
	3	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	あり	灰白色粘質土ブロック、径1cmの黄褐色ブロック、砂粒、酸化鉄多量

第25図 SA3 柱列跡 平面図・断面図

2) SA4 柱列跡 (第26図、図版15-1～6)

S8-W71 グリッドに位置する。南北方向に並び、間隔がまばらな9基の小穴からなる。Ⅲ層上面で確認されたSD29の底面で検出され、SA3、SA6と近い方向性を持つため、Ⅴ層上面の遺構と想定される。

確認された長さは5m、柱間寸法は南端から1.44m(4尺8寸)・1.16m(3尺8寸)・0.45m(1尺5寸)・0.28m(9寸)・0.32m(1尺1寸)・0.34m(1尺1寸)・0.30m(1尺)・0.72m(2尺4寸)と不揃いである。主軸方向はN-39°-Wを示す。北側は途切れ、南側は調査区外へ延びる可能性がある。P4とP8からは18cmの割り石が検出されるが、いずれも柱痕は見られず、柱穴と断定できる根拠は少ないが、ほぼ直線的に並ぶことから柱列として登録した。掘り方の規模は平面が短軸20cm程度、長軸40～50cm、深さ5～8cmを測る。平面形は不整楕円形を呈する。断面形はいずれも浅い皿状を呈する。堆積土は灰褐色シルト～砂質シルトからなり、礫を微量含む。遺物は出土していない。



SA4 柱列跡 土層注記表

遺構番号	層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
		No	色				
P1	1	10YR4/1	褐灰色	シルト	ややあり	あり	径 5 cm以下の礫微量 径 2 cm以下の灰白色土粒少量
P2	1	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	なし	あり	径 10 cm以下の礫微量
P3	1	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	なし	あり	径 10 cm以下の礫微量
P4	1	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	なし	あり	径 10 cm以下の礫微量
P5	1	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	なし	あり	径 10 cm以下の礫微量
P6	1	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	なし	あり	径 10 cm以下の礫微量
P7	1	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	なし	あり	径 10 cm以下の礫微量
P8	1	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	なし	あり	径 10 cm以下の礫微量
P9	1	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	なし	あり	径 10 cm以下の礫微量

第 26 図 SA4 柱列跡 平面図・断面図

3) SA6 柱列跡 (第 27 図、図版 15-6 ~ 16-4)

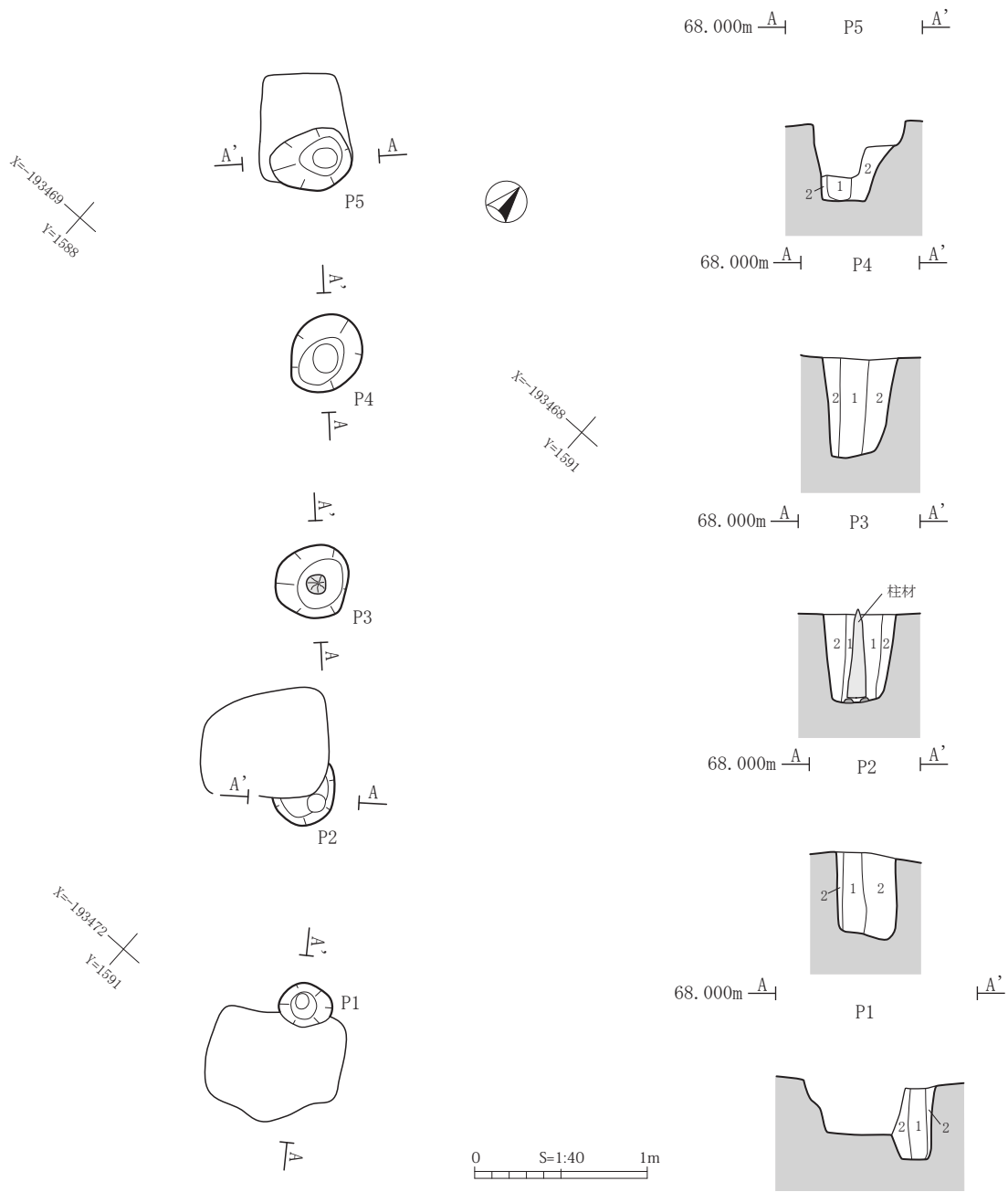
S7-W71・S7-W72・S8-W7 1 グリッドに位置する。南北方向に直線的に並ぶ 5 基の柱穴からなる。

確認された長さは 4.9m、柱間寸法は南端から 1.14m (3 尺 8 寸)・1.28m (4 尺 2 寸)・1.30m (4 尺 3 寸)・1.16m (3 尺 8 寸) を測る。主軸方向は N-41°-W を示す。南側は途切れるが、北側は調査区外へ延びる可能性がある。P1・P2・P4・P5 は SA3 と重複してこれに切られる。P3 には底面近くを 7 角に面取りした柱材が遺存し、幅 10 ~ 11cm、長さ 51cm を測る。他の 4 基からは径 10 ~ 16cm の柱痕が検出された。

掘り方の規模は短軸 24 ~ 30cm、長軸 40×48cm、深さ 30 ~ 58cm を測る。平面形は不整円形~不整楕円形を、断面形は U 字形を呈する。堆積土は 2 層からなり、1 層は柱痕で黒褐色~にぶい黄褐色粘土質シルト~砂質シルト、2 層は掘り方埋土で褐色灰黄褐色シルトである。

遺物は柱材以外、出土していない。

第1節 I区



SA6 柱列跡 土層注記表

遺構番号	層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
		No	色				
P1	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	なし	なし	柱痕
	2	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	径3cm以下明黄褐色土粒少量
P2	1	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	あり	なし	柱痕
	2	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	なし	あり	径3cm以下の礫微量
P3	1	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	柱痕 底面に礫、柱材の腐食によりしまりが無い
	2	10YR4/4	褐色	砂質シルト	なし	ややあり	砂粒、灰褐色ブロック酸化鉄含む
P4	1	10YR4/4	褐色	シルト	ややあり	なし	柱痕 砂粒、赤褐色土粒含む、一部腐食した木材が残る
	2	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	あり	砂粒、赤褐色土粒、酸化鉄、径1mmの明褐色土粒、シルト多量
P5	1	10YR3/2	黒褐色	シルト	なし	なし	柱痕
	2	10YR5/2	灰黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	径3cm未満明黄褐色土粒少量

第27図 SA6 柱列跡 平面図・断面図

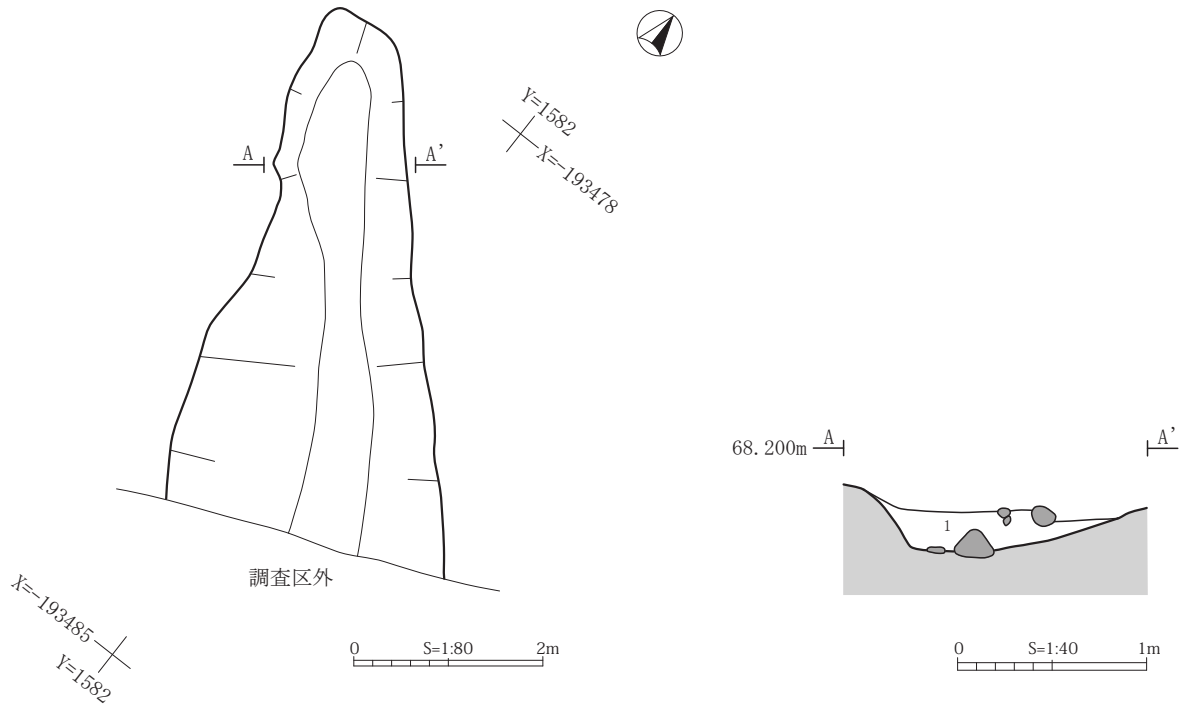
(2) 溝跡

1) SD45 溝跡 (第 28 図、図版 16-5 ~ 6)

S8-W72・S8-W73・S9-W72 グリッドに位置する。南北方向に走る素掘りの溝である。北端は壁が立ち上がって途切れ、南側は調査区外へ延びる。

確認された規模は長さ 5.6m、幅 3 m、深さ 32cm を測る。断面形は開いた U 字形を呈する。主軸方向は N-33°-W を示す。堆積土は褐灰色シルトの単層で礫、灰白色粘土ブロックを多量に含む。

遺物は瓦等が出土しているが細片のため図化し得なかった。



SD45 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	10YR4/1	褐灰色	シルト	なし	なし	径 15 cm以下の礫・径 15 cm以下の灰白色粘土ブロック多量

第 28 図 SD45 溝跡 平面図・断面図

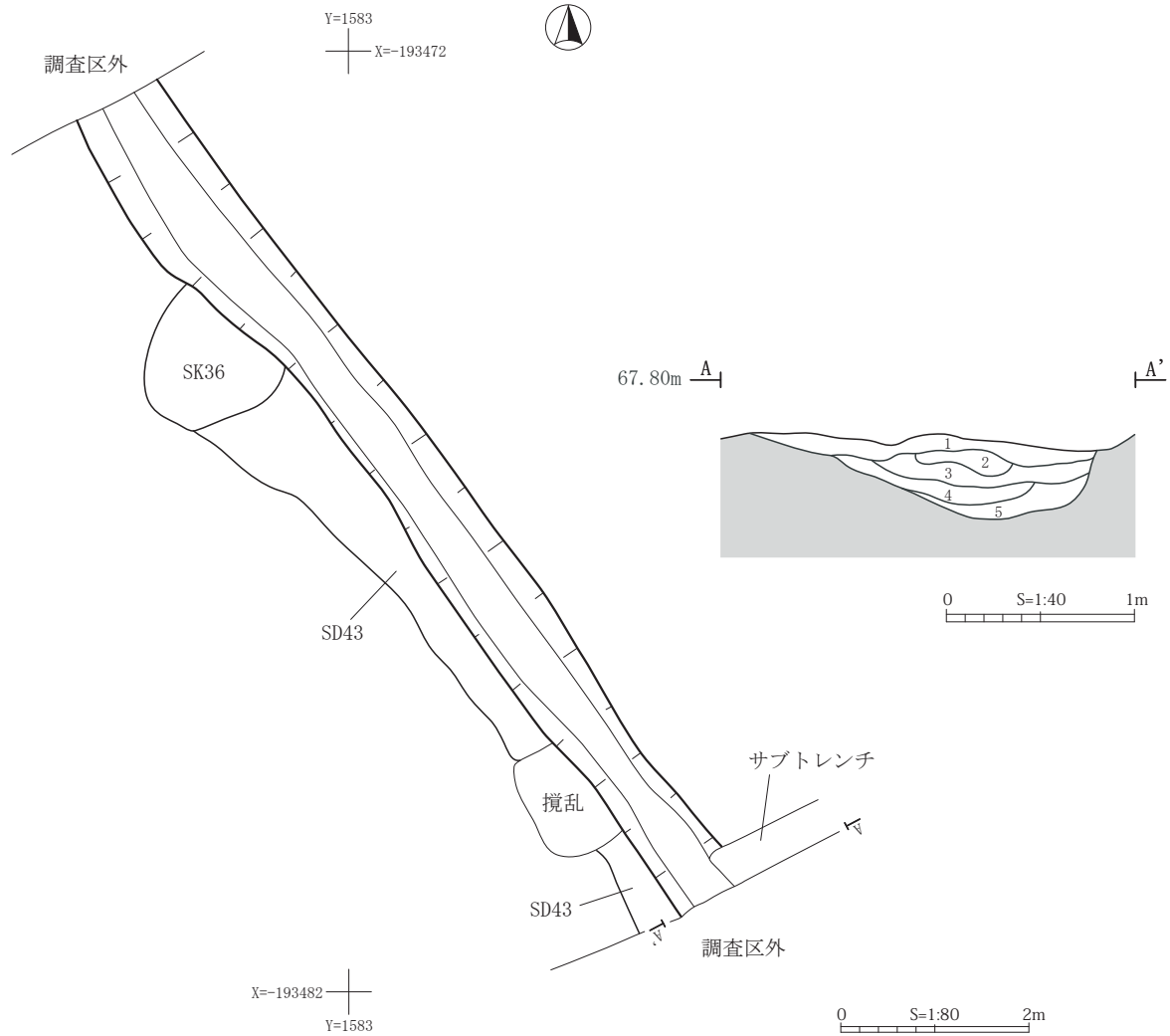
2) SD51 溝跡 (第 29 ~ 30 図、図版 16-5・7)

S8-W72・S9-W72 グリッドに位置する。南北方向に直線的に走る素掘りの溝である。西側の上端を SK36 と SD43 に切られる。南北両側ともに調査区外に延びる。

確認された規模は長さ 10.6m、幅 72 ~ 112cm、深さ 26cm を測る。断面形は皿形を呈する。主軸方向は N-37°-W を示す。堆積土は 5 層からなり、灰色～灰黄褐色、オリーブ色の砂質シルト、粘土質シルト、シルト質砂等で、炭化物粒を微量～少量含む。

遺物は 18 世紀～ 19 世紀の陶磁器が出土している。

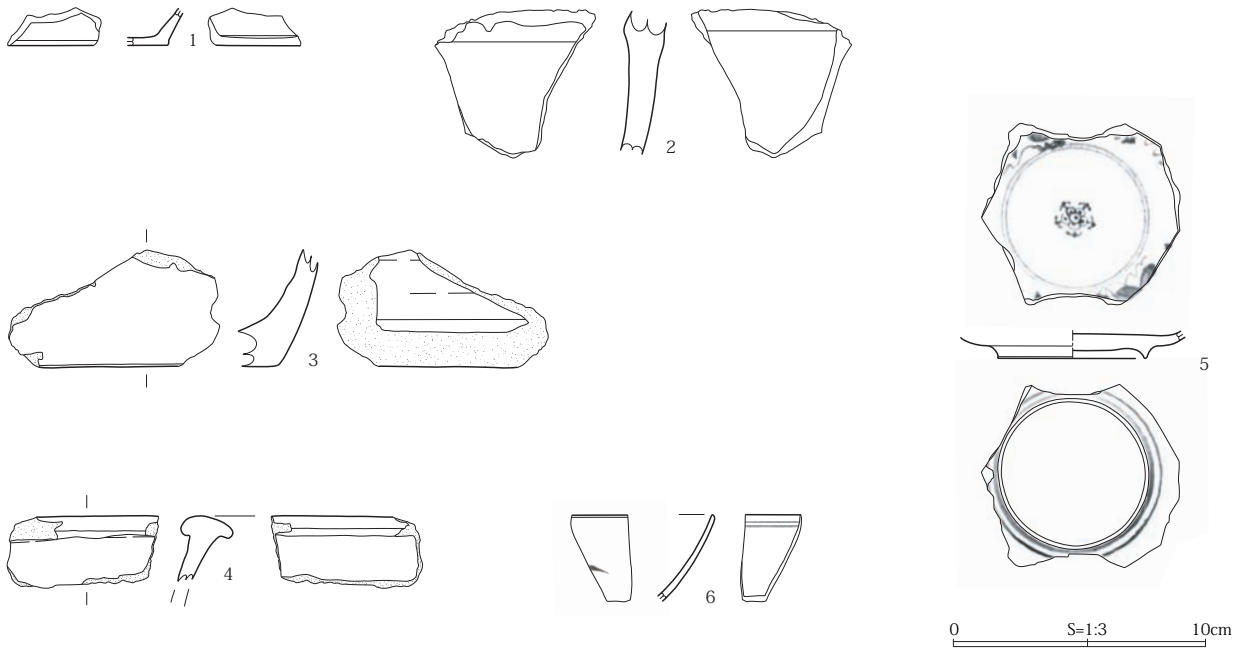
第1節 I区



SD51 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	5Y5/1	灰色	粘土質シルト	あり	なし	径 5 mm の炭化物を微量
2	5Y6/2	オリーブ黄色	シルト質砂	なし	ややあり	径 5 mm の炭化物微量、酸化鉄多量
3	5Y6/1	灰色	砂質シルト	あり	なし	径 5 cm の礫を少量
4	2.5Y5/2	灰黄褐色	砂質シルト	あり	なし	径 5 mm の炭化物を微量
5	5Y6/2	灰オリーブ色	シルト質粘土	あり	なし	径 5 mm の炭化物を少量

第 29 図 SD51 溝跡 平面図・断面図



SD51 溝跡 出土遺物観察表 (陶磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
30-1	86-15	S8・9-W72 SD51 4層	陶器	焙烙	体部～底部	粗	鉛釉	—	—	(1.5)	堤	19世紀		I-33
30-2	86-16	S8・9-W72 SD51 4層	陶器	糞か鉢	体部	粗	白濁釉	—	—	(5.7)	小野相馬	18世紀以降		I-34
30-3	86-19	S8・9-W72 SD51 5層	陶器	鉢?	体部～底部	やや粗	—	—	—	(4.7)	不明	近世		I-226
30-4	86-20	S8・9-W72 SD51 5層	陶器	鉢	口縁	やや粗	—	—	—	(2.9)	不明	近世		I-227
30-5	86-18	S8・9-W72 SD51 5層	磁器	手塩皿	底部	緻密	染付葡萄蔓文・五弁花	—	(5.95)	(1.1)	肥前	18世紀後半		J-19
30-6	86-17	S8・9-W72 SD51 5層	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付草文・圏線	—	—	(3.5)	肥前?	18～19世紀		J-20

第30図 SD51 溝跡 出土遺物

(3) 井戸跡

1) SE6 井戸跡 (第31～32図、図版17-1～3)

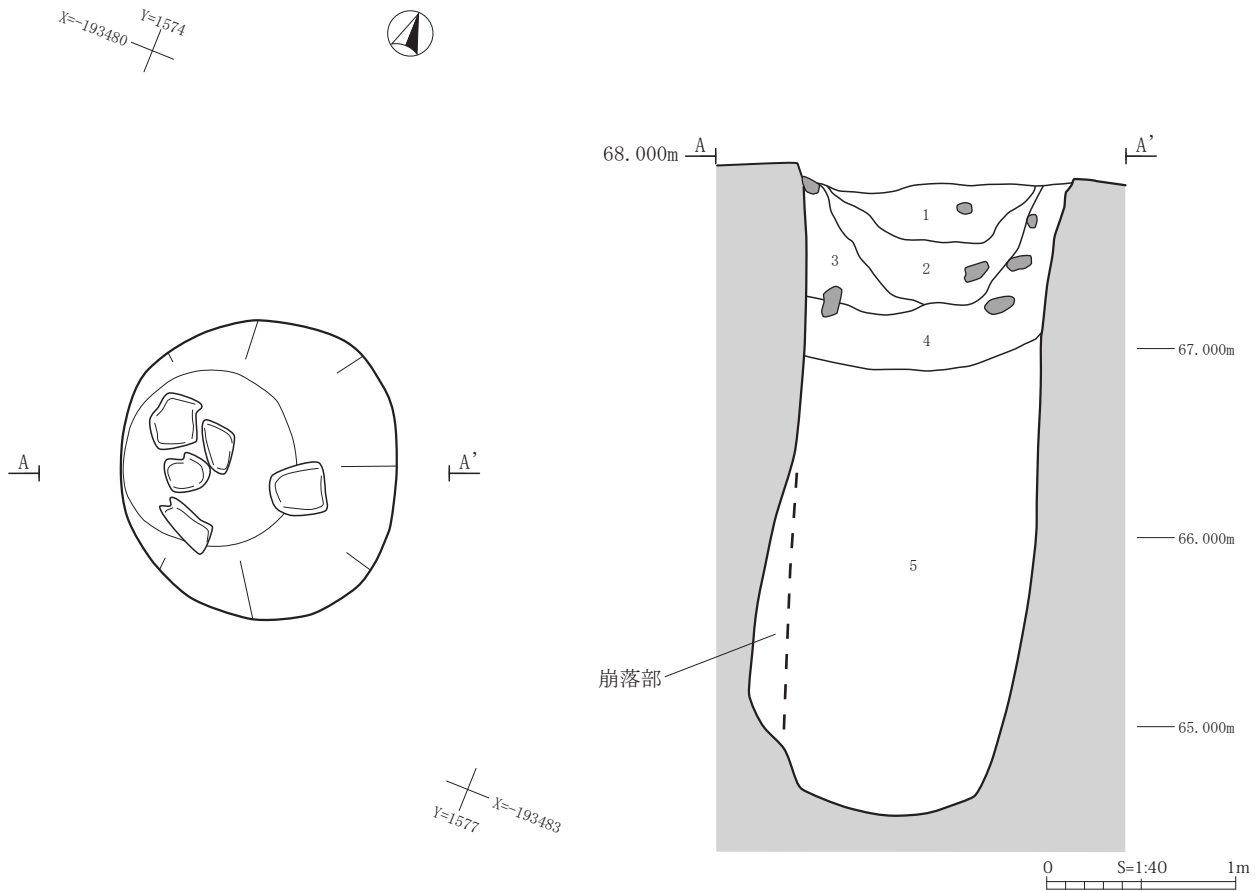
S9-W73 グリッドに位置する素掘りの井戸である。平面形は円形を、断面形は筒状を呈する。

上端の径 1.5～1.6 m、深さ 3.4m を測る。上端から下端に向かって南西方向に斜行する。井桁、井筒などの地上施設、上屋施設、井戸底の集水、浄水施設などの痕跡は検出されなかった。人力で約 1.5 m掘り下げ土層の堆積状況を記録したが、それ以下は安全性を考慮して重機を使用して南側を掘削した。地盤、堆積土の崩落もあり、下層の堆積土はバケツですくい上げて、遺物を一括で取り上げた。

堆積土は5層の黒褐色、暗褐色、にぶい黄褐色、褐灰色の砂質シルトからなり、礫、炭化物を含む。これらは人為的埋め戻し土と考えられる。

遺物は18世紀～19世紀の陶磁器、土師質土器、木製品が上位の埋め戻し土中より出土している。

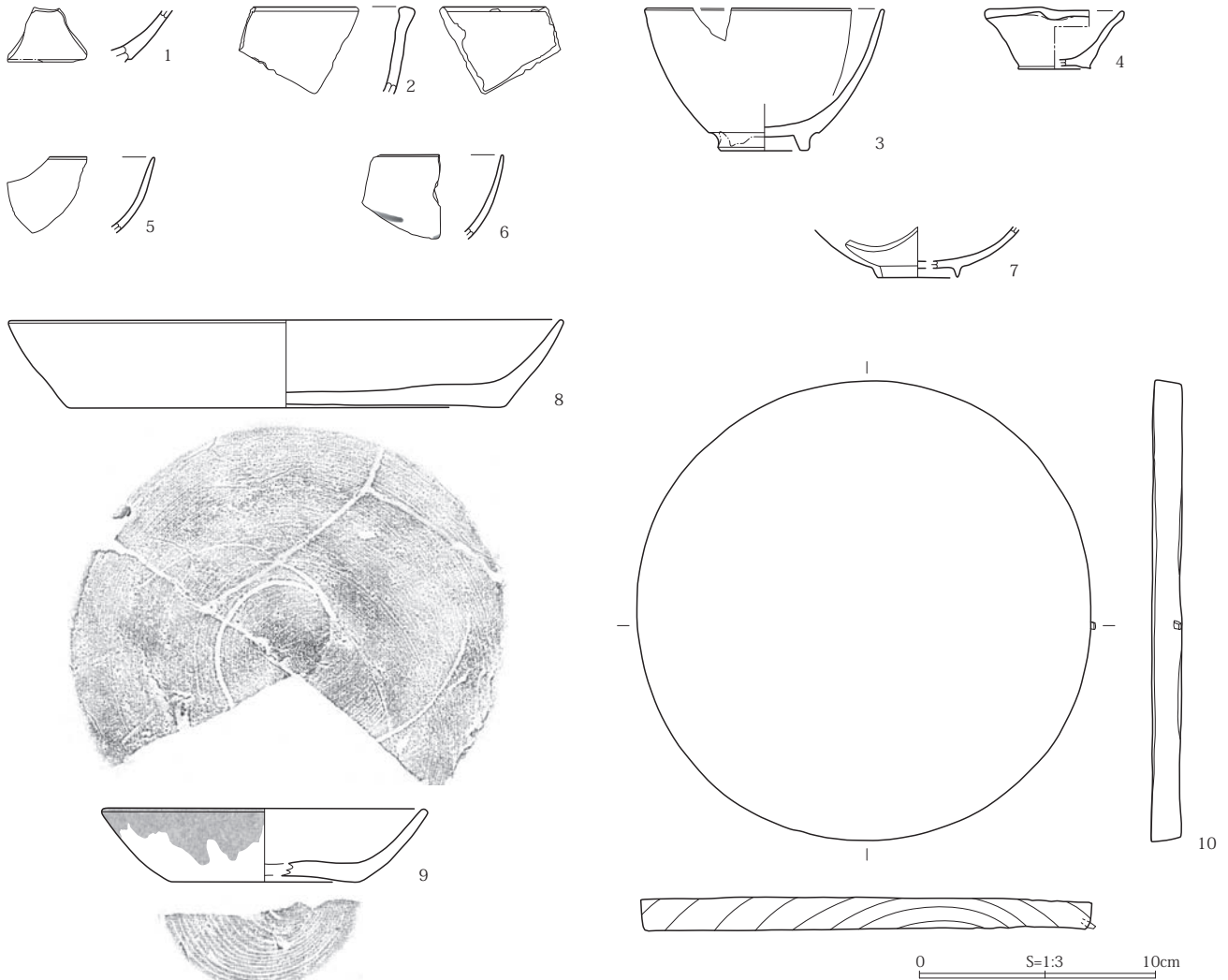
第1節 I区



SE6 井戸跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	ややあり	なし	径 10 cm以下の礫微量、径 5 mm以下の小枝炭化物少量
2	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	あり	なし	径 10 cmの礫微量
3	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径 5 mmの炭化物少量
4	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	あり	ややあり	径 15 cmの礫少量、径 3 cmの礫やや多量
5	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	あり	なし	径 20 cm以下の礫少量、木片やや多量

第 31 図 SE6 井戸跡 平面図・断面図



SE6 井戸跡 出土遺物観察表 (陶磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
32-1	87-7	S9-W73 SE6 4層	陶器	碗	体部	密	白濁釉	—	—	(2.2)	大堀相馬	18世紀後半		I-81
32-2	87-1	S9-W73 SE6 4層	陶器	鉢か香炉	口縁~体部	やや粗	鉄釉	—	—	(3.7)	堤	19世紀代		I-82
32-3	87-2	S9-W73 SE6 5層	陶器	碗	口縁~底部	密	—	(5.05)	(3.8)	6.1	大堀相馬	19世紀前半		I-83
32-4	87-3	S9-W73 SE6 5層	陶器	ミニチュア片口	口縁~底部	やや密	—	(6.0)	(3.1)	2.6	産地不明	近世		I-84
32-5	87-5	S9-W73 SE6 埋土一括	陶器	碗	口縁~体部	密	白濁釉	—	—	(3.25)	大堀相馬	18世紀代		I-85
32-6	87-6	S9-W73 SE6 埋土一括	磁器	碗	口縁~体部	緻密	染付	—	—	(3.6)	肥前	17世紀か 18世紀?		J-60
32-7	87-4	S9-W73 SE6 4層	磁器	碗	体部~底部	緻密	白磁	—	(3.4)	(2.15)	肥前	近世		J-61

SE6 井戸跡 出土遺物観察表 (土師質土器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
						口径	底径	器高				
32-8	87-8	S9-W73 SE6 4層一括	土師質土器	皿	口縁~底部	23.6	18.6	3.8	在地	近世		I-224
32-9	87-9	S9-W73 SE6	土師質土器	灯明皿	口縁~底部	(14.0)	(8.0)	3.1	在地	近世	煤付着	I-225

SE6 井戸跡 出土遺物観察表 (木製品)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
32-10	87-10	S9-W73 SE6 埋土一括	曲物	19.7	19.2	1.4	底板、木製または竹製の釘	L-9

第32図 SE6 井戸跡 出土遺物

(4) 土坑

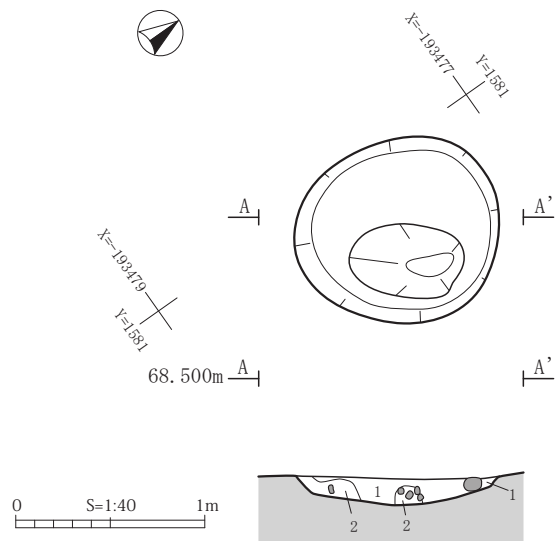
1) SK34 土坑 (第33図、図版17-4～5)

S8-W72グリッドに位置する。長軸1.1m、短軸1m、深さ14cmを測る。平面形は円形で、断面形は皿状を呈し、底面の東側には浅い落ち込みがある。堆積土は2層の砂質シルトからなり、礫を微量～少量含む褐灰色土および暗灰黄色土である。

遺物は出土していない。

SK34土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No.	色				
1	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	あり	なし	径3cmの礫少量
2	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	あり	あり	径5cmの礫微量



第33図 SK34土坑 平面図・断面図

(5) その他の遺構

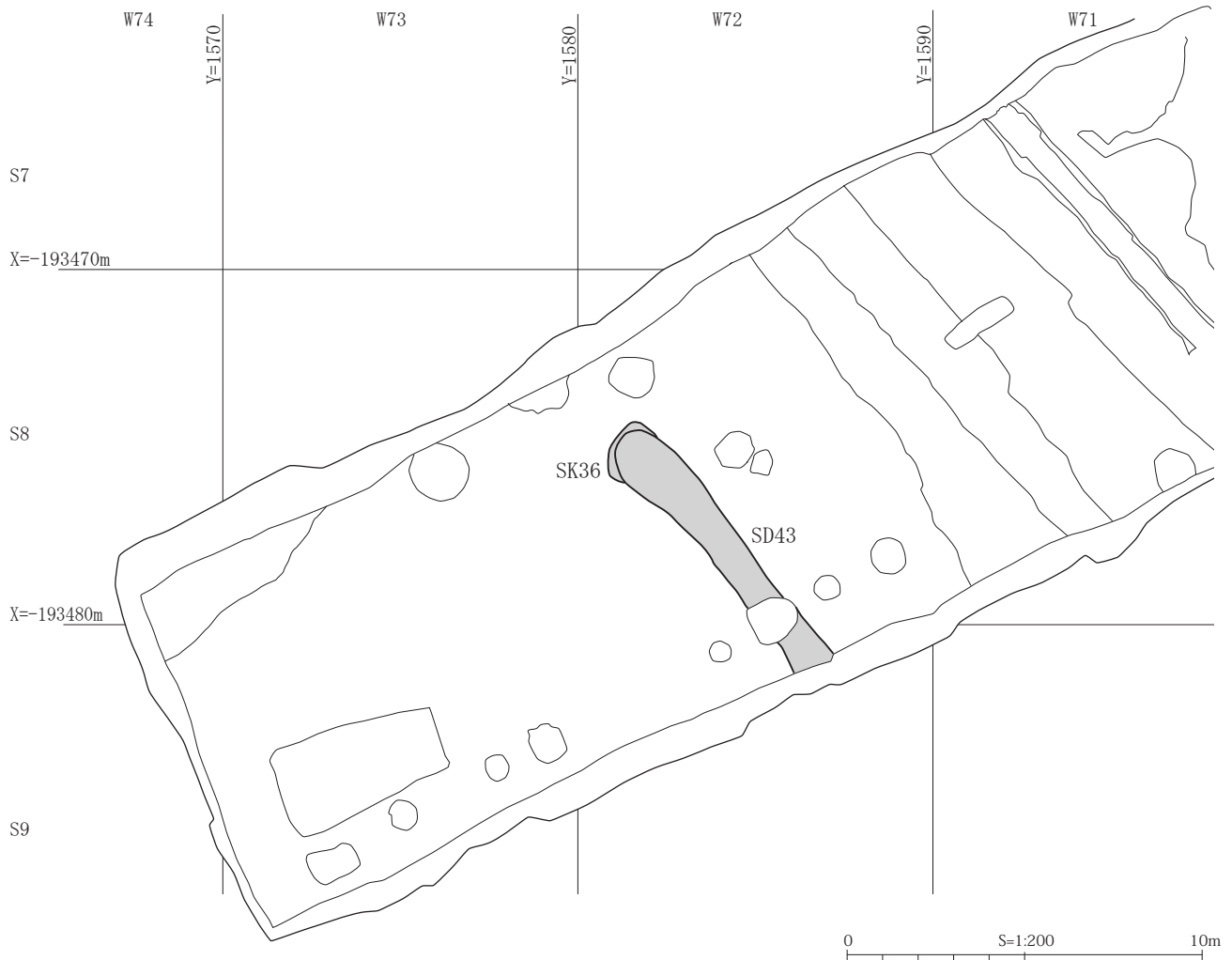
1) SX11・12・13・16・18・21 性格不明遺構 (第34図、図版17-6～18-3)

S8-W72・S9-W73・S9-W74グリッドに位置する。炭化物が平面的に集中する範囲が6箇所確認され、SX11、SX12、SX13、SX16、SX18、SX21として登録した。いずれも掘り込みは伴わない。

平面形はすべて不整形で、規模は長軸65～160cm、短軸60～120cmを測る。SX11、SX12、SX13の炭化物を多量に含む層の下部は、被熱によると思われる暗赤褐色を呈する部分が見られた。

3 IV層上面

IV層上面で検出された遺構は溝跡1条、土坑1基である。IV層は近代以降の整地層で、III層段階の土手状遺構、溝跡、道路跡等の構築以前の状況を示している。



第34図 I区 IV層上面遺構配置図

(1) 溝跡

1) SD43 溝跡 (第35～36図、図版18-4～5)

S8-W72・S9-W72 グリッドに位置する。南北方向に走る素掘りの溝である。北端でSK36を切り、南側を攪乱によって壊される。北端は壁が立ち上がって途切れ、南側は調査区外に延びる。

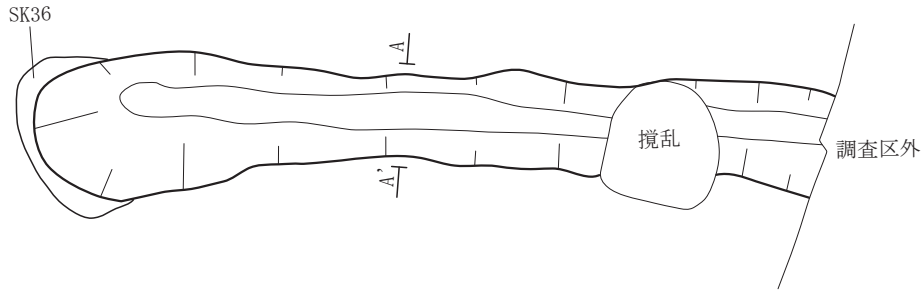
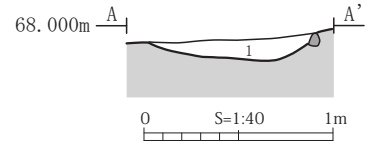
確認された規模は長さ8.4m、幅85～145cm、深さ12cmを測る。断面形は皿状を呈する。主軸方向はN-40°-Wを示す。

堆積土は礫を多量に含む暗褐色～灰白色シルトの単層である。

遺物は18世紀後半～19世紀中頃の陶磁器、金属製品が出土している。

第1節 I区

Y=1383
X=193472



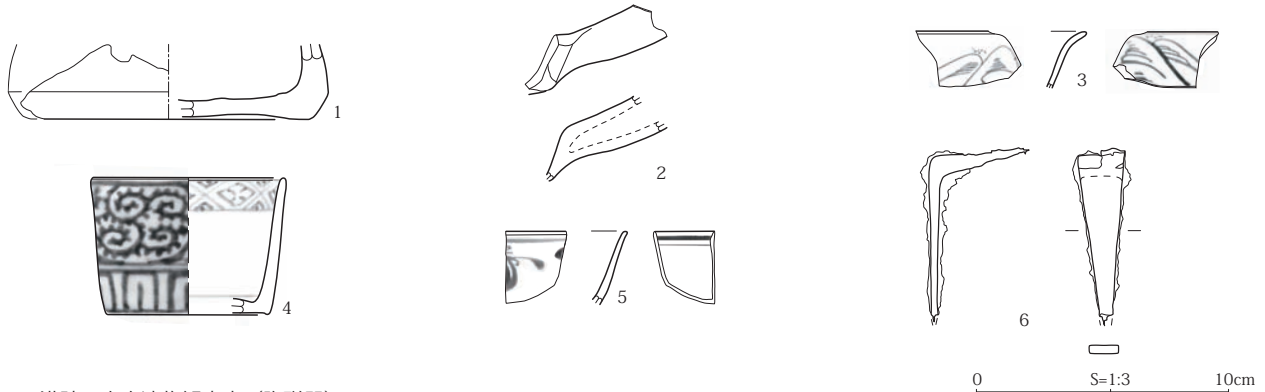
X=193480
Y=1383

0 S=1:80 2m

SD43 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No.	色				
1	10YR3/3	暗褐色	シルト	なし	なし	径 15 cm以下の礫多量、10YR7/1 灰白色シルト多量

第 35 図 SD43 溝跡 平面図・断面図



SD43 溝跡 出土遺物観察表 (陶磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	内面	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
									口径	底径	器高				
36-1	87-11	S8・9-W72	陶器	鉢か小甕	底部	粗	鉄釉	鉄釉	—	(5.6)	(3.0)	堤	19世紀前半		I-30
		SD43 1層													
36-2	87-12	S8・9-W72	陶器	焙烙	把手	粗	鉛釉	鉛釉	—	—	(3.55)	堤	19世紀		I-31
		SD43 1層													
36-3	87-13	S8・9-W72	磁器	端反小碗	口縁~体部	緻密	染付山水文	染付	—	—	(2.1)	肥前	18世紀後半		J-15
		SD43 1層													
36-4	87-14	S8・9-W72	磁器	蕎麦猪口	口縁~底部	緻密	染付蛸唐草文・蓮弁文・四方禪文	染付	(7.6)	(6.4)	(5.5)	肥前	18世紀末~19世紀初		J-16
		SD43 1層													
36-5	87-15	S8・9-W72	磁器	端反碗	口縁~体部	緻密	染付蔓草・圏線	染付	—	—	(2.9)	瀬戸・美濃	19世紀前半~中頃		J-251
		SD43 1層													

SD43 溝跡 出土遺物観察表 (金属製品)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	部位	法量 (cm・g)				備考	登録番号
					長さ	幅	厚さ	重さ		
36-6	87-16	S8・9-W72 SD43 1層	釘	—	(6.9)	1.8	0.35	21.45	一部欠損	N-6

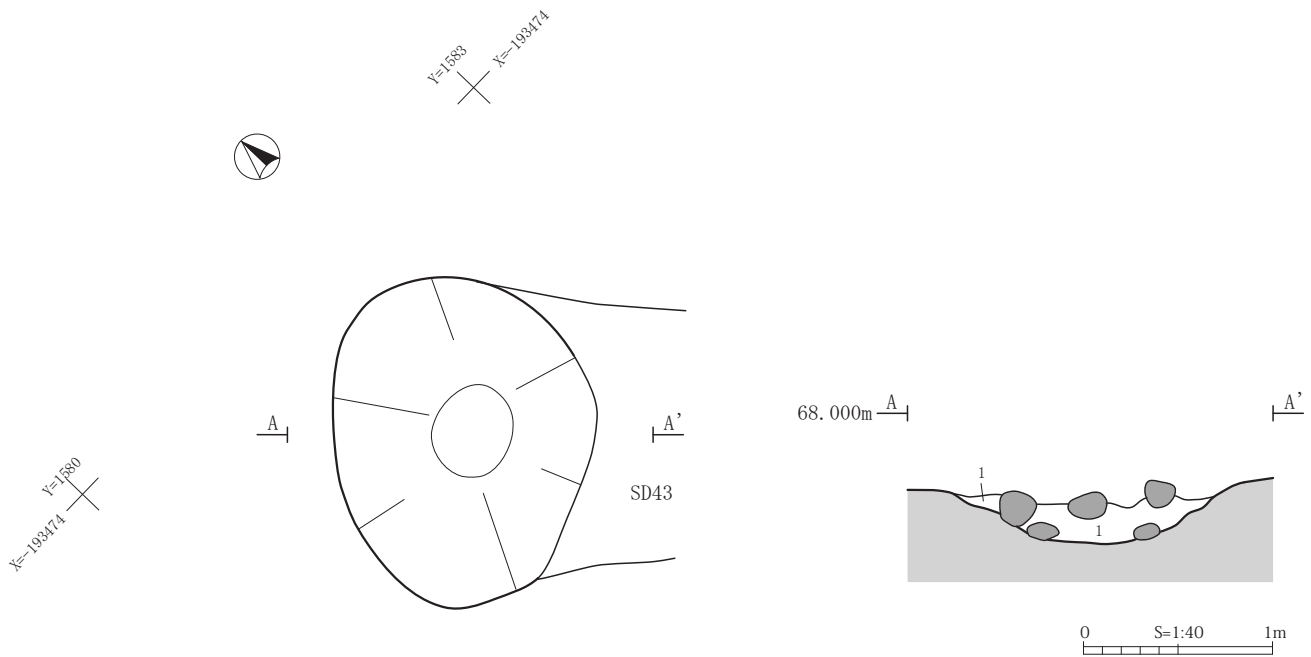
第 36 図 SD43 溝跡 出土遺物

(2) 土坑

1) SK36 土坑 (第 37 図、図版 18-6 ~ 7)

S8-W72 グリッドに位置する。上部は SD43 によって切られる。残存する規模は長軸 1.75m、短軸 1.4m、深さ 30cm を測る。平面形は楕円形を、断面形は開いた U 字形を呈する。堆積土は灰黄褐色粘土質シルトの単層で、径 12 ~ 20cm 礫を多量に含む。

遺物は出土していない。



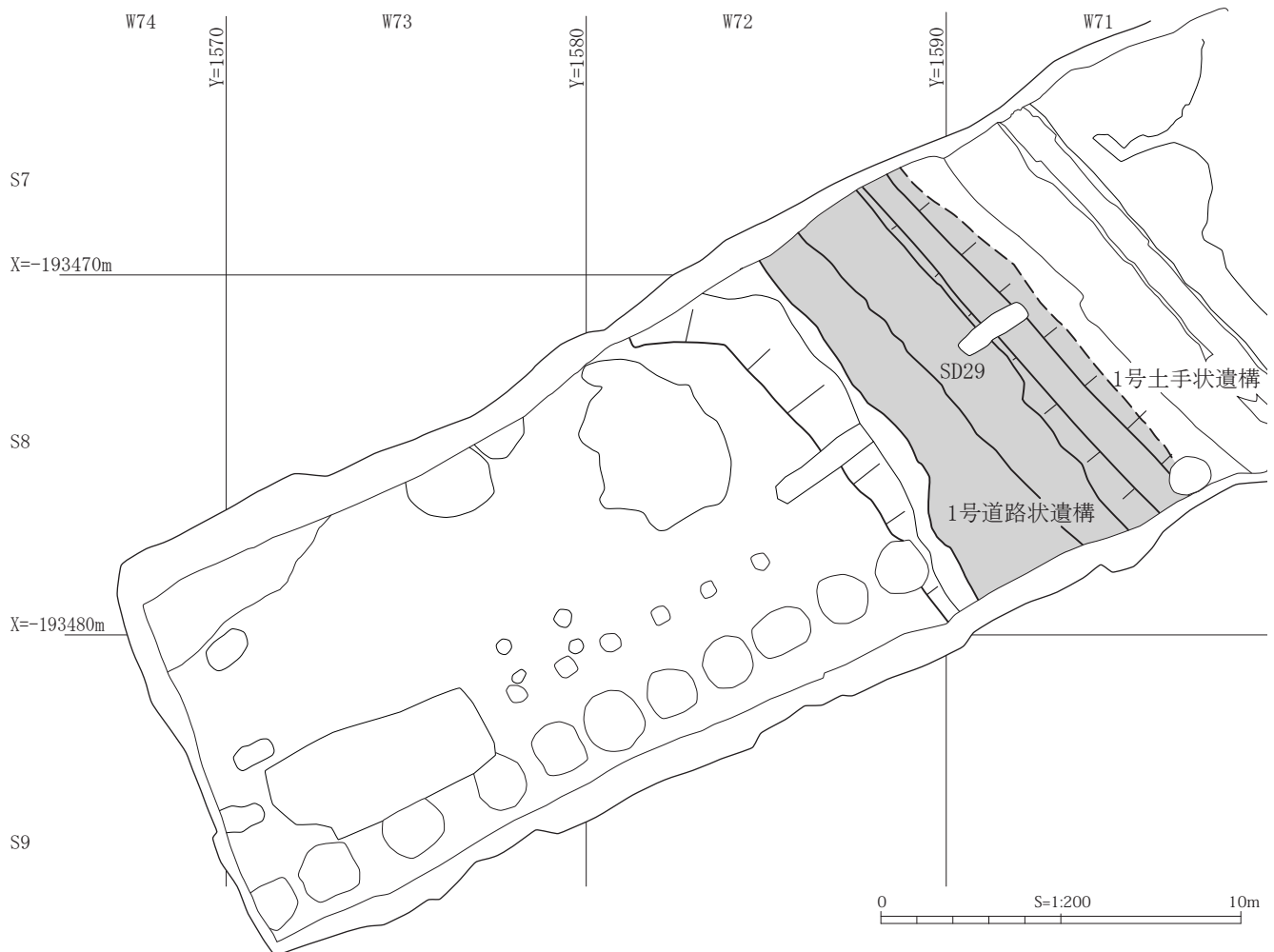
SK36 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No.	色				
1	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	あり	なし	径 12 ~ 20 cm の礫多量

第 37 図 SK36 土坑 平面図・断面図

4 III層上面

III層上面で検出された遺構は溝跡1条、道路状遺構1条、土手状遺構1条である。これらの遺構は、当該期の区画施設と考えられる。また、道路状遺構についてはV層検出の柱列跡と近い方向性を持つことから、近世以前の区画性を踏襲している可能性がある。



第38図 I区 III層上面遺構配置図

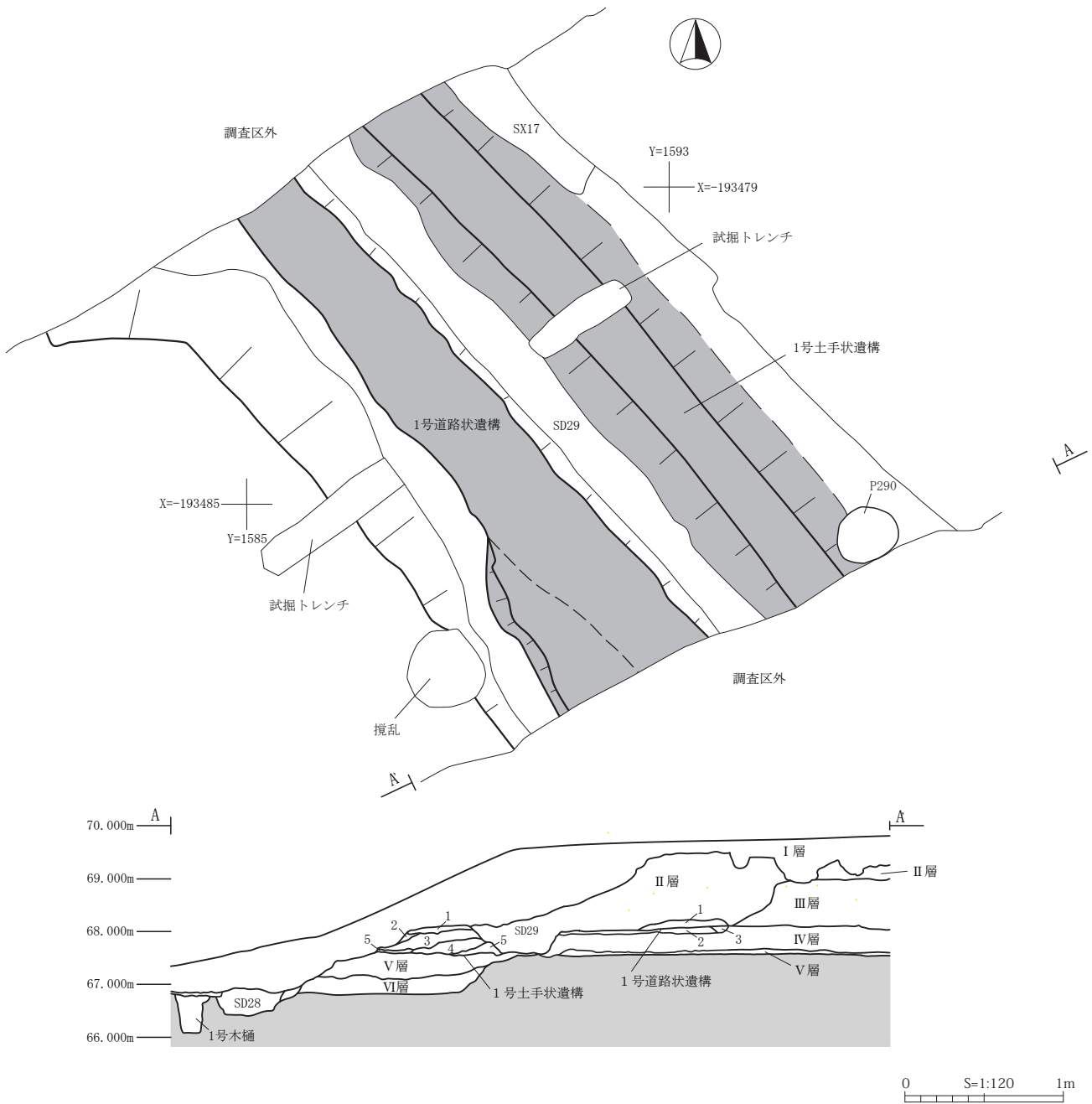
(1) 溝跡

1) SD29 溝跡 (第39～40図、図版19-1～4)

S7～8-W71～72グリッドに位置する。南北方向に直線的に走る素掘りの溝である。1号道路状遺構の東側を平行して走り、南北両側とも調査区外に延びる。

確認された規模は長さ11.2m、幅1.3～2.0m、深さ40cmを測る。断面形は開いたU字形を呈する。主軸方向はN-41°-Wを示す。堆積土は4層からなる。1・2層は灰褐色砂質シルトで礫、炭化物を含む。3・4層はにぶい黄褐色砂質シルトで礫、粗砂を含む。いずれも上層の第二師団による造成土と考えられる。

遺物は17世紀～19世紀前半の陶磁器が出土している。



SD29 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	あり	径 5 cm以下の礫を多量、径 5 mmの炭化物を微量
2	10YR5/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径 10 cm以下の礫多量、径 10 cmの暗黄褐色砂質シルト粒やや多量、粗砂を少量
3	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径 10 cmの礫を微量
4	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	ややあり	なし	粗砂多量、径 20 cm以下の礫を多量

第1節 I区

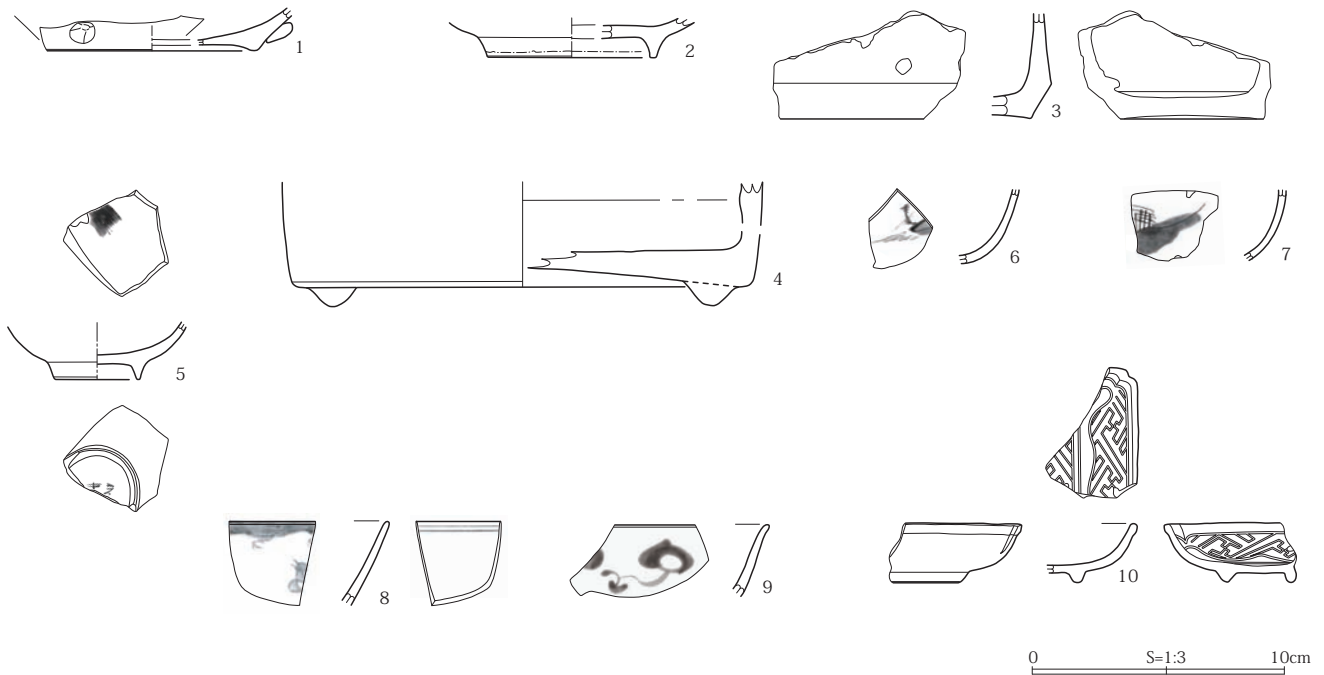
1号道路状遺構 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No	色				
1	10YR5/1	褐灰色	シルト質砂	なし	あり	酸化鉄、径5mmの炭化物やや多量、径10cm以下の礫少量
2	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質砂	なし	あり	酸化鉄、径10cm以下の礫やや多量
3	10YR6/1	褐灰色	シルト質砂	なし	あり	上面に鉄分多量、径5cm以下の礫微量

1号土手状遺構 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No	色				
1	2.5Y6/4	にぶい黄色	砂質シルト	ややあり	あり	径5cm以下の礫少量
2	2.5Y7/6	明黄褐色	砂質シルト	ややあり	あり	径5cm以下の礫少量
3	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	ややあり	あり	径10cmの礫少量、瓦微量
4	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト質砂	なし	あり	径5cmの浅黄橙色砂質シルトブロック少量、径10cmの礫少量
5	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	ややあり	あり	径5mmの炭化物、径5cmの礫を微量

第39図 SD29 溝跡・1号道路状遺構・1号土手状遺構 平面図・断面図



SD29 溝跡 出土遺物観察表 (陶磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
40-1	87-25	S7・8-W71・72 SD29 4層	陶器	土瓶	底部	密	灰釉か白濁釉	—	(8.4)	(1.4)	大堀相馬	18世紀～19世紀		I-22
40-2	87-23	S7・8-W71・72 SD29 4層	磁器	輪花皿	底部	緻密	青磁	—	6.3	(1.5)	肥前	17世紀代		I-23
40-3	87-24	S7・8-W71・72 SD29 4層	陶器	糞か鉢	体部～底部	粗	鉄釉	—	—	(4.3)	堤	19世紀前半		I-24
40-4	87-26	S7・8-W71・72 SD29 3層	瓦質土器	火鉢	体部～底部	粗	—	—	18.8	(4.4)	在地	近世		I-209
40-5	87-17	S7・8-W71・72 SD29 3層	磁器	碗	体部～底部	緻密	青磁染付	—	(3.4)	(2.3)	肥前	18世紀?	銘あり	J-7
40-6	87-21	S7・8-W71・72 SD29 3層	磁器	碗	体部	緻密	染付風景文	—	—	(3.0)	肥前	18世紀?		J-8
40-7	87-18	S7・8-W71・72 SD29 3層	磁器	瓶か	体部	緻密	染付山水文	—	—	(2.7)	肥前	18世紀		J-9
40-8	87-20	S7・8-W71・72 SD29 3層	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付鳥文	—	—	(3.3)	肥前	17世紀～18世紀		J-10
40-9	87-19	S7・8-W71・72 SD29 4層	磁器	端反碗	口縁～体部	緻密	染付草花文	—	—	(2.9)	瀬戸・美濃	19世紀前半	口錆	J-11
40-10	87-22	S7・8-W71・72 SD29 4層	磁器	角小皿	口縁～底部	緻密	白磁型押紗綾文	—	—	2.4	切込?	19世紀前半		J-12

第40図 SD29 溝跡 出土遺物

(2) その他の遺構

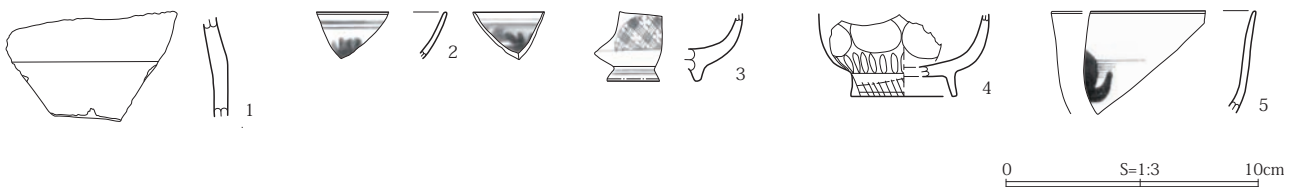
1) 1号道路状遺構 (第39・41図、図版19-1)

S7～8・W71～72グリッドに位置する。調査区内を南北方向に走る硬化面を検出し、道路状遺構として登録した。東側には当該遺構の側溝と推定されるSD29が平行して走り、南北両側とも調査区外へ延びる。

確認された規模は長さ9.9m、幅1.5～3.2mを測る。調査区北壁際が最も狭く、中央南寄りから徐々に西側に広がり、調査区南壁際で最大幅となる。南西部分には盛りあがりが見られ、調査区南壁で幅1.7mの硬化面がもう一面あるのが確認された。中央から北側にかけては検出されなかったことから、部分的な補修の可能性が考えられる。硬化面は、北方向へ緩かに下り傾斜している。西側には側溝はなく、道路の境界を示すような施設も検出されなかった。主軸方向はN-41°-Wを示す。

構築土は3層からなり、いずれも硬化している。1層は褐灰色のシルト質砂で補修跡の可能性はある。2・3層はにぶい黄褐色・褐灰色のシルト質砂で硬化面を構築している。

遺物は17世紀～19世紀中頃の陶磁器等が硬化面上から出土している。



1号道路状遺構 出土遺物観察表 (陶磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
41-1	88-1	S7・8-W71・72 道路1 1層	陶器	壺か徳利	体部	密	鉄釉	—	—	(4.1)	瀬戸・美濃	17世紀～18世紀		I-96
41-2	88-2	S7・8-W71・72 道路1 1層	磁器	皿?	口縁	緻密	染付花文	—	—	(1.9)	肥前	不明		J-67
41-3	88-3	S7・8-W71・72 道路1 1層	磁器	碗	体部～底部	緻密	染付丸に花菱文	—	—	(2.8)	肥前	不明		J-68
41-4	88-5	S7・8-W71・72 道路1 1層	磁器	小鉢	体部～底部	緻密	白磁型押し面作り	—	(4.2)	(3.3)	肥前	19世紀中頃～幕末・明治	丸のみによる調整痕	J-69
41-5	88-4	S7・8-W71・72 道路1 1層	磁器	端反碗	口縁～体部	緻密	染付	8.6	—	(2.7)	瀬戸・美濃	近代以降		J-129

第41図 1号道路状遺構 出土遺物

2) 1号土手状遺構 (第39・42図、図版19-1)

S7～8-W71～72グリッドに位置する。調査区内を南北方向に走る盛土を検出し、土手状遺構として登録した。北東側をSX17によって切られ、南北両側とも調査区外に延びる。当該遺構の西側法面は、東側を平行して走るSD29の東壁を兼ねている。また東側法面はそのままやや急傾斜しながら下り、比高差約1.3mの段差を作る。頂部は1号道路状遺構の硬化面より約10cm高い。

確認された規模は長さ12.2m、基底部幅2～2.6m、高さ60cm、頂部幅90～120cmを測る。主軸方向はN-41°-Wを示す。構築土は5層からなり、1層は礫を少量含むにぶい黄色砂質シルト、2層は礫を少量含む明黄褐色砂質シルト、3層は礫を少量、瓦微量含むにぶい黄褐色砂質シルト、4層は浅黄褐色砂質シルトブロック、礫を含むにぶい黄褐色シルト質砂、5層は炭化物、礫を微量含む明褐色砂質シルトである。

遺物は17世紀中頃～19世紀の陶磁器が構築土中から出土している。



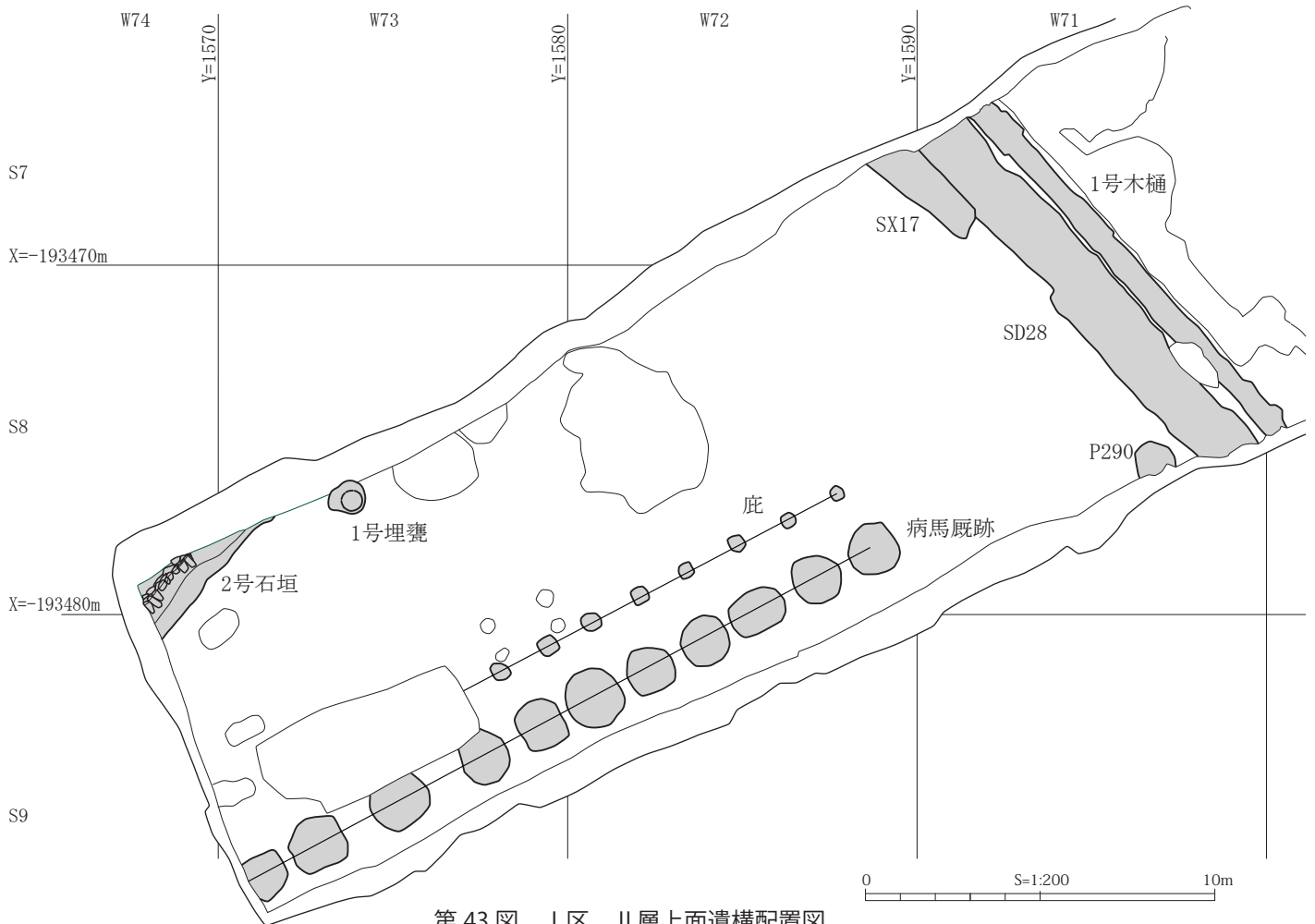
1号土手状遺構 出土遺物観察表 (陶磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
42-1	88-6	S7・8-W71・72 土手1 4層	陶器	香炉	底部	緻密	灰釉	—	(5.2)	(1.55)	大堀相馬	18世紀代		I-94
42-2	88-7	S7・8-W71・72 土手1 4層	磁器	瓶類	頸部	緻密	染付宝珠文	—	—	(4.2)	肥前	近世		J-80
42-3	88-8	S7・8-W71・72 土手1 4層	磁器	爛徳利	頸部	緻密	染付蓮弁文	—	—	(3.3)	地方窯	19世紀中～後半 (幕末・明治)		J-81
42-4	88-9	S7・8-W71・72 土手1 4層	磁器	壺	体部	緻密	染付草花文	—	—	(2.1)	肥前	17世紀中頃?		J-82

第42図 1号土手状遺構 出土遺物

5 II層上面

II層上面で検出された遺構は溝跡1条、近代建物跡1棟、ピット1基、石垣1基、埋甕1基、性格不明遺構1基、木樋1条の計7基である。これらは、第二師団に関わる遺構と考えられる。建物跡は「仙台師管区経理部『各部隊配置図・国有財産台帳附図』」において「病馬厩」と記載されている建物に比定される。



第43図 I区 II層上面遺構配置図

(1) 溝跡

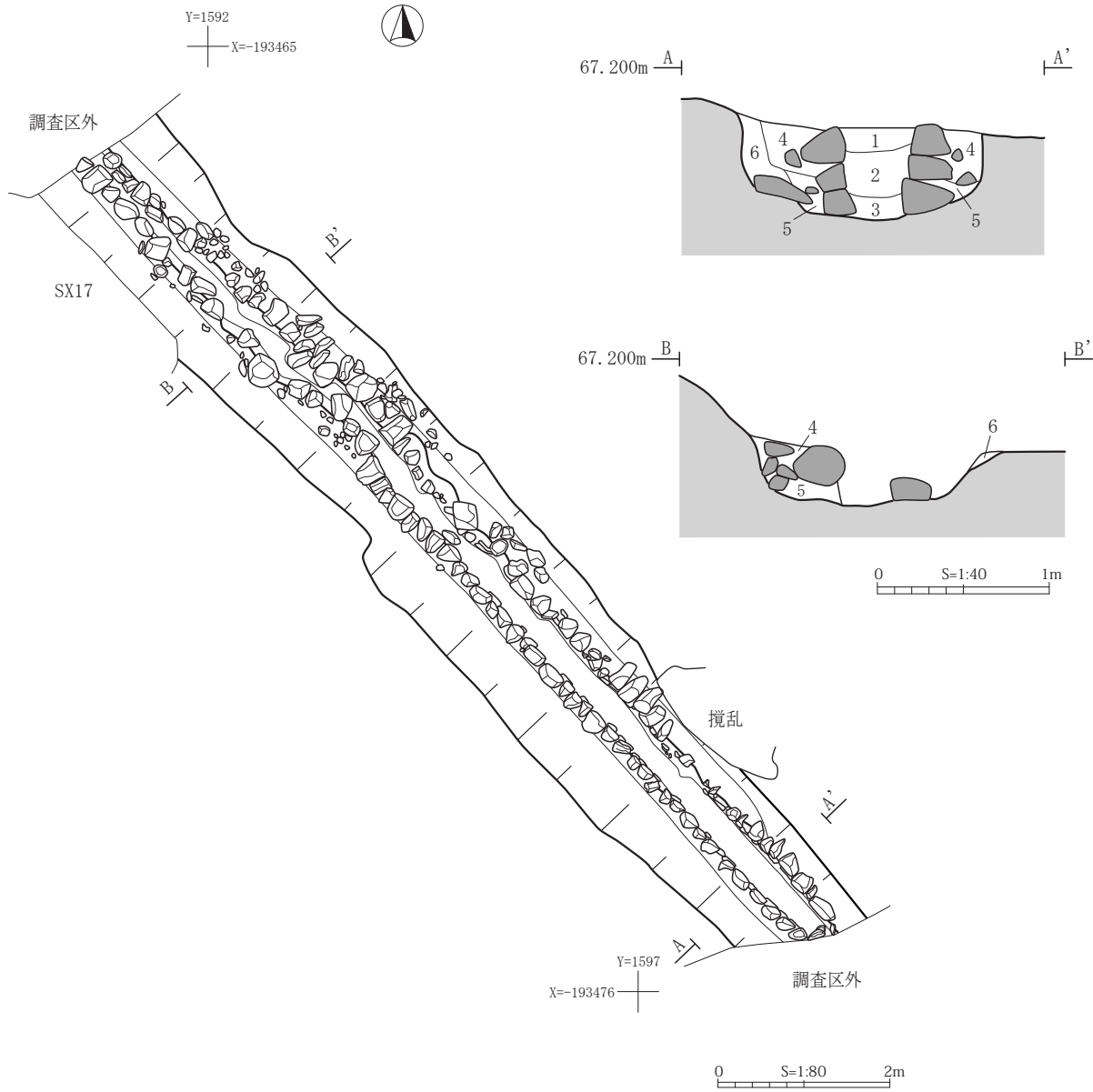
1) SD28 溝跡 (第44図、図版20-1～3)

S7～8-W71 グリッドに位置する。南北方向に走る石組溝である。南東側を攪乱によって壊され、北西端をSX17によって切られる。南北両側とも調査区外へ延びる。確認された規模は長さ12.4m、側石と側石の内幅は25～36cm、掘り方の幅は1.45～1.75m、深さ50cmを測る。側石は30～40cmの端部を打ち欠いた川原石を並べ、平坦にした面を向き合わせている。南側から中央にかけては遺存状態が良く、ほぼ垂直に三段積んでいるが、中央では二段、北側では一段のみとなり、両側の側石ともに崩落している部分もある。石列は乱れて蛇行し、側石の間隔を狭めながら調査区外へ延びる。底面は素掘りのままで石敷きなどは施されていない。掘り方の断面形は開いたU字形を呈する。主軸方向はN-43°-Wを示す。堆積土は6層からなり、1～3層は溝内堆積土で褐灰色の砂質シルト～シルト質粘土である。4～6層は裏込め・掘り方埋土で、黒褐色、黄灰色、灰黄褐色の砂質シルト

第1節 I区

である。裏込めには 10cm の自然礫や割り石が多量に使用される部分がある。

遺物は近現代陶磁器、ガラス片、模擬手榴弾等が出土しているが図化は行わなかった。



SD28 溝跡 土層注記表

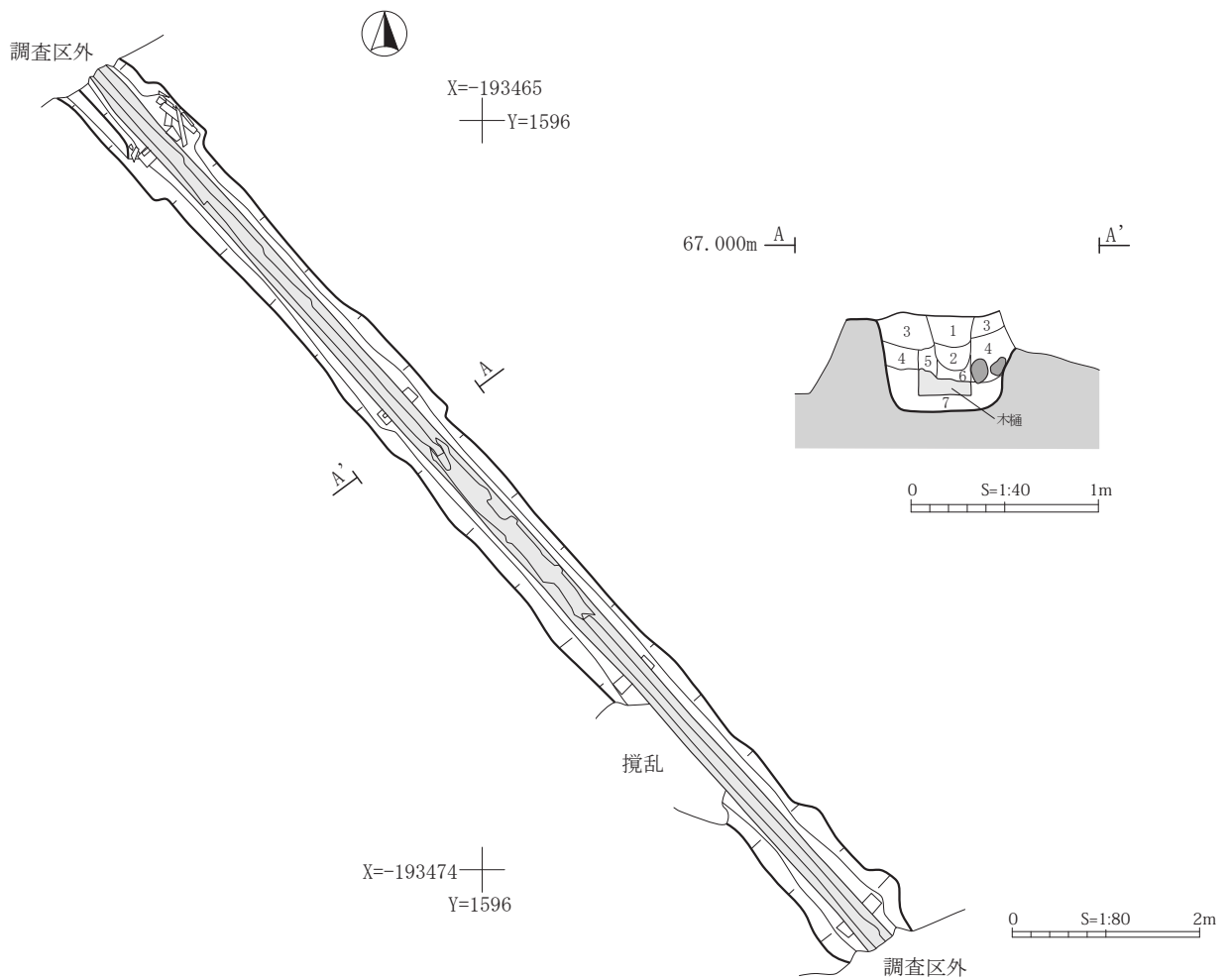
層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	Na	色				
1	10YR6/1	褐灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径 1 cm の炭化物、ガラス片少量
2	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	あり	なし	模擬手榴弾、ガラス片、東北大の湯飲み茶碗等出土
3	10YR4/1	褐灰色	シルト質粘土	ややあり	なし	ガラス片、陶磁器片少量
4	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	あり	なし	径 10 cm の礫やや多量、径 5 mm の炭化物少量
5	2.5Y5/1	黄灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	ガラス片混入、径 5 mm 以下の炭化物少量
6	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	ガラス片混入

第 44 図 SD28 溝跡 平面図・断面図

(2) その他の遺構

1) 1号木樋 (第45～47図、図版20-4～6)

S7～8-W70～71グリッドに位置する。南北方向に直線的に走る木樋である。南西側は攪乱によって掘り方が壊される。埋設された木樋は5本接続するのが確認され、北端と南端では調査区外へ延びる。1本の長さは約4mで、幅29cmの角材に幅10cmの溝を切る。底の厚みは7cmで、上部ほど腐食が進んでいる。高さは最大で10cmを測る。蓋板はさらに遺存状態が悪く、幅や厚みは不明である。また1本の材を身と蓋に分けて合わせていたかも不明であるが、刳り貫き式で作られた可能性が高いと思われる。蓋板には長さ11.3～12.8cm、厚さ5～



1号木樋 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR6/5	黄褐色	砂質シルト	なし	あり	径5cm以下の礫を少量、径2cm以下の暗褐色粘土質シルトやや多量
2	2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	あり	なし	径3cm以下の礫を多量
3	10YR4/1	褐灰色	シルト質粘土	あり	なし	径5mmの炭化物を微量
4	10YR5/1	褐灰色	砂質シルト	あり	あり	径10cmの礫を多量
5	5G6/1	緑灰色	シルト質砂	なし	あり	径20cmの礫を多量
6	5G5/1	緑灰色	砂質シルト	ややあり	あり	木樋痕
7	10YR4/1	褐灰色	粘土	あり	なし	径3cm以下の礫少量

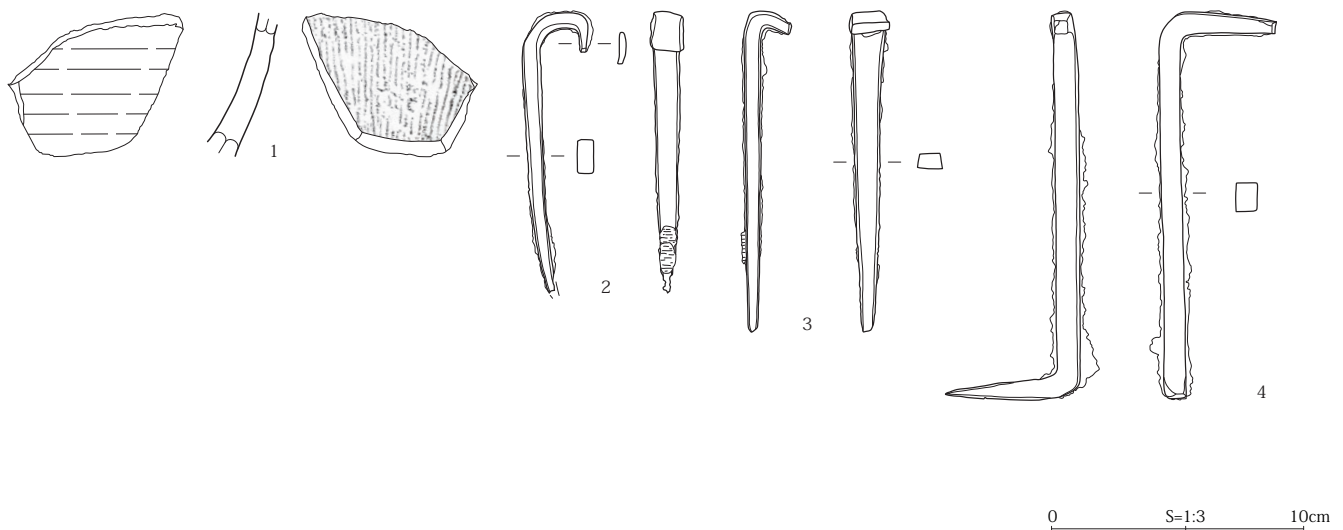
第45図 1号木樋 平面図・断面図

第1節 I区

6.5mmの頭部を曲げた舟釘が遺存し、22cm前後の間隔で平行に蓋板が留められていたことがわかる。頭部付近に棕櫚しゅろと思われる繊維が付着しているものも確認された。釘穴を開けた痕跡は見られない。木樋の接続は枅や継手などは介しておらず、一方の端部を中央部分が細長く突き出るように加工し、もう一方の端部に切ったホゾに組み合わせている。接続部の下部には高さを調節するためか、または沈降を防ぐためと考えられる枕木状の角材が置かれ、木樋の側面と角材とを手違い状に加工した鋸で固定している。木樋と角材の間から木製の楔が2箇所で見出された。木樋を水平に置くためであろうか。木樋の主軸方向はN-42°-Wを示す。

掘り方の規模は長さ12.6m、幅60～80cm、深さ70cmを測る。底面はほぼ平坦で、断面形はU字形を呈する。堆積土は7層からなる。1・2層は礫を含む黄褐色砂質シルトで、木樋が腐食し、上位層が崩落したものと思われる。3層は木樋内の堆積土である。4層は木樋が腐食し、わずかに木質が残る。5層以下は掘り方の埋土である。緑灰色にグライ化している部分も見られるが、全体的には褐灰色を呈する。礫を少～多量に含む。

遺物は18世紀代の陶器、金属製品、木樋等が出土している。



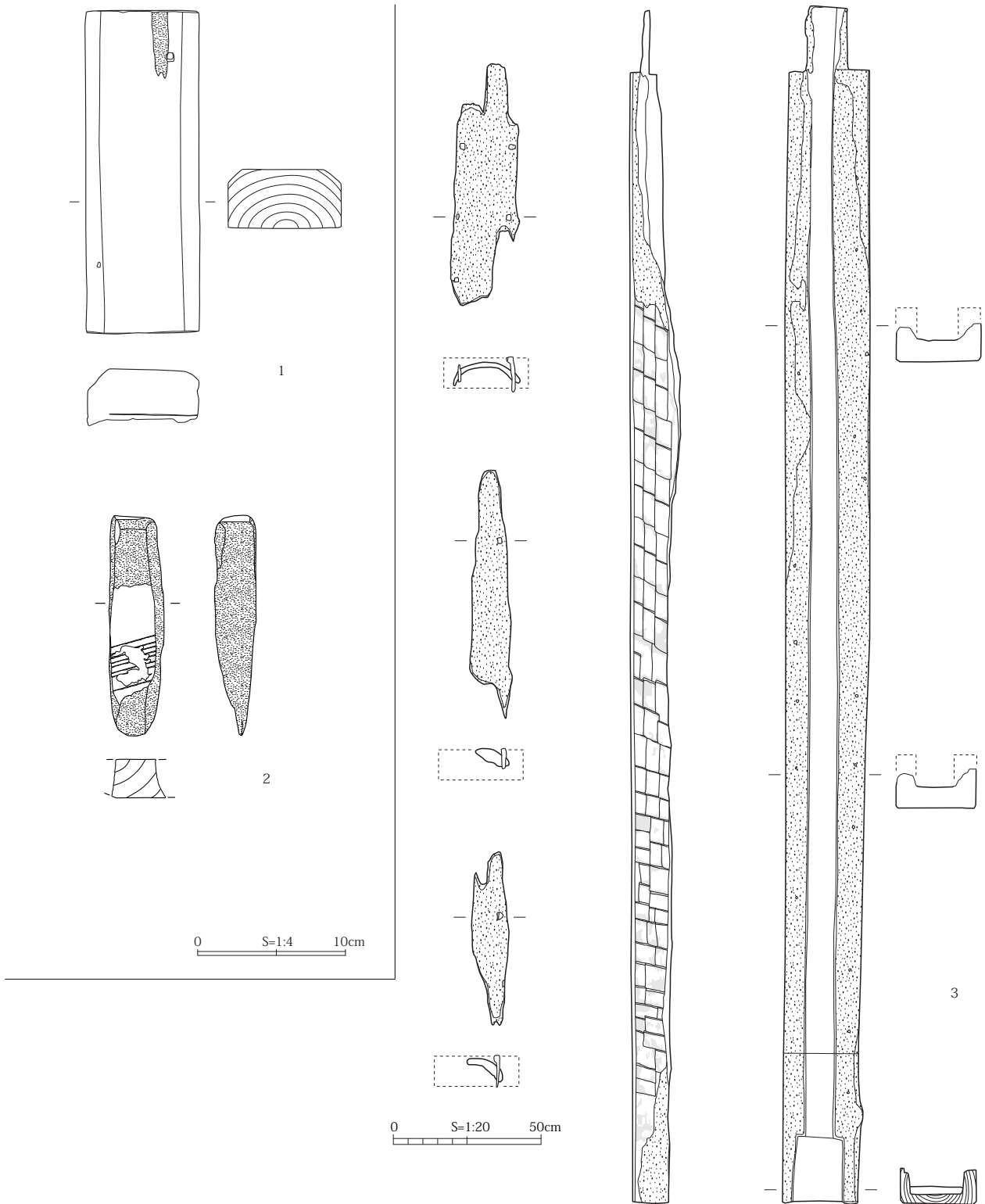
1号木樋 出土遺物観察表 (陶器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
46-1	88-10	S7・8-W70・71 1号木樋 6層	陶器	播鉢	体部	やや粗	鉄釉	—	—	(5.2)	不明	18世紀代?		I-32

1号木樋 出土遺物観察表 (金属製品)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	部位	法量 (cm・g)				備考	登録番号
					長さ	幅	厚さ	重さ		
46-2	88-11	S7・8-W70・71 1号木樋 4層	釘	完形	11.3	1.3	0.65	42.3	舟釘	N-7
46-3	88-12	S7・8-W70・71 1号木樋 4層	釘	完形	12.8	1.6	0.6	48.87	舟釘	N-8
46-4	88-13	S7・8CW70・71 1号木樋	鋸	完形	15.3	0.9	1	97.09	手違い鋸	N-9

第46図 1号木樋 出土遺物



1号木樋 出土遺物観察表（木製品）

図版番号	写真図版 番号	グリッド 遺構・層位	種類	部位	法量 (cm)			備考	登録番号
					長さ	幅	厚さ		
47-1	88-14	S7・8-W70・71 1号木樋	木樋台	完形	43	15.6	8		L-39
47-2	88-15	S7・8-W70・71 1号木樋	楔	完形	30	7.6	(5.2)	欠損大、一部鋸痕	L-40
47-3	88-16	S7・8CW70・71 1号木樋	木樋	—	440	19	14	蓋は鉄釘留め、割り貫き式	L-41

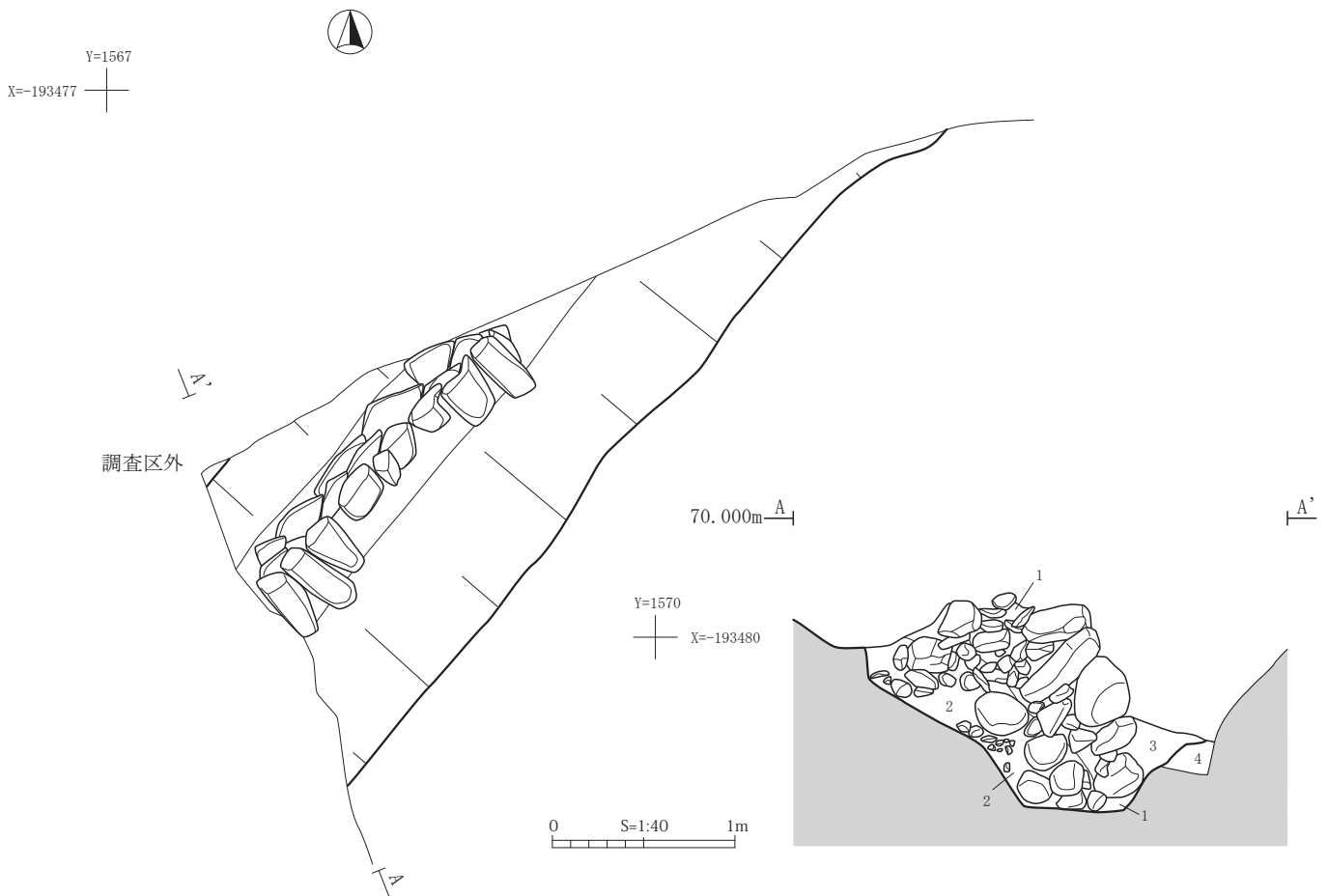
第47図 1号木樋 出土遺物

第1節 I区

2) 2号石垣 (第48～49図、図版21-1～3)

S 8～9-W73～74 グリッドに位置する。調査区北西隅で攪乱を除去している際に、端部を打ち欠いた川原石が積まれているのが確認され、石垣として登録した。南北両側ともに調査区外へ延びる。

確認された規模は石積みの長さ2m、高さ1.1m、掘り方の長さ4.8m、幅1.65m深さ90cmを測る。石積みの主軸方向はN-41°-Eを示し、勾配は調査区西壁で約71°を測る。加工された川原石は細長の40cm前後のものが多く、平坦面を石垣の表面にして北西方向に向ける。基底部に並べた根石は上段のものと比較し、ややおおぶりで、斜めに積み上げる乱積みである。最も多いところでは5段積まれているのが確認された。石材の表面形は楕円形が主で隙間が生じているが、詰石などは施されていない。裏込めには10cm前後の円礫が多量に、また径22～30cmの川原石や、加工の際に生じたと思われる剥片もやや多く使用されている。石垣背面の隙間にはこの剥片が充填されており、石材の安定や角度の調整を目的にしたものと考えられる。



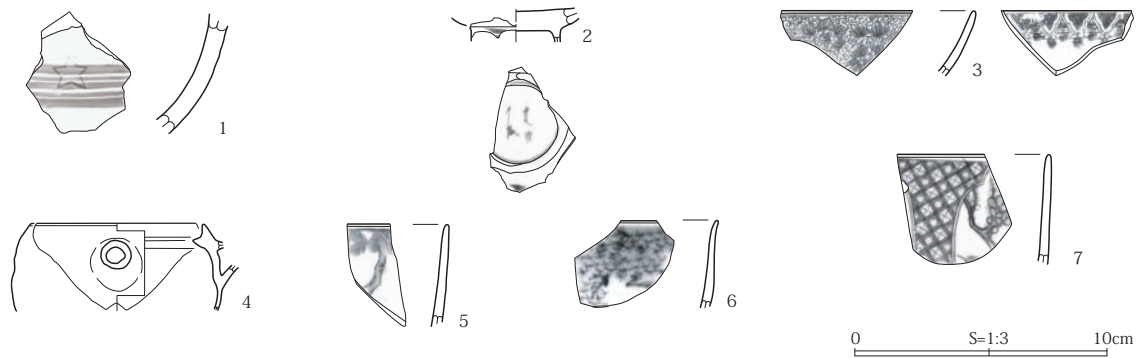
2号石垣 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No.	色				
1	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	ややなし	ややなし	炭化物、ガラス片をやや多量
2	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややなし	ややなし	径10cmの礫多量 炭化物、ガラス片、鉄片やや多量
3	2.5Y6/4	にぶい黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径5cmの礫微量

第48図 2号石垣 平面図・断面図

構築土は3層からなる。1・2層は石垣裏込めの構築土で、黒褐色・灰黄褐色の砂質シルトで炭化物、ガラス片、礫を含む。3層は石垣前面の掘り方埋土で、にぶい黄褐色砂質シルトで礫を微量含む。4層は石垣前庭部の整地層である。

遺物は17世紀後半～19世紀後半の陶磁器等が裏込めより出土している。



2号石垣 出土遺物観察表（陶磁器）

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
49-1	89-1	S8・9-W73・74 石垣2 2層	陶器	碗か鉢	体部	蜜	刷毛目文	—	—	(4.8)	不明	19世紀後半	「☆」刻印	I-93
49-2	89-2	S8・9-W73・74 石垣2 2層	磁器	碗	底部	緻密	染付	—	3.6	(1.2)	肥前?	17世紀か18世紀	「大明年製」 銘	J-74
49-3	89-3	S8・9-W73・74 石垣2 2層	磁器	碗	口縁～体部	緻密	銅版転写	—	—	(2.65)	瀬戸・美濃	19世紀後半		J-75
49-4	89-4	S8・9-W73・74 石垣2 2層	磁器	急須	口縁～体部	緻密		(6.9)	—	(3.5)	大堀相馬	19世紀中頃～ 後半		J-78
49-5	89-5	S8・9-W73・74 石垣2 2層	磁器	筒か碗	口縁～体部	緻密	銅版転写	—	—	(4.1)	瀬戸・美濃	19世紀後半		J-76
49-6	89-6	S8・9-W73・74 石垣2 2層	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付	—	—	(3.5)	不明	不明	漆継による 補修痕	J-77
49-7	89-7	S8・9-W73・74 石垣2 2層	磁器	筒茶碗	口縁～体部	緻密	銅版転写	—	—	(4.4)	産地?	19世紀後半代		J-79

第49図 2号石垣 出土遺物

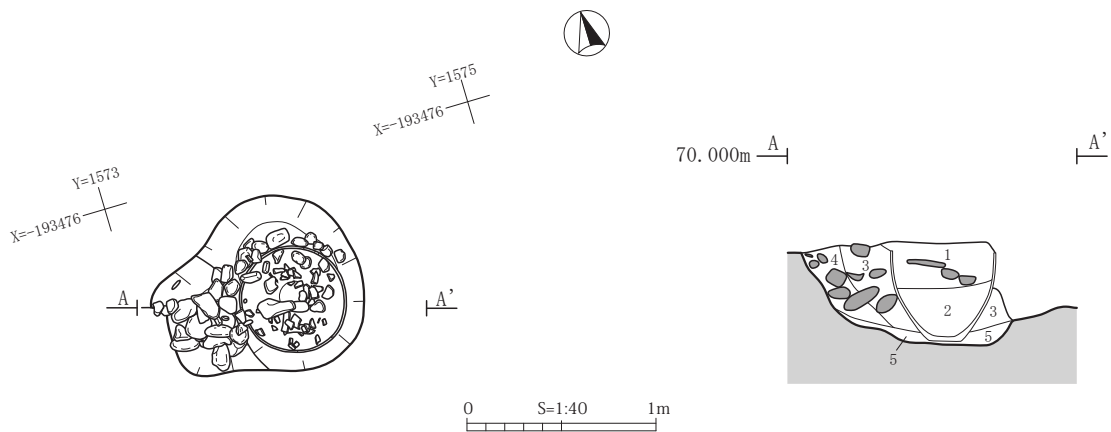
3) 1号埋甕 (第50～51図、図版21-4～5)

S8-W73グリッドに位置する。調査区北壁にかかる樹根下部の、第二師団による盛土を掘り下げている際に甕が出土し、1号埋甕として登録した。掘り方は第二師団の盛土を掘り込んで作られているため、東壁から南壁を壊してしまった。

残存する掘り方の規模は東西2.15m、南北1.9m、深さ1mを測る。平面形は西側が張り出すだるま状の不整楕円形を呈するものと思われ、断面形は開いたU字形が推定される。甕は正立した状態で置かれ、径5～10cmの円礫を甕の周りに充填して固定したものと思われる。甕の上部は大きく破壊を受け、口縁部から胴上半部にかけての大半が、甕の内側に落ち込んでいる。胴中央部には直径約2cmの孔が穿たれている。甕の堆積土からは他に、ガラス片と鉄材がそれぞれ2点と、長さ10cm、幅7cm、厚み2cmの木片が1点出土している。また樹根と甕の間層からは近代の瓦が多量に出土している。

堆積土は5層からなる。1・2層は甕内堆積土、3～5層は掘り方埋土である。埋甕の上部にある樹根は調査前年(2005年)に伐採したもので、東北大学植物園の大山幹成氏に年輪の計測をしていただいたところ、72年の樹齢があたえられている。

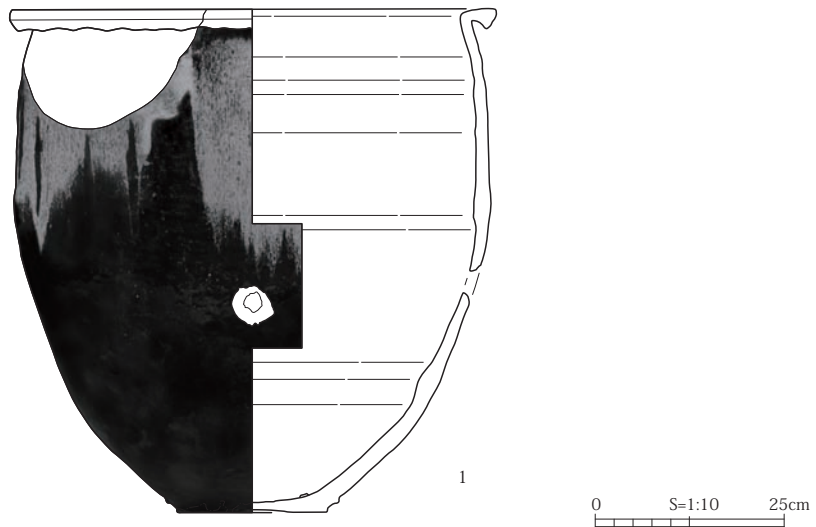
出土した甕は堤産の大甕で、19世紀中頃以降のものと考えられる。



1号埋甕 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No	色				
1	10YR4/4	褐色	砂質シルト	なし	あり	径5cm以下の礫やや多量、径10cmの礫少量
2	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	あり	径5cm以下の礫と径10cmの礫少量
3	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	なし	径3cmの礫やや多量、径10cmの礫少量、炭化物やや多量
4	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	なし	径10cmの礫少量 板材、ガラス片
5	5Y4/1	灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径3cm以下の礫を少量

第50図 1号埋甕 平面図・断面図



1号埋甕 出土遺物観察表 (陶器)

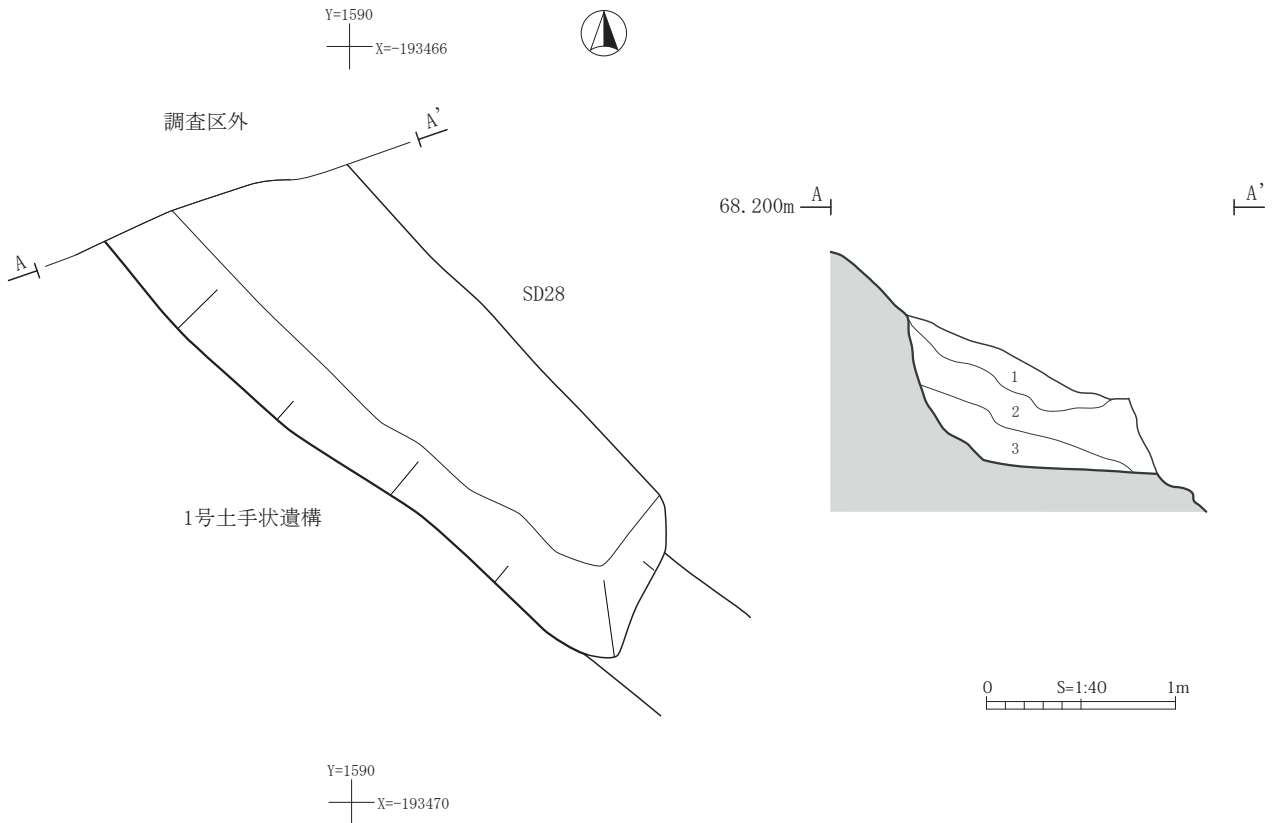
図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
51-1	89-8	S8-W73 1号埋甕	陶器	甕	口縁～底部	やや粗	海鼠釉	64.4	20.3	66.5	堤	19世紀	胴部穿孔	I-263

第51図 1号埋甕 出土遺物

4) SX17 性格不明遺構 (第 52 図、図版 21-6 ~ 7)

S7-W71・S7-W72 グリッドに位置する。西側で1号土手状遺構を切り、東側はSD28に切られる。北側は調査区外へ延びる。確認された規模は南北3.1m、東西1.15m、深さ75cmを測る。平面形は方形または台形状が推定され、断面形は開いたU字形状を呈するものと思われる。堆積土は3層からなる。オリーブ褐色、黒褐色、暗褐色の砂質シルトでいずれも礫を多量に含む。

遺物は出土していない。



SX17 性格不明遺構 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No	色				
1	10YR4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	ややあり	なし	径10~15cmの礫多量
2	10 Y R 3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	なし	径10cmの礫多量
3	10YR4/4	暗褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径5~10cmの礫多量

第 52 図 SX17 性格不明遺構 平面図・断面図

第1節 I区

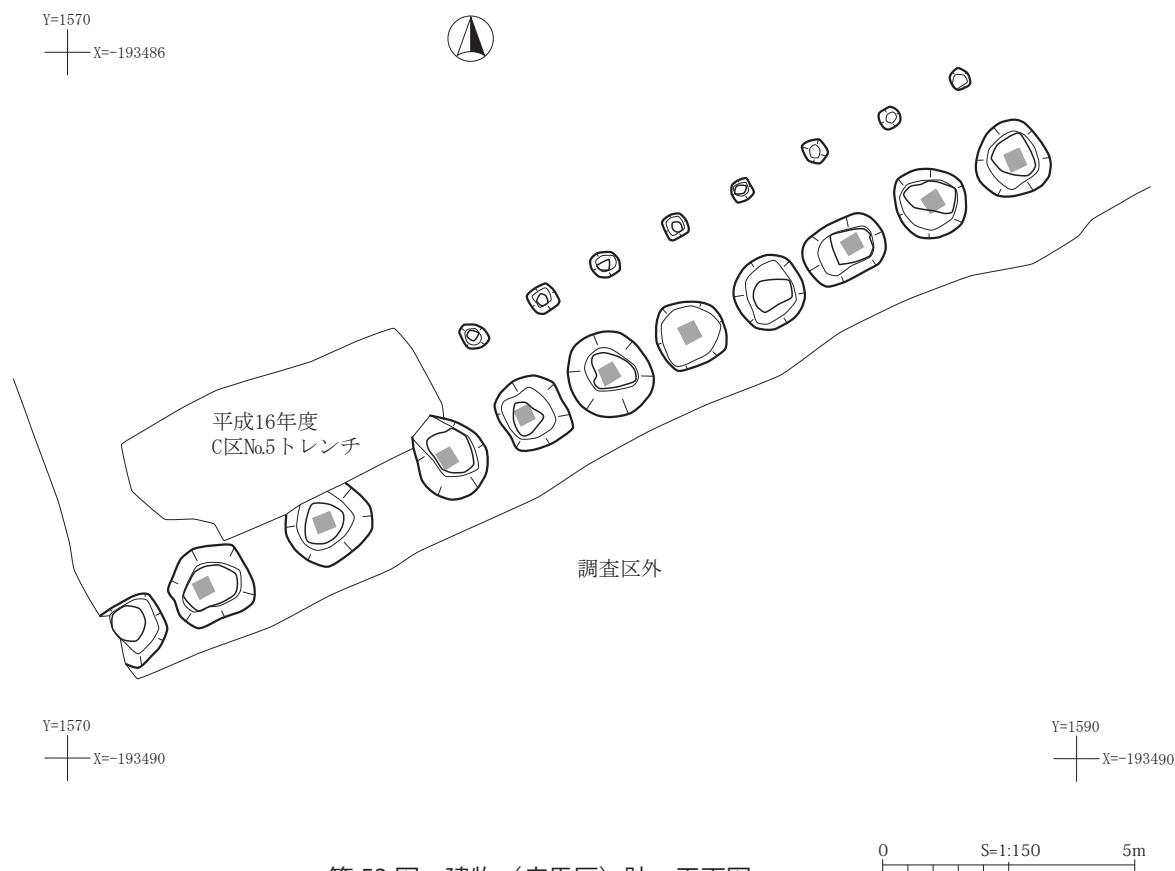
5) 建物（病馬厩）跡（第53図、図版21-8）

S 8-72・S 9- W 72・S 9- W 7グリッドに位置する。東西方向に並ぶ11基の竪穴と、それと並行する8基の柱穴からなる。確認された長さは20mを測る。竪穴の平面形は不整形が多く、楕円形を呈するものもある。断面形はおおむねU字形を呈する。

確認された基礎の規模は平面の径1.35～1.6m、深さは85cmを測る。竪穴の底面には68～113cmの川原石を礎板石として置き、その上に一辺が31.5～37.5cm、長さ65cmを測る直方体の軟質凝灰岩を直立させる。これは直接建物の柱を乗せるためのものではなく、さらにその上に同規模の直方体の硬質石材を横にして並べ、建物の基礎としたことが2007年度の仙台城跡（亀岡トンネル立坑部）の調査で確認されている。直立させた直方体の間隔は1.763m（5尺8寸）を中心に、1.763m（5尺8寸）～2.74m（9尺）を測る。

北側には庇跡と考えられる柱穴列が確認された。掘り方の平面形は不整形または方形を、断面形は開いたU字形を呈す。西側の5基には19.5～25.5cmの川原石が礎板石として置かれている。確認された長さは10.9mで、柱間寸法は1.65m（5尺4寸）を中心に、1.425m（4尺7寸）～1.65m（5尺4寸）を測る。主軸方向はN-62°-Eを示す。

当該遺構は近代建物の基礎と考えられ、遺存する図面、航空写真などから第二師団当時の病馬厩に相当する。



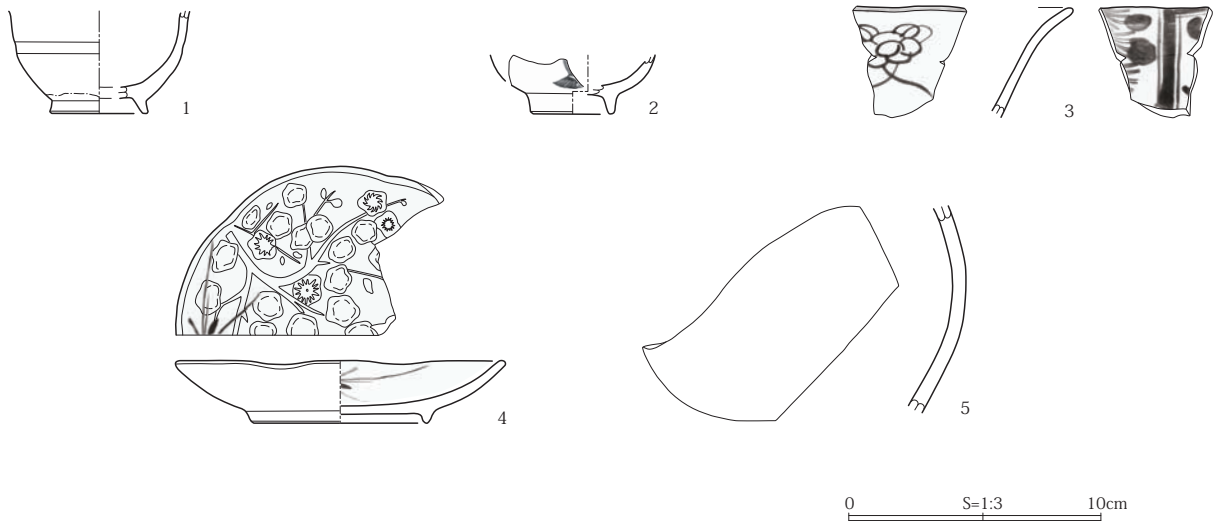
第53図 建物（病馬厩）跡 平面図

6 遺構外出土遺物

I区からは多量の遺物が出土しており、近代以降の盛土・整地層に混入しているものが大半をしめる。I区の出土遺物の総量は1371点である。陶磁器の内訳はIV層102点、III層595点、II層68、I層86点である。以下、層別に実測図と観察表を掲載する。

(1) IV層出土遺物 (第54～58図、図版89-9～17・90)

IV層からは17世紀～19世紀前半の陶磁器、三引両文軒丸瓦、板塀瓦等が出土している。陶器は大堀相馬を主体として堤、瀬戸・美濃産が見られ、磁器は肥前、瀬戸・美濃を主体とし、少量の地方産磁器が出土している。

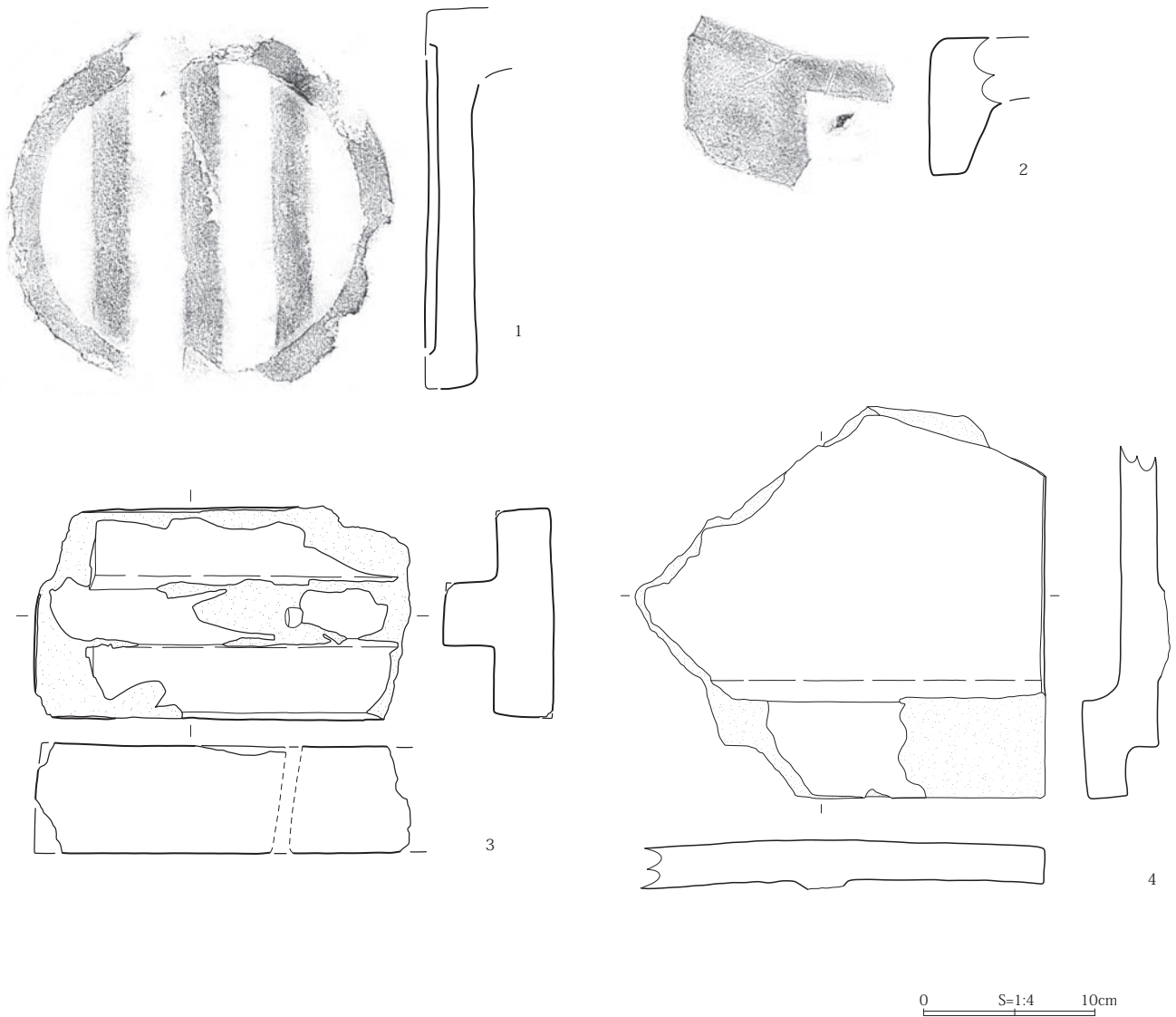


IV層 出土遺物観察表 (陶磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
54-1	89-9	I区 IV層	陶器	碗	体部～底部	やや密	白濁釉	—	(3.8)	(4.1)	大堀相馬	18世紀後半～ 19世紀前半		I-152
54-2	89-10	I区 IV層	磁器	小碗	体部～底部	緻密	染付	—	(3.2)	(2.4)	肥前	18世紀後半		J-72
54-3	89-12	I区 IV層	磁器	皿	口縁～体部	緻密	染付花文	—	—	(4.45)	肥前	17世紀～ 18世紀	稜花 芙蓉手?	J-218
54-4	89-11	I区 IV層	磁器	皿	口縁～底部	緻密	青磁型押し梅樹文	(13.0)	(6.9)	(2.5)	肥前	17世紀～ 18世紀		J-222
54-5	89-16	I区 IV層	磁器	袋物	体部	緻密	白磁	—	—	(8.2)	不明	近世		J-212

第54図 I区IV層 出土遺物

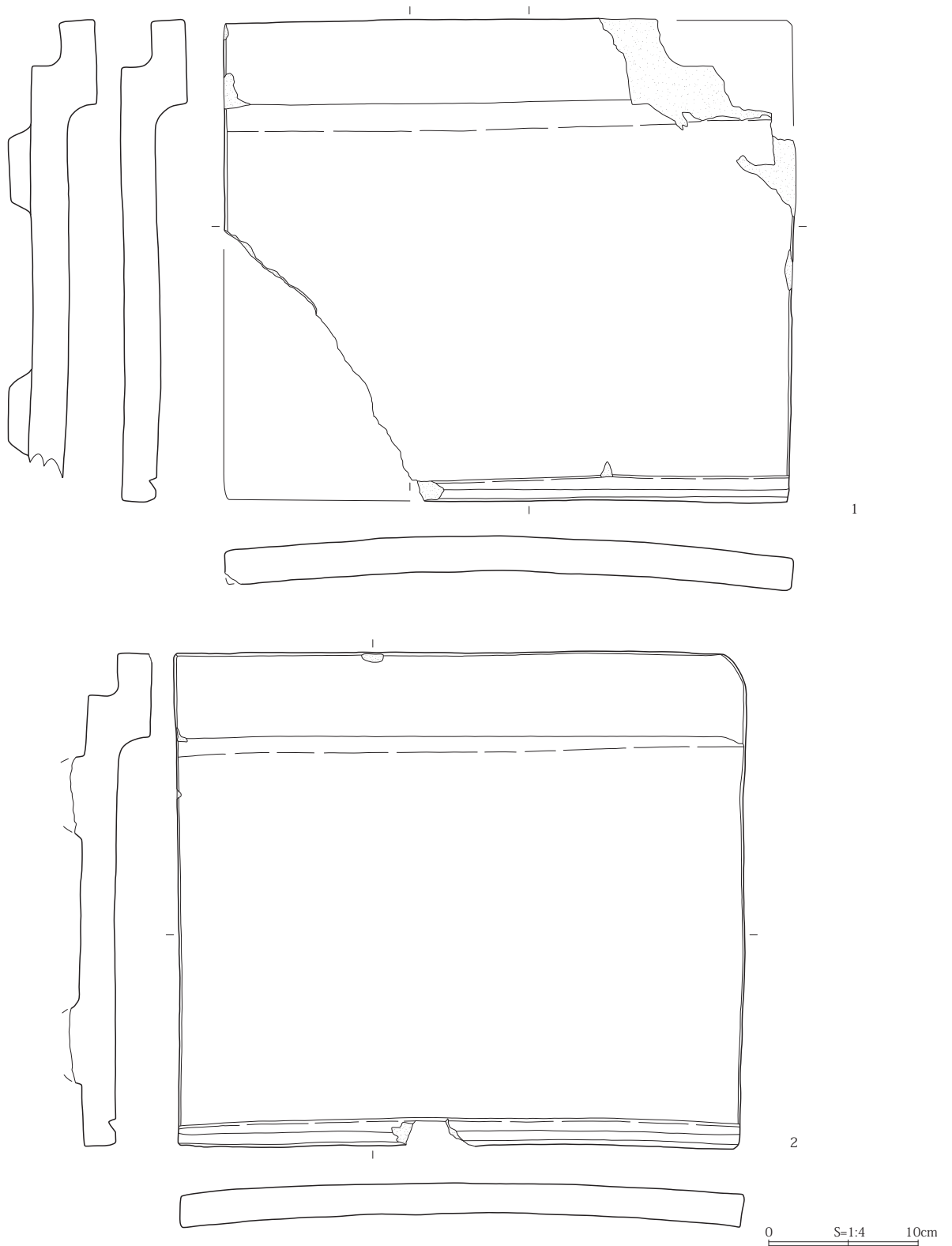
第1節 I区



IV層 出土遺物観察表 (瓦)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
55-1	89-13	I区 IV層	軒丸瓦	(3.6)	21.2	3.0	三引両文	F-7
55-2	89-17	I区 IV層	軒平瓦	(3.2)	(9.4)	3.4	唐草	G-9
55-3	89-14	I区 IV層	T字瓦	11.8	(20.8)	6.2	釘穴あり	H-27
55-4	89-15	I区 IV層	板塀瓦	31.8	(22.6)	2.0		H-26

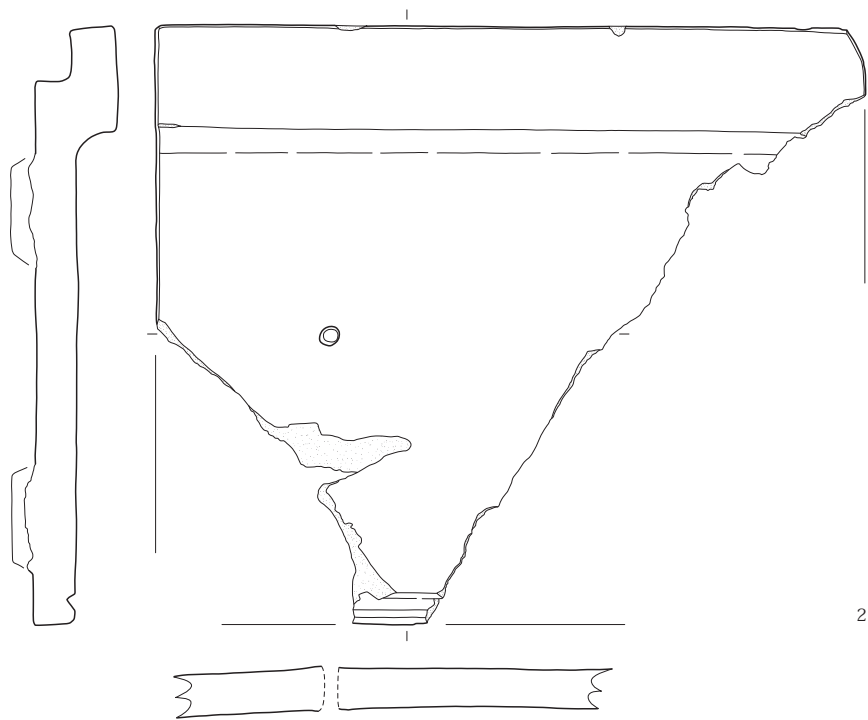
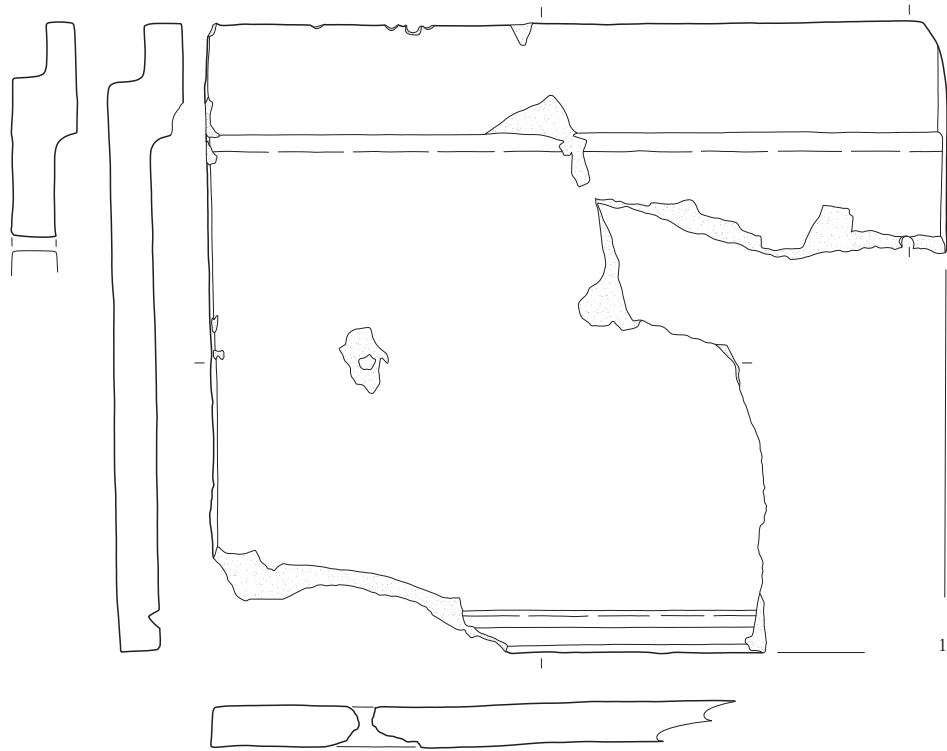
第55図 I区IV層 出土遺物



IV層 出土遺物観察表 (瓦)

図版番号	写真図版 番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備 考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
56-1	90-1	I区	板塀瓦	30.8	36.1	2.3		H-37
		IV層						
56-2	90-2	I区	板塀瓦	31.4	36.0	2.1		H-29
		IV層						

第56図 I区IV層 出土遺物

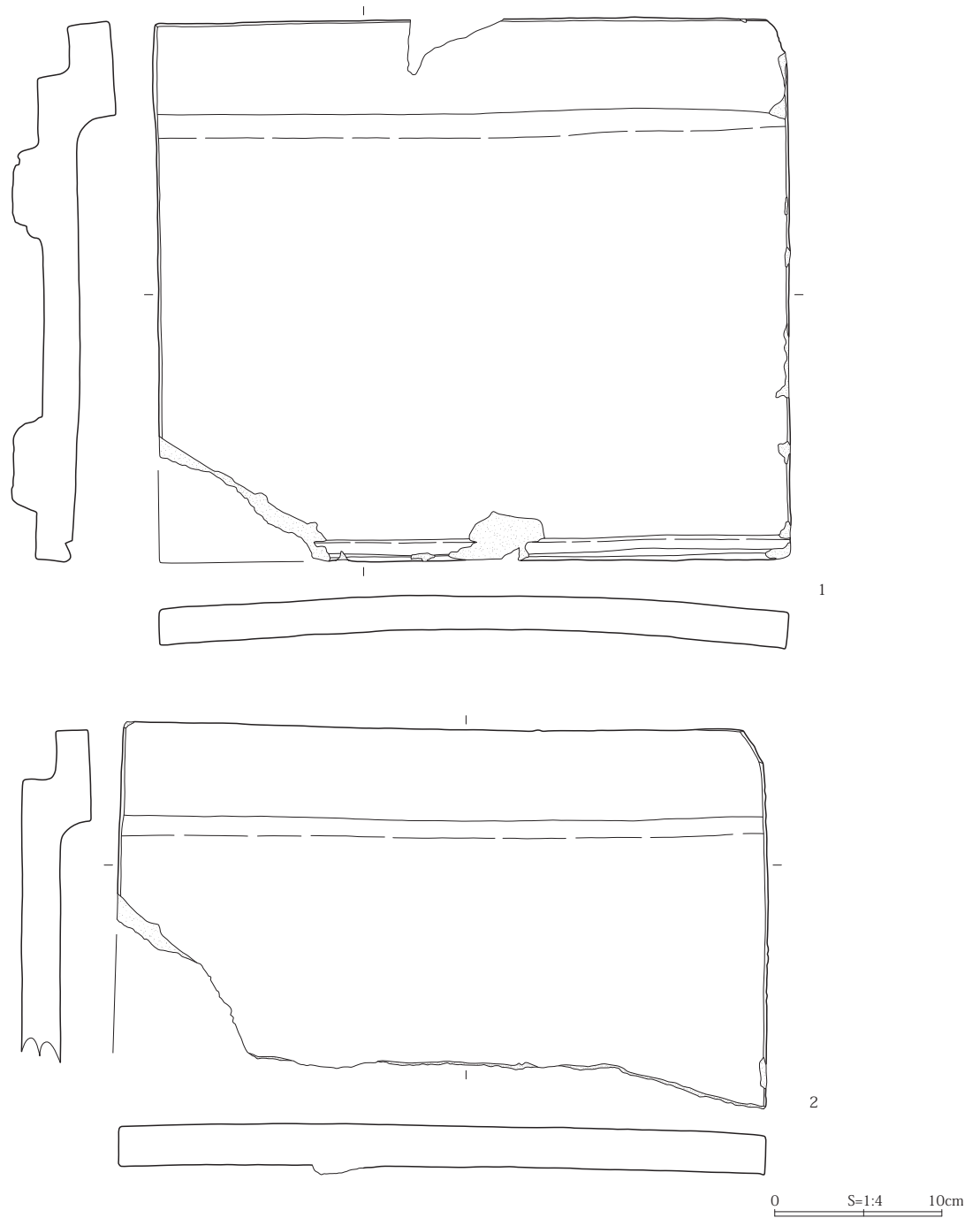


0 S=1:4 10cm

IV層 出土遺物観察表 (瓦)

図版番号	写真図版 番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
57-1	90-3	I区	板塀瓦	31.6	37.2	2.2	溝あり	H-28
		IV層						
57-2	90-4	I区	板塀瓦	30.2	35.6	2.1	溝あり	H-33
		IV層						

第57図 I区IV層 出土遺物



IV層 出土遺物観察表(瓦)

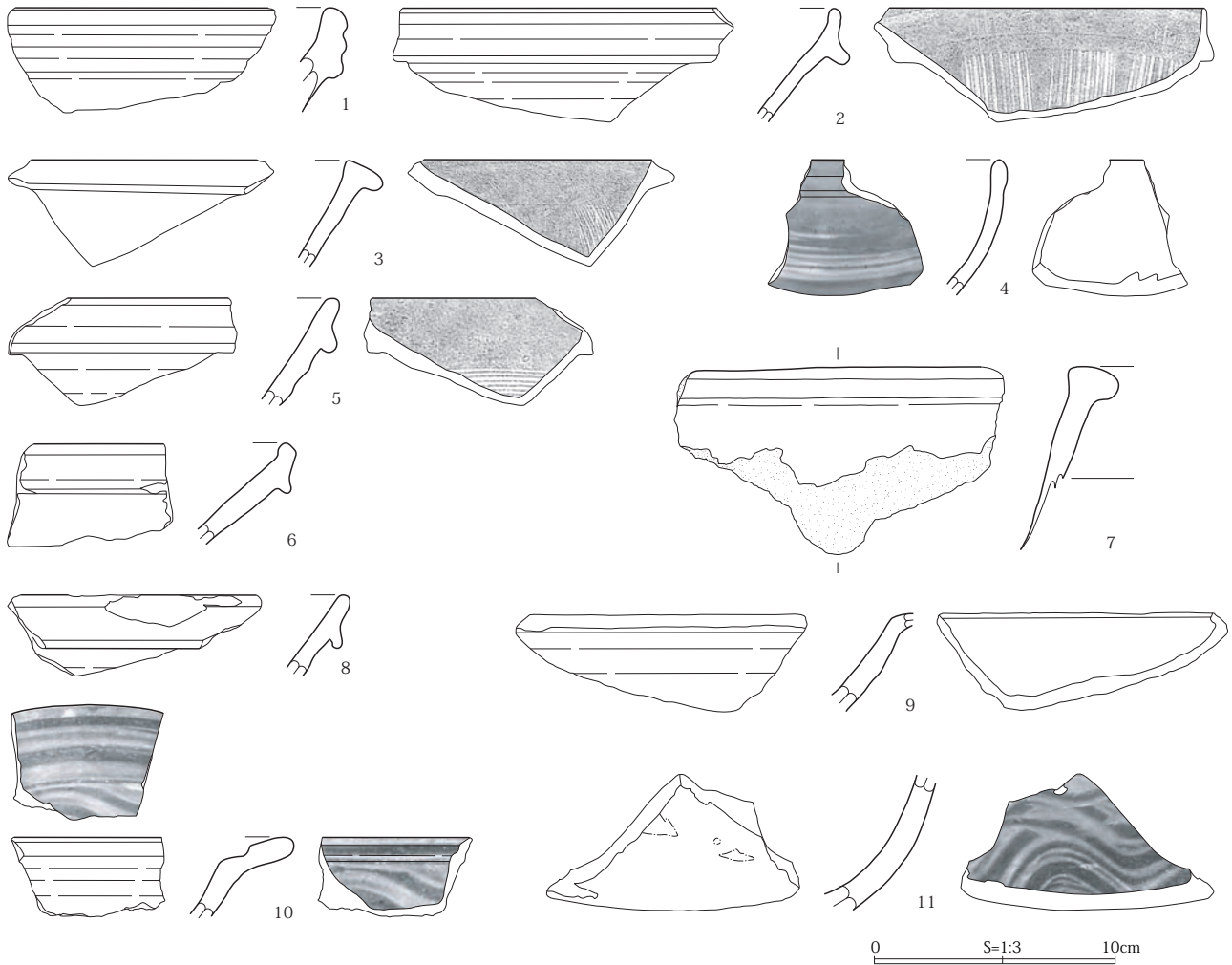
図版番号	写真図版 番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	高さ		
58-1	90-5	I区	板塀瓦	30.1	35.8	2.2	溝あり	H-34
		IV層						
58-2	90-6	I区	板塀瓦	(19.2)	37.0	2.2		H-35
		IV層						

第58図 I区IV層 出土遺物

第1節 I区

(2) III層出土遺物 (第59図～69図、図版91～98)

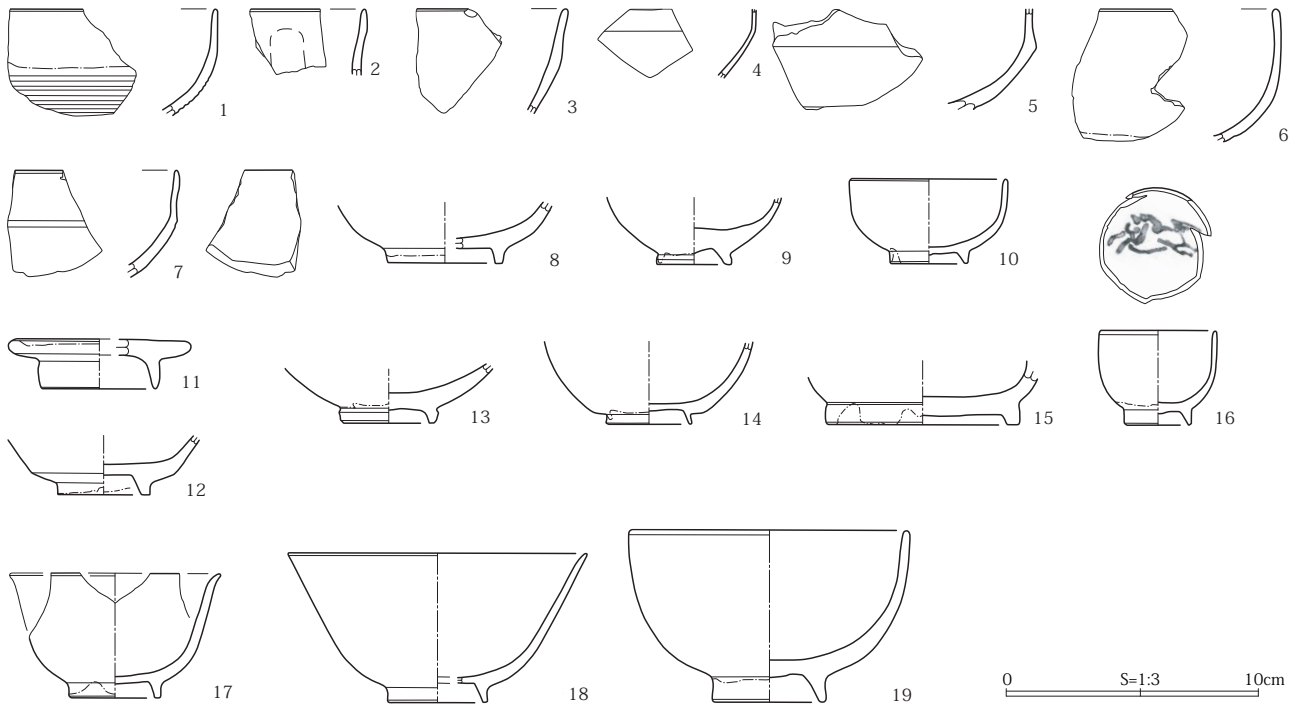
III層からは最も多量の遺物が出土した。18世紀後半代を主体とし、17世紀～19世紀を通して遺物の出土が見られる。



III層 出土遺物観察表 (陶器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
59-1	91-1	I区 III層	陶器	捏鉢	口部～体部	やや粗	鉄釉	—	—	(4.4)	不明	近世		I-182
59-2	91-2	I区 III層	陶器	搗鉢	口部～体部	やや粗	鉄釉	—	—	(4.8)	不明	近世		I-185
59-3	91-3	I区 III層	陶器	搗鉢	口部～体部	やや粗		—	—	(4.5)	不明	近世		I-196
59-4	91-4	I区 III層	陶器	碗	口縁～体部	やや密	刷毛目	—	—	(5.7)	唐津	18世紀		I-166
59-5	91-5	I区 III層	陶器	搗鉢	口部～体部	やや粗	鉄釉	—	—	(4.5)	不明	近世	卸目) 横位	I-183
59-6	91-6	I区 III層	陶器	捏鉢	口縁	やや粗	鉄釉	—	—	(4.3)	不明	近世		I-160
59-7	91-7	I区 III層	土師質土器	鉢	口縁～体部	やや粗		—	—	(8.5)	在地	近世		I-223
59-8	91-8	I区 III層	陶器	鉢	口縁	やや粗	鉄釉	—	—	(3.4)	堤	19世紀前半		I-154
59-9	91-9	I区 III層	陶器	鉢	体部	やや密	刷毛目	—	—	(4.1)	唐津	18世紀		I-158
59-10	91-10	I区 III層	陶器	鉢	口縁	やや密	刷毛目	—	—	(3.3)	唐津	18世紀		I-159
59-11	91-11	I区 III層	陶器	鉢	体部	やや密	刷毛目	—	—	(5.7)	唐津	18世紀		I-156

第59図 I区III層 出土遺物

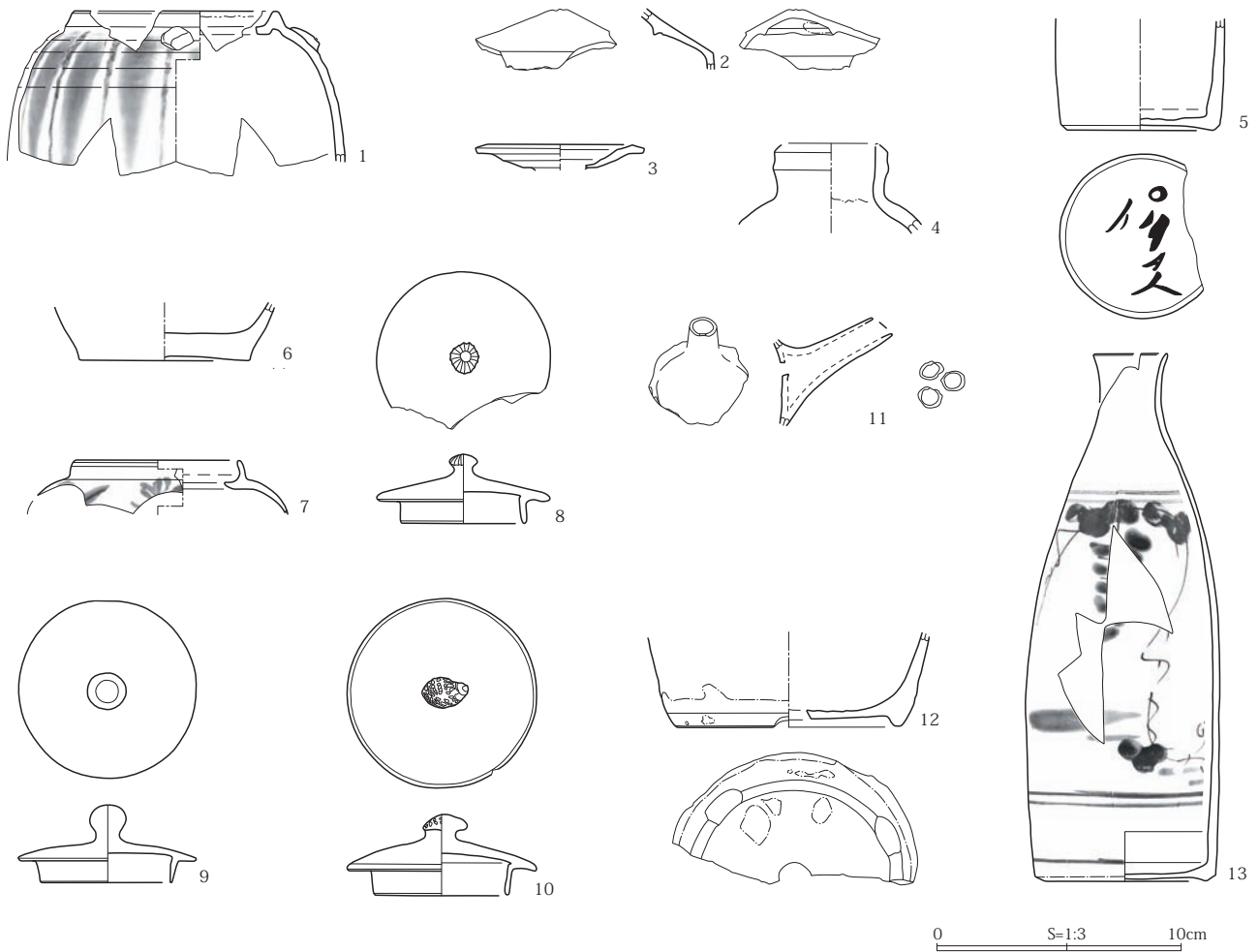


Ⅲ層 出土遺物観察表 (陶器)

図版番号	写真図版番号	グリッド遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
60-1	91-12	I区 Ⅲ層	陶器	碗	口部～体部	密	灰釉鉄釉掛分	—	—	(4.3)	大堀相馬	18世紀後半		I-181
60-2	91-13	I区 Ⅲ層	陶器	碗	口部～体部	密	灰釉	—	—	(2.6)	大堀相馬	18世紀後半	体部に凹部あり	I-188
60-3	91-14	I区 Ⅲ層	陶器	天目茶碗	口部～体部	密	灰釉	—	—	(4.2)	瀬戸美濃	17世紀～18世紀		I-180
60-4	91-15	I区 Ⅲ層	陶器	段付碗	体部	密	灰釉	—	—	(2.8)	大堀相馬	19世紀		I-176
60-5	91-16	I区 Ⅲ層	陶器	段付碗	体部	密	灰釉	—	—	(4.0)	大堀相馬	18世紀後半		I-189
60-6	91-17	I区 Ⅲ層	陶器	碗	口縁～体部	密	鉄釉	—	—	(5.3)	大堀相馬	18世紀後半		I-155
60-7	91-19	I区 Ⅲ層	陶器	段付碗	口縁～体部	密	灰釉	—	—	(4.3)	大堀相馬	18世紀後半		I-149
60-8	91-18	I区 Ⅲ層	陶器	碗	体部～底部	密	灰釉	—	(4.6)	(2.45)	大堀相馬	18世紀後半		I-190
60-9	91-21	I区 Ⅲ層	陶器	小碗	体部～底部	密	灰釉	—	(3.0)	(2.7)	大堀相馬	18世紀～19世紀		I-171
60-10	91-20	I区 Ⅲ層	陶器	小碗	口部～底部	密	白濁釉	(6.15)	(3.0)	(3.4)	大堀相馬	18世紀後半～19世紀前半		I-199
60-11	92-1	I区 Ⅲ層	陶器	蓋	口縁～底部	粗	灰釉	(6.8)	(4.5)	(2.0)	小野相馬?	18世紀～19世紀		I-179
60-12	92-2	I区 Ⅲ層	陶器	碗	体部～底部	密	灰釉	—	3.7	(2.4)	大堀相馬	18世紀後半		I-184
60-13	92-3	I区 Ⅲ層	陶器	碗	体部～底部	密	白濁釉	—	(3.6)	(2.2)	大堀相馬	18世紀後半～19世紀前半		I-177
60-14	92-4	I区 Ⅲ層	陶器	碗	体部～底部	密	白濁釉	—	(3.3)	(3.3)	大堀相馬	18世紀後半～19世紀前半		I-175
60-15	92-5	I区 Ⅲ層	陶器	壺類	体部～底部	やや密	灰釉	—	(7.6)	(2.6)	大堀相馬	18世紀～19世紀		I-178
60-16	92-9	I区 Ⅲ層	陶器	坏	口縁～底部	密	鉄絵刷文	(4.6)	2.9	3.8	大堀相馬	18世紀～19世紀		I-148
60-17	92-6	I区 Ⅲ層	陶器	端反碗	口縁～底部	密	白濁釉	(8.4)	(3.6)	5.0	大堀相馬	18世紀末～19世紀前半		I-151
60-18	92-7	I区 Ⅲ層	陶器	碗	口部～底部	密	白濁釉	(11.9)	(3.85)	(6.0)	大堀相馬	18世紀末～19世紀前半		I-192
60-19	92-8	I区 Ⅲ層	陶器	灰釉碗	口部～底部	粗	灰釉	(11.0)	(4.4)	(6.9)	小野相馬	18世紀中ごろ～18世紀後半		I-187

第60図 I区Ⅲ層 出土遺物

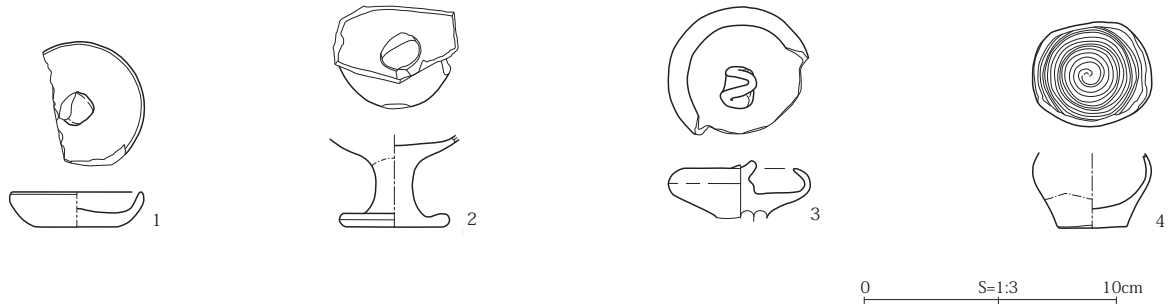
第1節 I区



III層 出土遺物観察表 (陶器)

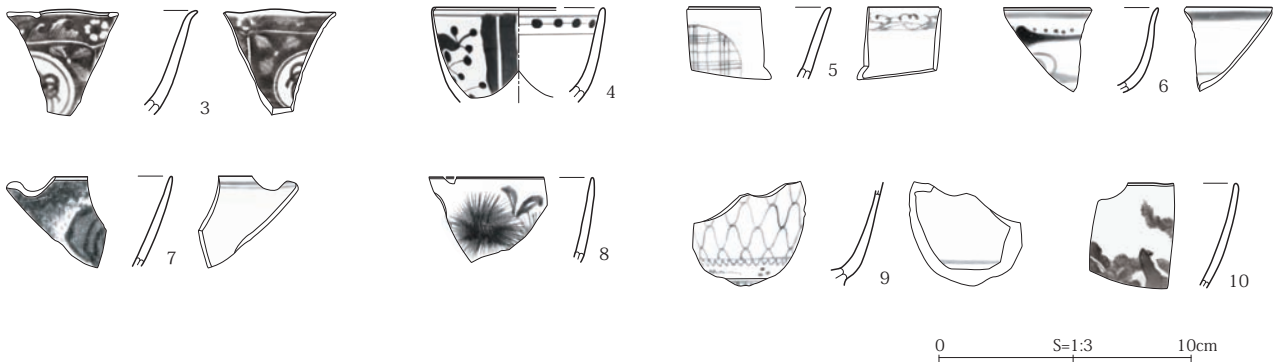
図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
61-1	92-10	I区 III層	陶器	土瓶	口縁～体部	緻密	色絵	(8.4)	—	(6.2)	大堀相馬	19世紀中頃～		I-169
61-2	92-11	I区 III層	陶器	壺	体部	密	鉄釉	—	—	(2.5)	不明	近世		I-167
61-3	92-12	I区 III層	陶器	蓋	口縁～体部	密	—	7.0	—	(1.0)	不明	近世		I-165
61-4	92-13	I区 III層	陶器	瓶	口縁～体部	やや密	灰釉	(4.2)	—	—	不明	近世		I-164
61-5	92-14	I区 III層	陶器	瓶類	体部～底部	密	灰釉	—	6.0	(4.6)	大堀相馬	18世紀後半～19世紀前半	墨書	I-161
61-6	92-15	I区 III層	陶器	壺	底部	やや密	—	—	(7.0)	(2.4)	不明	近世		I-168
61-7	92-16	I区 III層	陶器	土瓶	口部～体部	密	鉄絵	(6.8)	—	(2.2)	大堀相馬	19世紀前半		I-186
61-8	92-18	I区 III層	陶器	蓋	口縁～底部	密	白濁釉 菊花形鈕	5.0	7.2	2.9	大堀相馬	18世紀後半～19世紀前半	土瓶	I-153
61-9	92-19	I区 III層	陶器	蓋	完形	密	白濁釉	5.2	7.4	3.2	大堀相馬	18世紀後半～19世紀前半	土瓶	I-150
61-10	92-20	I区 III層	陶器	蓋	口縁～底部	密	白濁釉 貝形鈕	5.6	7.8	(3.35)	大堀相馬	18世紀後半～19世紀前半	土瓶	I-157
61-11	92-17	I区 III層	陶器	土瓶	注口部	密	—	—	—	(4.5)	大堀相馬	19世紀前半		I-173
61-12	93-1	I区 III層	陶器	植木鉢	体部～底部	粗	鉄釉	—	9.2	(3.9)	堤	19世紀		I-163
61-13	93-6	I区 III層	陶器	徳利	完形	密	—	(2.6)	6.6	21.9	大堀相馬	19世紀中頃		I-229

第61図 I区III層 出土遺物



III層 出土遺物観察表(陶器)

図版番号	写真図版番号	グリッド遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
62-1	93-2	I区 III層	陶器	乗燭	口縁～底部	やや粗	鉄釉	5.5	3.5	1.5	堤	19世紀		I-174
62-2	93-3	I区 III層	陶器	乗燭	脚部	やや粗	鉄釉	—	4.1	(3.8)	堤	19世紀	脚付	I-198
62-3	93-4	I区 III層	陶器	乗燭	受け部	やや粗	鉄釉	—	—	(2.1)	堤	19世紀	脚付	I-197
62-4	93-5	I区 III層	陶器	豆甃	体部～底部	やや粗	鉛釉	—	3.0	3.1	堤	19世紀	内) ロク口目	I-195



III層 出土遺物観察表(磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
62-3	93-7	I区 III層	磁器	稜花碗	口縁～体部	緻密	染付宝文・波涛文	—	—	(4.3)	肥前	18世紀後半～ 19世紀		J-227
62-4	93-8	I区 III層	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付梅草花文	(6.3)	—	(3.8)	肥前	18世紀～19世紀		J-166
62-5	93-9	I区 III層	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付丸文	—	—	(2.9)	肥前	18世紀前半		J-174
62-6	93-10	I区 III層	磁器	端反碗	口縁～体部	緻密	染付	—	—	(3.4)	瀬戸美濃	19世紀前半		J-134
62-7	93-11	I区 III層	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付吹墨花文二重図線	—	—	(3.55)	肥前	17世紀後半		J-140
62-8	93-12	I区 III層	磁器	筒形碗	口縁～体部	緻密	染付植物文	—	—	(3.4)	肥前	18世紀～19世紀		J-130
62-9	93-13	I区 III層	磁器	坏	体部	緻密	染付網目文	—	—	(3.7)	肥前	17世紀後半～ 18世紀		J-164
62-10	93-14	I区 III層	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付	—	—	(4.2)	肥前	18世紀後半～ 19世紀前半	口紅	J-225

第62図 I区III層 出土遺物

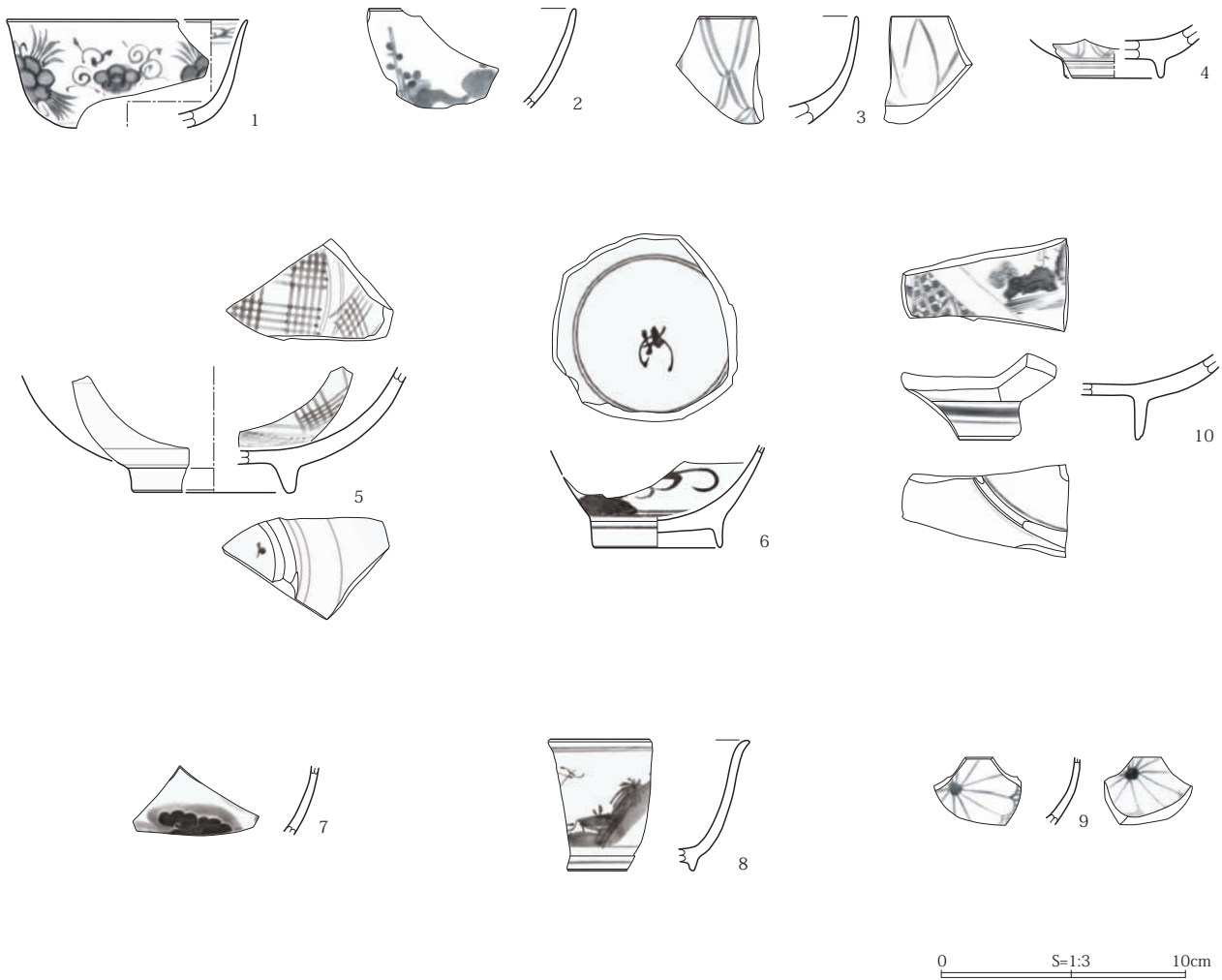
第1節 I区



III層 出土遺物観察表(磁器)

図版 番号	写真図版 番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
63-1	93-15	I区 III層	磁器	小碗	口縁～体部	緻密	染付風景文	—	—	(3.85)	瀬戸・美濃	19世紀		J-224
63-2	93-16	I区 III層	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付流水・花文	—	—	(2.3)	肥前	18世紀		J-145
63-3	93-17	I区 III層	磁器	碗	口縁～体部	緻密	外) 柿釉 内) 染付	—	—	(4.0)	肥前	18世紀?		J-162
63-4	93-18	I区 III層	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付羊歯文	—	—	(3.1)	肥前?	19世紀		J-159
63-5	94-1	I区 III層	磁器	端反碗	口縁～体部	緻密	染付草花文	—	—	(3.7)	瀬戸・美濃	19世紀前半		J-175
63-6	94-2	I区 III層	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付松文	—	—	(4.8)	肥前	18世紀後半 ～19世紀		J-197
63-7	94-3	I区 III層	磁器	端反碗	口縁～体部	緻密	染付	—	—	(3.6)	肥前	19世紀		J-141
63-8	94-4	I区 III層	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付	—	—	(4.1)	肥前	18世紀後半 ～19世紀		J-226
63-9	94-5	I区 III層	磁器	碗	口縁～体部	緻密	白磁	—	—	(3.1)	肥前	18世紀	口紅	J-184
63-10	94-6	I区 III層	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付丸文	—	—	(3.25)	肥前	18世紀		J-148
63-11	94-7	I区 III層	磁器	端反碗	口縁～体部	緻密	染付	—	—	(4.4)	瀬戸・美濃	19世紀前半		J-199
63-12	94-8	I区 III層	磁器	輪花皿	口縁～体部	緻密	染付草文	—	—	(2.9)	肥前	18世紀	口紅	J-181
63-13	94-9	I区 III層	磁器	碗?	体部	緻密	染付・鉄斑	—	—	(3.9)	肥前	近世		J-131

第63図 I区III層 出土遺物



III層 出土遺物観察表（磁器）

図版 番号	写真図版 番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録 番号
								口径	底径	器高				
64-1	94-10	I区 III層	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付花文	(9.95)	—	(4.5)	肥前	18世紀前半		J-169
64-2	94-11	I区 III層	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付松梅文	—	—	(4.1)	肥前	17世紀後半 ～18世紀		J-180
64-3	94-12	I区 III層	磁器	小碗	口縁～体部	緻密	染付網目文	—	—	(4.45)	肥前	18世紀		J-183
64-4	94-13	I区 III層	磁器	碗	体部～底部	緻密	染付網目文	—	(2.85)	(2.2)	肥前	18世紀		J-185
64-5	94-18	I区 III層	磁器	碗	体部～底部	緻密	染付格子文	—	(6.4)	(5.2)	肥前	19世紀		J-204
64-6	94-19	I区 III層	磁器	広東碗	体部～底部	緻密	染付草花文	—	(5.2)	(3.6)	地方?	19世紀		J-155
64-7	94-14	I区 III層	磁器	皿	体部	緻密	染付	—	—	(2.8)	肥前	17世紀後半 ～18世紀中頃	墨弾き	J-156
64-8	94-15	I区 III層	磁器	端反小碗	口縁～底部	緻密	染付風景文	—	—	(5.4)	瀬戸・美濃	19世紀		J-214
64-9	94-16	I区 III層	磁器	碗	体部	緻密	染付菊花文	—	—	(2.8)	肥前	18世紀中頃 ～後半		J-206
64-10	94-17	I区 III層	磁器	角皿	体部～底部	緻密	染付風景文	—	—	(3.5)	肥前	18世紀～ 19世紀		J-173

第64図 I区III層 出土遺物

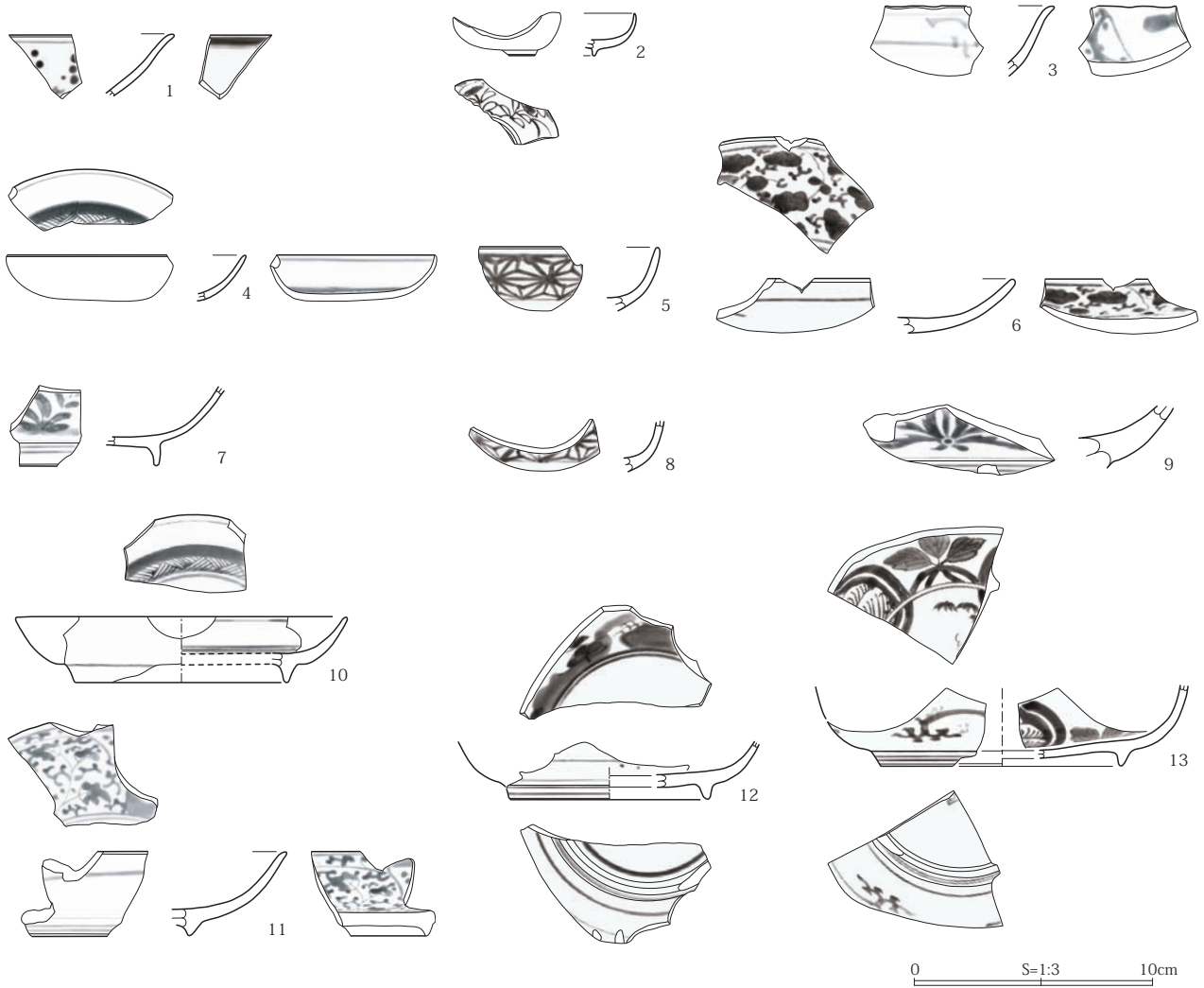
第1節 I区



III層 出土遺物観察表（磁器）

図版 番号	写真図版 番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録 番号
								口径	底径	器高				
65-1	95-1	I区 III層	磁器	碗	体部～底部	緻密	染付風景文	—	(4.1)	(2.55)	肥前	18世紀		J-153
65-2	95-2	I区 III層	磁器	碗	体部～底部	緻密	染付草花文	—	(2.15)	(3.2)	地方?	18世紀		J-154
65-3	95-3	I区 III層	磁器	端反碗	口縁～底部	緻密	染付菊唐草文	(8.4)	(3.1)	4.6	瀬戸美濃	19世紀前半		J-127
65-4	95-4	I区 III層	磁器	端反碗	口縁～底部	緻密	染付蓮華文	(11.1)	(4.2)	(5.9)	肥前	19世紀		J-223
65-5	95-5	I区 III層	磁器	碗	口縁～底部	緻密	染付山水文	(10.3)	(5.0)	(5.5)	肥前	18世紀～ 19世紀		J-196
65-6	95-6	I区 III層	磁器	端反碗	口縁～底部	緻密	染付山形に武田菱	(10.2)	(4.5)	(5.25)	肥前	19世紀前半		J-133
65-7	95-7	I区 III層	磁器	碗	口縁～底部	緻密	染付・内底「寿」 文	(8.85)	(3.4)	(4.8)	肥前?	18世紀前半		J-158
65-8	95-9	I区 III層	磁器	端反小碗	口縁～底部	緻密	染付草文	(8.4)	(3.4)	(4.3)	瀬戸美濃	19世紀前半	見込み「寿」	J-150
65-9	95-10	I区 III層	磁器	碗	口縁～底部	緻密	染付梅樹文	(8.7)	(3.8)	(4.6)	肥前	18世紀中頃 ～後半		J-198
65-10	95-8	I区 III層	磁器	端反小皿	口縁～体部	緻密	染付草文	—	—	(2.1)	肥前	19世紀前半		J-176
65-11	95-11	I区 III層	磁器	角皿	口縁～体部	緻密	外)染付草文 内) 染付蛸唐草文	—	—	(1.6)	肥前	18世紀		J-189
65-12	95-12	I区 III層	磁器	皿	口縁～体部	緻密	染付草文	—	—	(2.0)	肥前	19世紀前半		J-182

第65図 I区III層 出土遺物

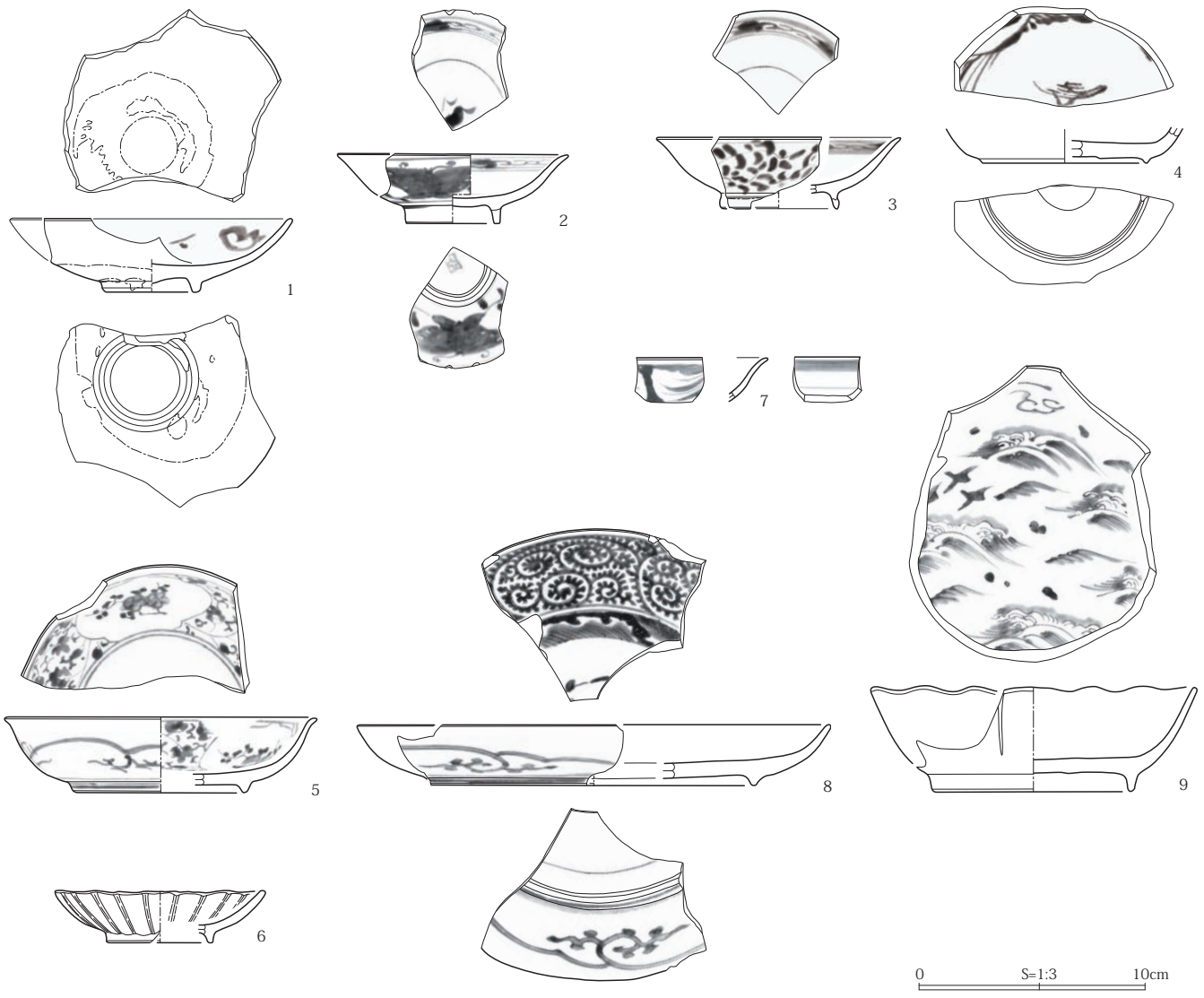


Ⅲ層 出土遺物観察表（磁器）

図版 番号	写真図版 番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録 番号
								口径	底径	器高				
66-1	96-1	I区 Ⅲ層	磁器	皿	口縁～体部	緻密	染付草花文	—	—	(2.7)	瀬戸・美濃	19世紀		J-208
66-2	95-13	I区 Ⅲ層	磁器	蓋	口縁～底部	緻密	染付草花文・赤絵	—	—	(1.8)	肥前	19世紀		J-188
66-3	96-2	I区 Ⅲ層	磁器	皿	口縁～体部	緻密	染付樹木文	—	—	(2.95)	肥前	18世紀		J-163
66-4	96-5	I区 Ⅲ層	磁器	皿	口縁～体部	緻密	染付	—	—	(1.75)	肥前	18世紀後半		J-165
66-5	96-3	I区 Ⅲ層	磁器	端反皿	口縁～体部	緻密	染付麻葉文	—	—	(2.7)	肥前	近世		J-205
66-6	96-6	I区 Ⅲ層	磁器	皿	口縁～体部	緻密	染付花唐草文	—	—	(2.3)	肥前	17世紀後半～ 18世紀前半		J-146
66-7	96-4	I区 Ⅲ層	磁器	碗	体部～底部	緻密	染付草文	—	—	(3.45)	肥前	17世紀後半		J-136
66-8	96-7	I区 Ⅲ層	磁器	小碗	体部	緻密	染付麻花文	—	—	(2.2)	肥前	近世		J-143
66-9	96-8	I区 Ⅲ層	磁器	皿	体部	緻密	染付草文	—	—	(2.7)	肥前	17世紀後半？	芙蓉手	J-151
66-10	96-9	I区 Ⅲ層	磁器	皿	口縁～底部	緻密	染付	—	—	(2.8)	肥前	18世紀後半		J-168
66-11	96-10	I区 Ⅲ層	磁器	皿	口縁～底部	緻密	染付花唐草文	—	—	(3.6)	肥前	17世紀後半～ 18世紀前半		J-160
66-12	96-11	I区 Ⅲ層	磁器	皿	体部～底部	緻密	染付風景文	—	(8.4)	(2.4)	肥前	18世紀後半		J-152
66-13	96-12	I区 Ⅲ層	磁器	皿	体部～底部	緻密	染付草文	—	(10.2)	(3.3)	肥前	18世紀後半		J-195

第66図 I区Ⅲ層 出土遺物

第1節 I区



Ⅲ層 出土遺物観察表(磁器)

図版 番号	写真図版 番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録 番号
								口径	底径	器高				
67-1	97-1	I区	磁器	皿	口縁～体部	緻密	染付	(12.4)	(4.1)	(3.3)	肥前(波佐見)	18世紀前半	蛇の目釉剥ぎ	J-135
		Ⅲ層												
67-2	97-2	I区	磁器	皿	口縁～底部	緻密	染付蝶文	(10.4)	(4.2)	3.1	肥前	17世紀後半		J-161
67-3	97-4	I区	磁器	皿	口縁～底部	緻密	染付唐草文	(10.8)	(5.1)	(3.2)	瀬戸美濃	19世紀前半		J-229
		Ⅲ層												
67-4	97-3	I区	磁器	皿	体部～底部	緻密	染付草花	—	(7.3)	(1.5)	肥前	18世紀		J-203
		Ⅲ層												
67-5	97-7	I区	磁器	皿	口縁～底部	緻密	染付花唐草文	(13.8)	(7.5)	(3.4)	肥前	18世紀前半		J-177
		Ⅲ層												
67-6	97-5	I区	磁器	菊皿	口縁～底部	緻密	型押	(9.4)	(4.6)	(2.3)	肥前	19世紀前半?		J-172
		Ⅲ層												
67-7	97-6	I区	磁器	皿	口縁～体部	緻密	染付草文	—	—	(2.0)	肥前	17世紀後半		J-138
		Ⅲ層												
67-8	97-8	I区	磁器	皿	口縁～底部	緻密	外) 染付草文 内) 染付蛸唐草文・波濤文	(21.0)	(14.4)	(2.7)	肥前	18世紀後半		J-191
		Ⅲ層												
67-9	97-9	I区	磁器	輪花皿	口縁～底部	緻密	染付波鳥文	(14.4)	(8.8)	(4.7)	肥前	19世紀前半	口紅・蛇の目釉剥ぎ	J-178
		Ⅲ層												

第67図 I区Ⅲ層 出土遺物

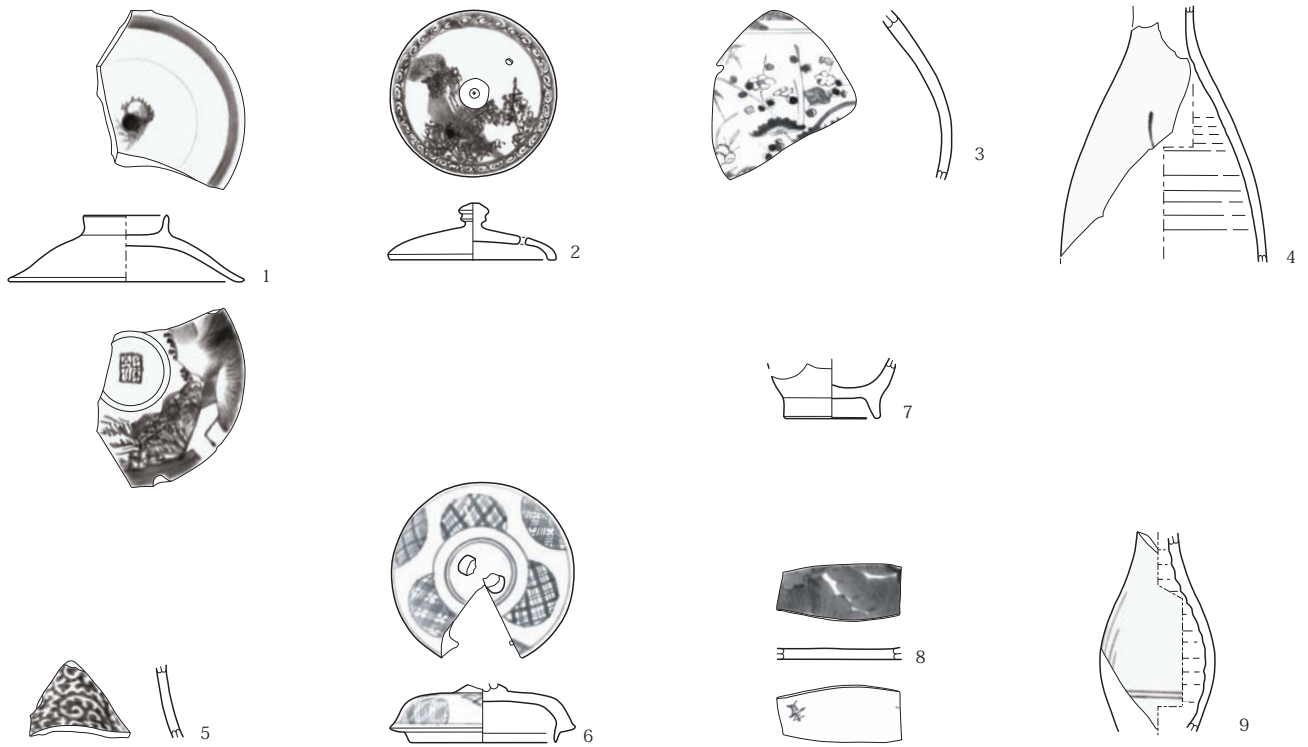


Ⅲ層 出土遺物観察表（磁器）

図版 番号	写真図版 番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録 番号
								口径	底径	器高				
68-1	98-1	I区 Ⅲ層	磁器	坏	口縁～底部	緻密	白磁	(6.5)	(1.6)	(2.4)	肥前	近世		J-228
68-2	98-2	I区 Ⅲ層	磁器	高足坏	口縁～底部	緻密	染付菊花文	(6.85)	(3.95)	(6.2)	肥前	18世紀後半～ 19世紀		J-194
68-3	98-3	I区 Ⅲ層	磁器	高足坏	口縁～底部	緻密	白磁	(7.9)	(4.4)	3.7	肥前	近世		J-186
68-4	98-4	I区 Ⅲ層	磁器	角小皿	口縁～底部	緻密	白磁型押し	—	—	(1.9)	肥前	近世		J-192
68-5	98-10	I区 Ⅲ層	磁器	角小皿	口縁～底部	緻密	型押し青海波・葉・ 花文	(7.5)	(3.6)	(2.6)	切込	19世紀中葉		J-167
68-6	98-5	I区 Ⅲ層	磁器	坏	口縁～底部	緻密	染付蛸唐草文・草 文	—	—	(2.2)	肥前	18世紀前半		J-207
68-7	98-6	I区 Ⅲ層	磁器	瓶	体部～底部	緻密	染付蓮弁文	—	—	(3.5)	肥前	18世紀～19世 紀		J-217
68-8	98-7	I区 Ⅲ層	陶器	坏?	口縁～体部	緻密	鉄釉	—	—	(3.2)	肥前	近世	口ク口目	J-230
68-9	98-9	I区 Ⅲ層	磁器	猪口	体部～底部	緻密	染付	—	(5.9)	(5.2)	肥前	19世紀前半?		J-137
68-10	98-11	I区 Ⅲ層	磁器	香炉	口縁～体部	緻密	染付	—	—	(5.05)	肥前	18世紀		J-171
68-11	98-12	I区 Ⅲ層	磁器	向付	口縁～底部	緻密	染付蛸唐草・連弁	(9.15)	(8.1)	(3.85)	肥前	18世紀末～19 世紀初頭		J-149
68-12	98-8	I区 Ⅲ層	磁器	小碗	口縁～体部	緻密	染付草文	(6.2)	—	(2.1)	肥前	18世紀		J-190

第68図 I区Ⅲ層 出土遺物

第1節 I区



0 S=1:3 10cm

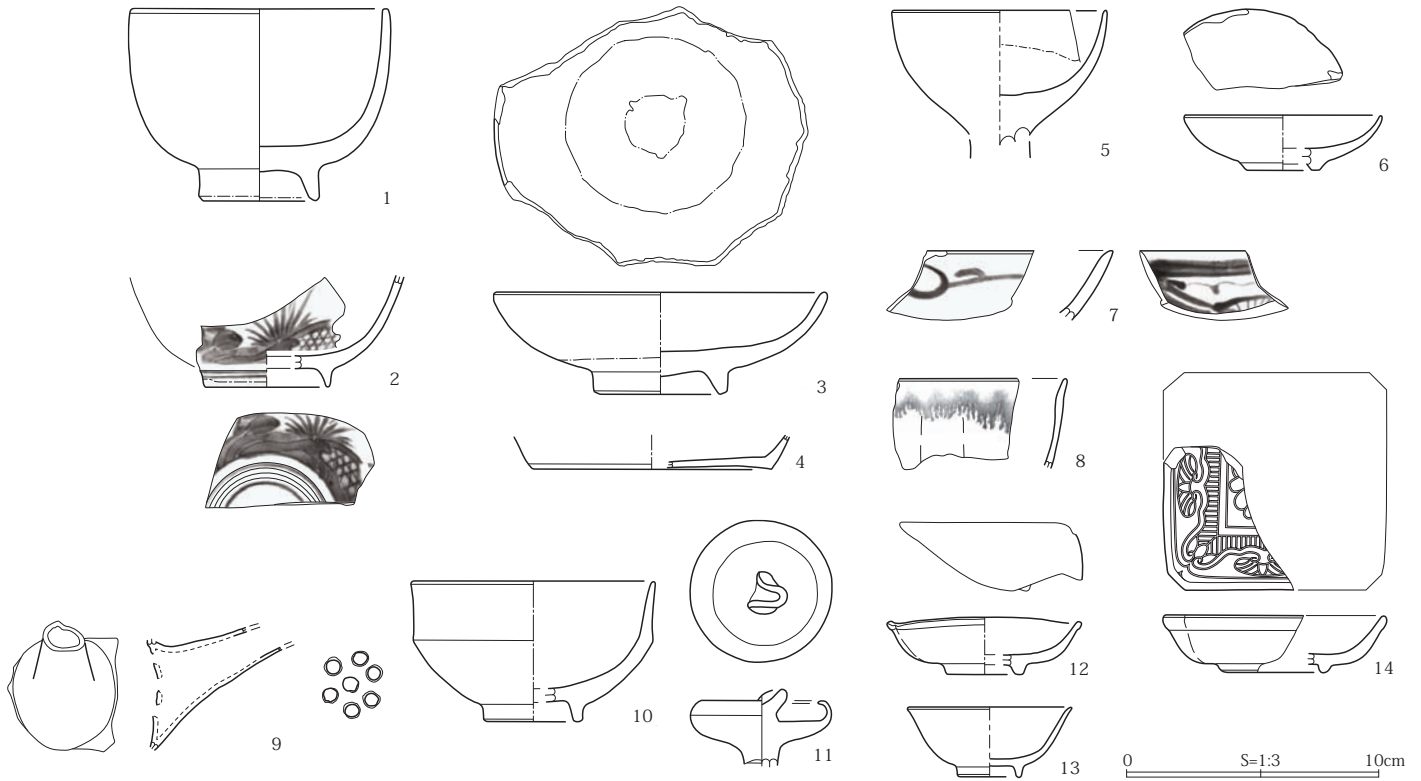
Ⅲ層 出土遺物観察表（磁器）

図版 番号	写真図版 番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録 番号
								口径	底径	器高				
69-1	98-18	I区 Ⅲ層	磁器	蓋	口縁～底部	緻密	染付風景文	(9.3)	(3.3)	(2.65)	肥前	19世紀前半	銘あり	J-187
69-2	98-19	I区 Ⅲ層	磁器	蓋	口縁～底部	緻密	染付	6.6	—	2.3	肥前	19世紀前半		J-234
69-3	98-13	I区 Ⅲ層	磁器	瓶	体部	緻密	染付・赤絵	—	—	(6.8)	肥前	18世紀後半～ 19世紀前半		J-179
69-4	98-16	I区 Ⅲ層	磁器	徳利	体部	緻密	染付草文	—	—	(10.55)	肥前	19世紀?		J-147
69-5	98-15	I区 Ⅲ層	磁器	瓶	体部	緻密	染付蛸唐草文	—	—	(2.8)	肥前	18世紀後半?		J-144
69-6	98-21	I区 Ⅲ層	磁器	蓋	体部	緻密	染付丸文	(5.8)	—	(2.3)	肥前	18世紀		J-157
69-7	98-20	I区 Ⅲ層	磁器	御神酒徳利	体部～底部	緻密	染付	—	(3.7)	(2.4)	肥前	19世紀		J-132
69-8	98-14	I区 Ⅲ層	磁器	皿	底部	緻密	染付	—	—	(0.5)	肥前	18世紀前半～ 中頃	「富貴長春」 銘	J-250
69-9	98-17	I区 Ⅲ層	磁器	瓶	体部	緻密	染付草文	—	—	(8.0)	肥前	18世紀～ 19世紀		J-231

第69図 I区Ⅲ層 出土遺物

(3) I層・II層・攪乱出土遺物(第70～71図、図版99～100)

I層・II層・攪乱からは18世紀以降の陶磁器類、瓦等が出土している。陶器は大堀相馬を主体とし、磁器は肥前を主体とし、瀬戸・美濃産のものを含んでいる。

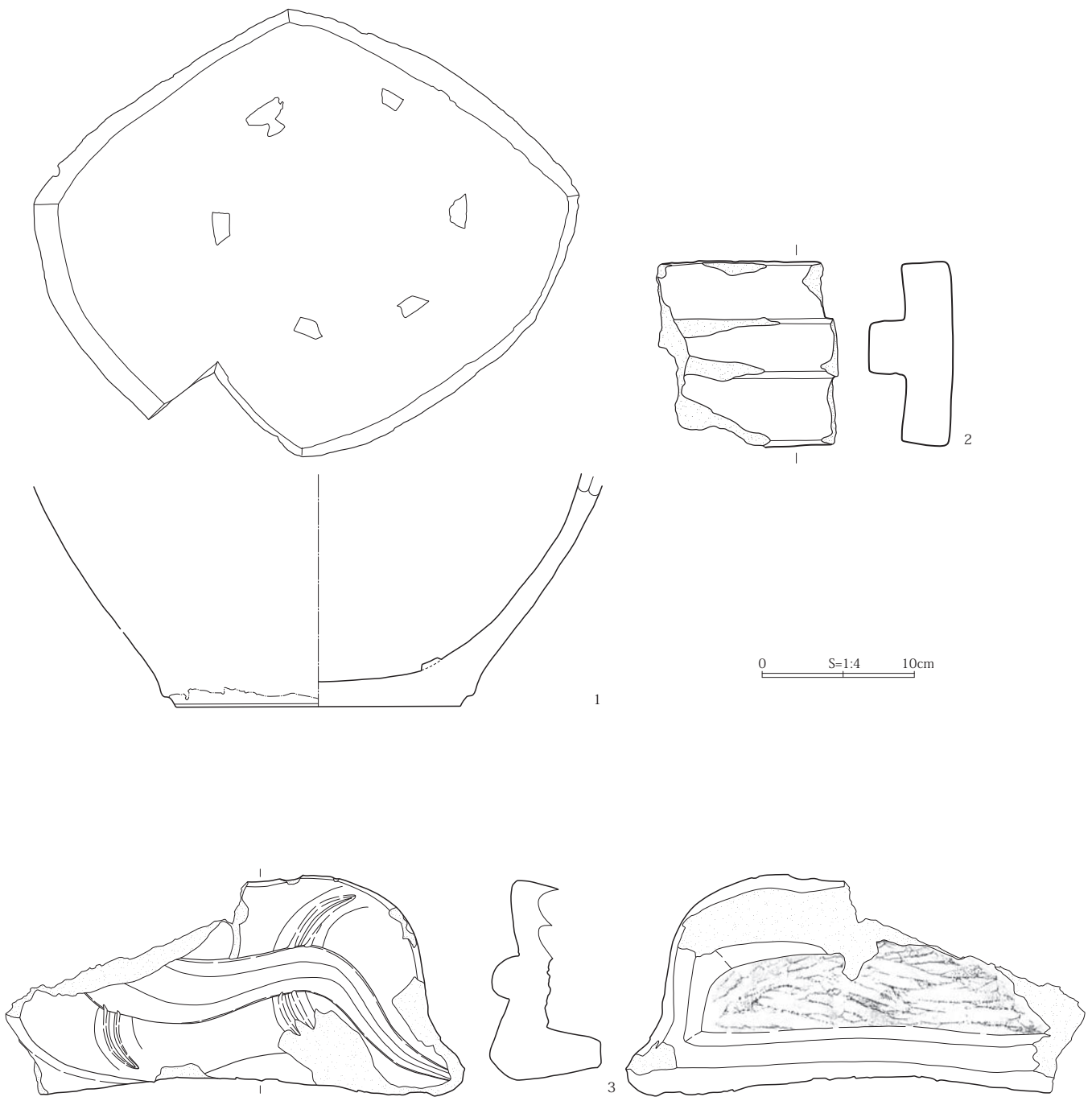


I層・II層・攪乱 出土遺物観察表(陶磁器)

図版 番号	写真図版 番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録 番号
								口径	底径	器高				
70-1	99-1	I区	陶器	碗	口部～底部	やや密	灰釉	10.2	4.5	7.7	肥前?	17世紀?	御器手か	I-194
		II層												
70-2	99-6	I区	磁器	碗	体部～底部	緻密	染付草文	(10.4)	(4.0)	(5.9)	肥前	19世紀		J-128
		I層												
70-3	99-3	I区	陶器	皿	口縁～底部	粗	灰釉	(13.2)	(4.8)	(4.1)	小野相馬	18世紀後葉	蛇の目釉剥 ぎ	I-172
		II層												
70-4	99-7	I区	陶器	炮烙	体部～底部	やや粗	—	—	(9.6)	(1.35)	堤?	19世紀		I-193
		II層												
70-5	99-2	I区	磁器	坏	口縁～体部	緻密	青磁	(8.5)	—	(5.4)	肥前	18世紀?		J-202
		II層												
70-6	99-4	I区	磁器	皿	口縁～底部	緻密	染付水草文	(7.85)	(2.9)	(2.2)	肥前	17世紀後半 ～18世紀		J-201
		II層												
70-7	99-5	I区	磁器	皿	口縁～体部	緻密	染付草文	—	—	(2.8)	肥前	18世紀		J-211
		II層												
70-8	99-8	I区	陶器	変形碗	口部～体部	密	白濁釉胎釉 流し	—	—	(3.1)	大堀相馬	18世紀後半 ～19世紀		I-203
		I層												
70-9	100-1	I区	陶器	土瓶	注口部	密	灰釉	—	—	(5.2)	大堀相馬	19世紀	7穴	I-202
		I層												
70-10	99-9	I区	陶器	段付碗	口部～体部	密	灰釉	(9.6)	(3.8)	(5.75)	大堀相馬	18世紀中頃 ～後半		I-201
		攪乱												
70-11	99-10	I区	陶器	乗燭	口部～体部	やや密	黒釉	(4.8)	—	(3.1)	堤?	19世紀		I-200
		攪乱												
70-12	99-11	I区	磁器	角小皿	口縁～底部	緻密	型押し	(7.6)	(3.0)	(2.3)	肥前?	近世		J-200
		I層												
70-13	100-2	I区	磁器	小碗	口縁～底部	緻密	白磁	(6.5)	(2.4)	2.8	肥前	近世		J-233
		I層												
70-14	100-3	I区	磁器	角小皿	口縁～底部	緻密	白磁型押し 綾形文	(8.8)	(4.0)	(2.3)	肥前	近世		J-232
		I層												

第70図 I区I層・II層・攪乱 出土遺物

第1節 I区



攪乱 出土遺物観察表 (陶器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
71-1	100-4	I区 攪乱	陶器	甕	口縁～底部	やや粗	鉄釉	7.65	3.6	3.4	堤	19世紀	目跡×6	I-170

攪乱 出土遺物観察表 (瓦)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
71-2	100-5	I区 攪乱	T字瓦	11.6	(11.2)	5.4		H-31
71-3	100-6	I区 攪乱	鬼瓦	13.2	26.4	3.6		H-36

第71図 I区攪乱 出土遺物

第2節 II区

1 IV層上面

IV層上面で検出された遺構は竹樋2条、溝跡2条、土坑2基、その他の遺構2基の計8基である。調査区東側では竹樋2条の他、枡状遺構1基が検出され、水周り関係の遺構が多い。



第72図 II区 IV層上面遺構配置図

(1) 溝跡

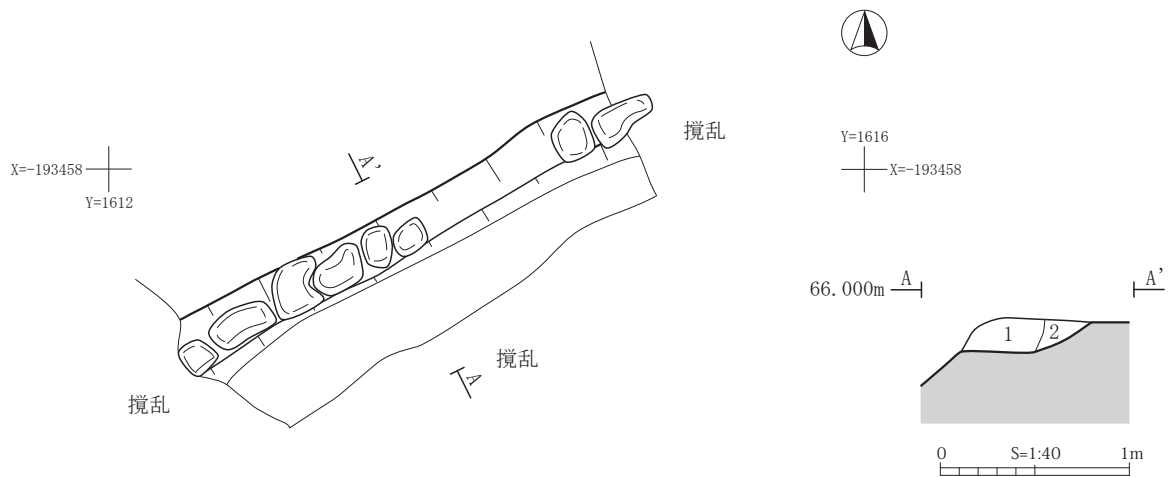
1) SD27 溝跡 (第73図、図版22-1～2)

S6-W69グリッドに位置する。東西方向に走る石組溝である。北側以外は攪乱によって大きく壊され、その先まで延びていた痕跡は見られなかった。

残存する規模は長さ4.9m、北側石の南面からの幅1m、掘り方の幅1.5m、深さ15cmを測る。主軸方向はN-60°-Eを示す。側石には18～34cmの川原石が間を空けて一段並べられている。側石が抜き取られた痕跡はなかった。

堆積土は2層からなり、1層は黄褐色シルトで礫を少量含む溝内堆積土であるが、水流の痕跡は認められなかった。2層は黄灰色シルト質粘土で礫を多量に含む掘り方埋土である。

遺物は出土していない。



SD27 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No.	色				
1	10YR5/6	黄褐色	シルト	なし	あり	径 5 cm以下の礫少量
2	2.5Y6/1	黄灰色	シルト質粘土	ややあり	あり	砂粒、1～2 cmの礫多量 掘り方埋土

第 73 図 SD27 溝跡 平面図・断面図

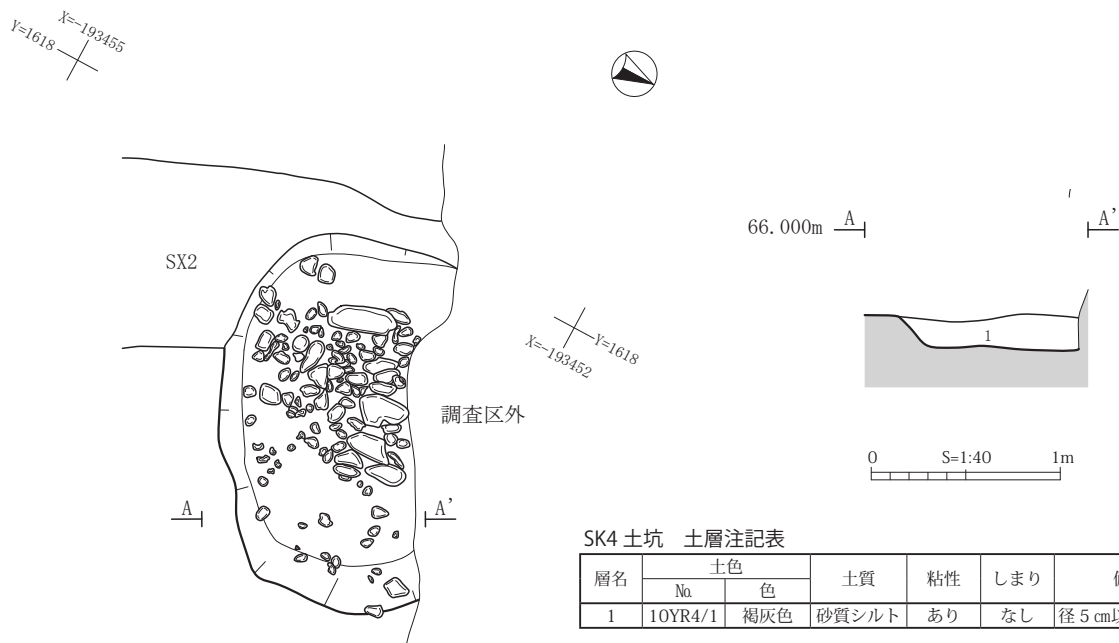
(2) 土坑

1) SK4 土坑 (第 74～75 図、図版 22-3～4)

S6-W69 グリッドに位置する。西側を SX2 によって切られ、北側は調査区外へ広がる。

確認された規模は南北 1 m、東西の残存長 2 m、深さ 16cm を測る。平面形は不整隅丸方形を、断面形は皿状を呈するものと思われる。堆積土は 2 層の礫を含む砂質シルトからなる。

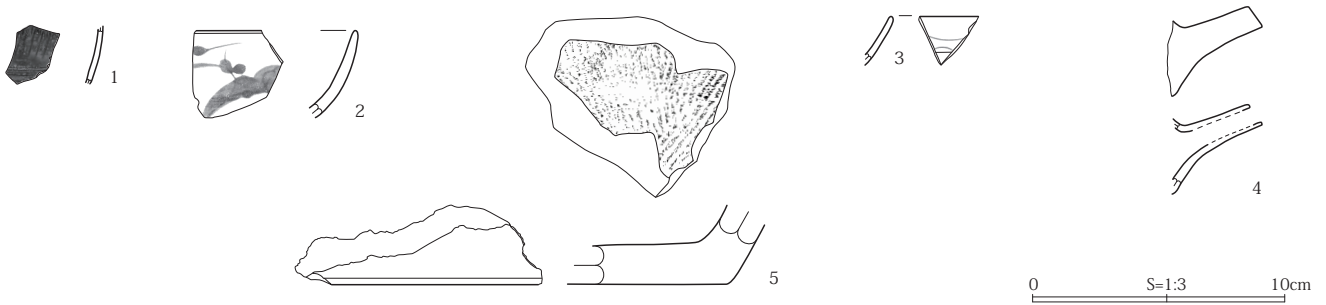
遺物は 18 世紀後半から 19 世紀前半の陶磁器、瓦が出土している。



SK4 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No.	色				
1	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	あり	なし	径 5 cm以下の礫少量

第 74 図 SK4 土坑 平面図・断面図



SK4 土坑 出土遺物観察表 (陶磁器)

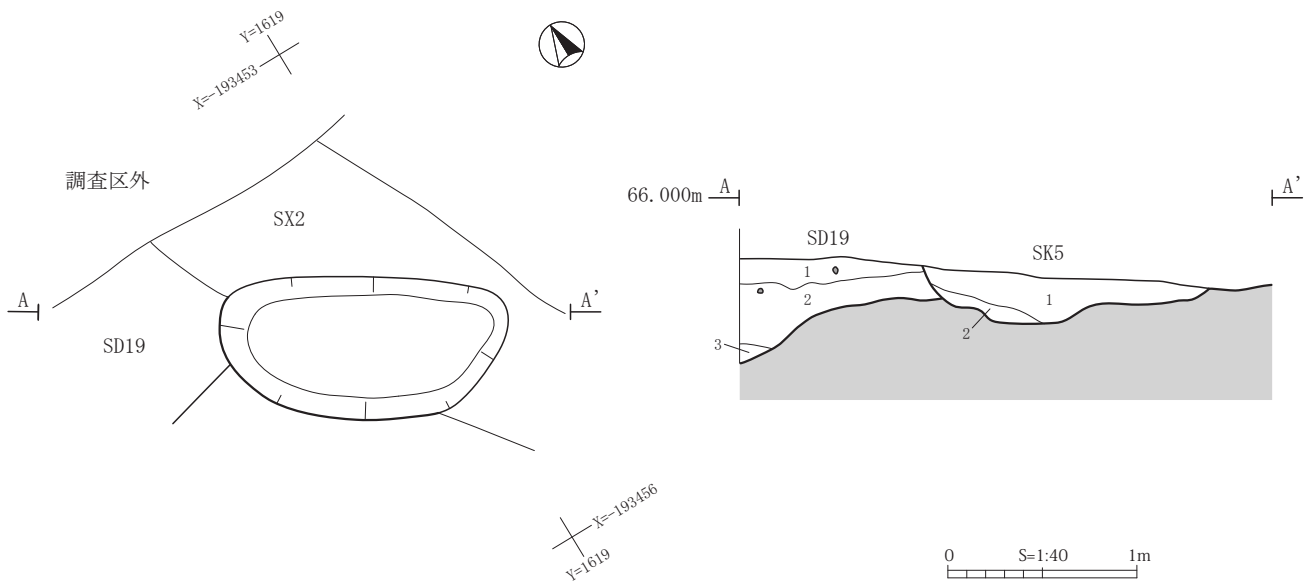
図版番号	写真図版番号	グリッド遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
75-1	101-1	S6-W69 SK4 1層	陶器	碗	体部	密	飴釉	—	—	(2.2)	大堀相馬	19世紀前半～幕末		I-43
75-2	101-2	S6-W69 SK4 埋土一括	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付梅樹文	—	—	(3.5)	肥前 (波佐見)	18世紀後半		J-24
75-3	101-3	S6-W69 SK4 2層	磁器	皿	口縁	緻密	染付	—	—	(1.95)	肥前	18世紀		J-23
75-4	101-4	S6-W69 SK4 2層	陶器	土瓶類	注口部	密	灰釉	—	—	(3.6)	大堀相馬	18世紀		I-42
75-5	101-5	S6-W69 SK4 1層	陶器	播鉢	底部	やや粗	鉄釉	—	—	(3.2)	堤	19世紀前半		I-44

第75図 SK4 土坑 出土遺物

2) SK5 土坑 (第76図、図版 22-5～6)

S6-W69 グリッドに位置する。西端でSD19を切り、中央西側から東にかけてSX2によって上部を壊されている。残存する規模は長軸 1.5m、短軸 75cm、深さ 30cmを測る。平面形は楕円形が推定され、断面形は底面中央が浅くくぼむ皿状を呈する。堆積土は2層の砂質シルトからなる。

遺物は出土していない。



SK5 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No.	色				
1	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	なし	径 5 mmの炭化物微量、径 2 cm以下の礫微量、酸化鉄微量
2	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径 5 mm以下の炭化物微量

第76図 SK5 土坑 平面図・断面図

(3) その他の遺構

1) 1・2号竹樋 (第77～80図、図版22-7～8・23-1～5・24-1～3)

調査区を南北方向に走る竹樋である。プラン検出と調査区北壁の土層観察から2条の竹樋が新旧関係にあることが判明し、東側の古い竹樋を1号竹樋、西側の新しい竹樋を2号竹樋として登録した。1号竹樋は枡部分の調査から2時期あったことが確認された。

[1号竹樋] S5-W67・S5-W68・S6-W67 グリッドに位置する。北側はSD7・SD18・SD33に、北端は2号竹樋によって切られる。中央部分はII区の東端にある1号石垣の裏込め状況を把握するために試掘した際、上部を壊してしまった。試掘トレンチの底面で検出した枡によって南北方向から西方向へ向きを変えたことが確認された。

枡は長方形の底板と側板、やや欠損する蓋板からなり、いずれも一枚板でほぼ完形である。横長の側板には縁より6cm内側にホゾ溝が切れ、もう一方の側板をはめ込んだ外側から和釘で固定している。釘を正確な位置に打ち込むための縦方向の見当線が2条確認された。底板にはホゾ溝は切られておらず、裏から和釘で側板を固定している。蓋板と側板上面には釘を打ち込んだ痕跡が見られず、蓋板は固定されていなかったものと思われる。南側と西側の側板には径約8cmの竹樋を差し込む孔があり、南側板の孔は丁寧な加工によって開けられた痕跡が見られ、西側板の孔は割れ裂いたような荒い作りになっていることが観察された。孔の位置は西側板のほうが4.6cm高く、また、竹樋が北に向かって緩やかな下り傾斜していることから、南側から引いた水を枡で水位を上げ、西方向に流したことが窺える。枡を設置した掘り方の規模は平面72cm×80cm、深さ44cmを測る。平面形は不整五角形で、断面形は方形を呈する。枡に接続して南方向に走る竹樋の痕跡は長さ6.6m、径約8cmを測る。本来は継手などの接続材があったものと考えられる。掘り方の規模は長さ6.7m、幅54～66cm、深さ83cmを測る。断面形はU字形を呈する。主軸方向はN-25°-Wを示す。

枡から西方向に走る長さ3.94m、径約8cmを測る竹樋が1条検出された。枡近くでは原形を留め、枡に差し込まれている状態が確認されたが上部の大半は腐食して消失する。その先は竹樋痕が調査区外へ延びる。継手などの接続材は残存していない。確認された掘り方の規模は長さ5.9m、幅40～58cm、深さ64cmを測り、断面形は開いたU字形を呈する。竹樋の主軸方向はN-67.5°-Wを示す。

枡でつながる竹樋を完掘した後に、枡から北方向に走る竹樋痕を検出した。竹樋1条、竹樋痕1条、継手1基からなる。継手の北側にはほぼ原形を保つ竹樋が遺存する。竹樋は径約6.5cmで、継手に差し込まれており、継手から調査区北壁までの間で確認された長さは1.9mを測る。継手から南側では長さ2.4m、径約5cmの竹樋痕が枡に向かって延びる。継手は縦14cm、横23.6cm、高さ15cmの角材に、径約7cmと径約5cmの孔を両側から貫通させ、大きい孔の方を北に向けて設置している。北面の孔の径と差し込まれた竹樋の外径とは合わず、隙間が生じているが特に水漏れを防ぐような材は検出されなかった。確認された掘り方の規模は長さ4.60m、幅42～56cm、深さ25cmを測り、断面形は開いたU字形を呈する。主軸方向はN-25°-Wを示し、枡から南に走る竹樋痕と同じ樋線にある。また双方の標高差は北側の方が低く、これらのことから、もともとは南北方向に直線的につながり竹樋によって北方向に水を流していたが、何らかの理由で枡を設置することによって西方向に流れを変えたものと推測される。

竹樋の堆積土は5層からなり、1層は礫を少量含む灰黄褐色シルト、2層は礫を微量に含むにぶい黄褐色粘土質シルト、4層は褐灰色の粘土、5層は黄褐色シルトで掘り方埋土である。3層は灰黄褐色の砂で、竹樋内の堆積土である。枡の堆積土は5層からなり、粘土もしくは砂質シルトである。1層は竹樋内の堆積土、2層は枡内の堆積土、3～5層は掘り方埋土である。

遺物は瓦、磁器、木製品等が出土している。

[2号竹樋] S5-W68・S6-W67・S6-W68 グリッドに位置する。中央と北側を攪乱に壊され、SD18によって切られる。南側、北側ともに調査区外へ延びる。攪乱によって枡が壊されていることから、北側の2条の竹樋に新旧関係があるのか、それとも同時期に機能していたかは不明である。しかしながら東に構築された1号竹樋と方位や構造が類似していることから当該遺構にも時期差があり、枡を設置して西方向に走る竹樋につけかえた可能性が考えられる。枡は西側板以外は攪乱によって大きく壊され、蓋板は残存していない。北側と南側の側板は一枚板で、縁際にホゾ溝が切られる。そこに西側板をはめ込み、外側から和釘で固定している。釘を打ち込むための縦方向の見当線が確認された。西側板は2枚の板を鉄製の合釘で接合させている。底板は2枚の板が使われており、合釘などによる接合の痕跡は見られない。ホゾ溝は切られず、裏から和釘で側板を固定している。竹樋を差し込む孔は径約7cmを測り、南側板からのみ検出された。枡を設置した掘り方の規模は平面が96×102cm、深さ34cmを測る。平面形は不整形を、断面形は方形を呈するものと思われる。

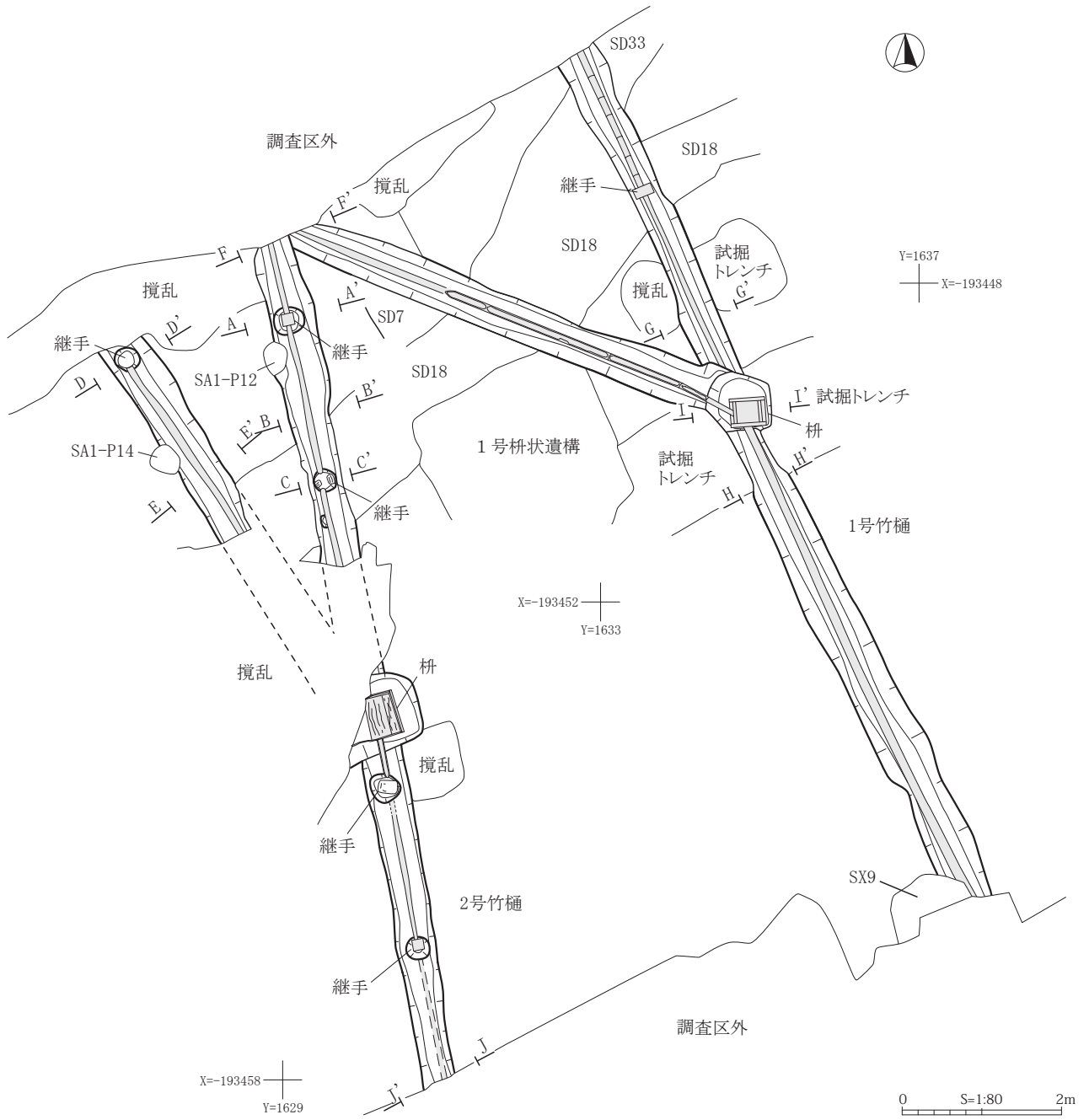
枡に接続して南方向に走る竹樋が1条検出され、継手の痕跡が2箇所確認された。南端では竹樋の痕跡のみ遺存する。枡の南側板から北側の継手痕までの距離は52cm、北側と南側の継手痕の距離2.02mを測る。枡の北側で確認された継手の距離は2mで南側と同じである。北側の継手痕の底面は16×24cmの長方形、南側は14×14cmの方形を呈し、高さは不明である。竹樋は枡から北側の継手痕の間に遺存し、径約7cmを測る。上部は腐食し消失する。竹樋痕は径約7cmで、継手痕の間で約1.75mが確認された。掘り方の規模は長さ4.2m、幅40～56cm、深さ66cmを測る。竹樋の主軸方向はN-11.5°-Eを示す。枡の北西方向からは、長さ2.12m、径約8cmの竹樋痕が1条と、継手を設置したと考えられる浅い掘り込みが検出された。竹樋痕の主軸方向はN-34°-Wを示す。掘り方の規模は長さ2.88m、幅50～58cm、深さ50cmを測る。断面形はU字形を呈する。

枡の北方向からは、竹樋痕1条・継手1基・継手痕1基が検出された。継手は縦15.4cm、横15.5cm、高さ27cmの角材に、径約6.5～8cmの楕円形の孔を開けている。両側面には幅8.5cm、深さ1.4cmのホゾ溝が切られ、何らかの部材を転用したものと考えられる。

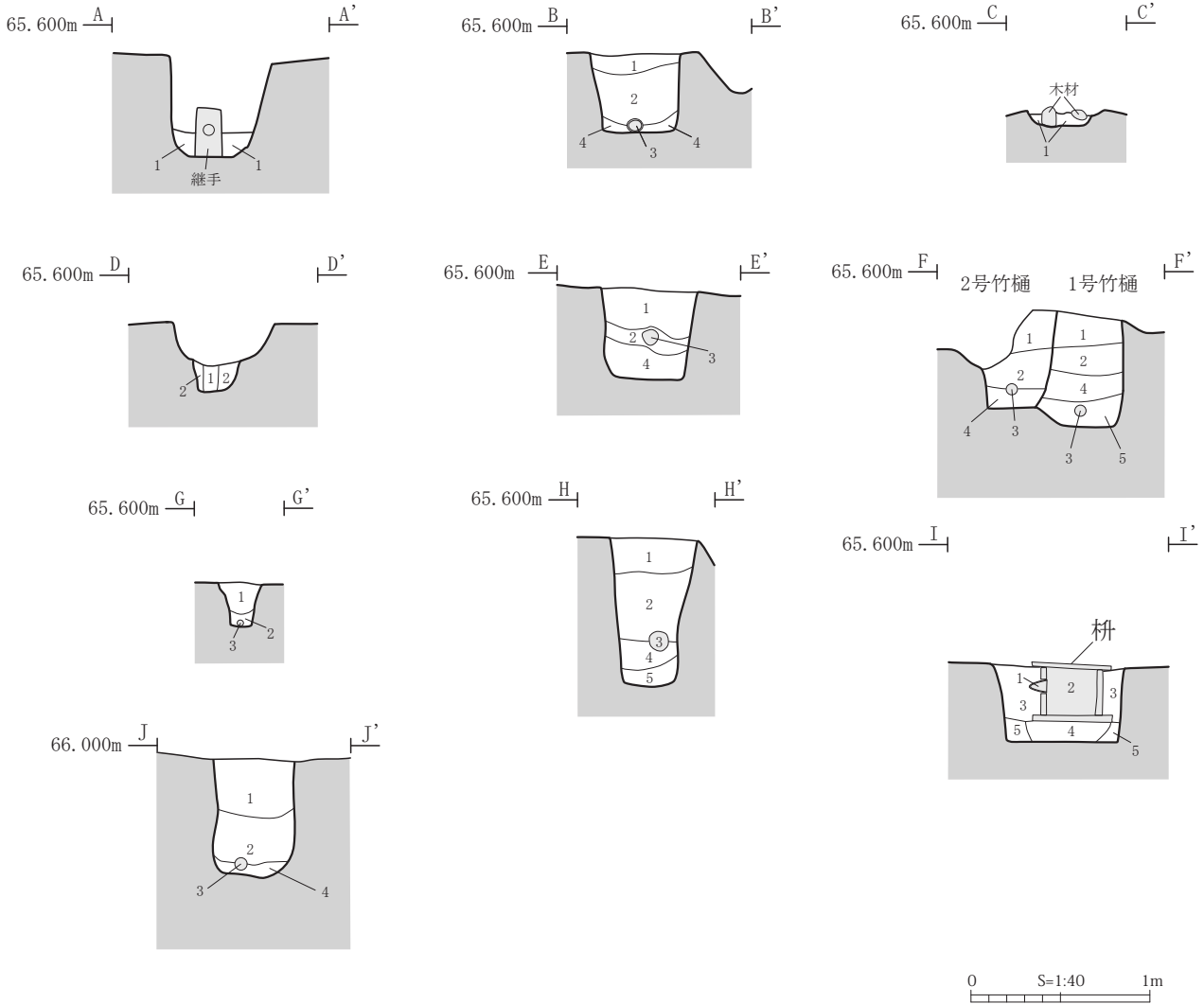
継手痕は木質がわずかに残存するだけで形状は不明である。

堆積土は4層からなる。1～2層は竹樋埋設後の埋め戻し土、3層は竹樋内の堆積土、4層は掘り方埋土である。

遺物は杭、枡、継手等が出土している。



第77図 1・2号竹樋 平面図



1号竹樋 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	なし	あり	径5mm以下の黄褐色土粒少量 径5cm以下の灰白色粘土粒少量 径2cm以下の礫少量
2	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	径3cm以下の褐灰色土粒多量 径5cm以下の灰白色粘土粒少量 径2cm以下の礫微量
3	10YR5/2	灰黄褐色	砂	なし	なし	
4	10YR5/1	褐灰色	粘土	あり	あり	径5～10cmのにぶい黄橙色粘土多量
5	10YR5/6	黄褐色	シルト	なし	あり	径5mm以下の灰白色粘土少量

1号竹樋桁 土層注記表

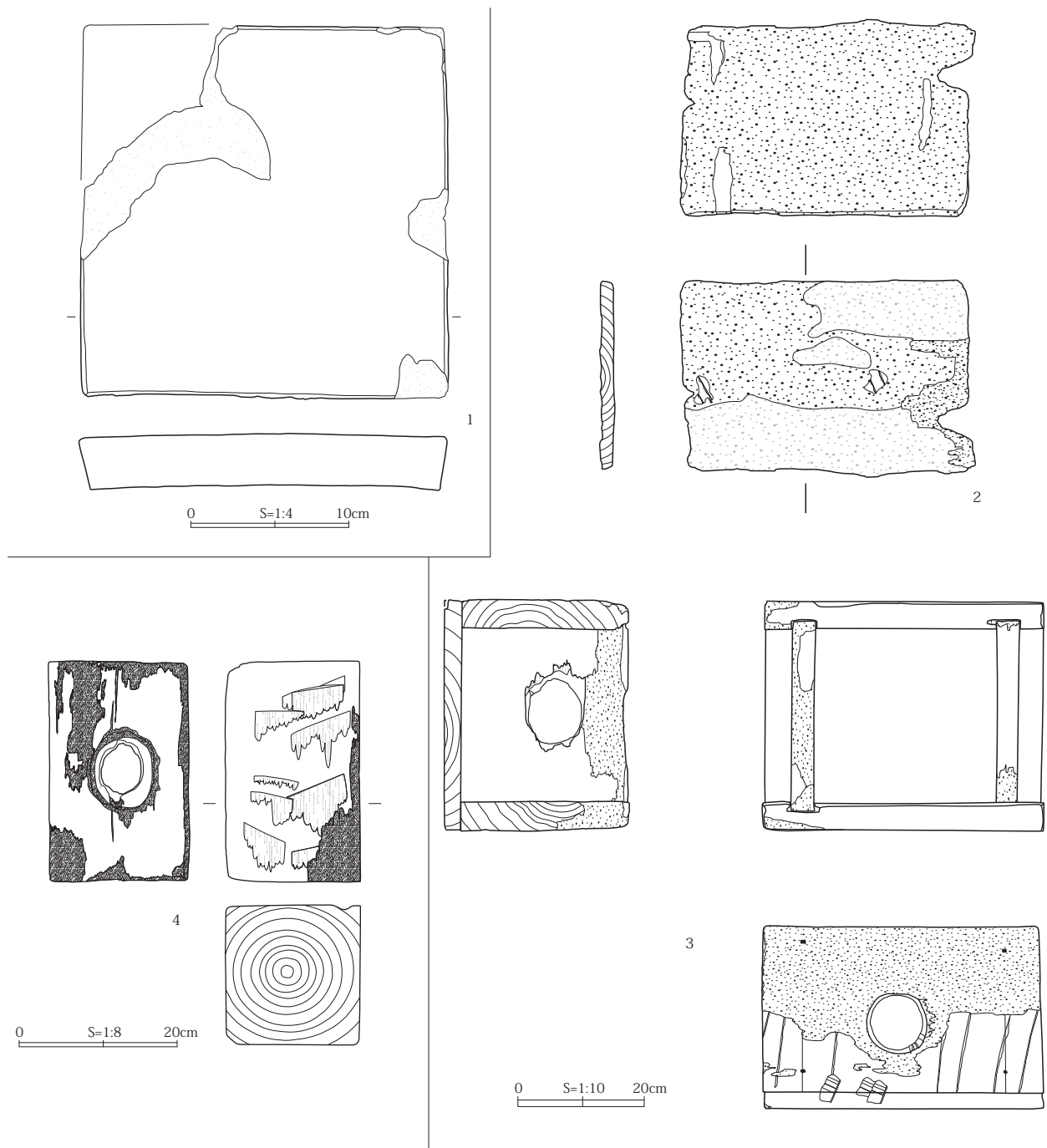
層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR4/2	灰黄褐色	粘土	あり	なし	竹樋内堆積土
2	10YR5/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	なし	綺状に酸化砂が混入
3	10Y7/1	灰白色	粘土	あり	あり	10BG7/1 明青灰色粘土粒の混層
4	5G5/1	緑灰色	粘土	あり	なし	径2cm以下の礫少量 径10mm以下の5G3/1 暗緑灰色粘土粒少量
5	10YR6/3	にぶい黄褐色	粘土	あり	あり	径5cm以下の礫やや多量 径10mm以下の褐灰色土粒多量 径1mm以下の酸化砂多量

2号竹樋 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	なし	あり	径5cm以下の褐灰色土粒多量
2	10YR6/1	褐灰色	シルト	あり	あり	径5cm以下の礫・灰白色土粒少量
3	10YR5/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	なし	砂多量
4	5G3/1	暗緑灰色	粘土	あり	なし	径3cm以下の礫多量

第78図 1・2号竹樋 断面図

第2節 II区



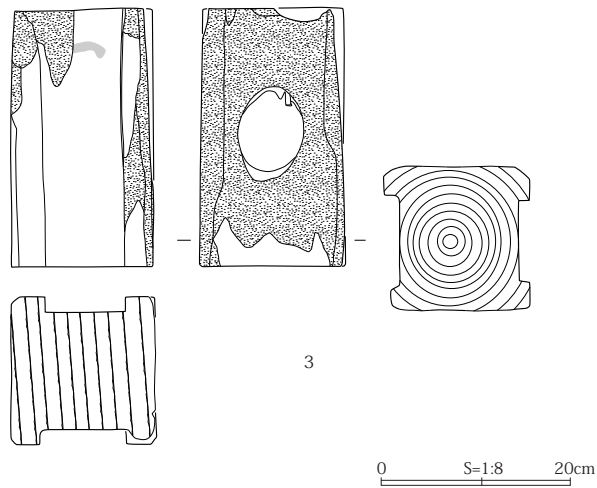
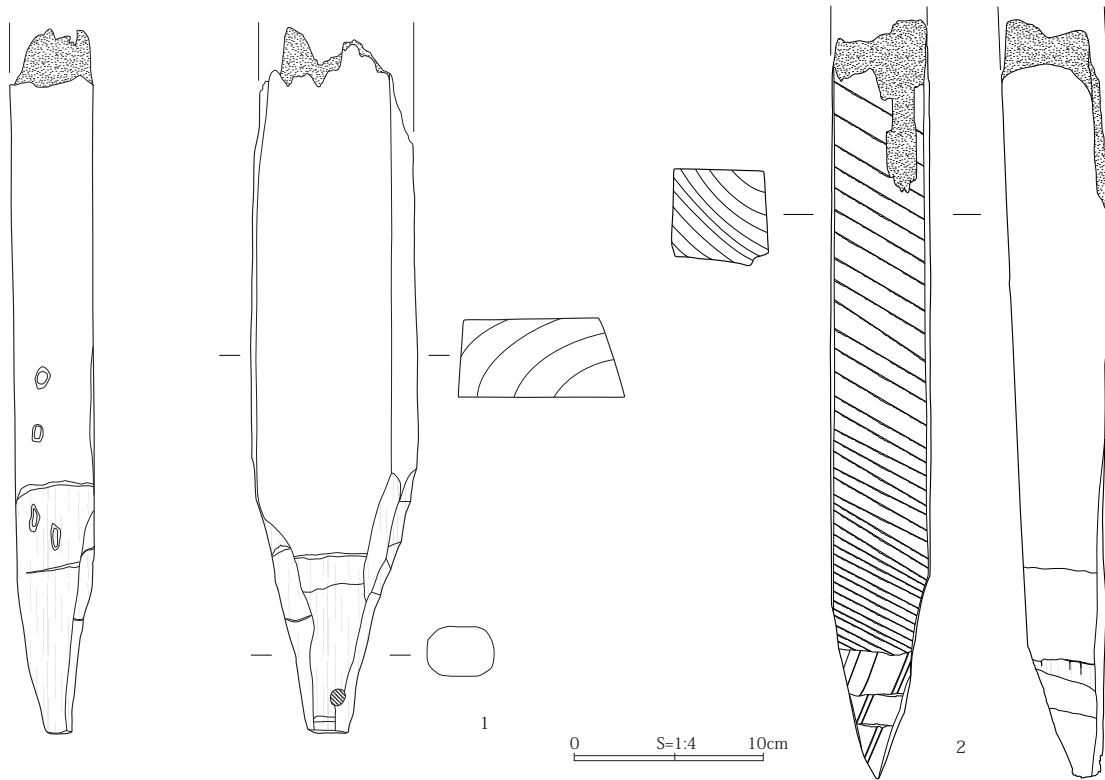
1号竹槨 出土遺物観察表 (瓦)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
79-1	101-6	S5・6 - W67・68 1号竹槨 1層	熨斗瓦	23.6	23.2	3.2		H-13

1号竹槨 出土遺物観察表 (木製品)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
79-2	101-7	S5・6 - W67・68 1号竹槨	蓋	29.5	45.5	2	柁と接する部分は残存良好	L-36
79-3	101-8	S5・6 - W67・68 1号竹槨	柁	36	50	29	見当線あり 側面の孔は調整不良	L-35
79-4	101-9	S5・6 - W67・68 1号竹槨	継手	23.6	16.4	14	柱材転用か	L-37

第79図 1号竹槨 出土遺物



2号竹樋 出土遺物観察表（木製品）

図版番号	写真図版 番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備 考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
80-1	101-10	SD8-P4	杭	36.4	8.8	4		L-31
80-2	101-11	SD8-P4	杭	40.4	4.8	4.8	鋸痕明瞭	L-30
80-3	101-12	SD8-P1	継手	27.2	15.4	15.2	墨書あり 柱材転用	L-29

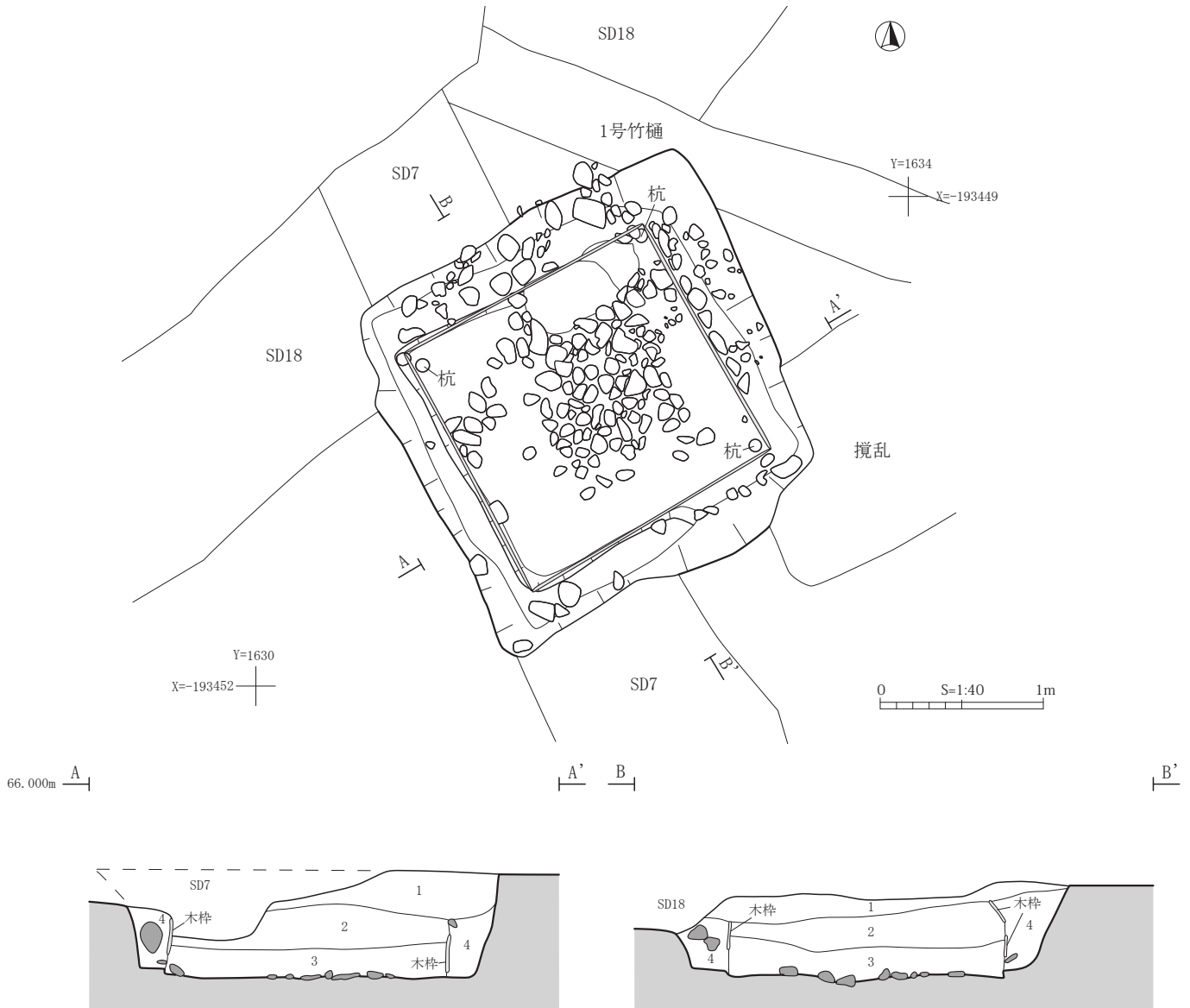
第80図 2号竹樋 出土遺物

第2節 II区

2) 1号枡状遺構 (第81～82図、図版24-4～5・25-1～3)

S-W67・S6-W67グリッドに位置する。北東隅で1号竹樋を切り、中央から西側をSD7に、北辺をSD18によって壊される。

長さ156～168cm、幅15～24cm、厚さ2～3cmの板材を横置きにした、内法160×164cm、深さ52cmを測る方形の木枠を検出した。内側隅には杭が打ち込まれ、板材を支えていたことが窺える。底面には8～20cmの円礫が敷かれる。掘り方の規模は232～235cm、深さ65cmを測り、裏込めには6～15cmの円礫がやや多く使用されている。断面形は方形～深皿状を呈する。



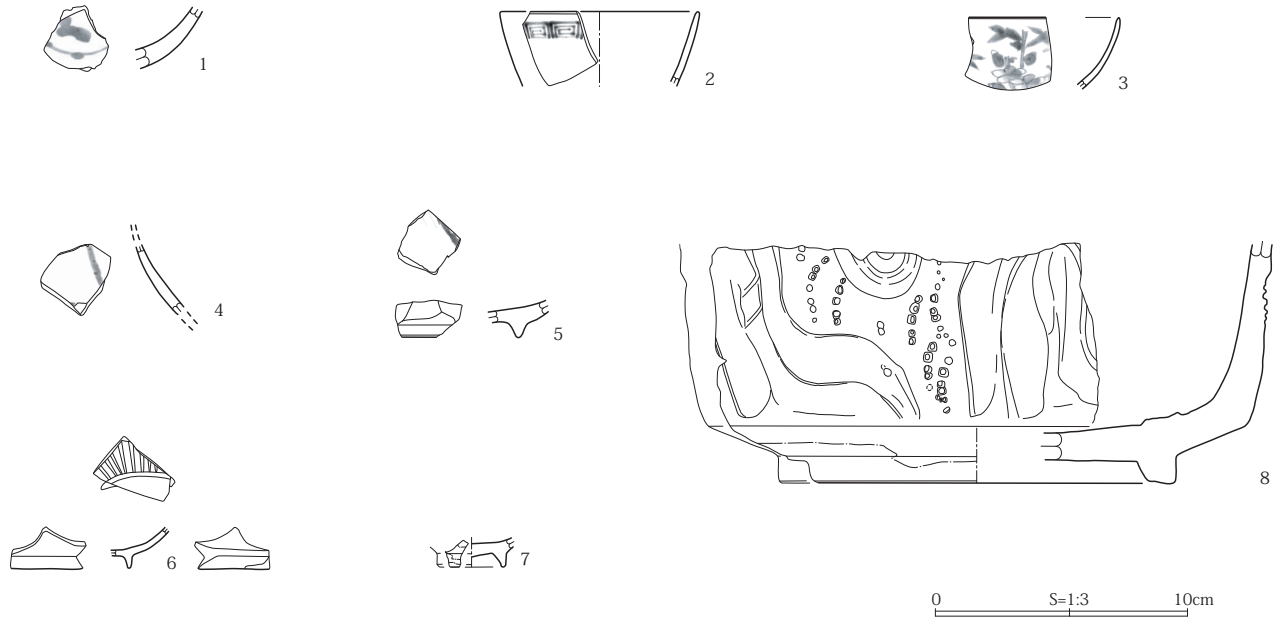
1号枡状遺構 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	10YR4/1	褐灰色	シルト	なし	なし	径3cm以下黄褐色土粒少量
2	10YR5/6	黄褐色	砂	なし	なし	酸化鉄を帯状に含む
3	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	あり	酸化鉄を少量混入
4	10YR5/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	あり	15cm以下の礫多量 10mm以下白色シルト粒多量 5mm以下暗褐色シルト粒多量

第81図 1号枡状遺構 平面図・断面図

堆積土は4層からなり、1～3層は木枠内の堆積土、4層は掘り方埋土である。

遺物は17世紀代の中国産磁器、肥前産磁器、18世紀前半～19世紀中頃の肥前産（波佐見産を含む）、瀬戸・美濃産等の陶磁器、瓦、杭等が出土している。



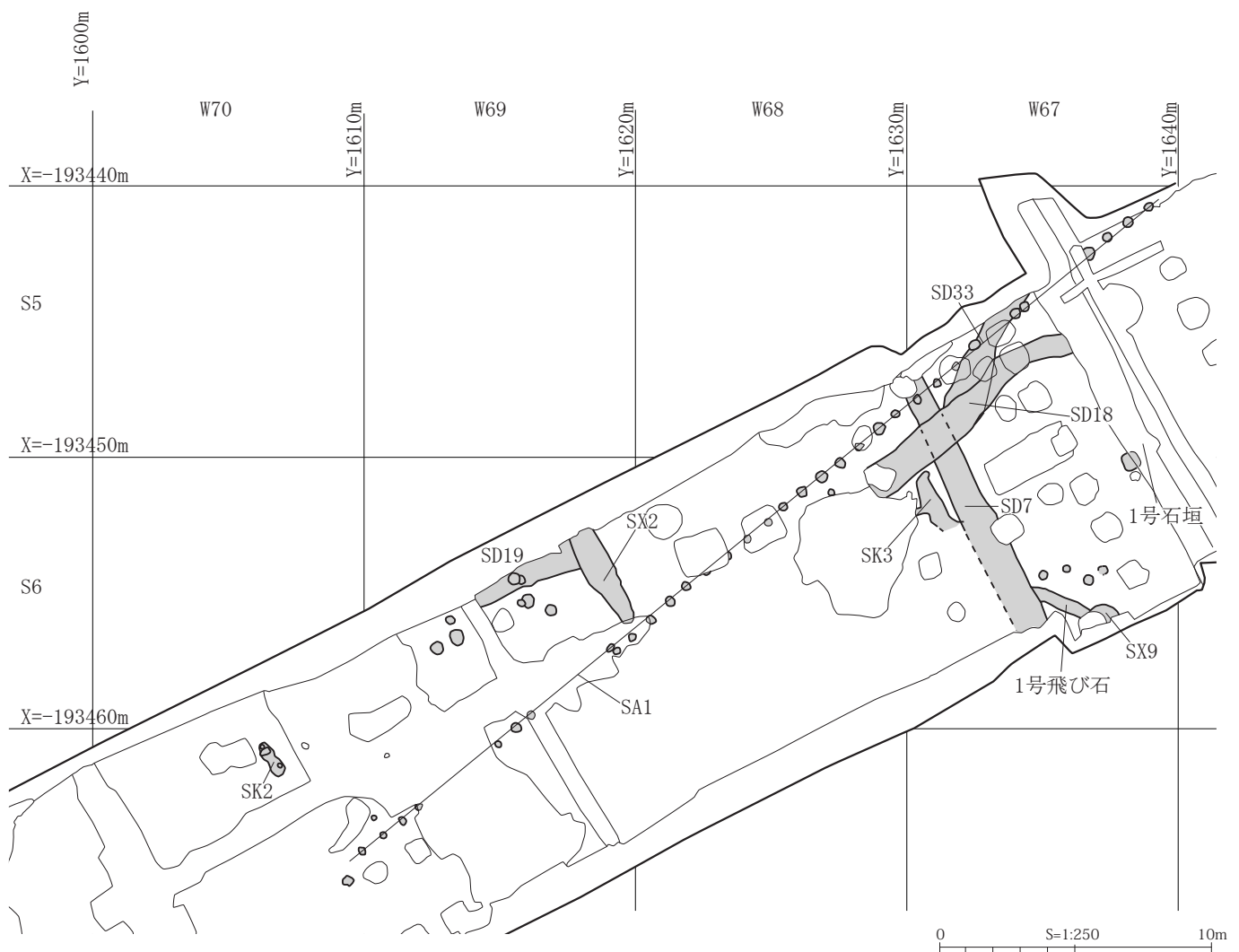
1号柵状遺構 出土遺物観察表（陶磁器）

図版 番号	写真図版 番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録 番号
								口径	底径	器高				
82-1	102-2	S5・6-W67 1号柵状遺構 2層	磁器	碗?	体部	緻密	染付草花文	—	—	(2.5)	肥前(波佐見)	18世紀前半		I-95
82-2	102-3	S5・6-W67 1号柵状遺構 2層	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付雷文	—	—	(3.0)	肥前	19世紀		J-54
82-3	102-4	S5・6-W67 1号柵状遺構 4層	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付草花文	—	—	(2.9)	肥前	18世紀前半?		J-52
82-4	102-5	S5・6-W67 1号柵状遺構 2層	磁器	瓶?	頸部	緻密	染付	—	—	(2.3)	肥前(波佐見)	近世		J-53
82-5	102-6	S5・6-W67 1号柵状遺構 2層	磁器	皿	底部	緻密	染付	—	—	(1.5)	肥前	17世紀代		I-79
82-6	102-7	S5・6-W67 1号柵状遺構 2層	磁器	碗	体部～底部	緻密	青花型押蓮弁文	—	—	(1.7)	中国	17世紀前半		J-55
82-7	102-8	S5・6-W67 1号柵状遺構 2層	陶器	小鉢	底部	緻密	鉄釉・瑠璃釉	—	(2.6)	(1.2)	肥前?	19世紀中頃	被熱	I-80
82-8	102-9	S5・6-W67 1号柵状遺構 4層	陶器	水甕	体部～底部	緻密	緑釉	—	(7.85)	(9.6)	瀬戸・美濃	19世紀前半		I-28

第82図 1号柵状遺構 出土遺物

2 III層上面

III層上面で検出された遺構は柱列跡1条、溝跡4条、土坑2基、ピット18基、その他の遺構3基の計28基である。



第83図 II区 III層上面遺構配置図

(1) 柱列跡

1) SA1 柱列跡 (第84～87図、図版25-4・26-1～2)

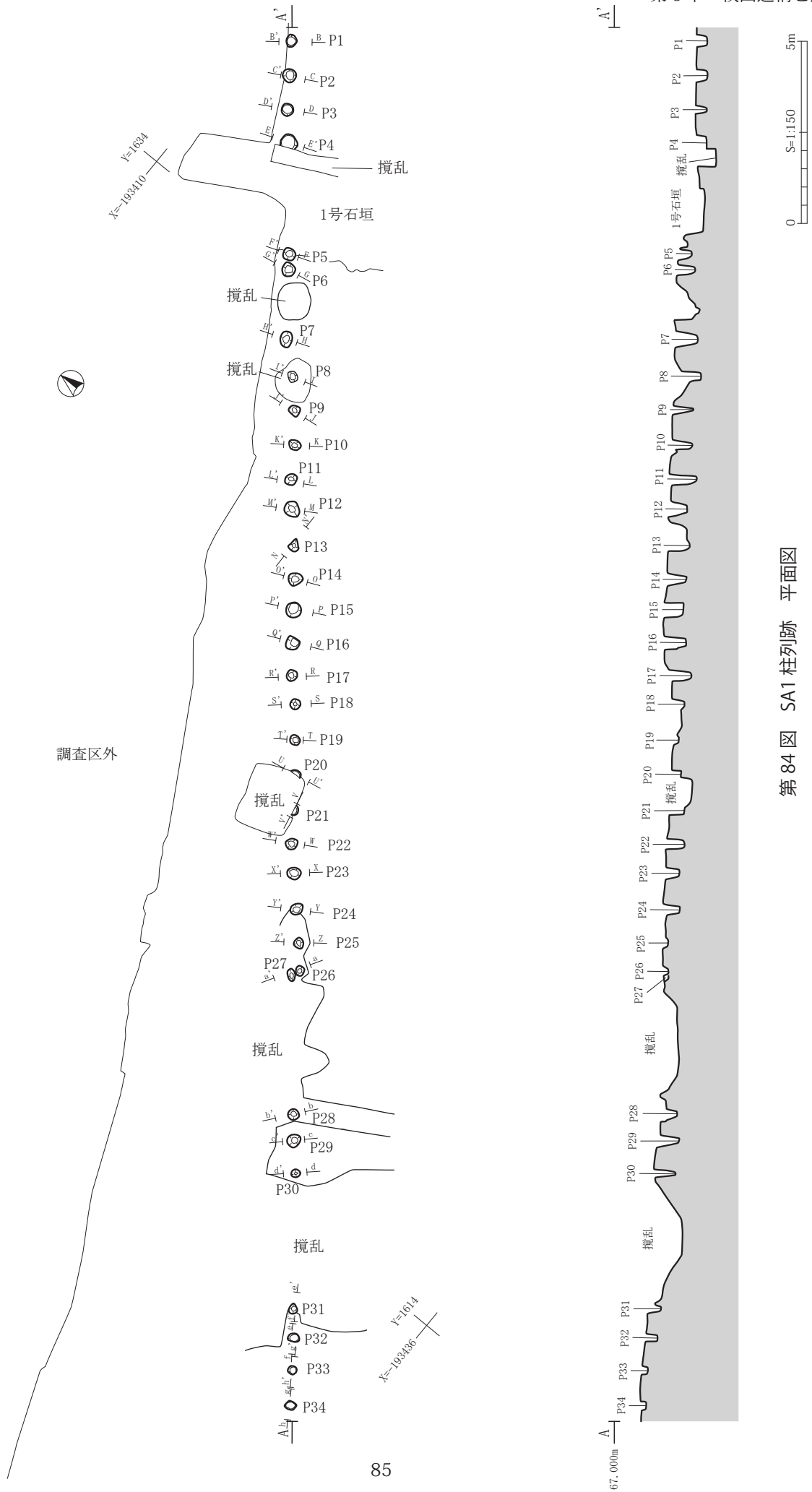
S5-W67～S7-W70グリッドに位置する。東西方向に直線的に並ぶ34基の柱穴からなる。西側は攪乱によって寸断され、西端は途切れるが、近代の整地時に削平されたことも考えられる。東端は調査区外に延びる可能性がある。

1号・2号竹樋・SD7・SD33を切り、西側は1号石垣によって壊される。

P24・P25には径12～13cm、高さ約20cmの丸材が遺存し、P3では径18cm、P15では径9cmの柱痕が検出された。P5・P8・P12・P36では、根固めのために入れたと思われる石が検出された。掘り方の平面形は不整楕円形を、断面形はU字形を呈する。

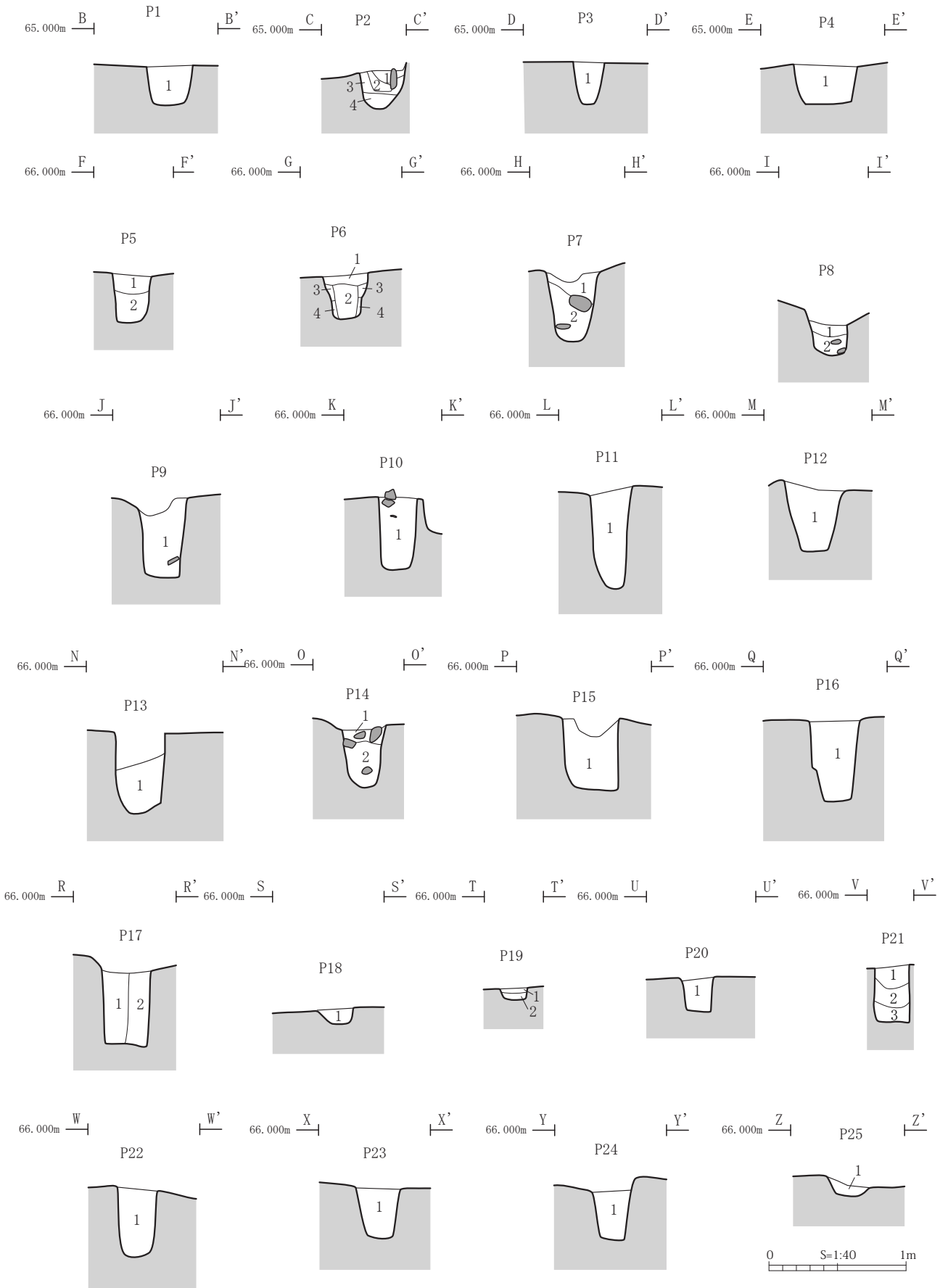
確認された長さは37mで、柱間寸法は95cm(3尺1寸)を中心に、71cm(2尺3寸)～103cm(3尺4寸)を測る。主軸方向はN-51°-Eを示す。

遺物は瓦、瓦質土器火鉢等が出土している。

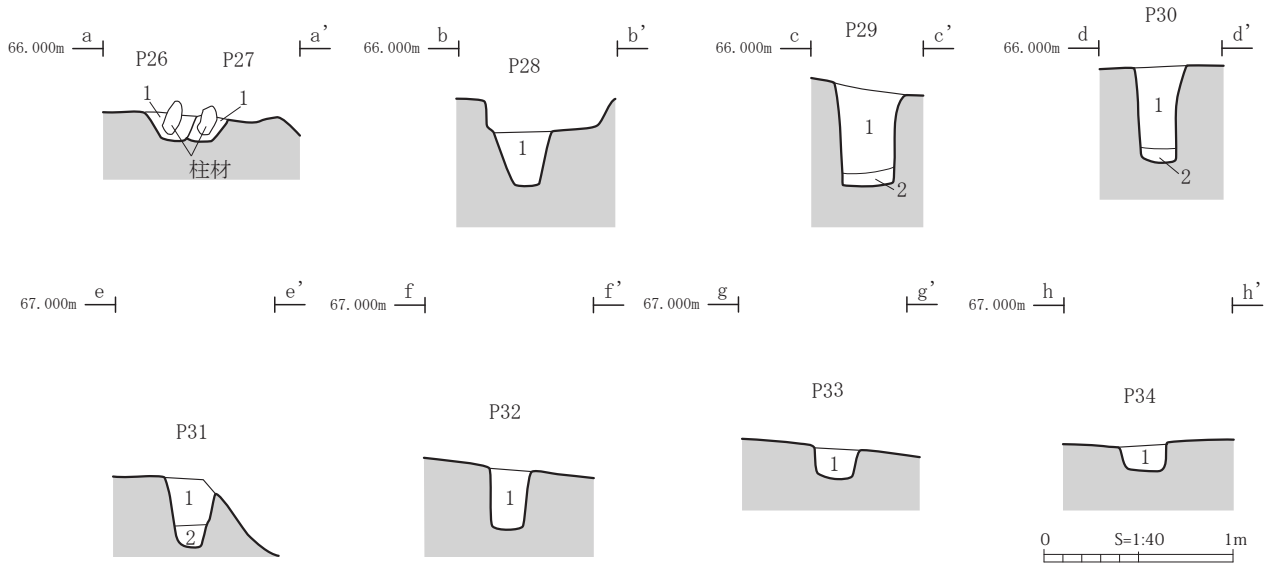


第84図 SA1柱列跡 平面図

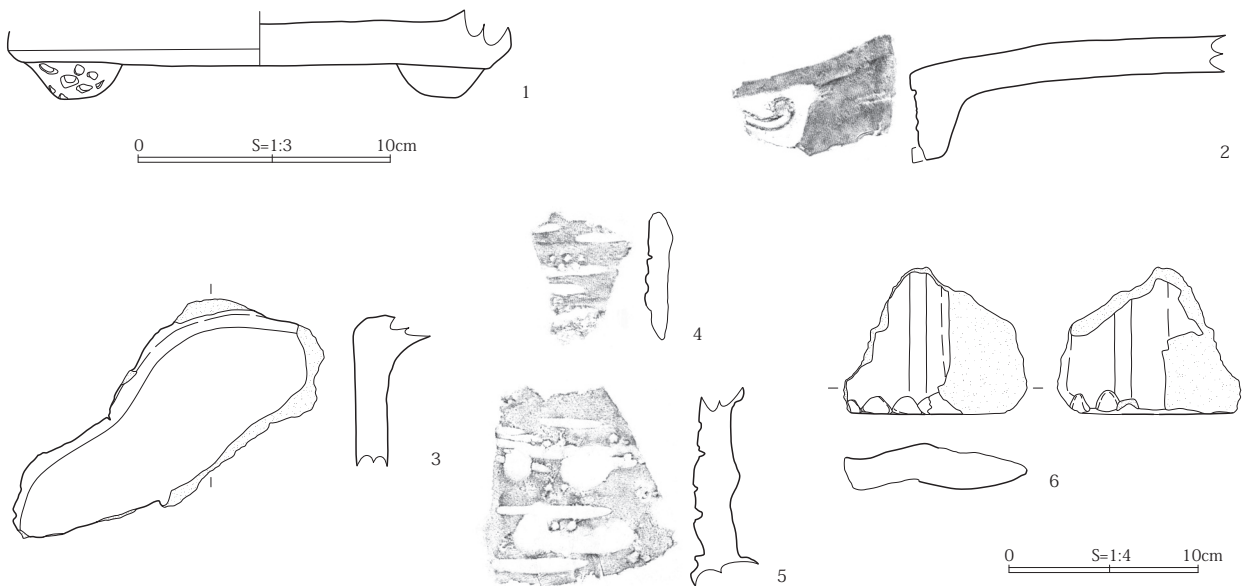
第2節 II区



第85图 SA1柱列跡 断面图



第 86 図 SA1 柱列跡 断面図



SA1 柱列跡 出土遺物観察表 (陶器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
87-1	102-10	S5-W67 SA1-P4 1層	瓦質土器	火鉢	底部・脚部	粗	—	—	18.1	(2.7)	在地	近世		I-208

SA1 柱列跡 出土遺物観察表 (瓦)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
87-2	102-11	S5-W67	鬼瓦	4.8	8.8	2.8	唐草文	G-8
		SA1-P2 1層						
87-3	102-13	S5-W67	鬼瓦類	9.2	18.8	1.6		H-9
		SA1-P2 1層						
87-4	102-12	S5-W67	鬼瓦類	6.8	5.2	1.2	陰刻	H-10
		SA1-P2 2層						
87-5	102-15	S5-W67	鬼瓦類	10.8	10	2.4	陰刻	H-11
		SA1-P2 2層						
87-6	102-14	S6-W68	鬼瓦類	7.6	9.6	2.0		H-12
		SA1-P16 1層						

第 87 図 SA1 柱列跡 出土遺物

第2節 II区

SA1 柱列跡 土層注記表

ピット番号	層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
		No	色				
SA1-P1	1	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	なし	径 20 cm以下の礫多量
SA1-P2	1	10YR4/4	褐色	粘土	あり	なし	柱痕
	2	10YR5/1	褐灰色	砂質シルト	なし	なし	径 3 cm以下の灰白色土粒少量
	3	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	あり	径 10 cm以下の礫多量
	4	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	あり	径 10 cm以下の礫少量
SA1-P3	1	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	なし	径 20 cm以下の礫多量
SA1-P4	1	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	なし	径 20 cm以下の礫多量
SA1-P5	1	10YR5/1	褐灰色	砂質シルト	なし	なし	径 5 mm未満の白色ローム粒少量
	2	10YR5/2	灰黄色	砂質シルト	なし	なし	
SA1-P6	1	10YR4/3	褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄多量
	2	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	なし	径 1 cm以下の炭化物微量 柱痕
	3	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	
	4	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	あり	あり	酸化鉄微量
SA1-P7	1	10YR5/1	褐灰色	シルト	なし	なし	径 5 cm以下の礫微量 径 1 cm以下の炭化物微量
	2	10YR4/1	褐灰色	シルト	なし	なし	径 10 cmの礫少量 径 1 cm以下の灰白色土粒少量
SA1-P8	1	2.5YR3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5YR6/2 灰黄色シルト土粒少量
	2	2.5YR4/2	暗灰黄色	砂質シルト	あり	あり	径 6 cm程度の石微量
SA1-P9	1	10YR5/2	灰黄色	砂質シルト	なし	なし	径 1 cmの礫微量 酸化粒少量 径 1 mm炭化物微量
SA1-P10	1	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	なし	なし	径 5 cm以下の礫やや多量、径 5 cm以下の黄褐色土粒少量
SA1-P11	1	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	あり	径 10 cm以下の礫少量
SA1-P12	1	10YR5/1	褐灰色	シルト	なし	あり	径 5 cm以下の礫微量
SA1-P13	1	2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	ややあり	あり	黄灰色シルト多量、10 cm程度の礫と炭化物を微量
SA1-P14	1	10YR4/3	褐色	砂質	なし	なし	径 10 cm以下の礫微量、酸化鉄、炭化物多量 瓦片含む
	2	2.5YR5/3	黄褐色	砂質シルト	あり	あり	酸化鉄多量
SA1-P15	1	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	ややあり	なし	径 20 cm以下の礫少量 径 5 mm以下の明黄褐色土粒少量
SA1-P16	1	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	ややあり	あり	酸化鉄、瓦片、径 18 cm以下の礫多量
SA1-P17	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	あり	あり	柱痕 径 2 mm以下炭化物少量
	2	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘質シルト	あり	あり	径 5 cmの礫微量
SA1-P18	1	10YR7/2	にぶい黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	径 3 cm以下の暗褐色土粒多量
SA1-P19	1	7.5YR4/6	褐色	砂質シルト	なし	なし	径 2 cm以下の礫少量
	2	10YR4/2	灰黄褐色	粘土	あり	あり	
SA1-P20	1	5G5/1	緑灰色	粘土質シルト	あり	なし	径 5 cm以下の礫微量 径 1 cm以下の炭化物少量
SA1-P21	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	あり	なし	径 5 mm以下の礫・炭化物微量 一部緑灰色シルトにグライ化
	2	2.5Y4/4	オリーブ褐色	シルト	あり	あり	径 5 mm以下の礫微量 一部緑灰色シルトにグライ化
	3	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	ややあり	なし	酸化鉄多量 一部緑灰色にグライ化
SA1-P22	1	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	あり	径 10 cm以下の礫微量、径 5 cm以下の褐色土粒多量
SA1-P23	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト			酸化鉄少量
SA1-P24	1	10YR4/1	褐灰色	粘土	あり	あり	径 3 mm以下の炭化物多量
SA1-P25	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	なし	径 2 cm以下の明黄褐色土粒少量
SA1-P26	1	10YR4/1	褐灰色	粘土	あり	あり	径 1 cm以下の礫微量
SA1-P27	1	10YR5/1	褐灰色	粘土	あり	あり	径 2 cm以下の礫微量
SA1-P28	1	10YR5/2	灰黄褐色	粘土	あり	あり	径 10 cm以下の礫少量 径 1 cm以下の灰白色土粒少量
SA1-P29	1	10YR2/2	黒褐色	シルト	なし	なし	径 1 cm以下の炭化物微量
	2	10YR5/2	灰黄褐色	粘土	あり	あり	径 1 cmの酸化粒少量
SA1-P30	1	10YR2/2	黒褐色	シルト	なし	なし	径 1 cm以下の炭化物微量
	2	10YR5/2	灰黄褐色	粘土	あり	あり	径 1 cmの酸化粒少量
SA1-P31	1	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	あり	径 10 cm以下の礫少量
	2	10YR5/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	あり	径 5 cm以下の灰白色土粒少量
SA1-P32	1	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	あり	径 10 cm以下の礫少量
SA1-P33	1	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	あり	径 10 cm以下の礫少量
SA1-P34	1	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	あり	径 10 cm以下の礫少量

(2) 溝跡

1) SD7 溝跡 (第 88 ~ 89 図、図版 26-3 ~ 7・27-1)

S5-W67 ~ S6-W67 グリッドに位置する。南北方向に走る石組溝である。北端は攪乱によって壊され、中央北側でSD18を、その南で1号枡状遺構を切る。南側は攪乱によって西側石が壊される。南北両側ともに調査区外へ延びる。

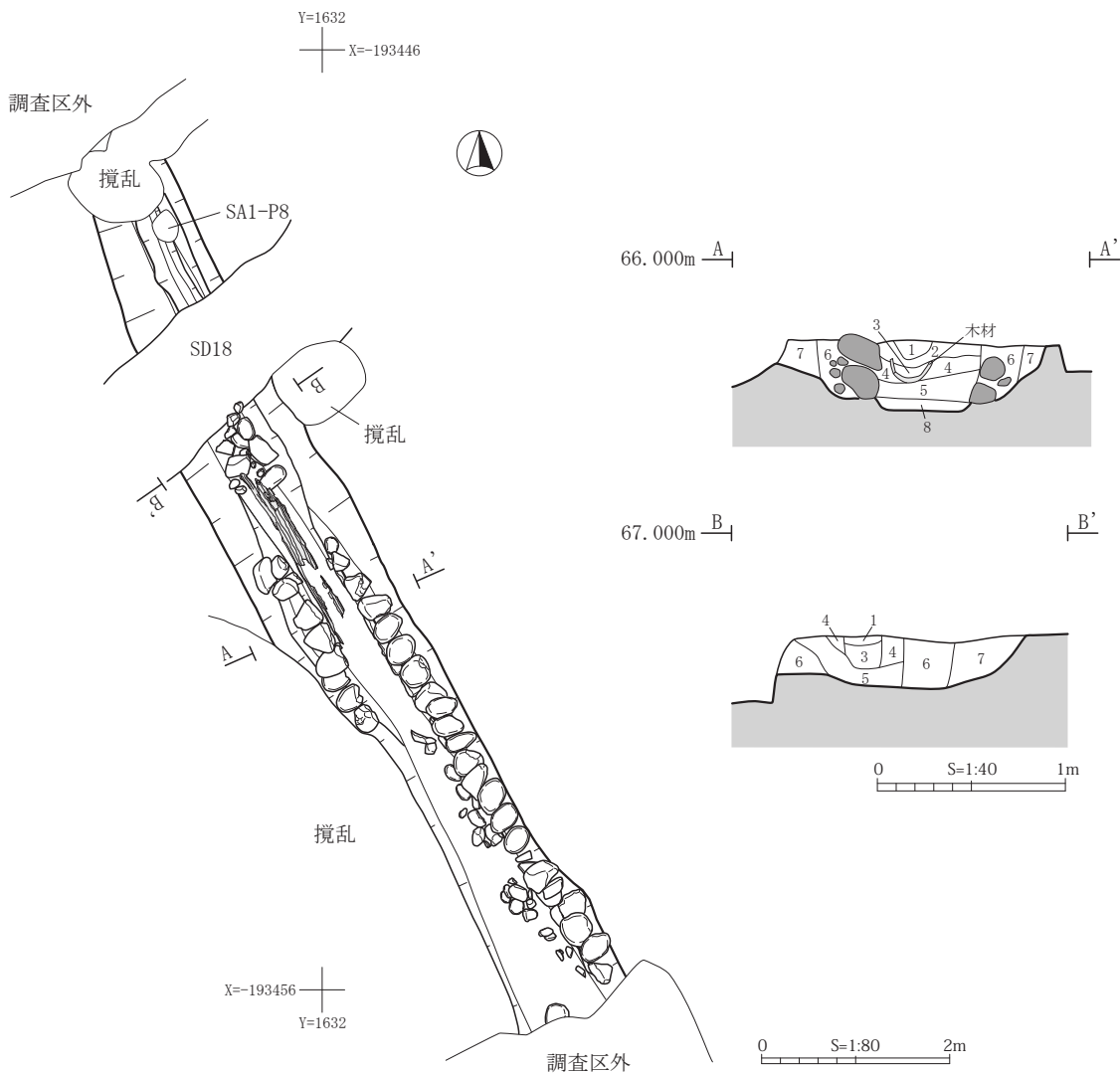
確認された規模は長さ 10.7m、側石と側石の内幅 40cm、掘り方の幅 1.4m、深さ 40cm を測る。断面形は開いた U 字形を呈し、側石間の底面は浅く窪む。

側石は SD18 より南側でのみ検出された。30 ~ 40cm の端部を打ち欠いた川原石と、未加工のものとを 2 段積む

が、特に使い分けされていない。北端の側石は崩落して溝中央に落ち込んだものと考えられる。底面は素掘りのままで石敷きなどは施されていない。裏込めには3～5cmの礫が少量含まれる。主軸方向はN-32°-Wを示す。堆積土の中層からは長さ5.3m、幅16～22cmの木材が出土している。断面形は椀状に内側が窪み、木樋の可能性も考えられるが、遺存状態は悪く、内側に溝が掘られた痕跡等は見られなかった。

堆積土は8層からなる。1層は上位整地層による埋め戻し土、2～5層は溝内堆積土で、5層において水流の痕跡が認められる。6～8層は掘り方埋土である。

遺物は18世紀～19世紀前半の瀬戸・美濃産陶器、大堀相馬産陶器、堤産陶器、肥前産磁器、瓦等が出土している。陶器の中には漆継による補修痕が残っているものも見られる。

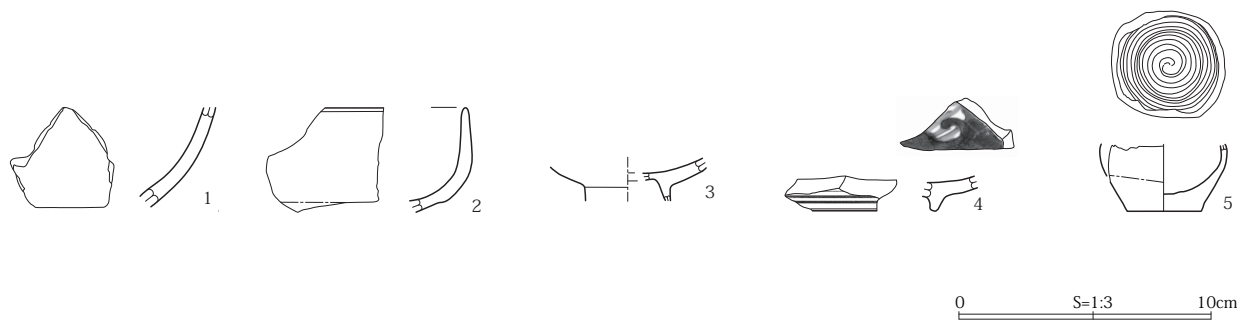


SD7 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	Na	色				
1	10YR5/2	にぶい灰黄褐色	シルト	あり	あり	径10cm以下の白色土ブロック多量 埋め戻し土
2	10YR5/2	にぶい灰黄褐色	シルト	なし	なし	径5mm以下炭化物微量、酸化鉄微量 溝埋土
3	10YR4/4	褐色	砂	なし	なし	径5cmの礫少量 溝埋土
4	10YR5/2	にぶい灰黄褐色	シルト	なし	あり	径5cmの礫少量 溝埋土
5	10YR4/2	にぶい灰黄褐色	砂	なし	なし	縞状に酸化砂が混入 水成堆積土
6	10YR5/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	径5cm以下の礫少量 掘り方埋土
7	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	なし	あり	径5cm以下の礫少量 径5cm以下の酸化ブロック多量 掘り方埋土
8	10YR5/1	褐灰色	シルト	なし	あり	径3cm以下の礫多量 掘り方埋土

第88図 SD7 溝跡 平面図・断面図

第2節 II区



SD7 溝跡 出土遺物観察表 (陶磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
89-1	103-1	S5・6-W67 SD 7 3層	陶器	鉢	体部	やや粗	鉄釉	—	—	(4.0)	堤	近世		I-11
89-2	103-2	S5・6-W67 SD 7 3層	陶器	碗か小鉢	体部	密	鉄釉	—	—	(3.9)	瀬戸・美濃	19世紀前半	漆継	I-10
89-3	103-3	S5・6-W67 SD 7 3層	陶器	碗	体部～底部	密	鉄釉・緑釉掛分	—	—	(1.8)	大塚相馬	18世紀		I-12
89-4	103-4	S5・6-W67 SD 7 3層	磁器	中皿	体部～底部	緻密	染付	—	—	(1.5)	肥前	18世紀以降		J-1
89-5	103-5	S5・6-W67 SD 7 3層	陶器	豆甃	体部～底部	やや密	鉛釉	—	(3.0)	(2.7)	大塚相馬	19世紀代		I-9

第 89 図 SD7 溝跡 出土遺物

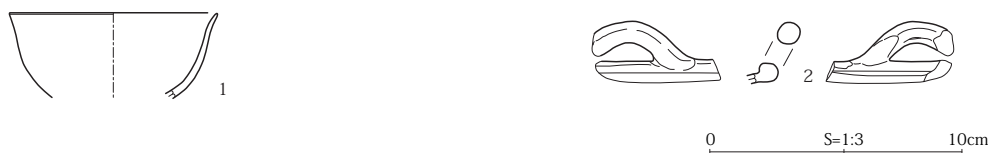
2) SD18 溝跡 (第 90～91 図、図版 27-2～4)

S5-W67～S6-W68 グリッドに位置する。東西方向に走る素掘りの溝である。SD7・SD33 と 1 号柵状遺構を切る。西端は攪乱によって壊され、東端は 1 号石垣に切られて途切れるが、両側とも本来はさらに延びていたものと考えられる。

確認された規模は長さ 8m、幅 80～140cm、深さ 40cm を測る。断面形は開いた U 字形を呈する。西端から N-53°-E の方向に走り、東端で湾曲して西方向に向きを変える。底面には 2～8cm の円礫が多量に見られ、石敷きを施した可能性も考えられる。1 号石垣によって壊されているため 1 号池との切り合い関係が判然としないが、SD18 は 1 号池と同時期に機能していた可能性が高いと考えられる。

堆積土は 5 層からなり、1～3 層は砂質シルトの埋め戻し土、4 層は円礫を多量に含む砂層、5 層は水成堆積土と考えられる。

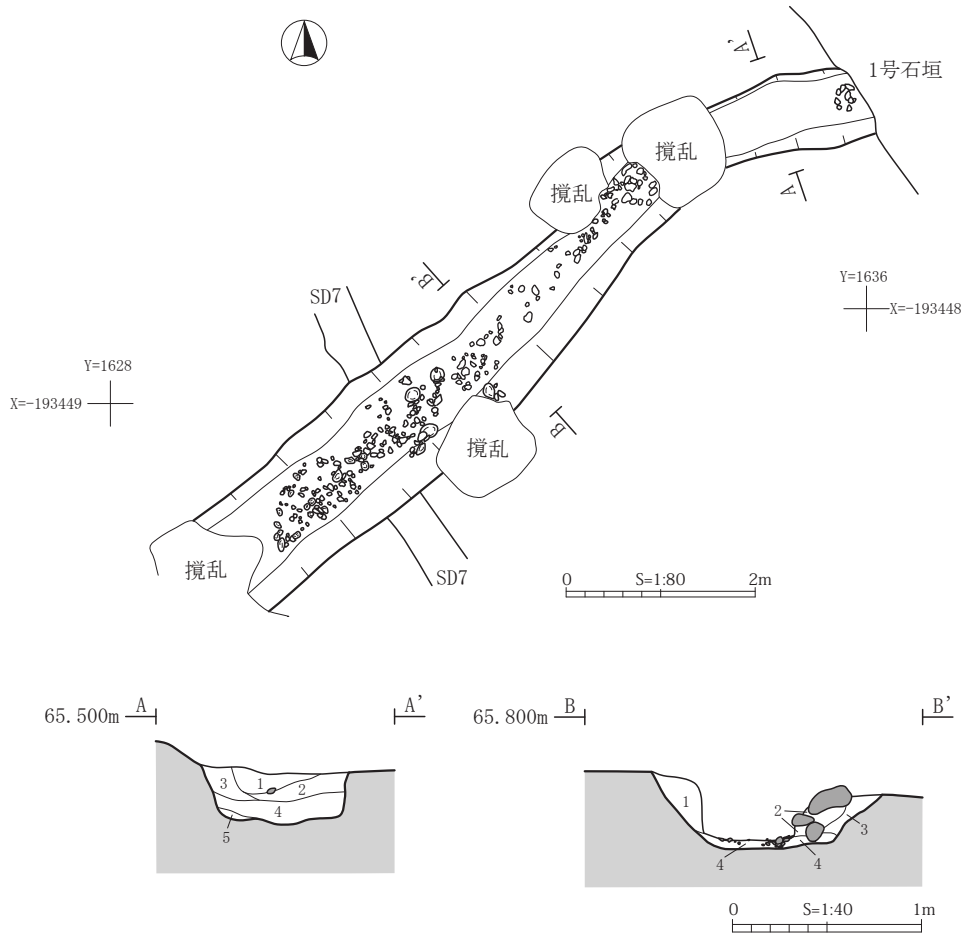
遺物は 19 世紀代の陶磁器が出土している。



SD18 溝跡 出土遺物観察表 (陶磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
90-1	103-6	S5・6-W67・68 SD18 4層	磁器	端反碗	口縁～体部	—	白磁	(8.3)	—	(3.4)	瀬戸・美濃	19世紀		J-3
90-2	103-7	S5・6-W67・68 SD18 4層	陶器	土鍋	把手	粗	鉄釉	—	—	(2.45)	堤	19世紀前半		I-16

第 90 図 SD18 溝跡 出土遺物



SD18 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト土粒微量 酸化鉄多量
2	10YR5/3	灰黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	10YR5/4 にぶい黄褐色砂礫を帯状に少量含む
3	2.5YR5/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	ややあり	径 8 mm 以下の 5Y6/4 オリーブ黄色土粒少量、酸化鉄多量
4	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質砂	なし	なし	10YR5/4 にぶい黄褐色砂礫を帯状に含み、径 5 mm 以下の酸化鉄多量・炭化物微量
5	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト質砂	なし	なし	

第 91 図 SD18 溝跡 平面図・断面図

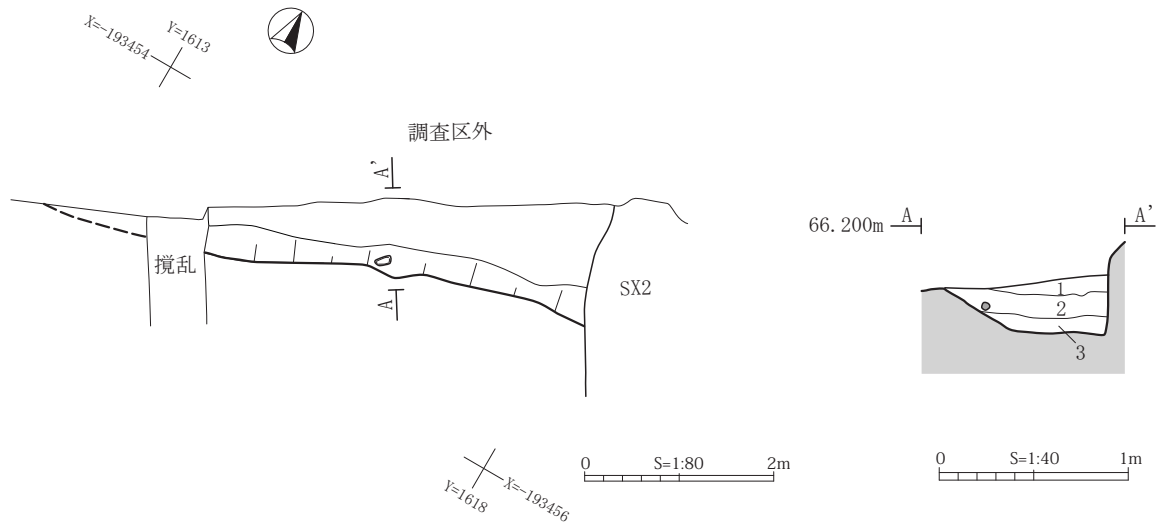
3) SD19 溝跡 (第 92 ~ 93 図、図版 27-5 ~ 6)

S6-W69 グリッドに位置する。東西方向に走る素掘りの溝である。東側は SX2 によって切られ、その先に延びていた痕跡がないことから、途切れるかまたは方向を変えて調査区外へ延びると考えられる。西側は攪乱によって壊されるが、調査区北壁の土層観察からさらに西へ走り調査区外へ延びることが判明した。

確認された規模は長さ 6m、幅 1.3m、深さ 30cm を測る。断面形は開いた U 字形を呈するものと思われる。主軸方向は N-68° -E を示す。堆積土は 3 層の砂質シルトおよびシルトからなり、全て埋め戻し土で水流の痕跡は認められなかった。

遺物は 18 世紀 ~ 19 世紀中頃の陶磁器、瓦、土師質土器、木製品等が出土している。磁器の中には焼継による補修痕跡が見られるものもある。

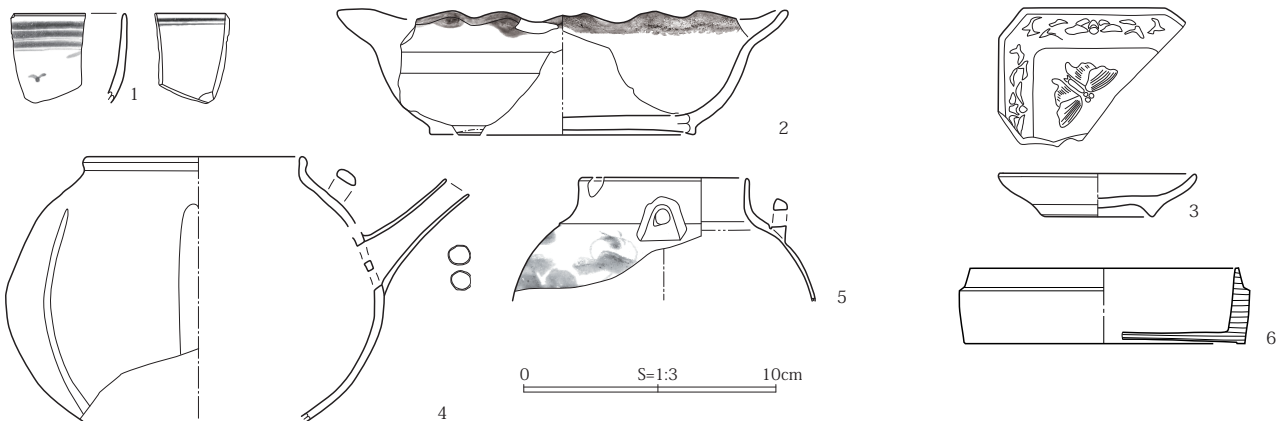
第2節 II区



SD19 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	Na	色				
1	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	なし	径 5 cm の礫少量、遺物片微量、酸化鉄多量
2	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	なし	ややあり	径 5 mm の炭化物微量、酸化鉄多量
3	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	あり	あり	径 3 mm 以下の砂礫・にぶい黄色砂質シルト・酸化鉄少量

第 92 図 SD19 溝跡 平面図・断面図



SD19 溝跡 出土遺物観察表 (陶磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
93-1	103-8	S6 - W69 SD19 1層	磁器	湯呑	口縁～体部	緻密	染付圏線	—	—	(3.6)	肥前	18世紀代		J-4
93-2	103-9	S6 - W69 SD19 1層	陶器	鉢	口縁～体部	密	白濁釉・緑釉 掛分	—	—	(4.7)	大塚相馬	幕末～明治	波状口縁	I-19
93-3	103-12	S6 - W69 SD19 1層	磁器	角小皿	口縁～底部	緻密	青磁型押蝶文	(7.9)	(4.3)	(1.7)	肥前	18世紀後半～ 19世紀前半	焼継	J-5
93-4	103-10	S6 - W69 SD19 1層	陶器	土瓶	口縁～体部	密	白濁釉	—	—	(10.6)	大塚相馬	18世紀後半～ 19世紀前半	2穴	I-17
93-5	103-11	S6 - W69 SD19 1層	陶器	土瓶	口縁～体部	密	色絵草花文	(6.85)	—	(4.9)	大塚相馬	幕末		I-18

SD19 溝跡 出土遺物観察表 (木製品)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備 考	登録番号
				口径	底径	器高		
93-6	103-13	S6 - W69 SD19 埋土一括	合子	11.8	12.2	3.3		L-34

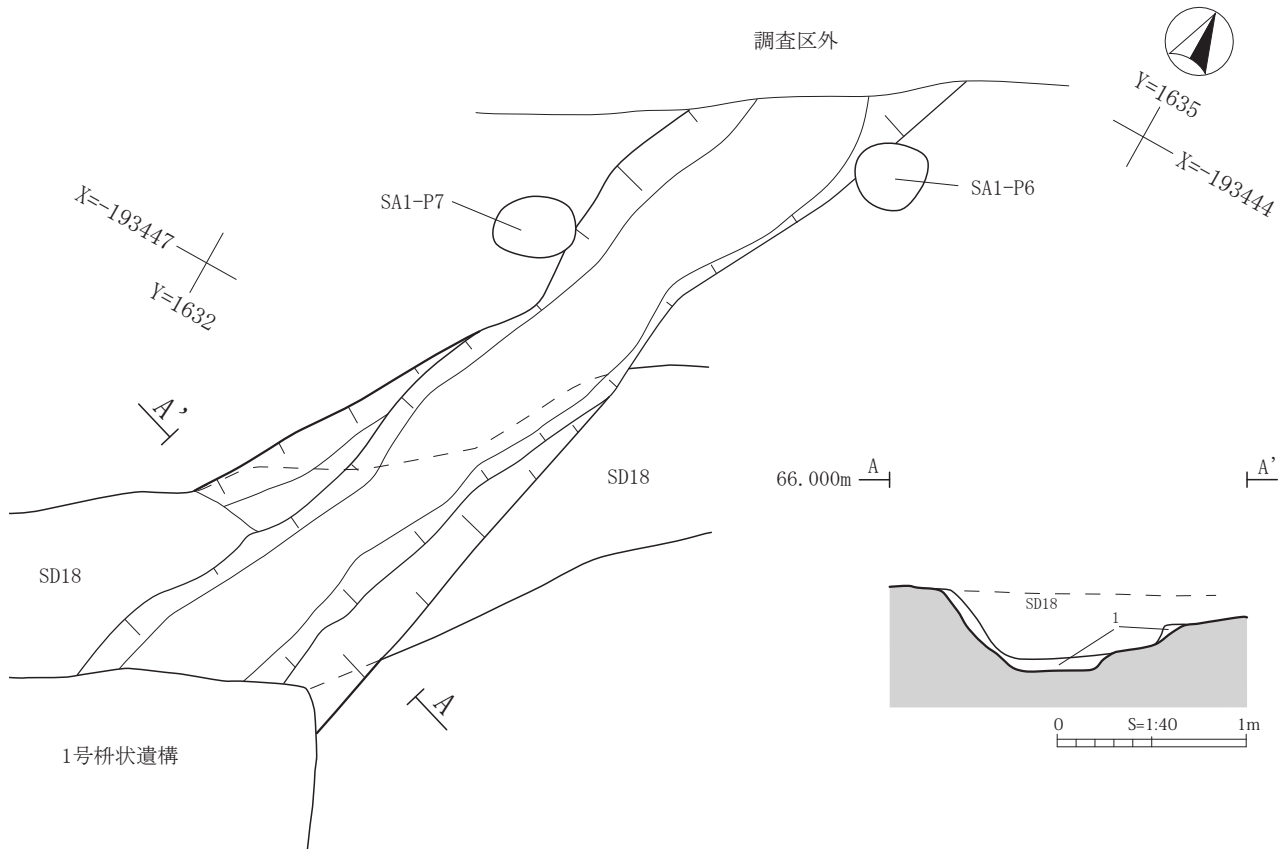
第 93 図 SD19 溝跡 出土遺物

4) SD33 溝跡 (第 94 ~ 95 図、図版 27-7)

S5-W67 グリッドに位置する。南北方向に走る素掘りの溝である。南側はSD18と1号枡状遺構に切れ、その先に延びていた痕跡がないことから途切れるものと考えられる。北側は調査区外に延びる。

確認された規模は長さ4.6m、幅55~82cm、深さ36cmを測る。断面形は逆台形状を呈する。主軸方向はN-19°-Eを示す。底面からは遺存状態の悪い棒状の木材や竹が出土している。堆積土は礫をやや多く含む砂質シルトの単層である。

遺物は18世紀代の陶磁器、瓦等が出土している。



SD33 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No.	色				
1	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	なし	なし	10 cm以下の礫やや多量 橙色酸化砂やや多量

第 94 図 SD33 溝跡 平面図・断面図



SD33 溝跡 出土遺物観察表 (陶磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
95-1	103-14	S5-W67 SD33 2層	陶器	瓶	頸部	やや密	灰釉・鉄斑	—	—	(2.4)	大塚相馬	18世紀		I-27
95-2	103-15	S5-W67 SD33 1層	磁器	碗	口縁~体部	密	染付コンニャク 印判草花文	—	—	(3.9)	肥前(波佐見)	18世紀前半		J-14

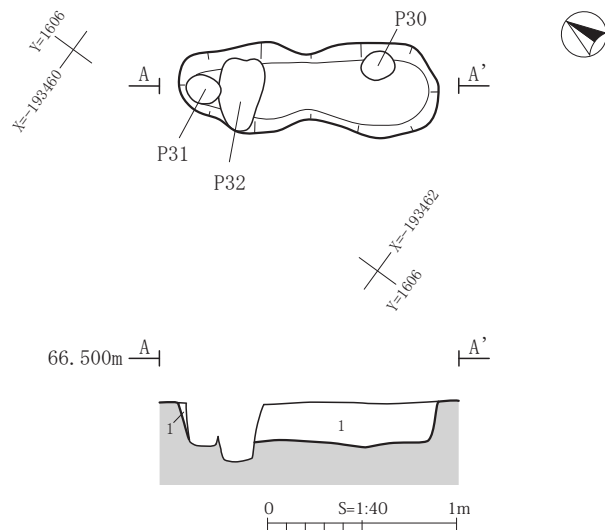
第 95 図 SD33 溝跡 出土遺物

(3) 土坑

1) SK2 土坑 (第96図、図版28-1～2)

S7-W70グリッドに位置する。P30～P32に切られ、長軸1.4m、短軸35～52cm、深さ24cmを測る。平面形は中央がくぼむ不整長楕円形を、断面形は皿状を呈する。堆積土は礫を少量含む砂質シルトの単層である。

遺物は出土していない。



SK2 土坑 土層注記表

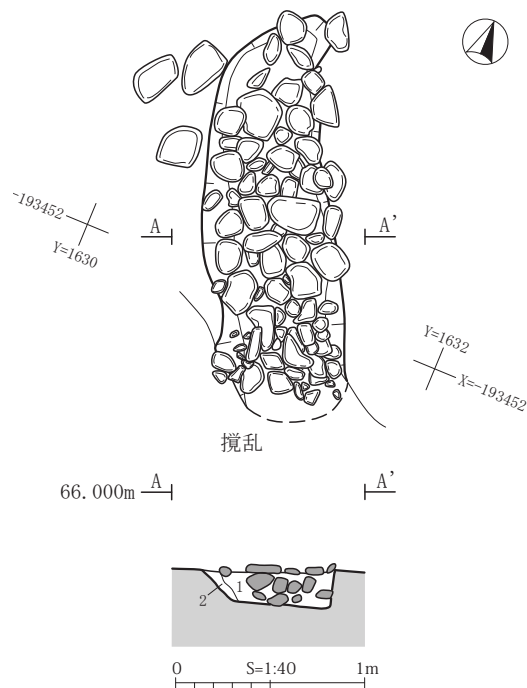
層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No.	色				
1	2.5Y4/4	オリーブ褐色	砂質シルト	なし	あり	径10 cm以下の礫少量、砂礫・酸化鉄の沈着多量 5 mm程度の黄褐色土粒多量

第96図 SK2 土坑 平面図・断面図

2) SK3 土坑 (第97図、図版28-3～4)

S6-W67グリッドに位置する。南側を攪乱によって壊される。長軸の残存長2m、短軸70cm、深さ20cmを測る。平面形は不整長楕円形が推定され、断面形は東壁が急角度で立ち上がる逆台形を呈する。堆積土は2層からなる。

遺物は瓦が数点出土しているが細片のため図化し得なかった。



SK3 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No.	色				
1	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	なし	あり	15 cm以下の礫、酸化鉄多量
2	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	あり	酸化鉄少量

第97図 SK3 土坑 平面図・断面図

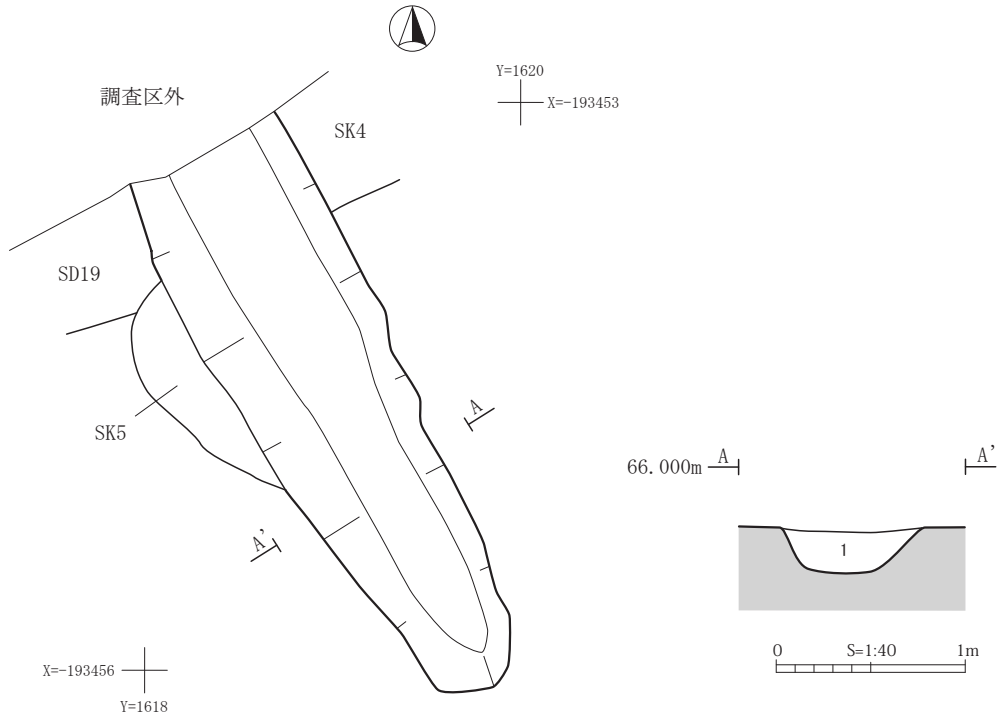
(4) その他の遺構

1) SX2 性格不明遺構 (第 98 ~ 99 図、図版 28-5 ~ 6)

S6-W69 グリッドに位置する。南北方向に走る溝状の浅い掘り込みで、南端は壁が立ち上がって途切れ、北側は調査区外に延びる。

確認された規模は長軸 3.2m、短軸 96cm、深さ 22cm を測る。平面形は溝状を呈し、断面形は開いた U 字形を呈する。堆積土は瓦を多量に含む褐灰色シルトの単層からなる。

遺物は 19 世紀代の瀬戸・美濃産磁器、瓦が出土している。



SX2 性格不明遺構 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No.	色				
1	10YR4/1	褐灰色	シルト	なし	なし	径 15 cm 以下の礫多量

第 98 図 SX2 性格不明遺構 平面図・断面図



SX2 性格不明遺構 出土遺物観察表 (磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
99-1	103-16	S6-W69 SX2 2層	磁器	碗	口縁～底部	緻密	染付草花文	(8.0)	(3.4)	4.1	瀬戸・美濃	19世紀		J-63

第 99 図 SX2 性格不明遺構 出土遺物

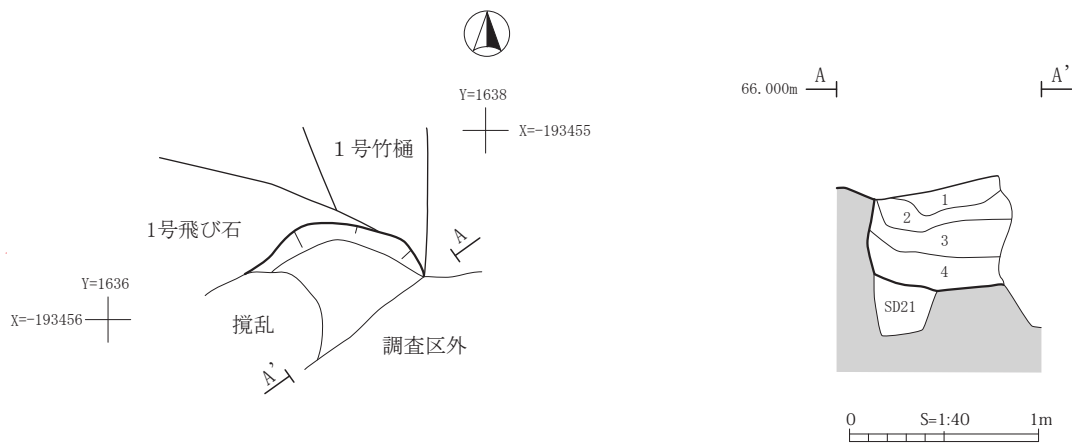
第2節 II区

2) SX9 性格不明遺構 (第 100 ~ 101 図、図版 28-7 ~ 8)

S6-W67 グリッドに位置する。北側で 1 号竹樋と 1 号飛び石を切る。西側は攪乱によって壊され、南側は調査区外へ広がる。

確認された規模は南北 60cm、東西の残存長 50cm、深さ 60cm を測る。平面形は不明で、断面形は U 字形を呈する。堆積土は 4 層の粘土質シルトからなる。人為的埋め戻し土と考えられる。

遺物は平清水産もしくは銀山上畑産の可能性のある皿が 1 点完形で出土している (第 101 図-1)。19 世紀代のものと思われる。



SX9 性格不明遺構 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	Na	色				
1	10YR5/1	褐灰色	粘土質シルト	なし	あり	径 5 cm 以下の礫多量
2	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	あり	
3	10YR5/1	褐灰色	粘土質シルト	なし	なし	にぶい黄橙色砂多量
4	10YR5/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	なし	

第 100 図 SX9 性格不明遺構 平面図・断面図



SX9 性格不明遺構 出土遺物観察表 (磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備 考	登録番号
								口径	底径	器高				
101-1	102-1	S6 - W67 SX9 1層	磁器	玉縁皿	口縁~底部	やや密	染付楓文・松葉文	12.2	4.9	3.5	平清水か 銀山?	19世紀	目跡×6	J-70

第 101 図 SX9 性格不明遺構 出土遺物

3) 1号飛び石 (第102図、図版29-1～2)

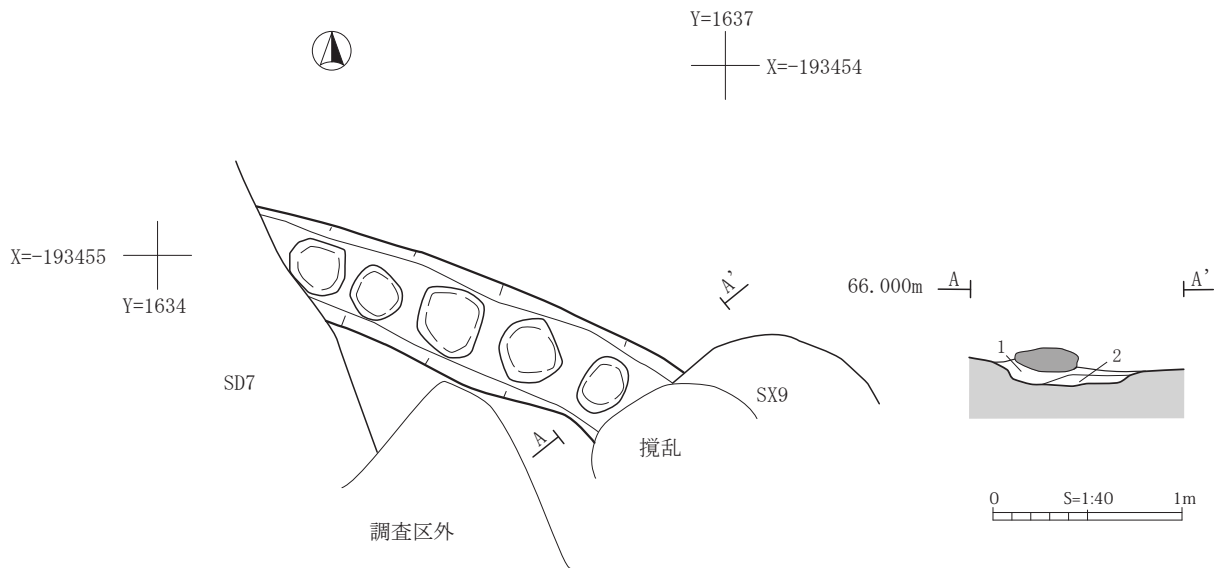
S6-W67 グリッドに位置する。

南東側はSX9に壊され、西側をSD7によって切られる。SD7の西側は攪乱され、その先に延びる痕跡は見られなかった。

飛び石は、縁を加工した30～40cmの扁平な川原石を使用し、6～12cm(2寸～4寸)の間隔でほぼ直線的に5個並べている。方位はN-68°-Wを示す。飛び石は溝状の掘り方を整地した上に載せる。掘り方の規模は長さ2m、幅55～60cm、深さ10cmを測る。

堆積土は褐色シルト、灰黄褐色砂質シルトの2層からなる。

遺物は出土していない。



1号飛び石 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No.	色				
1	10YR5/1	褐灰色	シルト	あり	あり	径5cm未満の礫少量、径1mm以下の酸化鉄微量
2	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	なし	

第102図 1号飛び石 平面図・断面図

3 II層上面

II層上面では石垣が1基検出された。

(1) その他の遺構

1) 1号石垣 (第103～104図、図版29-3～7)

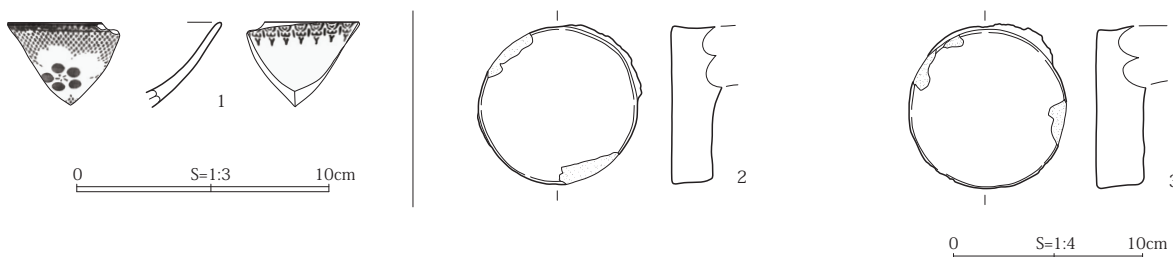
S5-W67・S6-W66・S6-W67 グリッドに位置する。調査前現況では、部分的にモルタルが充填された石垣面が確認されるが、基底部に近世の構築跡があるかどうかを確かめるため1号石垣として登録し、調査を行った。III層上面検出のSD18、III区III層上面検出の1号池を切る。石垣の前面には排水のためと思われる石組溝が伴う。

調査区内で確認された規模は長さ14.4m、高さ5m、掘り方の幅3mを測る。主軸方向はN-29°-Wを示し、勾配は76°を測る。20cm前後の打ち欠いた川原石を、割れ口を面にして交差状に10～11段積み、基底部には40cmを超える根石を据えている。

石組溝の規模は石垣と北側石の内幅約30cm、掘り方幅約50cm、深さ18～20cmを測る。南側の溝内には打ち込まれた杭が5本確認されている。

堆積土は7層からなる。1～2層は前庭部の溝内堆積土で腐食物を多く含む。3～7層は裏込めの礫を多量に含む掘り方埋土である。ガラス片等も出土しており、近代以降の構築と思われる。

遺物は近代以降の瓦、陶器、磁器、金属製品、ガラス片等が裏込めから出土している。



1号石垣 出土遺物観察表 (磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
103-1	103-17	S4～6-W66・67 石垣1 1層	磁器	碗	口縁～体部	やや密	摺絵梅文・ 瓔珞文	—	—	(3.4)	地方窯	明治前半 (19世紀後半代)		J-73

1号石垣 出土遺物観察表 (瓦)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
103-2	103-18	S4～6-W66・67 II区 石垣上一括	軒棧瓦	6.3	6.3	1.8	瓦当部 無文	H-32
103-3	103-19	S4～6-W66・67 II区 石垣裏一括	軒棧瓦	6.3	6.3	1.8	瓦当部 無文	H-41

第103図 1号石垣 出土遺物



石垣1 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	5Y2/1	黒色	砂質シルト	ややあり	なし	腐食した木材片多量、径3～5cmの礫少量 溝内堆積土
2	5Y5/3	灰オリーブ	砂質シルト	ややあり	なし	径1～2cmの礫多量 溝内堆積土
3	10YR3/1	黒褐色	シルト	なし	なし	径30cmの礫多量 ガラス・瓦 裏込め
4	7.5YR5/8	黄褐色	シルト	なし	あり	径30cmの礫多量 裏込め
5	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	あり	あり	径1cm以下の小礫少量 径30cm以下の裏込め石多量 径1cm以下の炭化粒多量 裏込め
6	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	あり	あり	径15～20cmの礫・径2cm程度の灰白色シルト粒多量 径1cm以下の炭化粒多量 裏込め
7	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	なし	径15～20cmの礫多量 裏込め

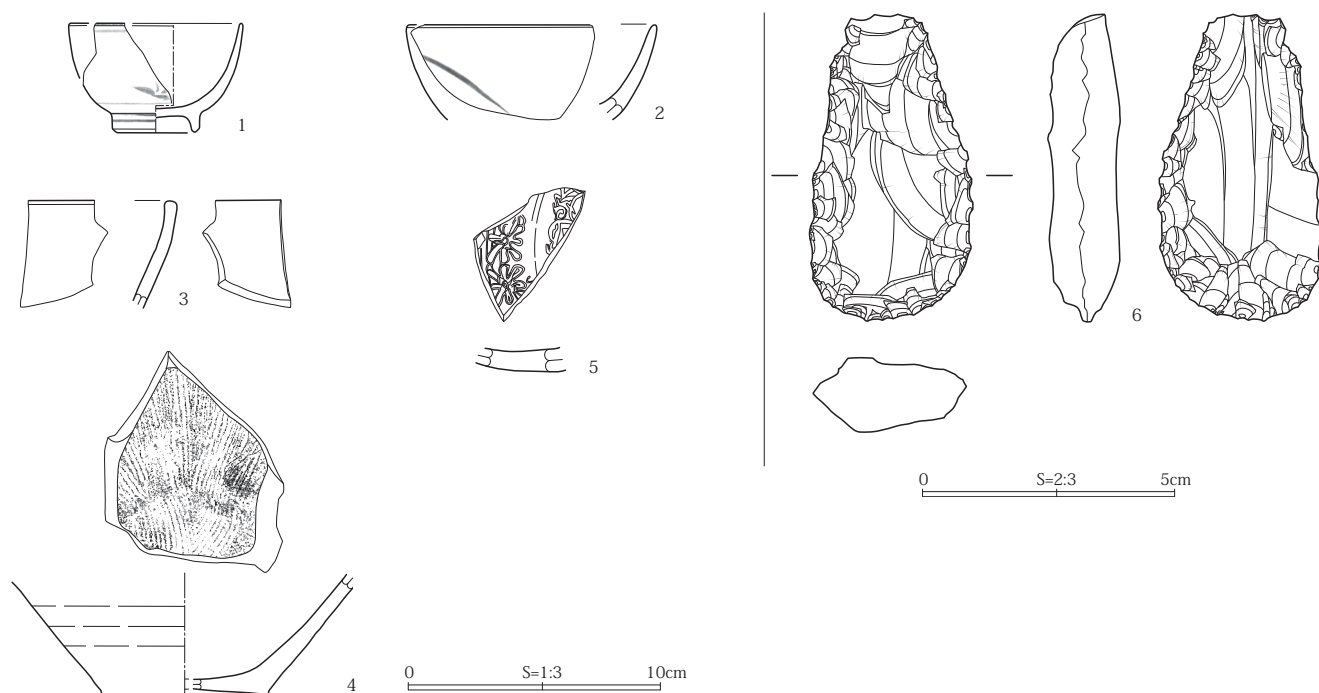
第104図 1号石垣 平面図・断面図

4 遺構外出土遺物

II区の出土遺物の総量は733点、そのうち遺構外出土のものは442点で、内訳は瓦62点、陶器56点、土師質土器54点、磁器212点、石器・石製品2点、木製品2点、金属製品7点、その他47点である。III層は大部分が削平され残っておらず、遺物は出土していない。近世の陶磁器の内訳はIV層28点、I層・II層42点、攪乱95点を数える。以下、層別に実測図と観察表を掲載する。

(1) IV層出土遺物 (第105図、図版は104-1～6)

IV層からは18世紀～19世紀の陶磁器や、瓦、石器等が出土している。



IV層 出土遺物観察表 (陶磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
105-1	104-1	II区 IV層	磁器	碗	口縁～底部	緻密	染付	—	—	4.4	肥前	19世紀		J-115
105-2	104-2	II区 IV層	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付	(9.15)	—	(3.8)	肥前	19世紀		J-116
105-3	104-3	II区 IV層	陶器	碗	口縁～体部	やや密	灰釉	—	—	(4.25)	大塚相馬	18～19世紀		I-124
105-4	104-4	II区 IV層	陶器	挿鉢	体部～底部	やや粗	—	—	(3.35)	(4.9)	在地?	近世		I-123
105-5	104-5	II区 IV層	陶器	皿	体部	密	型押花文	—	—	(4.1)	不明	近世		I-121

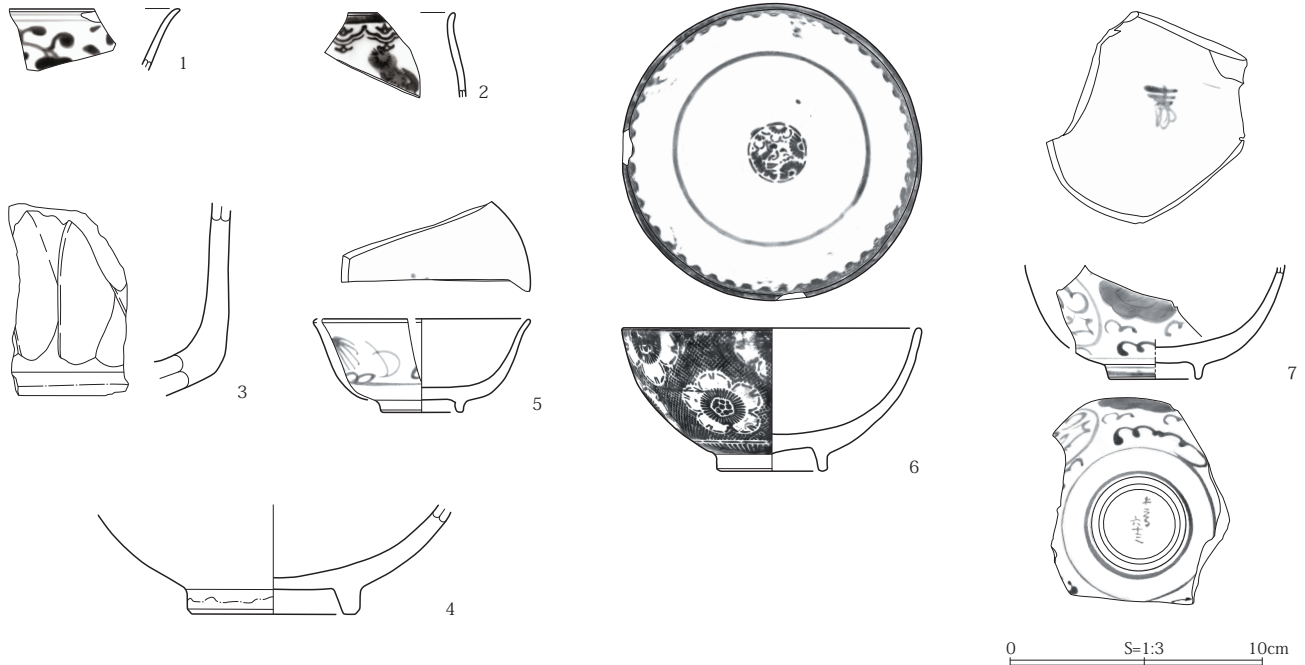
IV層 出土遺物観察表 (石器)

図版番号	写真図版番号	グリッド遺構・層位	種別	石材	法量				備考	登録番号
					長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
105-6	104-6	II区 IV層	石筥	珪質頁岩	6.1	3.2	1.45	31.6		K-2

第105図 II区IV層 出土遺物

(2) II層出土遺物 (第106図、図版104-7～13)

II層からは近代以降のものを主体とした陶磁器、瓦等が出土している。その中には近世のものが含まれており、それらを中心に実測・図化を行っている。



II層 出土遺物観察表 (陶磁器)

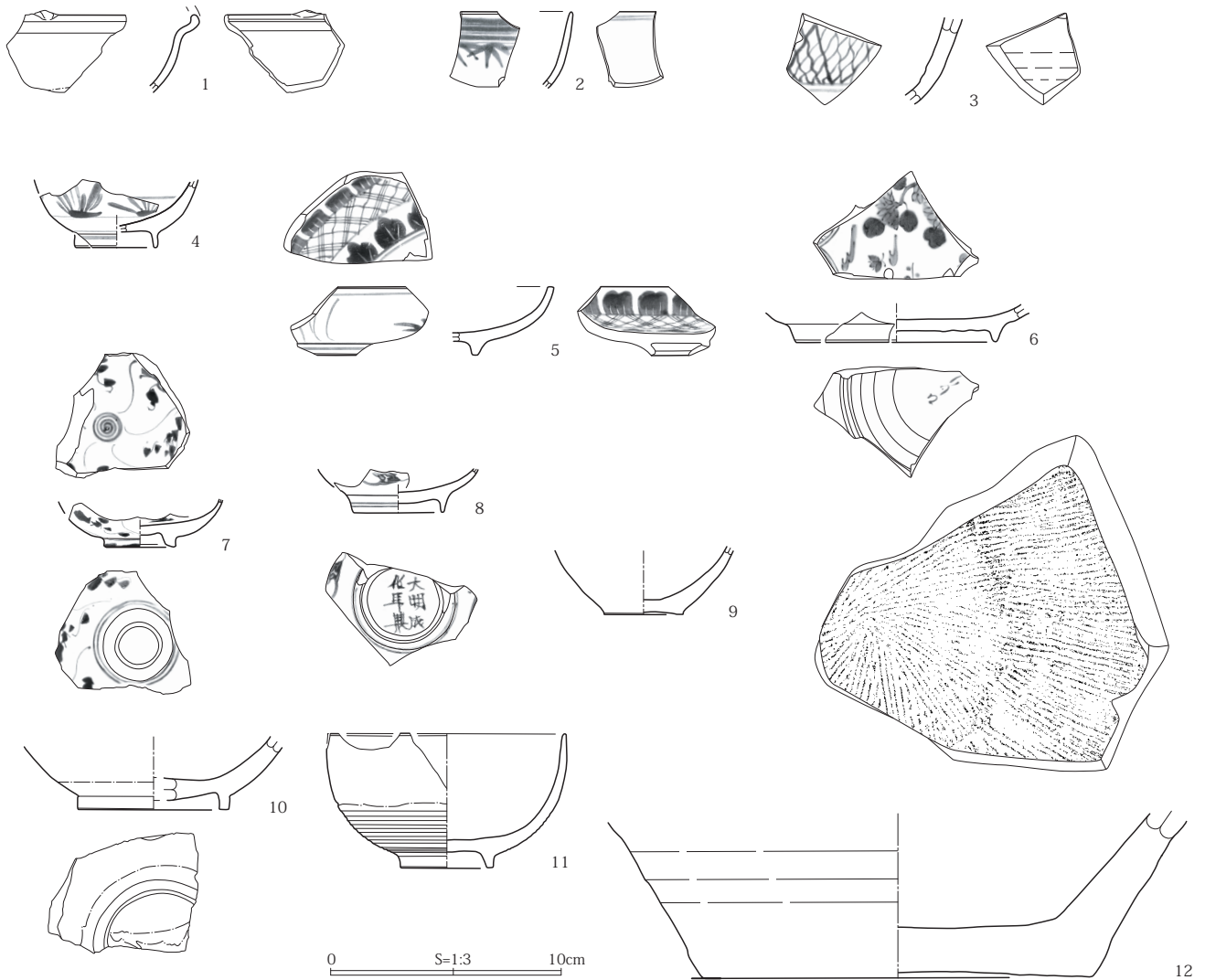
図版 番号	写真図版 番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録 番号
								口径	底径	器高				
106-1	104-7	II区 II層	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付みじん 唐草文	—	—	(2.5)	瀬戸・美濃	19世紀		J-125
106-2	104-8	II区 II層	磁器	碗か鉢	口縁～体部	緻密	染付	—	—	(2.6)	不明	19世紀?	変形碗	J-126
106-3	104-10	II区 II層	陶器	水甕	体部～底部	粗	灰釉	—	—	(7.7)	瀬戸・美濃	18世紀		I-125
106-4	104-11	II区 II層	陶器	碗	体部～底部	やや密	灰釉	—	(6.5)	(4.4)	大堀相馬	18世紀後半?		I-127
106-5	104-9	II区 II層	磁器	碗	口縁～底部	緻密	染付草文	(8.5)	(3.1)	(3.75)	瀬戸・美濃	19世紀		J-124
106-6	104-12	II区 II層	磁器	碗	完形	緻密	摺絵花文・ 瓔珞文	11.9	4.1	5.7	瀬戸・美濃	19世紀後半		J-122
106-7	104-13	II区 II層	磁器	碗	体部～底部	緻密	染付花文・ みじん唐草 文	—	(3.6)	(4.6)	瀬戸・美濃	19世紀	外底部「キ 之マ(カナ) 六十三」漆書、 見込み「寿」 文	J-123

第106図 II区II層 出土遺物

(3) I層・攪乱出土遺物 (第107～108図)

I層・攪乱からは近代を主体とした陶磁器、瓦等が出土している。II層出土遺物と同様に、その中でも近世に相当する遺物を中心に実測・図化を行っている。

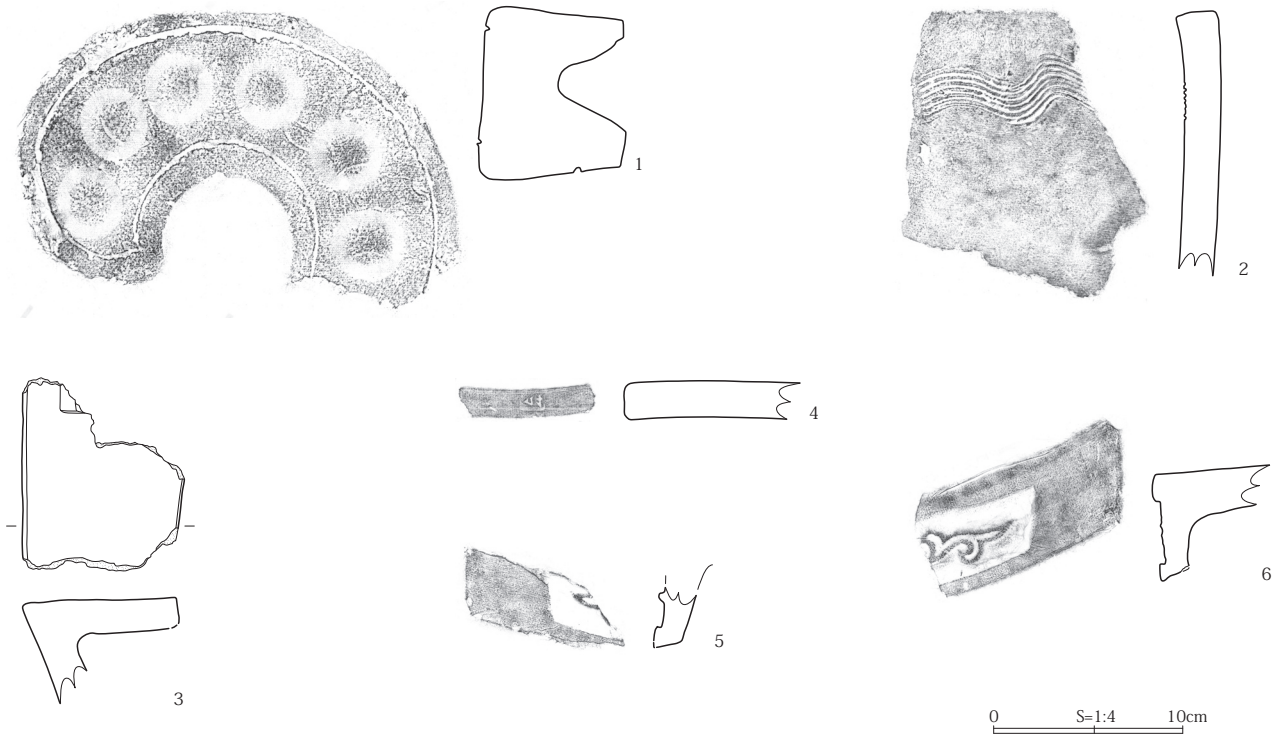
第2節 II区



I層 出土遺物観察表(陶磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
107-1	105-1	II区 I層	陶器	鍋	口縁～体部	密	鉄釉	—	—	(3.4)	堤?	19世紀?		I-120
107-2	105-2	II区 I層	磁器	碗	口縁～底部	緻密	染付笹文・圏線	—	—	(3.3)	肥前	18世紀		J-120
107-3	105-3	II区 I層	磁器	瓶類	体部	緻密	染付網目文	—	—	(3.6)	肥前	18世紀		J-121
107-4	105-4	II区 I層	磁器	碗	体部～底部	緻密	染付水草文	—	(3.45)	(2.9)	肥前	18～19世紀		J-114
107-5	105-6	II区 I層	磁器	皿	口縁～底部	緻密	染付	—	—	(3.0)	肥前	18～19世紀		J-113
107-6	105-7	II区 I層	磁器	皿	底部	緻密	染付蓮池文	—	(8.8)	(1.7)	肥前	18世紀	「ひじり」銘	J-117
107-7	105-8	II区 I層	磁器	碗	体部～底部	緻密	染付蔓草・渦文	—	(3.0)	(1.35)	瀬戸・美濃	19世紀		J-118
107-8	105-5	II区 I層	磁器	碗	底部	緻密	染付草花文	—	(3.8)	(1.9)	肥前	18世紀	「大明成化年製」銘	J-119
107-9	105-10	II区 I層	陶器	小鉢	体部～底部	密	—	—	(3.6)	(4.6)	不明	近世		J-123
107-10	105-11	II区 I層	陶器	碗	体部～底部	やや密	—	—	(6.6)	(3.2)	小野相馬	18世紀後半		I-126
107-11	105-12	II区 I層	陶器	碗	体部～底部	密	灰釉緑釉掛分	(10.4)	(4.0)	(5.9)	大堀相馬	18世紀後半		I-128
107-12	105-13	II区 I層	陶器	挿鉢	体部～底部	やや粗	—	—	(16.9)	(7.8)	在地?	近世		I-122

第107図 II区I層 出土遺物



Ⅰ層 出土遺物観察表(瓦)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	高さ		
108-1	106-1	Ⅱ区 Ⅰ層	鬼瓦	8.8	20.8	3.8	連珠×6	H-38
108-2	106-2	Ⅱ区 Ⅰ層	平瓦	(13.4)	(12.0)	1.8	櫛書波状文	G-11
108-3	106-3	Ⅱ区 Ⅰ層	軒平瓦	(9.8)	7.8	1.8		H-39
108-4	106-4	Ⅱ区 Ⅰ層	平瓦	(8.8)	6.6	1.9	刻印あり	H-40
108-5	106-5	Ⅱ区 Ⅰ層	軒平瓦	—	(6.4)	1.4	唐草文	G-12
108-6	106-6	Ⅱ区 Ⅰ層	軒平瓦	(6.0)	(10.4)	2.2	唐草文	G-10

第108図 Ⅱ区Ⅰ層 出土遺物

第3節 III区

1 V層上面

V層上面で検出された遺構は柱列跡7条、溝跡13条、土坑15基、ピット61基、その他の遺構3基、祭祀遺構1基、計100基が検出された。V層は17世紀代の整地層で、本調査区周辺における第1回目の整地跡と考えられる。検出された遺構にはほぼ調査区に対して平行する溝・柱列跡が多い。

(1) 柱列跡

1) SA13 柱列跡 (第110図、図版30-1～5)

S1-W58・S1-W59グリッドに位置する。東西方向に並ぶ4基の小穴からなる。西側は途切れるが、東側は調査区外へ延びる可能性がある。P1は東端でSA27-溝1と重複し、これを切る。P2からは16cmの石が出土している。P3で検出された杭痕は上位の整地層から打ち込まれたものである。柱材や柱痕は検出されず柱穴と断定できる根拠は乏しいが、直線的に並ぶことから柱列として登録した。

掘り方の規模は平面が37×60cm～52×73cm、深さ12～48cmを測る。平面形は不整楕円形を、断面形は皿状から開いたU字形を呈する。主軸方向はN-64°-Eを示す。

確認された長さは6.14mで、柱間寸法は西端から1.86m(6尺1寸)・2.22m(7尺3寸)・2.06m(6尺8寸)を測る。

堆積土は1～2層からなり、P3の1層は柱痕である。そのほかは掘り方埋土である。

遺物は出土していない。

2) SA14 柱列跡 (第111図、図版30-1・31-1～4)

N1-W58・N1-W59・S1-W59グリッドに位置する。東西方向に並ぶ4基の柱穴からなる。西側は途切れるが、東側は調査区外へ延びる可能性がある。P1からは径14cm、P3からは径10cmの柱痕が検出され、P4の中段には16.5cmの扁平な川原石が遺存していた。

掘り方の規模は平面が36×48cm～60×84cm、深さ20～34cmを測る。平面形は不整楕円から不整隅丸方形を呈し、断面形は開いたU字形を呈する。主軸方向はN-65°-Eを示す。

確認された長さは5.92mで、柱間寸法は西端から1.24m(4尺1寸)・2.52m(8尺3寸)・2.16m(7尺1寸)を測る。

堆積土は2～3層からなる。P1、P3の1層は柱痕。そのほかは掘り方埋土である。P3は特にグライ化が著しくみとめられる。

遺物は出土していない。

3) SA15 柱列跡 (第112図、図版30-1・31-5・32-1～5)

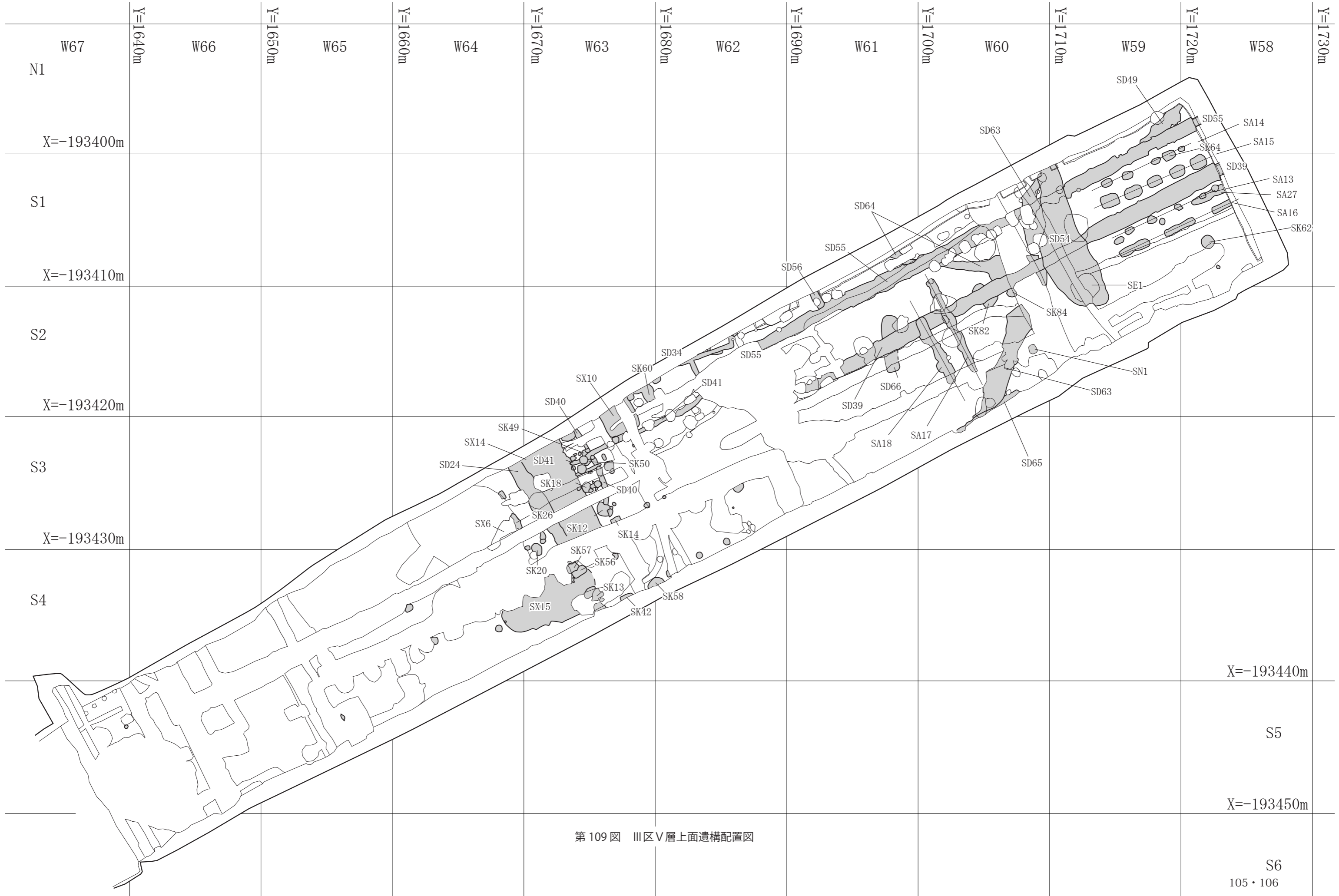
S1-W58・S1-W59グリッドに位置する。東西方向に並ぶ5基の柱穴からなる。西側は途切れるが、東側は調査区外へ延びる可能性がある。すべてに径10～18cmの柱痕が見られる。

掘り方の規模は平面が76×94cm～110×142cm、深さ48～86cmを測る。平面形は不整隅丸方形を、断面形は開いたU字形を呈す。主軸方向はN-65°-Eを示す。

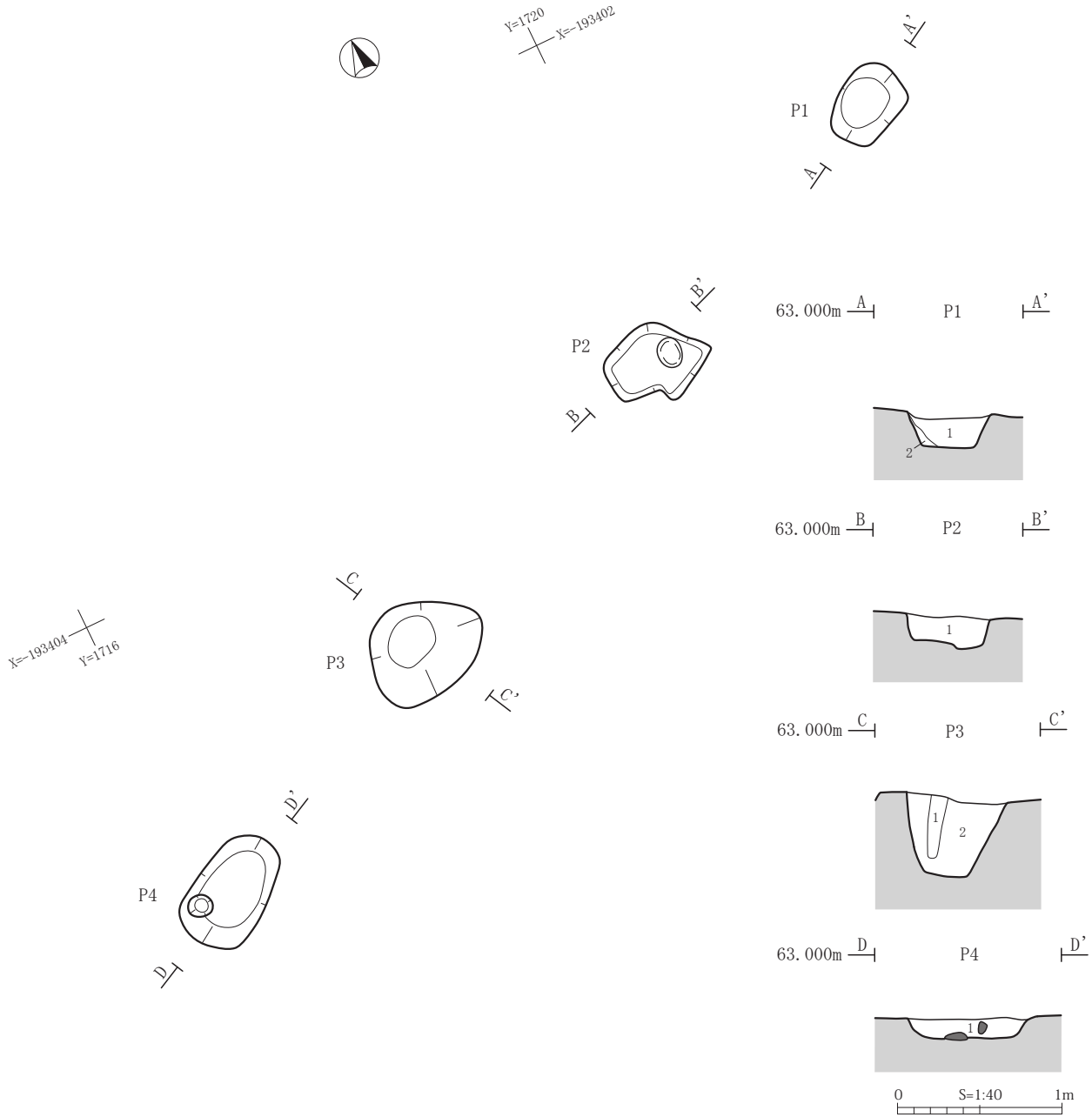
確認された長さは7.40mで、柱間寸法は西端から1.96m(6尺5寸)・1.80m(5尺9寸)・1.90m(6尺3寸)・1.74m(5尺7寸)を測る。

堆積土は1～3層からなり、P1、P3～5の1層は柱痕、そのほかは掘り方埋土である。

遺物は出土していない。



第 109 図 III区V層上面遺構配置図

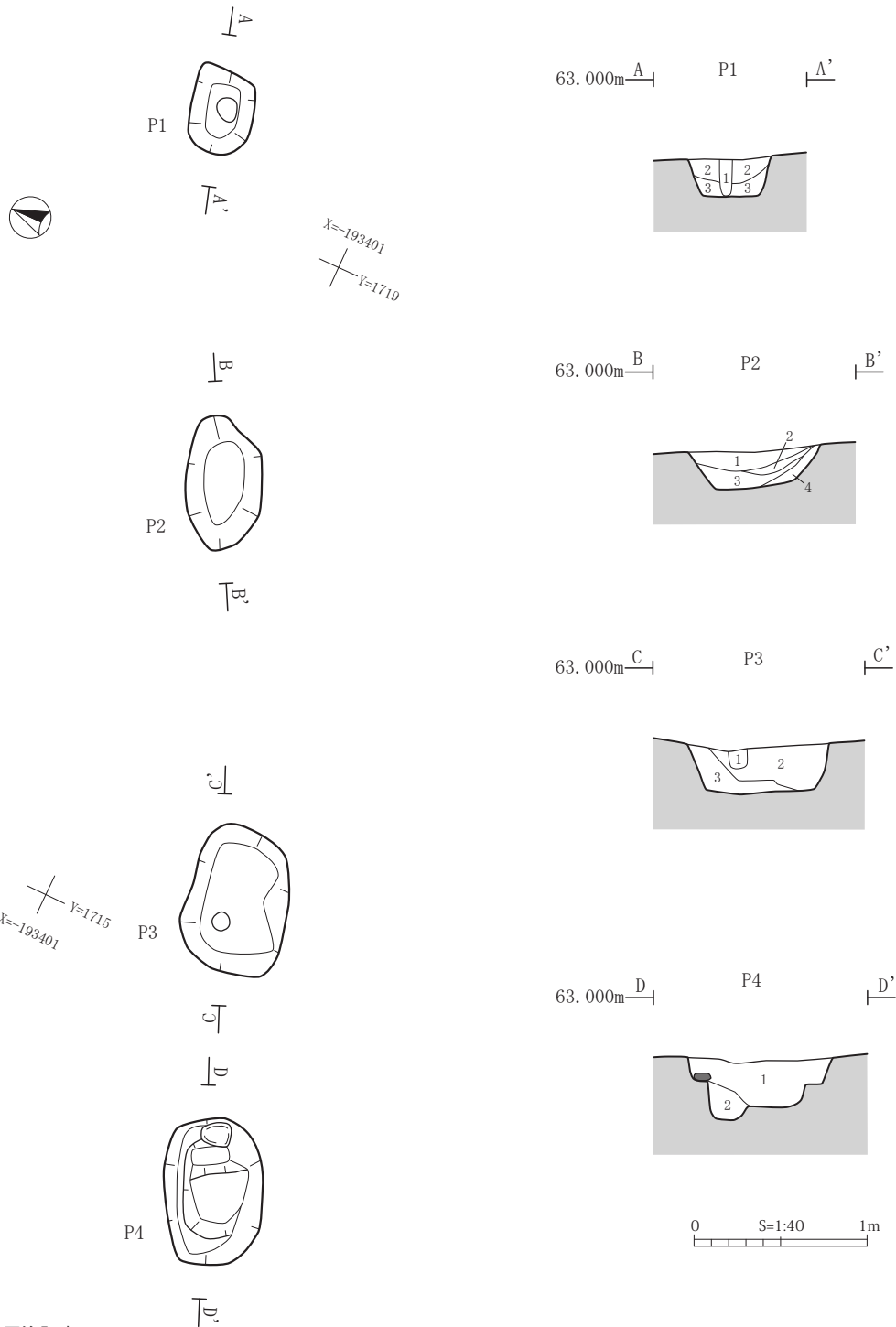


SA13 柱列跡 土層注記表

ビット番号	層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
		No.	色				
P1	1	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	あり	なし	黄褐色シルト土粒少量、砂多量、炭粒微量
	2	2.5Y3/3	暗オリーブ色	粘土質シルト	あり	あり	オリーブ褐色砂質シルト・酸化鉄
P2	1	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	あり	なし	黄褐色シルト土粒少量、砂多量、炭粒微量
P3	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	なし	なし	杭痕
	2	2.5Y3/3	暗オリーブ色	粘土質シルト	あり	あり	オリーブ褐色砂質シルト・酸化鉄少量、径 1 cm 程度の礫微量
P4	1	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	あり	なし	黄褐色シルト土粒少量、砂多量、炭粒微量

第 110 図 SA13 柱列跡 平面図・断面図

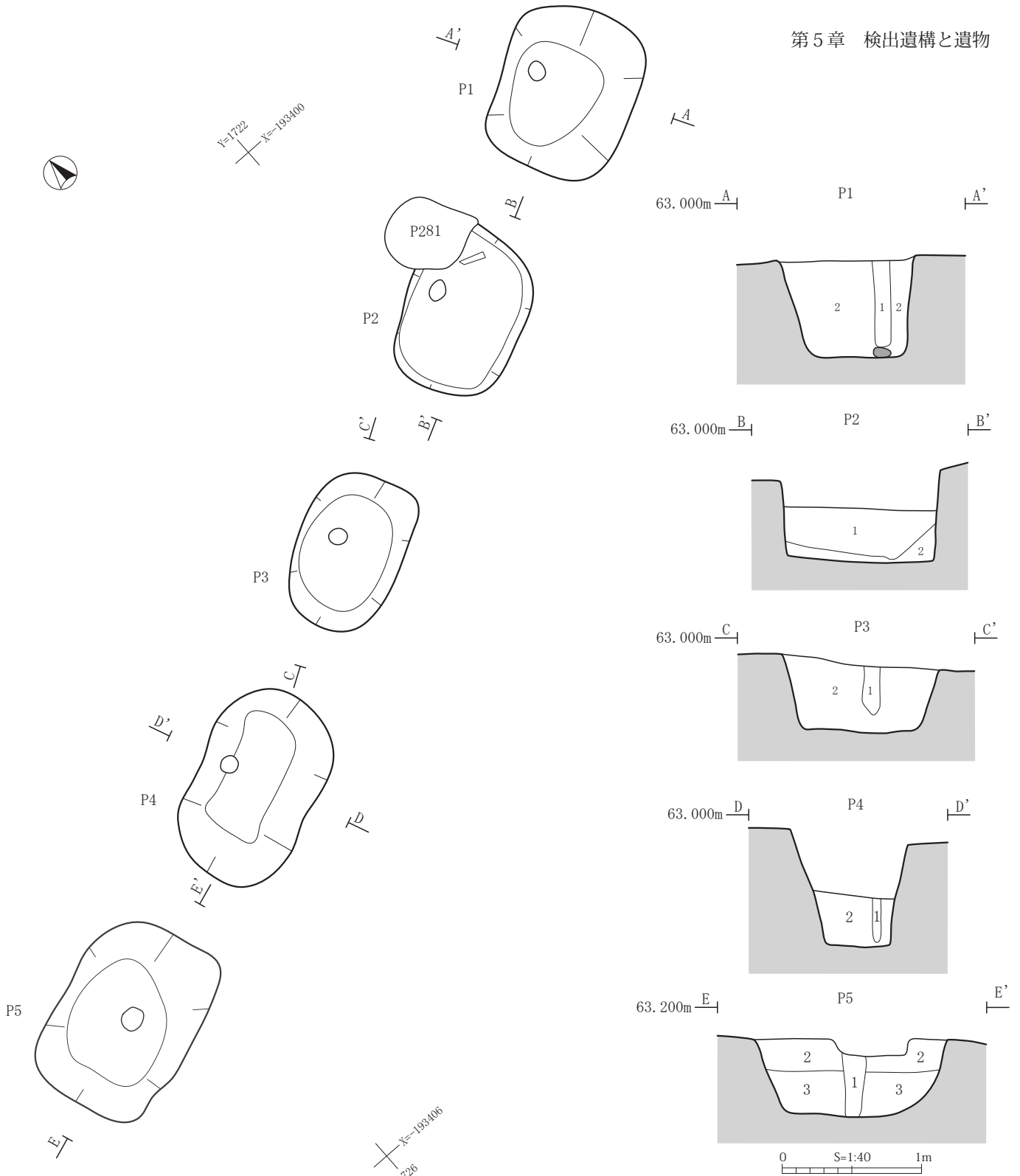
第3節 III区



SA14 柱列跡 土層注記表

ピット番号	層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
		No.	色				
P1	1	2.5YR5/1	黄灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	柱痕
	2	2.5Y5/4	黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	砂粒微量
	3	2.5Y3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	あり	砂粒少量
P2	1	2.5Y5/4	黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	砂粒、1 cm 以下の礫少量
	2	2.5Y3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	あり	砂粒、1 cm 以下の礫微量
	3	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	あり	あり	砂粒微量
	4	2.5Y3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	あり	砂粒微量
P3	1	2.5Y5/1	黄灰色	砂質シルト	ややあり	あり	柱痕
	2	7.5Y4/1	灰色	粘土質シルト	あり	ややあり	1 cm 以下の礫少量、酸化鉄微量
	3	7.5Y4/2	灰オリーブ色	粘土質シルト	あり	あり	砂粒微量
P4	1	2.5Y5/4	黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	1 cm 以下の礫少量
	2	2.5Y3/1	黒褐色	シルト質粘土	あり	あり	砂粒微量

第 111 図 SA14 柱列跡 平面図・断面図



SA15 柱列跡 土層注記表

ピット番号	層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
		No.	色				
P1	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	あり	ややあり	柱痕
	2	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	径 5 cm 以下の黒褐色土粒・灰褐色土粒多量、酸化鉄多量
P2	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	あり	径 5 cm 以下の暗褐色土粒微量、上部に酸化鉄多量
	2	7.5YR5/1	褐灰色	砂質シルト	ややあり	あり	砂粒多量
P3	1	10YR4/1	褐灰色	シルト	あり	なし	柱痕
	2	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	あり	なし	径 1 mm 以下のにぶい黄褐色土粒
P4	1	2.5Y5/2	暗灰黄褐色	シルト質砂	ややあり	ややあり	柱痕
	2	2.5Y3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	あり	径 1 cm 以下のシルトストーン少量
P5	1	2.5Y5/2	暗灰黄褐色	シルト質砂	ややあり	あり	柱痕
	2	10YR6/2	灰黄褐色	粘土質シルト	ややあり	あり	径 10 cm 以下の礫微量、酸化鉄微量
	3	10YR6/4	にぶい黄褐色	粘土質シルト	ややあり	あり	

第 112 図 SA15 柱列跡 平面図・断面図

第3節 III区

4) SA16 柱列跡 (第 113、114 図、図版 30-1・32-6～8・33-1)

S1-W58・S1-W59 グリッドに位置する。東西方向に並ぶ柱痕を有する 3 基の布掘り溝からなる。西側は途切れ、東側はさらに延びることが 2007 年度の仙台北城跡 (川内駅部) の調査で判明している。西から溝 1・溝 2・溝 3 として個別に説明する。

溝 1 の確認された規模は長さ 2.4m、幅 50～70cm を測る。断面は底面を中央から両側に向かって 2 段掘り下げた段状を呈する。深さは西端から 60cm、40cm、中央が 28cm、40cm、東端が 64cm を測る。径 10～14cm の柱痕が 4 基検出され、溝 2・溝 3 とは様相が異なる。西から 2 番目の柱痕だけが柱筋から 8cm 北にずれ、掘り方埋土の観察からは明瞭な切り合い関係は見られなかったが、西端の柱痕と同時期に作られたものとは考えにくい。2 基の柱間寸法は 64cm (2 尺 1 寸) を測る。東側の 2 基の柱痕は掘り方埋土の観察からは切り合い関係は認められない。また柱筋に乗ることから同時期に作られた可能性が高いと考えられる。柱間寸法は 38cm (1 尺 3 寸) を測る。礎板石などは検出されていない。

溝 2 の規模は長さ 2.5m、幅 42～56cm を測る。断面は底面の両端を深く掘りくぼめ、中央を浅くした段状を呈し、深さは西端が 84cm、中央 8cm、東端 58cm を測る。両端には径 14cm の柱痕が見られるが、礎板石などは検出されていない。

溝 3 は東端が調査区外へ延びる。確認された規模は長さ 2m、幅 48～52cm を測る。断面は底面が平坦な長方形を呈するものと思われ、深さ 1m を測る。両側で径 14cm の柱痕が見られるが、礎板石などは検出されていない。

溝 1 から溝 3 の主軸方位は N-65°-E を示す。それぞれの両端の柱痕を柱間寸法とすると、西端から 1.96m (6 尺 5 寸)・1.88m (6 尺 2 寸)・1.96m (6 尺 5 寸)・1.92m (6 尺 3 寸)・1.84m (6 尺 1 寸) を測り、西端の柱痕から東端の柱痕までの長さは 9.56m である。

堆積土は溝 1～溝 3 まで全て同一で、柱痕と掘り方の 2 層からなる。

遺物は溝 2 の掘り方より飾り金具 (第 113 図 - 1) が出土している。

5) SA27 柱列跡 (第 114 図、図版 33-1～4)

S1-W58・S1-W59 グリッドに位置する。SA16 の北側を平行に走る柱痕を有する 2 基のピットと、3 基の礎板石を有する布掘り溝からなる。西端の礎板石には柱痕が乗る。

西から P1・P2・溝 1 と番号をつけて個別に説明する。

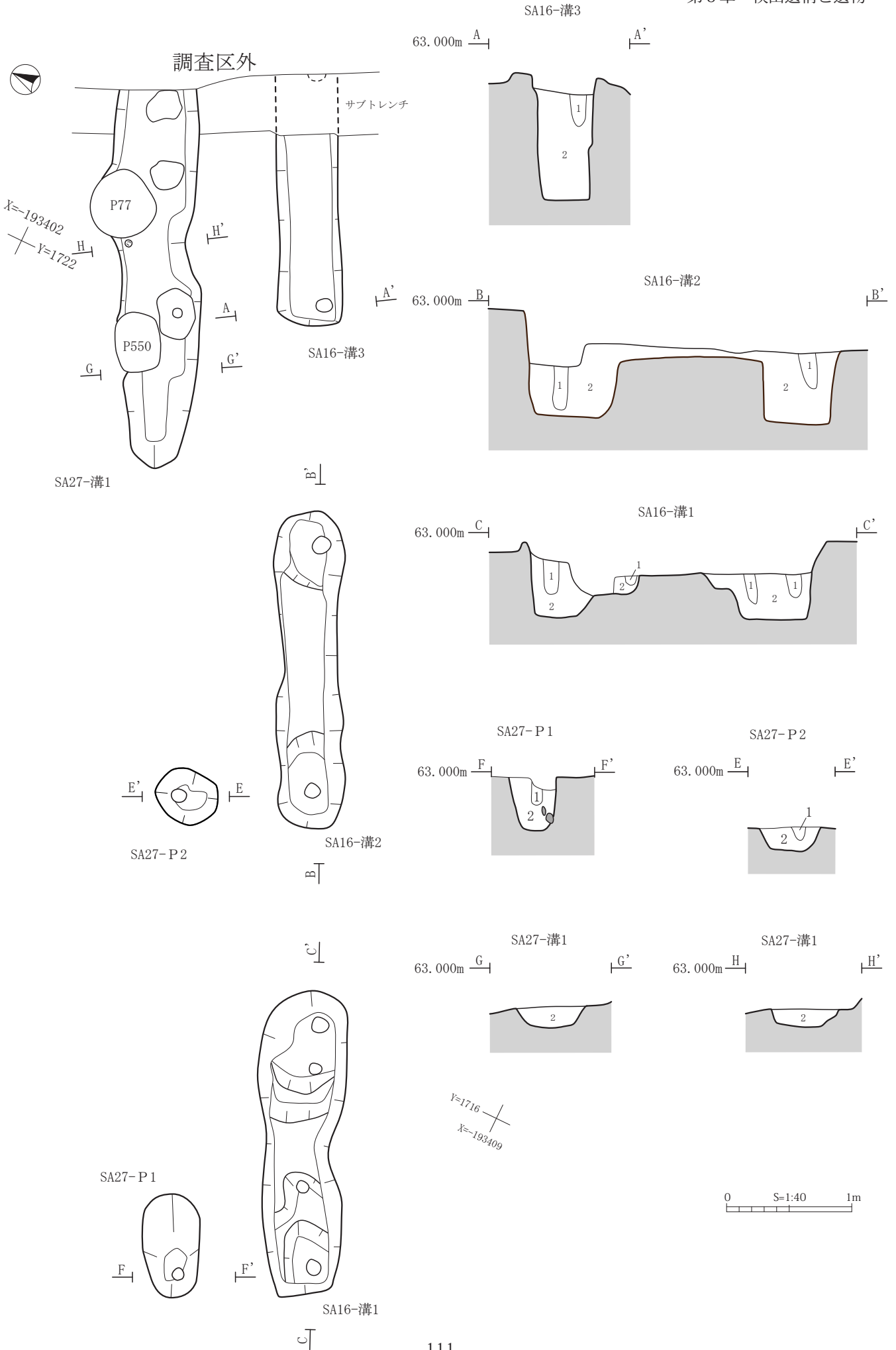
P1 の規模は長軸 82cm、短軸 46cm、深さ 49cm を測る。平面形は楕円形を、断面形は開いた U 字形を呈する。径 8cm の柱痕が検出され、SA16-溝 1 の西端にある柱痕との距離は 1.08m (3 尺 6 寸) を測る。

P2 の規模は長軸 48cm、短軸 40cm、深さ 19cm を測る。平面形は不整形を、断面形は開いた U 字形を呈する。径 12cm の柱痕が検出され、SA16 の溝 2 の西側にある柱痕との距離は 1.08m (3 尺 6 寸) を測る。

溝 1 は北側を P77・P550 によって切られ、東端は調査区外へ延びる。確認された規模は長さ 3.00m、幅 55～65cm、深さ 16cm を測る。断面形は開いた U 字形を呈する。礎板石は 3 基置かれ、西端の礎板石の上面で確認された径 8cm の柱痕と SA16 の溝 3 の西側にある柱痕との距離は 1.16m (3 尺 8 寸) を測る。

P1・P2 と溝 1 の柱間寸法は 2 間とも 3.84m (12 尺 7 寸) を測る。礎板石は西から 40cm・26cm・28cm の扁平な川原石が用いられている。平坦面を上に向けて、溝の南壁寄りに置かれている。2 基の礎板石には柱痕が伴わないのでやや不正確になるが、柱間距離は 1.32m (4 尺 4 寸)、56cm (1 尺 8 寸) を測るものと思われ、これらに直角に組む柱痕は SA16 にはない。P1 から溝 1 の主軸方位は N-65°-E を示す。

堆積土は P1、P2、溝 1 まで全て同一で、柱痕と掘り方の 2 層からなる。



第3節 III区

SA16・27 柱列跡 土層注記表

遺構番号	層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
		No.	色				
SA16	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	ややあり	ややあり	柱痕
	2	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	径 2 cm以下の褐灰色土粒やや多量、径 3 mm以下の粗砂微量
SA27	1	2.5Y4/6	オリーブ褐色	シルト	ややあり	ややあり	柱痕
	2	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	径 2 cm以下の褐灰色土粒やや多量、径 3 mm以下の粗砂微量

第 113 図 SA16・27 柱列跡 平面図・断面図

遺物は出土していない。

SA16 と SA27 は、東西方向に平行して並ぶ柱列跡である。北側の SA27 は SA16 の柱筋に対して直角し、柱間寸法も 1.08m (3 尺 6 寸) ~ 1.16m (3 尺 8 寸) と近似する。また SA16 の柱痕 2 基に対して 1 基の割り合いで位置すること、掘り方の規模が小さいことから、SA16 の控え柱になる可能性が高いと思われる。そのことから SA16 は塀であったことが推定され、塀によって区画された南側が外で、控え柱を有する北側が内になるものと考えられる。



1

0 S=1:2 5cm

SA16 柱列跡 出土遺物観察表 (金属製品)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	部位	法量 (cm・g)				備 考	登録番号
					長さ	幅	厚さ	重さ		
113-1	106-7	S1-W58・59 SA16-溝2 2層	飾り金具	—	22.5	—	0.05	2.37	菊花形	N-10

第 114 図 SA16 柱列跡 出土遺物

6) SA17 柱列跡 (第 115 図、図版 33-5・34-1～2)

S1-W60・S2-W60 グリッドに位置する。南北方向に走る布掘り溝の中に、5基の柱跡が検出された。中央西側は攪乱に壊され、南端をSD4によって切られる。南北両端とも壁は立ち上がり途切れる。

確認された規模は長さ7.80m、幅50～82cm、深さ54～64cmを測る。底面はほぼ平坦で、断面形は開いたU字形を呈する。柱跡は5基の礎板石と、その上に載る1基の柱材と4基の柱痕からなる。柱材は径16cm、長さ25cmを測る丸材で、柱痕は径20cm前後である。

主軸方向はN-27°-Wを示す。柱間寸法は南端から1.98m(6尺5寸)・1.62m(5尺3寸)・1.77m(5尺8寸)・1.48m(4尺9寸)を測り、南端の柱材から北端の柱痕までの長さは6.79mである。礎板石には26×44cm～34×50cmの端部を打ち欠いた川原石と、ほぼ全面的に打ち欠いたものが使われている。南側の柱間には18～26cmの川原石と割り石が4個積まれた状態で検出されたが、柱を載せた痕跡は見られなかった。堆積土は柱痕と掘り方の2層からなる。

遺物は柱材以外、出土していない。

7) SA18 柱列跡 (第 115 図、図版 34-1・4～5)

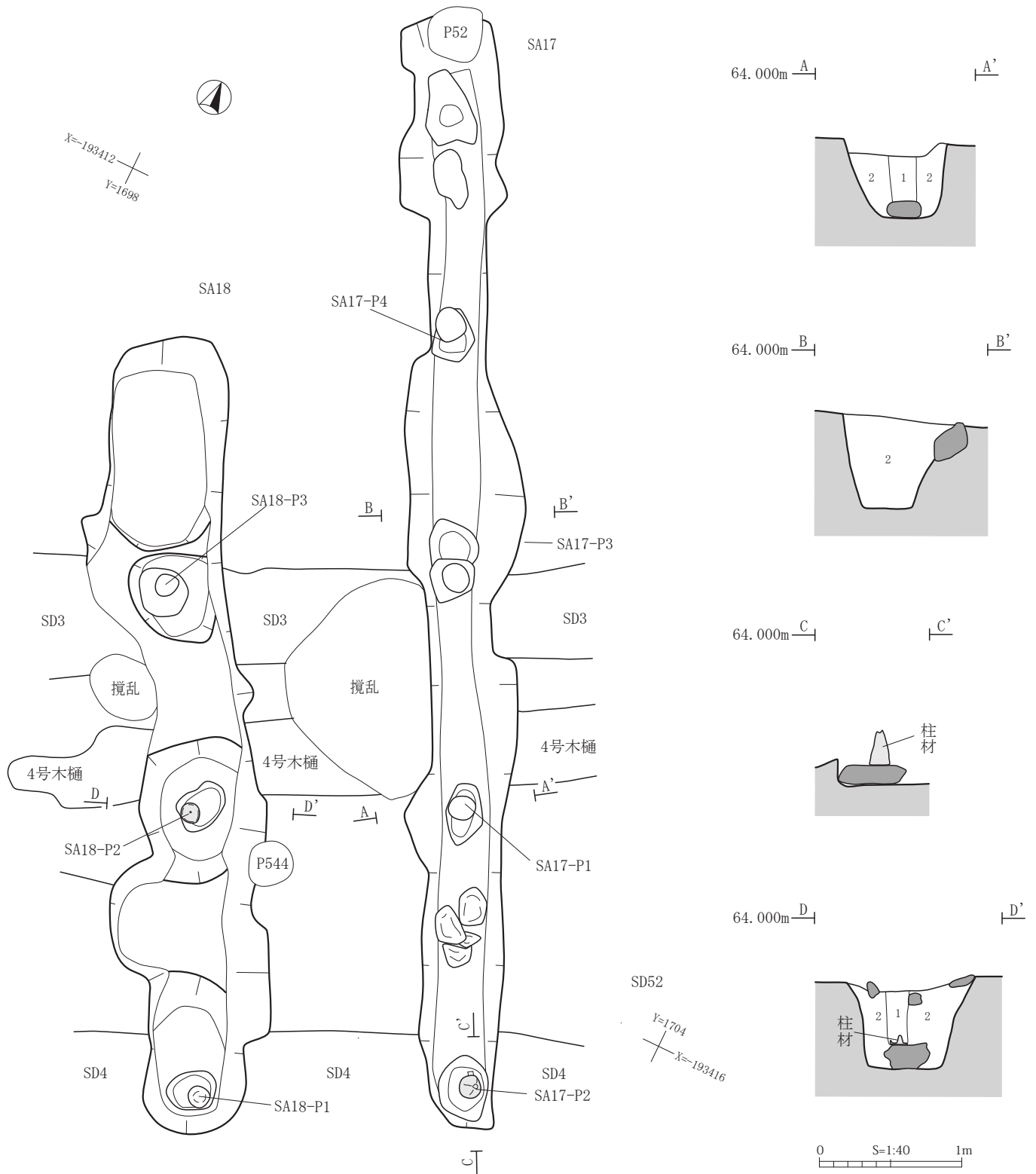
S2-W60・S2-W6 1 グリッドに位置する。南北方向に走る布掘り溝の中に、3基の柱跡が検出された。南北両端とも壁は立ち上がり、途切れる。

確認された規模は長さ5.6m、幅60～110cm、深さ45～60cmを測る。底面はSA17とは様相が異なり、ピット状に掘り下げた底面に礎板石を置く。断面形は開いたU字形を呈する。

柱跡は3基の礎板石と、その上に載る2基の柱材と1基の柱痕からなる。溝の北端も精査したが柱を置いた痕跡は見られなかった。柱材はともに丸材で、柱1が径14cm、長さ29cm、柱2が径15cm、長さ18.5cmを測る。柱痕は径16cmである。

主軸方位はSA17と同じくN-27°-Wを示す。柱間寸法は南端から1.98m(6尺5寸)・1.60m(5尺3寸)を測り、南端の柱材から北側の柱痕までの距離は3.58mを測る。礎板石には26×35cm～34×36cmの川原石が使用されている。堆積土は柱痕と掘り方の2層からなる。

遺物は柱材以外、出土していない。



SA17・18 柱列跡 土層注記表

遺構番号	層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
		No	色				
SA17	1	10YR6/2	灰黄褐色	粘土質シルト	あり	なし	柱痕
	2	10YR5/1	褐灰色	シルト	ややあり	あり	径 20 cm以下の礫少量、径 10 cm以下の暗青灰色土粒多量
SA18	1	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	なし	柱痕
	2	5G4/1	暗緑灰色	粘土質シルト	あり	あり	径 5 cm以下の礫少量、径 10 cm以下の暗青灰色土粒多量

第 115 図 SA17・18 柱列跡 平面図・断面図

(2) 溝跡

1) SD24 溝跡・SX14 性格不明遺構 (第 116 ～ 120 図、図版 34-6・35-1 ～ 2)

[SD24] S3-W63・S3-W64 グリッドに位置する。南北方向に走る石組溝である。SX14 を切り、中央やや北寄りの東側を 2 号柵状遺構によって壊される。南側は攪乱によって壊され、その先に延びていた痕跡が認められないことから、攪乱付近で収束するものと考えられる。北側は調査区外へ延びる。

確認された規模は、長さ 7 m、側石と側石の最大内幅 18cm、掘り方の幅 76 ～ 120cm、深さ 48cm を測る。断面形は開いた U 字形を呈する。主軸方向は N-32.5° -W を示す。

側石は 30 ～ 48cm の端部を打ち欠いた川原石と、未加工のものとのが 1 段並べられ、西側石は全体的に東側に横ずれしたと思われる。南側では石蓋が架けられているような様相を呈する部分もあるが、崩れた西側石が載ったものと考えられる。中央の底面には 28 ～ 39cm の川原石が施されている。裏込めには 10 ～ 15cm の礫が少量含まれる。

堆積土は 6 層からなる。1 ～ 3 層は溝内堆積土で、3 層では水成堆積の砂が確認されている。堆積は東側の石組面に対して斜めに落ち込んでおり、西方向からの堆積と思われる。4 ～ 6 層は掘り方埋土である。

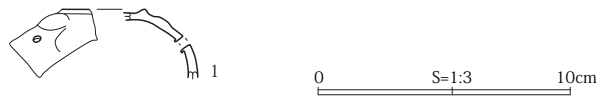
遺物は 18 世紀代と思われる京・信楽系の色絵水滴が出土している。

[SX14] S3-W63・S3-W64・S4-W63 グリッドに位置する。中央と南側を攪乱によって壊され、4 号池付帯の 2 号木樋・2 号柵状遺構・SD12・SD24 に切られる。北側は調査区外へ延び、南端は壁が立ち上がって途切れる。

確認された規模は長軸 9.9 m、短軸 4 ～ 4.5m、深さ 36cm を測る。平面形は長方形か隅丸長方形が推定され、断面形は皿状を呈する。主軸方向は SD24 と同じく N-32.5° -W を示す。

堆積土は 6 層からなる。シルトブロック、シルトストーン等を含む砂質シルトを主体としており、一部グライ化しているのが認められる。水分の多い場所で整地を行った際の堆積の可能性はある。

遺物は中国漳州窯産の青花皿、漆器・曲げ物等の木製品、古銭が出土している。出土した古銭は全て寛永通宝で、古寛永が 4 点、新寛永が 10 点出土している。古寛永は無背、新寛永は全て背面に「文」字が施される寛文年間の鑄造と見られるものである。

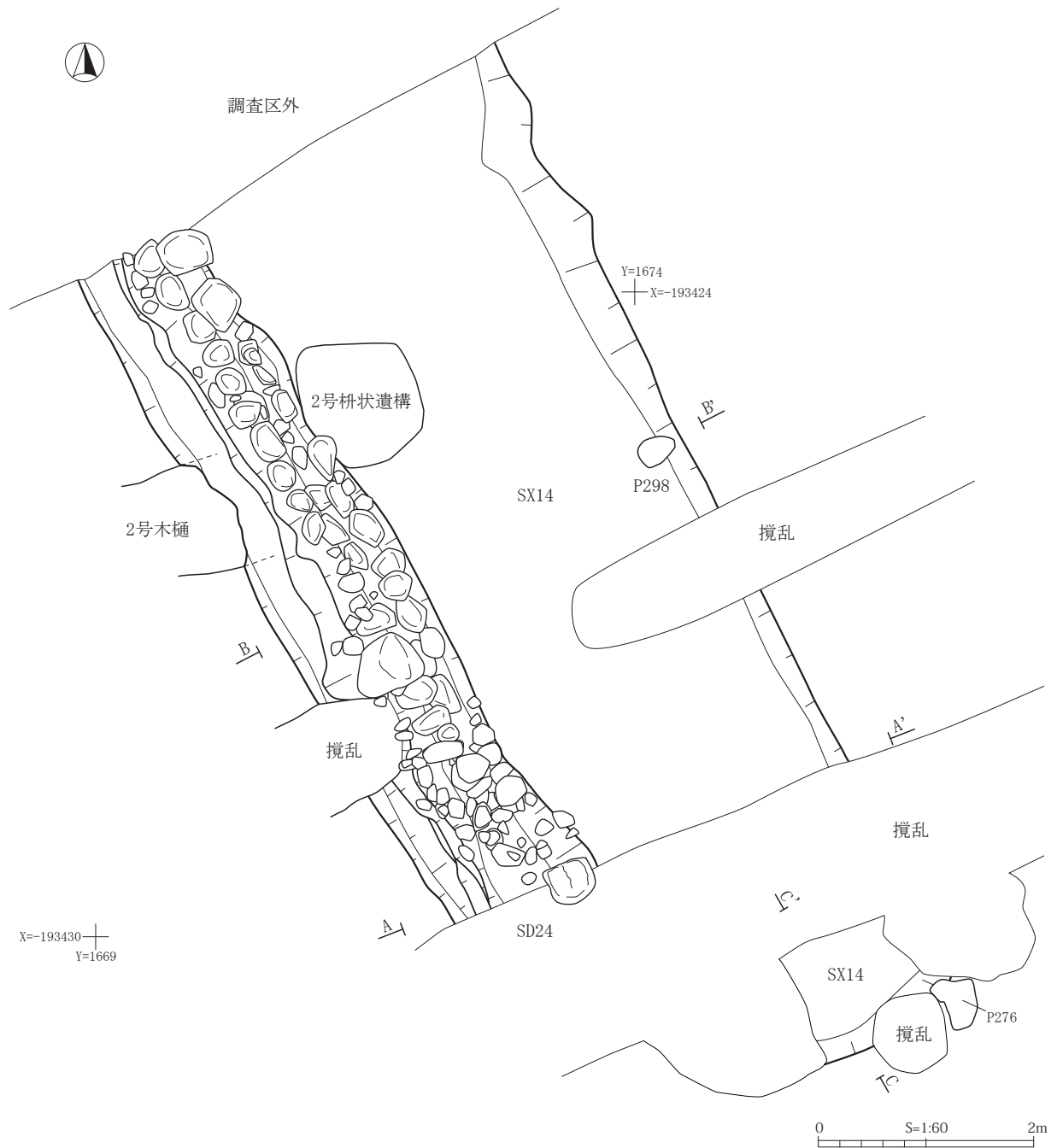


SD24 溝跡 出土遺物観察表 (磁器)

図版 番号	写真図版 番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
116-1	106-8	S3-W63・64 SD24 4層	磁器	鳥型水滴	体部	密	色絵	—	—	(2.2)	京焼	18世紀		J-6

第 116 図 SD24 溝跡 出土遺物

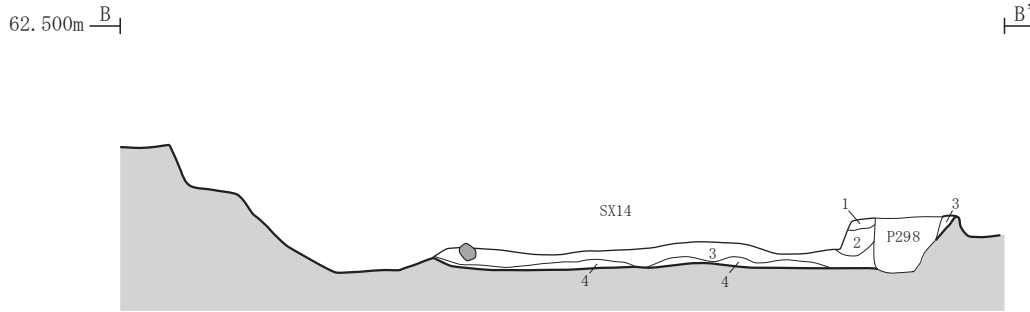
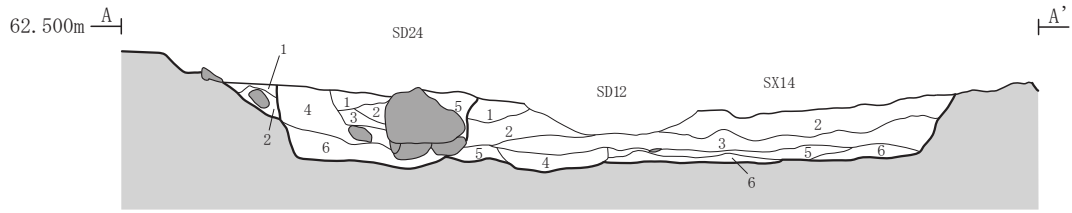
第3節 III区



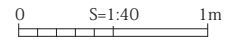
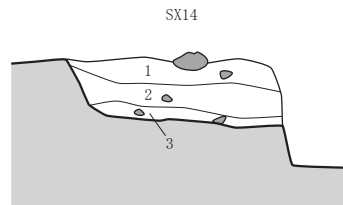
SD24 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	あり	にぶい黄色シルトを少量、酸化鉄多量
2	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	あり	ややあり	オリーブ褐色砂質シルト少量、酸化鉄微量
3	5Y3/1	オリーブ黒色	砂質シルト	あり	なし	暗灰黄色砂質シルト少量、酸化鉄少量
4	5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	あり	なし	酸化鉄少量 5GY5/1 オリーブ灰色にグライ化
5	10YR3/2	黒褐色	シルト	あり	なし	
6	2.5Y3/1	黒褐色	砂	なし	なし	

第117図 SD24 溝跡・SX14 性格不明遺構 平面図



62.500m C-C'

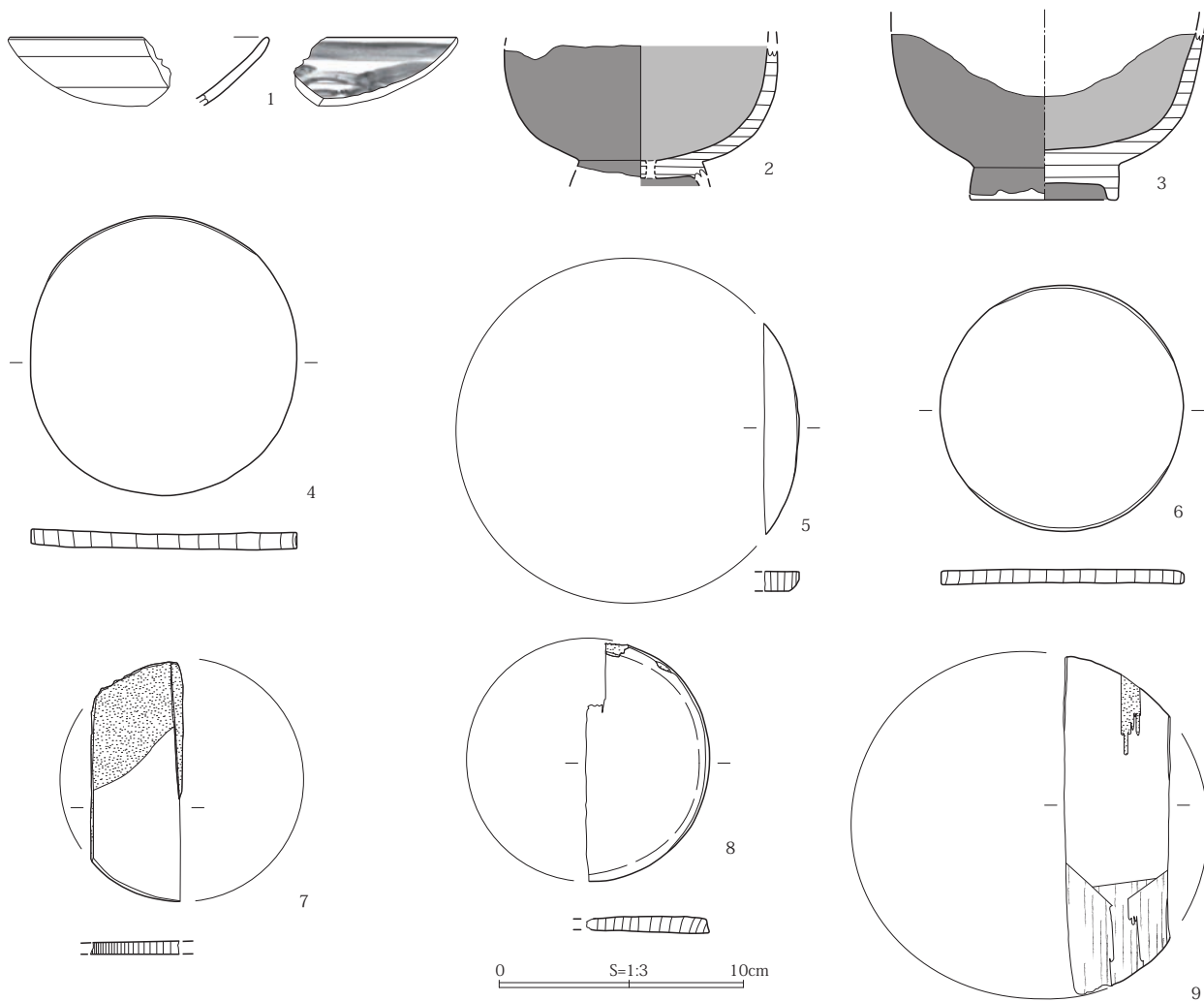


SD24 溝跡・SX14 性格不明遺構 土層注記表

遺構名	層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
		No.	色				
SD24	1	5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	あり	なし	酸化鉄少量 溝内堆積土
	2	10YR3/2	黒褐色	シルト	あり	なし	溝内堆積土
	3	2.5Y3/1	黒褐色	砂	なし	なし	溝内堆積土
	4	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	あり	にぶい黄色シルトを少量、酸化鉄多量 掘り方埋土
	5	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	あり	ややあり	オリーブ褐色砂質シルト少量、酸化鉄微量 掘り方埋土
	6	5Y3/1	オリーブ黒色	砂質シルト	あり	なし	暗灰黄色砂質シルト少量、酸化鉄少量 掘り方埋土
SX14	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	ややあり	径 1 cm の黄褐色シルト粒少量、酸化鉄多量
	2	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	ややあり	径 1 cm の黄褐色シルト粒多量、径 5 mm の炭化物微量
	3	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	なし	酸化鉄微量、径 1 cm 以下の 2.5Y6/6 微量
	4	5Y3/1	オリーブ黒色	砂質シルト	なし	ややあり	径 5 cm 以下の礫少量、シルトストーン微量 グライ化
	5	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	なし	ややあり	径 5 cm 以下の礫多量、シルトクストーン多量 グライ化
	6	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量

第 118 図 SD24 溝跡・SX14 性格不明遺構 断面図

第3節 III区



SX14 性格不明遺構 出土遺物観察表 (磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
119-1	106-9	S3-W63・64 SX14 6層	磁器	皿	口縁～体部	緻密	染付	—	—	(2.85)	中国 (漳州窯)	16世紀末～17世紀前 (明末・清初)		J-71

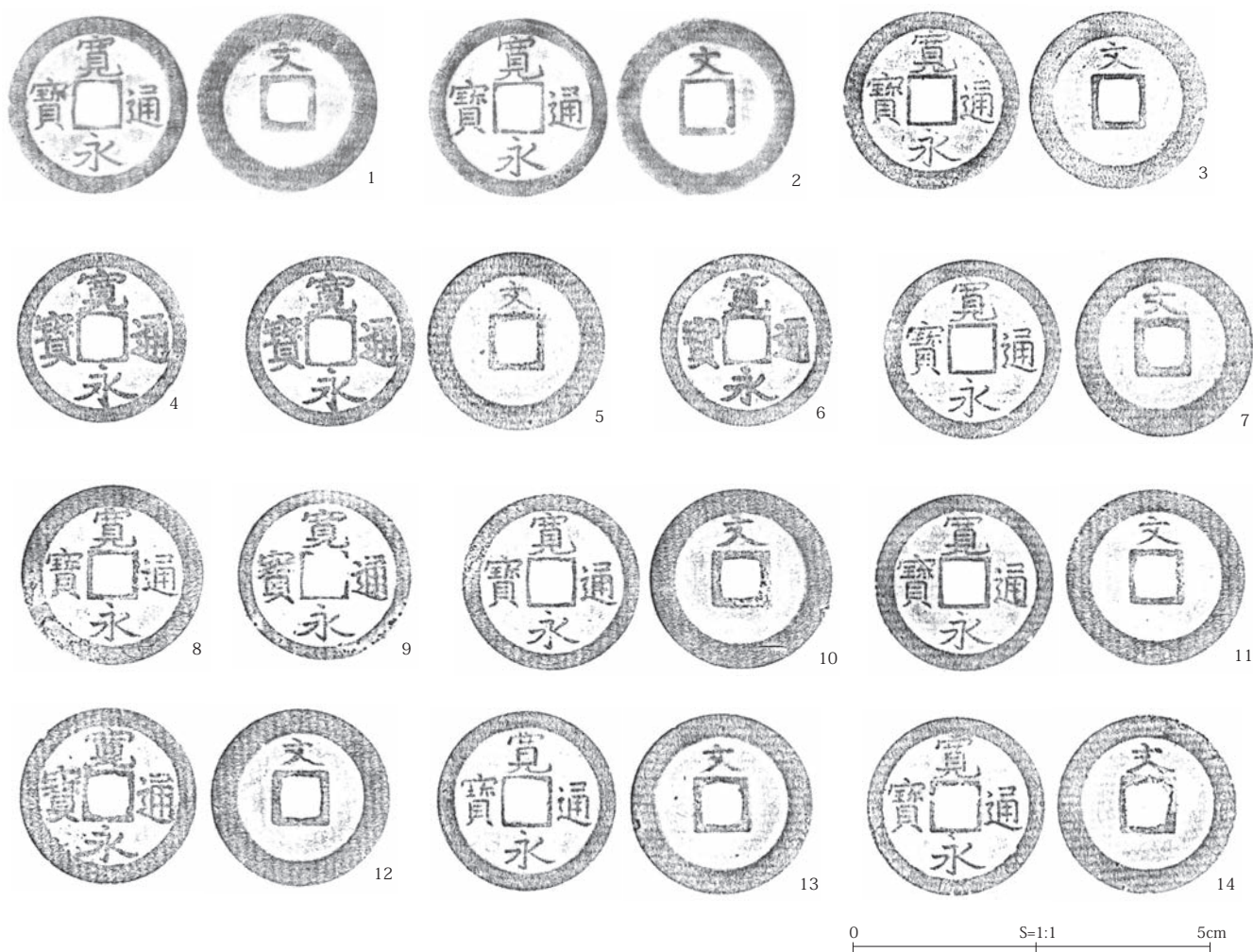
SX14 性格不明遺構 出土遺物観察表 (漆器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				口径	底径	器高		
119-2	106-10	S3-W63・64 SX14 4層	漆器椀	—	—	(5.8)	外面黒漆、内面赤漆	L-120
119-3	106-11	S3-W63・64 SX14	漆器椀	—	—	(7.9)	外面黒漆、内面赤漆	L-119

SX14 性格不明遺構 出土遺物観察表 (木製品)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
119-4	106-14	S3-W63・64 SX14	曲物	12.5	11.9	0.7		L-117
119-5	106-13	S3-W63・64 SX14	曲物	9.6	(1.5)	0.8		L-116
119-6	106-16	S3-W63・64 SX14	曲物	11.0	10.9	0.5		L-121
119-7	106-12	S3-W63・64 SX14	曲物	(10.6)	(4.1)	0.7		L-115
119-8	106-15	S3-W63・64 SX14	曲物	(10.6)	(5.5)	0.7		L-118
119-9	106-17	S3-W63・64 SX14	曲物	(15.3)	(4.5)	0.7		L-93

第119図 SX14 性格不明遺構 出土遺物



SX14 性格不明遺構 出土遺物観察表 (古銭)

図版番号	写真図版番号	グリッド遺構・層位	銭貨名	初鋳年	法量 (cm・g)			備考	登録番号
					外径	穿径	重さ		
120-1	107-1	S3-W63・64 SX14 6層	寛永通宝 (新)	1668年	2.5	0.6	4.06	文銭	N-117
120-2	107-2	S3-W63・64 SX14 6層	寛永通宝 (新)	1668年	2.5	0.6	3.42	文銭	N-118
120-3	107-3	S3-W63・64 SX14 6層	寛永通宝 (新)	1668年	2.5	0.6	3.57	文銭	N-119
120-4	107-4	S3-W63・64 SX14 6層	寛永通宝 (古)	1626年	2.4	0.6	3.66	無背	N-120
120-5	107-5	S3-W63・64 SX14 6層	寛永通宝 (新)	1668年	2.5	0.6	3.62	文銭	N-121
120-6	107-6	S3-W63・64 SX14 6層	寛永通宝 (古)	1626年	2.4	0.6	3.55	無背	N-122
120-7	107-7	S3-W63・64 SX14 6層	寛永通宝 (新)	1668年	2.5	0.6	3.65	文銭	N-123
120-8	107-8	S3-W63・64 SX14 6層	寛永通宝 (新)	1668年	2.55	0.6	3.53	文銭	N-124
120-9	107-9	S3-W63・64 SX14 6層	寛永通宝 (古)	1626年	2.4	0.6	2.99	無背	N-130
120-10	107-10	S3-W63・64 SX14 6層	寛永通宝 (新)	1668年	2.5	0.6	3.87	文銭	N-125
120-11	107-11	S3-W63・64 SX14 6層	寛永通宝 (新)	1668年	2.5	0.6	3.8	文銭	N-126
120-12	107-12	S3-W63・64 SX14 6層	寛永通宝 (古)	1626年	2.5	0.6	3.34	無背	N-127
120-13	107-13	S3-W63・64 SX14 6層	寛永通宝 (新)	1668年	2.55	0.6	4.11	文銭	N-128
120-14	107-14	S3-W63・64 SX14 6層	寛永通宝 (新)	1668年	2.55	0.6	3.16	文銭	N-129

第120図 SX14 性格不明遺構 出土遺物

第3節 III区

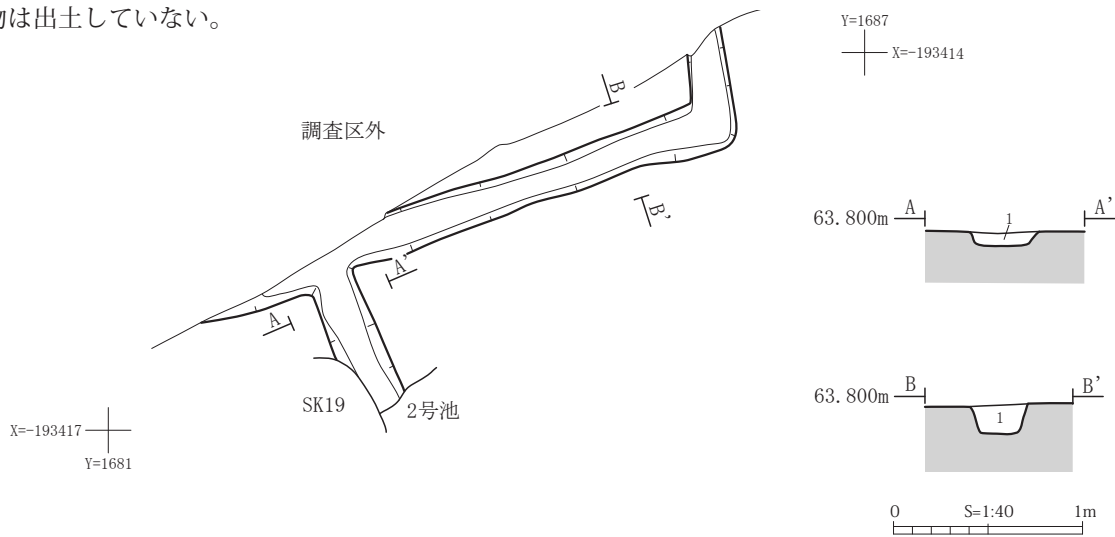
2) SD34 溝跡 (第 121 図、図版 35-3 ~ 5)

S2-W62 グリッドに位置する。幅の狭い素掘りの溝で、調査区北壁から東方向に 3.3m 走り、そこから北方向へ L 字状に 65cm 走って調査区外へ延びる。また西端の東側で T 字状に南に分岐する溝を確認し、形状と堆積土が類似することから同一の遺構であると判断し登録した。

分岐点から 1.3m 走った南端は SK19 と 2 号池によって切られる。確認された規模は、幅 30 ~ 42cm、深さ 16cm を測る。

東西の主軸方向は N-71°-E を、調査区北壁に延びる南北の主軸は N-6°-W を、池 2 に延びる南北の主軸は N-20°-W を示す。断面形は開いた U 字形を呈する。堆積土は褐灰色の粘土質シルトの単層で、水流の痕跡は認められなかった。

遺物は出土していない。



SD34 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	Na	色				
1	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	あり	径 3 cm 以下の礫少量

第 121 図 SD34 溝跡 平面図・断面図

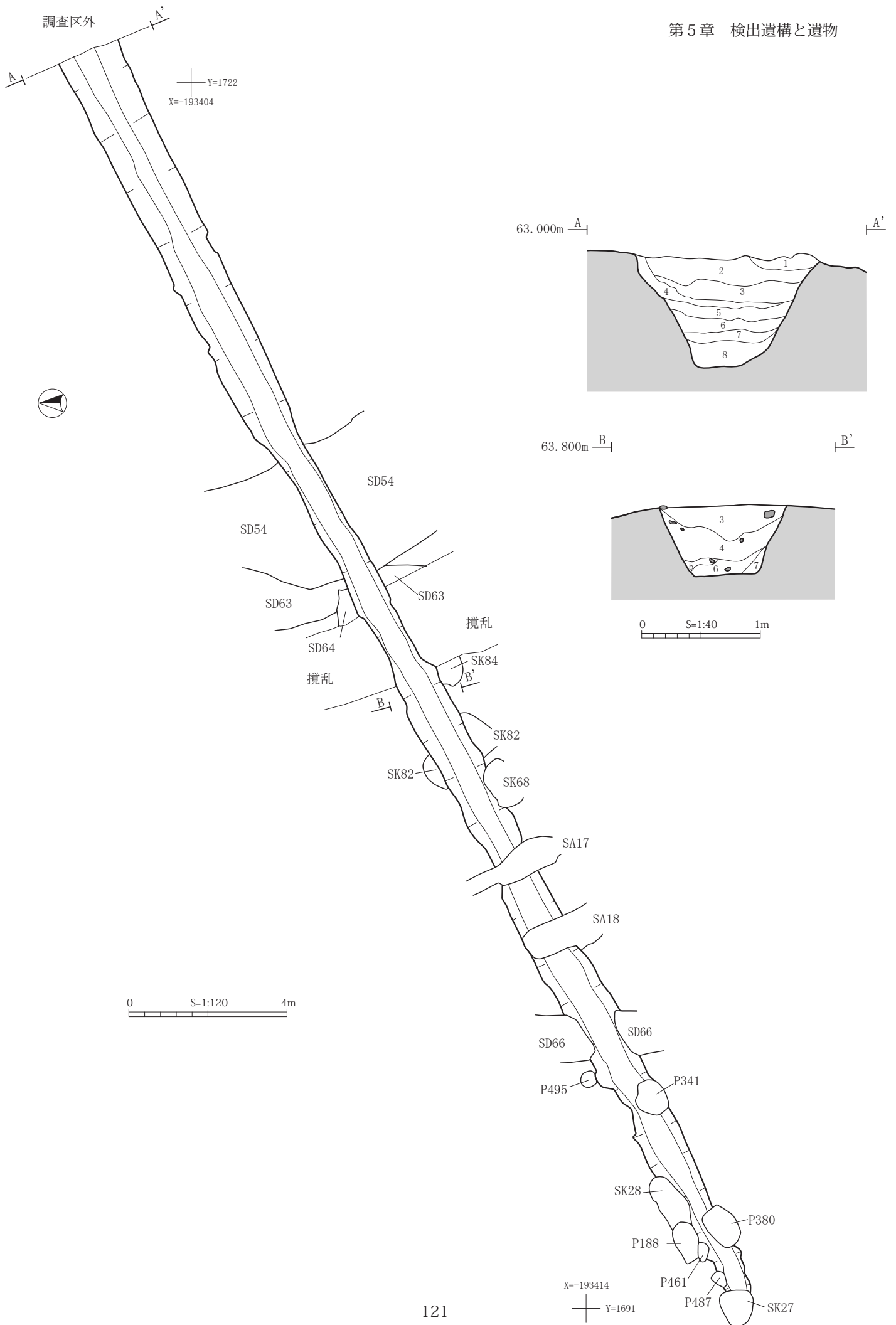
3) SD39 溝跡 (第 122 図、図版 35-6 ~ 7・36-1・38-1)

S1-W58 ~ S2-W61 グリッドに位置する。東西方向に直線的に走る素掘りの溝である。中央は攪乱と SD54 によって壊される。西端は SK27 に切られ、その先に延びていた痕跡がないことから途切れるか、または上位の整地によって削平されたものと思われる。東側は調査区外に延びる。

確認された規模は長さ 35.5m、幅 1 ~ 1.56m、深さ 95cm を測る。主軸方向は N-62°-E を示す。断面形は逆台形状を呈する。

堆積土は 8 層からなる。1 ~ 5 層は上層の整地による埋め戻し土と考えられ、1 ~ 3 層は混入物の差により分層された。4・5 層は水分の多い所に直接埋め戻し土を入れたものと思われ、グライ化が観察される。6 層は水成堆積の砂層で、ラミナ構造が見られる。7・8 層は礫を多量に含む。

遺物は 1 層から瓦片が出土しているが細片のため図化し得なかった。



第3節 III区

SD39 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	2.5Y5/3	黄褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	白色砂粒多量
2	2.5Y5/4	黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	径3～5cmの暗灰黄色粘土質シルトブロック多量
3	2.5Y5/4	黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	径5～10cmの暗灰黄色粘土質シルトブロック少量
4	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	あり	ややあり	白色砂粒多量 グライ化層
5	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質粘土	ややなし	ややあり	シルトストーンやや多量 白色粒やや多量 グライ化層
6	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質砂	ややあり	ややあり	白色砂粒をラミナ状にやや多量 水成堆積土
7	5Y3/2	オリーブ黒色	砂質シルト～砂層	ややなし	ややあり	径5cm以下の礫多量
8	5Y4/1	灰色	シルト質砂～砂礫層	ややあり	ややなし	径3cm以下の礫多量

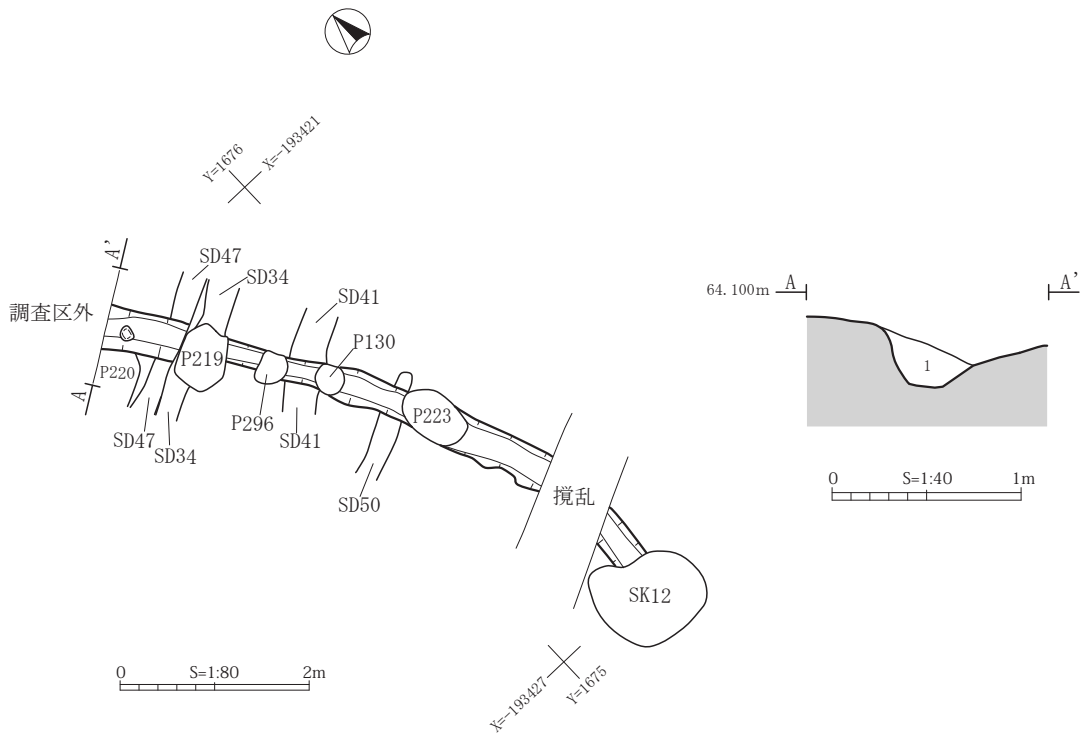
第122図 SD39 溝跡 平面図・断面図

4) SD40 溝跡 (第123図、図版36-2～3)

S3-W63 グリッドに位置する。南北方向に緩やかに湾曲しながら走る素掘りの溝である。SD34・SD41・SD47に切られ、南側は攪乱によって壊される。南端はSK12によって切られ、その先に延びていた痕跡がないことから途切れるものと思われる。北西端でP220を切り、調査区外へ延びる。

確認された規模は長さ6.3m、幅23～48cm、深さ32cmを測る。主軸方向はN-23°-Eを示す。断面形はU字形を呈する。堆積土は褐灰色のシルト質砂の単層からなり、水成堆積土と思われる。

遺物は出土していない。



SD40 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR4/1	褐灰色	シルト質砂	なし	ややあり	径1cm以下の小礫・砂やや多量

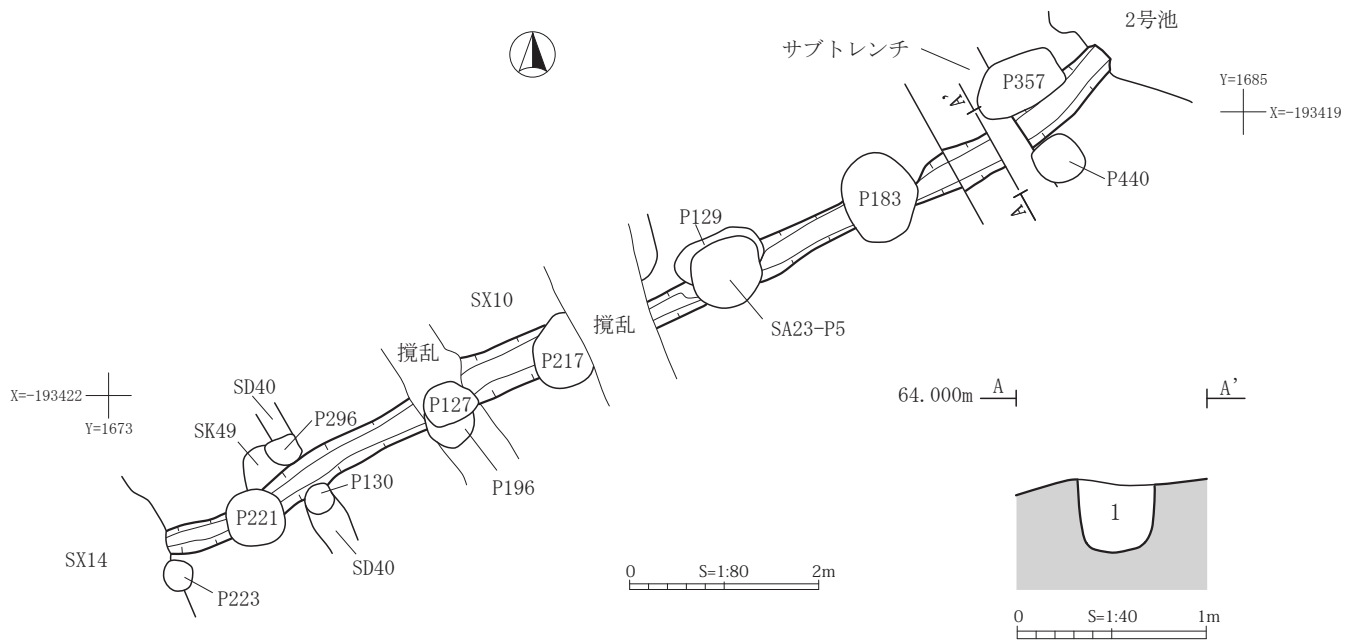
第123図 SD40 溝跡 平面図・断面図

5) SD41 溝跡 (第 124 図、図版 36-4・62-1)

S2-W62・S3-W62・S3-W63 グリッドに位置する。東西方向に走る素掘りの溝である。中央は攪乱によって壊され、西端を SX14 に切られる。その先に延びていた痕跡がないことから途切れるものと思われる。東端はやや北方向に向きを変えたところで 2 号池によって切られる。

確認された規模は長さ 11.25m、幅 25～50cm、深さ 18cm を測る。主軸方向は N-63°-E を示す。断面形は U 字形を呈する。堆積土は黒褐色の砂質シルトの単層からなる。

遺物は出土していない。



SD41 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No.	色				
1	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	黄褐色粗砂を多量、酸化鉄少量 全体的にオリーブ灰色にグライ化

第 124 図 SD41 溝跡 平面図・断面図

6) SD49 溝跡 (第 125～126 図、図版 37-1～3)

N1-W59・S1-W59 グリッドに位置する。東西方向に走る石組溝と思われる。西側は SD23 に切られ、その先に延びていた痕跡がないことから途切れるものと推定される。東側は掘り方の幅を広げながら調査区外に延びる。

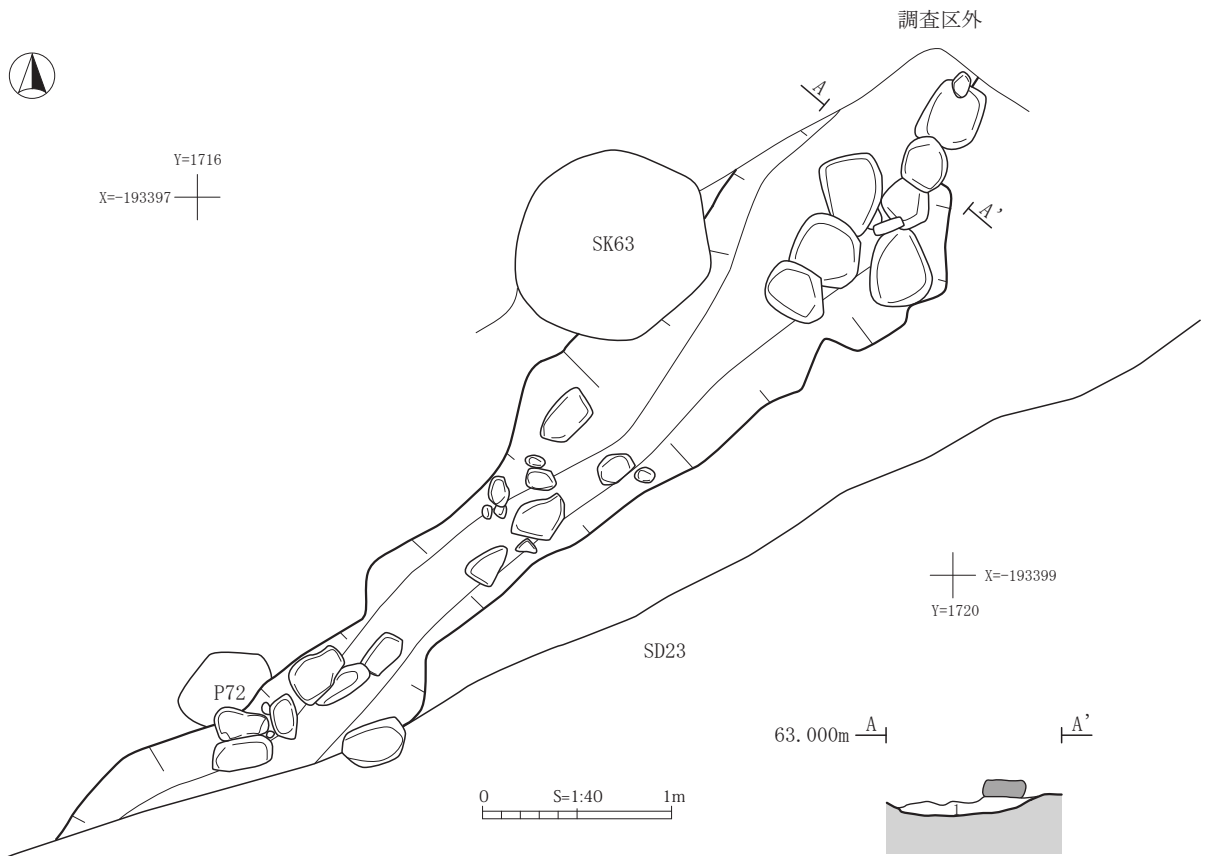
確認された規模は残存長 3.72m、掘り方の幅 33～84cm、深さ 10cm を測る。

主軸方向は N-45°-E を示す。側石は 14×24cm～33×42cm の端部を打ち欠いた川原石と未加工のものが使われ、そのほとんどが原状をとどめていないようである。側石と側石の内幅は不明で、掘り方も明瞭ではない。調査区北壁の土層観察から、整地による削平を受けた可能性も考えられる。断面形は皿状を呈する。

堆積土は褐色砂質シルトの単層からなり、酸化鉄を多量に含む。

遺物は底面付近から磁器片が 2 点出土している。第 126 図 - 1 は内外面の口縁部に帯文を回す景德鎮産の皿で 16 世紀後半～17 世紀前半のものと思われる。漆による補修痕が残る。2 は近世と思われる肥前産の鉢か皿で、内外面に草花文が施される。

第3節 III区



SD49 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No.	色				
1	7.5YR4/4	褐色	砂質シルト	なし	ややあり	酸化鉄多量

第125図 SD49 溝跡 平面図・断面図



SD49 溝跡 出土遺物観察表 (磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
126-1	107-15	N1-W58・59 SD49 下層	磁器	皿	口縁	緻密	染付圏線・ 文様帯	—	—	(1.8)	景德鎮	16世紀後半～17世紀前半	漆継	J-17
126-2	107-16	N1-W58・59 SD49 下層	磁器	鉢?	体部	緻密	染付草花文	—	—	(1.05)	肥前	近世		J-18

第126図 SD49 溝跡 出土遺物

7) SD54 溝跡 (第 127 ~ 133 図、図版 37-4 ~ 6)

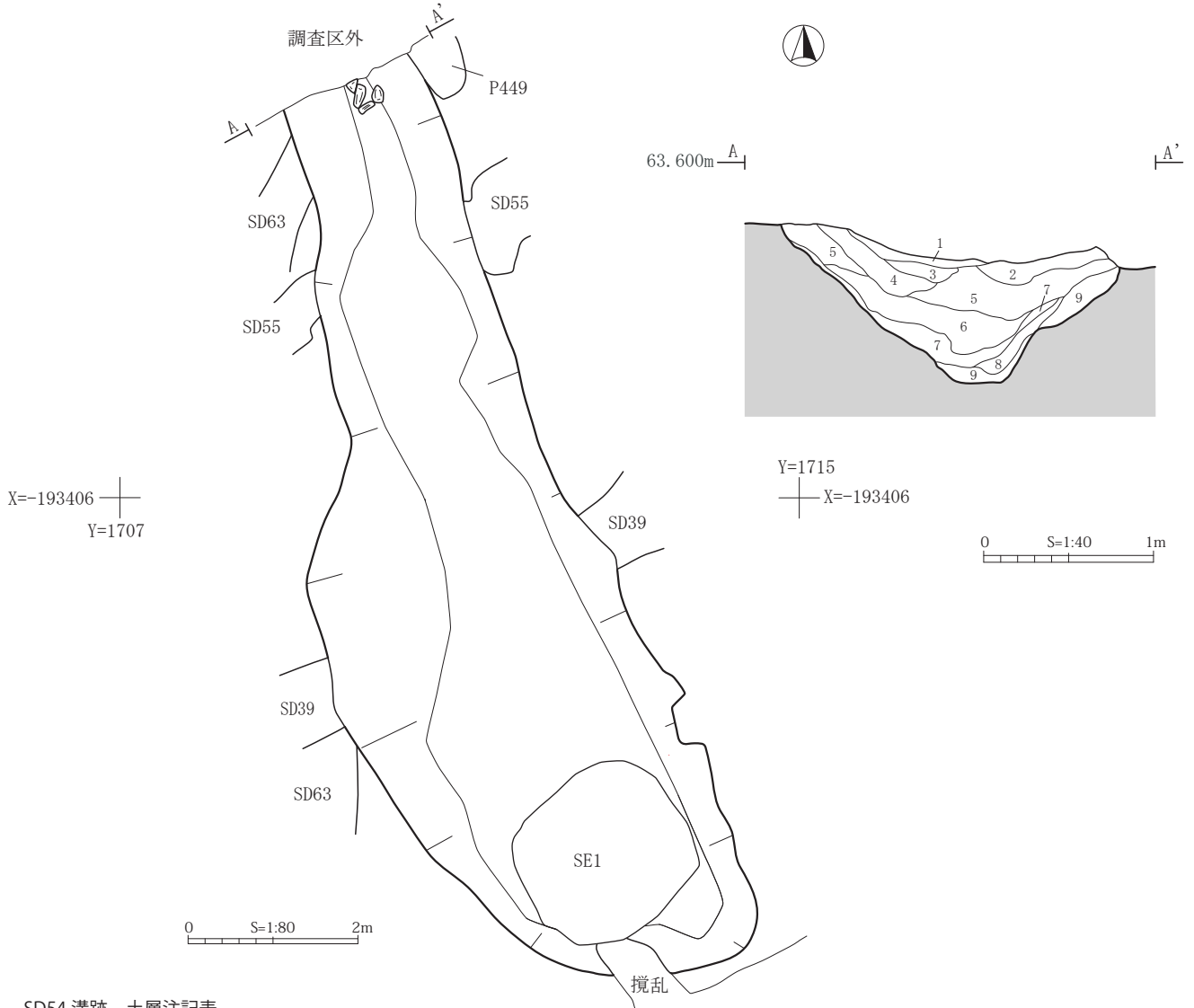
S1-W59・S1-W60・S2-W59 グリッドに位置する。南北方向に走る素掘りの溝である。SD63 を切り、SE1、P449、SD39、SD55 に壊される。南端は壁が立ち上がり途切れ、北側は調査区外へ延びる。

確認された規模は長さ 11m、幅 1.8 ~ 3.6m、深さ 52cm を測る。

主軸方向は N-20°-W を示す。断面形は開いた U 字形を呈する。

堆積土は 9 層からなる。1 ~ 6 層は上層の整地による埋め戻し土と考えられる。7 ~ 9 層はグライ化が著しく、有機物を多量に含む溝機能時の底面堆積土と考えられる。

遺物は瓦、陶器、木製品等が 7 層および 9 層の有機物層から多量に出土している。陶器は志野産、唐津産、瀬戸・



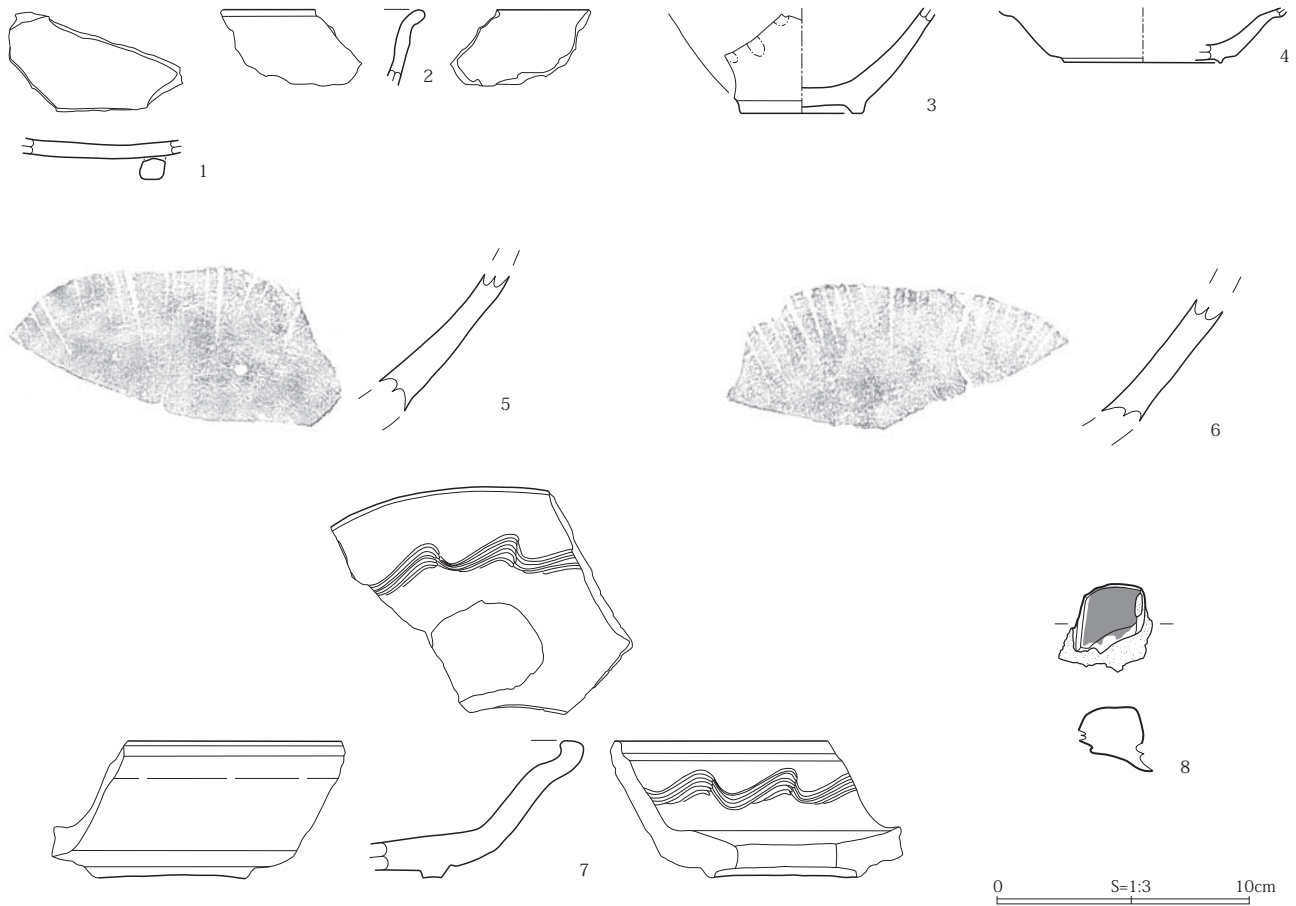
SD54 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	2.5Y5/3	黄褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	白色砂粒多量
2	2.5Y5/4	黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	径 3 ~ 5 cm の暗灰黄色粘土質シルトブロック多量
3	2.5Y5/4	黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	径 5 ~ 10cm の暗灰黄色粘土質シルトブロック少量
4	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	あり	ややあり	白色砂粒多量
5	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	なし	あり	径 2 mm 以下のシルトストーン少量
6	2.5Y4/1	黄褐色	シルト	なし	あり	径 4 cm 以下の黒褐色土粒やや多量
7	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	ややあり	グライ化顕著、有機物を多量に含む
8	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト質砂	なし	ややあり	グライ化顕著 径 2 mm 以下の黒褐色土粒微量
9	5Y2/1	黒色	泥炭	なし	あり	有機物層

第 127 図 SD54 溝跡 平面図・断面図

第3節 III区

美濃産が見られ、16世紀末～17世紀代のものを主体としている。瓦は鬼瓦片が出土しており、金箔が付着している。木製品は漆器、楔、曲物、加工木、箸、下駄、杭等が出土している。漆器は椀、皿、蓋などの器種のものと思われ、文様には草文、三引両文が認められる。下駄は差歯下駄のみが出土しており、箸は全て白木のまま使用したものと思われ、漆等の塗装がなされているものは認められなかった。



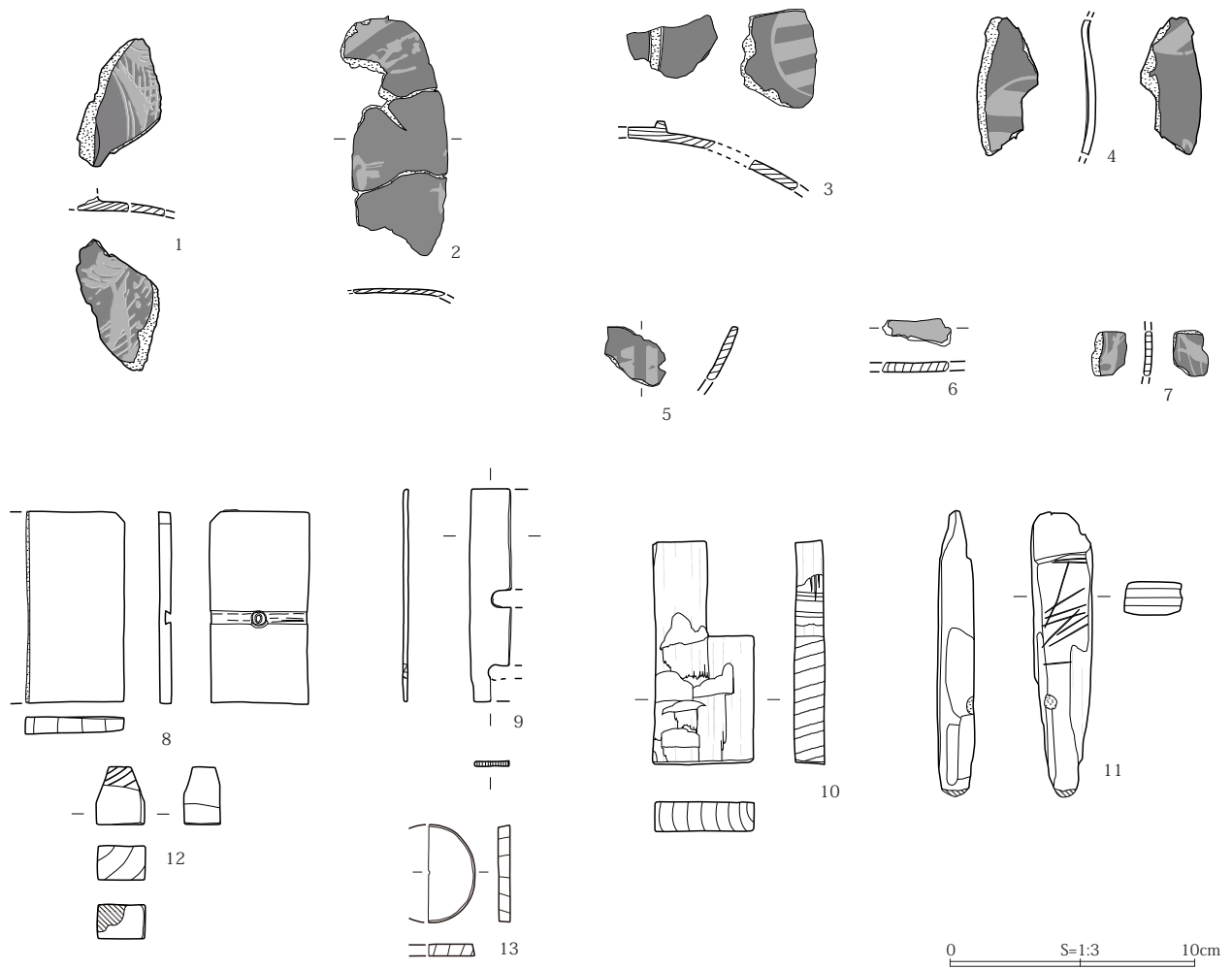
SD54 溝跡 出土遺物観察表 (陶器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
128-1	107-17	S1・2-W59・60 SD54 7層	陶器	鉢	底部	粗	長石釉	—	—	(3.45)	志野	17世紀		I-39
128-2	107-18	S1・2-W59・60 SD54 9層	陶器	碗?	口縁～体部	粗	長石釉	—	—	(3.0)	志野	16世紀末～ 17世紀初頭		I-38
128-3	107-19	S1・2-W59・60 SD54 7層	陶器	碗	体部～底部	やや蜜	鉄釉	—	(4.8)	(4.2)	唐津	17世紀前半		I-36
128-4	107-20	S1・2-W59・60 SD54 9層	陶器	碗	底部	粗	白濁釉	—	(6.3)	(2.3)	瀬戸・美濃	16世紀後半		I-37
128-5	107-22	S1・2-W59・60 SD54 9層	陶器	挿鉢	体部	やや粗	—	—	—	(5.9)	不明	近世		I-213
128-6	107-23	S1・2-W59・60 SD54 9層	陶器	挿鉢	体部	やや粗	—	—	—	(4.9)	不明	近世		I-218
128-7	107-21	S1・2-W59・60 SD54 7層	陶器	皿	口縁～底部	粗	柳書羽状文	—	—	5.5	瀬戸・美濃	17世紀		I-35

SD54 溝跡 出土遺物観察表 (瓦)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
128-8	107-24	S1・2-W59・60 SD54 7層	鬼瓦か	(3.6)	(3.3)	(4.0)	金箔付着 (■部)	H-8

第128図 SD54 溝跡 出土遺物

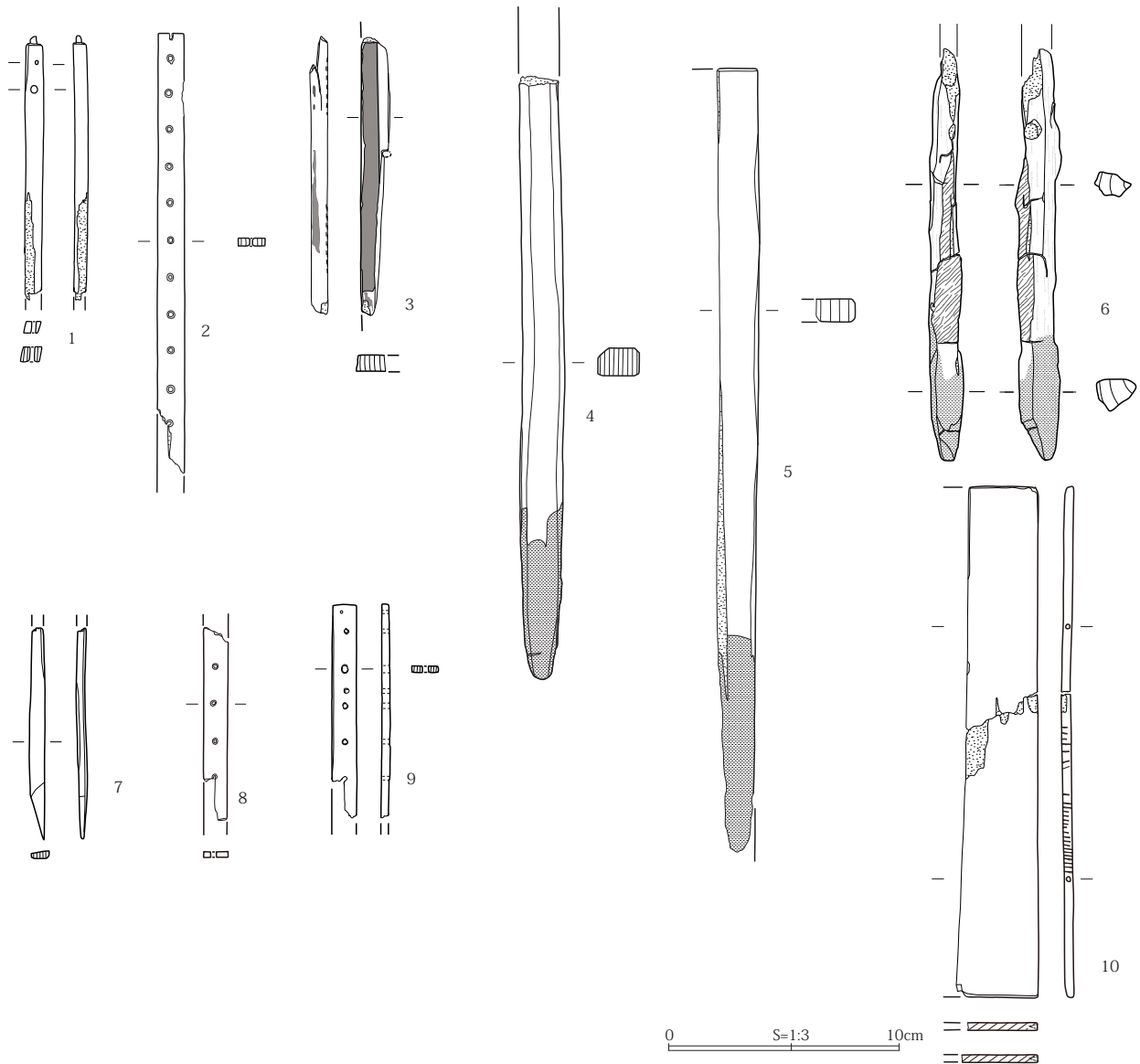


SD54 溝跡 出土遺物観察表（木製品）

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
129-1	108-1	S1・2-W59・60 SD54 7層	漆器	(5.8)	(4.0)	0.3	草文 黒地赤漆草文	L-46
129-2	108-2	S1・2-W59・60 SD54 7層	漆器	(10.7)	(4.1)	0.3	黒地赤漆文様あり	L-58
129-3	108-3	S1・2-W59・60 SD54 9層	漆器	(4.5)	(8.3)	0.5	黒地赤漆三引両文	L-49
129-4	108-4	S1・2-W59・60 SD54 9層	漆器	(6.3)	(2.6)	0.3	黒地赤漆三引両文	L-50
129-5	108-5	S1・2-W59・60 SD54 7層	漆器	(3.3)	(2.5)	0.3	黒地赤漆三引両文	L-48
129-6	108-6	S1・2-W59・60 SD54 9層	漆器	(1.3)	(3.0)	0.3	赤漆	L-47
129-7	108-7	S1・2-W59・60 SD54 7層	漆器	(2.0)	(1.7)	0.3	黒地赤漆草文	L-59
129-8	108-10	S1・2-W59・60 SD54 7層	部材	8.6	4.3	0.5	中央にホゾ	L-54
129-9	108-11	S1・2-W59・60 SD54 7層	部材	9.6	1.8	0.3	孔×2	L-64
129-10	108-12	S1・2-W59・60 SD54 7層	部材	10.0	4.6	1.3	割裂 横面に鋸痕	L-62
129-11	108-13	S1・2-W59・60 SD54 9層	楔	12.7	2.6	1.5	欠損大	L-63
129-12	108-8	S1・2-W59・60 SD54 7層	部材	2.5	2.0	1.7		L-66
129-13	108-9	S1・2-W59・60 SD54 7層	曲物	(4.5)	2.1	0.5	中央に孔あり 蓋か	L-55

第129図 SD54 溝跡 出土遺物

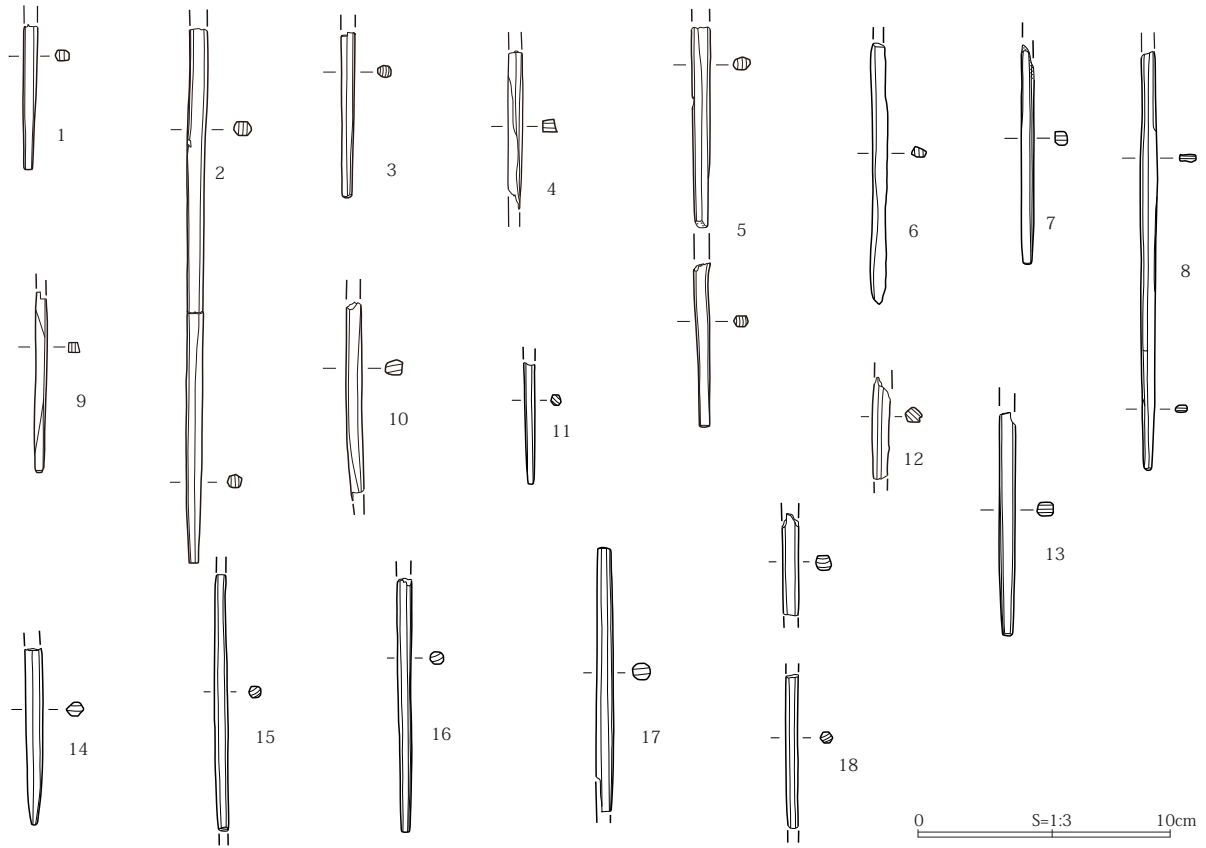
第3節 III区



SD54 溝跡 出土遺物観察表 (木製品)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
130-1	108-14	S1・2-W59・60 SD54 7層	加工木	(12.5)	0.8	0.7	穿孔×2	L-61
130-2	108-15	S1・2-W59・60 SD54 9層	加工木	(20.8)	1.3	0.3	穿孔×11	L-81
130-3	108-19	S1・2-W59・60 SD54 7層	加工木	13.2	1.3	0.8	漆付着	L-60
130-4	108-16	S1・2-W59・60 SD54 7層	加工木	(28.7)	2.0	1.3	先端にコゲ	L-80
130-5	108-17	S1・2-W59・60 SD54 9層	加工木	37.1	1.8	1.2	先端にコゲ	L-44
130-6	108-18	S1・2-W59・60 SD54 9層	加工木	19.8	1.8	1.5	漆付着	L-83
130-7	108-20	S1・2-W59・60 SD54 9層	加工木	(10.2)	0.7	0.3	先端を切り落とす	L-65
130-8	108-21	S1・2-W59・60 SD54 7層	加工木	(9.4)	1.2	0.3	穿孔×3	L-73
130-9	108-22	S1・2-W59・60 SD54 7層	加工木	(10.6)	1.2	0.3	穿孔×5	L-77
130-10	108-23	S1・2-W59・60 SD54 9層	加工木	24.4	3.3	0.3	横面に孔×2	L-71

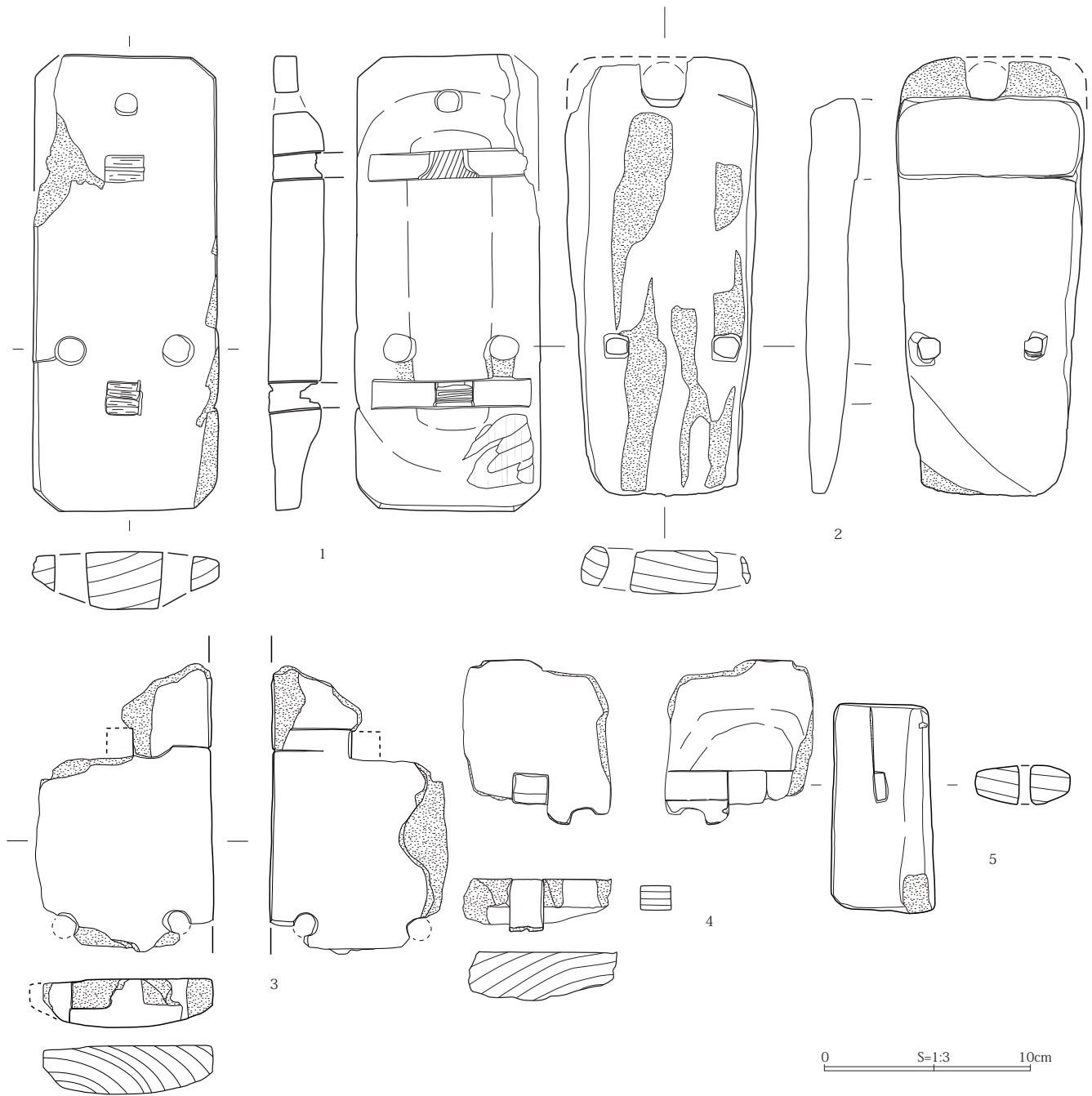
第130図 SD54 溝跡 出土遺物



SD54 溝跡 出土遺物観察表 (木製品)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
114-1	109-1	S1・2-W59・60 SD54 9層	箸	(6.3)	0.7	0.5		L-75-4
114-2	109-2	S1・2-W59・60 SD54 7層	箸	(23.4)	0.8	0.7		L-69-2
114-3	109-3	S1・2-W59・60 SD54 9層	箸	(7.3)	0.5	0.5		L-70
114-4	109-4	S1・2-W59・60 SD54 7層	箸	(6.9)	0.5	0.5		L-75-5
114-5	109-5	S1・2-W59・60 SD54 9層	箸	(17.2)	0.7	0.5		L-69
114-6	109-6	S1・2-W59・60 SD54 9層	箸	(11.6)	0.7	0.3		L-72
114-7	109-7	S1・2-W59・60 SD54 7層	箸	(9.6)	0.5	0.7		L-75-2
114-8	109-8	S1・2-W59・60 SD54 7層	箸	(24.1)	0.7	0.5		L-76
114-9	109-9	S1・2-W59・60 SD54 9層	箸	(8.0)	0.7	0.5		L-75-3
114-10	109-10	S1・2-W59・60 SD54 7層	箸	(8.3)	0.7	0.7		L-72-2
114-11	109-11	S1・2-W59・60 SD54 9層	箸	(5.3)	0.5	0.5		L-52-2
114-12	109-12	S1・2-W59・60 SD54 7層	箸	(4.6)	0.7	0.5		L-72-3
114-13	109-13	S1・2-W59・60 SD54 7層	箸	(9.7)	0.7	0.7		L-75
114-14	109-14	S1・2-W59・60 SD54 9層	箸	(7.6)	0.7	0.5		L-52
114-15	109-15	S1・2-W59・60 SD54 7層	箸	11.2	0.5	0.5		L-52-5
114-16	109-16	S1・2-W59・60 SD54 9層	箸	(11.2)	0.5	0.5		L-52-4
114-17	109-17	S1・2-W59・60 SD54 7層	箸	11.6	0.7	0.7		L-52-3
114-18	109-18	S1・2-W59・60 SD54 7層	箸	(13.7)	0.7	0.7		L-52-6

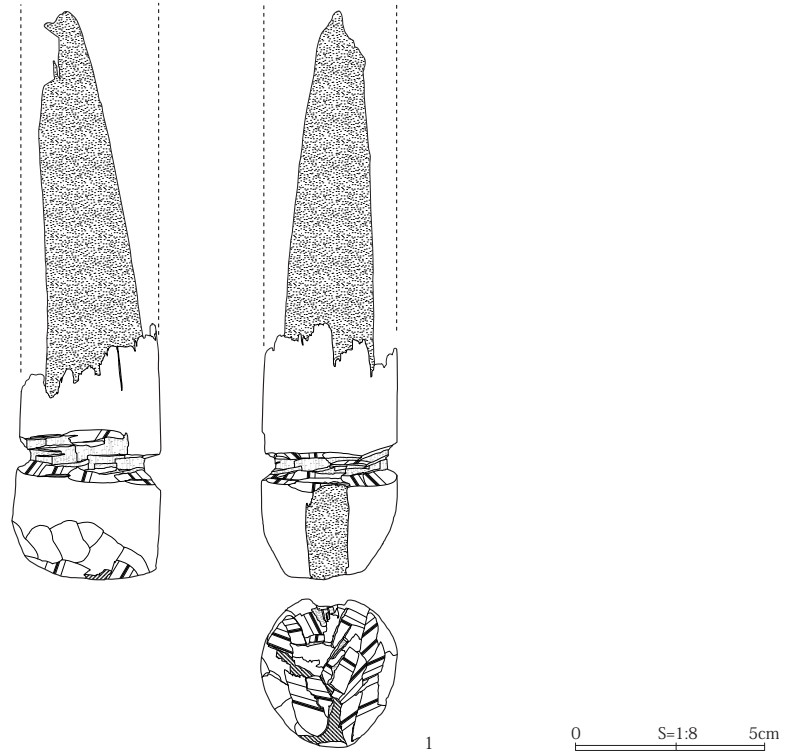
第 131 図 SD54 溝跡 出土遺物



SD54 溝跡 出土遺物観察表 (木製品)

図版番号	写真図版 番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備 考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
132-1	109-19	S1・2-W59・60 SD54 7層	下駄	24.1	9.7	2.8	差歯下駄	L-45
132-2	109-20	S1・2-W59・60 SD54 9層	下駄	22.4	9.7	2.6	連歯下駄	L-78
132-3	109-21	S1・2-W59・60 SD54 7層	下駄	(15.0)	(9.2)	2.6	差歯下駄	L-67
132-4	109-22	S1・2-W59・60 SD54 9層	下駄	(7.6)	(7.6)	3.0	差歯下駄	L-68-2
132-5	109-23	S1・2-W59・60 SD54 7層	部材	11.2	5.3	2.3	穿孔	L-68-1

第 132 図 SD54 溝跡 出土遺物



SD54 溝跡 出土遺物観察表 (木製品)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
133-1	109-24	S1・2-W59・60 SD54 7層	柱材	(58.6)	13.3	13.4	上部腐食 抉りあり 先端割裂顕著	L-51

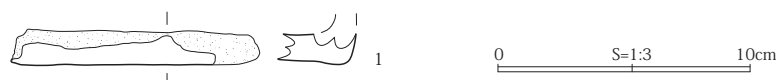
第 133 図 SD54 溝跡 出土遺物

8) SD55 溝跡 (第 134 ~ 135 図、図版 38-1 ~ 2)

N1-W58 ~ S2-W62 グリッドに位置する。東西方向に直線的に走る素掘りの溝である。中央は攪乱と SD54 に壊される。西端は 2 号池によって切られ、その先に延びていた痕跡がないことから途切れるか、または上位の整地によって削平されたものと思われる。東側は調査区外へ延びる。調査区東壁の土層観察から当該遺構が埋まった後に SD39 が掘られたことが確認されている。

確認された規模は長さ 37.5m、幅 70 ~ 140cm、深さ 56cm を測る。主軸方向は N-62°-E を示す。断面形は開いた U 字形を呈する。堆積土は 6 層からなり、1・2 層は砂質シルトの埋め戻し土と考えられる。3 ~ 5 層は砂を主体としラミナ構造も見られ、水成堆積土と思われる。6 層はシルト質粘土層で、最下層に沈殿した堆積土層と考えられる。

遺物は瓦、瓦質土器が出土している。第 134 図 - 1 は火鉢と思われる底部片で、近世の所産と思われる。

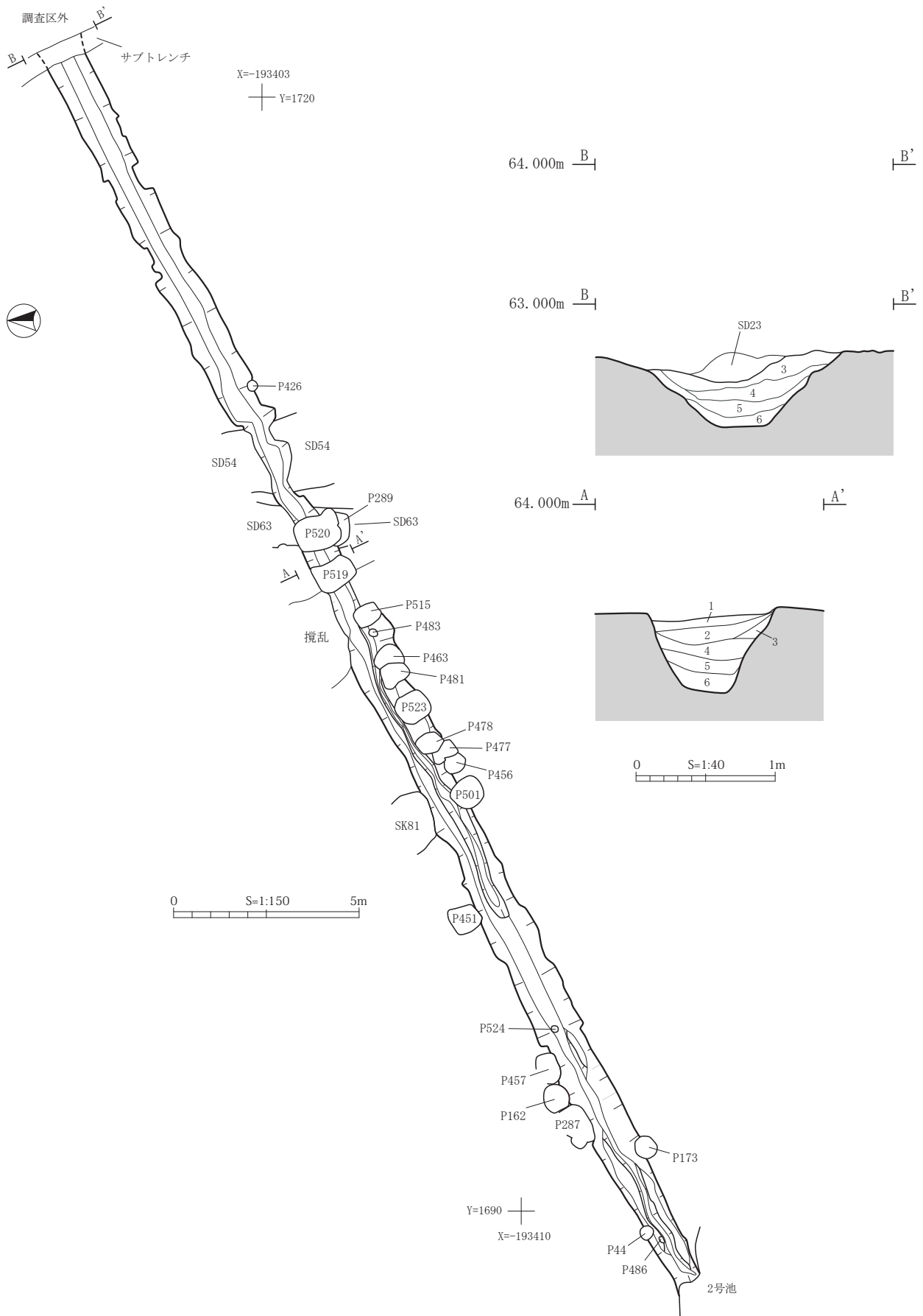


SD55 溝跡 出土遺物観察表 (陶器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
134-1	110-1	N1-W58 SD55 3層	瓦質土器	火鉢	底部	粗		—	—	(1.3)	在地	近世		I-214

第 134 図 SD55 溝跡 出土遺物

第3節 III区



SD55 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	ややなし	ややあり	シルトストーン少量
2	10YR4/4	褐色	砂質シルト	ややなし	ややあり	白色粒やや多量 礫微量 ラミナ構造みられる
3	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質砂	ややなし	ややあり	径3cm以下の礫微量
4	10YR3/4	暗褐色	砂	なし	あり	小礫・砂多量
5	10YR3/4	暗褐色	砂	なし	ややなし	ラミナ構造有 発達している 砂礫の互層
6	10YR4/1	褐灰色	シルト質粘土	あり	ややなし	酸化鉄やや多

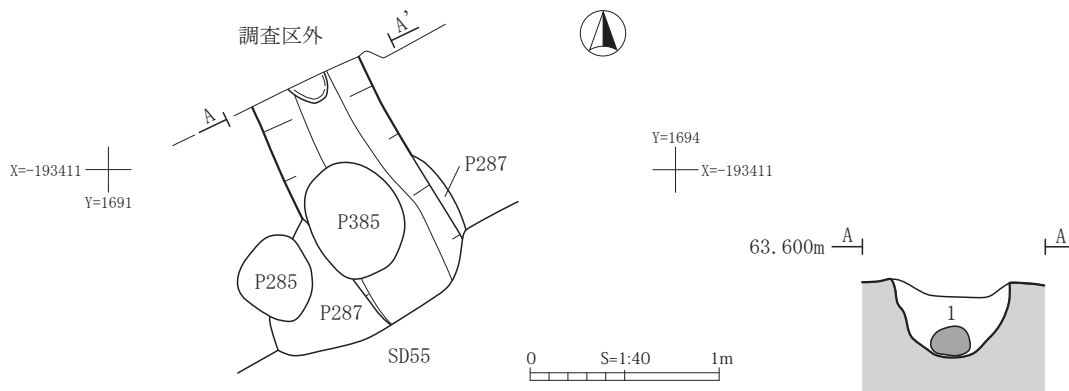
第 135 図 SD55 溝跡 平面図・断面図

9) SD56 溝跡 (第 136 図、図版 38-3 ~ 4)

S2-W61 グリッドに位置する。南北方向に走る素掘りの溝である。中央から南側を P287・P385 に、南端は SD55 に切れ、その先まで延びていた痕跡がないことから途切れるものと推定される。北側は調査区外へ延びる。確認された規模は、残存長 1.3m、幅 64cm、深さ 32cm を測る。

主軸方向は N-27° -W を示す。断面形は開いた U 字形を呈する。堆積土は砂質シルトの単層からなり、水流の痕跡は認められない。

遺物は出土していない。



SD56 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	ややあり	あり	径1~2cmの礫、砂粒多量

第 136 図 SD56 溝跡 平面図・断面図

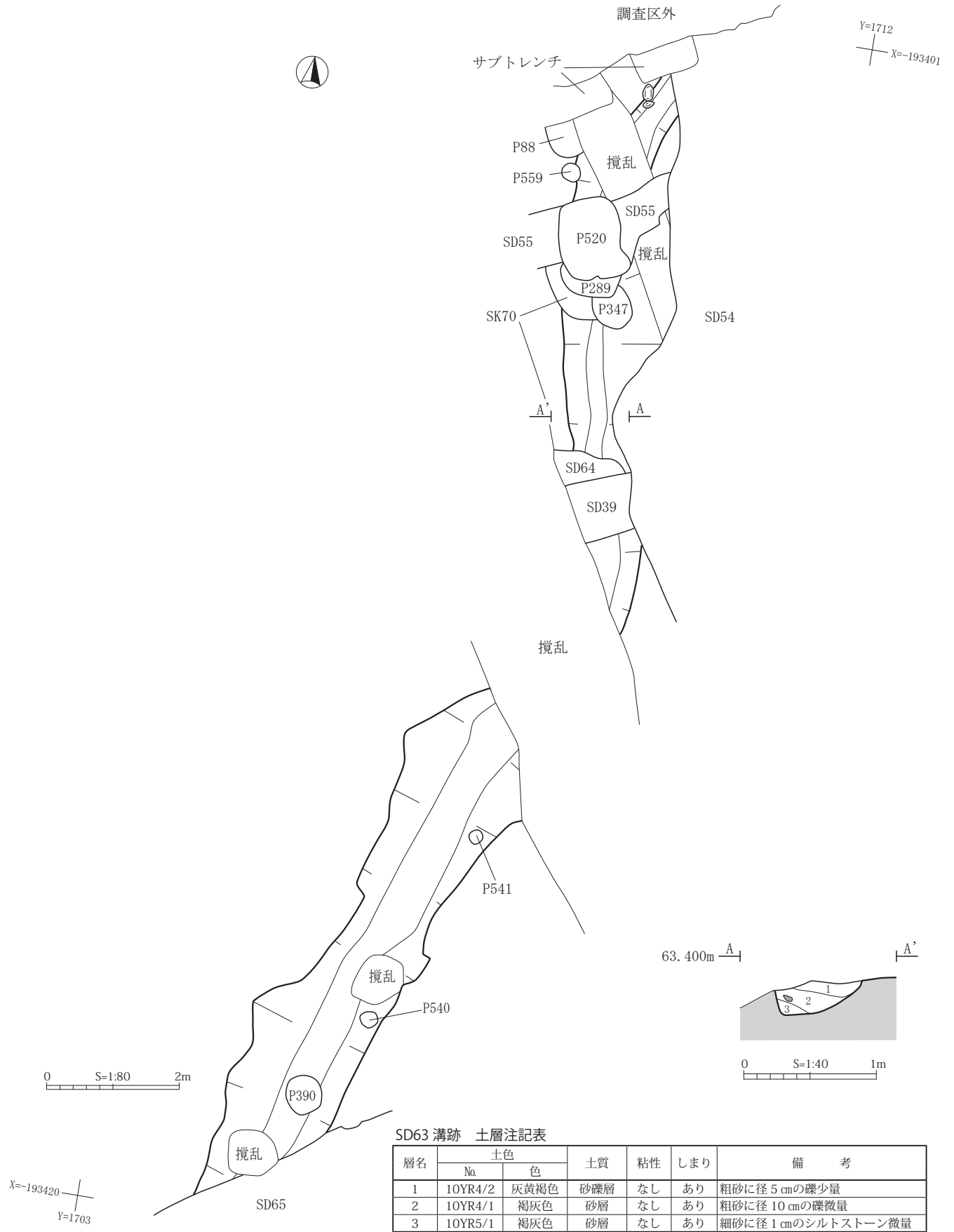
10) SD63 溝跡 (第 137 図、図版 38-5 ~ 7)

S1-W60 ~ S2-W60 グリッドに位置する。南北方向に蛇行する素掘りの溝である。中央は攪乱によって壊され、SD39・SD55・SD64 によって寸断される。東側から北側にかけては SD54 に切れ、調査区外まで延びているかは不明である。南側は SK84 を切り、SD65 によって壊され調査区外に延びる。

確認された規模は長さ 18.3m、幅 55 ~ 190cm、深さ 24cm を測る。主軸方向はおおむね N-11° -E を示す。断面形はいびつな開いた U 字形を呈する。

堆積土は 3 層からなり、1 層は灰黄褐色の砂礫層で埋め戻し土、2 ~ 3 層は褐色灰色の砂層で、ラミナ構造が見られ、水成堆積土と考えられる。

遺物は瓦が 1 点出土しているが細片のため図化し得なかった。



SD63 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No.	色				
1	10YR4/2	灰黄褐色	砂礫層	なし	あり	粗砂に径 5 cm の礫少量
2	10YR4/1	褐灰色	砂層	なし	あり	粗砂に径 10 cm の礫微量
3	10YR5/1	褐灰色	砂層	なし	あり	細砂に径 1 cm のシルトストーン微量

11) SD64 溝跡 (第 138 図、図版 39-1 ~ 2)

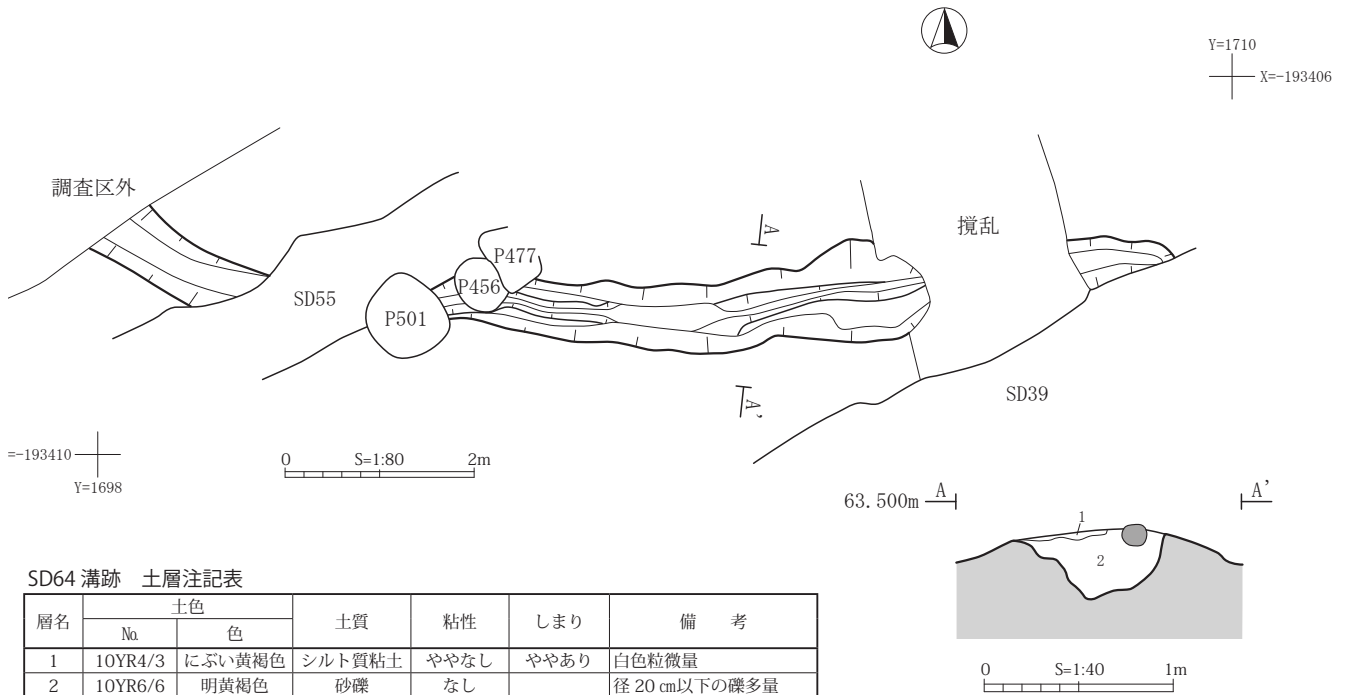
S1-W60 グリッドに位置する。東西方向に湾曲しながら走る素掘りの溝である。SD55 と攪乱によって寸断され、東端は SD39 に切られて途切れる。西側は調査区外に延びる。

確認された規模は長さ 11.4m、幅 55 ~ 75cm、深さ 36cm を測る。

主軸方向は N-88° -W を示す。断面形はいびつな開いたU字形を呈する。

堆積土は 2 層からなり、1 層はシルト質粘土の埋め戻し土と思われる。2 層は砂礫層で、流入土と考えられる。いずれも水流の痕跡は認められない。

遺物は出土していない。



第 138 図 SD64 溝跡 平面図・断面図

12) SD65 溝跡 (第 139 ~ 140 図、図版 39-3)

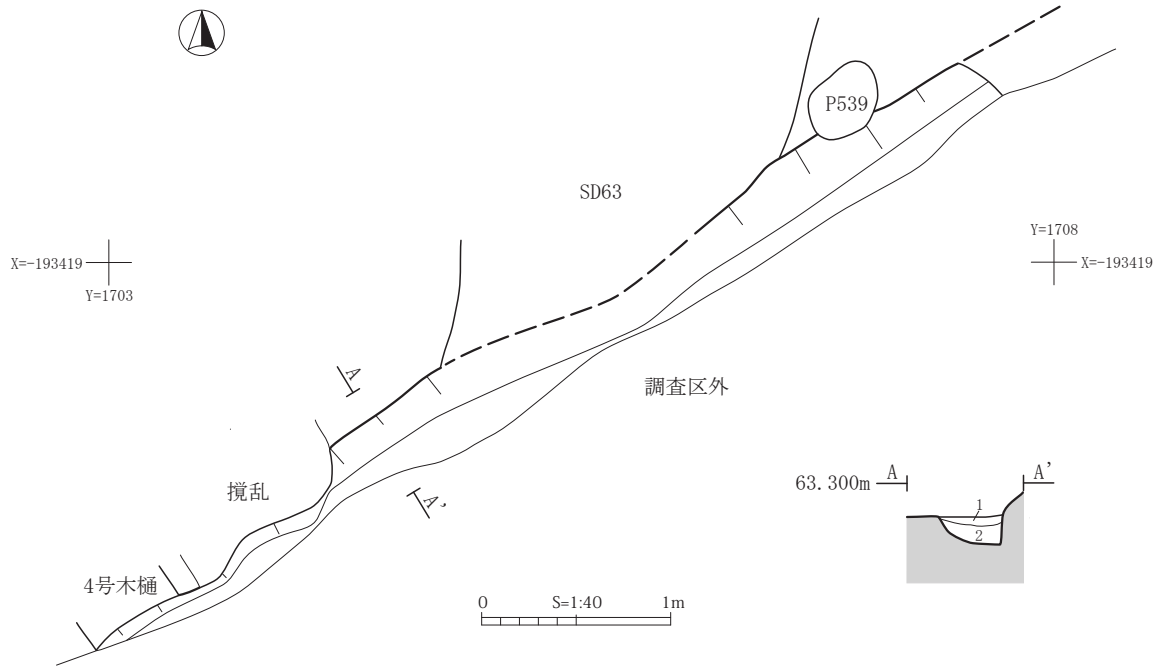
S2-W60・S3-W60 グリッドに位置する。東西方向に走る素掘りの溝である。東側はプランを検出することができなかったが、その後の調査区南壁の土層観察で、東側にさらに延びていたことを確認した。また当該遺構よりも古い SD63 を先に掘り下げてしまったことから上端を壊してしまい、それらの部分については破線で表記している。南側の下端から上端にかけては調査区外に広がるものと思われ、西端で 4 号木樋に、東端で P539 に切られる。

確認された規模は長さ 8.5m、幅 42cm、深さ 56cm を測る。

主軸方向は N-58° -E を、断面形は開いたU字形を呈するものと思われる。

堆積土は 2 層からなり、1 層は砂質シルトの埋め戻し土、2 層は粘土質シルトで、溝底面に堆積した沈殿物層と考えられる。

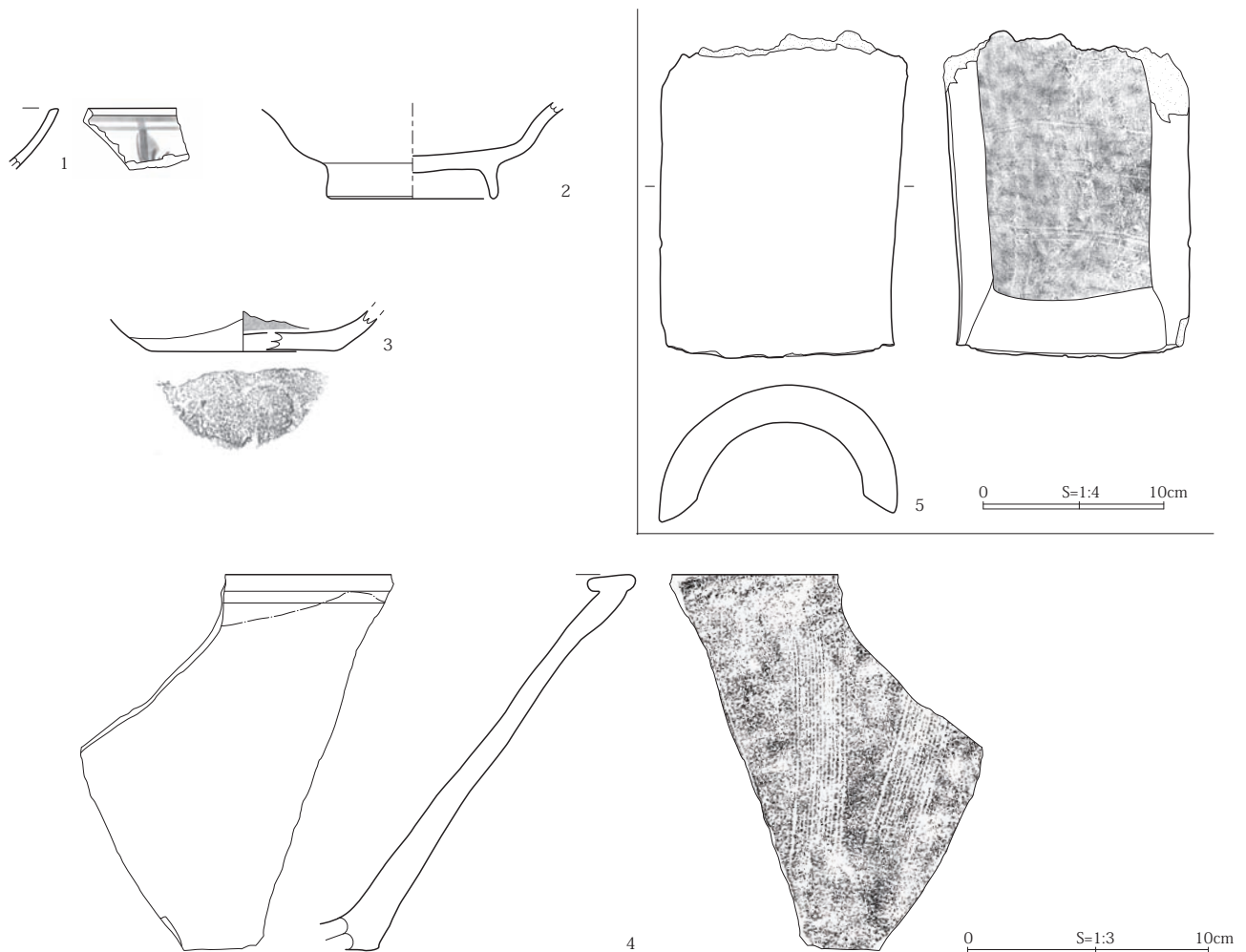
遺物は 16 世紀末 ~ 17 世紀前半の陶磁器、土師土器、瓦が下層を中心に出土している。



SD65 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No.	色				
1	2.5YR4/1	黄灰色	砂質シルト	あり	ややあり	砂粒多量
2	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	砂粒多量

第139図 SD65 溝跡 平面図・断面図



SD65 溝跡 出土遺物観察表 (陶磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号	
								口径	底径	器高					
140-1	110-2	S2・3-W60 SD65 2層	磁器	碗?	口縁~体部	緻密	染付	—	—	(2.6)	肥前	17世紀前半		J-22	
140-2	110-3	S2・3-W60 SD65 2層	陶器	皿	体部~底部	やや粗	長石釉	—	(6.8)	(4.0)	志野	16世紀末~ 17世紀初	高い高台 貫入	口径外反	I-41
140-3	110-4	S2・3-W60 SD65 1層	土師質 土器	皿	体部~底部	密	—	—	8.2	(1.8)	在地	近世	煤付着		I-216
140-4	110-5	S2・3-W60 SD65 2層	陶器	播鉢	口縁~底部	密	—	—	—	(15.75)	岸窯系	17世紀			I-40

SD65 溝跡 出土遺物観察表 (瓦)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
140-5	110-6	S2・3-W60 SD65 2層	丸瓦	(16.0)	12.8	2.0		F-4

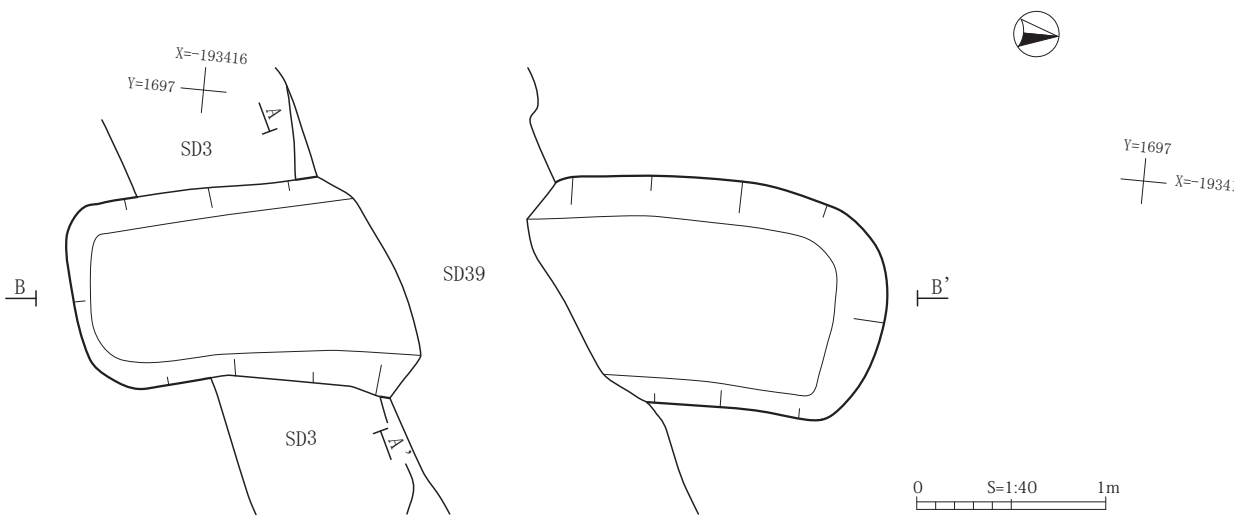
第140図 SD65 溝跡 出土遺物

13) SD66 溝跡 (第141~142図、図版39-4~6)

S2-W61 グリッドに位置する。南北方向に走る素掘りの溝である。中央をSD39に、南側をSD3によって切られる。確認された規模は長さ4.3m、幅1~1.2m、深さ32cmを測る。主軸方向はN-3.5°-Wを示す。底面はほぼ平坦で、断面形は開いたU字形を呈する。底面には10~30cmの川原石が散在している。

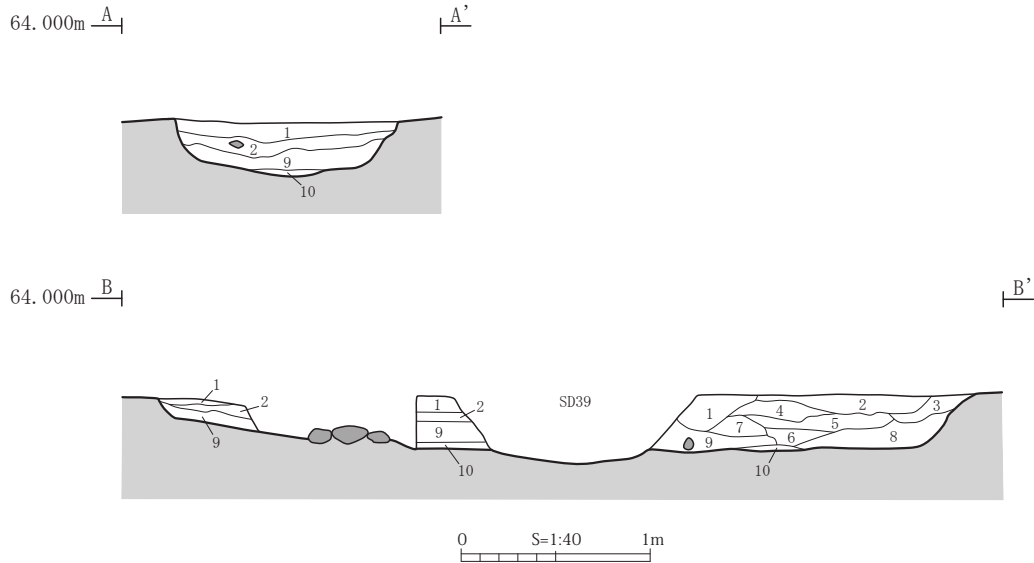
堆積土は10層からなり、1~4層は埋め戻し土、5層以下は砂と粘土が互層状に堆積しており、水成堆積土と考えられる。

遺物は出土していない。



第141図 SD66 溝跡 平面図

第3節 III区



SD66 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	№	色				
1	10YR4/4	褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	白色粒子やや少量、径 1 cm のシルトストーン微量
2	5Y3/1	オリーブ黒色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径 3 cm の礫微量
3	2.5Y6/2	灰黄色	シルト質砂	なし	あり	粗砂主体、酸化鉄やや少量
4	2.5Y2/1	黒色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径 5 cm の礫微量、径 5 mm のシルトストーン少量、酸化鉄やや少量
5	10YR3/1	黒褐色	シルト質砂	なし	ややあり	炭化物を微量
6	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	ややあり	なし	白色粒子を微量、径 5 mm のシルトストーン少量
7	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径 1 cm のシルトストーンを少量、粗砂多量、酸化鉄やや少量
8	10YR2/2	黒褐色	シルト質砂	なし	ややあり	径 1 cm の白色粒子と炭化物少量
9	2.5Y5/1	黄灰色	シルト質粘土	あり	ややあり	径 5 mm のシルトストーン微量、粗砂を少量
10	5Y4/1	灰色	粗砂	なし	ややあり	径 5 mm のシルトストーン少量

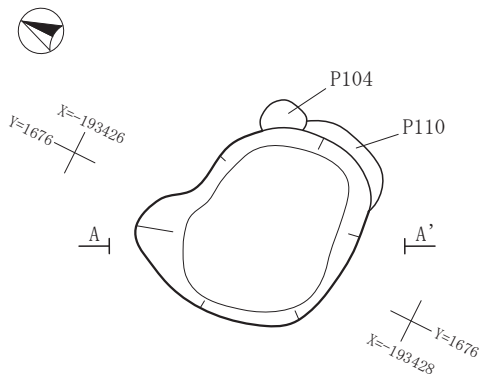
第 142 図 SD66 溝跡 断面図

(3) 土坑

1) SK12 土坑 (第 143 図、図版 39-7 ~ 8)

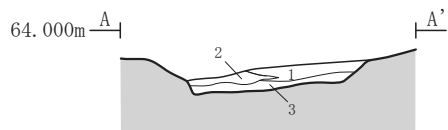
S3-W63 グリッドに位置する。西側を P104、P110 に切られる。確認された規模は長軸 1.1m、短軸 88cm、深さ 12cm を測る。平面形は北西側が張り出す不整楕円形を、断面形は皿状を呈する。堆積土は 3 層からなる。

遺物は出土していない。



SK12 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	№	色				
1	2.5Y5/3	黄褐色	シルト	なし	なし	酸化鉄少量
2	10YR1.7/1	黒色	砂質シルト	なし	なし	有機物の堆積
3	10YR4/4	褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径 5 mm 以下の礫少量、酸化鉄多量



第 143 図 SK12 土坑 平面図・断面図

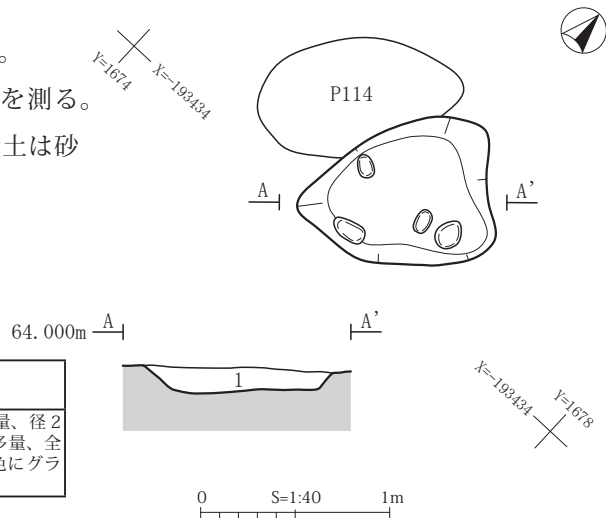
2) SK13 土坑 (第 144 図、図版 40-1 ~ 2)

S4-W63 グリッドに位置する。北西側で P114 を切る。
 確認された規模は長軸 1 m、短軸 80cm、深さ 1.4m を測る。
 平面形は不整楕円形を、断面形は皿状を呈する。堆積土は砂質シルトの単層で、グライ化が認められる。

遺物は出土していない。

SK13 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No	色				
1	5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	なし	なし	灰黄褐色中粒砂を多量、径 2 cm 以下の礫・酸化鉄多量、全体的に暗オリーブ灰色にグライ化



第 144 図 SK13 土坑 平面図・断面図

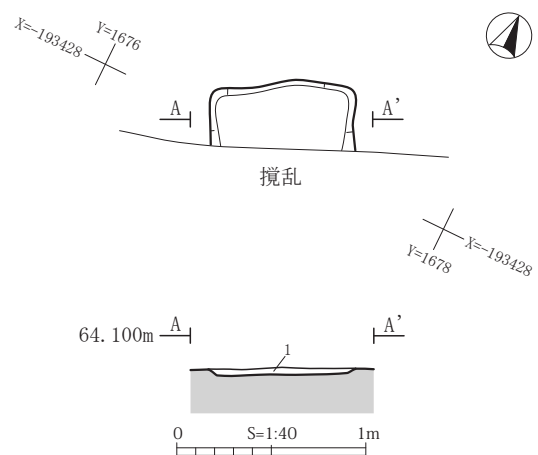
3) SK14 土坑 (第 145 ~ 146 図、図版 40-3 ~ 4)

S3-W63 グリッドに位置する。南側は攪乱によって壊される。
 確認された規模は南北の残存長 36cm、東西 76cm、深さ 4cm を測る。平面形は方形が推定され、断面形は浅い皿状を呈する。堆積土は黒褐色シルトの単層である。

遺物は 17 世紀前半の美濃産鉄釉鉢片が 1 点出土している。

SK14 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No	色				
1	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	ややあり	ややあり	径 5 mm 以下の明黄褐色砂質シルト粒・黄褐色細粒砂微量



第 145 図 SK14 土坑 平面図・断面図



SK14 土坑 出土遺物観察表 (陶器)

図版番号	写真図版番号	グリッド遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
146-1	110-15	S3-W63 SK14 1層	陶器	鉢	口縁	やや粗	鉄釉	—	—	(2.8)	美濃	17世紀前半		I-45

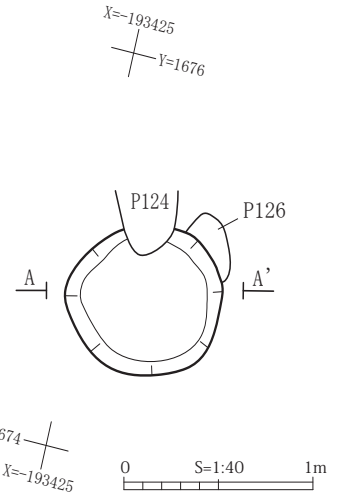
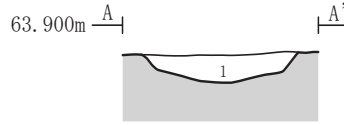
第 146 図 SK14 土坑 出土遺物

第3節 III区

4) SK18 土坑 (第 147 図、図版 40-5 ~ 6)

S3-W63 グリッドに位置する。P126 を切り、東側を P124 によって壊される。確認された規模は長軸 82cm、短軸 76cm、深さ 14cm を測る。平面形は不整形円形を、断面形は皿状を呈する。堆積土は黒褐色シルトの単層で、グライ化が認められる。

遺物は出土していない。



SK18 土坑 土層注記表

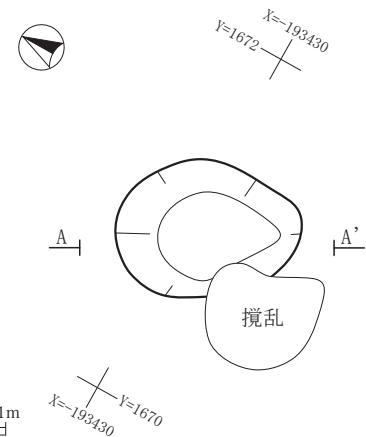
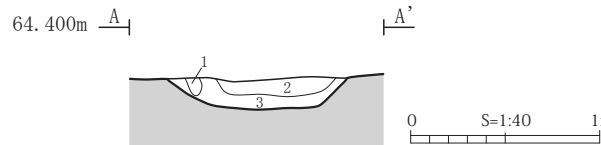
層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	あり	あり	灰黄褐色砂質シルト少量、径 1cm 以下の明黄褐色砂質シルト粒少量、暗オリーブ灰色にグライ化

第 147 図 SK18 土坑 平面図・断面図

5) SK20 土坑 (第 148 図、図版 40-7 ~ 8)

S3-W63・S4-W63 グリッドに位置する。南西側を攪乱によって壊される。確認された規模は長軸 1 m、短軸 72cm、深さ 16cm を測る。平面形は楕円形を、断面形は皿状を呈する。堆積土は 3 層の砂質シルト層からなる。

遺物は出土していない。



SK20 土坑 土層注記表

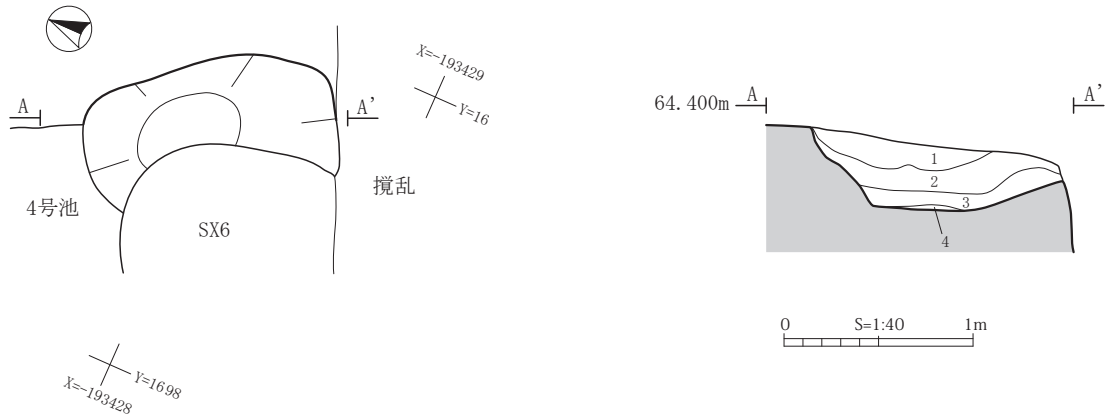
層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	10YR4/2	灰黄色	砂質シルト	あり	あり	黒褐色砂質シルト・酸化鉄多量
2	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量
3	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	あり	あり	にぶい黄褐色砂質シルト・酸化鉄少量

第 148 図 SK20 土坑 平面図・断面図

6) SK26 土坑 (第 149 図、図版 41-1 ~ 2)

S3-W64 グリッドに位置する。西側を 4 号池と SX6 に切られ、南側を攪乱によって壊される。確認された規模は長軸 1.3m、短軸 66cm、深さ 40cm を測る。平面形は楕円形が推定され、断面形は楕鉢状を呈する。堆積土は 4 層からなる。1 ~ 3 層は砂質シルト、4 層は砂で、底面に敷き詰めているものと思われる。

遺物は出土していない。



SK26 土坑 土層注記表

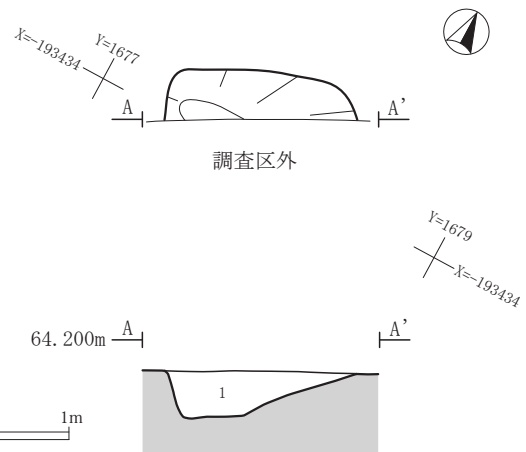
層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	なし	5Y6/3 オリーブ黄色粘土粒微量、5Y3/1 オリーブ黒色土粒少量、酸化鉄多量
2	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	なし	5Y6/3 オリーブ黄色粘土粒微量、酸化鉄多量
3	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	なし	なし	酸化鉄多量
4	2.5Y5/3	黄褐色	砂	なし	なし	砂

第 149 図 SK26 土坑 平面図・断面図

7) SK42 土坑 (第 150 図、図版 41-3)

S4-W63 グリッドに位置する。南側は調査区外に広がる。確認された規模は長軸 1 m、残存する短軸 26cm、深さ 26cm を測る。平面形は隅丸方形が推定され、断面形は東壁が緩やかに立ち上がる開いたU字形を呈する。堆積土は砂質シルトの単層である。

遺物は出土していない。



SK42 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	10YR4/4	褐色	砂質シルト	ややあり	あり	灰黄褐色砂質シルト少量

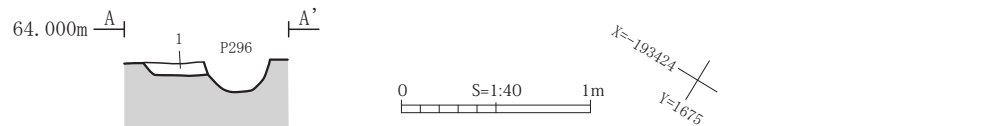
第 150 図 SK42 土坑 平面図・断面図

第3節 III区

8) SK49 土坑 (第 151 図、図版 41-4 ~ 5)

S3-W63 グリッドに位置する。南側を SD41 と P221 に、東側を P296 によって切られる。確認された規模は、残存する長軸 48cm、短軸 44cm、深さ 8cm を測る。平面形は不明、断面形は皿状を呈するものと思われる。堆積土は砂質シルトの単層である。

遺物は出土していない。



SK49 土坑 土層注記表

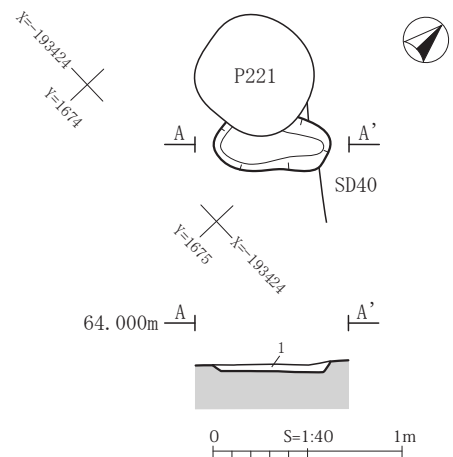
層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No.	色				
1	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄微量

第 151 図 SK49 土坑 平面図・断面図

9) SK50 土坑 (第 152 図、図版 41-6 ~ 7)

S3-W63 グリッドに位置する。北側を SD40 に、西側を P221 によって切られる。確認された規模は残存する長軸 62cm、短軸 28cm、深さ 5cm を測る。平面形は楕円形が推定され、断面形は皿状を呈する。堆積土は砂質シルトの単層である。

遺物は出土していない。



SK50 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No.	色				
1	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	なし	ややあり	酸化鉄少量

第 152 図 SK50 土坑 平面図・断面図

10) SK56 土坑 (第 153 図、図版 41-8・42-1)

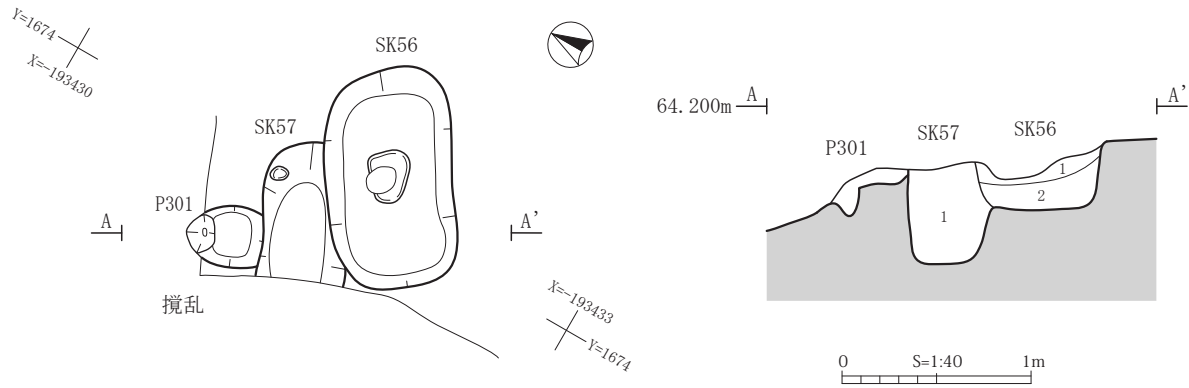
S4-W63 グリッドに位置する。底面に 28cm の礎板石を置き、その上に径約 16cm の柱痕が載る。南西側で SK57 を切る。確認された規模は長軸 1.2m、短軸 68cm、深さ 36cm を測る。平面形は隅丸長方形を呈し、底面は平坦で、断面形は U 字形を呈する。当該遺構の南にある木柱を有する P114・P271 と柱列を組む可能性もある。堆積土は 2 層のシルト層からなる。

遺物は出土していない。

11) SK57 土坑 (第 153 図、図版 41-8・42-1)

S4-W63 グリッドに位置する。P301 を切り、南東側を 56 号土坑に、西側を攪乱によって壊される。確認された規模は残存する長軸 95cm、短軸 46cm、深さ 52cm を測る。平面形は隅丸長方形が推定され、断面形は U 字形を呈する。柱を置いた痕跡はなかったが、形状から柱穴の可能性も考えられる。堆積土はシルトの単層からなる。

遺物は出土していない。



SK56 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	10YR5/1	褐灰色	シルト	あり	あり	径 15 cm以下の礫少量、径 3 cm以下の灰白色土粒少量
2	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	あり	あり	径 5 cm以下の褐灰色シルト微量、酸化鉄少量 一部明緑灰色にグライ化

SK57 土坑 土層注記表

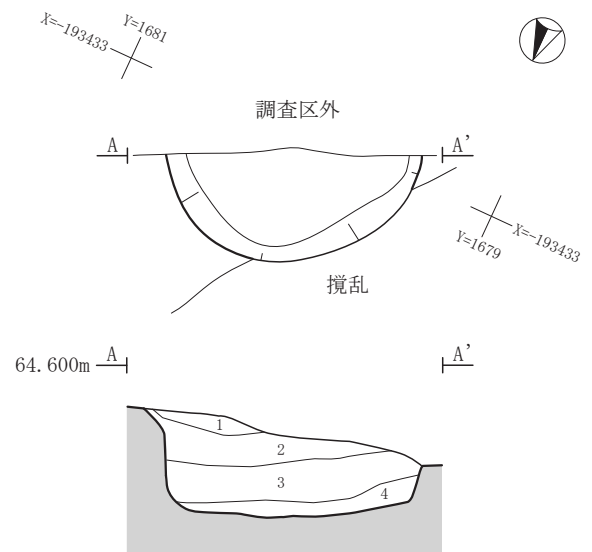
層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	7.5YR4/1	褐灰色	シルト	あり	あり	径 5 cm以下の褐灰色シルト少量、酸化鉄微量

第 153 図 SK56・57 土坑 平面図・断面図

12) SK58 土坑 (第 154 図、図版 42-2)

S4-W62・S4-W63 グリッドに位置する。北西側は攪乱によって壊され、南側は調査区外へ広がる。確認された規模は長軸 1.3m、残存する短軸 60cm、深さ 18cm を測る。平面形は円形もしくは楕円形が推定され、断面形は U 字形を呈するものと思われる。堆積土は 4 層からなり、1～2 層は砂質シルト、3～4 層はシルト層である。3 層は有機物を含んでいる。

遺物は出土していない。



SK58 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	ややあり	黒色砂質シルト少量 灰黄色砂質シルトを斑状に多量
2	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径 5 cmの礫微量、酸化鉄多量
3	2.5Y2/1	黒色	シルト	ややあり	なし	有機物を含んだ土
4	10YR5/3	にぶい黄褐色	シルト	あり	ややあり	酸化鉄少量、径 1 cm以下の明黄褐色シルトストーン微量

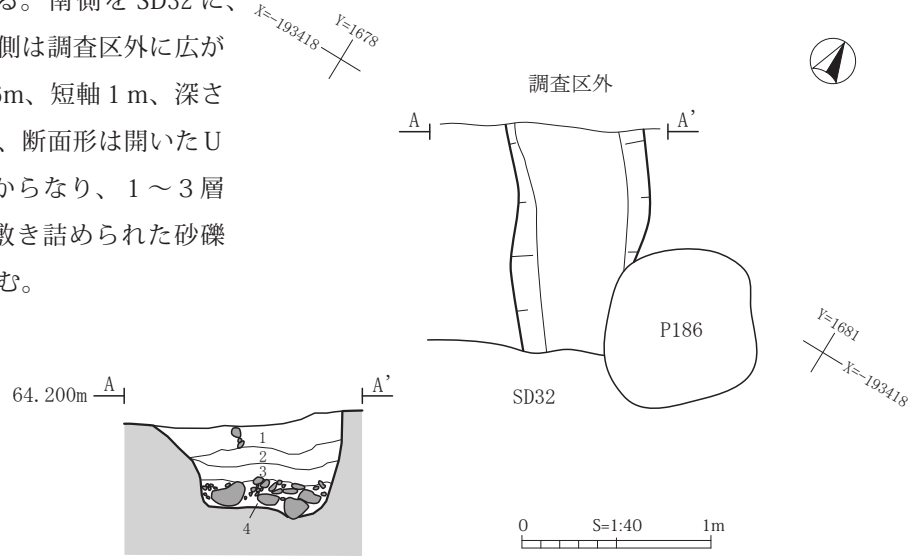
第 154 図 SK58 土坑 平面図・断面図

第3節 III区

13) SK60 土坑 (第 155 図、図版 42-3)

S2-W63 グリッドに位置する。南側を SD32 に、南東側を P186 に切られる。北側は調査区外に広がる。確認された規模は長軸 1.6m、短軸 1 m、深さ 54cm を測る。平面形は溝状で、断面形は開いた U 字形を呈する。堆積土は 4 層からなり、1～3 層は砂質シルト、4 層は底面に敷き詰められた砂礫層で、5～18cm の礫を多量含む。

遺物は出土していない。



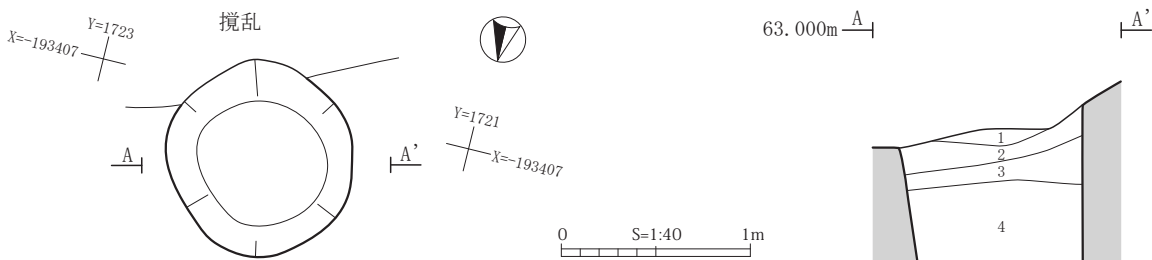
SK60 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	7.5Y6/1	灰色	砂質シルト	なし	ややあり	径 5 cm 以下の礫微量、酸化鉄少量
2	10BG5/1	青灰色	砂質シルト	なし	なし	
3	5Y6/2	灰オリーブ色	砂質シルト	なし	なし	酸化鉄多量
4	2.5Y4/6	オリーブ褐色	砂礫層			径 15 cm 以下の礫やや多量、径 5 cm 以下の礫多量

第 155 図 SK60 土坑 平面図・断面図

14) SK62 土坑 (第 156 ～ 157 図、図版 42-4 ～ 5)

S1-W58 グリッドに位置する。南側の上部を攪乱によって壊される。確認された規模は径 1 m、深さ 1.4m を測る。平面形は円形を、断面形は筒状を呈する。堆積土は 6 層からなり、1～4 層は砂質シルトおよびシルト層で、5～6 層は粘土層である。4 層からは木製品が、5 層からは多量の有機物が出土した。

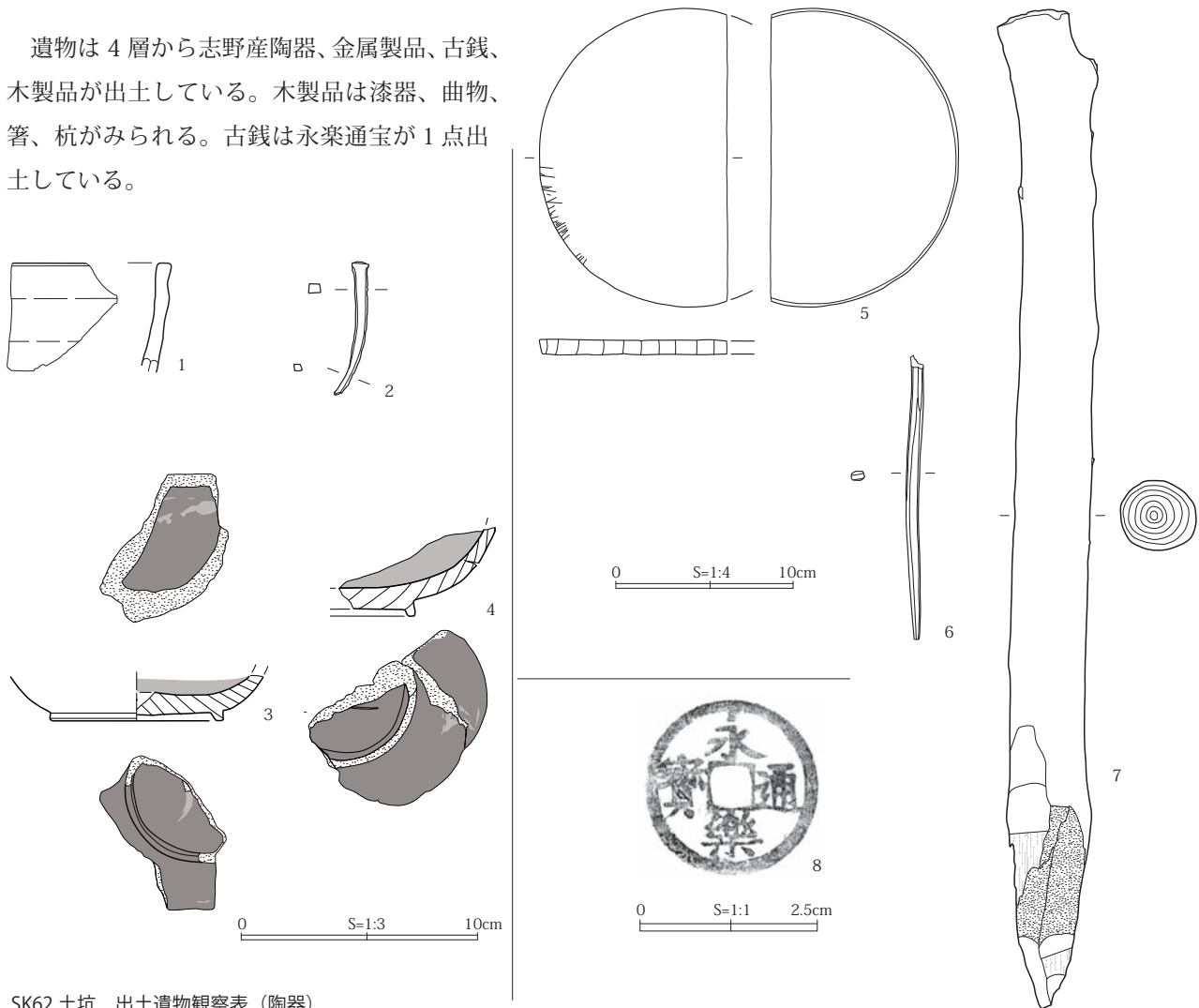


SK62 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	なし	なし	径 5 mm 以下の灰白色土粒少量
2	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	なし	ややあり	径 1 mm 以下のシルトストーン少量
3	2.5Y5/2	暗灰黄褐色	砂質シルト	なし	なし	砂粒層状に含む
4	5Y3/1	オリーブ黒色	シルト	あり	あり	木製品・加工木を含む
5	0YR4/1	褐灰色	粘土	あり	なし	径 5 cm 以下の明緑灰色粘土少量 植物残滓多量
6	5G7/1	明緑灰色	粘土	あり	なし	径 3 cm 以下の褐灰色粘土少量

第 156 図 SK62 土坑 平面図・断面図

遺物は4層から志野産陶器、金属製品、古銭、木製品が出土している。木製品は漆器、曲物、箸、杭がみられる。古銭は永楽通宝が1点出土している。



SK62 土坑 出土遺物観察表 (陶器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
157-1	110-7	S1-W58 SK62 4層	陶器	鉢	口縁~体部	粗	長石釉	—	—	(4.6)	志野	17世紀		I-48

SK62 土坑 出土遺物観察表 (金属製品)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	部位	法量 (cm・g)				備考	登録番号
					長さ	幅	厚さ	重さ		
157-2	110-8	S1-W58 SK62 埋土一括	釘	完形	5.7	0.7	0.4	4.6		N-2

SK62 土坑 出土遺物観察表 (漆器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				口径	底径	器高		
157-3	110-9	S1-W58 SK62 4層	漆器碗	—	—	(3.0)	黒地赤漆文様あり	L-25
157-4	110-10	S1-W58 SK62 4層	漆器碗	—	—	(4.1)	黒地赤漆文様あり	L-24

SK62 土坑 出土遺物観察表 (木製品)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
157-5	110-11	S1-W58 SK62 4層	曲物	16.8	(10.6)	0.8	加工不明瞭	L-23
157-6	110-12	S1-W58 SK62 4層	箸	(16.0)	0.6	0.6		L-21
157-7	110-14	S1-W58 SK62 4層	杭	56.4	4.0	4.0	先端部割裂加工	L-22

SK62 土坑 出土遺物観察表 (古銭)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	銭貨名	初鑄年	法量 (cm・g)			備考	登録番号
					外径	穿径	重さ		
157-8	110-13	S1-W58 SK62	永楽通宝	1408年	2.5	0.6	3.05		N-19

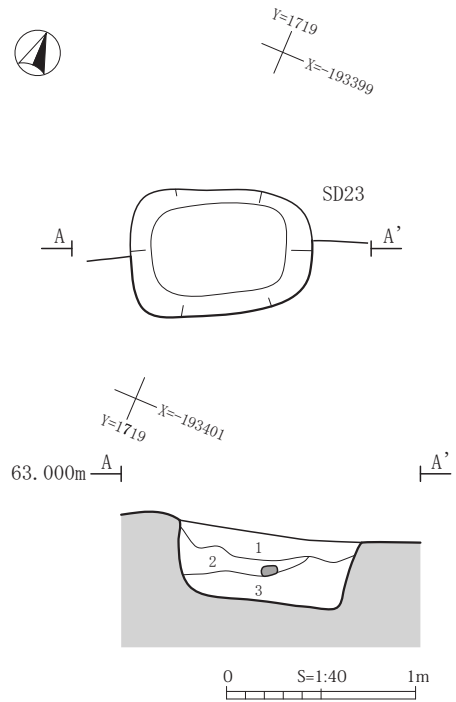
第157図 SK62 土坑 出土遺物

第3節 III区

15) SK64 土坑 (第 158 ~ 159 図、図版 42-6)

N1-W59・S1-W59 グリッドに位置する。北側でSD23に切られる。確認された規模は長軸 96cm、短軸 68cm、深さ 38cm を測る。平面形は隅丸方形を、断面形は幅の広いU字形を呈する。形状と位置関係から SA17 の作り替えの柱穴になる可能性も考えられる。堆積土は 3 層からなる。

遺物は 16 世紀末～ 17 世紀初頭の志野産丸皿が 3 層から出土している。



SK64 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	10YR5/2	灰黄褐色	シルト	あり	なし	径 1 mm 以下のにぶい黄褐色土粒少量
2	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	あり	なし	
3	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	あり	なし	径 3 cm 以下の灰色粘土少量

第 158 図 SK64 土坑 平面図・断面図



SK64 土坑 出土遺物観察表 (陶器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
159-1	110-16	N1・S1-W58・59 SK64 3層	陶器	皿	口縁～体部	粗	長石釉	(11)	(6.4)	2.3	志野	16世紀末～17世紀初頭		I-20

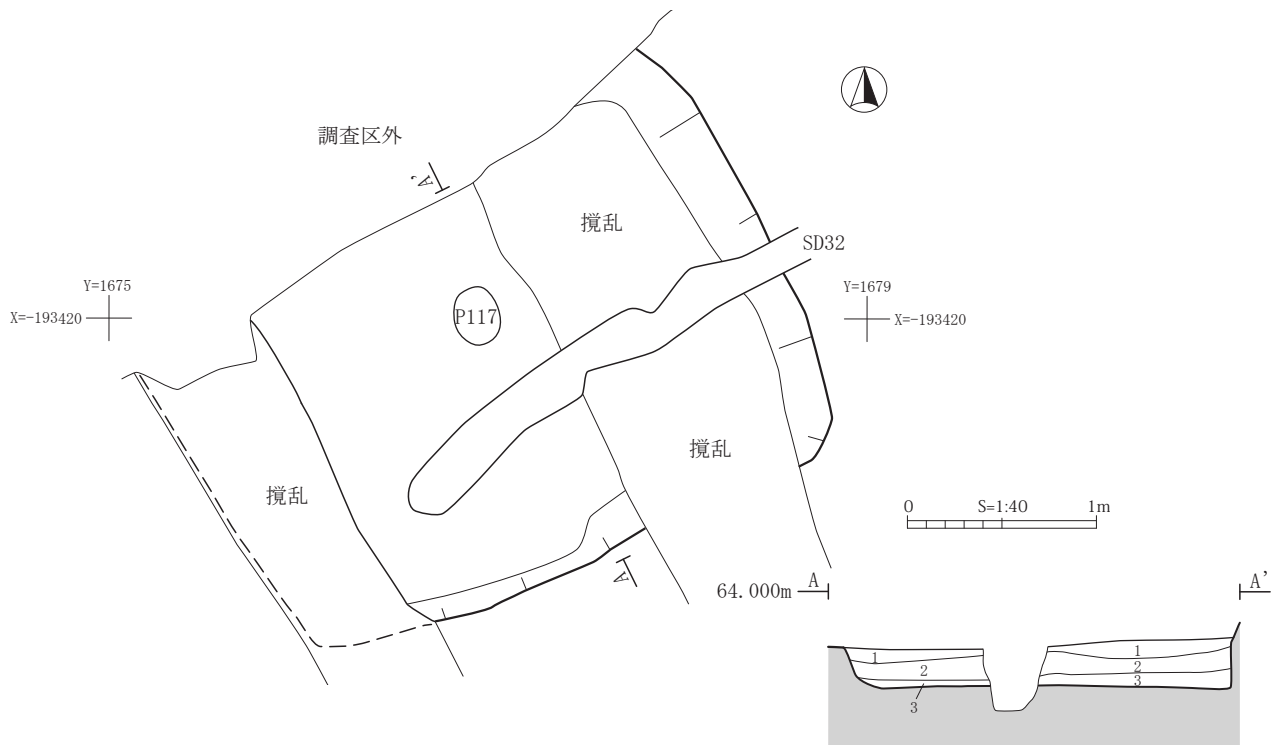
第 159 図 SK64 土坑 出土遺物

(4) その他の遺構

1) SX10 性格不明遺構 (第 160 ~ 161 図、図版 42-7 ~ 8)

S2-W63・S3-W63 グリッドに位置する。南北に走る 2 本の攪乱により壊され、東西方向に走る SD32 によって中央西側の底面から東側上端までを切られる。西側の上端は調査区北壁で確認できた西壁と、残存する南壁の上端ラインから推定し、破線で表記した。確認された規模は南北 2.3m、東西約 3.2m、深さ 39cm を測る。平面形は隅丸方形が想定され、断面形は皿状を呈するものと思われる。底面はほぼ平坦だが中央北側が緩やかにくぼんでいる。堆積土は 3 層のシルト質粘土からなる。

遺物は 17 世紀中頃の美濃産御深井釉菊皿が出土している。



SX10 性格不明遺構 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No.	色				
1	10YR5/2	灰黄褐色	シルト質粘土	ややなし	ややなし	径 1 cm 以下の小砂礫少量、酸化鉄やや多量
2	7.5YR3/2	オリーブ黒色	シルト質粘土	ややなし	なし	植物遺体やや多量 松葉、広葉樹葉を含む
3	10YR4/6	褐色	シルト質粘土	ややなし	ややなし	シルトストーンやや多量

第 160 図 SX10 性格不明遺構 平面図・断面図



SX10 性格不明遺構 出土遺物観察表 (陶器)

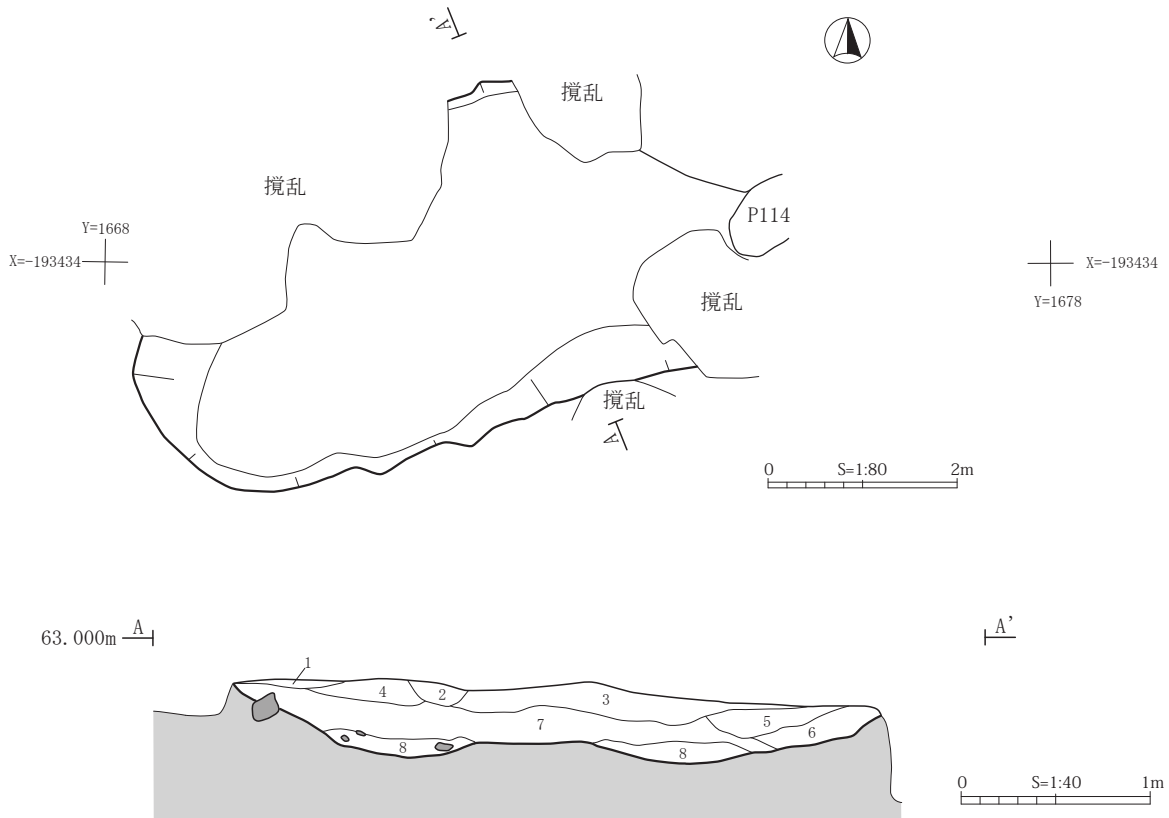
図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
161-1	110-17	S2・3-W63 SX10 埋土一括	陶器	菊皿	口縁~底部	やや粗	御深井釉	(13.2)	(8.4)	(3.15)	美濃	17 世紀中頃		1-91

第 161 図 SX10 性格不明遺構 出土遺物

2) SX15 性格不明遺構 (第 162 図、図版 43-1 ~ 2)

S4-W63・S4-W64 グリッドに位置する。北側から南東側にかけて攪乱に壊され、東側を P114 によって切られる。確認された規模は長軸 3.4m、短軸 1.9m、深さ 56cm を測る。平面形は不整楕円形を呈するものと思われ、断面形は底面中央がやや盛り上がる皿状を呈する。平面形状や堆積状況から部分的な整地の可能性が高いと考えられる。堆積土は 8 層の砂質シルトからなる。

遺物は出土していない。



SX15 性格不明遺構 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	Na	色				
1	5Y3/2	オリーブ黒色	砂質シルト	なし	あり	径 3 ~ 5 cm の礫多量
2	5Y4/2	灰オリーブ色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量
3	2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	あり	ややあり	粗砂・酸化鉄多量
4	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量、径 1 cm の小礫微量
5	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	ややあり	あり	径 3 ~ 5 mm の炭化物微量、酸化鉄多量
6	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄多量
7	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	砂質シルト	あり	あり	酸化鉄少量
8	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	あり	なし	オリーブ褐色砂との混土、径 5 ~ 8 cm の礫微量

第 162 図 SX15 性格不明遺構 平面図・断面図

3) SN1 祭祀遺構 (第 163 ~ 173 図、図版 43-3 ~ 8)

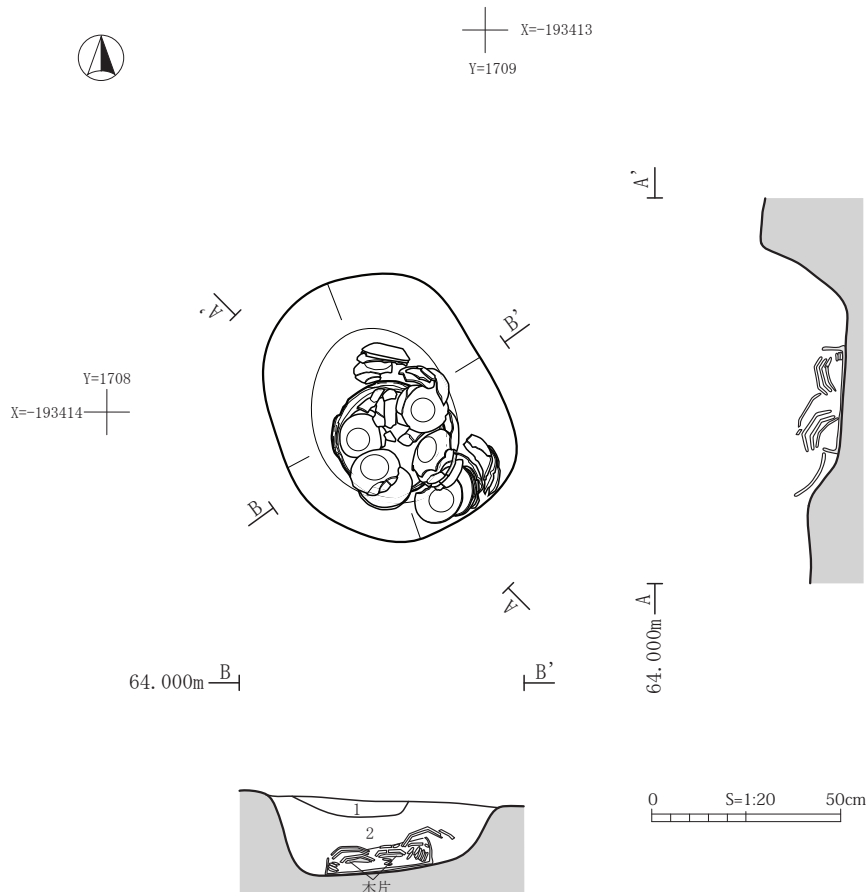
S2-W60 グリッドに位置する。南側の上面は攪乱によって壊される。

ピットの底面に置かれた曲物から古銭 93 点、土師質土器 30 点が出土した。曲物の底板は一枚板で径 31.2cm、厚さ 6mm、側板の最大幅 6cm、厚さ 9mm を測り、とじ紐は残存していない。古銭は中国銭に限られ、曲物の底板直上の隅に置かれていた。土師質土器は底部を上に向け、四つに分けて積んでいるが、曲物から外に出ているものは仰位か立位の状態で出土している。最下面に置いた土師質土器質を外すと、器内に入れていたと思われる木片が確認されたが、それ以外の有機物は残存していなかった。

ピットの規模は長軸 72cm、短軸 59cm、深さ 23cm を測る。平面形は楕円形を、断面形は開いた U 字形を呈す。堆積土は 2 層のシルト層からなる。

柱痕や礎板石などの柱を立てた痕跡は検出されなかった。

東北大学埋蔵文化財調査研究センターによる仙台城二の丸北方武家屋敷跡 BK4 地点の調査では、地鎮跡が 3 基検出されている。ピットの規模は 30 ~ 50cm と SN1 に比べてやや小さく、底面に 2 枚の土師質土器を合口にして配し、2 基は内部に古銭を埋納している。古銭は永楽通宝に限られ、17 世紀初頭の様相を呈する。埋納方法に差はあるが、土師質土器と中国銭を共伴するピット状の遺構であり、SN1 もこれらと同様の地鎮遺構と考えられる。

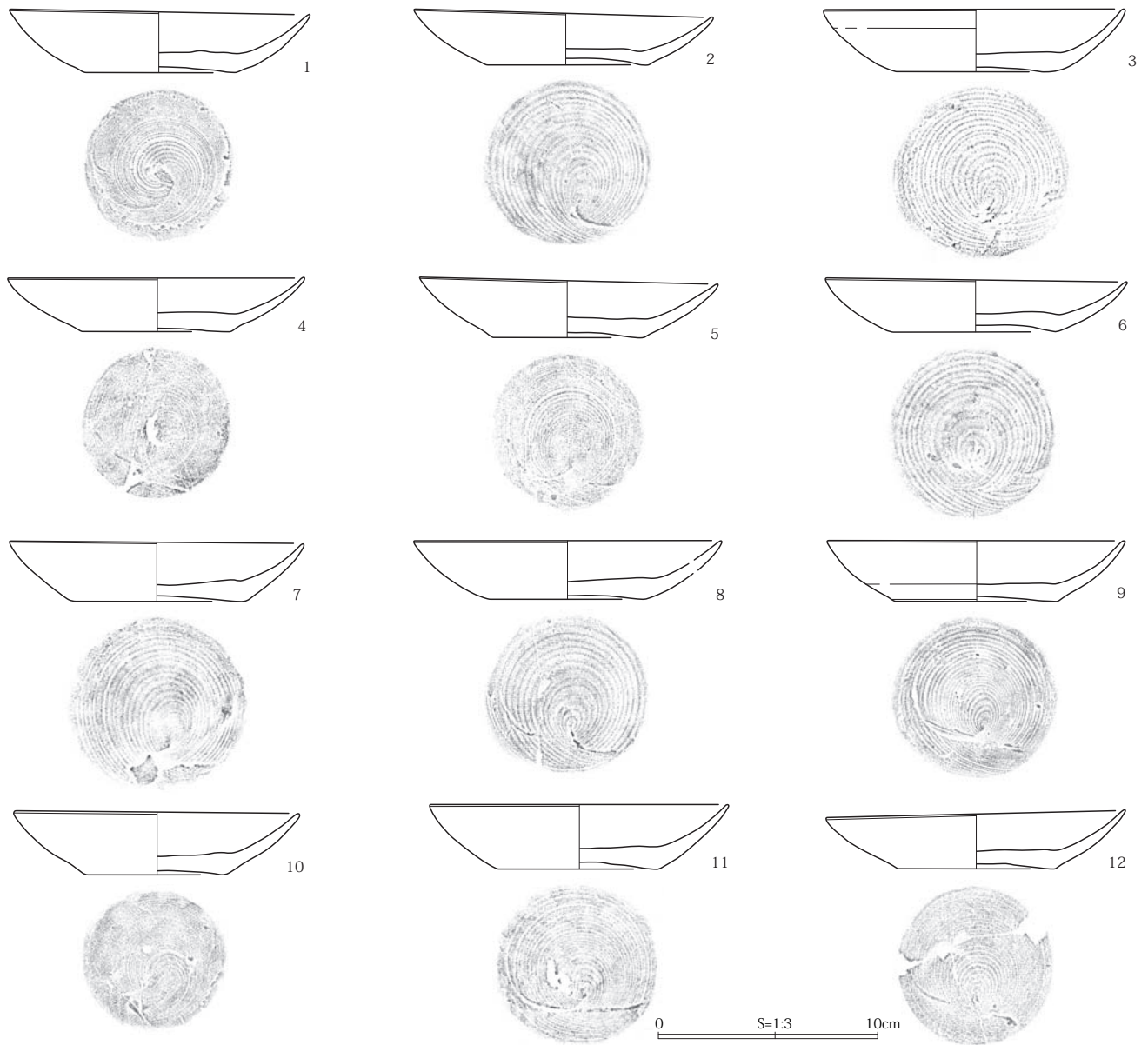


SN1 祭祀遺構 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	10YR4/1	褐灰色	シルト	なし	なし	径 1 cm 以下の黒色土粒少量
2	5B5/1	緑灰色	シルト	ややあり	なし	径 3 cm 以下の明黄褐色土粒少量

第 163 図 SN1 祭祀遺構 平面図・断面図

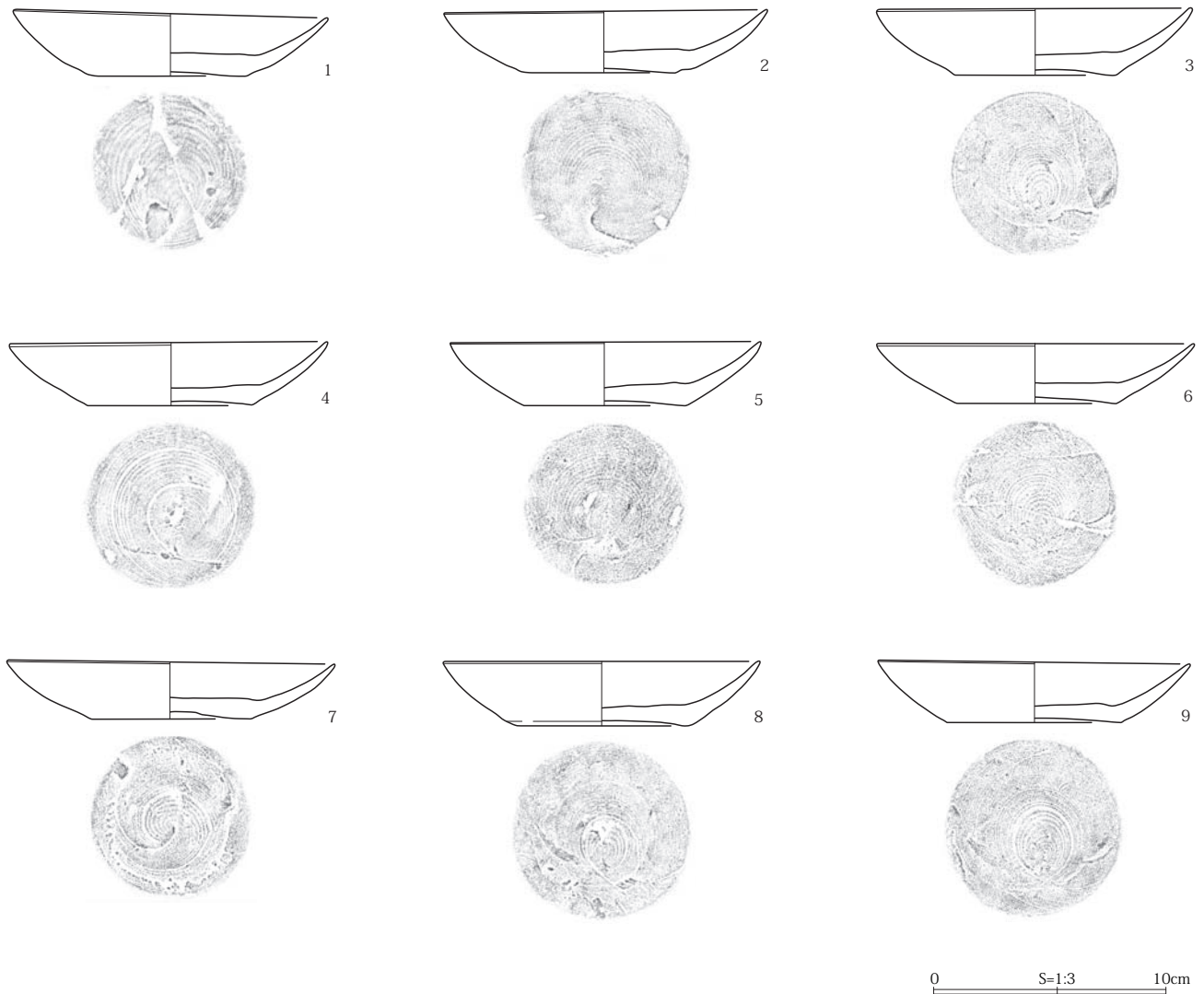
第3節 III区



SN1 祭祀遺構 出土遺物観察表 (土師質土器)

図版番号	写真図版 番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
164-1	111-1	S2-W60 SN1	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	15.1	7.6	3.1	在地	17世紀前半		I-260
164-2	111-2	S2-W60 SN1	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	15.0	8.1	2.6	在地	17世紀前半		I-255
164-3	111-3	S2-W60 SN1	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	15.2	7.6	3.1	在地	17世紀前半		I-245
164-4	111-4	S2-W60 SN1	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	15.0	7.6	2.8	在地	17世紀前半		I-258
164-5	111-5	S2-W60 SN1	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	15.0	7.6	2.9	在地	17世紀前半		I-254
164-6	111-6	S2-W60 SN1	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	15.2	8.3	2.6	在地	17世紀前半		I-244
164-7	111-7	S2-W60 SN1	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	14.9	8.6	3.0	在地	17世紀前半		I-257
164-8	111-8	S2-W60 SN1	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	15.5	7.9	3.0	在地	17世紀前半		I-253
164-9	111-9	S2-W60 SN1	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	15.0	8.3	3.1	在地	17世紀前半		I-243
164-10	111-10	S2-W60 SN1	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	14.4	7.1	3.1	在地	17世紀前半		I-256
164-11	111-11	S2-W60 SN1	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	15.0	8.1	3.3	在地	17世紀前半		I-246
164-12	111-12	S2-W60 SN1	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	15.0	7.9	2.8	在地	17世紀前半		I-242

第164図 SN1 祭祀遺構 出土遺物

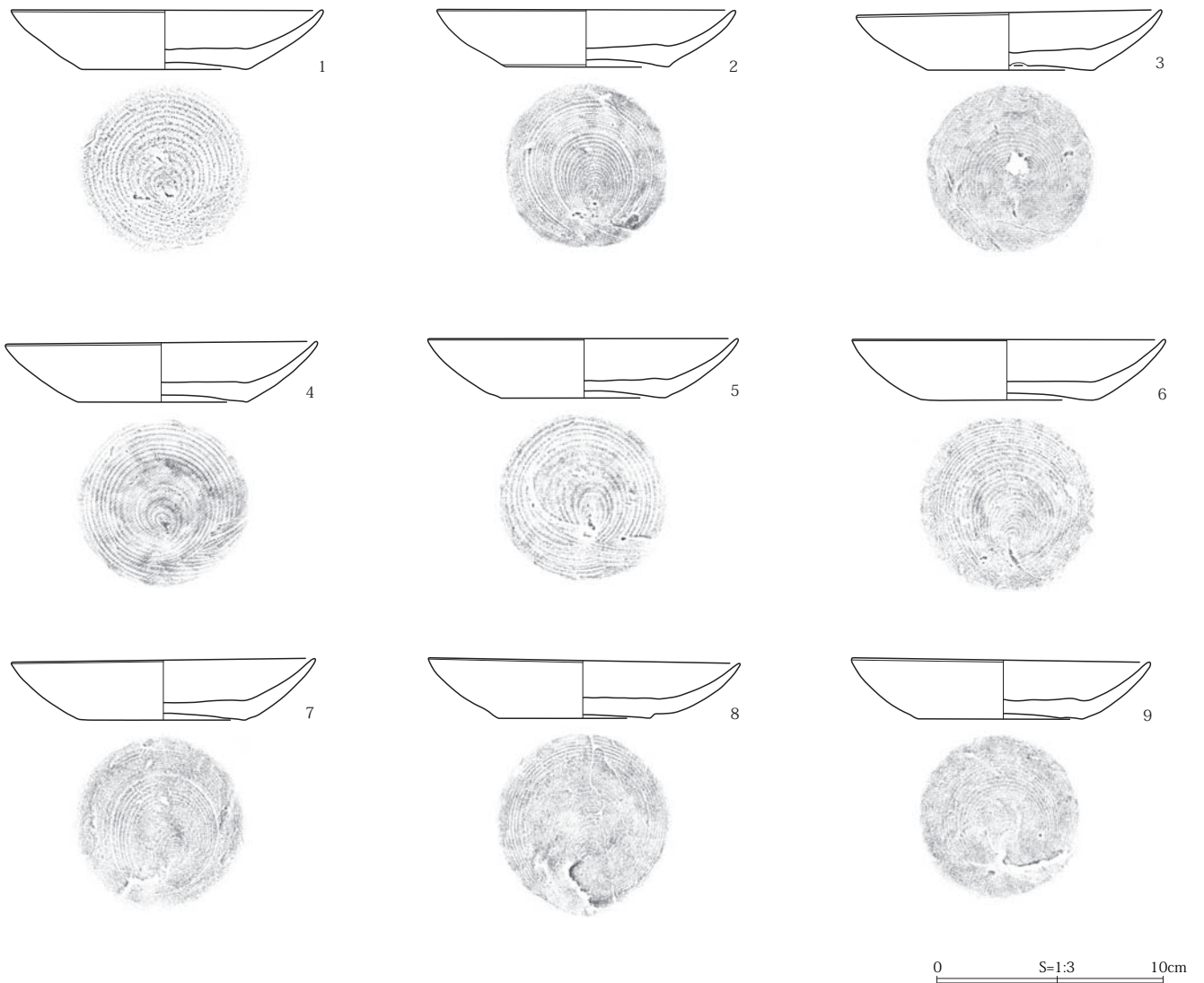


SN1 祭祀遺構 出土遺物観察表 (土師質土器)

図版番号	写真図版 番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
165-1	111-13	S2-W60 SN1	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	14.8	7.3	3.0	在地	17世紀前半		I-259
165-2	111-14	S2-W60 SN1	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	14.5	7.3	3.0	在地	17世紀前半		I-240
165-3	111-15	S2-W60 SN1	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	15.0	7.6	3.3	在地	17世紀前半		I-241
165-4	111-16	S2-W60 SN1	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	15.2	8.0	3.2	在地	17世紀前半		I-239
165-5	111-17	S2-W60 SN1	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	14.9	7.6	3.2	在地	17世紀前半		I-238
165-6	111-18	S2-W60 SN1	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	15.2	7.6	2.8	在地	17世紀前半		I-252
165-7	111-19	S2-W60 SN1	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	15.7	7.6	2.8	在地	17世紀前半		I-237
165-8	111-20	S2-W60 SN1	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	15.0	8.3	3.1	在地	17世紀前半		I-236
165-9	111-21	S2-W60 SN1	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	14.9	8.3	3.0	在地	17世紀前半		I-251

第165図 SN1 祭祀遺構 出土遺物

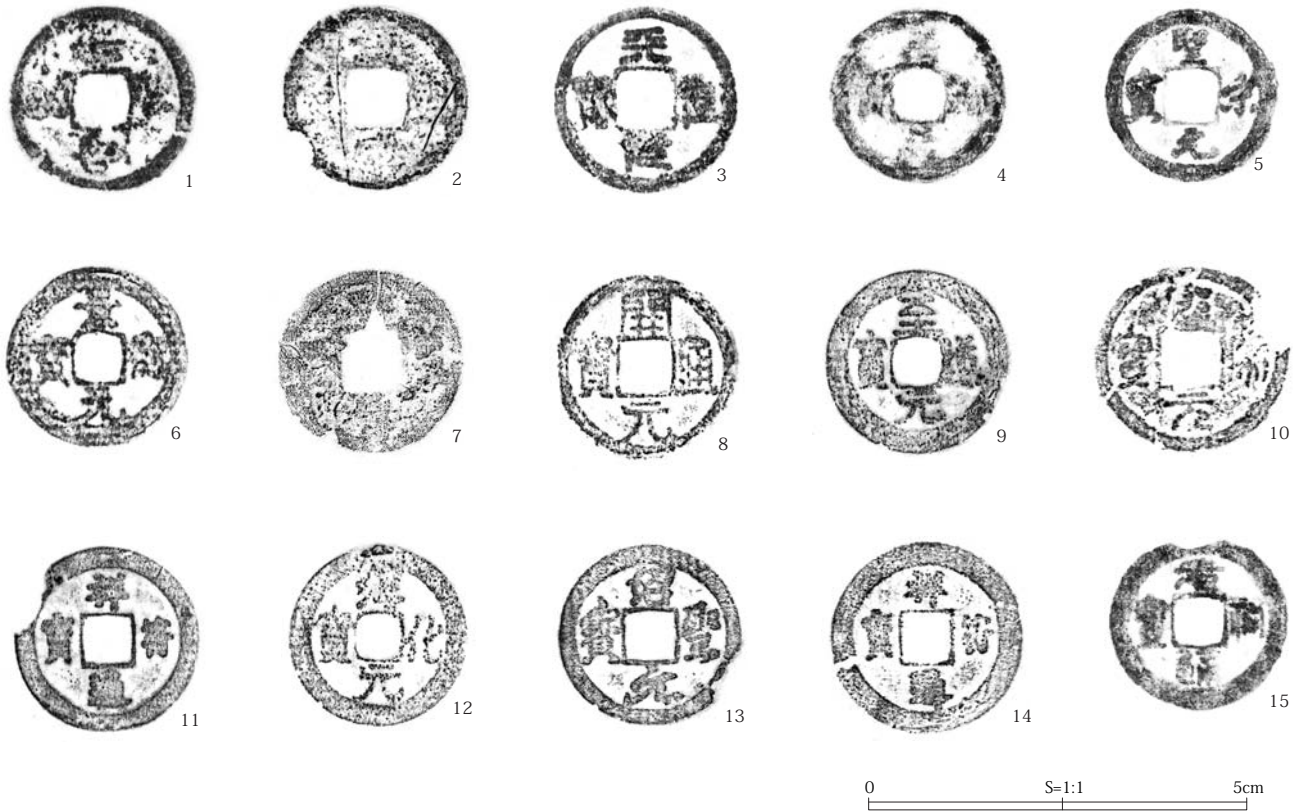
第3節 III区



SN1 祭祀遺構 出土遺物観察表 (土師質土器)

図版番号	写真図版番号	グリッド遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
165-1	111-22	S2-W60 SN1	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	15.2	8.0	3.0	在地	17世紀前半		I-235
165-2	111-23	S2-W60 SN1	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	14.5	8.0	2.8	在地	17世紀前半		I-234
165-3	111-24	S2-W60 SN1	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	14.9	8.0	2.8	在地	17世紀前半		I-250
165-4	111-25	S2-W60 SN1	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	15.0	8.1	3.0	在地	17世紀前半		I-233
165-5	111-26	S2-W60 SN1	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	15.0	7.9	3.0	在地	17世紀前半		I-232
165-6	111-27	S2-W60 SN1	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	15.4	8.5	3.0	在地	17世紀前半		I-249
165-7	111-28	S2-W60 SN1	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	14.9	8.0	3.0	在地	17世紀前半		I-231
165-8	111-29	S2-W60 SN1	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	15.1	7.5	2.8	在地	17世紀前半		I-247
165-9	111-30	S2-W60 SN1	土師質土器	皿	口縁部～底部	やや密	14.7	7.9	3.0	在地	17世紀前半		I-248

第166図 SN1 祭祀遺構 出土遺物

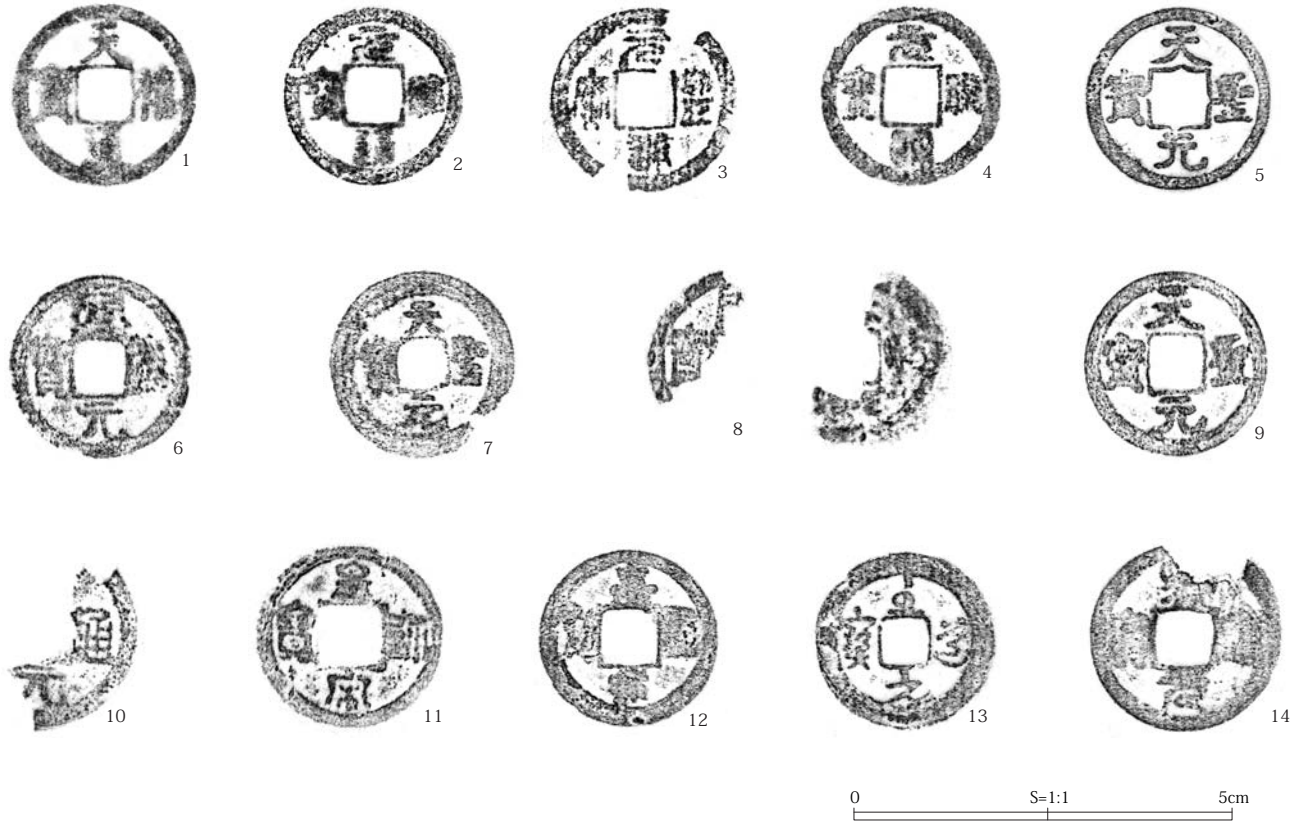


SN1 祭祀遺構 遺物観察表 (古銭)

図版番号	写真図版 番号	グリッド 遺構・層位	銭貨名	初鑄年	法量 (cm・g)			備 考	登録番号
					外径	穿径	重さ		
167-1	111-31	S2-W60 SN1	不明	—	2.5	0.8	(2.35)	一部欠損	N-23
167-2	111-32	S2-W60 SN1	天聖元宝	1023年(北宋)	2.45	0.7	1.9		N-24
167-3	111-33	S2-W60 SN1	聖宋元宝	1101年(北宋)	2.35	0.7	2.46		N-25
167-4	111-34	S2-W60 SN1	不明	—	2.4	0.7	(1.81)	一部欠損	N-26
167-5	111-35	S2-W60 SN1	至道元宝	995年(北宋)	2.45	0.6	2.07		N-27
167-6	111-36	S2-W60 SN1	祥符元宝	1008年(北宋)	2.5	0.65	(2.87)	一部欠損	N-28
167-7	111-37	S2-W60 SN1	天聖元宝	1023年(北宋)	2.45	0.65	2.89		N-29
167-8	111-38	S2-W60 SN1	元祐通宝	1086年(北宋)	2.4	0.6	(2.68)	一部欠損	N-30
167-9	111-39	S2-W60 SN1	不明	—	2.4	0.65	2.1	一部欠損	N-31
167-10	111-40	S2-W60 SN1	景〇元宝	—	2.4	0.6	2.84		N-32
167-11	111-41	S2-W60 SN1	開元通宝	621年(唐)	2.4	0.7	2.4		N-33
167-12	111-42	S2-W60 SN1	〇〇元〇	—	(2.4)	0.65	(1.71)	3/4 残存	N-34
167-13	112-1	S2-W60 SN1	淳化元宝	990年(北宋)	2.4	0.6	2.36		N-35
167-14	112-2	S2-W60 SN1	祥符元宝	1008年(北宋)	2.5	2.65	2.44		N-36
167-15	112-3	S2-W60 SN1	元祐通宝	1086年(北宋)	2.4	0.6	(2.68)	一部欠損	N-37

第167図 SN1 祭祀遺構 出土遺物

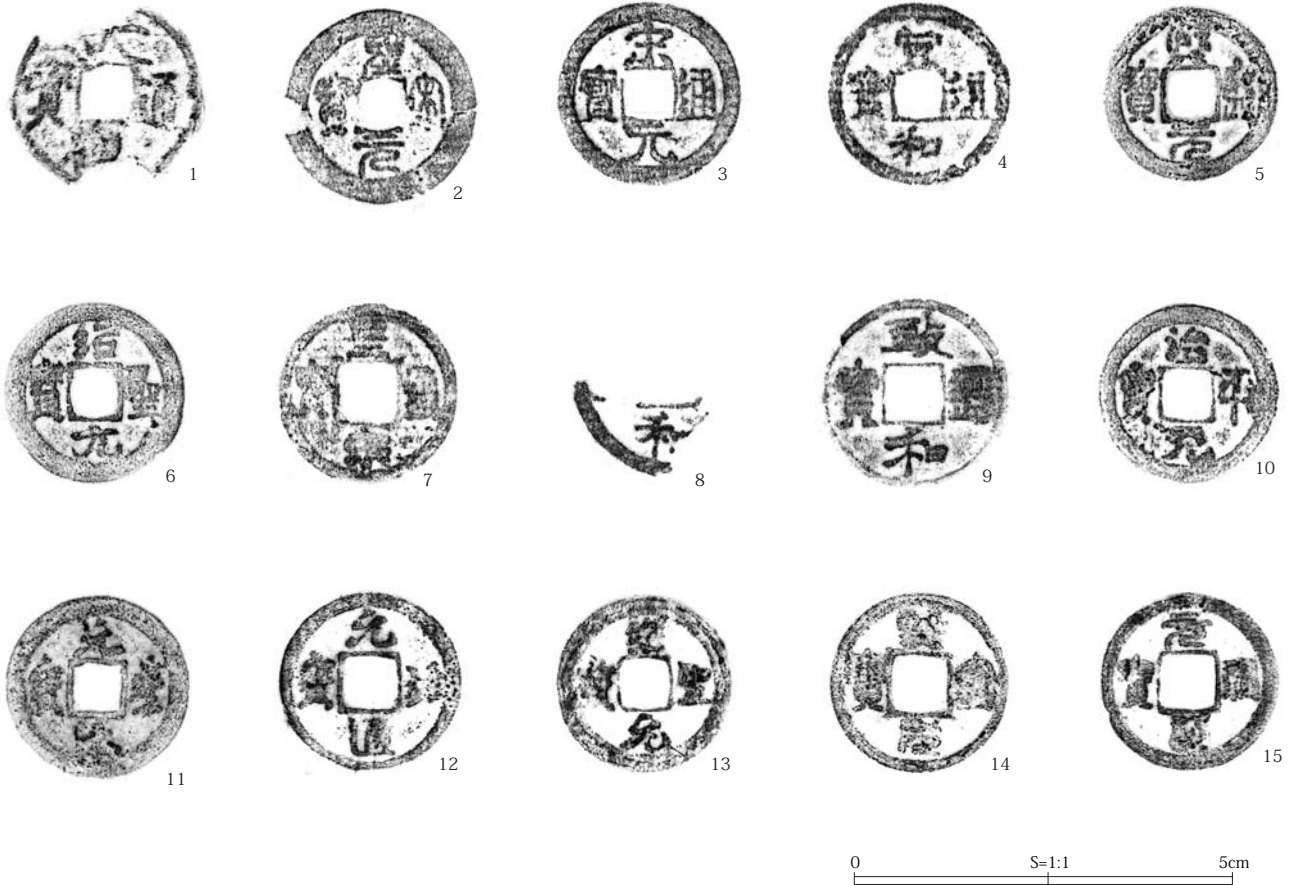
第3節 III区



SN1 祭祀遺構 遺物観察表 (古銭)

図版番号	写真図版番号	グリッド遺構・層位	銭貨名	初鋳年	法量 (cm・g)			備考	登録番号
					外径	穿径	重さ		
168-1	112-4	S2-W60 SN1	天禧通宝	1017年(北宋)	2.5	0.7	2.14		N-38
168-2	112-5	S2-W60 SN1	元〇通宝	—	2.35	0.7	2.21		N-39
168-3	112-6	S2-W60 SN1	元豊通宝	1078年(北宋)	2.4	0.7	2.1	一部欠損	N-40
168-4	112-7	S2-W60 SN1	元祐通宝	1086年(北宋)	2.4	0.7	2.71		N-41
168-5	112-8	S2-W60 SN1	天聖元宝	1032年(北宋)	2.5	0.7	2.72	一部欠損	N-42
168-6	112-9	S2-W60 SN1	開元通宝	621年(唐)	2.35	0.7	4.26		N-43
168-7	112-10	S2-W60 SN1	天聖元宝	1023年(北宋)	2.5	0.7	2.71		N-43
168-8	112-11	S2-W60 SN1	不明	—	(2.4)	(0.6)	(1.85)	一部欠損	N-44
168-9	112-12	S2-W60 SN1	天聖元宝	1032年(北宋)	2.45	0.7	2.63		N-45
168-10	112-13	S2-W60 SN1	〇通元〇	—	—	—	(0.8)	1/3 残存	N-46
168-11	112-14	S2-W60 SN1	皇宋通宝	1039年(北宋)	2.45	0.8	1.23		N-47
168-12	112-15	S2-W60 SN1	嘉祐通宝?	1056年(北宋)	2.4	0.7	2.27		N-48
168-13	112-16	S2-W60 SN1	至道元宝	995年(北宋)	2.4	0.6	2.23	草書体	N-49
168-14	112-17	S2-W60 SN1	不明	—	2.5	0.7	(2.12)	一部欠損	N-50

第168図 SN1 祭祀遺構 出土遺物

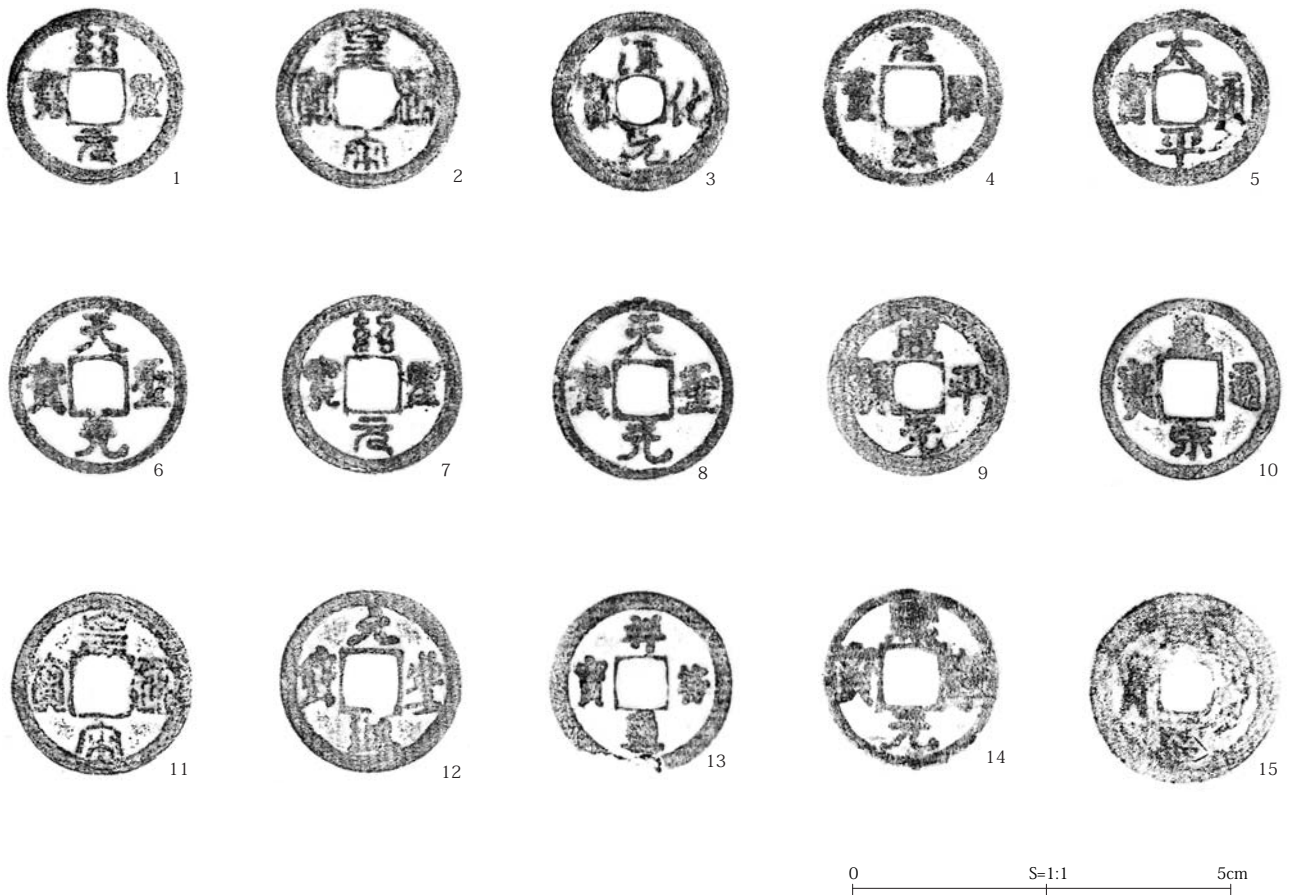


SN1 祭祀遺構 出土遺物観察表 (古銭)

図版番号	写真図版 番号	グリッド 遺構・層位	銭貨名	初鑄年	法量 (cm・g)			備 考	登録番号
					外径	穿径	重さ		
169-1	112-18	S2-W60 SN1	不明	—	2.5	0.7	(2.25)	一部欠損	N-51
169-2	112-19	S2-W60 SN1	宋通元宝	960年(北宋)	2.4	0.7	2.69	一部欠損	N-52
169-3	112-20	S2-W60 SN1	熙寧元宝	1068年(北宋)	2.3	0.7	3.16		N-53
169-4	112-21	S2-W60 SN1	皇宋通宝	1039年(北宋)	2.4	0.8	1.72		N-54
169-5	112-22	S2-W60 SN1	政和通宝	1111年(北宋)	2.5	0.7	2.4		N-55
169-6	112-23	S2-W60 SN1	元豊通宝	1078年(北宋)	2.4	0.6	2.98		N-56
169-7	112-24	S2-W60 SN1	紹聖元宝	1094年(北宋)	2.35	0.65	2.56		N-57
169-8	112-25	S2-W60 SN1	元祐通宝	1086年(北宋)	2.35	0.6	2.55	1/4 残存	N-58
169-9	112-26	S2-W60 SN1	政和通宝	1111年(北宋)	2.5	0.7	2.4		N-59
169-10	112-27	S2-W60 SN1	元豊通宝	1078年(北宋)	2.4	0.6	2.98		N-60
169-11	112-28	S2-W60 SN1	紹聖元宝	1094年(北宋)	2.35	0.65	2.56		N-61
169-12	112-29	S2-W60 SN1	元祐通宝	1086年(北宋)	2.35	0.6	2.55		N-62
169-13	112-30	S2-W60 SN1	紹聖元宝	1094年(北宋)	2.35	0.65	2.56		N-63
169-14	112-31	S2-W60 SN1	〇〇元宝	—	2.35	0.7	3.18		N-64
169-15	112-32	S2-W60 SN1	元祐通宝	1086年(北宋)	2.35	0.6	2.55		N-65

第169図 SN1 祭祀遺構 出土遺物

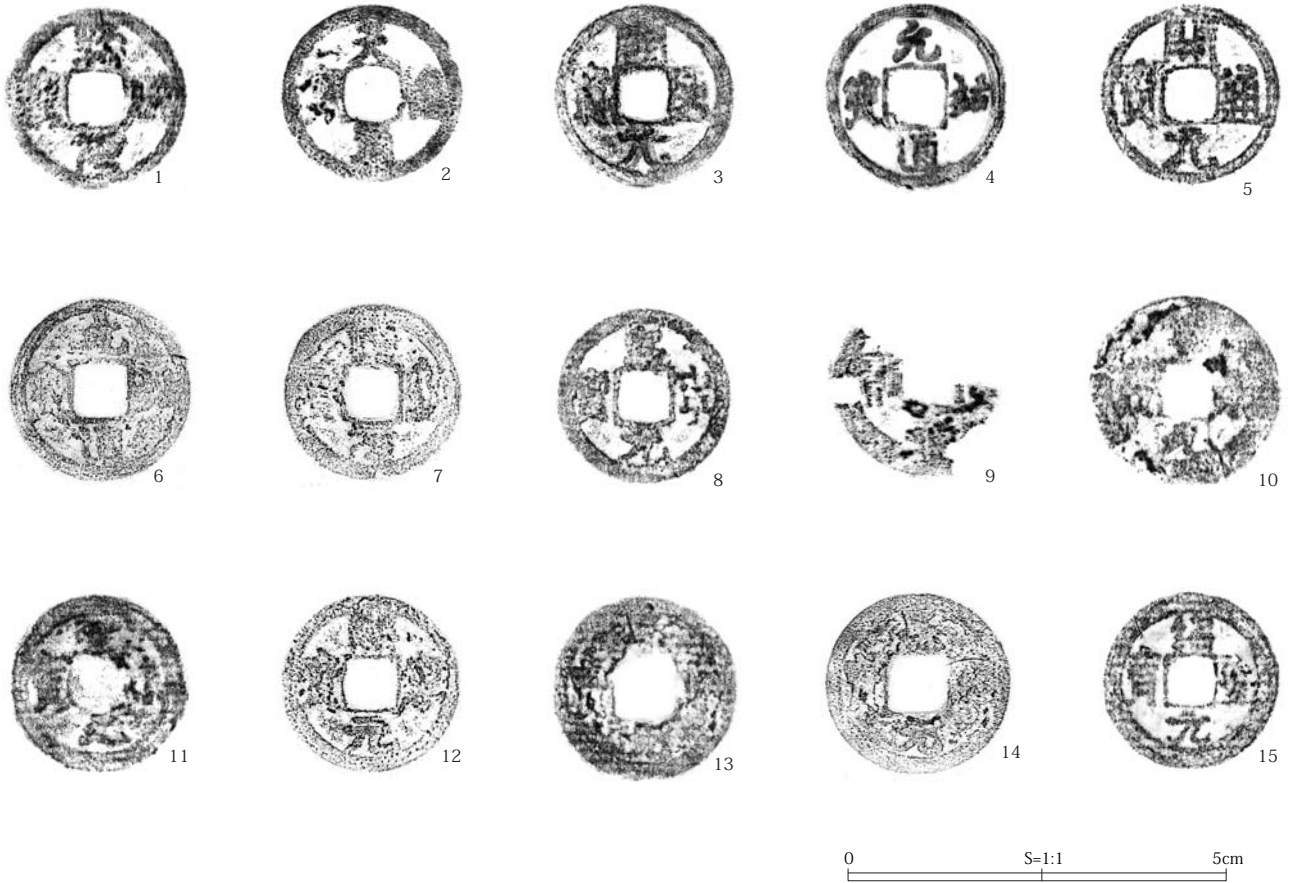
第3節 III区



SN1 祭祀遺構 出土遺物観察表 (古銭)

図版番号	写真図版番号	グリッド遺構・層位	銭貨名	初鑄年	法量 (cm・g)			備考	登録番号
					外径	穿径	重さ		
170-1	112-33	S2-W60 SN1	紹聖元寶	1094年(北宋)	2.35	0.7	3.22		N-66
170-2	112-34	S2-W60 SN1	皇宋通寶	1039年(北宋)	2.4	0.8	2.81		N-67
170-3	112-35	S2-W60 SN1	淳化元寶	990年(北宋)	2.4	0.6	2.53		N-68
170-4	112-36	S2-W60 SN1	不明	—	2.4	0.7	2.33		N-69
170-5	112-37	S2-W60 SN1	太平通寶	976年(北宋)	2.4	0.6	(2.49)	一部欠損	N-70
170-6	112-38	S2-W60 SN1	天聖元寶	1032年(北宋)	2.4	0.7	2.93		N-71
170-7	112-39	S2-W60 SN1	紹聖元寶	1094年(北宋)	2.4	0.7	3.9		N-72
170-8	112-40	S2-W60 SN1	天聖元寶	1032年(北宋)	2.4	0.65	3.04		N-73
170-9	112-41	S2-W60 SN1	咸平元寶	998年(北宋)	2.4	0.65	2.86		N-74
170-10	112-42	S2-W60 SN1	皇宋通寶	1039年(北宋)	2.4	0.7	2.45		N-75
170-11	112-43	S2-W60 SN1	皇宋通寶	1039年(北宋)	2.4	0.7	2.52		N-76
170-12	112-44	S2-W60 SN1	元豐通寶	1078年(北宋)	2.4	0.7	2.32	穿孔痕?有り、一部欠損	N-77
170-13	112-45	S2-W60 SN1	祥符通寶	1009年(北宋)	2.45	0.65	(2.88)	一部欠損	N-78
170-14	112-46	S2-W60 SN1	熙寧元寶	1068年(北宋)	2.35	0.7	1.69		N-79
170-15	112-47	S2-W60 SN1	〇〇通寶	—	2.5	0.7	2.41		N-80

第170図 SN1 祭祀遺構 出土遺物

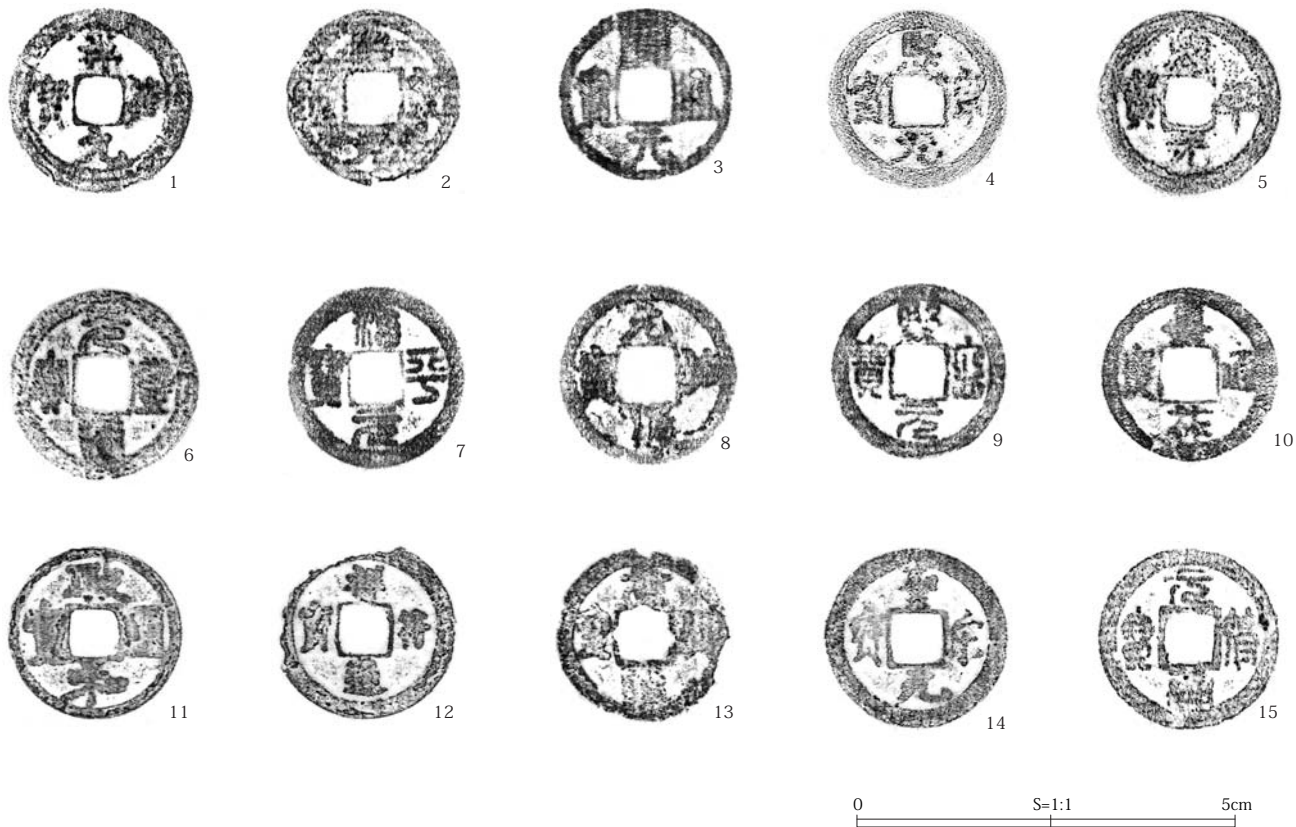


SN1 祭祀遺構 出土遺物観察表 (古銭)

図版番号	写真図版 番号	グリッド 遺構・層位	銭貨名	初鑄年	法量 (cm・g)			備 考	登録番号
					外径	穿径	重さ		
171-1	112-48	S2-W60 SN1	熙寧元宝	1068年(北宋)	2.45	0.7	1.99		N-81
171-2	112-49	S2-W60 SN1	天○通宝	—	2.4	0.7	2.21		N-82
171-3	112-50	S2-W60 SN1	開元通宝	621年(唐)	2.4	0.65	2.25		N-83
171-4	112-51	S2-W60 SN1	元祐通宝	1086年(北宋)	2.45	0.7	2.34		N-84
171-5	112-52	S2-W60 SN1	開元通宝	621年(唐)	2.4	0.7	2.47		N-85
171-6	112-53	S2-W60 SN1	元祐通宝	1086年(北宋)	2.4	0.7	1.17		N-86
171-7	112-54	S2-W60 SN1	熙寧元宝	1068年(北宋)	2.35	0.7	2.98		N-87
171-8	112-55	S2-W60 SN1	熙寧元宝	1068年(北宋)	2.35	0.7	3.42		N-88
171-9	112-56	S2-W60 SN1	不明	—	(2.7)	(0.7)	(1.43)	1/2 残存	N-89
171-10	112-57	S2-W60 SN1	○○元宝	—	2.5	0.7	2.9		N-90
171-11	112-58	S2-W60 SN1	○○元宝	—	2.35	0.7	2.84		N-91
171-12	112-59	S2-W60 SN1	熙寧元宝	1068年(北宋)	2.3	0.7	2.88		N-92
171-13	113-1	S2-W60 SN1	熙寧元宝?	1068年(北宋)	2.3	0.7	3.16		N-93
171-14	113-2	S2-W60 SN1	○○元宝	—	2.45	0.8	2.42		N-94
171-15	113-3	S2-W60 SN1	○○元宝	—	2.35	0.6	3.51		N-95

第171図 SN1 祭祀遺構 出土遺物

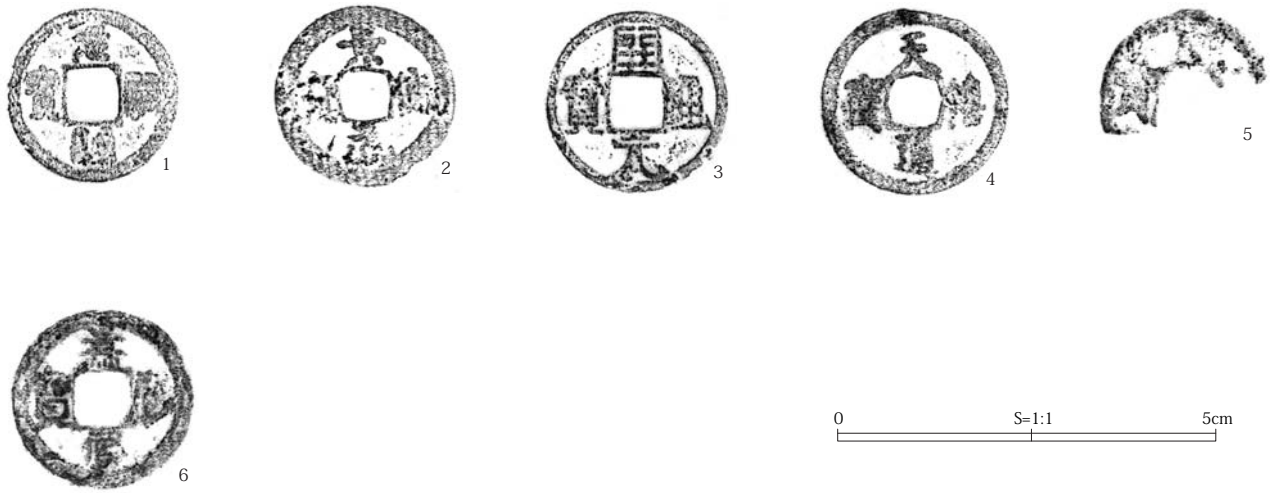
第3節 III区



SN1 祭祀遺構 出土遺物観察表 (古銭)

図版番号	写真図版番号	グリッド遺構・層位	銭貨名	初鑄年	法量 (cm・g)			備考	登録番号
					外径	穿径	重さ		
172-1	113-4	S2-W60 SN1	祥符元宝	1008年(北宋)	2.4	0.6	2.68		N-96
172-2	113-5	S2-W60 SN1	〇〇元〇	—	2.35	0.7	1.76		N-97
172-3	113-6	S2-W60 SN1	開元通宝	621年(唐)	2.3	0.7	1.89		N-98
172-4	113-7	S2-W60 SN1	熙寧元宝	1068年(北宋)	2.35	0.7	3.42		N-99
172-5	113-8	S2-W60 SN1	〇平元宝	—	2.4	0.6	2.86		N-100
172-6	113-9	S2-W60 SN1	元豊通宝	1078年(北宋)	2.5	0.7	2.61		N-101
172-7	113-10	S2-W60 SN1	治平通宝	1064年(北宋)	2.4	0.7	3.06		N-102
172-8	113-11	S2-W60 SN1	元祐通宝	1086年(北宋)	2.35	0.7	2.34		N-103
172-9	113-12	S2-W60 SN1	熙寧元宝	1068年(北宋)	2.3	0.7	2.59		N-104
172-10	113-13	S2-W60 SN1	不明	—	2.4	0.7	2.01		N-105
172-11	113-14	S2-W60 SN1	政和通宝	1111年(北宋)	2.3	0.6	2.28		N-106
172-12	113-15	S2-W60 SN1	祥符通宝	1009年(北宋)	(2.4)	0.6	(1.58)	一部欠損	N-107
172-13	113-16	S2-W60 SN1	〇〇〇宝	—	2.3	0.7	1.87	一部欠損	N-108
172-14	113-17	S2-W60 SN1	聖宋元宝	1101年(北宋)	2.4	0.7	2.38		N-109
172-15	113-18	S2-W60 SN1	元符通宝	1098年(北宋)	2.4	0.65	2.42		N-110

第172図 SN1 祭祀遺構 出土遺物



SN1 祭祀遺構 出土遺物観察表 (古銭)

図版番号	写真図版 番号	グリッド 遺構・層位	銭貨名	初鑄年	法量 (cm・g)			備 考	登録番号
					外径	穿孔	重さ		
173-1	113-19	S2-W60 SN1	元○通宝	—	2.3	0.7	2.56		N-111
173-2	113-20	S2-W60 SN1	景○元宝	1034年(北宋)	2.4	0.6	3.12	一部欠損	N-112
173-3	113-21	S2-W60 SN1	開元通宝	621年(唐)	2.4	0.7	2.81		N-113
173-4	113-22	S2-W60 SN1	天禧通宝	1017年(北宋)	2.5	0.65	2.73		N-114
173-5	113-23	S2-W60 SN1	不明	—	2.35	(0.7)	1.19	1/2 残存	N-115
173-6	113-24	S2-W60 SN1	嘉祐元宝	1056年(北宋)	2.4	0.7	3.17		N-116

第173図 SN1 祭祀遺構 出土遺物

2 IV層上面

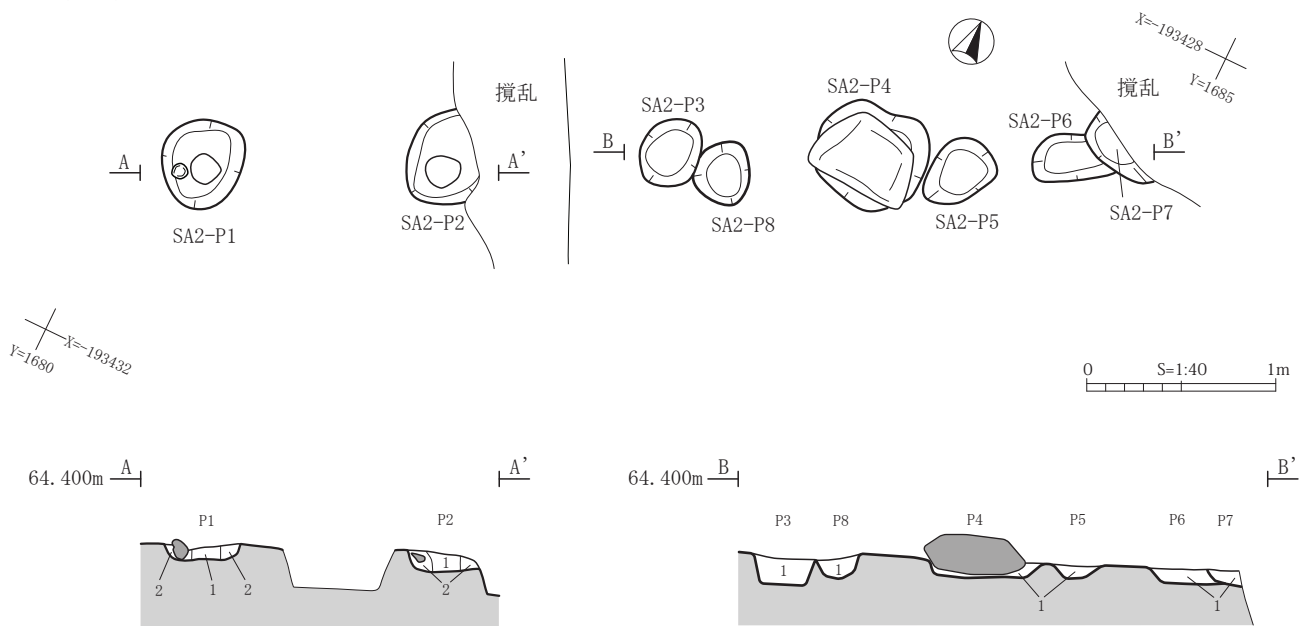
IV層上面で検出された遺構は柱列跡 12 条、溝跡 13 条、井戸跡 2 基、土坑 26 基、ピット 170 基、その他の遺構 2 基、池跡 1 基、合計 224 基である。SA23、SA24 など、前段階の溝跡を埋め戻した上に再度区画を構築しているものが見られる。

(1) 柱列跡

1) SA2 柱列跡 (第 174 図、図版 44-1 ~ 7)

S3-W62・S4-W62 グリッドに位置する。東西方向に並ぶ間隔がまばらな 3 基の柱穴と 5 基の小穴からなる。西側に続く痕跡は見られないが、攪乱によるものかは不明である。東側には当該遺構の柱筋に乗る柱穴や小穴も見られ、さらに延びる可能性がある。P1 からは径 16cm の、P2 からは径 18cm の柱痕が検出され、P4 には 38 × 57cm の礎板石が置かれていた。柱穴の痕跡を示すものはこの 3 基だけであるが、ほぼ直線的に並ぶことから柱列として登録した。P1 と P2 を除き、2 基が隣接するのは部分的に作り替えが行われた可能性が考えられる。掘り方の規模は平面 30 × 32cm ~ 56 × 60cm、深さ 8 ~ 16cm を測る。平面形は不整楕円形を、断面形は U 字形から皿状を呈する。主軸方向は N-63° -E を示す。柱間寸法は P1・P2 と、修理される以前のものと考えられる P8・P5・P6 を計測した。西端から 1.25m (4 尺 1 寸)・1.50m (5 尺)・1.25m (4 尺 1 寸)・0.60m (2 尺) を測る。堆積土は 1 ~ 2 層の黒色~灰黄褐色シルトからなり、人為的埋め戻し土である。

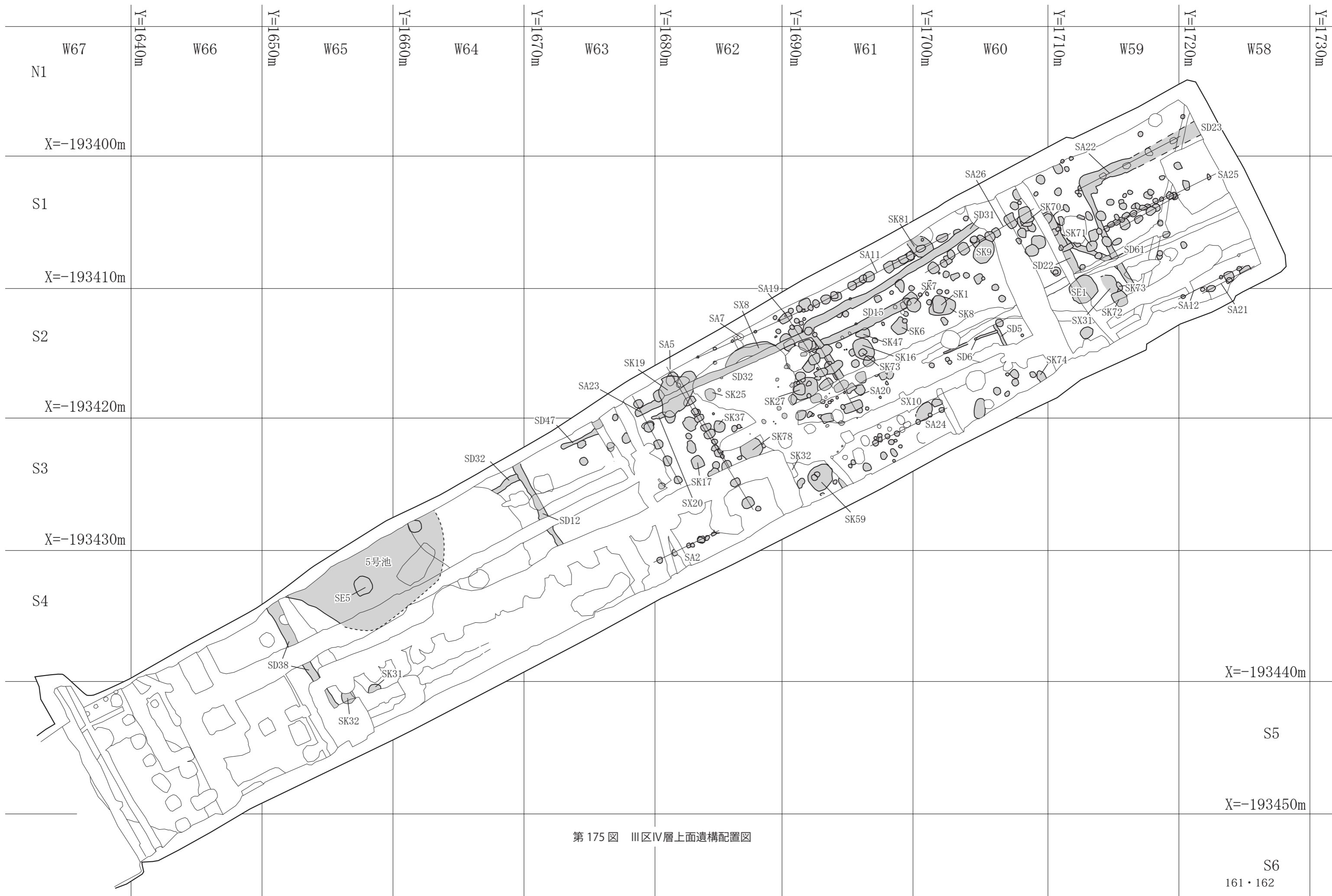
遺物は出土していない。



SA2 柱列跡 土層注記表

ピット番号	層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
		No.	色				
SA2-P1	1	10YR2/1	黒色	腐植土	なし	なし	柱痕
	2	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	褐色砂質シルト・酸化鉄微量
SA2-P2	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	柱痕
	2	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄多量、径 5 cm 以下の礫多量
SA2-P3	1	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径 5 cm 以下の礫微量、酸化鉄多量
SA2-P4	1	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径 5 cm 以下の礫微量、酸化鉄多量
SA2-P5	1	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄多量、径 8 cm 以下の礫微量、灰黄褐色砂質シルト少量
SA2-P6	1	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径 1 cm 程度の礫微量、酸化鉄少量
SA2-P7	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	

第 174 図 SA2 柱列跡 平面図・断面図



第 175 図 III区IV層上面遺構配置図

2) SA5 柱列跡 (第176図、図版45-1～7・46-1～6)

S2-W62・S3-W62 グリッドに位置する。切り合い関係から2時期の作り替えが確認された。

SA5a(旧段階)は7基の柱穴からなる。確認された長さは11.3mで、柱間寸法は北端から3.1m(10尺2寸)・1.5m(5尺)・1.8m(6尺)・1.6m(5尺2寸)・1.4m(4尺6寸)・1.6m(5尺2寸)とばらつきがある。

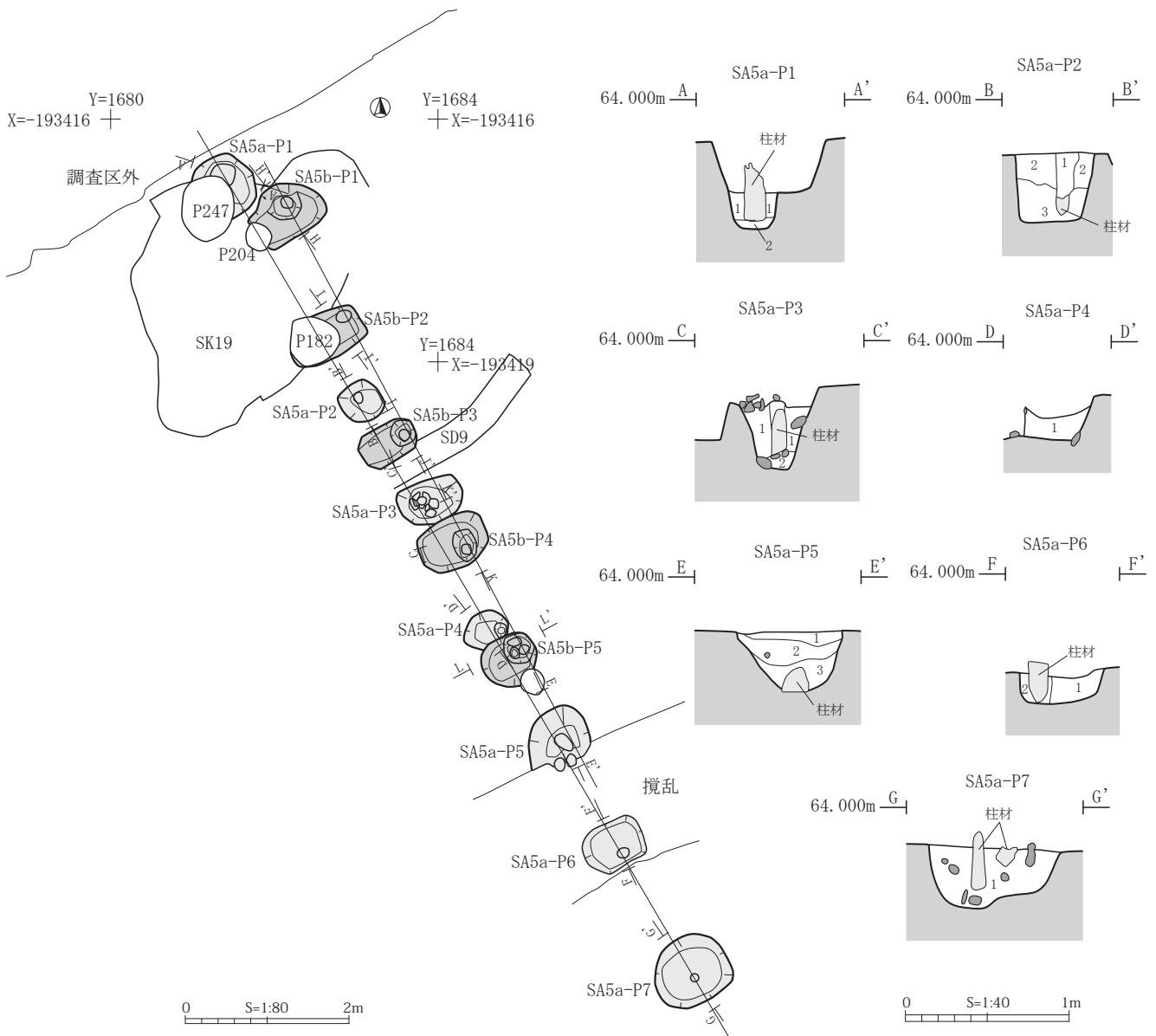
P4以外、すべてから柱材が検出された。

掘り方の規模は径50～80cmの楕円形もしくは長軸80～90cm、短軸50～75cm程度の長楕円形を呈し、深さ40～55cmを測る。断面形は方形～丸底状であり、P1は中段を有する。主軸方向はN-30°-Wを示す。堆積土は1～3層のにぶい黄褐色～灰褐色砂質シルトからなる。

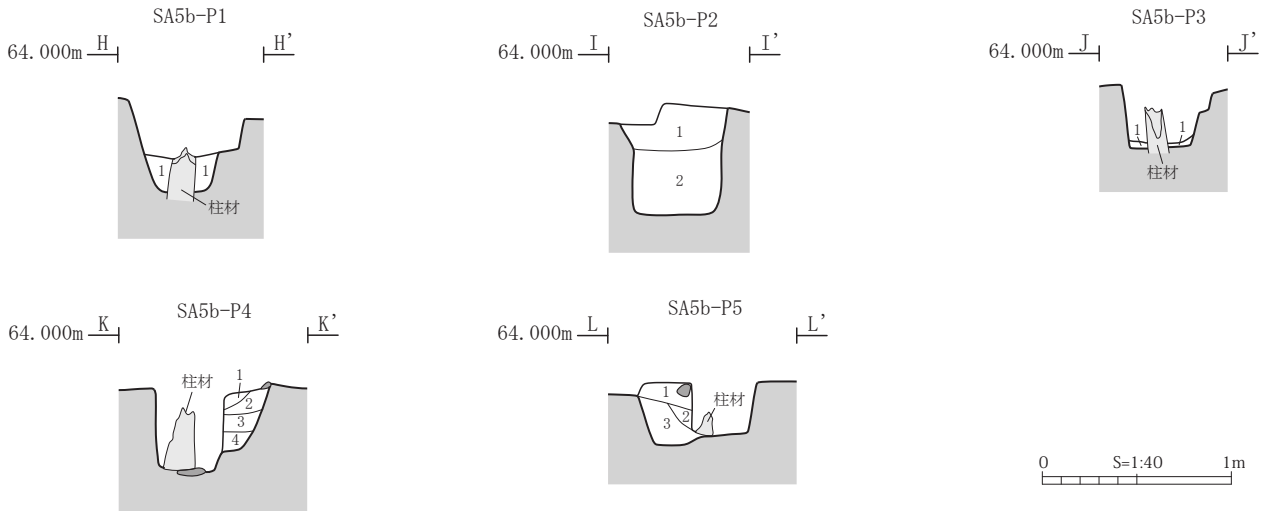
SA5b(新段階)は5基の柱穴からなり、確認された長さは3.12mである。柱間寸法は4間とも約1.6m(5尺3寸)を測る。P2からは柱痕が、P1・P3～P5からは柱材が検出された。

掘り方の規模は、長軸70～80cm、短軸50～60cm、深さ32～55cmを測る。平面形は長方形を呈し、断面形は方形～丸底状である。P1・P2・P3では中段を有する。主軸方向はN-28°-Wを示す。堆積土は1～3層のにぶい黄褐色～灰褐色砂質シルトからなる。

遺物は柱材以外、出土していない。



第3節 III区



SA5 柱列跡 土層注記表

遺構番号	層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
		No.	色				
SA5a-P1	1	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	なし	酸化鉄少量、径3mmの礫少量
	2	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄微量
SA5a-P2	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量
	2	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄微量
SA5a-P3	1	2.5Y5/3・2.5Y4/2	黄褐色・暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量、径3mmの礫少量
	2	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄微量
SA5a-P4	1	2.5Y5/3・2.5Y4/2	黄褐色・暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径3～5mmの酸化マンガン粒少量
SA5a-P5	1	2.5Y5/3・2.5Y4/2	黄褐色・暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量
	2	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄微量
	3	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量
SA5a-P6	1	2.5Y5/3・2.5Y4/2	黄褐色・暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量
	2	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄少量、径3mmの礫少量
SA5a-P7	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄微量
SA5b-P1	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄微量
SA5b-P2	1	2.5Y5/3・2.5Y4/2	黄褐色・暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量
	2	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄少量、径3mmの礫少量
SA5b-P3	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄微量
SA5b-P4	1	2.5Y5/3・2.5Y4/2	黄褐色・暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量
	2	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄微量
	3	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量、径3mmの礫少量
	4	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量
SA5b-P5	1	2.5Y5/3・2.5Y4/2	黄褐色・暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量
	2	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄微量
	3	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄微量

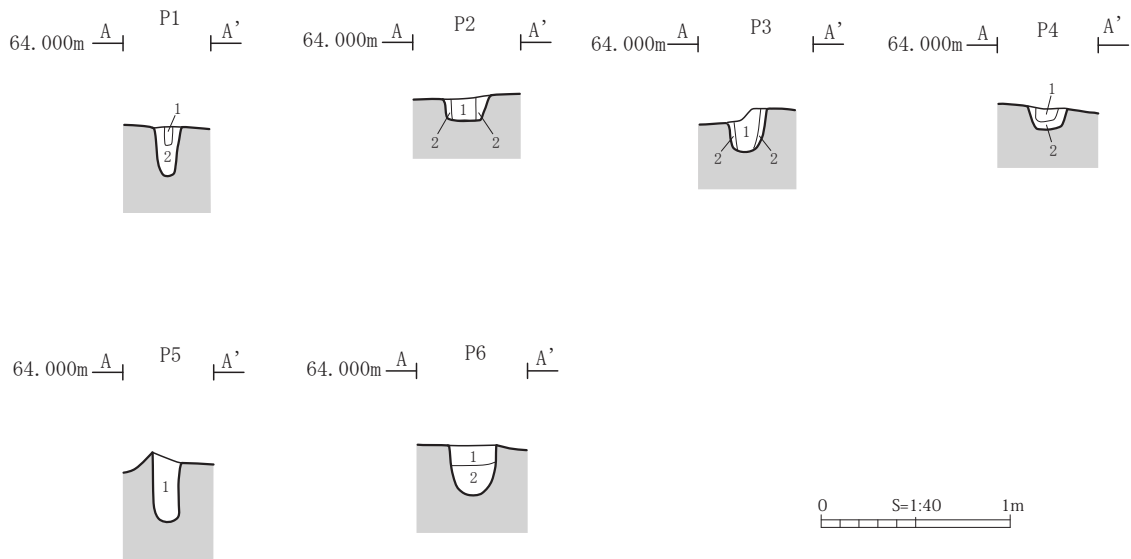
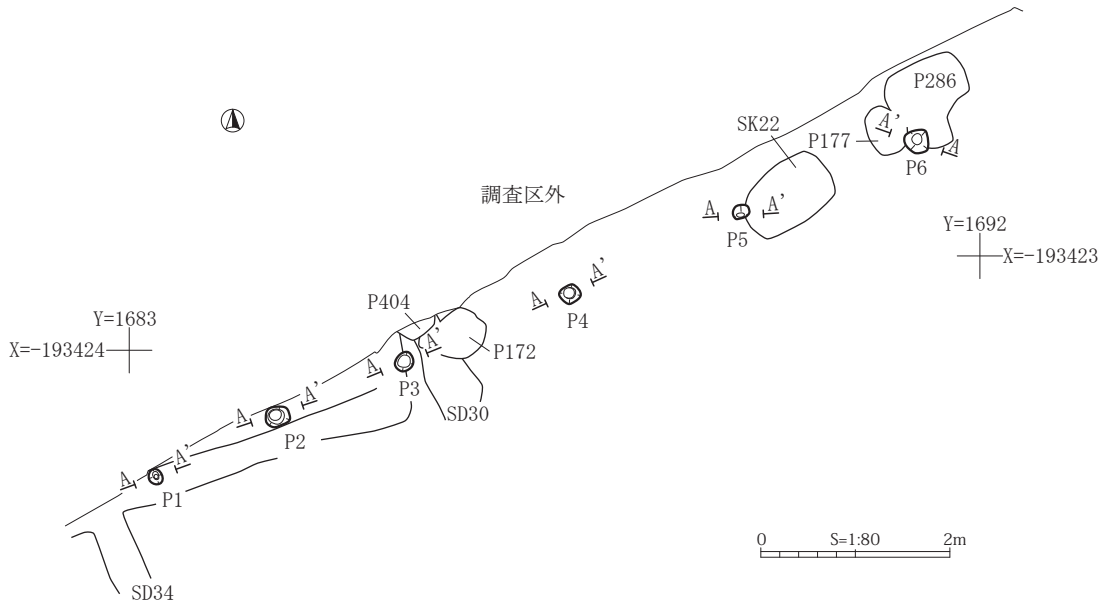
第176図 SA5 柱列跡 断面図

3) SA7 柱列跡 (第177図、図版46-7・47-1～6)

S2-W61・S2-W62 グリッドに位置する。東西方向に並ぶ4基の柱穴と2基の小穴からなる。西側は調査区外へ延びる可能性がある。東側には同規模の柱穴や小穴は見られないが、主軸方向を北に約4度傾けて並ぶ規模の大きなSA11があり、これを同一の遺構と考えるとさらに延びることになる。P1～P4には径5～14cmの柱痕が見られる。

掘り方の規模は長軸18～26cm、短軸14～20cm、深さ11～26cmを測る。平面形は楕円形から不整楕円形を、断面形はU字形を呈する。主軸方向はN-66°-Eを示す。確認された長さは8.8mで柱間寸法は西端から1.40m(4尺6寸)・1.48m(4尺9寸)・1.90m(6尺3寸)・2.02m(6尺7寸)・2.00m(6尺6寸)を測る。堆積土は1～3層の黄灰色を主体とする砂質シルト～粘土質シルトからなる。

遺物は出土していない。



SA7 柱列跡 土層注記表

ピット番号	層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
		No.	色				
SA7-P1	1	2.5Y5/1	黄灰色	砂質シルト	ややあり	あり	柱痕 径5mmのシルトストーン微量
	2	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	あり	
SA7-P2	1	2.5Y5/1	黄灰色	砂質シルト	ややあり	あり	柱痕 径5mmのシルトストーン微量
	2	2.5Y6/1	黄灰色	砂質シルト	ややあり	あり	
	3	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	あり	径5mmのシルトストーン少量
SA7-P3	1	2.5Y5/1	黄灰色	砂質シルト	ややあり	あり	柱痕 径5mmのシルトストーン微量
	2	2.5Y6/1	黄灰色	砂質シルト	ややあり	あり	
SA7-P4	1	2.5Y5/1	黄灰色	シルト質砂	なし	なし	柱痕 炭化物やや多量
	2	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	あり	あり	径5mmのシルトストーン微量
SA7-P5	1	5Y5/2	灰オリーブ色	粘土質シルト	ややあり	ややなし	径1cm以下の礫微量、炭化物少量
SA7-P6	1	2.5Y7/3	浅黄色	粘土質シルト	ややなし	ややあり	白色粒微量 酸化鉄少量
	2	2.5Y5/1	黄灰色	シルト質粘土	ややなし	ややあり	白色粒微量

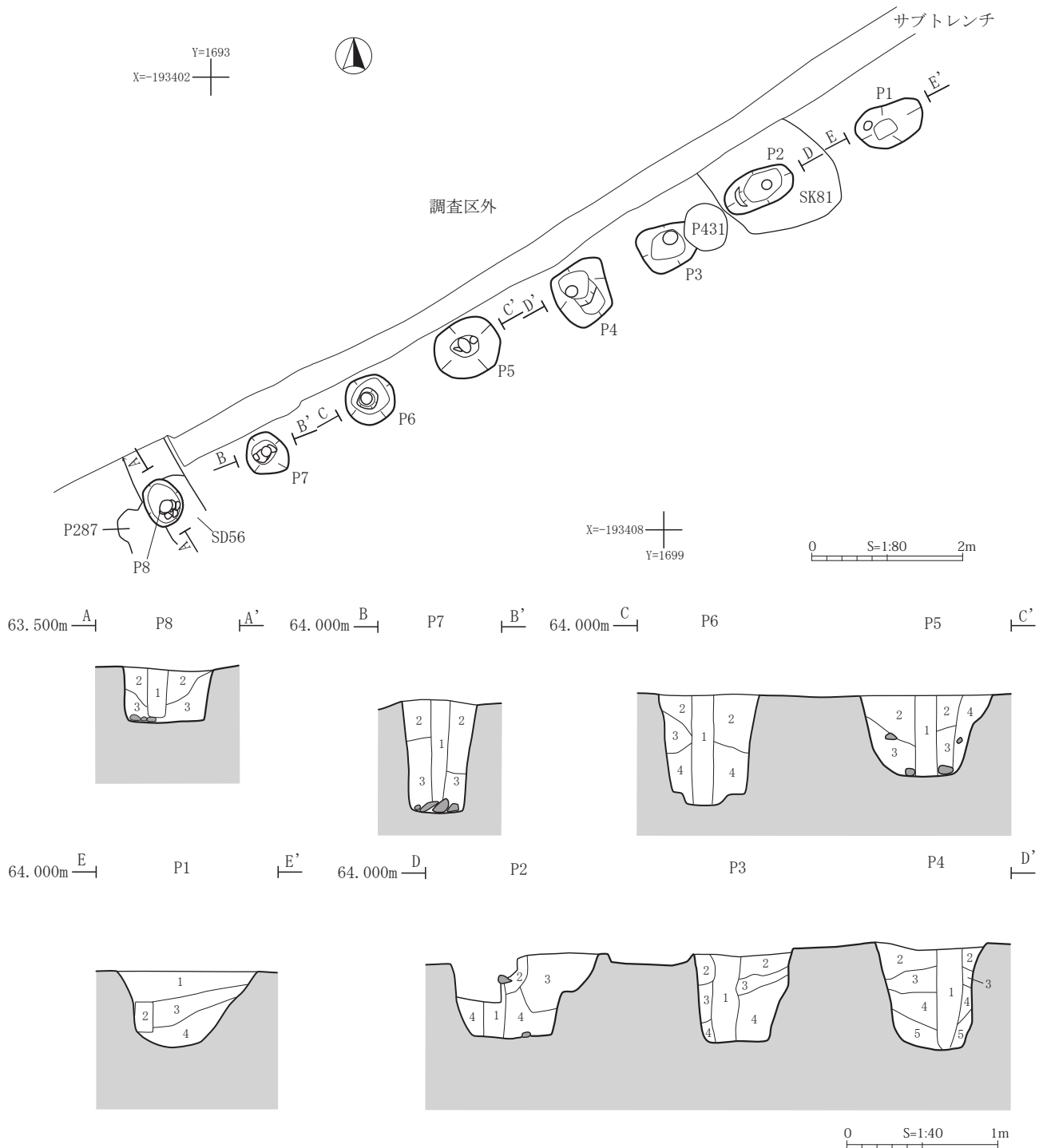
第177図 SA7 柱列跡 平面図・断面図

4) SA11 柱列跡 (第 178 図、図版 47-7 ~ 8・48-1 ~ 6)

S1-W60・S1-W61・S2-W61 グリッドに位置する。東西方向に並ぶ 8 基の柱穴からなる。両方向ともその先に続く同規模の柱穴はないが、西側には主軸方向を南に約 4 度傾けて並ぶ規模の小さい SA7 がある。すべての柱穴に径 12 ~ 22cm の柱痕が見られ、P5・P7・P8 からは根固め石が検出された。

掘り方の規模は長軸 60 ~ 96cm、短軸 48 ~ 74cm、深さ 37 ~ 75cm を測る。平面形は円形から不整楕円形を、断面形は U 字形から開いた U 字形を呈する。確認された長さは 10.56m で、柱間寸法は西端から 1.52m (5 尺)・1.50m (5 尺)・1.46m (4 尺 8 寸)・1.60m (5 尺 3 寸)・1.48m (4 尺 9 寸)・1.46m (4 尺 8 寸)・1.54m (5 尺 1 寸) を測る。主軸方向は N-62°-E を示す堆積土は黒褐色~褐灰色のシルト質砂~シルト質粘土を主体としている。P1 の 2 層、P2 ~ P8 の 1 層は柱痕で、その他は掘り方埋土である。

遺物は出土していない。



SA11 柱列跡 土層注記

遺構番号	層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
		No	色				
SA11-P1	1	10YR5/3	黄褐色	シルト質粘土	ややなし	ややあり	シルトストーンやや多量
	2	7.5Y5/1	灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	柱痕
	3	10YR3/1	黒褐色	シルト質砂	なし	ややあり	径5cm以下の礫微量
	4	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	ややあり	なし	酸化鉄微量、炭化物微量
SA11-P2	1	7.5Y5/1	灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	柱痕
	2	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質砂	ややなし	ややあり	シルトストーン微量、白色粒少量、酸化鉄やや多量
	3	10YR3/2	黒褐色	シルト質粘土	ややなし	ややあり	白色粒少量
	4	10YR5/1	褐灰色	シルト質粘土	ややなし	ややあり	酸化鉄やや多量、白色粒少量、上部はしまり強い
SA11-P3	1	7.5Y5/1	灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	柱痕
	2	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質砂	ややなし	ややあり	シルトストーン微量、白色粒少量、酸化鉄やや多量
	3	10YR3/2	黒褐色	シルト質粘土	ややなし	ややあり	白色粒少量
	4	10YR5/1	褐灰色	シルト質粘土	ややなし	ややあり	酸化鉄やや多量、白色粒少量、上部はしまり強い
SA11-P4	1	7.5Y5/1	灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	柱痕
	2	10YR5/1	褐灰色	シルト質粘土	ややなし	ややなし	酸化鉄やや多量、炭化物粒微量
	3	10YR3/1	黒褐色	シルト質砂	なし	ややあり	径5cm以下の礫微量
	4	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	ややあり	なし	酸化鉄微量、炭化物微量
	5	5Y4/1	灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	シルトストーン微量
SA11-P5	1	7.5Y5/1	灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	柱痕
	2	10YR5/1	褐灰色	シルト質粘土	ややなし	ややなし	酸化鉄やや多量、炭化物粒微量
	3	10YR3/1	黒褐色	シルト質砂	なし	ややあり	径5cm以下の礫微量
	4	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	ややあり	なし	酸化鉄微量、炭化物微量
SA11-P6	1	7.5Y5/1	灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	柱痕
	2	10YR5/1	褐灰色	シルト質粘土	ややなし	ややなし	酸化鉄やや多量、炭化物粒微量
	3	10YR3/1	黒褐色	シルト質砂	なし	ややあり	径5cm以下の礫微量
	4	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	ややあり	なし	酸化鉄微量、炭化物微量
SA11-P7	1	7.5Y5/1	灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	柱痕
	2	2.5Y5/1	黄灰色	シルト質砂	なし	あり	径5cmの礫微量
	3	5Y4/1	灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	シルトストーン微量
SA11-P8	1	7.5Y5/1	灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	柱痕
	2	2.5Y5/1	黄灰色	シルト質砂	なし	あり	径5cmの礫微量
	3	5Y4/1	灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	シルトストーン微量

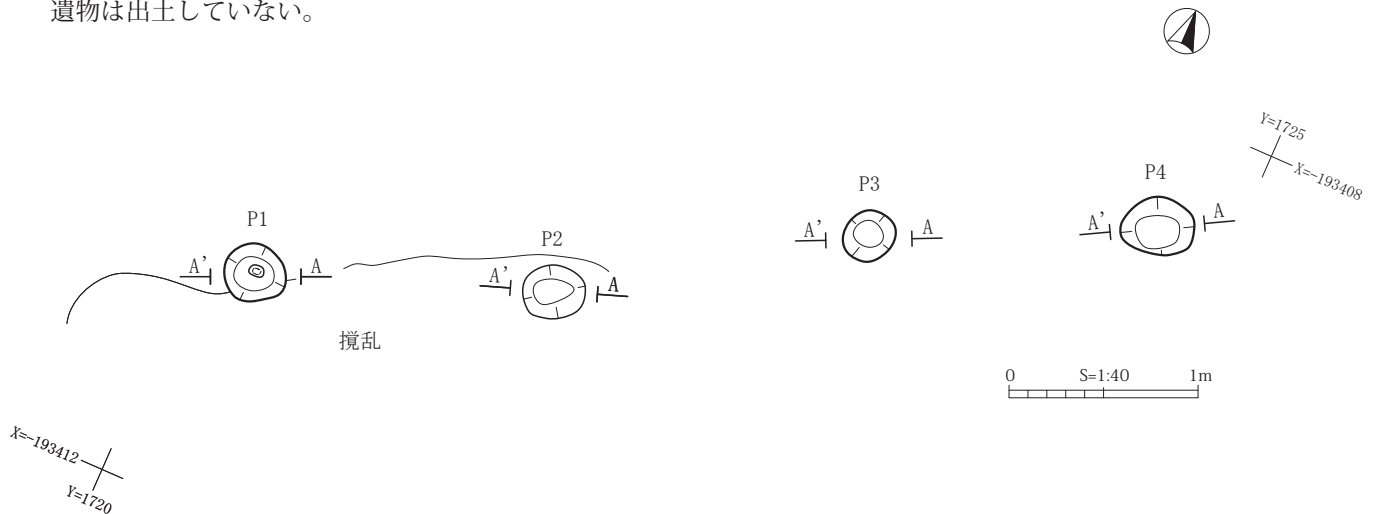
第178図 SA11 柱列跡 平面図・断面図

5) SA12 柱列跡 (第179図、図版48-7・49-1～4)

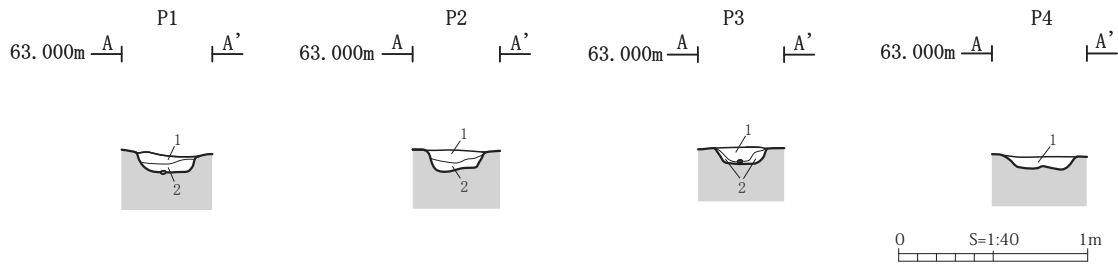
S1-W58・S2-W58 グリッドに位置する。東西方向に並ぶ4基の小穴からなる。柱痕や礎板石などが見られず、柱穴と断定できる根拠は乏しいが、ほぼ直線上に並び、規模が同じで堆積土も類似することから柱列跡として登録した。東側は調査区外へ延びる可能性がある。西側は途切れるが攪乱によるものかは不明である。

掘り方の規模は長軸31～40cm、短軸26～28cm、深さ6～12cmを測る。平面形は円形から楕円形を、断面形は開いたU字形を呈する。主軸方向はN-64°-Eを示す。確認された長さは4.79mで、柱間寸法は西端から1.59m(5尺2寸)・1.68m(5尺5寸)・1.52m(5尺)を測る。堆積土はにぶい黄褐色、黒褐色、黄褐色の砂質シルトからなる。

遺物は出土していない。



第3節 III区



SA12 柱列跡 土層注記表

遺構番号	層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
		No	色				
SA12-P1	1	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	なし	酸化鉄少量、径3mmの礫少量
	2	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄微量
SA12-P2	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量
	2	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄微量
SA12-P3	1	2.5Y5/3・2.5Y4/2	黄褐色・暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量
	2	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄微量
SA12-P4	1	2.5Y5/3・2.5Y4/2	黄褐色・暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径3～5mmの酸化マンガン粒少量

第179図 SA12 柱列跡 平面図・断面図

6) SA19 柱列跡 (第180図、図版49-5～7・50-1～4)

S2-W612 グリッドに位置する。南北方向に並ぶ6基の柱穴からなる。それぞれ柱痕や柱材が残存している状況であった。柱間寸法はまばらで規格性がみとめられないが、直線的に並ぶため柱列として登録した。北側は調査区外に延びる可能性があるが、南側では柱筋に並ぶ柱穴は確認できなかった。P2はP191に、P3は南側をSD15に、西側を攪乱に壊される。P4はP187およびSA20-P1に切られる。P5はP462を切り、P6は南側を攪乱によって壊されている。

掘り方の規模は長軸73～109cm、短軸54～81cm、深さ13～60cmを測る。平面形はほぼ長方形を、断面形はU字形～方形を呈する。主軸方向はN-32.6°-Wを示す。

確認された長さは5.87mで、柱間寸法は北端から1.15m(3尺8寸)・1.33m(4尺4寸)・1.52m(5尺7寸)・0.9m(3尺)・1.09m(3尺6寸)を測る。また、P4は柱痕が2基検出され、断面観察から掘り直しと思われる堆積状況が確認されたため、部分的に作り直しが行われたと考えられる。堆積土は1～8層からなる。

遺物は柱材以外、出土していない。

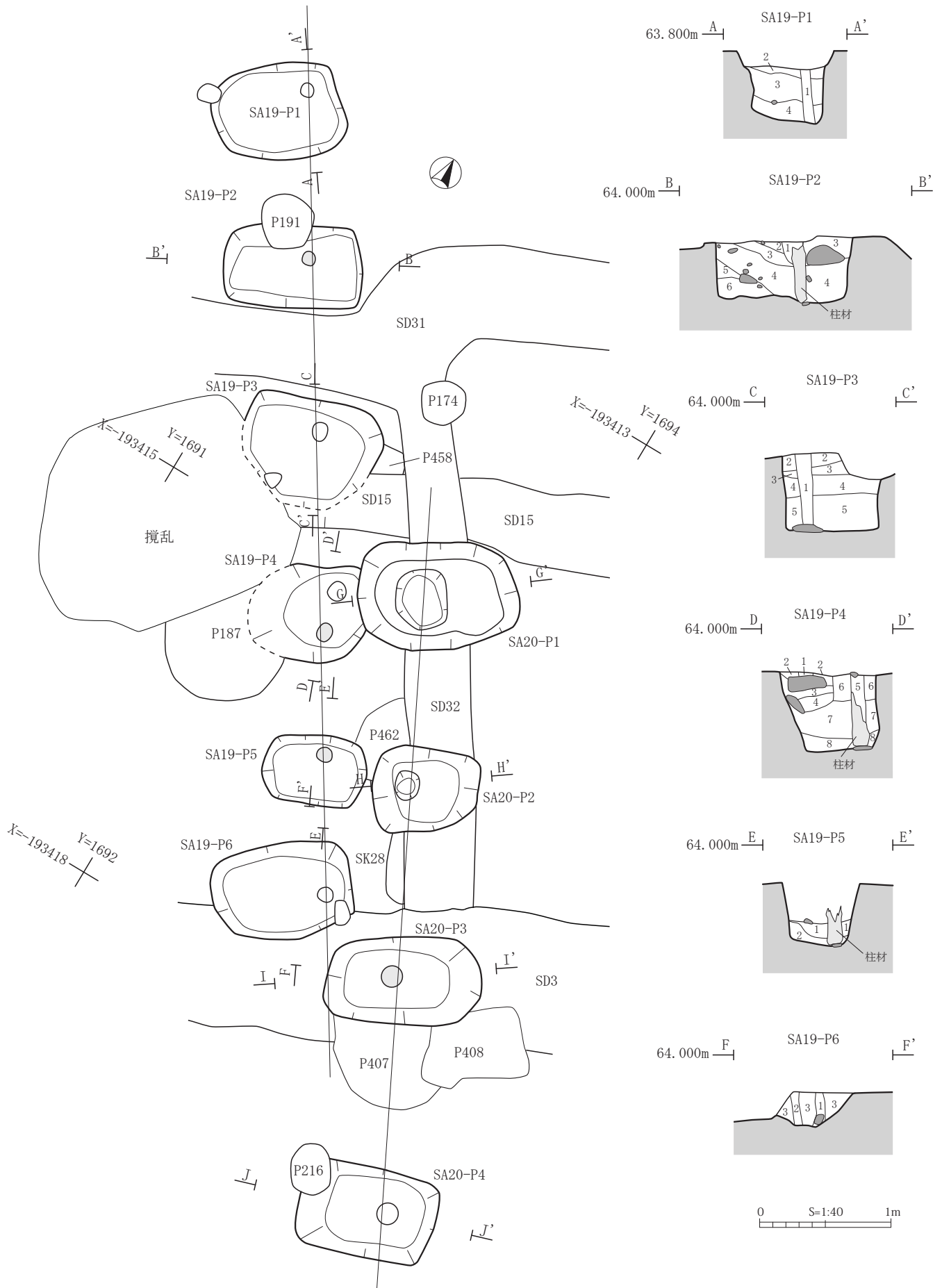
7) SA20 柱列跡 (第180図、図版49-5・50-5～8)

S2-W61 グリッドに位置する。南北方向に並ぶ4基の柱穴からなる。柱間寸法はまばらだが、直線的に並ぶため柱列として登録した。両方向ともその先に続く柱穴は確認されず、比較的短い塀などと思われる。P1はSD32、SA19-P4を、P2はSD32を切る。P3は上部をSD3に、P4はP216に壊されている。

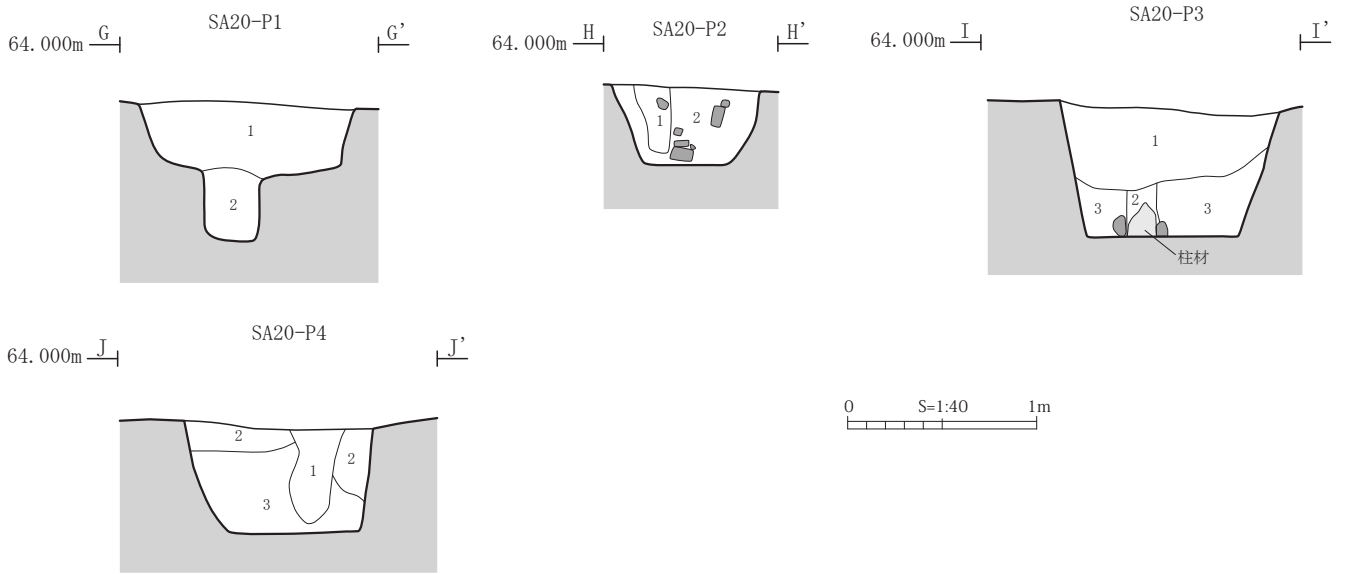
掘り方の規模は長軸81～120cm、短軸58～85cm、深さ38～73cmを測る。平面形はほぼ長方形を、断面形はおおむね逆台形を呈する。主軸方向N-29.4°-Wを示す。

確認された長さは4.7mで、柱間寸法は北端から1.39m(4尺6寸)・1.29m(4尺3寸)・1.8m(6尺)を測る。堆積土は1～3層からなる。

遺物は柱材以外、出土していない。



第3節 III区



SA19・20 柱列跡 土層注記表

遺構番号	層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
		No	色				
SA19-P1	1	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	なし	柱痕
	2	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	なし	酸化鉄少量、径3mmの礫少量
	3	2.5Y5/2	暗灰黄色	粘土質シルト	あり	ややあり	径5mmのシルトストーン微量
	4	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	あり	ややなし	径5mmのシルトストーン微量
SA19-P2	1	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	なし	柱痕
	2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量
	3	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄微量
	4	2.5Y5/3・2.5Y4/2	黄褐色・暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量
	5	2.5Y5/3・2.5Y4/2	黄褐色・暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径3～5mmの酸化マンガン粒少量
	6	2.5Y5/2	暗灰黄色	粘土質シルト	あり	ややあり	径1cmの礫微量
SA19-P3	1	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	なし	柱痕
	2	2.5Y6/3	にぶい黄色	シルト質砂	なし	あり	酸化鉄やや多量
	3	2.5Y5/2	暗灰黄色	粘土質シルト	あり	ややあり	径5mmのシルトストーン微量
	4	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	あり	ややなし	径5mmのシルトストーン微量
	5	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	あり	あり	径5cmの礫少量、径1cmのシルトストーン微量
	6	2.5Y5/2	暗灰黄色	粘土質シルト	あり	ややあり	
SA19-P4	1	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	なし	柱痕
	2	10YR5/1	黄灰色	砂質シルト	ややなし	あり	径10cmの礫微量、径3cmの礫少量
	3	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	ややあり	あり	径5cmの礫微量
	4	10YR5/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	なし	
	5	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	なし	柱痕
	6	10YR4/1	褐灰色	シルト	あり	あり	径3cm以下の黒褐色土粒多量 径10cm以下の礫少量
	7	10YR4/1	褐灰色	シルト	あり	あり	径5cm以下の礫少量
	8	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	径1cm以下のシルトストーンやや少量、径5mm以下の炭化物微量
SA19-P5	1	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	なし	柱痕
	2	5Y4/1	灰色	シルト質砂	なし	ややあり	砂多量
SA19-P6	1	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	なし	柱痕
	2	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質砂	ややなし	ややあり	シルトストーン微量、白色粒少量、酸化鉄やや多量
	3	10YR3/3	暗褐色	シルト質粘土	ややなし	なし	柱痕 酸化鉄微量
SA20-P1	1	10YR3/2	黒褐色	シルト質粘土	ややなし	ややあり	白色粒少量
	2	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	なし	柱痕
SA20-P2	1	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	なし	柱痕
	2	10YR5/2	灰黄褐色	シルト質砂	なし	あり	粗砂多量
SA20-P3	1	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	あり	径1cmのシルトストーンやや少量
	2	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	なし	柱痕
	3	10YR5/1	褐灰色	砂質シルト	なし	ややあり	酸化鉄やや少量
SA20-P4	1	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	なし	柱痕
	2	10YR3/1	黒褐色	シルト	なし	あり	径10cmの礫微量、径1cm以下のパミス多量
	3	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	ややあり	酸化鉄少量、径5mm以下の炭化物微量 根石の掘り方(根石含む)

第180図 SA19・20 柱列跡 平面図・断面図

8) SA21 柱列跡 (第 181 図、図版 51-1 ~ 4)

S1-W58・S2-W58 グリッドに位置する。東西方向に並ぶ3基の柱穴からなる。西側に続く痕跡は見られないが、攪乱によるものかは不明である。東側は調査区外へ延びる可能性がある。

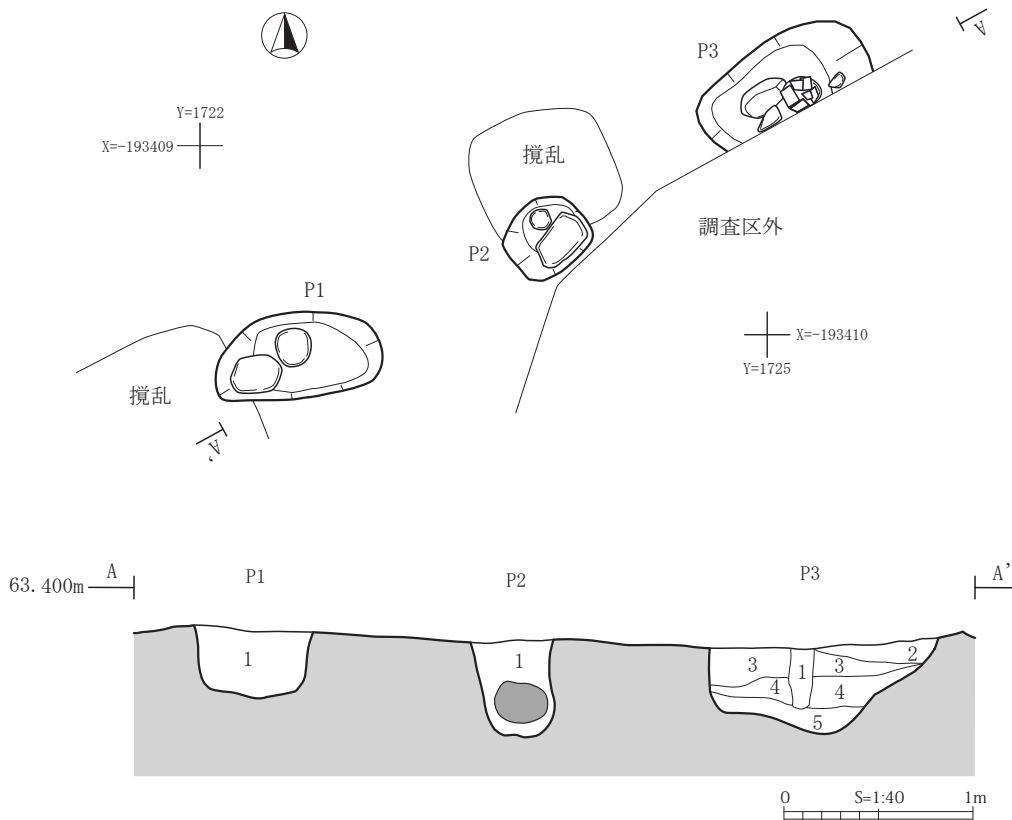
P1 は掘り方の規模が長軸 88cm、短軸 46cm、深さ 36cm を測る。径 20cm、長さ 8 cm の丸材と根固めに用いられた 20 × 27cm の川原石が検出された。

P2 は掘り方の規模が長軸 44cm、短軸 39cm、深さ 50cm を測る。幅 11cm、長さ 8 cm の7角に面取りした木柱と根固めに用いられた 18 × 28cm の川原石が検出された。

P3 は南側が調査区外へ広がり、確認された掘り方の規模は長軸 85cm、短軸 41cm、深さ 46cm を測る。柱痕の下には高さを調節するために敷かれた瓦片と、16×20cm の礎板石が置かれ、P1・P2 と同じように根固めとして用いられた 16 × 28cm の川原石が検出された。主軸方向は N-64° -E を示す。

確認された長さは 3.02m で、柱間寸法は西から 1.46m (4 尺 8 寸)・1.56m (5 尺 1 寸) を測る。堆積土は 1 ~ 5 層からなる。

遺物は瓦片と柱材が出土した。



SA21 柱列跡 土層注記表

遺構番号	層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
		No.	色				
SA21-P1	1	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	なし	酸化鉄少量、径 3 mm の礫少量
SA21-P2	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量
SA21-P3	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	粘土質シルト	あり	なし	径 5 cm の礫少量
	2	2.5Y5/1	黄灰色	砂質シルト	ややあり	あり	白色粒子やや多量、酸化鉄少量
	3	2.5Y5/1	黄灰色	砂質シルト	ややあり	あり	径 3 cm の礫少量
	4	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径 3 cm の礫少量
	5	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	ややあり	あり	径 5 cm 以下の礫微量

第 181 図 SA21 柱列跡 平面図・断面図

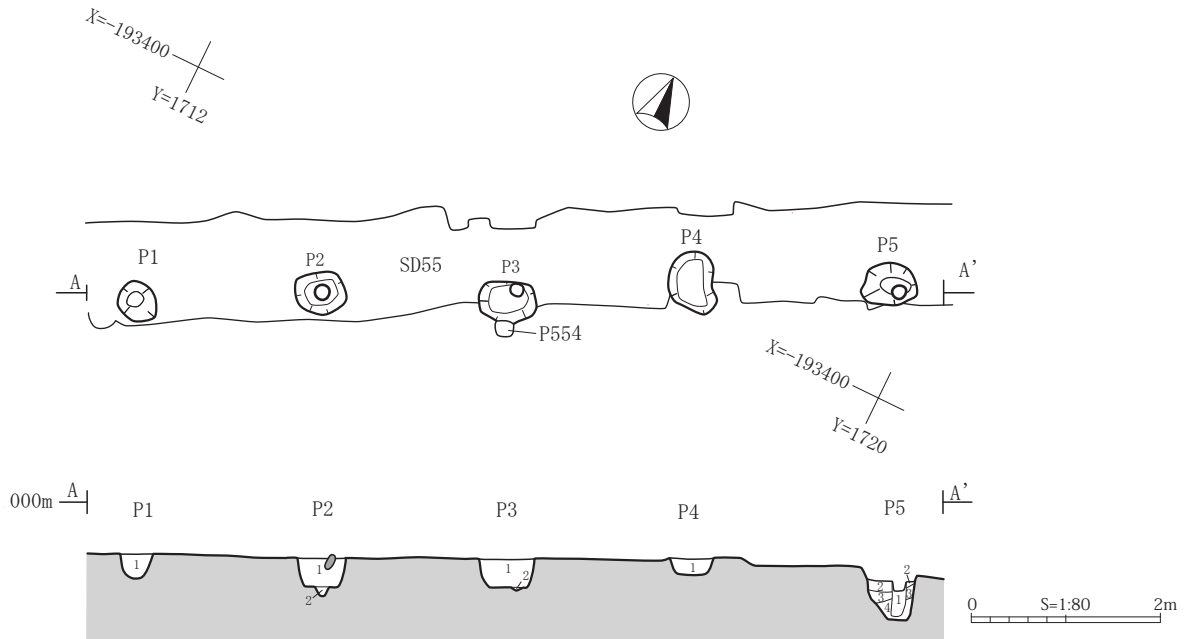
9) SA22 柱列跡 (第 182 図、図版 51-5 ~ 7)

N1-W59・S1-W59 グリッドに位置する。東西方向に並ぶ3基の柱穴と2基の小穴からなる。西側に続く痕跡は見られず途切れるが、東側は調査区外へ延びる可能性がある。P1・P3・P4 からは径 14 ~ 16cm の柱痕が検出され、P4 からは根固めに使われたと思われる 16cm の川原石が出土している。ほぼ直線的に並ぶことから柱列として登録した。

掘り方の規模は長軸 44 ~ 67cm、短軸 38 ~ 60cm、深さ 17 ~ 56cm を測る。主軸方向は N-64°-E を示す。

確認された長さは 8.08m で、柱間寸法は西端から 1.98 m (6 尺 5 寸)・2.06 m (6 尺 8 寸)・1.84 m (6 尺 1 寸)・2.20 m (7 尺 3 寸) を測る。

遺物は出土していない。



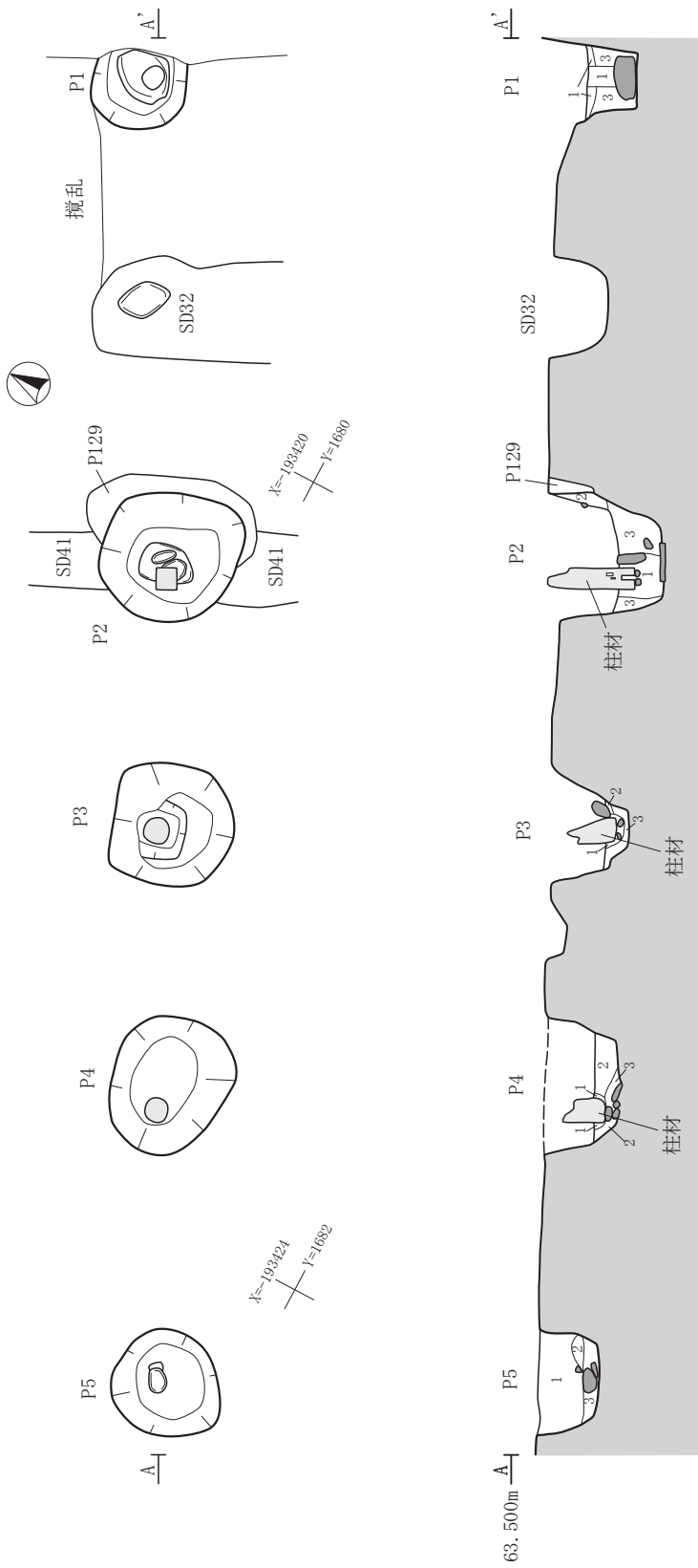
SA22 柱列跡 土層注記表

遺構番号	層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
		No.	色				
SA22-P1	1	2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径 3 ~ 5 mm の酸化マンガン粒少量、暗灰黄色砂質シルトブロック多量
SA22-P2	1	2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量
SA22-P3	1	2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径 3 ~ 5 mm の酸化マンガン粒少量
SA22-P4	1	2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径 3 ~ 5 mm の酸化マンガン粒少量
SA22-P5	1	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	なし	なし	柱痕 酸化鉄少量、径 3 mm の礫少量
	2	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄微量
	3	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量
	4	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄微量

第 182 図 SA22 柱列跡 平面図・断面図

10) SA23 柱列跡 (第 183 図、図版 52-1 ~ 5)

S2-W63・S3-W62・S3-W63 グリッドに位置する。南北方向に並ぶ5基の柱穴からなる。南側はさらに続く痕跡は見られないが、攪乱によって壊されている可能性がある。北側は調査区外へ延びる。P1 と P2 の中間には礎板石を伴う SD32 が位置するが、遺構は重複しない。切り合い関係は不明であるが、SD32 の東端の礎板石が当該遺構の柱筋に載ることから同時期に機能していた可能性も考えられる。P1 は底面に 31cm の川原石が置かれ、径 13cm の柱痕が載る。P2・P3 からはホゾが切られた部材を転用したと思われる柱材が出土している。P2 の柱材は一辺が 12.6cm、長さ 49.4cm を測る角材で、四隅を面取りしている。底面に 31cm の扁平な割り石を置き、その上に円礫を載せて柱を立てる。P3 の柱材は幅 10.8×12cm、長さ 27.4cm を測る八角材と思われ、円礫を置いた上



SA23 柱列跡 土層注記表

遺構番号	層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
		No.	色				
SA23-P1	1	10YR5/3	にぶい、黄褐色	砂質シルト	なし	なし	柱痕 酸化鉄少量、径 3 mmの礫少量
	2	10YR5/1	黄灰色	砂質シルト	ややなし	あり	径 10 cmの礫微量、径 3 cmの礫少量
	3	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	ややあり	あり	径 5 cmの礫微量
SA23-P2	1	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	なし	柱痕
	2	10YR5/1	黄灰色	砂質シルト	ややなし	あり	径 10 cmの礫微量、径 3 cmの礫少量
	3	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	ややあり	あり	径 5 cmの礫微量
SA23-P3	1	10YR5/1	黄灰色	砂質シルト	ややなし	あり	径 10 cmの礫微量、径 3 cmの礫少量
	2	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	なし	柱痕
	3	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	ややあり	あり	径 5 cmの礫微量
SA23-P4	1	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	なし	柱痕
	2	10YR5/1	黄灰色	砂質シルト	ややなし	あり	径 10 cmの礫微量、径 3 cmの礫少量
	3	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	ややあり	あり	径 5 cmの礫微量
SA23-P5	1	10YR4/1	褐灰色	シルト	あり	あり	径 3 cm以下の黒褐色土粒多量 径 10 cm以下の礫少量
	2	10YR5/1	黄灰色	砂質シルト	ややなし	あり	径 10 cmの礫微量、径 3 cmの礫少量
	3	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	ややあり	あり	径 5 cmの礫微量

第183図 SA23 柱列跡 平面図・断面図

第3節 III区

に載せる。P4の柱材は丸材で径12.6cm、長さ23.6cmが残存する。円礫を置いた上に載せる。P5からは柱を載せたと考えられる円礫が出土している。

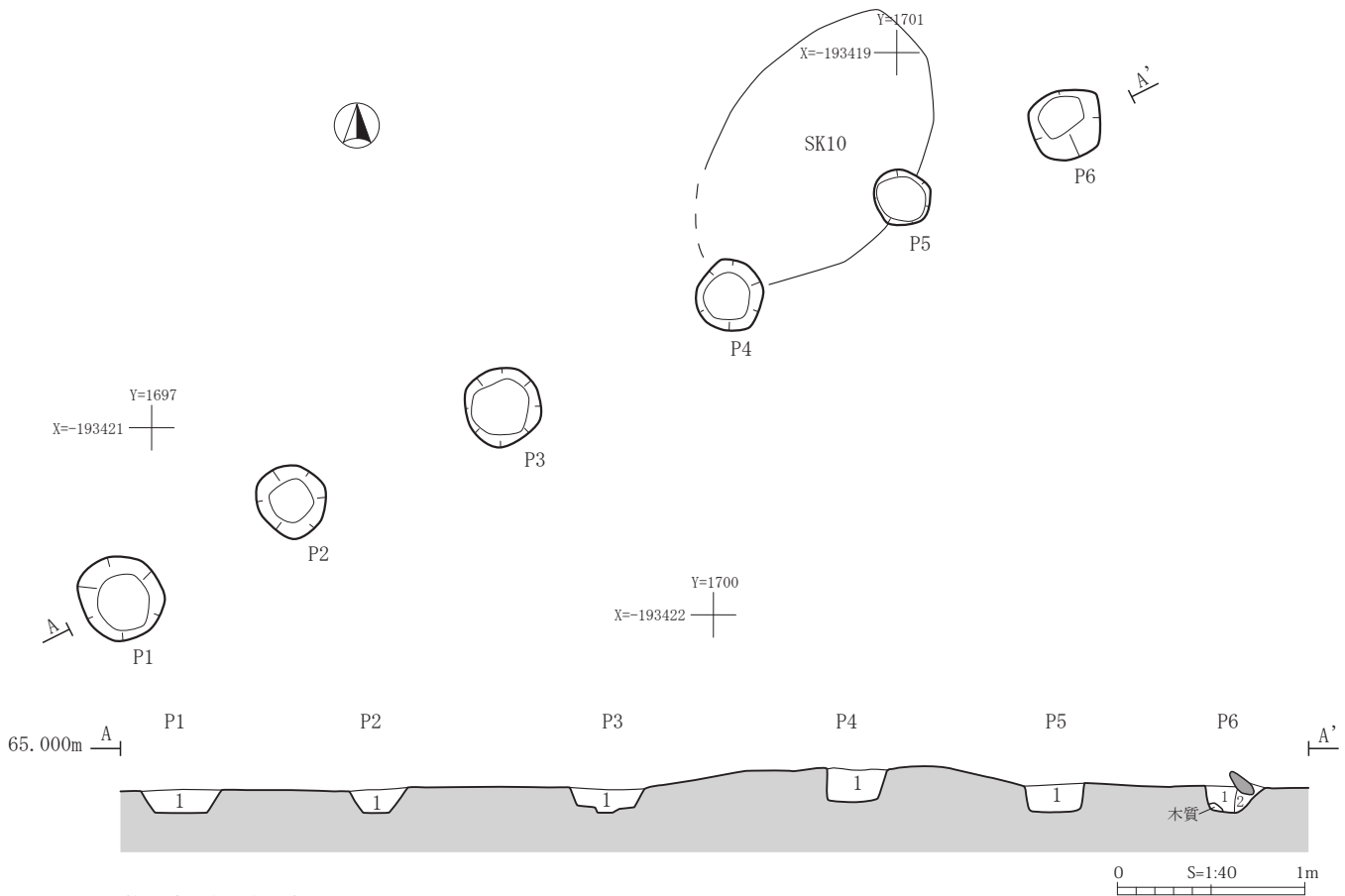
掘り方の規模は長軸64～78cm、短軸58～65cm、深さ44cmを測る。平面形は不整円形から不整楕円形を、断面形は開いたU字形を呈する。主軸方向はN-62°-Eを示す。確認された長さは7.2mで、柱間寸法は西端から1.48m(4尺9寸)・1.56m(5尺1寸)・1.38m(4尺6寸)・2.78m(9尺2寸)を測る。北端のP1とP2の柱間寸法2.78mを2で割ると、南側のそれとほぼ同じになる。

堆積土は各柱穴とも3層からなる。P1～P4の1層は柱痕、P5では柱痕の断面は確認できなかった。そのほかは掘り方埋土である。

遺物は柱材以外、出土していない。

11) SA24 柱列跡 (第184図、図版53-1～5)

S2-W60・S3-W60・S3-W61グリッドに位置する。東西方向に並ぶ1基の柱穴と5基の小穴からなる。P4・P5はSX10を切る。東西ともその先に続く柱穴は検出されなかった。P6以外に柱痕等は見られなかったが、直線的



SA24 柱列跡 土層注記表

遺構番号	層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
		No.	色				
SA24-P1	1	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	なし	酸化鉄少量、径3mmの礫少量
SA24-P2	1	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄微量
SA24-P3	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量
SA24-P4	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄微量
SA24-P5	1	2.5Y5/3・2.5Y4/2	黄褐色・暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量
SA24-P6	1	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	なし	柱痕
	2	10YR5/1	褐灰色	砂質シルト	なし	ややあり	酸化鉄やや少量

第184図 SA24 柱列跡 平面図・断面図

に並ぶため柱列跡として登録した。掘り方の規模は径 24～37cm、深さ 2～16cm を測る。平面形は円形～楕円形を、断面は逆台形～方形を呈する。主軸方向は N-63°-W を示す。確認された長さは 5.7m で、柱間寸法は、西端から 1.07m (3 尺 6 寸)・1.24m (4 尺 1 寸)・1.36m (4 尺 5 寸)・1.08m (3 尺 6 寸)・0.93m (3 尺 1 寸) を測る。

堆積土は P1～P5 は単層で、P6 は 2 層からなる。P5 の 1 層は柱痕で、底面に柱材の残存と思われる木質がわずかに遺存していた。2 層は掘り方埋土である。

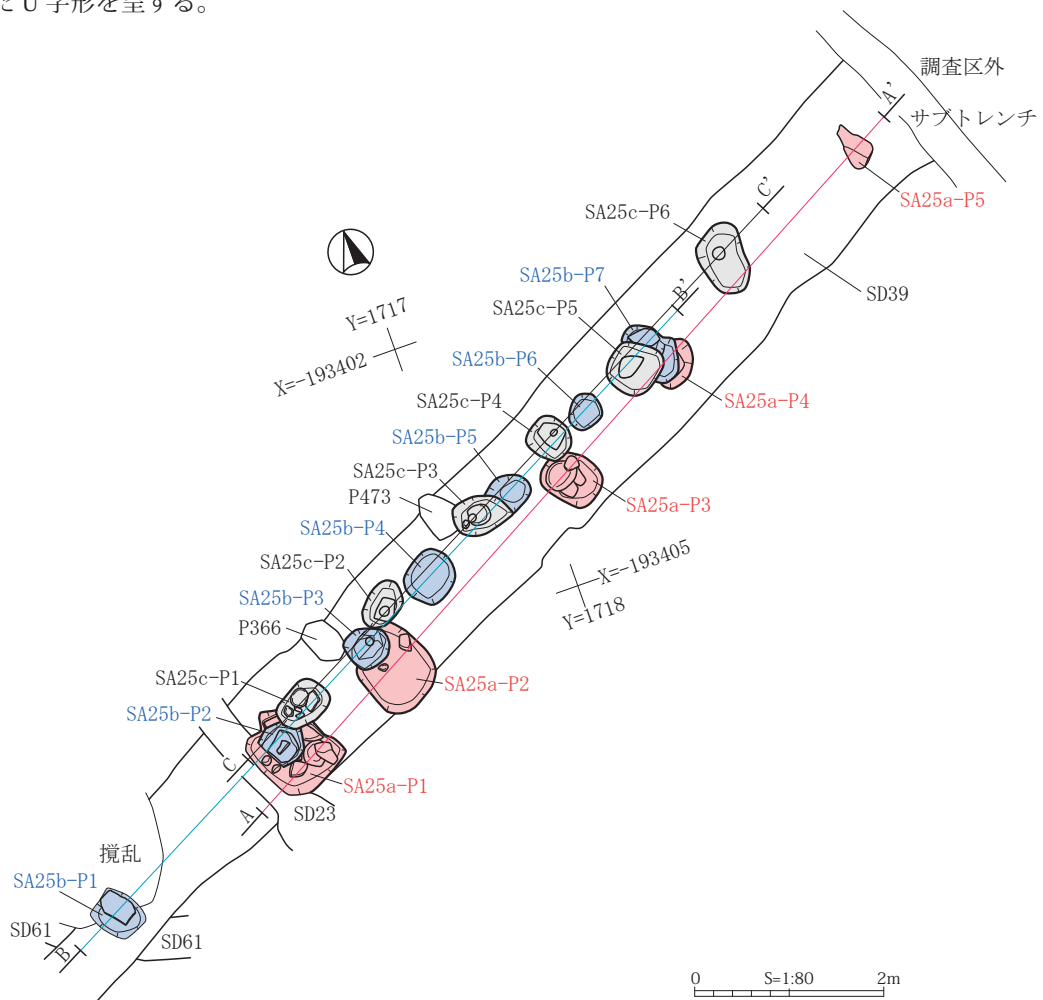
遺物は出土していない。

12) SA25 柱列跡 (第 185～186 図、図版 53-6・54-1～7・55-1～8)

S1-W58・59 グリッドに位置する。東西に並ぶ 17 基の柱穴が検出され、切り合い関係から 3 条の柱列になることが確認された。柱間寸法はまばらで、柱痕跡、柱材が検出されないものも含まれるが、直線的に並ぶことから柱列として登録した。これらは、V 層上面で検出された SD39 の堆積土上面に構築されている。いずれも浅く、本来は上位から掘り込まれたものと思われる。以下、古い順から SA25a、SA25b、SA25c として記述する。

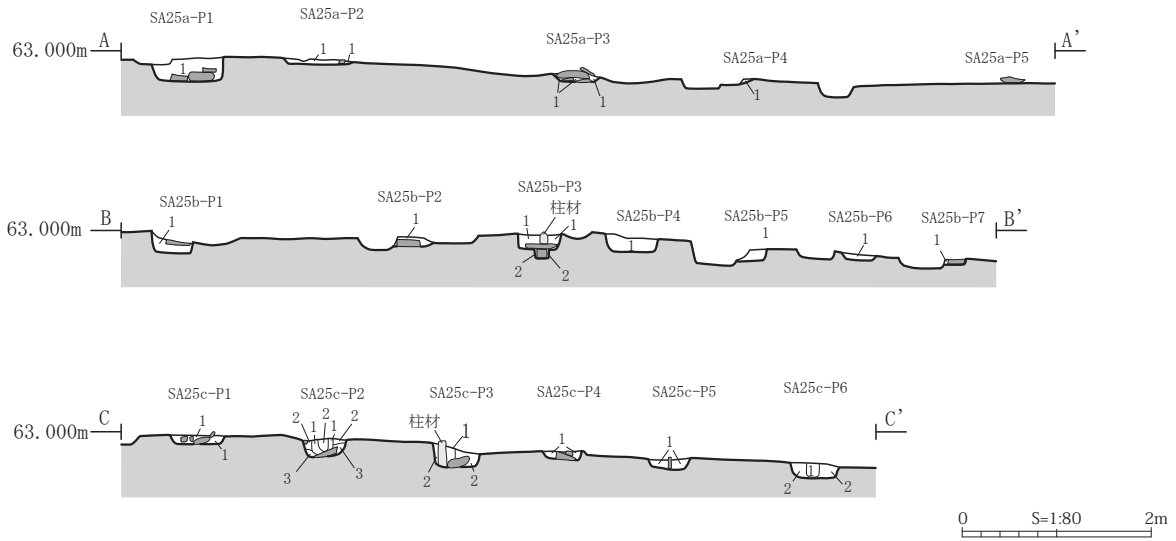
[SA25a] 5 基の柱穴からなる。P1、P3 では礎板石が出土している。P5 は礎板石のみの検出である。

掘り方の規模は長軸 63～105cm、短軸 50～74cm、深さ 8～26cm を測る。平面形は長方形を、断面形は浅い皿状～開いた U 字形を呈する。



第 185 図 SA25 柱列跡 平面図

第3節 III区



SA25 柱列跡 土層注記表

遺構番号	層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
		Na	色				
SA25a-P1	1	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	なし	酸化鉄少量、径3mmの礫少量
SA25a-P2	1	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄微量
SA25a-P3	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量
SA25a-P4	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄微量
SA25b-P1	1	2.5Y6/3	にぶい黄色	シルト質砂	なし	あり	酸化鉄やや多量
SA25b-P2	1	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	なし	酸化鉄少量、径3mmの礫少量
SA25b-P3	1	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	なし	柱痕
	2	2.5Y6/3	にぶい黄色	シルト質砂	なし	あり	酸化鉄やや多量
SA25b-P4	1	2.5Y6/3	にぶい黄色	シルト質砂	なし	あり	酸化鉄やや多量
SA25b-P5	1	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	なし	酸化鉄少量、径3mmの礫少量
SA25b-P6	1	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	なし	酸化鉄少量、径3mmの礫少量
SA25b-P7	1	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	なし	柱痕
	2	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	なし	酸化鉄少量、径3mmの礫少量
SA25c-P1	1	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	なし	酸化鉄少量、径3mmの礫少量
SA25c-P2	1	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	なし	柱痕
	2	2.5Y6/3	にぶい黄色	シルト質砂	なし	あり	酸化鉄やや多量
	3	2.5Y5/2	暗灰黄色	粘土質シルト	あり	ややあり	径5mmのシルトストーン微量
SA25c-P3	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量
	2	2.5Y6/3	にぶい黄色	シルト質砂	なし	あり	酸化鉄やや多量
SA25c-P4	1	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	なし	酸化鉄少量、径3mmの礫少量
SA25c-P5	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量
SA25c-P6	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量
	2	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	なし	酸化鉄少量、径3mmの礫少量

第186図 SA25 柱列跡 断面図

確認された長さは9.2mで、柱間寸法は、西端から1.40m(4尺6寸)・3.08m(10尺2寸)・2.24m(7尺4寸)・2.80m(9尺2寸)を測る。主軸方向はN-45°-Eを示す。堆積土は砂質シルトの単層からなる。

遺物は出土していない。

[SA25b] 7基の柱穴からなる。P2はSD23に、P3はP366に切られる。P1・P2・P7からは礎板石が検出された。P3は底面中央を1段掘り下げて、方形に加工した礫を置き、その上に礎板石を載せて柱を立てる。

掘り方の規模は長軸37～54cm、短軸32～38cm、深さ7～30cmを測る。平面形は楕円形を、断面形はU字形～逆台形を呈する。

確認された長さは8.64mで、柱間寸法は西端から2.40m(7尺9寸)・1.40m(4尺6寸)・0.96m(3尺2寸)・1.34m

(4尺4寸)・1.52m(5尺)・1.44m(4尺8寸)を測る。主軸方向はN-43°-Eを示す。堆積土は1～2層からなる。遺物は柱材以外、出土していない。

[SA25c] 6基の柱穴からなる。P3はP473を切る。P1～P4では礎板石が、P3では加えて柱材が検出された。掘り方の規模は長軸52～55cm、短軸24～26cm、深さ10～25cmを測る。平面形は楕円形を呈し、断面形は開いたU字形を呈する。

確認された長さは7.04mで、柱間寸法は西端から1.35m(4尺5寸)・1.34m(4尺5寸)・1.28m(4尺2寸)・1.12m(3尺6寸)・1.52m(5尺)を測る。主軸方向は、N-43°-Eを示す。堆積土は1～3層からなる。遺物は柱材以外、出土していない。

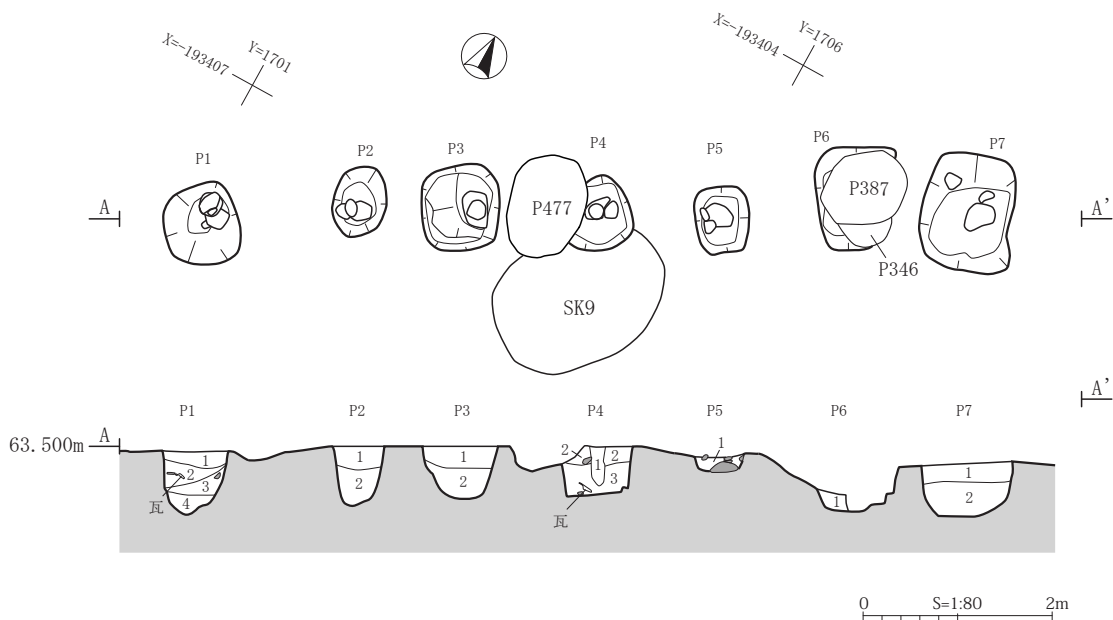
13) SA26 柱列跡 (第187図、図版56-1～8)

S1-W60グリッドに位置する。東西に並ぶ7基の柱穴からなる。P4はSK9、P477に、P6はP387とP346に切られる。すべてから柱痕、または礎板石が検出された。

掘り方の規模は55×70cm～94×110cm、深さ49～54cmを測る。平面形は楕円形～方形、断面形はU字形～方形を呈する。

確認された長さは8.3mで、柱間寸法は、西端から1.6m(5尺3寸)・1.22m(4尺)・1.37m(4尺5寸)・1.58m(5尺2寸)・1.36m(4尺5寸)を測る。中央のP2からP5までは間隔が狭く、その両脇は広がっている。P6とP7間は再び狭くなり、さらに東方向へ展開する可能性もある。主軸方向はN-61°-Wを示す。堆積土は1～4層からなる。

遺物はP1・P3～P5・P7で瓦が出土しているが、細片のため図化し得なかった。



SA26 柱列跡 土層注記表

遺構番号	層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
		No	色				
SA26-P1	1	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	なし	酸化鉄少量、径3mmの礫少量
	2	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄微量
	3	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量
	4	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄微量
SA26-P2	1	2.5Y5/3・2.5Y4/2	黄褐色・暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄少量
	2	2.5Y5/3・2.5Y4/2	黄褐色・暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径3～5mmの酸化マンガン粒少量
SA26-P3	1	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	なし	酸化鉄少量、径3mmの礫少量
	2	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄微量
SA26-P4	1	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	なし	柱痕
	2	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	なし	酸化鉄少量、径3mmの礫少量
SA26-P5	1	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄微量
SA26-P6	1	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄微量
SA26-P7	1	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	なし	酸化鉄少量、径3mmの礫少量
	2	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄微量

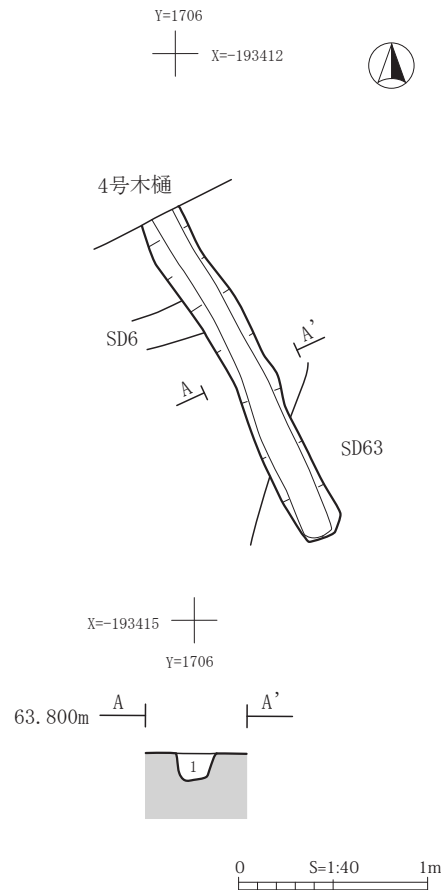
第187図 SA26 柱列跡 平面図・断面図

(2) 溝跡

1) SD5 溝跡 (第188図、図版57-1～2)

S2-W60 グリッドに位置する。南北方向に直線的に走る素掘りの溝である。SD6 と SD63 を切り、北端を4号木樋に、南端を攪乱によって壊される。南北両側ともにその先に延びていた痕跡がないことから途切れるものと推定される。確認された規模は長さ1.9m、幅21～24cm、深さ14cmを測る。主軸方向はN-27°-Wを示す。断面形は開いたU字形を呈する。堆積土は黄灰色シルト質砂の単層で、上面の整地により埋め戻されたものと考えられる。

遺物は出土していない。



SD5 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	2.5Y5/1	黄灰色	シルト質砂	なし	ややあり	径5mm以下の礫、酸化鉄多量

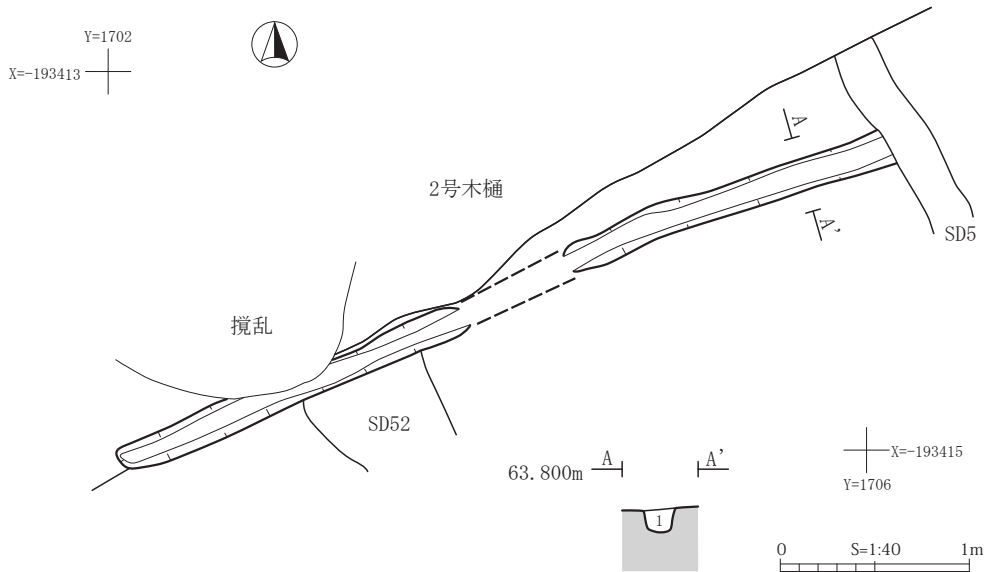
第188図 SD5 溝跡 平面図・断面図

2) SD6 溝跡 (第 189 図、図版 57-1・3)

S2-W60 グリッドに位置する。東西方向に直線的に走る素掘りの溝である。SD52 を切り、北西側を攪乱によって壊される。西端は 2 号木樋に、東端は SD5 に切れ、東西両側ともその先に延びていた痕跡がないことから途切れるものと推定される。

確認された規模は長さ 4.4m、幅 15～20cm、深さ 12cm を測る。主軸方向は N-67°-E を示す。断面形は開いた U 字形を呈する。堆積土はにぶい黄褐色砂質シルトの単層であり、上面の整地により埋め戻されたものと考えられる。

遺物は出土していない。



SD6 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	Na	色				
1	10YR4/2	にぶい灰黄褐色	砂質シルト	なし	あり	径 5 mm 以下の砂礫多量、酸化鉄微量

第 189 図 SD6 溝跡 平面図・断面図

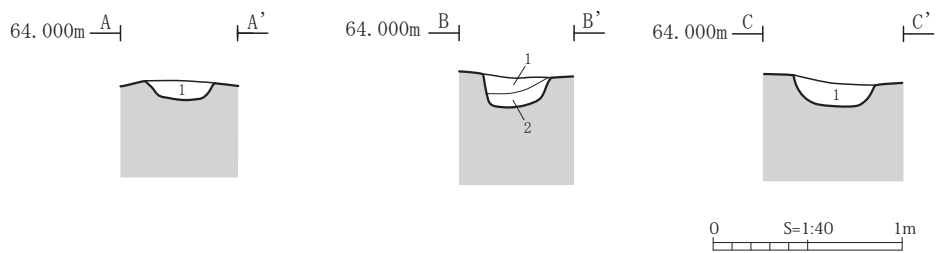
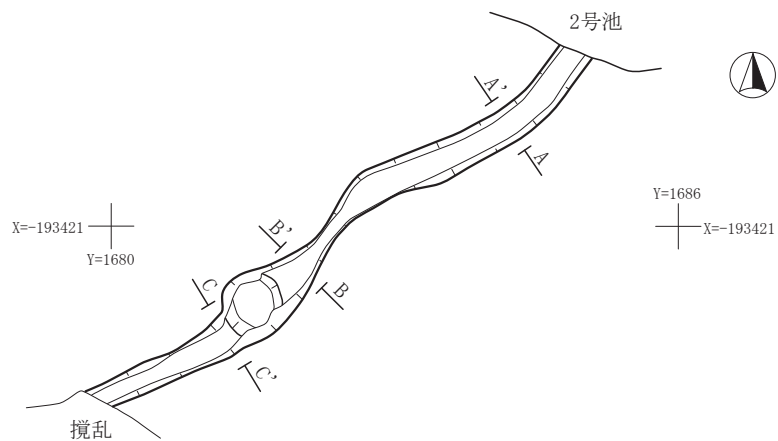
3) SD9 溝跡 (第 190 図、図版 57-4～6)

S2-W62・S3-W62・S3-W63 グリッドに位置する。緩やかに蛇行しながら東西方向に走る素掘りの溝である。西端は攪乱によって壊され、東端は 2 号池に切られる。東西両側ともその先に延びていた痕跡がないことから途切れるものと推定される。中央やや西側にはピット状の掘り込みが検出された。

確認された規模は長さ 6.3m、幅 16～72cm、深さ 18cm を測る。主軸方向は N-54°-E を示す。断面形は開いた U 字形を呈する。堆積土は黒褐色シルト層からなり、礫の混入度により 2 層に細分された。

遺物は出土していない。

第3節 Ⅲ区



SD9 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	№	色				
1	10YR3/2	黒褐色	シルト	なし	なし	礫少量
2	10YR3/2	黒褐色	シルト	あり	あり	径 5 cm の礫多量

第 190 図 SD9 溝跡 平面図・断面図

4) SD12 溝跡 (第191～192図、図版57-7～8・58-1)

S3-W63 グリッドに位置する。南北方向に走る石組溝である。SX14 を切り、2号柵状遺構によって壊される。中央から南側は攪乱によって寸断され、その先に延びていた痕跡がないことから途切れるものと推定される。北側は調査区外に延びる。

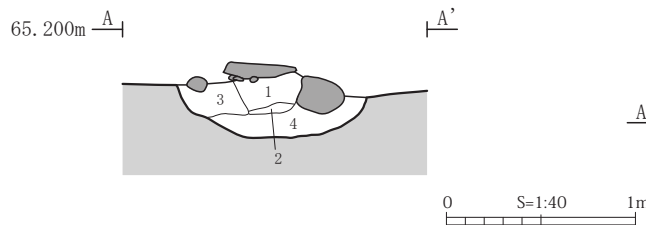
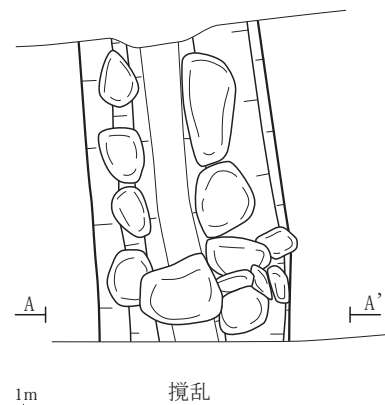
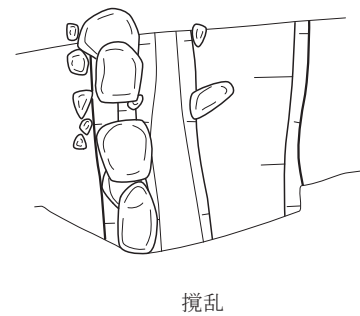
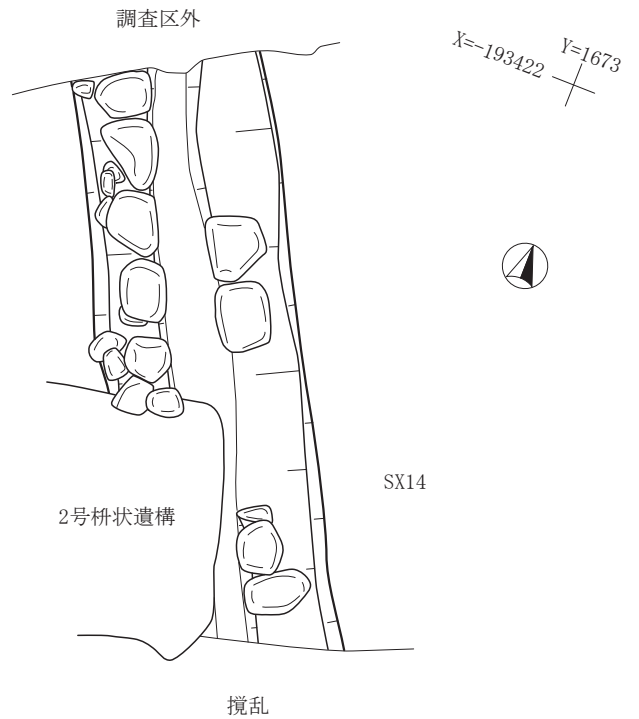
確認された規模は長さ7.2m、側石と側石の内幅24cm、掘り方の幅96～116cm、深さ68cmを測る。主軸方向はN-27°-Wを示す。

側石には28～60cmの端部を打ち欠いた川原石と無加工のものどが使用される。東側石はまばらで、西側石の中央で2段積んでいる他は1段のみ置く。南端部では32×43cmの全面加工された板状の石が側石の上に乗り、石蓋の可能性も考えられる。底面は素掘りのままで石敷きは施されていない。

断面形は開いたU字形を呈する。

堆積土は4層からなる。1～2層は石組構築後の溝内堆積土で、水成堆積である。暗褐色砂質シルトで、砂粒、礫を含む。3～4層は掘り方埋土で、にぶい黄褐色シルトおよび黒褐色粘土質シルトで、砂粒、礫を含む。

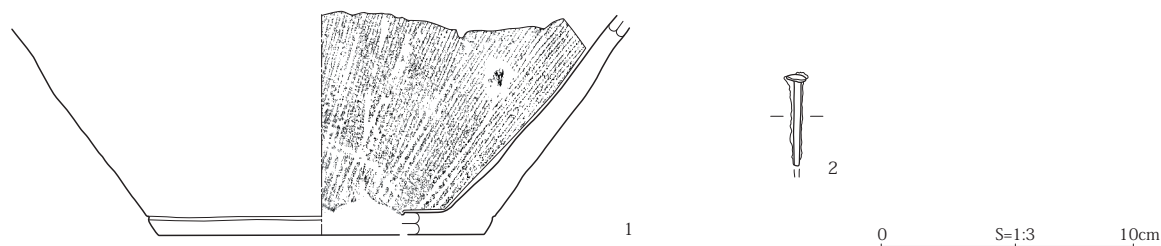
遺物は17世紀代の丹波産播鉢、金属製品等が出土している。



SD12 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No	色				
1	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	なし	なし	砂粒多量、径5cm以下の礫少量 水成堆積土
2	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	なし	なし	砂粒多量 水成堆積土
3	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	ややあり	あり	径5cm以下の礫少量 掘り方埋土
4	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	砂粒少量 掘り方埋土

第191図 SD12 溝跡 平面図・断面図



SD12 溝跡 出土遺物観察表 (陶器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	仮番号
								口径	底径	器高				
192-1	113-25	S3-W63 SD12 4層	陶器	播鉢	体部～底部	やや粗	鉄釉	—	(13)	(8.8)	丹波	17世紀		I-13

SD12 溝跡 出土遺物観察表 (金属製品)

図版番号	図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	部位	法量 (cm・g)				備考	登録番号
					長さ	幅	厚さ	重さ		
192-2	113-26	S3-W63 SD12 4層	釘	—	3.65	0.8	0.3	1.39	一部欠損	N-5

第 192 図 SD12 溝跡 出土遺物

5) SD15 溝跡 (第 193 図、図版 58-2 ~ 3・59-1 ~ 2)

S2-W61 グリッドに位置する。東西方向に直線的に走る石組溝である。西側は SD32 に切られ、西端を攪乱によって壊される。東端は SK7 に切られ、壁が立ち上がって途切れる。両方向ともその先に続く痕跡は検出されなかった。

確認された規模は長さ 8.9m、側石と側石の内幅 14 ~ 22cm、掘り方の幅 56 ~ 72cm、深さ 20cm を測る。主軸方向は N-65° - E を示す。断面形は開いた U 字形を呈する。

側石には 13 ~ 52cm の川原石が主に使われ、端部を打ち欠いたものや分割したものもある。ほとんどは割り面を向かい合わせて配置している。北側石では部分的に 2 段積むが、他は 1 段のみ置く。また、側石間の上面には 18 ~ 28cm の川原石が蓋のように並べられているが、これらは側石の内幅より小さなものが多く、蓋として使用されたものではない。

堆積土は埋め戻し土と底面に薄く堆積する水成堆積層、掘り方埋土の 3 層からなる。

遺物は出土していない。

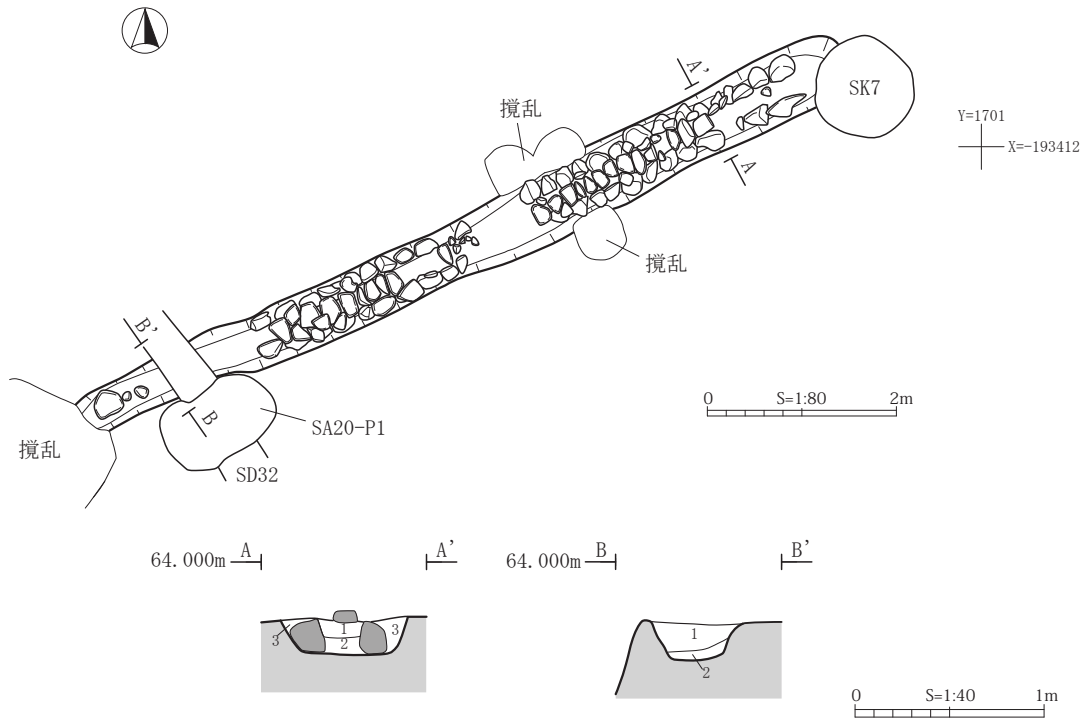
6) SD22 溝跡 (第 194 図、図版 37-1・59-3 ~ 4・60-1 ~ 2)

S1-W59・S1-W60 グリッドに位置する。南北方向に直線的に走る石組溝である。攪乱によって底面から西壁は壊され、西側石は検出されない。南側は 4 号木樋と SD10 によって切られ、さらに南側にある SE1 の先に延びていた痕跡がないことから途切れるものと思われる。北端は壁が立ち上がって途切れる。

確認された規模は長さ 5.2m、側石と側石の内幅 46cm 以上、掘り方の幅 78cm 以上、石敷き上面までの深さ 26cm、掘り方の深さ 32cm を測る。主軸方向は N-23° - W を示す。断面形は U 字形を呈するものと思われる。

側石は 27 ~ 60cm の端部を打ち欠いた川原石と、30 ~ 36cm の全面を打ち欠いた割り石を使用して、平坦面を内側に向ける。南端で二段積むが、他は 1 段のみ置く。底面には 16 ~ 32cm の川原石と 26 ~ 39cm の割り石を用いて、平坦面を上に向けた石敷きを施している。裏込めには 3 ~ 5cm の礫が少量含まれる。

堆積土は 4 層からなり、1 ~ 3 層は溝内堆積土で、3 層には水流の痕跡が認められる。4 層は掘り方埋土である。遺物は出土していない。



SD15 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No.	色				
1	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	砂、酸化鉄多量
2	10YR3/2	黒褐色	シルト質砂	なし	なし	水成堆積土
3	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	なし	あり	径1cm以下の礫多量、炭化物少量

第193図 SD15 溝跡 平面図・断面図

7) SD23 溝跡 (第195～196図、図版37-1・59-4・60-3～6)

N1-W58～S2-W59 グリッドに位置する。西端でT字状に分岐する溝である。分岐部分には側石が組まれている。東西方向に走る溝の中央から東端にかけて、堆積土と整地層とを誤認して掘り下げてしまったため、平面図では確実に当該遺構と考えられる部分と、調査区東壁で確認された断面の上端を結んだラインを破線で示した。

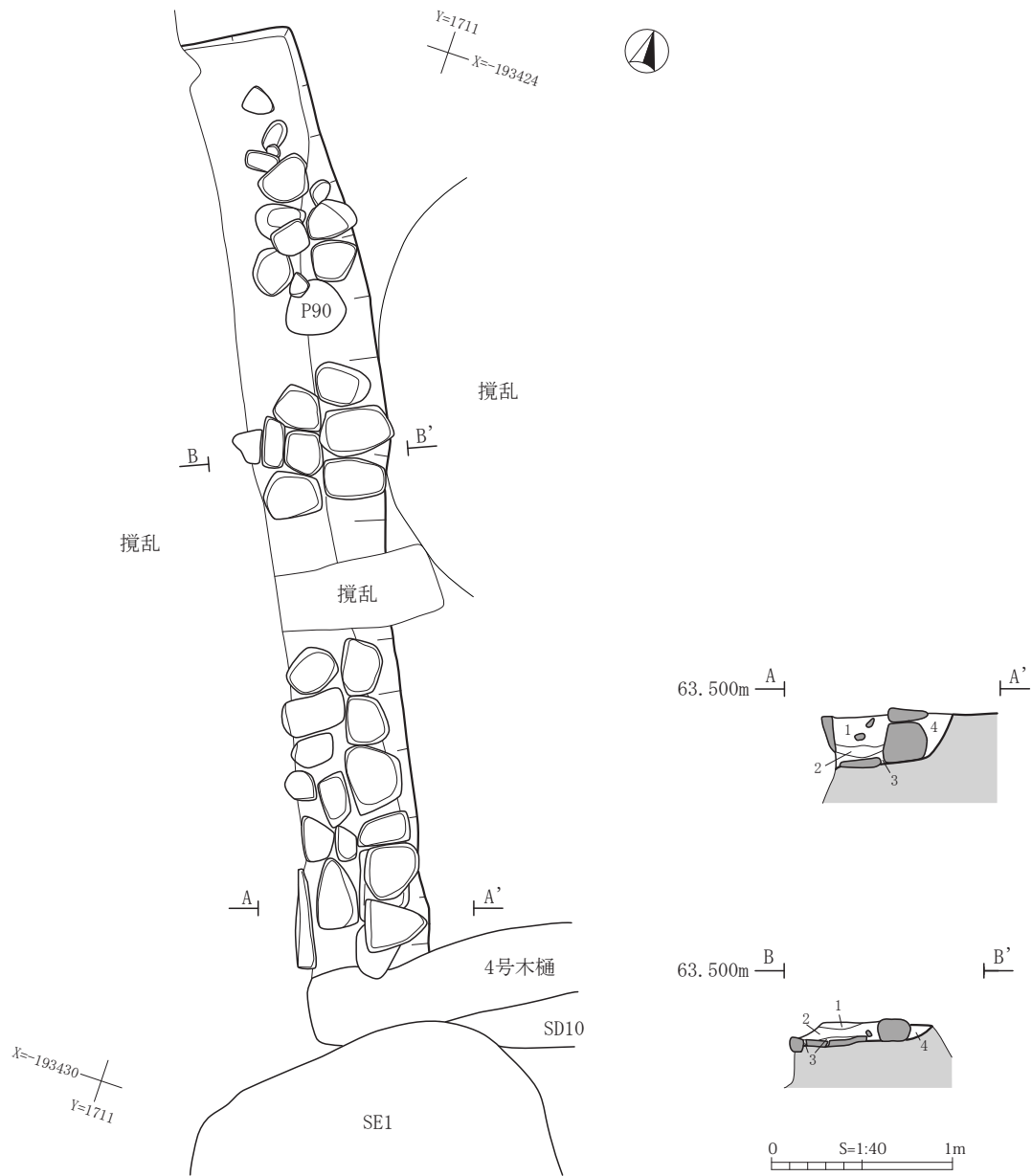
東側と南側を4号木樋に、南側をSD10と攪乱によって切られ、東端は調査区外へ延びる。南端は攪乱よりその先に延びていた痕跡がないことから途切れるものと思われる。北側は調査区北壁の手前で検出ができなくなり、調査区壁面においても確認できなかった。

主軸方向は東西溝がN-67°-Eを、南北溝がN-26°-Wを示す。

確認された規模は、東西方向の長さ9.6m、側石と側石の内幅18cm、掘り方の幅96～108cm、深さ37cmを、南北方向の長さ約5m、掘り方の幅32～48cm、深さ31cmを測る。断面形は開いたU字形を呈する。

側石は両方向とも長さ約80cmが遺存し、南北方向の西側石は検出されなかった。20～36cmの川原石を部分的に2段積むが、他は1段のみ置く。側石が抜き取られた痕跡は確認されず、分岐部分にのみ側石が組まれたと考えられる。堆積土は4層からなる。

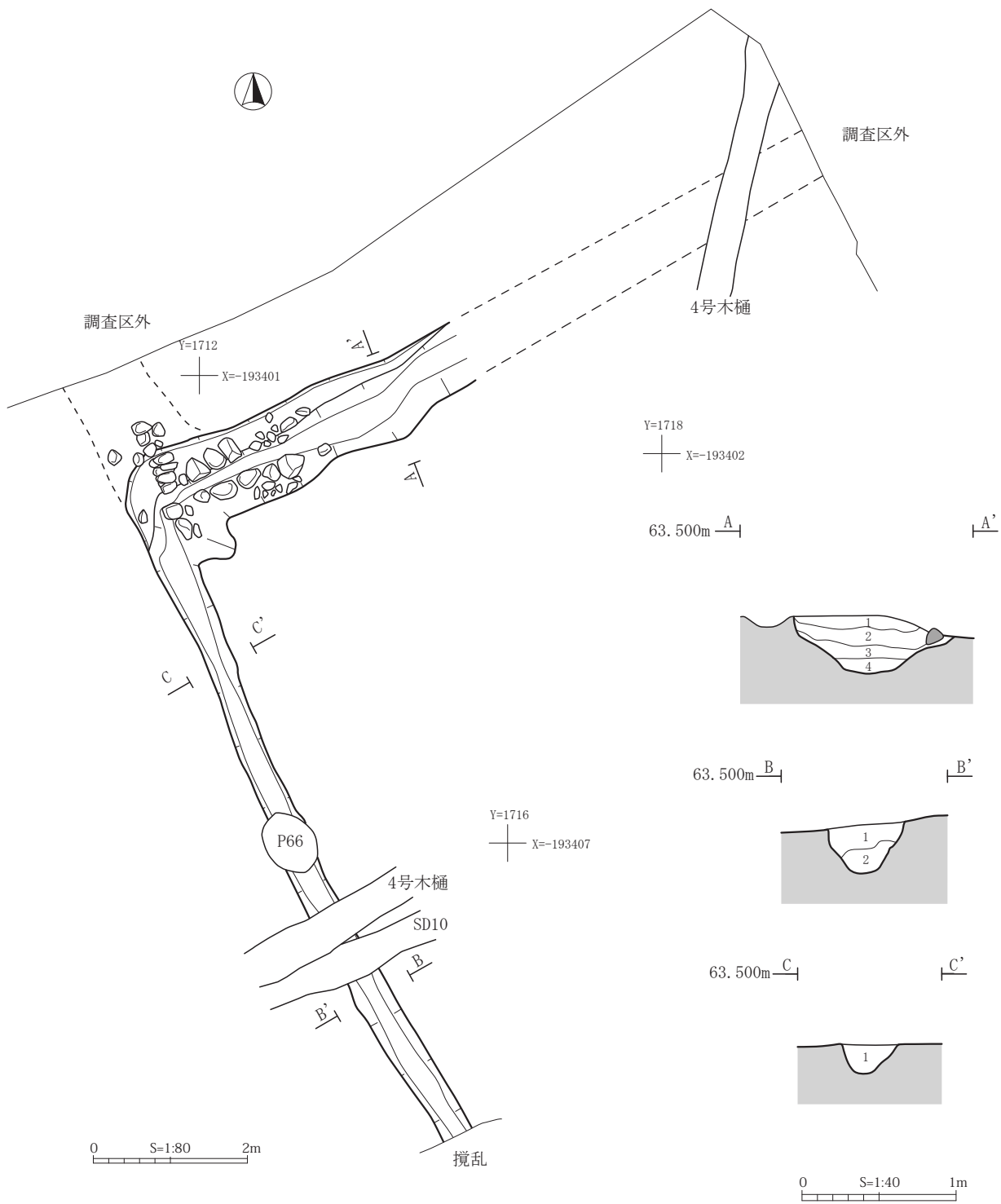
遺物は17世紀前半の陶器が出土している。



SD22 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄、砂粒多量、径5cmの礫少量、炭化物微量
2	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	径1cm以下の暗褐色シルトブロック少量
3	10YR3/3	暗褐色	シルト質砂	なし	ややあり	水成堆積土
4	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	なし	あり	径1cm以下の礫多量、炭化物少量

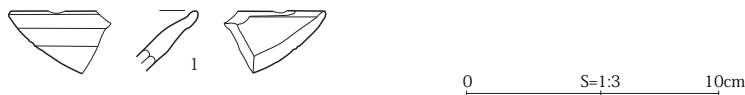
第194図 SD22 溝跡 平面図・断面図



SD23 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	Na	色				
1	10YR3/3	暗褐色	砂質シルト	なし	なし	砂粒多量、径 5cm 以下の礫少量
2	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	なし	なし	砂粒多量
3	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	ややあり	あり	径 5cm 以下の礫少量
4	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	砂粒少量

第 195 図 SD23 溝跡 平面図・断面図



SD23 溝跡 出土遺物観察表 (陶器)

図版番号	写真図版 番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
196-1	113-27	N1・S1-W58・59 SD23 3層	陶器	皿	口縁～体部	やや粗	青織部	—	—	(2.5)	織部	17世紀前半		I-21

第196図 SD23 溝跡 出土遺物

8) SD31 溝跡 (第197図、図版60-7・61-1)

S1-W60・S1-W61・S2-W61 グリッドに位置する。東西方向に走る素掘りの溝である。東端は攪乱によって壊され、その先に延びていた痕跡がないことから途切れるものと推定される。西端は P173、SD32 に切られる。

確認された規模は長さ 15.4m、幅 48～78cm、深さ 23cm を測る。主軸方向は N-59° -E を示す。断面形は開いた U 字形を呈する。堆積土は 3 層からなる。

完掘状況から、東、中央、南の 3 本の溝に分かれる可能性がある。東側の溝は長さ約 410cm、中央の溝は長さ 514cm、西側の溝は長さ約 650cm を測る。柱を置いた痕跡は検出されなかったが、布掘り溝の掘り方になる可能性もある。

遺物は出土していない。

9) SD32 溝跡 (第198～199図、図版61-2～5)

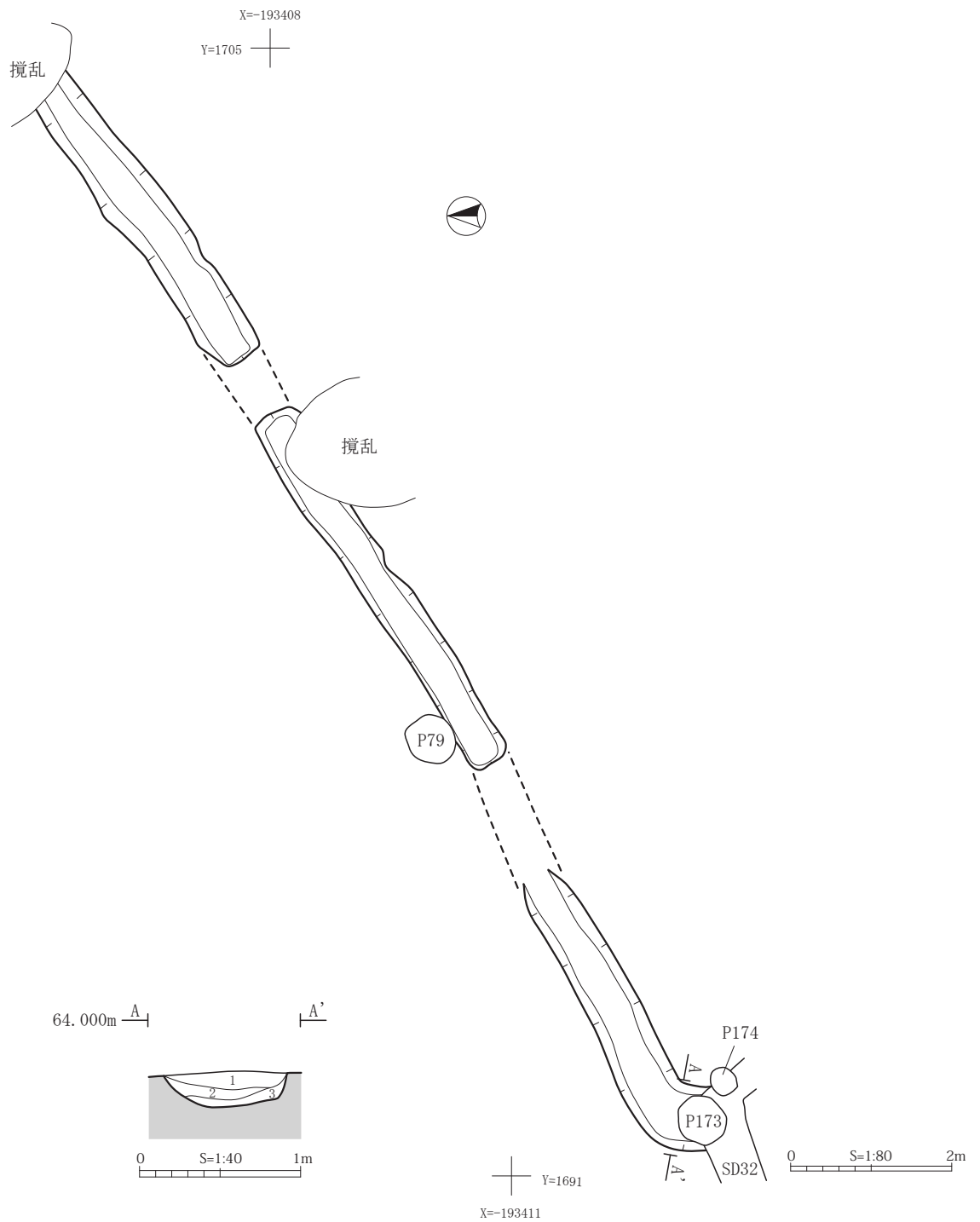
S2-W61～S3-W64 グリッドに位置する。東端で南方向に屈折する L 字形の布掘り溝である。東西方向に走る溝の底面からは 10 箇所礎板石が検出された。東側は 2 号池、SX8 によって上部を壊され、西側を SD12、SD24、SD40、SX14、攪乱により寸断される。西端は 4 号池によって切られ、その先に続くかは不明である。南北方向の溝は SD15・SA20-P1・SA20-P2 によって寸断され、南端を SD3 によって切られる。その先に続く痕跡は検出されなかった。

確認された規模は東西方向の長さ 15m、幅 41～70cm、深さ 20～25cm、南北方向の長さ 4.5m、幅 30～57cm、深さ 20cm を測る。断面形は開いた U 字形～逆台形を呈する。

東西方向に並ぶ礎板石を直線で結んだ主軸方向は N-65° -E を示し、南北方向では N-32° - W を示す。

礎板石には 30cm を主に、14～32cm の扁平な川原石が使用され、平坦面を上にして置く。礎板石の間隔は東から 1.26m (4 尺 2 寸)・1.32m (4 尺 4 寸)・1.26m (4 尺 2 寸)・1.3m (4 尺 3 寸)・1.26m (4 尺 2 寸)・1.26m (4 尺 2 寸)・1.32m (4 尺 4 寸)・1.24m (4 尺 1 寸)・1.38m (4 尺 6 寸) を測る。堆積土は 2 層からなる。

遺物は堆積土中から 17 世紀～18 世紀代の陶器・磁器が出土している。1 は 18 世紀後半～19 世紀前半の肥前産筒茶碗、2 は 18 世紀代と見られる唐津刷毛目皿もしくは小鉢、3 は 17 世紀代の岸窯系陶器である。

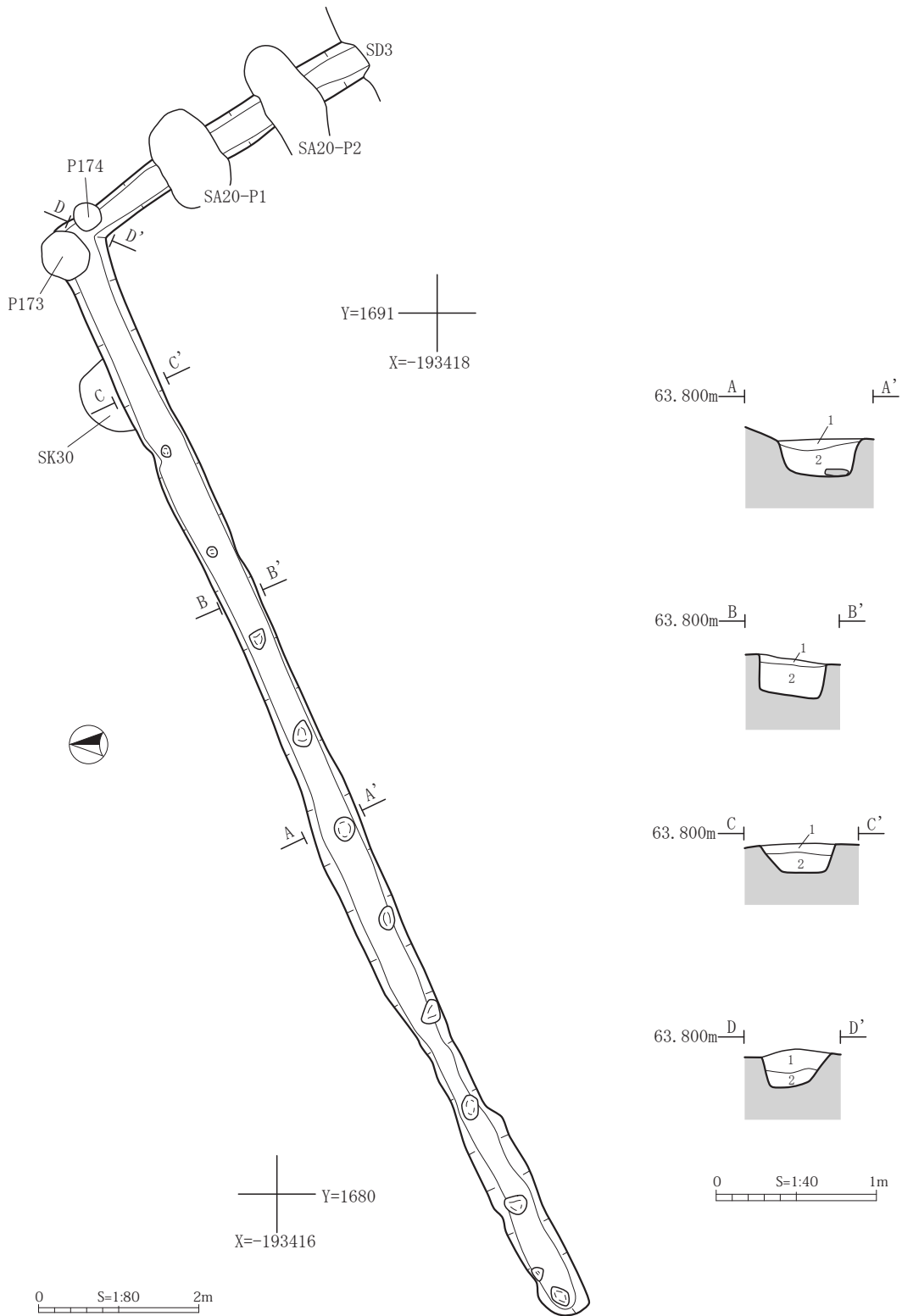


SD31 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	Na	色				
1	2.5YY5/3	オリーブ褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	径 3 cm以下の黒色シルトブロック・砂粒多量
2	2.5Y4/1	黄灰色	シルト質粘土	あり	ややあり	砂粒多量
3	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粘土質シルト	なし	あり	径 3 cm以下の礫微量

第 197 図 SD31 溝跡 平面図・断面図

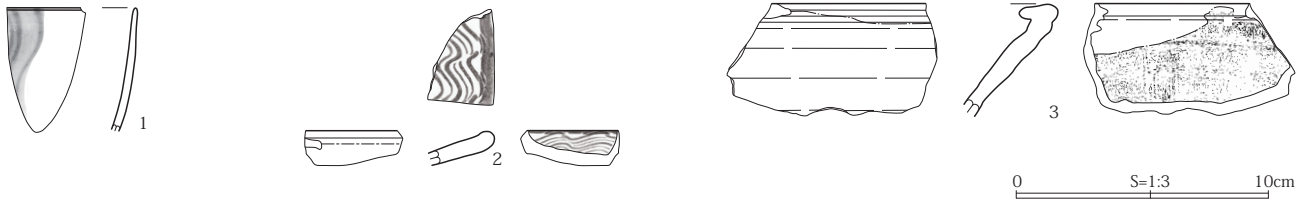
第3節 III区



SD32 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	Na	色				
1	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	径 3 cm以下の黒色シルトブロック・砂粒多量
2	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	なし	あり	径 3 cm以下の礫微量

第 198 図 SD32 溝跡 平面図・断面図



SD32 溝跡 出土遺物観察表 (陶磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
199-1	113-28	S2-W61・62 SD32 2層	磁器	筒茶碗	口縁～体部	緻密	染付	(4.55)	—	(5.0)	肥前	18世紀後半～ 19世紀前半		J-13
199-2	113-29	S2-W61・62 SD32 2層	陶器	皿か小鉢	口縁	やや密	刷毛目文	—	—	(1.4)	唐津	18世紀		I-26
199-3	113-30	S2・3-W61～63 SD32 埋土一括	陶器	鉢	口縁～体部	密	灰釉	—	—	(4.5)	岸窯系	17世紀	口線部のみ 施釉	I-25

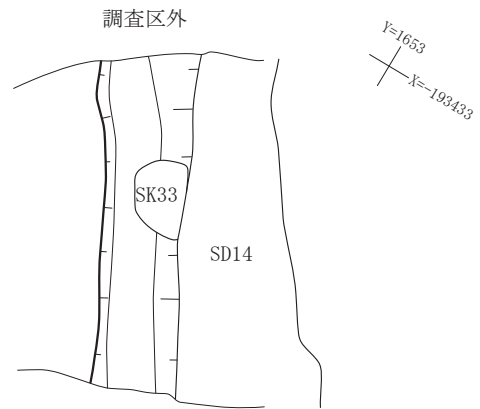
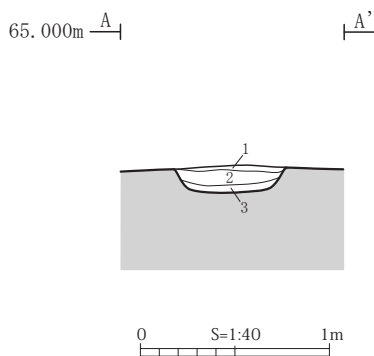
第199図 SD32 溝跡 出土遺物

10) SD38 溝跡 (第200図、図版61-6～7)

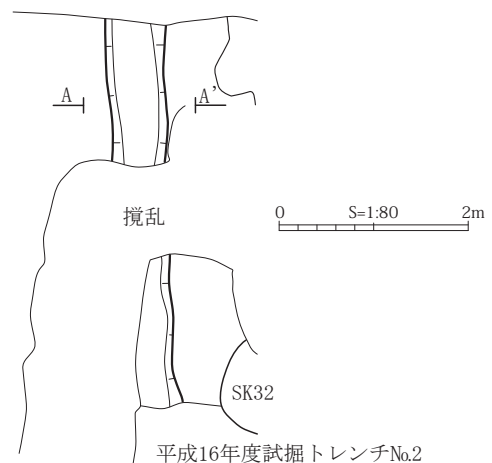
S4-W65・S5-W65 グリッドに位置する。南北方向に走る素掘りの溝である。中央と南側は攪乱によって分断され、南端は平成16年試掘トレンチNo.2に接する。トレンチでは当該遺構は検出されていない。東側はSK33とSD14によって切られ、北端は調査区外へ延びる。

確認された規模は長さ9.3m、幅60～100cm、深さ36cmを測る。主軸方向はN-33°-Wを示す。断面形は皿状を呈する。堆積土は3層の砂質シルトからなる。

遺物は出土していない。



攪乱



攪乱

SD38 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No.	色				
1	10YR4/4	褐色	砂質シルト	なし	あり	径1cm以下の明黄褐色シルト粒微量 酸化鉄多量
2	2.5Y4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	あり	径1cm以下の淡黄色砂質シルト少量、酸化鉄微量
3	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄多量

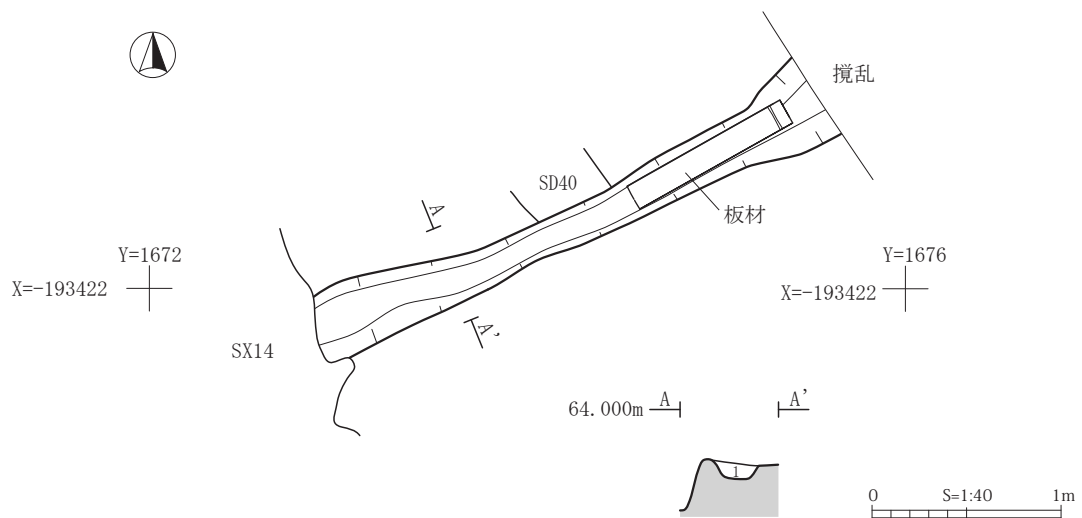
第200図 SD38 溝跡 平面図・断面図

11) SD47 溝跡 (第 201 図、図版 62-1 ~ 3)

S3-W63 グリッドに位置する。東西方向に走る素掘りの溝である。中央で SD40 を切り、東側を攪乱によって壊される。東側はその先に延びていた痕跡がないことから途切れるものと思われる。西端はV層の SX14 を誤認して先に掘り下げてしまったため不明である。

確認された規模は長さ 2.9m、幅 17 ~ 48cm、深さ 11cm を測る。主軸方向は N-65° -E を示す。断面形は開いた U 字形を呈する。堆積土は砂質シルトの単層である。

遺物は長さ 93cm、幅 14cm、厚さ 1.5cm の板材が出土しているが用途・性格等は不明である。



SD47 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	5Y3/2	オリーブ黒色	砂質シルト	ややあり	あり	黄褐色粗砂多量、暗灰黄色砂質シルト少量、酸化鉄多量

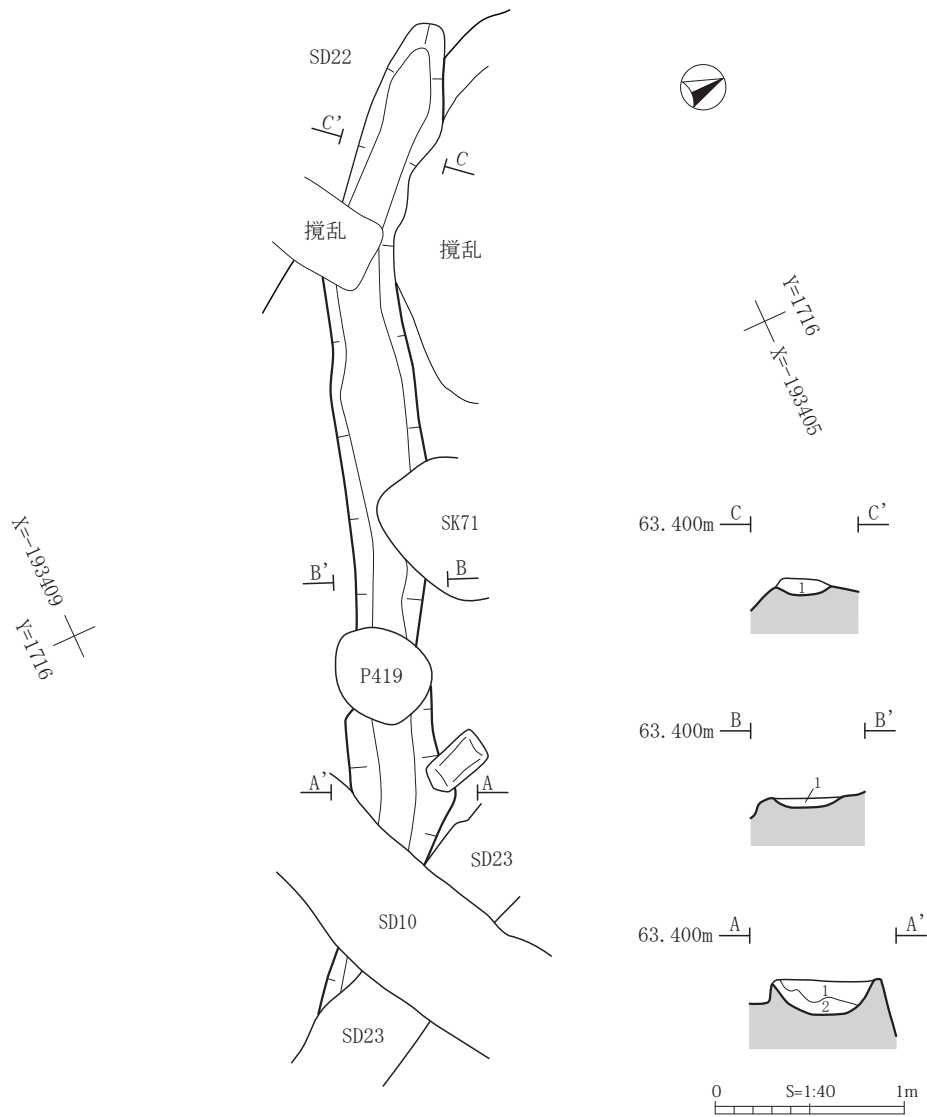
第 201 図 SD47 溝跡 平面図・断面図

12) SD61 溝跡 (第 202 図、図版 62-4 ~ 6)

S1-W59 グリッドに位置する。東西方向に走る素掘りの溝である。西側を攪乱によって壊され、西端を SD22 に切られる。中央から東側にかけて SK71・P419・SD10 に切られ、東端は SD23 によって壊される。両側とも途切れるが、その先まで続いていたかは不明である。

確認された規模は長さ 5.2m、幅 34 ~ 45cm、深さ 20cm を測る。主軸方向は N-63° -W を示す。断面形は中央から北側にかけては皿状を、南側では開いた U 字形を呈する。堆積土は 2 層からなる。

遺物は出土していない。



SD61 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	あり	酸化鉄微量、径5mm以下の砂礫多量
2	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	あり	酸化鉄多量

第 202 図 SD61 溝跡 平面図・断面図

(3) 井戸跡

1) SE1 井戸跡 (第 203 ~ 204 図、図版 62-7 ~ 8・63-1 ~ 3)

S1-W59・S2-W59 グリッドに位置する。上層から近代以降の瓦片が多量に出土した。攪乱として掘り下げたところ、円形の石組みと縦板で構成された木枠とが検出されたことから井戸として登録した。

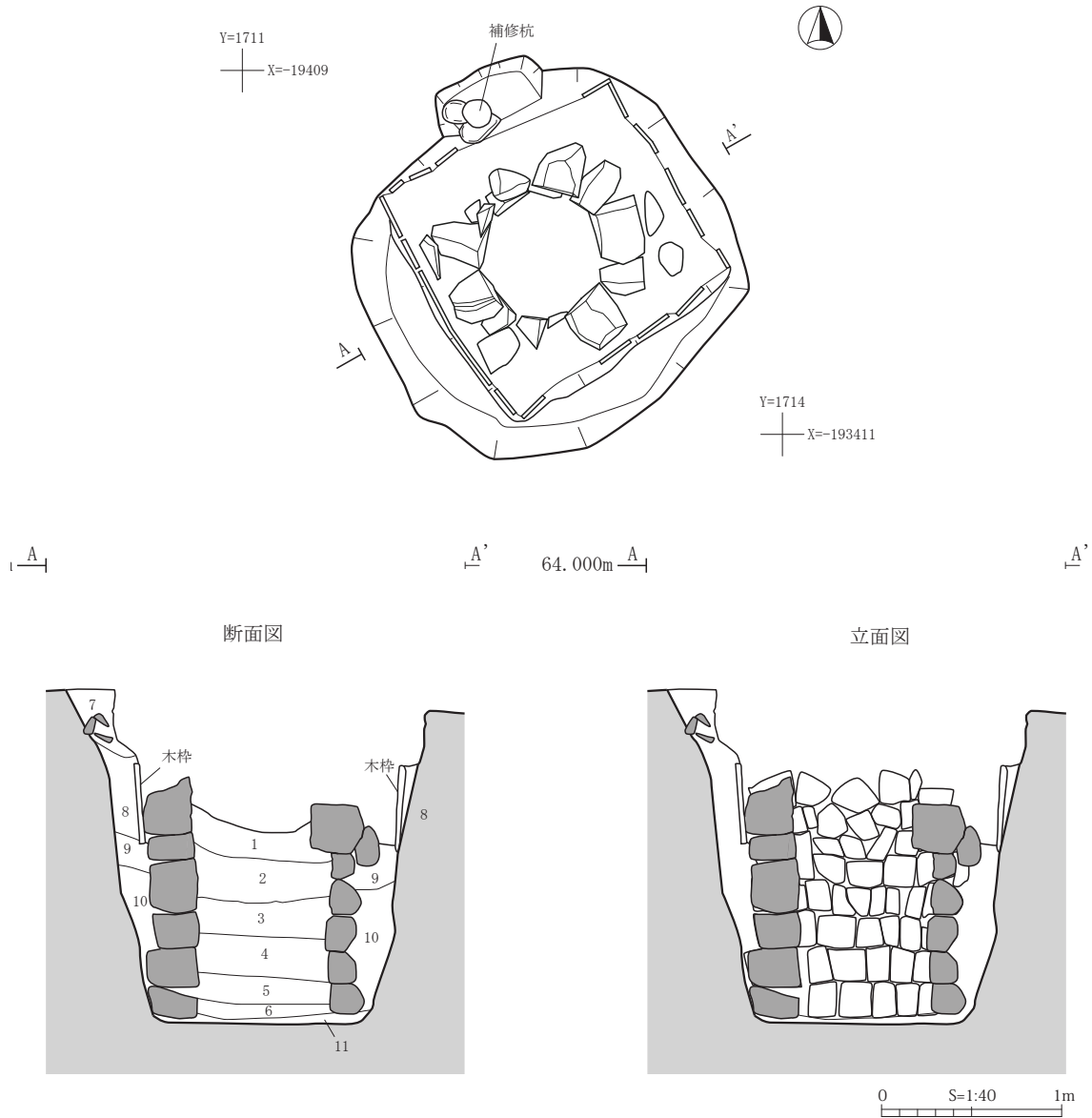
確認された規模は石組の内径 65cm、掘り方の長軸 2m、短軸 1.73m、深さ 1.84m を測る。石組は最も多いところで 8 段確認された。5 段目を境にして石質、加工法、積み方、裏込めの混入物に違いが見られ、作り替えたことが窺える。1 ~ 5 段までは 14 ~ 25cm の方形に加工した砂質凝灰岩の切石を積み上げる。裏込めには 5 ~ 10cm の円礫や割石が多量に、また瓦片がやや多量に使用される。6 ~ 8 段は 18 ~ 32cm の端部を打ち欠いた川原石や間知石を乱積みする。裏込めには 5 ~ 20cm の割り石と瓦片が多量に使用される。木枠は長さ 35 ~ 44cm、幅 28 ~ 30cm の板材を、一辺に 4 ~ 6 枚縦置きにしてそろえ、1.3×1.46m の井桁を構成していたものと思わ

第3節 III区

れる。

石組内の堆積土は6層で、褐灰色～黒褐色の砂質シルトおよび砂からなる。掘り方は黄褐色～暗褐色のシルト質粘土および粘土からなり、最下層は水の浸食により白色粘土化している。

遺物は瓦質土器、磁器、瓦などが出土している。大半は上部攪乱層および溝内から出土しており、近代以降のものである。



SE1 井戸跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	Na	色				
1	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	なし	ややあり	径 1 mm 以下の炭化物微量、瓦多量に含む
2	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	なし	あり	
3	10YR3/1	黒褐色	砂	なし	あり	
4	10YR4/1	褐灰色	砂	なし	あり	
5	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	なし	あり	
6	2.5Y5/3	黄褐色	シルト	なし	ややあり	径 2 mm 以下のシルトストーン、黒褐色土粒少量
7	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト	なし	あり	5 ~ 20 cm の礫、瓦片多量
8	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	なし	5 ~ 20 cm の礫、瓦片多量、径 2 mm 以下のシルトストーン少量
9	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	あり	なし	5 ~ 10 cm の礫多量、瓦片やや多量
10	10YR3/4	暗褐色	粘土			5 ~ 10 cm の礫多量、瓦片やや多量
11	2.5Y7/1	灰白色	粘土	なし	ややあり	径 5 cm 以下の礫、瓦片多量、径 10 cm 以下の板状礫多量

第 203 図 SE1 井戸跡 平面図・断面図



SE1 井戸跡 出土遺物観察表 (陶磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
204-1	114-6	S1・2-W59 SE1 石組	瓦質土器	鉢	口縁	やや粗	—	—	(4.6)	在地	近世		I-228	
204-2	114-1	S1・2-W59 SE1 埋土一括	磁器	碗	口縁～底部	緻密	染付草文	(11.5)	(4.2)	4.5	不明	近代以降		J-56
204-3	114-2	S1・2-W59 SE1 埋土一括	磁器	皿	口縁～体部	緻密	染付草文・みじん唐草文	—	—	(2.5)	瀬戸・美濃	19世紀		J-57
204-4	114-4	S1・2-W59 SE1 埋土一括	磁器	皿	口縁～体部	緻密	染付草文・みじん唐草文	—	—	(2.6)	瀬戸・美濃	19世紀		J-58

SE1 井戸跡 出土遺物観察表 (瓦)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
204-5	114-9	S1・2-W59 SE1 掘り方	熨斗瓦	(10.0)	(6.4)	2.2	「△」刻印	H-16
204-6	114-5	S1・2-W59 SE1 掘り方	軒平瓦	(3.6)	(5.2)	2.2	雪持三枚笹+唐草文	G-1
204-7	114-13	S1・2-W59 SE1 掘り方	軒平瓦	(12.0)	(14.8)	2.0	三枚笹+唐草文	G-2
204-8	114-10	S1・2-W59 SE1 掘り方	軒平瓦	(6.4)	(10.4)	2.4	唐草文	G-3
204-9	114-7	S1・2-W59 SE1 掘り方	軒平瓦?	(6.4)	(9.6)	1.8		G-4
204-10	114-8	S1・2-W59 SE1 掘り方	軒平瓦	(4.8)	(11.0)	2.6	「合」刻印	G-5
204-11	114-11	S1・2-W59 SE1 掘り方	軒平瓦	(10.8)	(8.8)	2.0	唐草文	G-6
204-12	114-12	S1・2-W59 SE1 掘り方	軒平瓦	(5.2)	(9.6)	2.0	唐草文	G-7
204-13	114-3	S1・2-W59 SE1 掘り方	棧瓦	(4.6)	(5.4)	0.6	朱書	H-23

第204図 SE1 井戸跡 出土遺物

第3節 III区

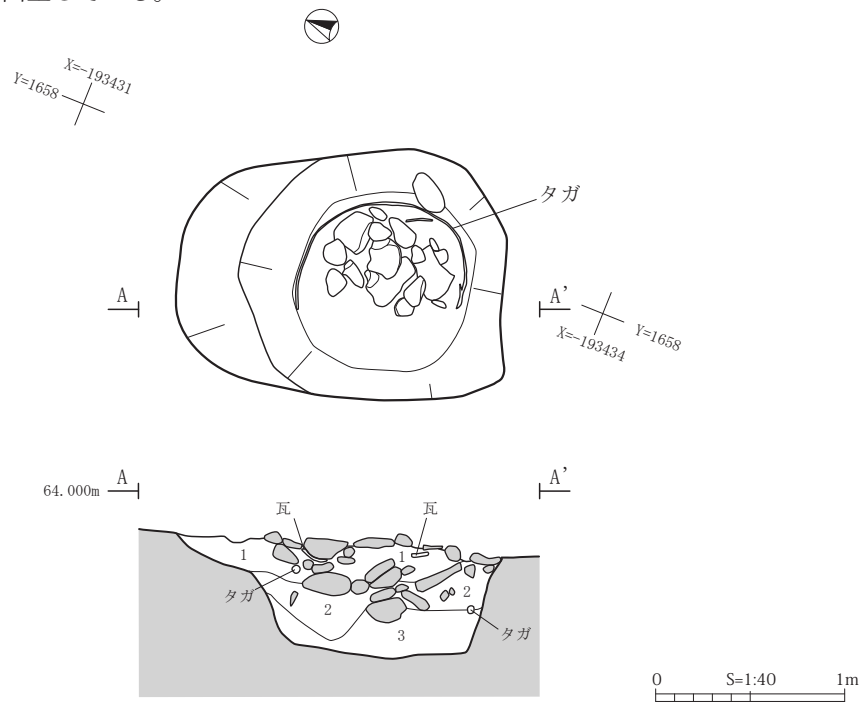
2) SE5 井戸跡 (第 205 ~ 206 図、図版 63-4 ~ 6)

S4-W65 グリッドに位置する素堀の井戸である。5号池の底面で8~25cmの川原石が集中する箇所を検出し、平面精査、断面観察により井戸として登録した。

確認された規模は長軸1.64m、短軸1.26m、深さ65cmを測る。平面形は楕円形で、断面形は逆台形を呈し、北側の上部は緩く広がっている。上層から、内径約80cmを測るタガが出土した。側板等は遺存していないが、曲物が設置されていた可能性もある。

堆積土は3層からなり、瓦、礫を多量に含む。

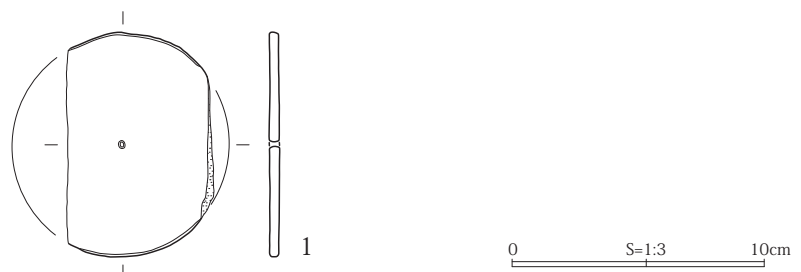
遺物は瓦、木製品等が出土している。



SE5 井戸跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	7.5Y4/1	灰色	粘土質シルト	あり	なし	径25cm以下の礫(池覆石)多量、径5cm以下の小礫が流入する、粘性の非常に強い土部分的にシルト質、木片、瓦を含む
2	7.5Y5/3	灰褐色	シルト質粘土	なし	なし	径10cm以下の礫を微量、植物遺物を含む
3	7.5Y3/2	オリーブ黒色	粘土質シルト	あり	なし	

第 205 図 SE5 井戸跡 平面図・断面図



SE5 井戸跡 出土遺物観察表 (木製品)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備 考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
206-1	114-14	S4-W65 SE5 5層	曲物	9.9	(6.4)	0.5	穿孔あり	L-7

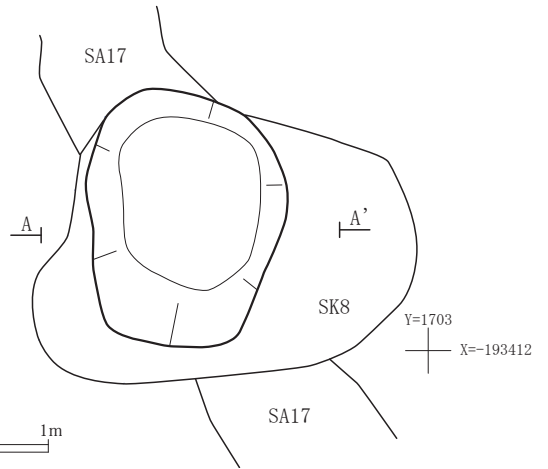
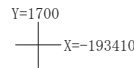
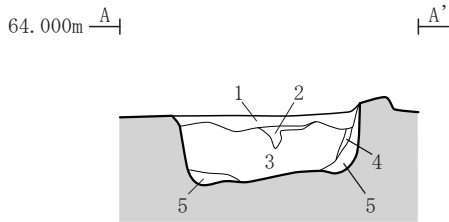
第 206 図 SE5 井戸跡 出土遺物

(4) 土坑

1) SK1 土坑 (第 207 図、図版 63-7 ~ 8)

S2-W60 グリッドに位置する。SK8 と SA17 を切る。
 確認された規模は長軸 1.1 m、短軸 98cm、深さ 26cm
 を測る。平面形は不整楕円形を、断面形は幅の広い U
 字形を呈する。堆積土は 5 層の砂質シルトおよび砂か
 らなる。

遺物は出土していない。



SK1 土坑 土層注記表

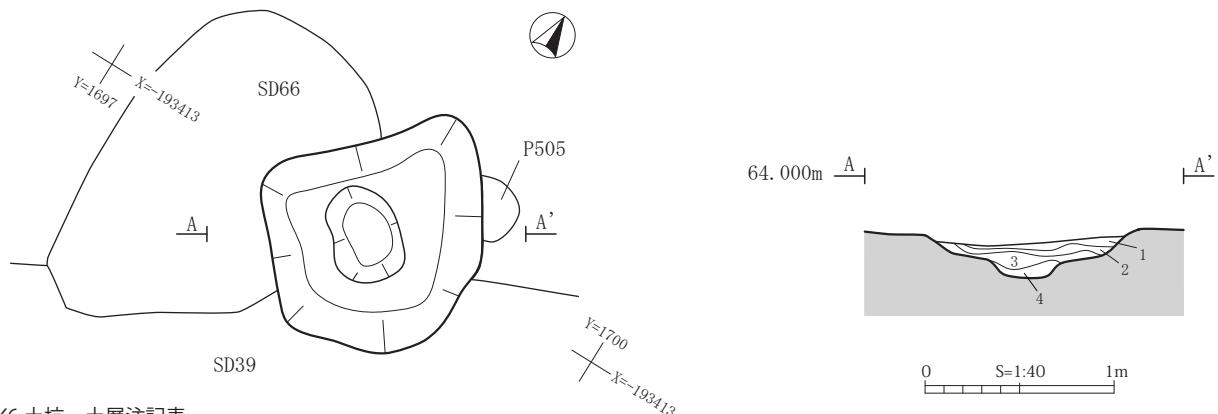
層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	7.5YR6/2	灰褐色	砂質シルト	なし	なし	径 5 cm以下の礫微量、酸化鉄微量
2	7.5YR5/2	灰褐色	砂質シルト	なし	なし	酸化鉄多量
3	10YR5/1	褐灰色	砂質シルト	ややあり	なし	径 10 cm以下の礫少量、酸化鉄微量
4	10YR5/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	なし	径 3 cm以下の礫微量
5	10YR6/2	褐灰色	砂	なし	なし	酸化鉄微量

第 207 図 SK1 土坑 平面図・断面図

2) SK6 土坑 (第 208 図、図版 64-1 ~ 2)

S2-W61 グリッドに位置する。SD39・SD66・P505 を切る。確認された規模は長軸 1.2 m、短軸 1.1m、深さ
 24cm を測る。平面形は不整隅丸方形を呈し、底面の中央には不整楕円形の浅い掘り込みを有する。断面は上端か
 ら下端にかけて緩やかに傾斜し、底面の中央が浅くくぼむ。堆積土は 4 層からなる。

遺物は出土していない。



SK6 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	10YR5/4	にぶい黄褐色	シルト	なし	あり	砂粒多量
2	10YR2/1	黒色	粘土	あり	ややあり	
3	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	径 2 cm以下の黒色粘土粒多量
4	10YR3/1	黒色	粘土質シルト	ややあり	あり	径 2 cm以下の暗褐色シルト粒含む

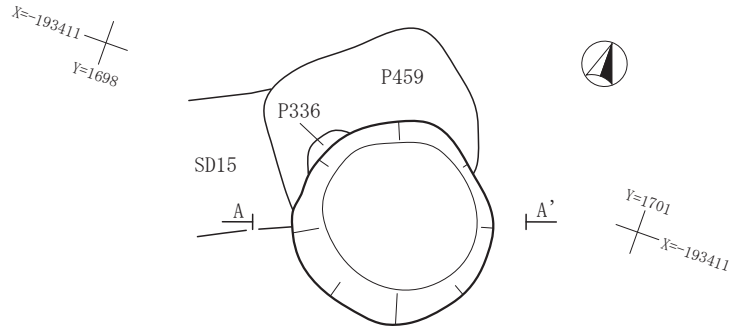
第 208 図 SK6 土坑 平面図・断面図

第3節 III区

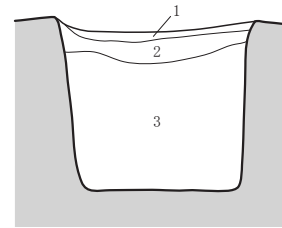
3) SK7 土坑 (第 209 図、図版 64-3 ~ 4)

S2-W60・S2-W61 グリッドに位置する。SD15・P336・P459 を切る。確認された規模は径 1 m、深さ 92cm を測る。平面形は円形を、断面形は逆台形状を呈する。堆積土は 3 層からなる。

遺物は出土していない。



64.000m A A'



SK7 土坑 土層注記表

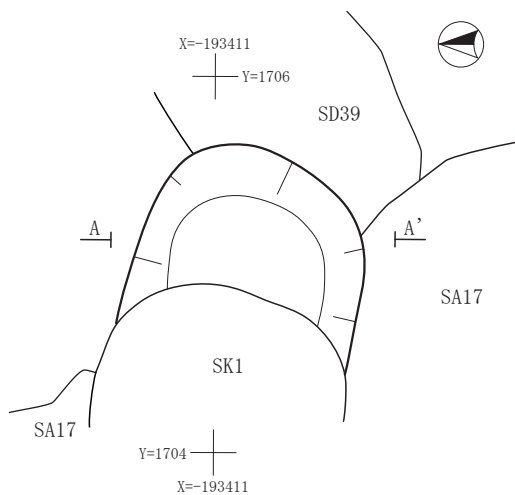
層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No	色				
1	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	あり	あり	砂粒、黒色粘土粒、酸化鉄多量
2	10YR2/3	黒褐色	粘土シルト	あり	あり	暗褐色土粒、酸化鉄多量
3	10YR4/1	褐灰色	粘土シルト	あり	ややあり	細礫、酸化鉄含む

第 209 図 SK7 土坑 平面図・断面図

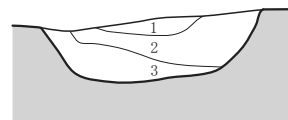
0 S=1:40 1m

4) SK8 土坑 (第 210 図、図版 64-5 ~ 6)

S2-W60 グリッドに位置する。SA17・SD39 を切り、SK1 によって壊される。確認された規模は南北 1.2 m、東西 74cm、深さ 32cm を測る。平面形は楕円形が推定され、断面形は開いた U 字形を呈する。堆積土は 3 層からなる。遺物は出土していない。



64.000m A A'



0 S=1:40 1m

SK8 土坑 土層注記表

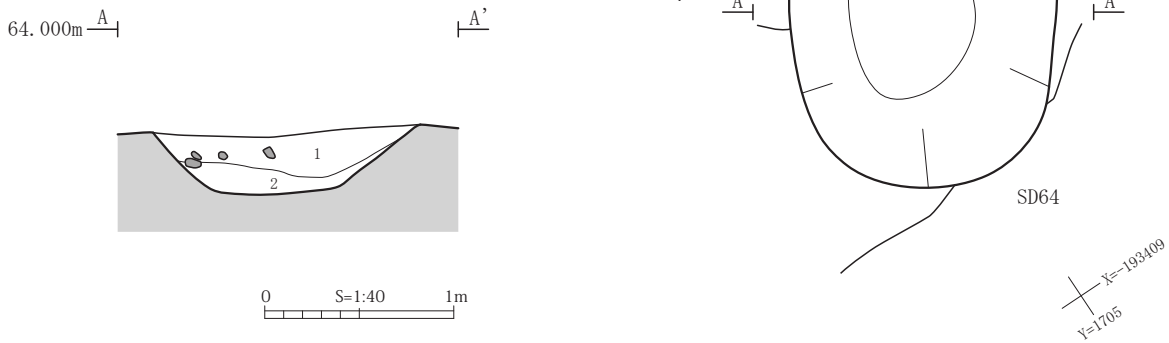
層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No	色				
1	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	なし	あり	礫、砂粒多量
2	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	あり	砂、細~中礫、酸化鉄多量
3	10YR4/1	褐灰色	シルト	あり	あり	砂粒多量、上部に酸化鉄多量

第 210 図 SK8 土坑 平面図・断面図

5) SK9 土坑 (第 211 図、図版 64-7 ~ 8)

S1-W60 グリッドに位置する。SD64・P481・P483・SA26-P4 を切る。確認された規模は長軸 1.9 m、短軸 1.4m、深さ 36cm を測る。平面形は楕円形を、断面形は開いたU字形を呈する。堆積土は2層からなる。

遺物は出土していない。



SK9 土坑 土層注記表

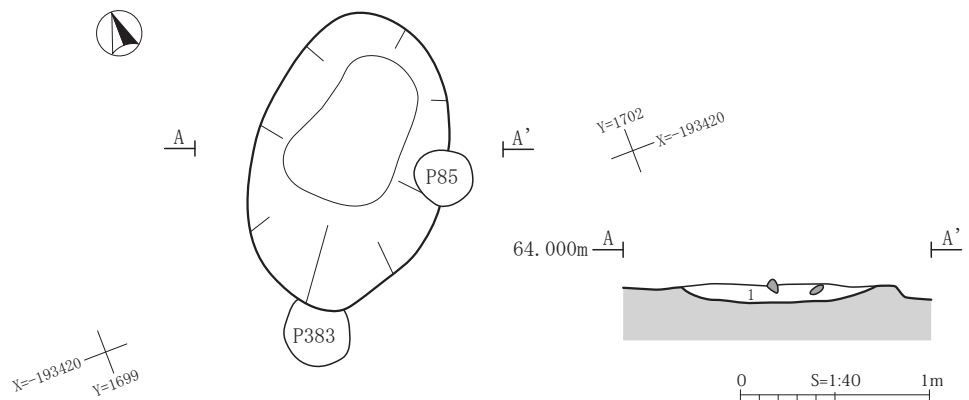
層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	なし	あり	中～大礫多量、砂粒、酸化鉄
2	10YR2/2	黒褐色	砂質シルト	なし	なし	砂、酸化鉄多量

第 211 図 SK9 土坑 平面図・断面図

6) SK10 土坑 (第 212 図、図版 65-1 ~ 2)

S2-W60・S3-W60 グリッドに位置する。P383 を切り、P85 によって壊される。確認された規模は長軸 1.56 m、短軸 1.04m、深さ 8 cm を測る。平面形は楕円形を、断面形は皿状を呈する。堆積土は砂質シルトの単層からなる。

遺物は出土していない。



SK10 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	なし	あり	径 5 cm 以下の礫多量、砂・炭化物少量

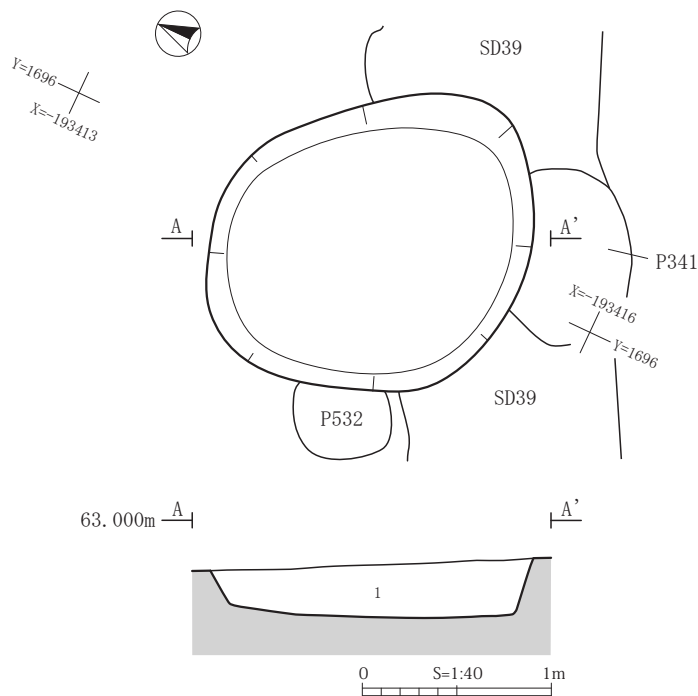
第 212 図 SK10 土坑 平面図・断面図

第3節 III区

7) SK16 土坑 (第 213 図、図版 65-3 ~ 4)

S2-W61 グリッドに位置する。SD39・P341・P532 を切る。確認された規模は長軸 1.9 m、短軸 1.56m、深さ 30cm を測る。平面形は楕円形を、断面形は皿状を呈する。堆積土は砂質シルトの単層である。

遺物は出土していない。



SK16 土坑 土層注記表

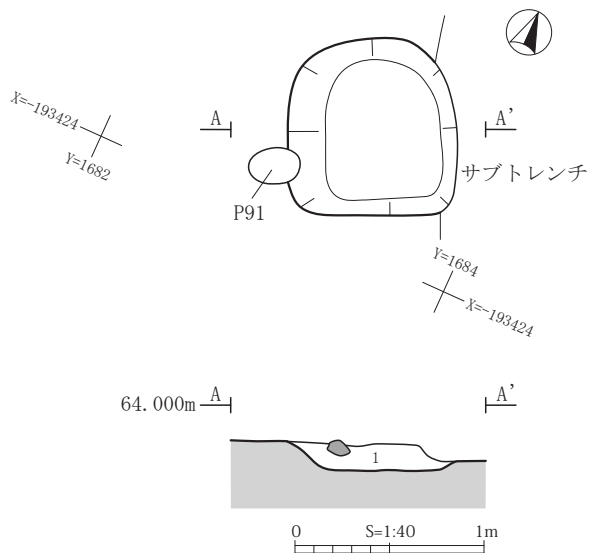
層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト	なし	あり	径 5 cm 以下の黄褐色砂質シルト粒多量、1 ~ 2 cm 厚の炭化物層状に少量

第 213 図 SK16 土坑 平面図・断面図

8) SK17 土坑 (第 214 図、図版 65-5 ~ 6)

S3-W62 グリッドに位置する。P91 に切られ、東側の先端はサブトレンチを入れた際に壊す。確認された規模は長軸 94cm、短軸 90cm、深さ 35cm を測る。平面形は隅丸方形を断面形は皿状を呈するものと思われる。堆積土は砂質シルトの単層からなる。

遺物は出土していない。



SK17 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	なし	なし	径 5 mm 以下の炭化物微量、にぶい黄色細粒砂少量、酸化鉄少量

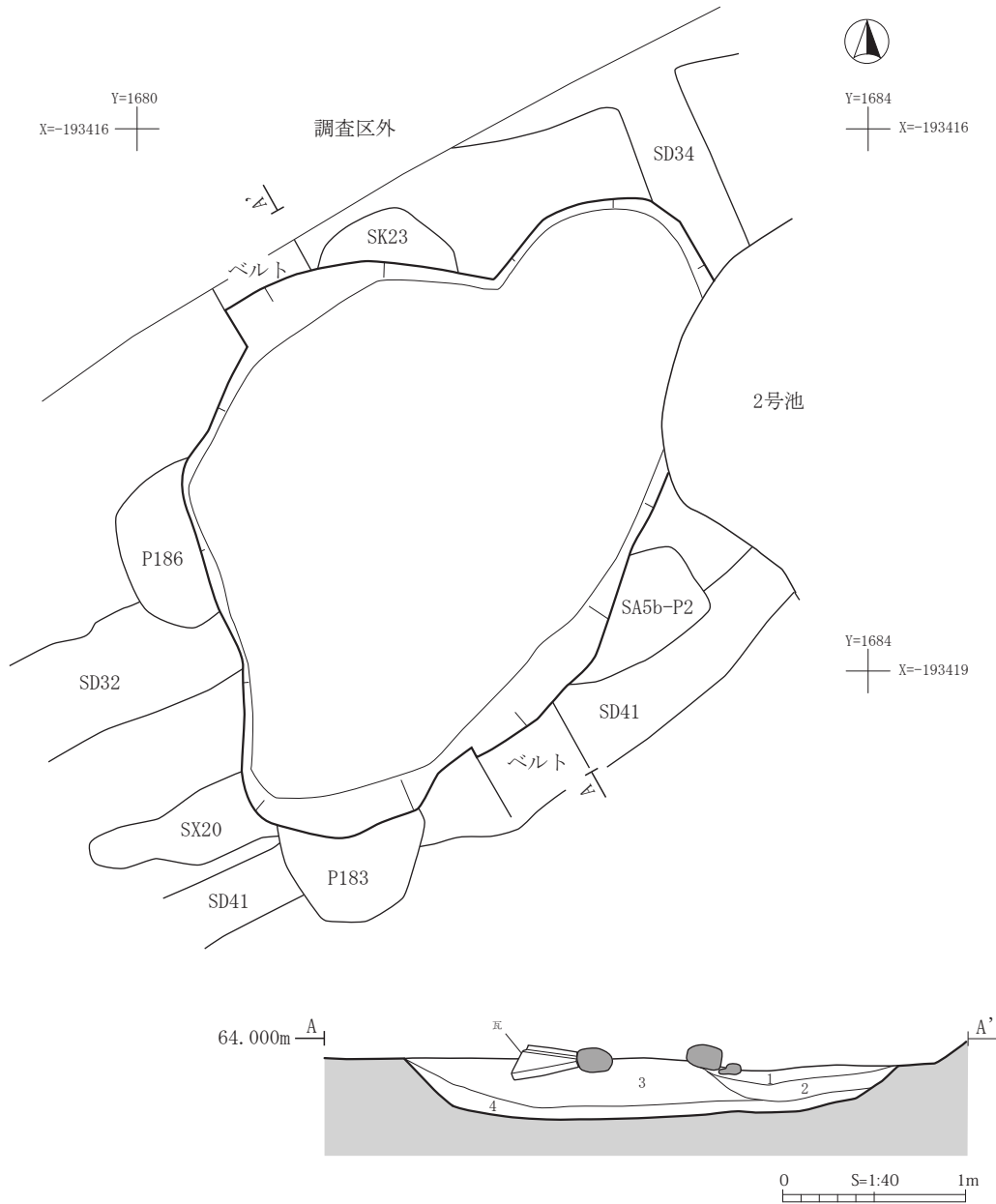
第 214 図 SK17 土坑 平面図・断面図

9) SK19 土坑 (第 215 ~ 216 図、図版 65-7 ~ 8)

S2-W62 グリッドに位置する。SA5b-P2・SK19・SD32・SD34・SD41・SX20 を切り、2号池に切られる。

確認された規模は南北 3.8 m、東西 2.48m、深さ 34cm を測る。平面形は不整楕円形を、断面形は皿状を呈する。平面形状や堆積状況から部分的な整地が行なわれた跡と考えられる。堆積土は 4 層からなる。

遺物は 18 世紀前半の肥前染付碗などの磁器片、瓦等が出土している。

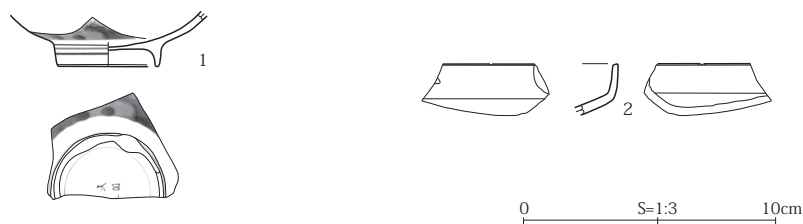


SK19 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	砂粒多量、炭化物微量
2	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	あり	径 5 cm以下の礫少量、炭化物微量、酸化鉄多量
3	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土質シルト	ややあり	あり	径 20 cm以下の礫多量、炭化物少量 酸化鉄、砂粒を含む
4	10YR3/1	黒褐色	粘土	あり	ややあり	径 3 cm以下の炭化物少量、砂粒多量、酸化鉄少量

第 215 図 SK19 土坑 平面図・断面図

第3節 III区



SK19 土坑 出土遺物観察表 (磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
216-1	114-15	S2-W62 SK19 1層	磁器	碗	体部~底部	緻密	染付	—	4.4	2.1	肥前	18世紀前半?	薄手 銘「大明年製」?	J-25
216-2	114-16	S2-W62 SK19 1層	磁器	浅鉢	口縁~体部	緻密	白磁	—	—	(2.1)	肥前	近世	口錆	J-26

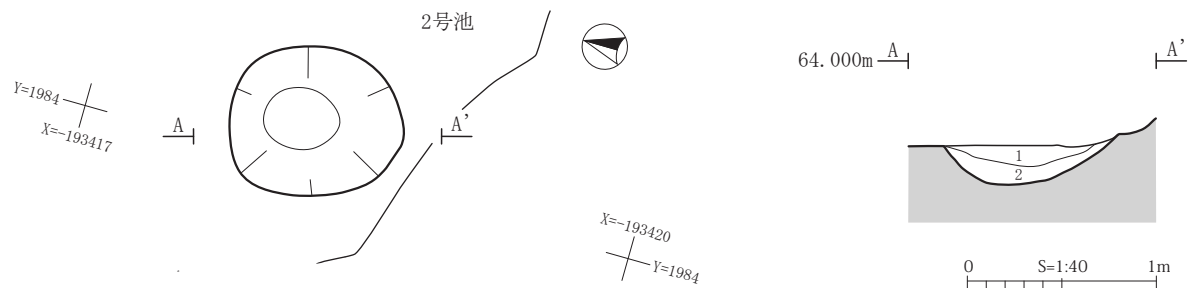
第216図 SK19土坑 出土遺物

10) SK25 土坑 (第217図、図版66-1~2)

S2-W62 グリッドに位置する。2号池によって上部を壊される。

確認された規模は南北 92cm、東西 79cm、深さ 21cm を測る。平面形は楕円形を、断面形は開いたU字形を呈する。堆積土は2層からなる。

遺物は出土していない。



SK25 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No.	色				
1	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	ややあり	あり	径 10 cm以下の褐色粘土塊多量、径 2 cm以下の礫少量
2	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	ややあり	あり	細礫多量

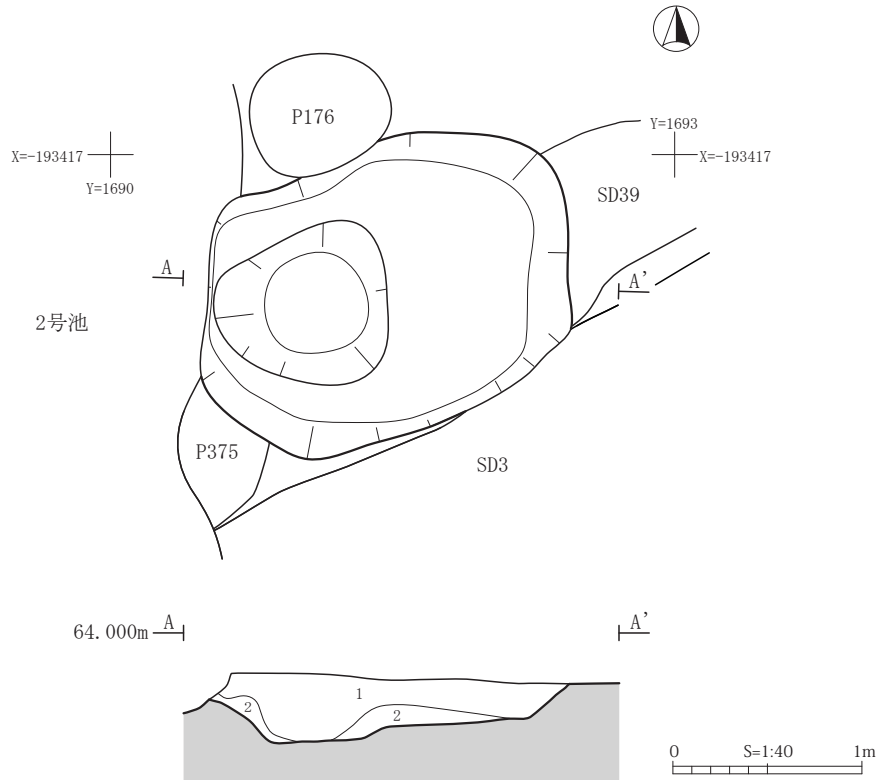
第217図 SK25土坑 平面図・断面図

11) SK27 土坑 (第 218 図、図版 66-3 ~ 4)

S2-W61 グリッドに位置する。SD39・P375 を切り、2 号池・SD3・P176 によって壊される。

確認された規模は長軸 1.9 m、短軸 1.6m、深さ 36cm を測る。平面形は不整楕円形を、断面形は底面の中央から西側かけて浅くくぼむ皿状を呈する。堆積土は 2 層からなる。

遺物は出土していない。



SK27 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	あり	径 15 cm 以下の明黄褐色粘土塊多量、径 2 cm 以下の礫少量、下部に径 10 cm 以下の礫多量
2	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	ややあり	あり	酸化鉄・砂多量

第 218 図 SK27 土坑 平面図・断面図

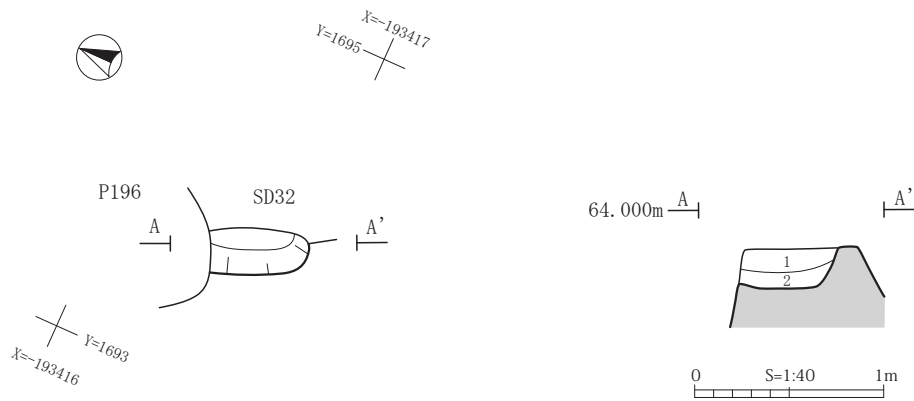
12) SK28 土坑 (第 219 図、図版 66-5 ~ 6)

S2-W61 グリッドに位置する。SD32・P196 に切られる。

確認された規模は南北 52cm、東西 26cm、深さ 20cm を測る。平面形は楕円形が推定され、断面形は開いた U 字形を呈するものと思われる。堆積土は 2 層からなる。

遺物は出土していない。

第3節 III区



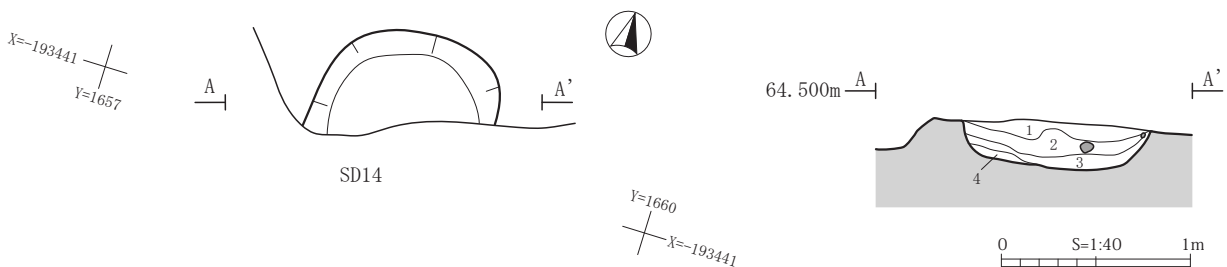
SK28 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	なし	あり	砂粒、径 1～3 cmの酸化鉄、礫多量
2	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト	ややあり	ややあり	砂含む 壁から底面にかけて酸化鉄が沈着し、硬化している

第 219 図 SK28 土坑 平面図・断面図

13) SK31 土坑 (第 220 図、図版 66-7～8)

S5-W65 グリッドに位置する。南側を SD14 に切られる。確認された規模は東西 94cm、南北 58cm、深さ 24cm を測る。平面形は隅丸方形が推定され、断面形は開いたU字形を呈するものと思われる。堆積土は 4 層からなる。遺物は出土していない。



SK31 土坑 土層注記表

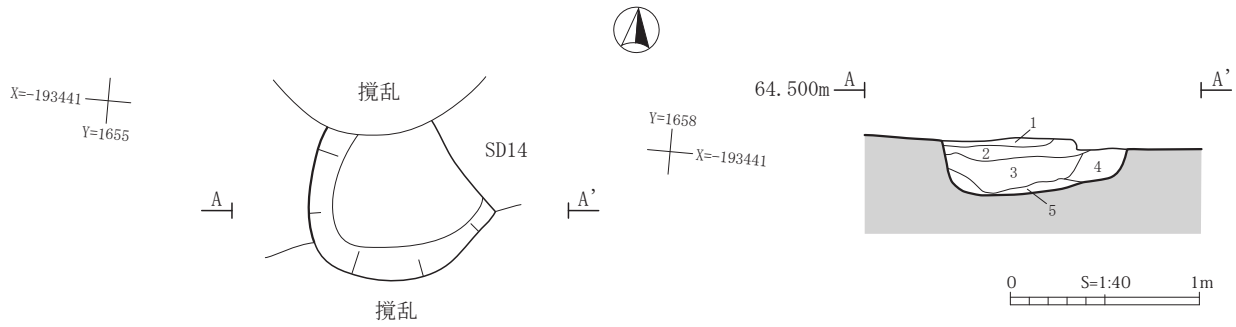
層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	2.5Y6/3	にぶい黄色	シルト質粘土	あり	あり	2.5Y5/3 黄褐色土粒多量、酸化鉄多量
2	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y5/3 黄褐色土粒多量、径 1 cmの炭化物微量
3	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y5/3 黄褐色土粒少量、腐食物が混ざった土
4	2.5Y3/1	黒褐色	シルト質粘土	あり	ややあり	

第 220 図 SK31 土坑 平面図・断面図

14) SK32 土坑 (第 221 図、図版 67-1 ~ 2)

S5-W65 グリッドに位置する。北側と南側を攪乱によって壊され、東側を SD14 によって切られる。確認された規模は南北 90cm、東西 1 m、深さ 30cm を測る。平面形は楕円形が推定され、断面形は開いた U 字形を呈する。堆積土は 5 層からなる。

遺物は出土していない。



SK32 土坑 土層注記表

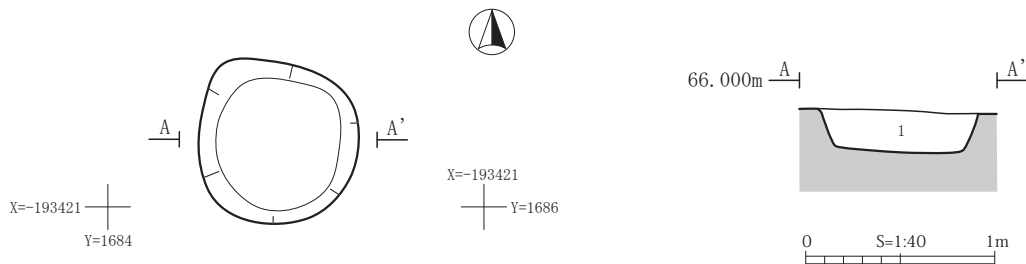
層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	2.5Y6/2	灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y3/2 黒褐色土粒を少量、酸化鉄多量
2	2.5Y5/3	黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y4/1 黄灰色土粒多量、2.5Y3/1 黒褐色土粒微量、酸化鉄多量
3	5Y2/1	黒色	砂質シルト	ややあり	なし	2.5Y4/1 黄灰色土粒多量、腐食物多量、有機化した植物
4	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	2.5Y4/1 黄灰色土粒微量、酸化鉄少量
5	2.5Y6/4	にぶい黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	

第 221 図 SK32 土坑 平面図・断面図

15) SK37 土坑 (第 222 図、図版 67-3 ~ 4)

S3-W62 グリッドに位置する。確認された規模は長軸 94cm、短軸 90cm、深さ 22cm を測る。平面形は北西側が張り出す不整形円形を、断面形は開いた U 字形を呈する。堆積土は砂質シルトの単層である。

遺物は出土していない。



SK37 土坑 土層注記表

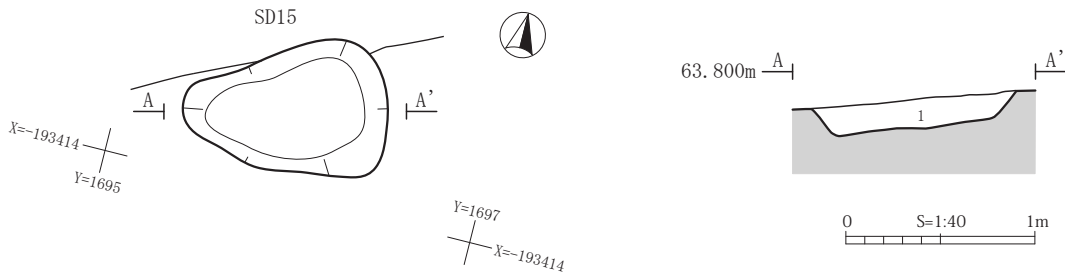
層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	なし	あり	黒色腐植土を少量、酸化鉄多量、灰黄褐色砂質シルトを少量

第 222 図 SK37 土坑 平面図・断面図

第3節 Ⅲ区

16) SK47 土坑 (第 223 図、図版 67-5 ～ 6)

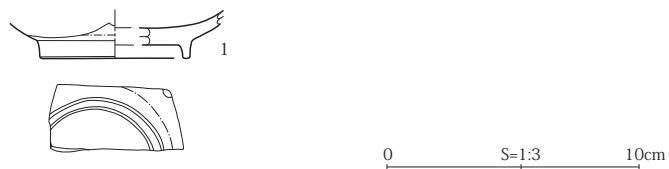
S2-W61 グリッドに位置する。北側を SD15 に切られる。確認された規模は長軸 1 m、短軸 72cm、深さ 16cm を測る。平面形は不整楕円形が推定され、断面形は底面が西方向に傾斜する皿状を呈する。堆積土は粘土質シルトの単層からなる。遺物は 18 世紀代の大堀相馬産の灰釉碗が出土している。



SK47 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No	色				
1	2.5Y5/4	黄褐色	粘土シルト	ややなし	ややあり	径 5 cm 以下の礫微量、シルトストーン多量

第 223 図 SK47 土坑 平面図・断面図



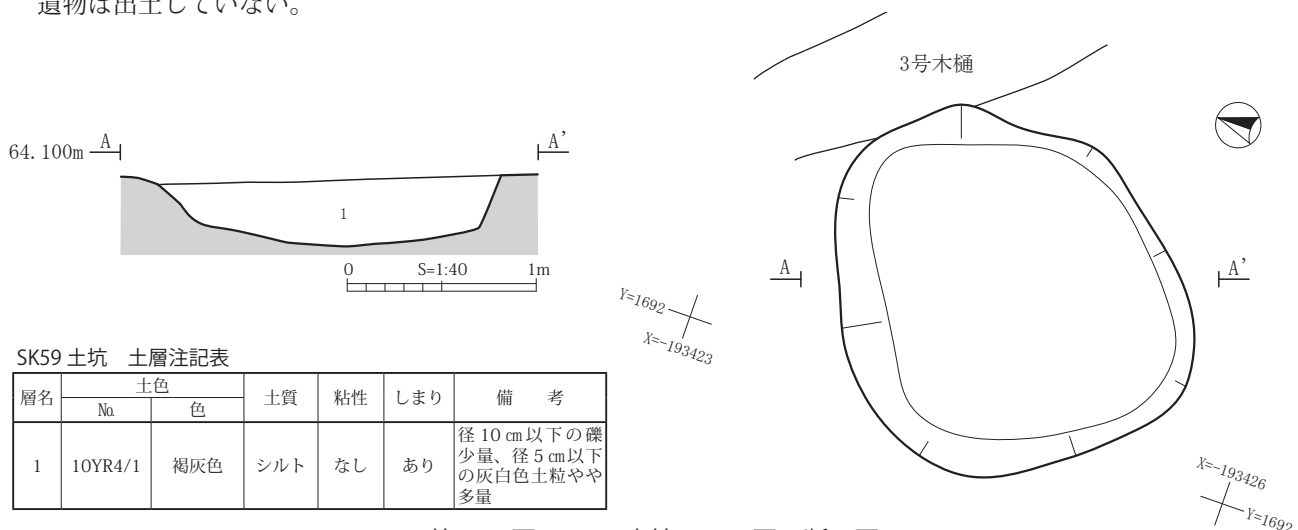
SK47 土坑 出土遺物観察表 (陶器)

図版番号	写真図版番号	グリッド遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
224-1	114-17	S2-W61 SK47 2層	陶器	碗	底部	密	灰釉	—	(6.0)	(1.9)	大堀相馬	18 世紀		I -46

第 224 図 SK47 土坑 出土遺物

17) SK59 土坑 (第 225 図、図版 67-7 ～ 8)

S3-W61 グリッドに位置する。東端を 3 号木樋に切られる。確認された規模は長軸 1.9m、短軸 1.8 m、深さ 34cm を測る。平面形は不整楕円形を呈し、断面形は幅の広い、開いた U 字形を呈する。堆積土はシルトの単層である。遺物は出土していない。



SK59 土坑 土層注記表

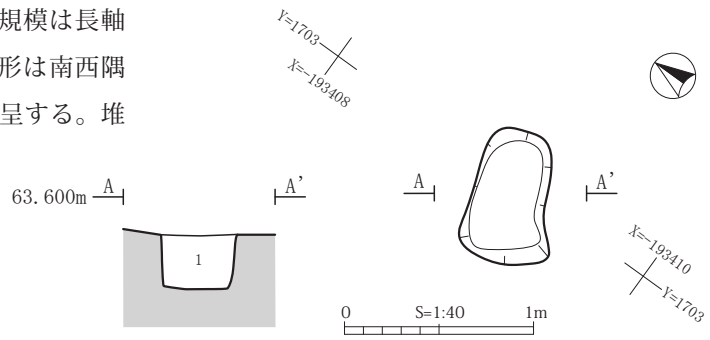
層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No	色				
1	10YR4/1	褐灰色	シルト	なし	あり	径 10 cm 以下の礫少量、径 5 cm 以下の灰白色土粒やや多量

第 225 図 SK59 土坑 平面図・断面図

18) SK69 土坑 (第 226 図、図版 68-1 ~ 2)

S1-W60 グリッドに位置する。確認された規模は長軸 72cm、短軸 48cm、深さ 28cm を測る。平面形は南西隅が張り出す不整隅丸方形を、断面形は方形を呈する。堆積土は砂質シルトの単層である。

遺物は出土していない。



SK69 土坑 土層注記表

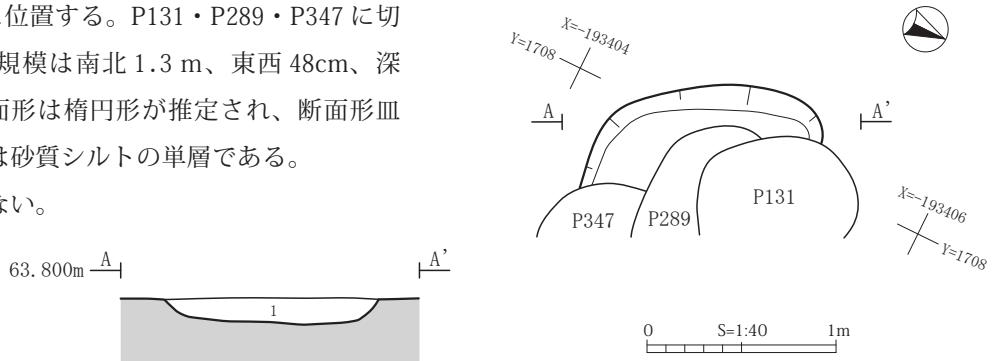
層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	あり	径 3 cm 以下の黒色土粒多量、径 20 cm 以下の礫多量

第 226 図 SK69 土坑 平面図・断面図

19) SK70 土坑 (第 227 図、図版 68-3 ~ 4)

S1-W60 グリッドに位置する。P131・P289・P347 に切られる。確認された規模は南北 1.3 m、東西 48cm、深さ 16cm を測る。平面形は楕円形が推定され、断面形皿状を呈する。堆積土は砂質シルトの単層である。

遺物は出土していない。



SK70 土坑 土層注記表

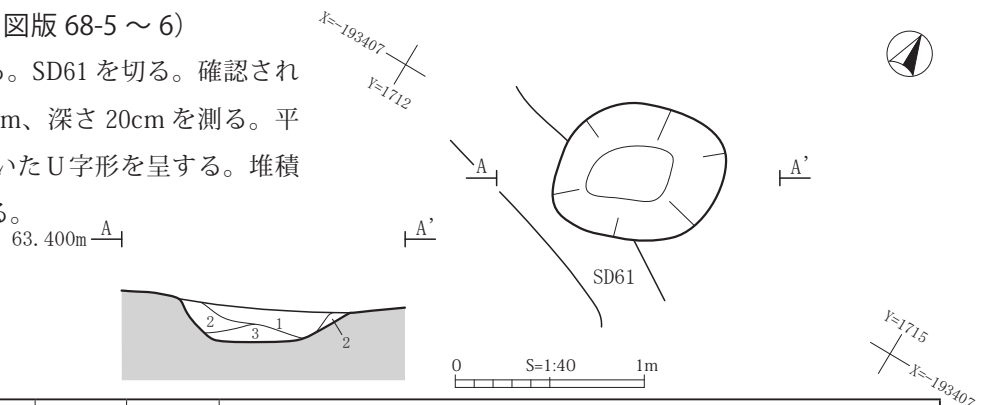
層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	褐灰色砂質シルトブロック多量、径 2 cm 以下の黄褐色砂質シルト粒少量、灰黄褐色砂質シルト微量

第 227 図 SK70 土坑 平面図・断面図

20) SK71 土坑 (第 228 図、図版 68-5 ~ 6)

S1-W59 グリッドに位置する。SD61 を切る。確認された規模は長軸 94cm、短軸 76cm、深さ 20cm を測る。平面形は楕円形を、断面形は開いた U 字形を呈する。堆積土は 3 層の砂質シルトからなる。

遺物は出土していない。



SK71 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径 5 mm 以下の炭化物微量、酸化鉄少量
2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	なし	ややあり	酸化鉄微量
3	5Y4/1	灰色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄微量

第 228 図 SK71 土坑 平面図・断面図

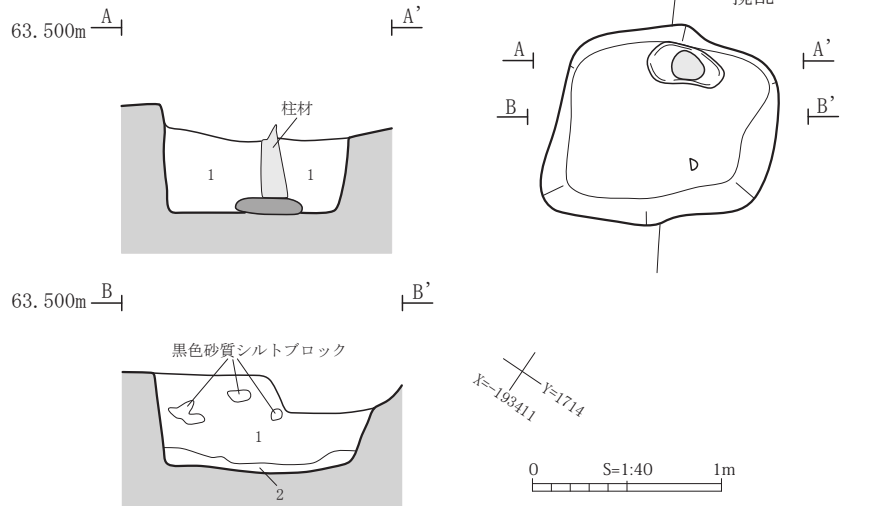
第3節 III区

21) SK72 土坑 (第 229 図、図版 68-7 ~ 8)

S2-W59 グリッドに位置する。南側は攪乱によって壊される。底面に 22 × 40cm の礎板石を置き、その上に径 17.5cm の丸材が載る。

確認された規模は長軸 1.16 m、短軸 1.06m、深さ 52cm を測る。平面形は不整隅丸方形を、断面形は逆台形状を呈する。当該遺構に対応する柱穴は検出されていない。堆積土は 3 層からなり、1 層上部は酸化鉄の沈着が顕著である。

遺物は柱材以外、出土していない。



SK72 土坑 土層注記表

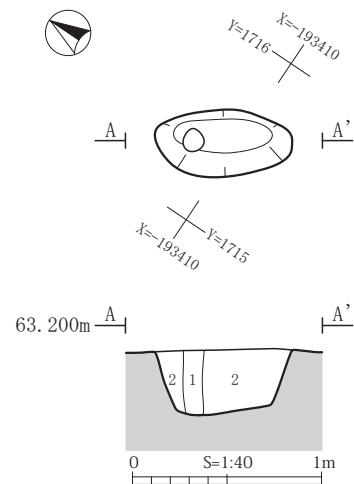
層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	2.5Y5/4	黄褐色	砂質シルト	ややなし	ややあり	上部に酸化鉄多量 (赤色化)、下部はグライ化
2	5Y4/1	灰色	粘土質シルト	ややあり	ややなし	径 1 mm 以下のパミスブロック少量

第 229 図 SK72 土坑 平面図・断面図

22) SK73 土坑 (第 230 図、図版 69-1 ~ 2)

S1-W59・S2-W59 グリッドに位置する。径 12cm の柱痕が検出された。確認された規模は長軸 72cm、短軸 36cm、深さ 34cm を測る。平面形は楕円形を、断面形は逆台形を呈する。当該遺構に対応する柱穴は検出されていない。堆積土は 2 層からなり、1 層は柱痕、2 層は掘り方埋土である。

遺物は出土していない。



SK73 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	7.5YR6/2	灰褐色	砂質シルト	ややあり	なし	柱痕 酸化鉄微量
2	7.5YR6/3	にぶい褐色	砂質シルト	ややあり	あり	径 1 cm 以下のシルトストーン微量

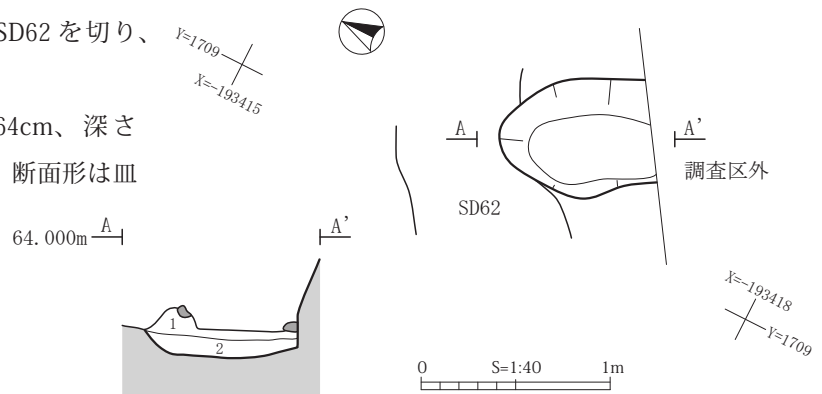
第 230 図 SK73 土坑 平面図・断面図

23) SK74 土坑 (第 231 図、図版 69-3 ~ 4)

S2-W60 グリッドに位置する。北側で SD62 を切り、南側は調査区外へ延びる。

確認された規模は南北 80cm、東西 64cm、深さ 24cm を測る。平面形は楕円形が想定され、断面形は皿状を呈する。堆積土は 2 層からなる。

遺物は出土していない。



SK74 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	10YR4/1	褐灰色	シルト質砂	なし	あり	径 1 cm 以下の礫 炭化物少量
2	10YR5/1	褐灰色	シルト質砂	なし	なし	炭化物微量

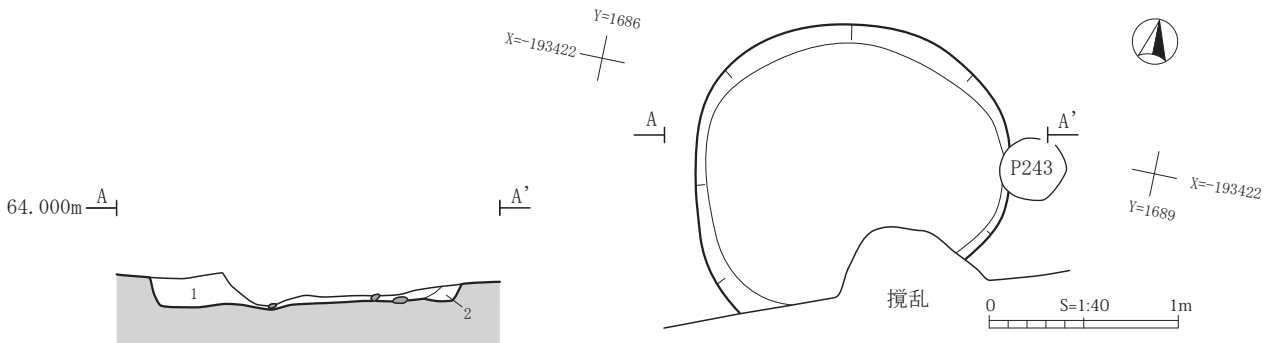
第 231 図 SK74 土坑 平面図・断面図

24) SK78 土坑 (第 232 ~ 233 図、図版 69-5)

S3-W62 グリッドに位置する。南側を攪乱によって壊され、東側を P243 により切られる。

確認された規模は南北 1.76 m、東西 1.62m、深さ 16cm を測る。平面形は楕円形が推定され、断面形は皿状を呈する。堆積土は 2 層からなる。

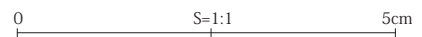
遺物は瓦、金属製品が出土している。第 233 図 - 1 は弾で、鉛製と見られる。



SK78 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	10YR5/1	褐灰色	シルト質砂	なし	ややあり	径 10 cm 以下の礫多量、径 1 cm のシルトストーンやや少量
2	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	粗砂少量

第 232 図 SK78 土坑 平面図・断面図



SK78 土坑 出土遺物観察表 (金属製品)

図版番号	写真図版番号	グリッド遺構・層位	種別	部位	法量 (cm・g)				備 考	登録番号
					長さ	幅	厚さ	重さ		
233-1	114-18	S3-W63 SK78 下層	弾	—	1.4	—	—	13.28	一部剥落	N-3

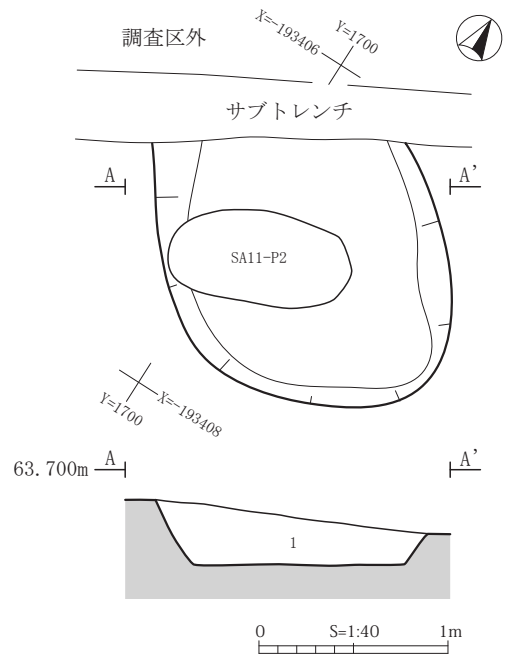
第 233 図 SK78 土坑 出土遺物

第3節 III区

25) SK81 土坑 (第 234 図、図版 69-6 ~ 7)

S1-W60・S1-W61 グリッドに位置する。中央を SA11-P2 に切れ、北側は調査区外へ延びる。確認された規模は南北 1.72 m、東西 1.48m、深さ 30cm を測る。平面形は楕円形が想定され、断面形は逆台形を呈する。堆積土は砂質シルトの単層からなる。

遺物は出土していない。



SK81 土坑 土層注記表

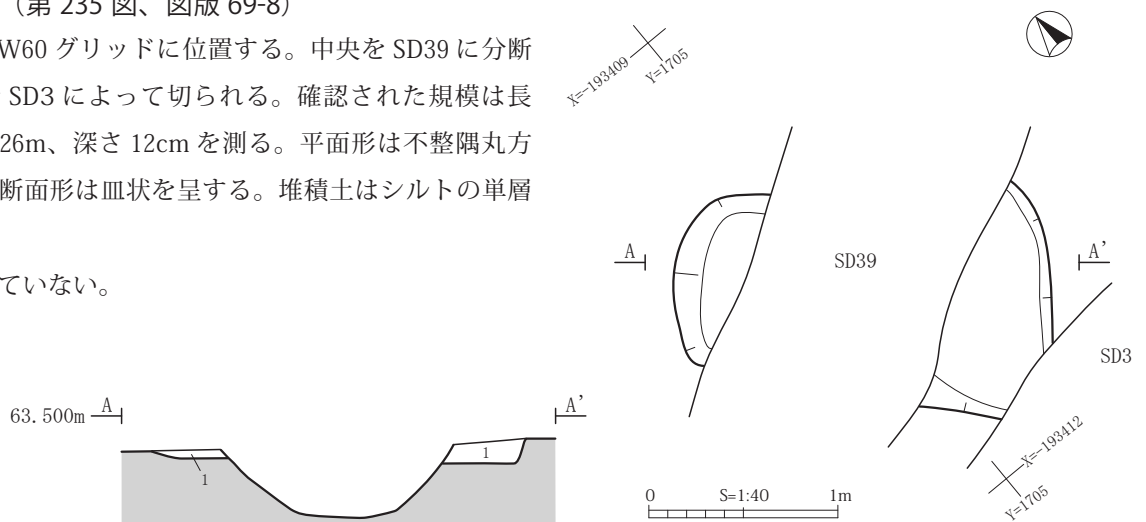
層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	10YR6/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	あり	径 30 cm 以下の礫少量、径 10 cm 以下の礫多量、酸化鉄やや多量

第 234 図 SK81 土坑 平面図・断面図

26) SK82 土坑 (第 235 図、図版 69-8)

S1-W60・S2-W60 グリッドに位置する。中央を SD39 に分断され、南端隅を SD3 によって切られる。確認された規模は長軸 2m、短軸 1.26m、深さ 12cm を測る。平面形は不整隅丸方形が推定され、断面形は皿状を呈する。堆積土はシルトの単層からなる。

遺物は出土していない。



SK82 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	10YR4/1	褐灰色	シルト	なし	あり	径 15 cm 以下の礫多量

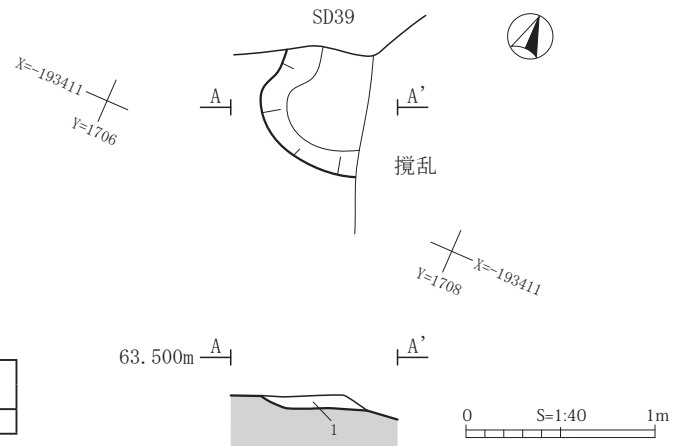
第 235 図 SK82 土坑 平面図・断面図

27) SK84 土坑 (第 236 図、図版 70-1 ~ 2)

S2-W60 グリッドに位置する。東側を攪乱によって壊され、北側を SD39 に切られる。

確認された規模は南北 66cm、東西 58cm、深さ 8cm を測る。平面形は不明、断面形は皿状を呈するものと思われる。堆積土はシルト質砂の単層からなる。

遺物は出土していない。



SK84 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No	色				
1	10YR4/2	灰黄褐色	シルト質砂	ややなし	ややあり	酸化鉄少量

第 236 図 SK84 土坑 平面図・断面図

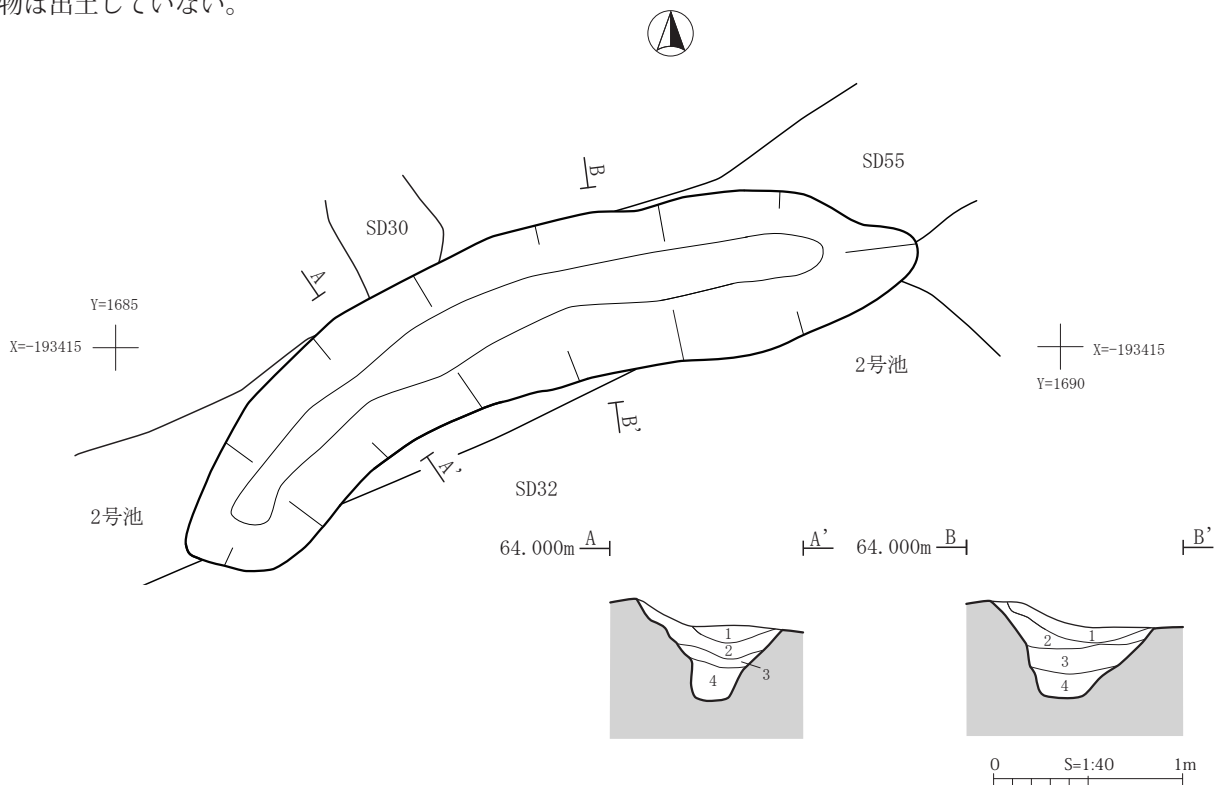
(5) その他の遺構

1) SX8 性格不明遺構 (第 237 図、図版 70-3 ~ 4)

S2-W62 グリッドに位置する。東西方向に弧を描くように延びる溝状の掘り込みである。南側で SD32 を、東側で SD55 を切る。北側は SD30 に、また全体を 2 号池によって壊される。

確認された規模は長軸 4.27 m、短軸 86cm、深さ 44cm を測る。断面形は開いた U 字形を呈するが、中端に段を有するところもある。堆積土は 4 層からなり、1・2 層は上位整地層による埋め戻し土、3・4 層は砂礫層で、流入土の可能性はある。

遺物は出土していない。



第3節 III区

SX8 性格不明遺構 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	あり	あり	砂粒 1～2cm の礫少量
2	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	あり	あり	砂粒 1～2cm の礫少量 一部グライ化
3	7.5YR4/4	褐色	砂礫	なし	なし	酸化鉄多量、5～10cm の礫少量
4	5Y4/1	灰色	砂礫	なし	なし	

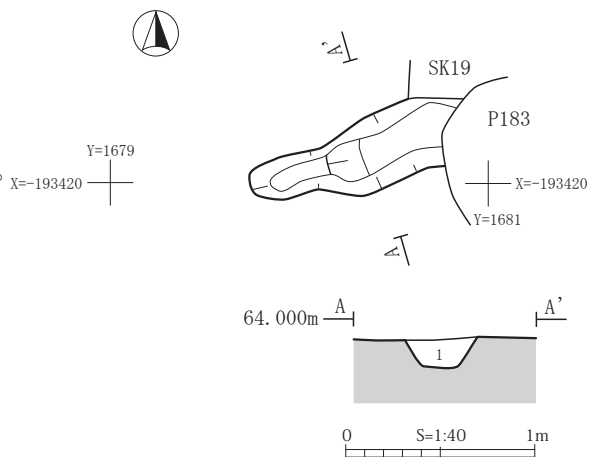
第 237 図 SX8 性格不明遺構 平面図・断面図

2) SX20 性格不明遺構 (第 238 図、図版 70-5～6)

S2-W62～S3-W63 グリッドに位置する。東側は SK19 と P183 によって切られ、西側は壁が立ちあがって途切れる。

確認された規模は長軸 1.22m、短軸 38cm、深さ 22cm を測る。平面形は溝状を呈するものと思われる。底面は西から東へ 1 段下がり、断面形は開いた U 字形を呈する。堆積土は砂質シルトの単層である。

遺物は出土していない。



SX20 性格不明遺構 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No	色				
1	10YR4/3	オリーブ褐色	砂質シルト	ややあり	あり	黄灰色砂質シルト多量、酸化鉄少量

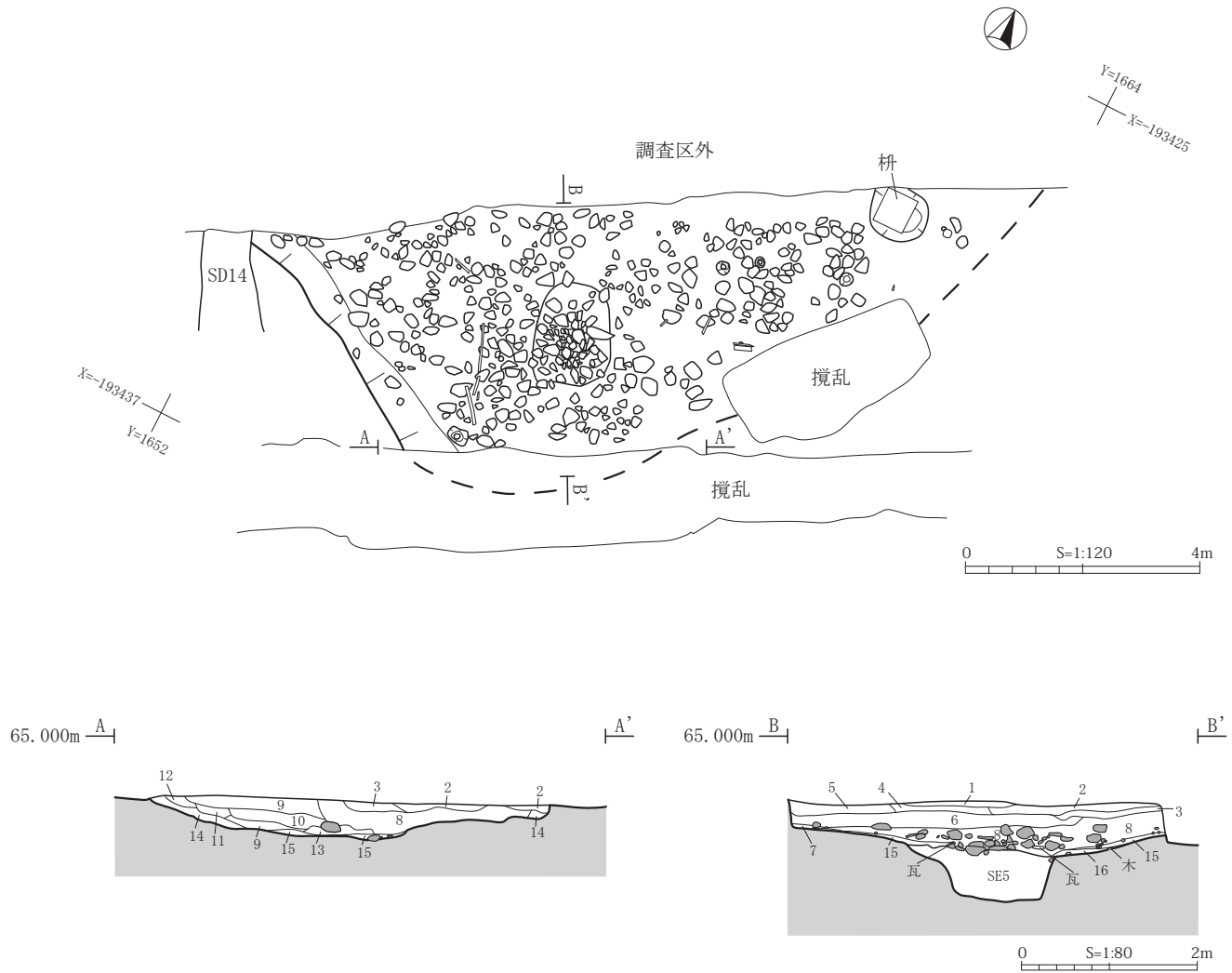
第 238 図 SX20 性格不明遺構 平面図・断面図

3) 5号池 (第 239～242 図、図版 70-7)

S3-W64～S4-W65 グリッドに位置する。東側は 4号池に、西端は SD14 に切られ、南側は攪乱によって壊される。北側は調査区外に広がる。南側から東側にかけての範囲は、土層断面の観察を元にして破線で示した。確認された規模は東西 13.7m、南北約 4.3m、深さ 50～70cm を測る。底面には約 5cm の厚さで粘土質シルト～粘土を貼り、その上に径 1～3cm の玉石を敷いている。底面からは SE5 が検出され、また掘り方面からは枡の底板が出土した。

堆積土は 16 層からなり、1～13 層までは埋め戻し土、14～16 層は構築時に貼られた粘土質シルト～粘土である。

遺物は 8 層から集中して出土している。18 世紀を中心に 17 世紀後半から 19 世紀代の陶磁器、木製品、瓦、金属製品がみられる。

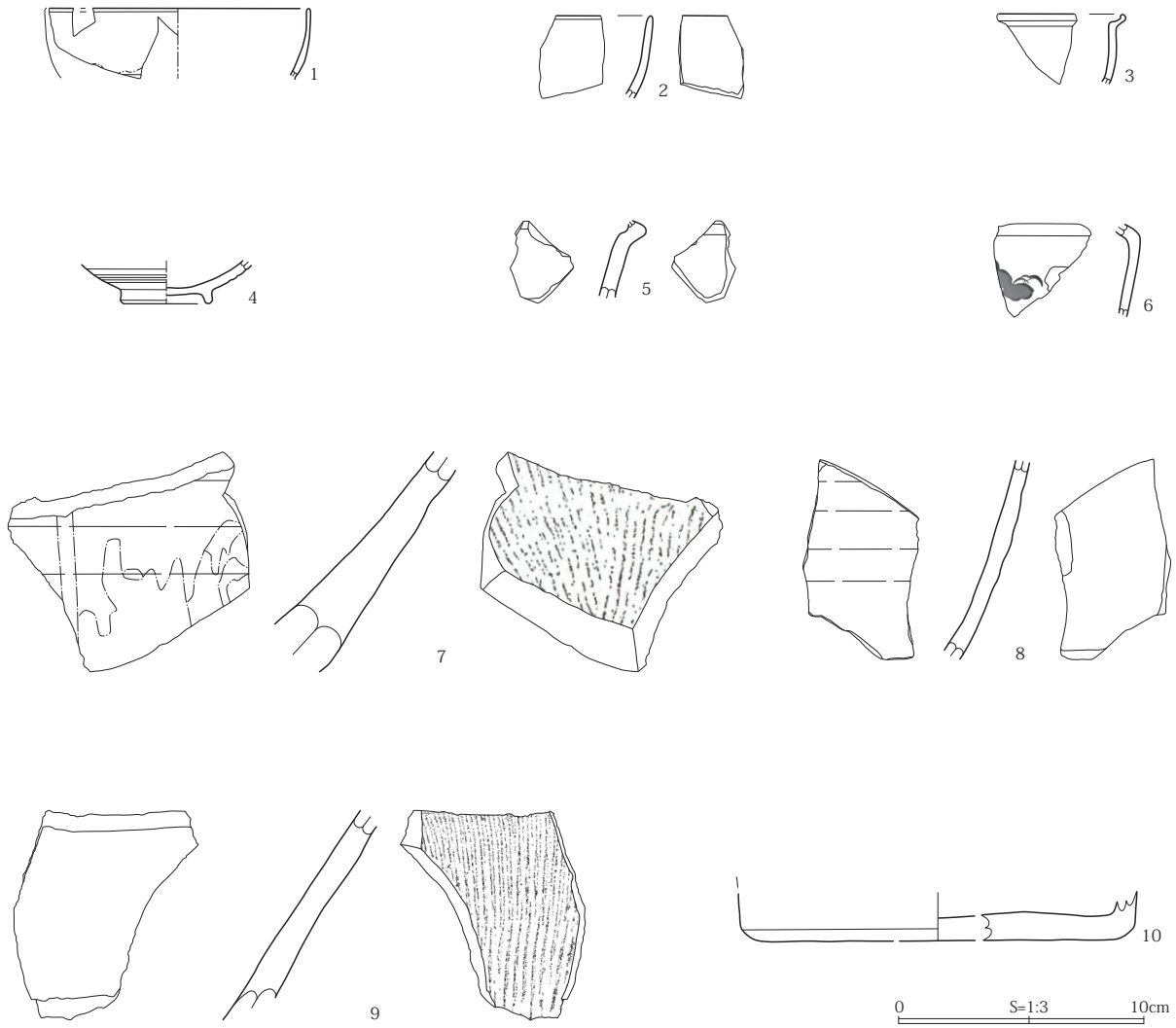


5号池 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No.	色				
1	10YR4/4	褐色	シルト	なし	なし	径1cm以下の暗褐色土粒少量 黄褐色土粒多量
2	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	なし	なし	径5mm以下の黄褐色土粒少量
3	10YR5/1	褐灰色	シルト	なし	なし	径3mm以下の黄褐色土粒少量
4	10YR3/3	暗褐色	シルト	あり	あり	径1～3cmの礫多量
5	10YR4/1	褐灰色	シルト	あり	なし	径1～3cmの礫多量
6	10YR2/2	黒褐色	砂質シルト	なし	なし	径10cm以下の礫多量 径5mm以下の炭化物少量
7	10YR3/2	黒褐色	砂質シルト	なし	なし	径10cm以下の礫多量
8	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	なし	砂粒少量、瓦・礫多量
9	10YR5/2	灰黄褐色	砂質シルト	なし	なし	径10cm以下の礫少量
10	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	なし	あり	径10cm以下の礫多量
11	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	あり	砂互層状に少量
12	5Y4/1	灰色	粘土質シルト	あり	あり	砂互層状に少量
13	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	あり	あり	砂粒多量、径2cm以下の黄褐色土粒多量
14	2.5Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	径30cm以下の礫多量、2.5Y4/3 オリーブ褐色砂少量、酸化鉄少量
15	2.5Y4/3	オリーブ褐色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	3cm以下の玉石、酸化鉄微量
16	10YR4/4	褐色	粘土	あり	あり	砂粒少量

第239図 5号池 平面図・断面図

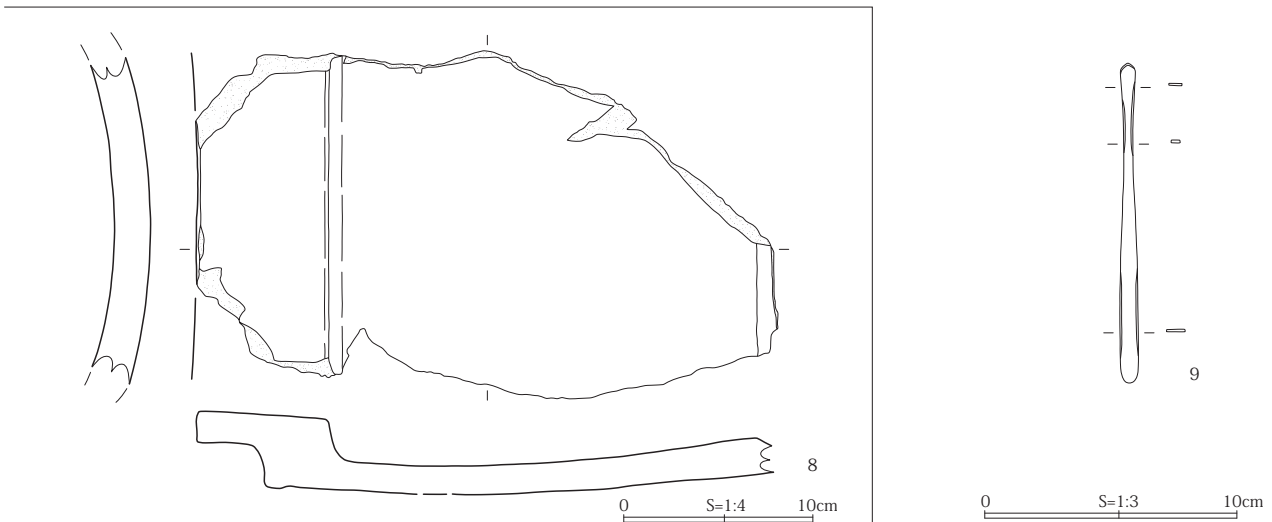
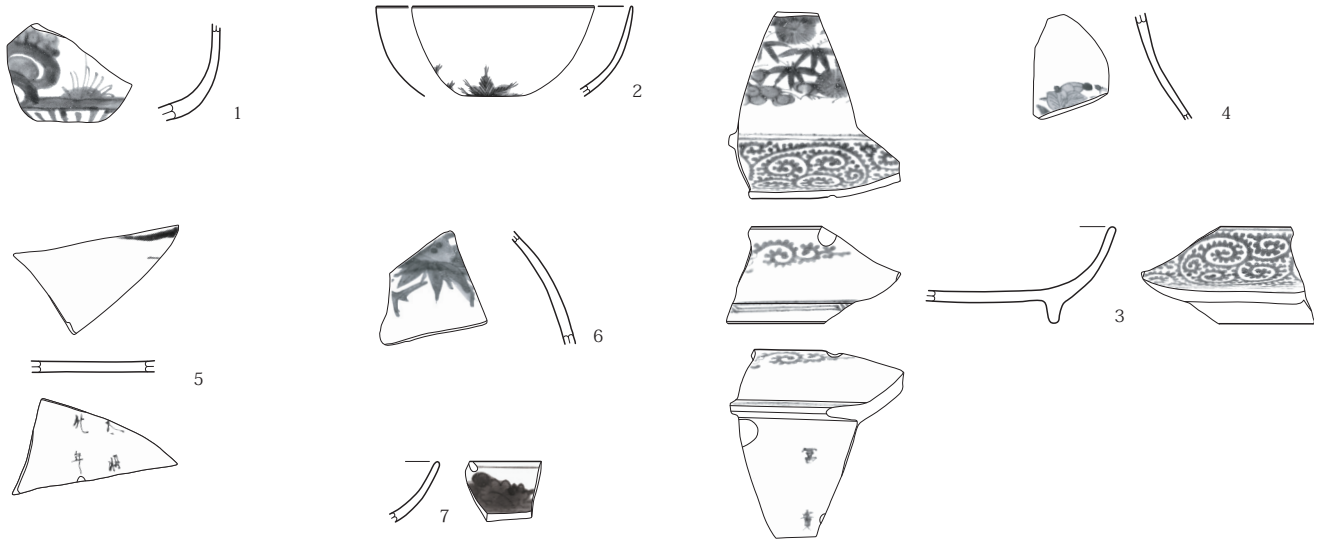
第3節 III区



5号池 出土遺物観察表 (陶器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
240-1	115-3	S3・4-W64・65 5号池 8層	陶器	碗	口縁～体部	密	灰釉鉛釉掛分	(5.4)	—	(2.9)	大堀相馬	18世紀		I-74
240-2	115-2	S3・4-W64・65 5号池 8層	陶器	碗	口縁～体部	密		—	—	(3.3)	大堀相馬	18世紀		I-73
240-3	115-8	S3・4-W64・65 5号池 8層	陶器	土鍋	口縁～体部	密	鉄釉	—	—	(2.9)	大堀相馬	19世紀前半		I-69
240-4	115-5	S3・4-W64・65 5号池 8層	陶器	皿	体部～底部	密	鉄釉・灰釉	—	(3.5)	(1.75)	大堀相馬	19世紀		I-71
240-5	115-1	S3・4-W64・65 5号池 8層	陶器	鉢	口縁～体部	やや粗	灰釉	—	—	(3.2)	唐津	17世紀後半		I-70
240-6	115-4	S3・4-W64・65 5号池 8層	陶器	半筒碗	体部	密	色絵	—	—	(3.85)	京・信楽系	18世紀		I-72
240-7	115-15	S3・4-W64・65 5号池 8層	陶器	播鉢	体部	やや粗	鉄釉	—	—	(9.9)	在地?	18世紀?		I-77
240-8	115-14	S3・4-W64・65 5号池 8層	陶器	壺か瓶	体部	密	鉄釉	—	—	(8.3)	瀬戸・美濃?	18世紀以降		I-76
240-9	115-10	S3・4-W64・65 5号池 8層	陶器	播鉢	体部	やや粗	鉄釉	—	—	(8.6)	在地系	18世紀		I-75
240-10	115-16	S3・4-W64・65 5号池 下層	瓦質土器	火鉢	底部	粗		—	—	(9.4)	在地	近世		I-210

第240図 5号池 出土遺物



5号池 出土遺物観察表 (磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
241-1	115-9	S3・4-W64・65 5号池 埋土	磁器	碗	体部	緻密	染付	—	—	(3.9)	肥前	19世紀前半		J-51
241-2	115-12	S3・4-W64・65 5号池 8層	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付若松文	—	—	(3.6)	肥前	18世紀後半		J-48
241-3	115-17	S3・4-W64・65 5号池 8層	磁器	瓶類	頸部	緻密	染付草花文	—	—	(4.0)	肥前	18世紀?		J-247
241-4	115-7	S3・4-W64・65 5号池 8層	磁器	角皿	口縁～底部	緻密	染付蛸唐草文・松竹梅文	—	—	(4.0)	肥前	18世紀?		J-49
241-5	115-13	S3・4-W64・65 5号池 8層	磁器	皿	底部	緻密	染付	—	—	(3.6)	肥前	17世紀～18世紀	銘「大明製年」	J-47
241-6	115-11	S3・4-W64・65 5号池 8層	磁器	瓶?	体部	緻密	染付	—	—	(4.1)	肥前	18世紀代		J-46
241-7	115-6	S3・4-W64・65 5号池 8層	磁器	皿	口縁～体部	緻密	染付草文	—	—	(2.9)	肥前	17世紀～18世紀		J-50

5号池 出土遺物観察表 (瓦)

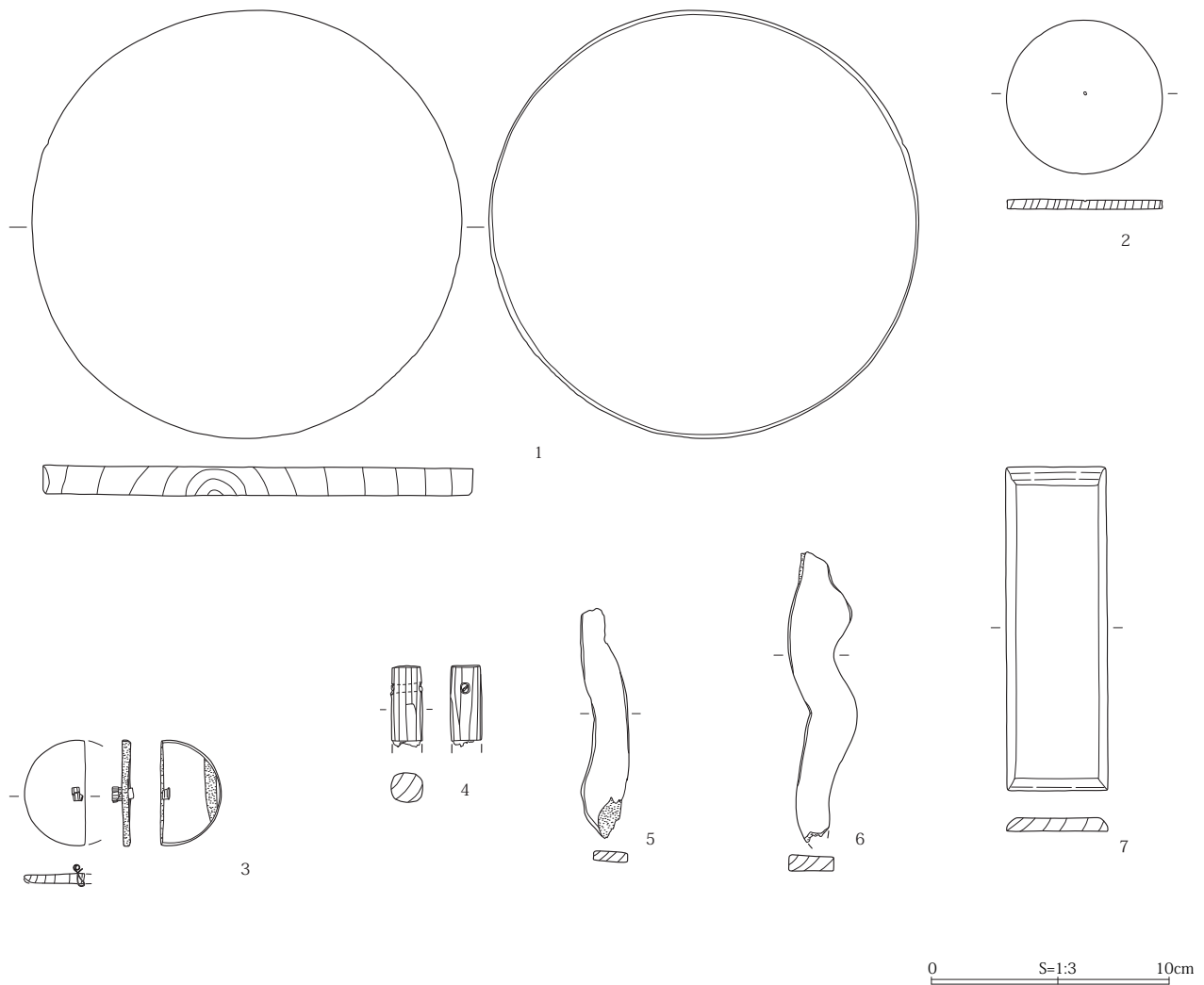
図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
241-8	115-18	S3・4-W64・65 5号池 5層	棟瓦	(30.6)	(17.6)	2.0		H-7

5号池 出土遺物観察表 (金属製品)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	部位	法量 (cm・g)				備考	登録番号
					長さ	幅	厚さ	重さ		
241-9	115-26	S3・4-W64・65 5号池 最下層	匙	完形	16.95	0.95	0.15	14.07		N-16

第241図 5号池 出土遺物

第3節 III区



5号池 出土遺物観察表 (木製品)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
242-1	115-21	S3・4-W64・65 5号池 5層	曲物	19.8	19.8	1.3		L-99
242-2	115-19	S3・4-W64・65 5号池 5層	曲物	7.3	7.3	0.5		L-98
242-3	115-20	S3・4-W64・65 5号池 5層	蓋?	5.0	(2.8)	0.5	紐付	L-103
242-4	115-24	S3・4-W64・65 5号池 5層	加工木	(3.8)	1.5	—	穿孔あり	L-102
242-5	115-23	S3・4-W64・65 5号池 5層	不明	(10.9)	2.1	0.5	装飾品か	L-101
242-6	115-22	S3・4-W64・65 5号池 5層	不明	(13.5)	3.0	0.9	装飾品か	L-100
242-7	115-25	S3・4-W64・65 5号池 5層	加工木	15.0	4.6	0.7		L-104

第242図 5号池 出土遺物

3 III層上面

III層上面では柱列跡1条、溝跡5条、土坑3基、ピット7基、木樋3条、池跡4基が確認されている。池跡では、2号池にSD3、4号池に2号木樋、6号池に3号木樋およびSD4などの水回り施設が伴って検出された。

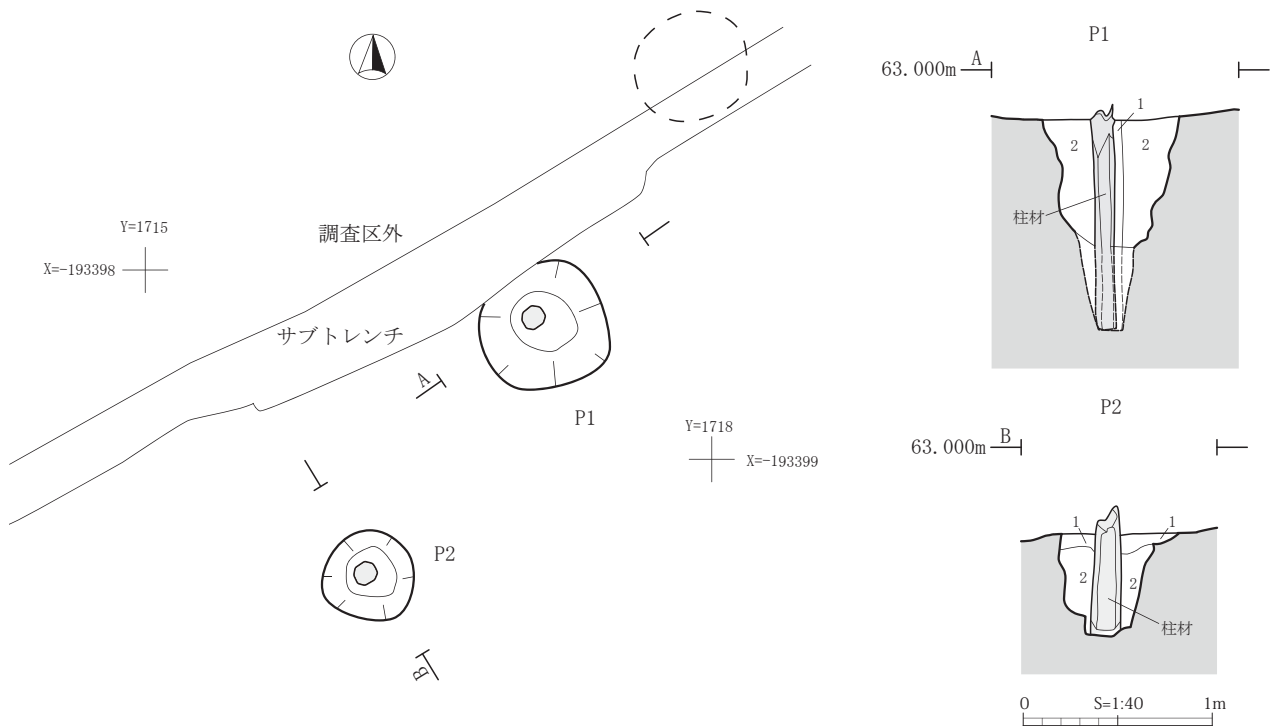
(1) 柱列跡

1) SA8 柱列跡 (第243～244図、図版72-1～2)

N1-W59グリッドに位置する。南北方向に並ぶ2基の柱穴からなる。P1・P2ともに八角形に面取りした柱材が出土している。

確認された掘り方の規模は、P1が長軸69cm、短軸の残存長62cm、深さ112cm、P2は長軸51cm、短軸49cm、深さ50cmを測る。主軸方向はN-32°Eを示す。柱間寸法は1.62m(5尺3寸)を測る。堆積土は2層からなる。

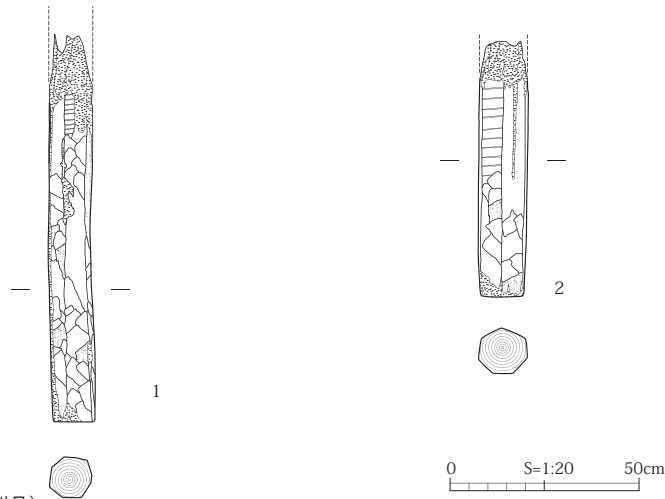
遺物は柱材以外、出土していない。



SA8 柱列跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	2.5Y5/3	黄褐色	シルト	なし	ややあり	径2mm以下の白色土粒少量
2	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	シルト	なし	あり	径1mm以下の白色土粒少量、径3mm以下のシルトストーンやや多量

第243図 SA8 柱列跡 平面図・断面図



SA8 柱列跡 出土遺物観察表 (木製品)

図版番号	写真図版番号	グリッド遺構・層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
244-1	116-1	N1-W59 SA8	柱材	102	12.0	12.0	芯持ち柱材を転用 7角に面取り	L-107
244-2	116-2	N1-W59 SA8	柱材	67	11.5	11.5	芯持ち柱材を転用 7角に面取り	L-108

第 244 図 SA8 柱列跡 出土遺物

(2) 溝 跡

1) SD3 溝跡 (第 245・247 図、図版 58-2・72-3～8)

S2-W69～S3-W62 グリッドに位置する東西方向に走る溝である。西側は 2 号池に、東側は 4 号木樋に切られる。西端では掘り込みはほとんど確認できず、側石が露出した状態で検出されたことから、途切れるかまたは上部が削平されたものと考えられる。東端は攪乱によって壊され、そのに先へ延びていた痕跡が認められないことから途切れるものと推定される。

確認された規模は長さ 26.6m で、西端から北東方向に 18.7m 走り、そこから屈曲して東方向に 7.9m 延びる。側石と側石の内幅 25～35cm、掘り方の上幅 80～102cm、下幅 42～60cm、深さ 20～34cm を測る。断面形は開いた U 字形を呈する。

側石は 2 号池の東側で約 4m、西側で約 1.8m が検出された。その他の部分では抜き取られた痕跡等も確認できないことから、部分的に側石を伴う溝と考えられる。側石には 20～45cm の打ち欠いた川原石と、25～53cm の未加工のものが半々に使用される。石蓋が載る付近では 2 段積み、その他では 1 段のみが遺存する。石蓋には 40～57cm の全面加工した扁平な石を使用している。主軸方向は西端からの直進部分が N-63°-E、屈曲部より東側は N-93.5°-E を示す。

堆積土は 8 層確認された。1～5 層は側石を伴わない部分の堆積土で、粘土質シルトを主体とし、埋め戻し土とみられる。側石部分の溝内堆積土である 6・7 層は水成堆積土で、8 層は掘り方埋土である。

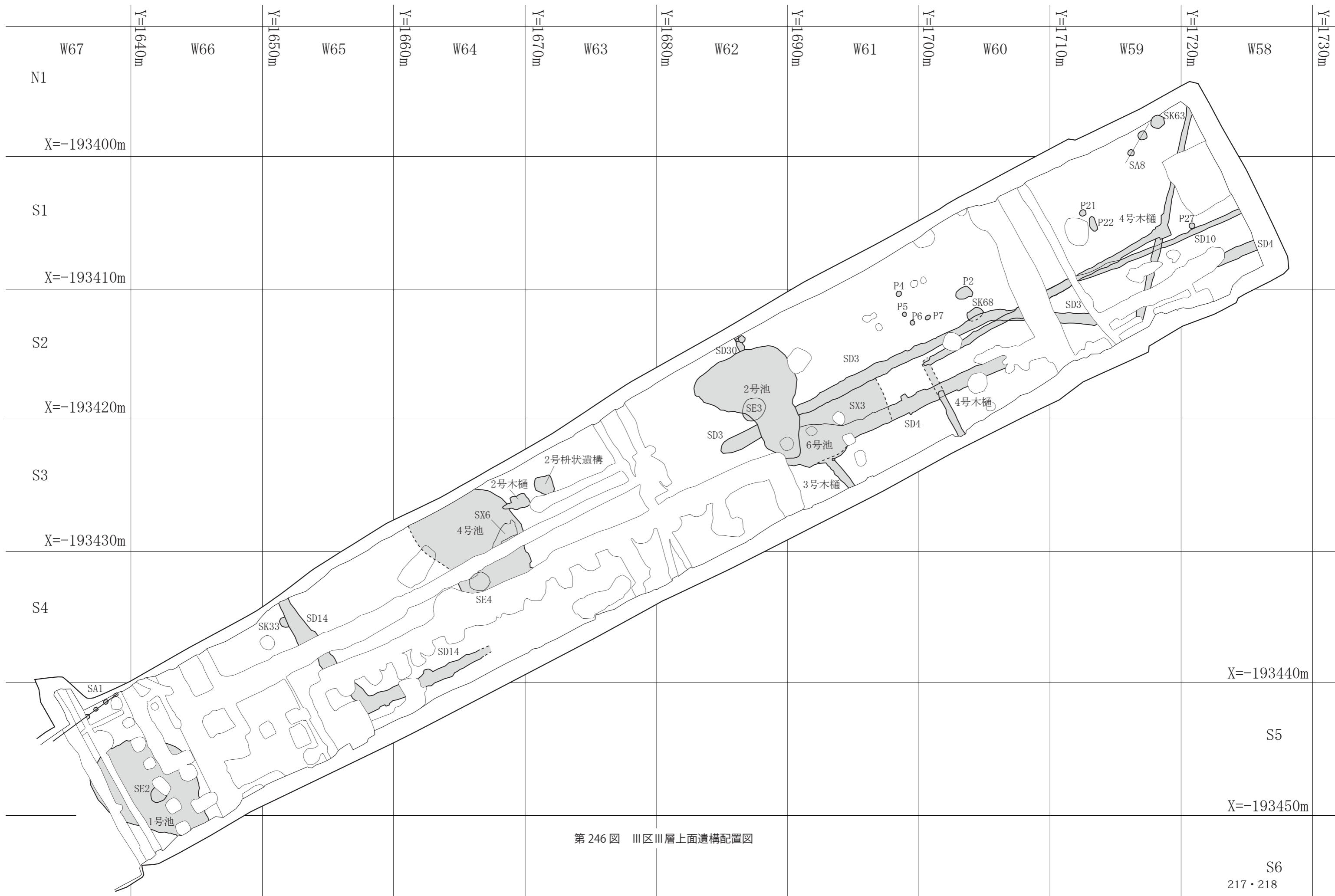
遺物は 17 世紀代の唐津産鉢、18 世紀代の大堀相馬産掛分碗が側石を伴わない溝の堆積土から出土している。



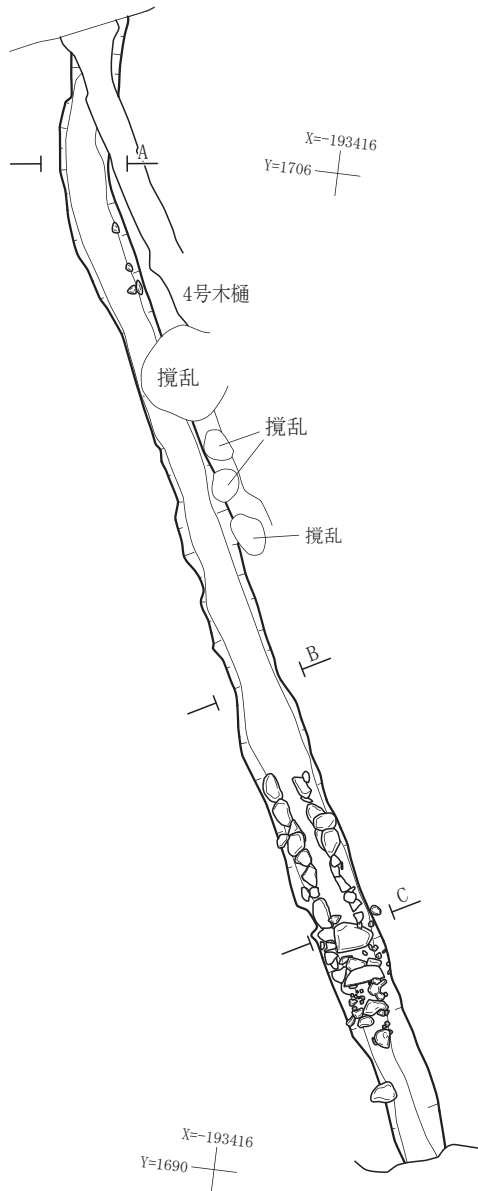
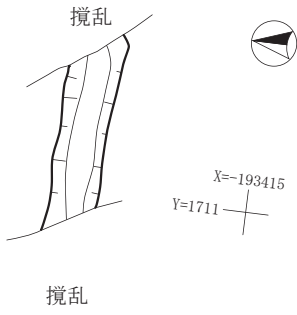
SD3 溝跡 出土遺物観察表 (陶器)

図版番号	写真図版番号	グリッド遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
245-1	116-3	S2-W60 SD3 2層	陶器	鉢	体部	密	—	—	—	(3.6)	唐津	17 世紀?		I-5
245-2	116-4	S2-W60 SD3 3層	陶器	碗	体部	密	灰釉鉄釉掛分	—	—	(1.75)	大堀相馬	18 世紀	掛け分け碗	I-6

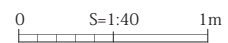
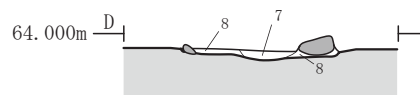
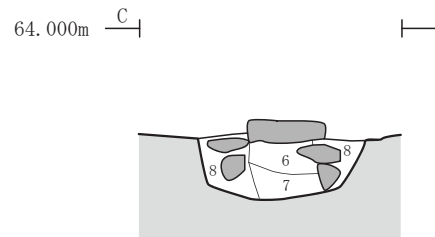
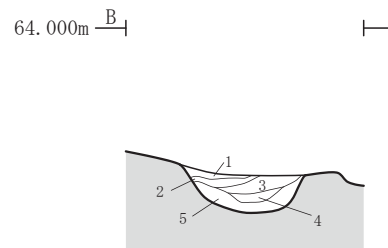
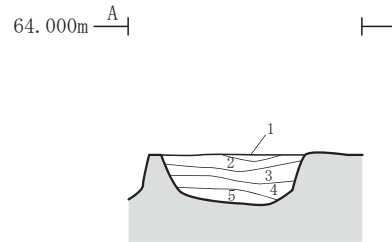
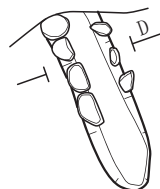
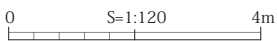
第 245 図 SD3 溝跡 出土遺物



第 246 図 III区III層上面遺構配置図



2号池



第3節 III区

SD3 溝跡 土層注記表

部位	層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
		No.	色				
素掘部分	1	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	あり	径 3 cm以下の礫少量、酸化鉄多量
	2	10YR5/6	黄褐色	粘土質シルト	あり	あり	径 5 cm以下の礫少量、炭化物微量
	3	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	あり	径 10 cm以下の礫多量、炭化物少量
	4	10YR3/4	暗褐色	シルト質粘土	あり	あり	
	5	10YR5/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	あり	径 10 cm以下の礫少量、酸化鉄多量
石組部分	6	5Y3/1	オリーブ黒色	シルト質砂	なし	なし	砂粒多量 水成堆積土
	7	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質砂	なし	なし	砂粒多量 水成堆積土
	8	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	

第 247 図 SD3 溝跡 平面図・断面図

2) SD4 溝跡 (第 248 ~ 249 図、図版 58-2・73-1 ~ 4)

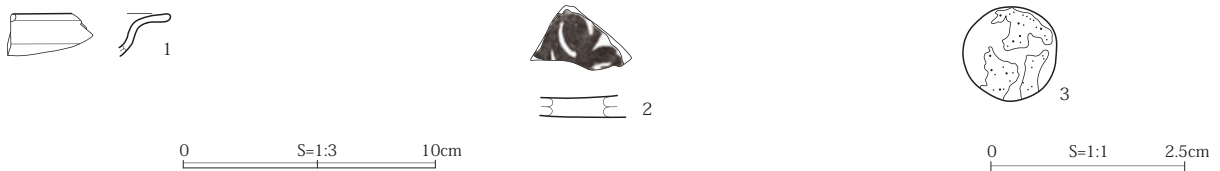
S2-W60・S1-W58 グリッドに位置する。東西方向に直線的に走る石組溝である。西側は SX3 を掘りあげた底面から検出された。東側は当初、別の溝として登録したが、主軸方位・規模が一致することから同一の溝として登録し直した。中央は攪乱によって壊され、西端は 6 号池、中央を 4 号木樋に切られる。東端は調査区外へ延びる。

確認された規模は、中央の攪乱部の西側で長さ 13.3m、東側で 2.7m、側石の内幅 25 ~ 30cm、掘り方の上幅 1 ~ 1.2m、下幅 70 ~ 90cm、深さ 24 ~ 39cm を測る。主軸方向は N-65°-E を示す。断面形は逆台形を呈する。東端から西端までの距離は 34m である。

側石は 6 号池付近で 15 ~ 40cm の川原石を 2 段積む。SD3 と同様に部分的に側石を伴う溝である。

堆積土は 1 ~ 5 層からなり、1 ~ 3 層は溝内堆積土、4・5 層は掘り方埋土である。西端の 6 号池と交わる部分での断面観察から、6 号池の堆積土が SD4 の堆積土と重複して確認されたため、6 号池と SD4 はほぼ同時期に機能していたものと考えられる。

遺物は 16 世紀末 ~ 17 世紀初頭の唐津産鉄絵皿、17 世紀後半の肥前産折縁皿、金属製の弾が溝内の堆積土中から出土している。



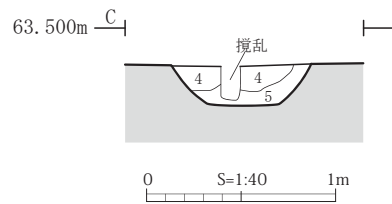
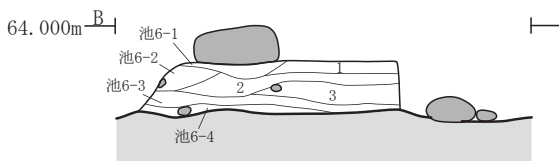
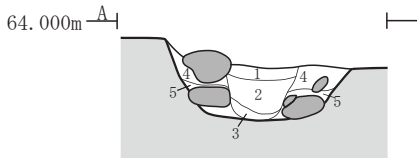
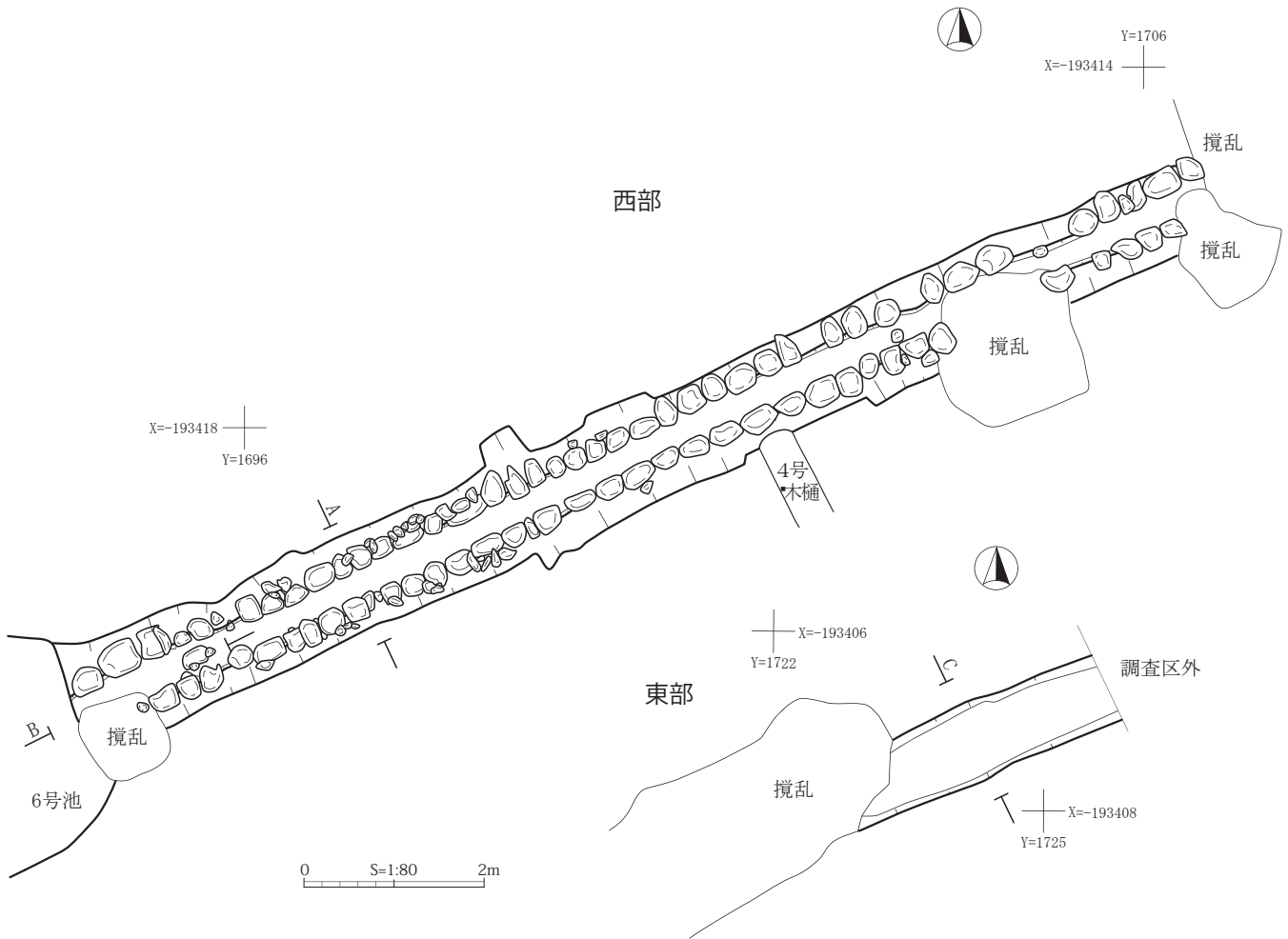
SD4 溝跡 出土遺物観察表 (陶器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
248-1	116-5	S2・3-W60・61	陶器	折縁皿	口縁	密	灰釉・青緑釉	—	—	(1.65)	肥前	17 世紀後半		I-7
		SD4 1 層												
248-2	116-6	S2・3-W60・61	陶器	皿	底部	やや密	鉄絵	—	—	(1.3)	唐津	16 世紀末 ~ 17 世紀初		I-8
		SD4 1 層												

SD4 溝跡 出土遺物観察表 (金属製品)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	部位	法量 (cm・g)				備考	登録番号
					長さ	幅	厚さ	重さ		
248-3	116-7	S 2・3-W60・61	弾	—	1.25	—	—	10.24	一部剥落	N-4
		SD4 1 層								

第 248 図 SD4 溝跡 出土遺物



SD4 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	Na	色				
1	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	砂粒多量 径1~2cmの礫少量
2	10YR3/1	黒褐色	シルト	あり	なし	砂粒多量 径1~2cmの礫少量
3	10YR3/3	暗褐色	シルト質砂	ややあり	なし	砂粒多量 植物遺体少量 水性堆積土
4	10YR2/1	黒色	粘土質シルト	あり	なし	径3~5cmの礫多量
5	7.5Y4/1	灰色	粘土質シルト	あり	あり	径3~5cmの礫多量

第249図 SD4 溝跡 平面図・断面図

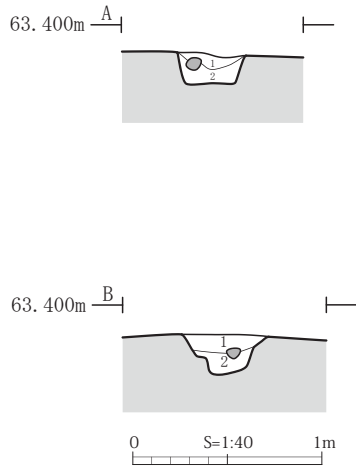
第3節 III区

3) SD10 溝跡 (第 250 図、図版 74-1 ~ 3)

S1-W58 ~ S2-W601 に位置する。東西方向に走る素掘りの溝である。西側を攪乱によって壊され、中央から西側にかけて 4 号木樋に切られる。東端は調査区外へ延びる。西端はその先に延びていた痕跡なく、途切れるものと思われる。

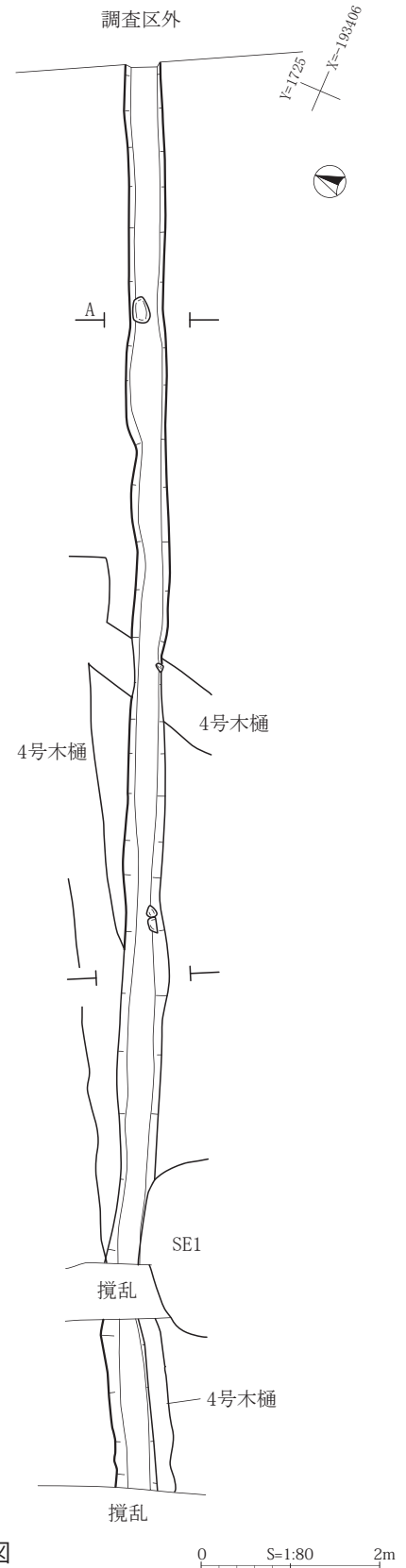
確認された規模は長さ 29m、上幅 32 ~ 52cm、下幅 20 ~ 28cm、深さ 20 ~ 25cm を測る。主軸方向は N-67° -E を示す。断面形は開いた U 字形を呈する。堆積土は 2 層からなる。2 層はラミナ構造が見られ、水成堆積土と考えられる。

遺物は出土していない。



SD10 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	Na	色				
1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土質シルト	あり	あり	1 ~ 5 mm の黄褐色砂質シルト粒、1 ~ 5 mm の白色粘土粒、1 ~ 2 mm の炭化物粒多量、小礫少量
2	10YR2/1	黒色	粘土	あり	あり	砂互層状に多量 小礫少量



第 250 図 SD10 溝跡 平面図・断面図

4) SD14 溝跡 (第 251・253 図、図版 74-6～7・75-1)

S4-W64～S5-W65 グリッドに位置し、L 字状に屈曲する石組溝である。SK33 を切り、所々攪乱により寸断される。東端は攪乱によって壊され、その先に続いていたかは不明である。北端は調査区外へ延びる。

確認された規模は、南北の長さ 10m、東西の長さ 9.3m、側石と側石の内幅 30～37cm、掘り方の幅 95～130cm、深さ 13～18cm を測る。主軸方向は南北が N-40°-E を、東西が N-65°-W を示す。断面形は皿状を呈する。

側石には 18～33cm の川原石が主に使われるが、南北方向の東側石の内側に長さ 30～38cm の細長い切り石が 2 個置かれているのが検出された。側石はすべて 1 段のみ遺存する。

堆積土は 6 層からなり、1～4 層は溝内堆積土、5・6 層は掘り方埋土である。L 字に曲がることから、屋敷境を示す区画溝の可能性がある。

遺物は 18 世紀前半～中頃の肥前産染付碗、19 世紀前半の堤産小瓶が出土している。



SD14 溝跡 出土遺物観察表 (陶磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録 番号
								口径	底径	器高				
251-1	116-8	S4・3-W65	陶器	小瓶	体部	やや粗	鉄釉	—	—	(3.0)	堤	19 世紀前半		I-15
		SD14 埋土一括												
251-2	116-9	S4・3-W65	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付草花文 (コンニャク印判)	—	—	(3.9)	肥前	18 世紀前半～ 中頃		J-2
		SD14 1 層												

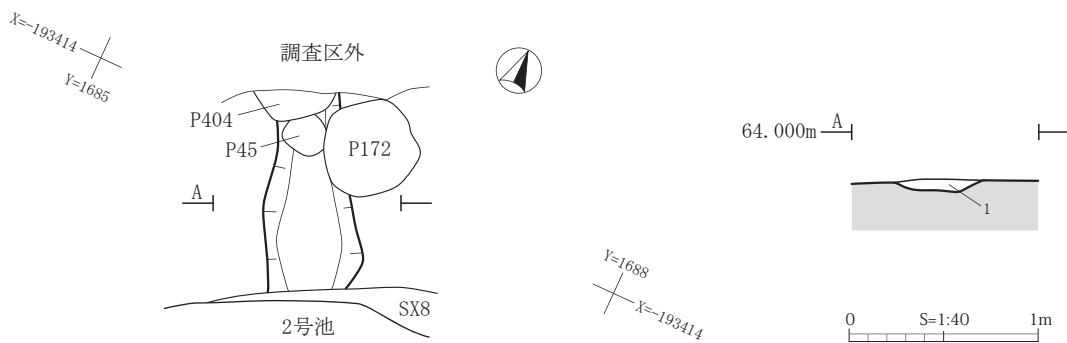
第 251 図 SD14 溝跡 出土遺物

5) SD30 溝跡 (第 252 図、図版 74-4～5)

S2-W62 グリッドに位置する。南北方向に走る素掘りの溝である。南側を 2 号池・SX8 に切られ、北側を P45・P172・P404 に切られる。北側は調査区外に延びるものと思われる。

確認された規模は長さ 1m、幅 50cm、深さ 6cm を測る。主軸方向は N-23°-W を示す。断面形は皿状を呈する。堆積土は黄褐色シルトの単層である。

遺物は出土していない。

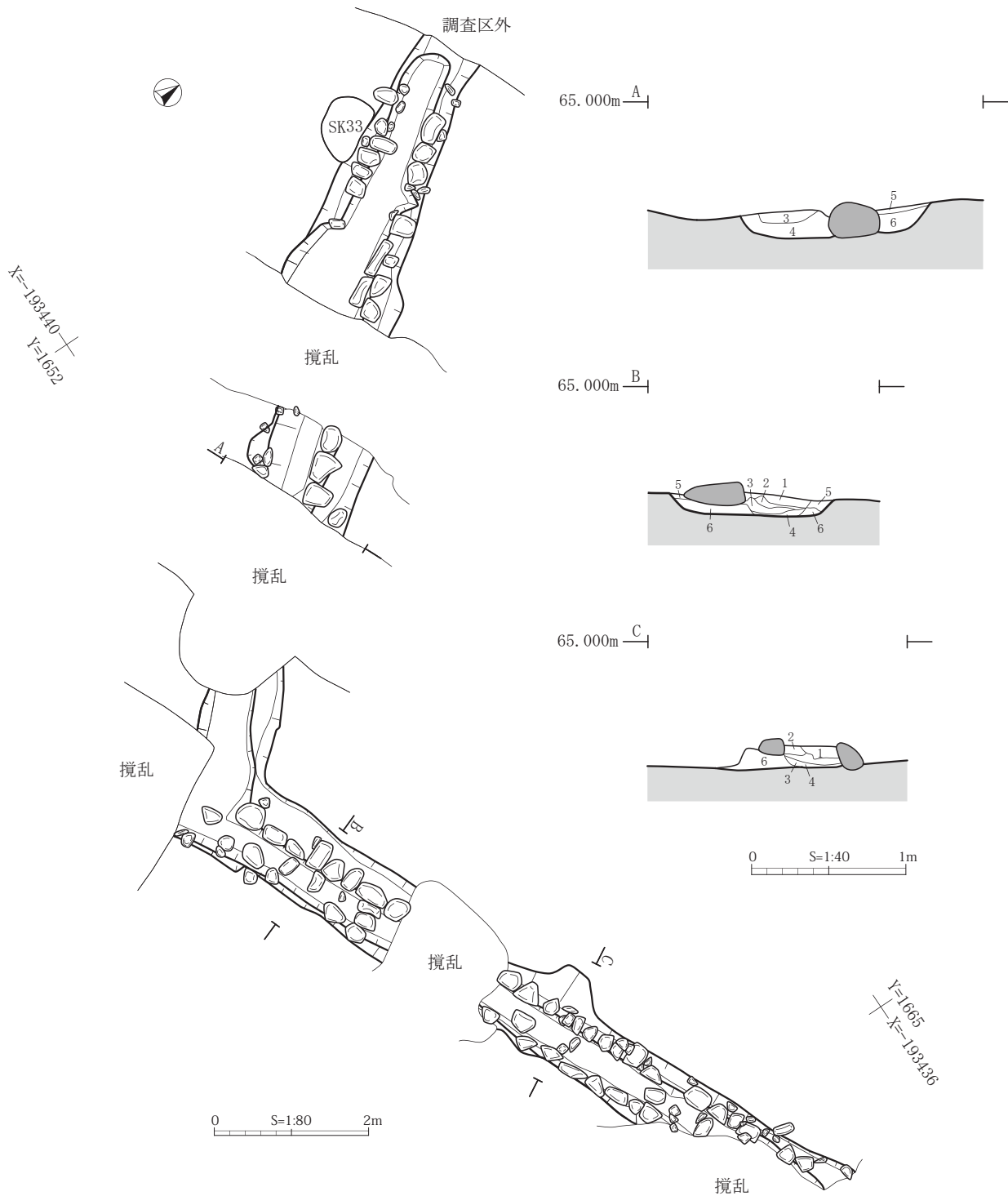


SD30 溝跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No.	色				
1	10YR5/6	黄褐色	シルト	なし	なし	3cm以下暗褐色土粒少量

第 252 図 SD30 溝跡 平面図・断面図

第3節 Ⅲ区



SD14 溝跡 土層注記表

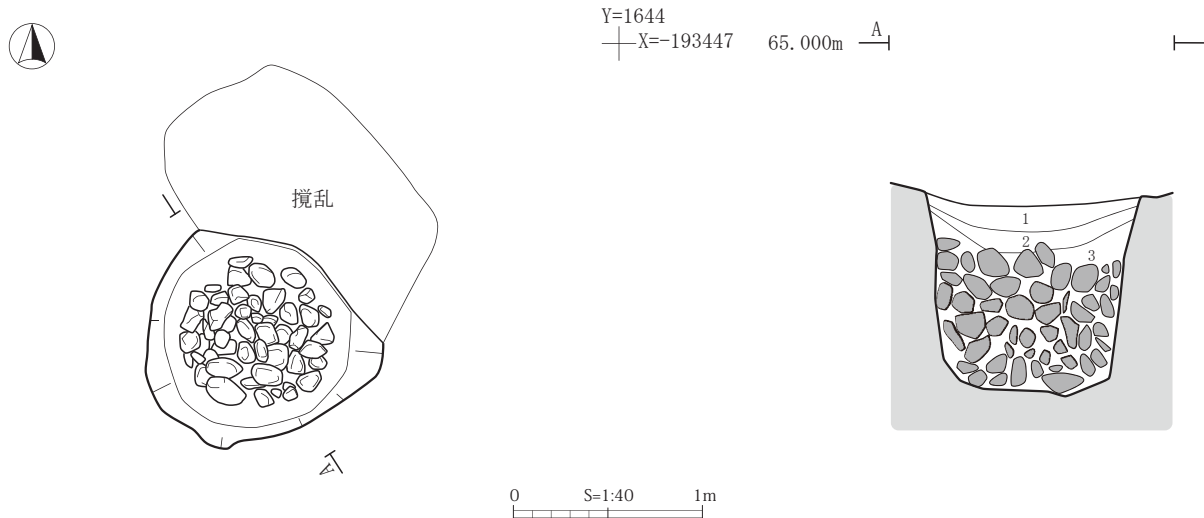
層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No.	色				
1	2.5Y5/1	黄灰色	砂質シルト	なし	ややあり	径 2 cm 以下の礫微量、酸化鉄少量
2	2.5Y4/1	黄灰色	砂質シルト	なし	ややあり	酸化鉄少量
3	10YR3/1	黒褐色	シルト	あり	なし	砂粒多量、径 1 ~ 2cm の礫少量
4	10YR3/3	暗褐色	シルト質砂	ややあり	なし	砂粒多量、植物遺体少量
5	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	黒色砂質シルト多量、ブロック状の褐色砂質シルト少量
6	5Y5/1	灰色	砂質シルト	なし	あり	酸化鉄少量

第 253 図 SD14 溝跡 平面図・断面図

(3) 井戸跡

1) SE2 井戸跡 (第 254 図、図版 75-2 ~ 4)

S5-W66 グリッドに位置する素掘りの井戸である。1 号池の底面で検出した。北側は攪乱によって壊される。確認された規模は長軸 118cm、短軸 108cm、深さ 107cm を測る。平面形は楕円形を、断面形は U 字形を呈する。堆積土は 3 層からなる。1・2 層は堆積状況から埋め戻し土と思われる。3 層は 5 ~ 15cm の礫を多量に含む。遺物は出土していない。



Y=1641
X=-193450

SE2 井戸跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No	色				
1	7.5Y4/1	灰色	粘土	あり	あり	径 20 cm 以下の礫多量、灰オリーブ粘土粒少量
2	5G4/1	暗緑灰色	粘土	あり	なし	径 2 cm 以下の灰白色土粒少量、径 5 cm 以下の礫少量
3	5G4/1	暗緑灰色	粘土質シルト	あり	なし	径 5 ~ 15cm の礫多量

第 254 図 SE2 井戸跡 平面図・断面図

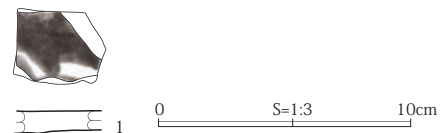
2) SE3 井戸跡 (第 255 ~ 256 図、図版 75-5・76-1 ~ 2)

S2-W62・S3-W62 グリッドに位置する石組井戸である。2 号池の底面を精査している際に検出された。

確認された規模は石組の内径 84 ~ 90cm、掘り方の長軸 187cm、短軸 163cm、深さ 98cm を測る。平面形は楕円形、断面形は中に段を持つ逆凸字状を呈する。石組は 20×30cm ~ 21×40cm の端部を打ち欠いた川原石と無加工のものを円形に乱積みする。

堆積土は 6 層からなり、1・2 層は上位の 2 号池底面の構築粘土が入り込んでいるものと思われる。3 層は井戸内の堆積土で、4 ~ 6 層は掘り方埋土である。

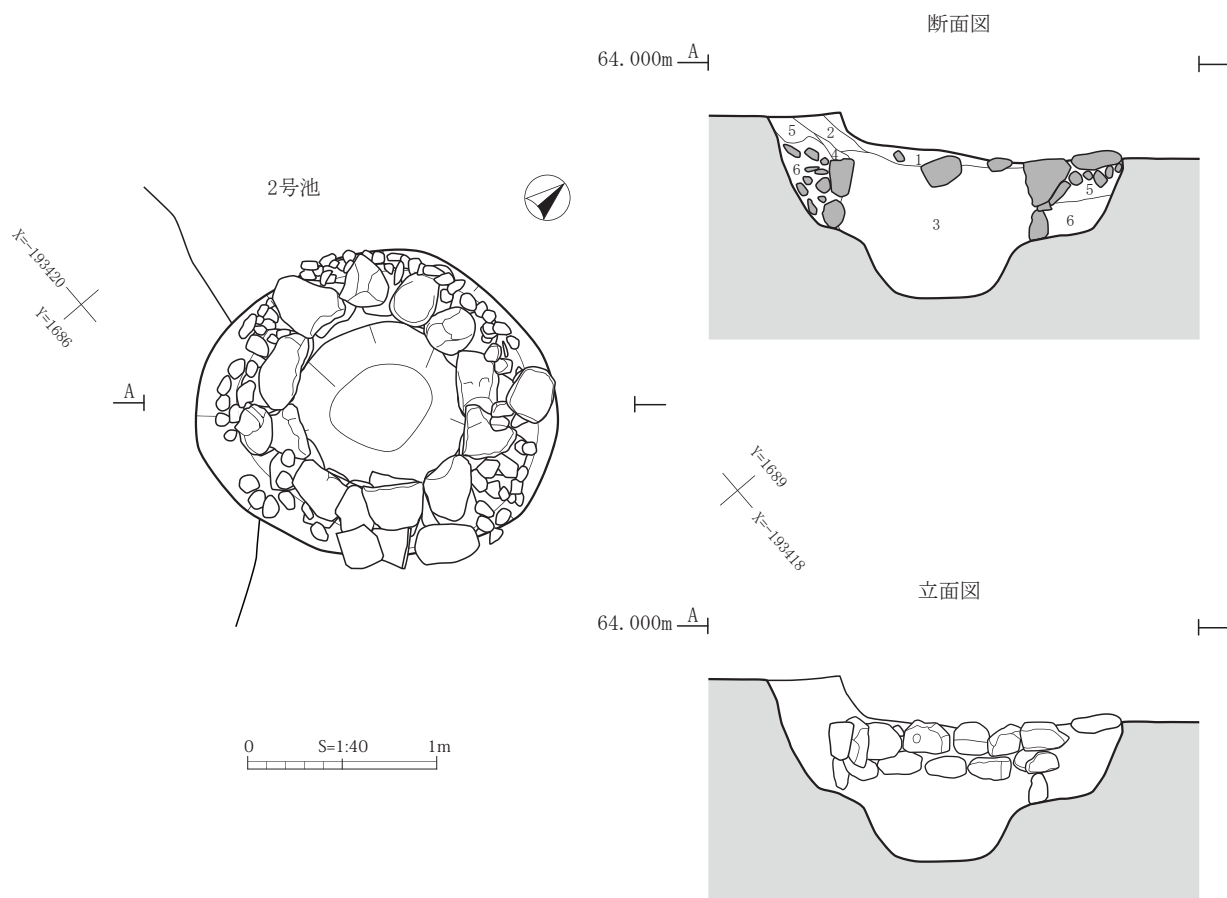
遺物は掘り方埋土より 16 世紀末 ~ 17 世紀前半の中国景德鎮産の皿、瓦等が出土している。



SE3 井戸跡 出土遺物観察表 (磁器)

図版番号	図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
255- 1	116-10	S2・3-W62 SE3 5 層	磁器	皿	底部	緻密	染付	—	—	(0.8)	中国・景德鎮	16 世紀末 ~ 17 世紀前半		J-59

第 255 図 SE3 井戸跡 出土遺物



SE3 井戸跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No.	色				
1	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	なし	炭化物微量
2	10YR4/1	褐灰色	シルト質砂	なし	ややあり	砂多量、酸化鉄多量
3	5Y3/2	オリーブ黒色	粘土	あり	あり	径 30 cm以下の礫多量、砂やや多量
4	5Y6/2	灰オリーブ色	粘土	あり	あり	
5	7.5YR4/4	褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	砂多量
6	10YR3/1	黒褐色	砂質シルト	ややあり	あり	黄褐色土粒多量、炭化物多量

第 256 図 SE3 井戸跡 平面図・断面図

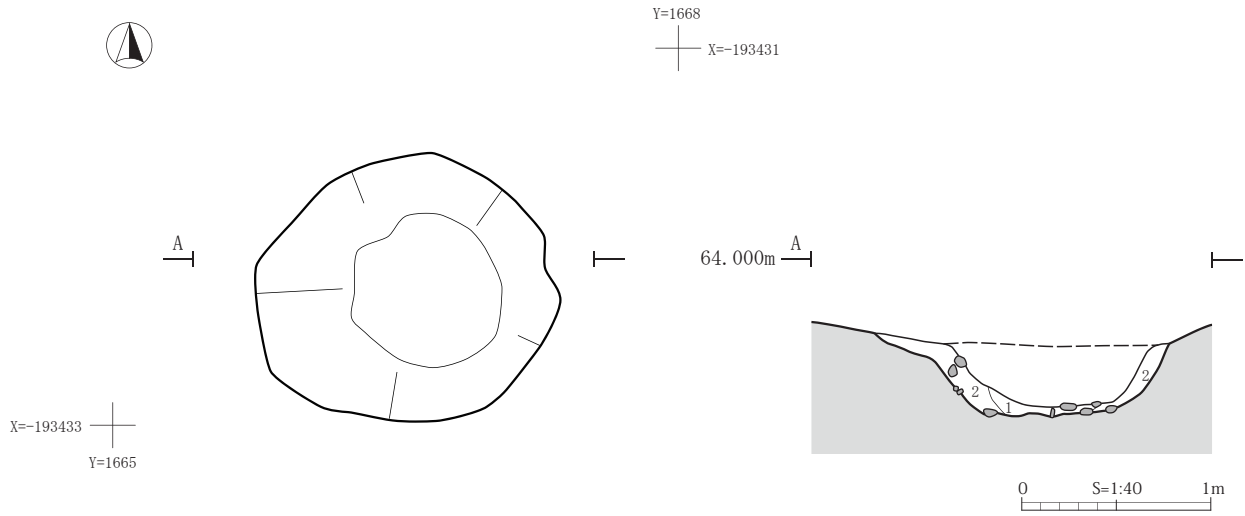
3) SE4 井戸跡 (第 257 図、図版 76-3 ~ 4)

S4-W64 グリッドに位置する素掘りの井戸である。4号池の底面で検出された。

確認された規模は長軸 153cm、短軸 140cm、深さ 37cm を測る。平面形は楕円形、断面形は逆台形を呈する。

堆積土は 2層からなる。

遺物は出土していない。



SE4 井戸跡 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	10YR3/1	黒褐色	粘土	あり	なし	径 2 cm以下の灰白色土粒少量、径 5 cm以下の礫少量
2	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	あり	なし	径 5～15cm の礫少量

第 257 図 SE4 井戸跡 平面図・断面図

(4) 土 坑

1) SK33 土坑 (第 258 図、図版 76-5～6)

S5-W65 グリッドに位置する。SD38 を切り、東側は SD14 によって壊される。

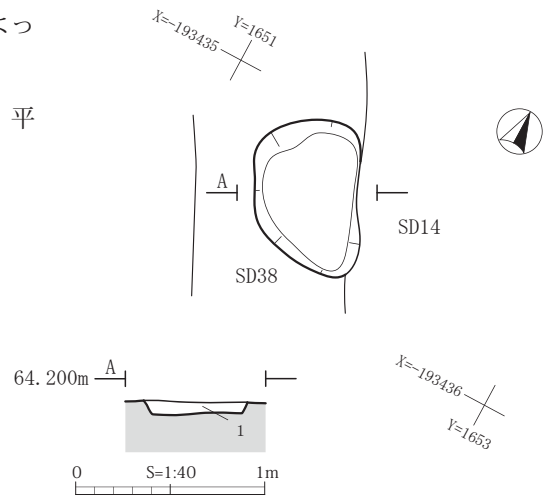
確認された規模は長軸 78cm、短軸 53cm、深さ 6 cm を測る。平面形は楕円形を、断面形は皿状を呈する。

堆積土は砂質シルトの単層である。

遺物は出土していない。

SK33 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	10BG5/1	青灰色	砂質シルト	ややあり	なし	グライ化

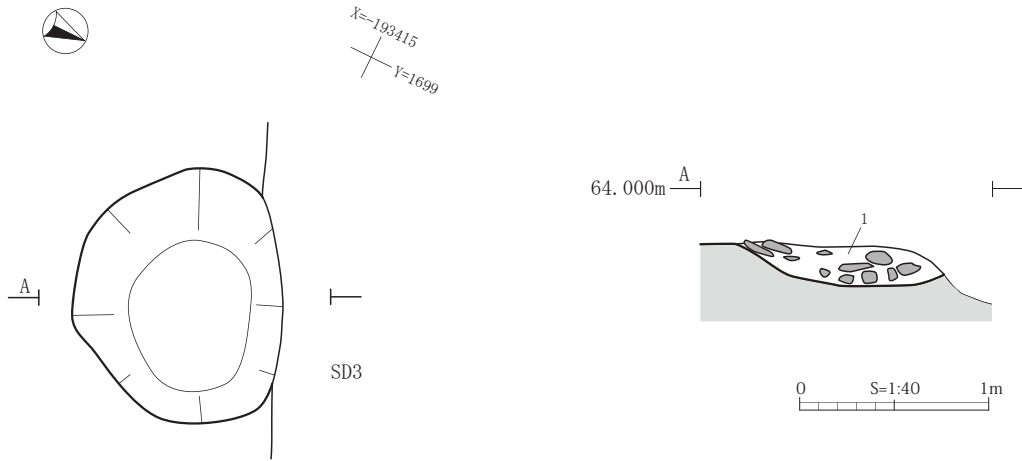


第 258 図 SK33 土坑 平面図・断面図

第3節 III区

2) SK44 土坑 (第 259 ~ 260 図、図版 76-7 ~ 8)

S2-W60・S2-W61 グリッドに位置する。北側は SD3 によって切られる。確認された規模は長軸 94cm、短軸 90cm、深さ 20cm を測る。平面形は楕円形が推定され、断面形は皿状を呈する。堆積土はシルトの単層である。遺物は 19 世紀代の磁器片が出土している。



SK44 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No.	色				
1	2.5Y5/2	暗灰黄褐色	シルト	ややあり	あり	緑灰色土粒やや多量、径 5 ~ 20 cm の礫多量

第 259 図 SK44 土坑 平面図・断面図



SK44 土坑 出土遺物観察表 (磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
260-1	116-11	S2-W60・61 SK44 1層	磁器	皿	口縁~ 体部	緻密	外) 染付草文・ 内) 染付みじん 唐草文	-	-	(2.3)	瀬戸・美濃	19世紀		L-27

第 260 図 SK44 土坑 出土遺物

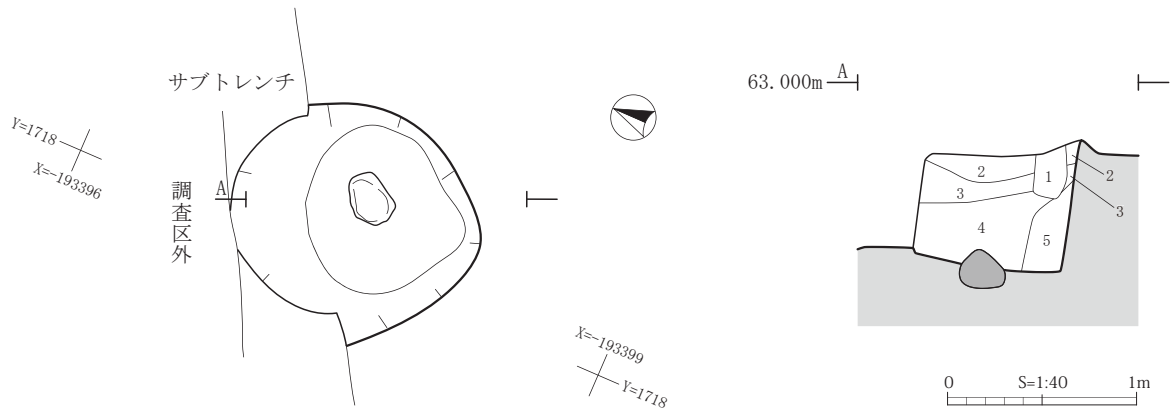
3) SK63 土坑 (第 261 ~ 262 図、図版 77-1 ~ 2)

N1-W59 グリッドに位置する。北側はサブトレンチによって壊す。V層上面で検出したが、調査区北壁の土層観察によりIII層上面の遺構とした。

確認された規模は長軸 132cm、短軸 123cm、深さ 74cm を測る。平面形は楕円形を、断面形は方形を呈する。底面の中央に径 20cm の川原石を据える。柱の礎板石になる可能性もあるが、周辺に対応する柱穴は認められなかった。

堆積土は 5 層からなる。1 層は柱痕もしくは、上位からの打ち込みの杭の跡と思われる。

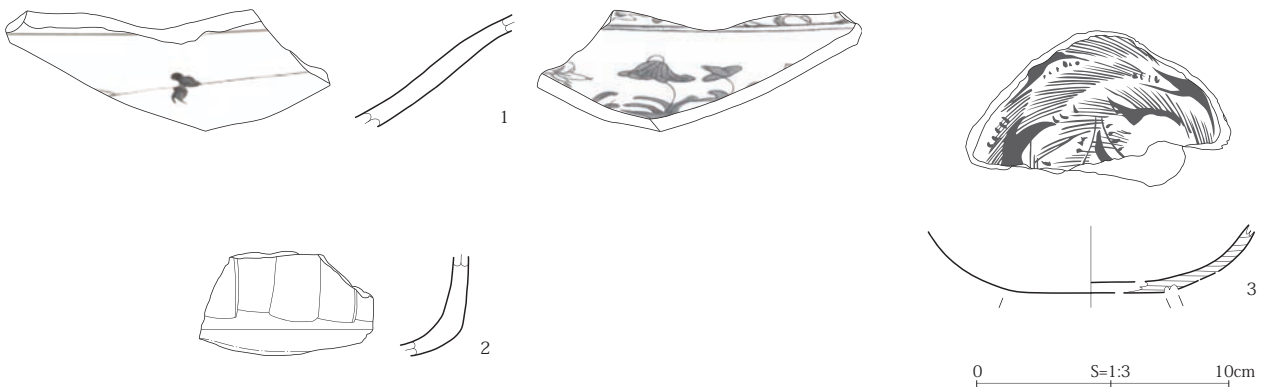
遺物は 17 世紀代の陶磁器のほか、漆器が出土している。



SK63 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	2.5Y4/2	暗灰黄色	シルト	あり	なし	柱痕か
2	2.5Y4/1	黄灰色	シルト	ややあり	ややあり	径 2 cm以下の礫少量
3	5Y3/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	ややあり	ややあり	径 5 mm以下の灰色土粒少量
4	5Y3/1	オリーブ黒色	粘土質シルト	なし	あり	3層より色調明
5	2.5Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	あり	あり	

第 261 図 SK63 土坑 平面図・断面図



SK63 土坑 出土遺物観察表 (陶磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備 考	登録番号
								口径	底径	器高				
262- 1	116-12	N1-W59	磁器	皿	体部	緻密	染付草花文	—	—	(4.5)	肥前	17世紀中頃		J-29
		SK63 3層												
262- 2	116-13	N1-W59	陶器	鉢	体部	—	面取り	—	—	(4.15)	志野	17世紀		I-49
		SK63 4層												

SK63 土坑 出土遺物観察表 (木製品)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備 考	登録番号
				口径	底径	器高		
262- 3	116-14	N1-W59	椀	—	—	(3.0)	内) 千鳥文	L-26
		SK63 4層						

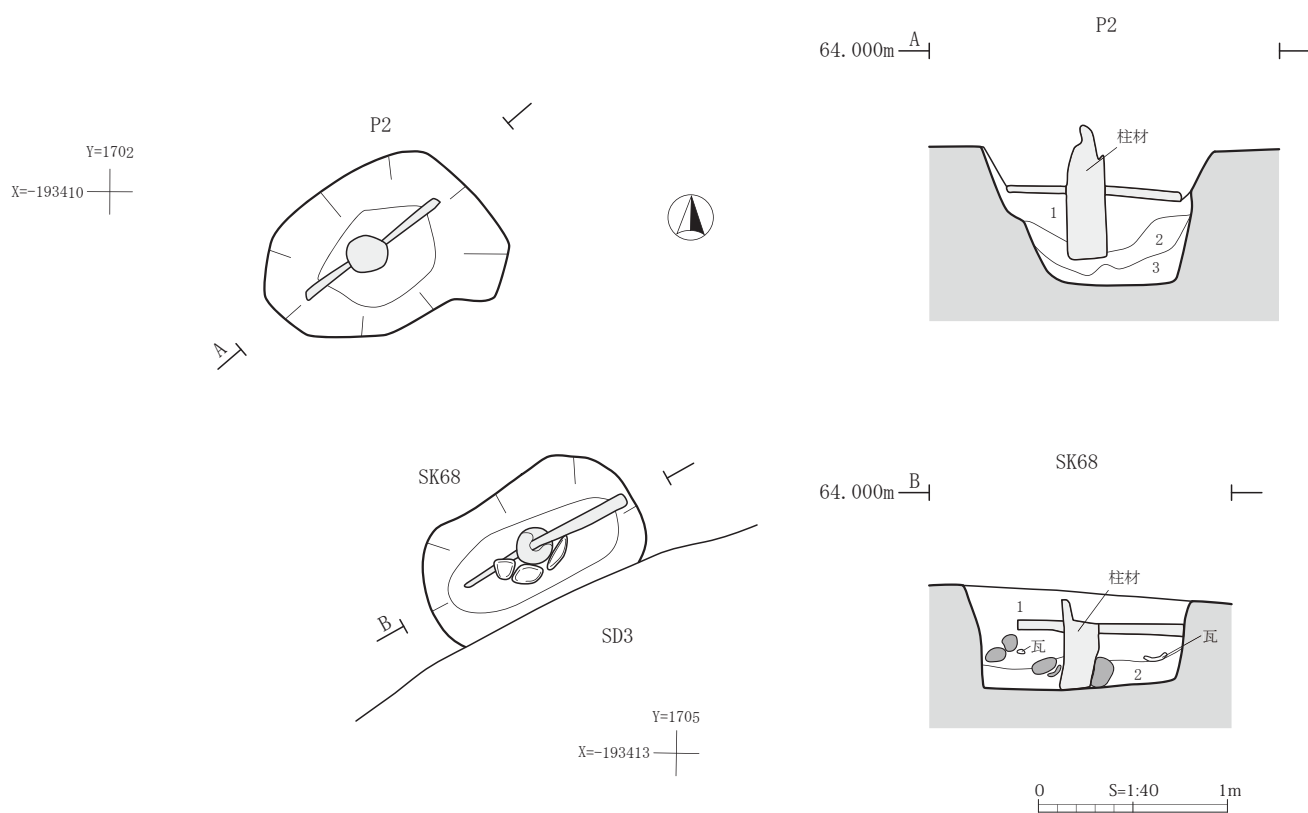
第 262 図 SK63 土坑 出土遺物

4) SK68 土坑・P2 (第 263～264 図、図版 77-3～6)

S2-W60 グリッドに位置する。SK68 と P2 は、共に地中梁を持つ柱材が出土しており、規模も同程度なことから、関連性が認められる。しかし、明確に建物や柱列とするには周辺に類するものが見られないことから、個別に登録した。これらの遺構は地盤沈下防止のため、地中梁を伴う柱を据え、掘り方には石を詰めて固めていた。両遺構の距離は 1.76cm (5 尺 8 寸) を測る。

P2 の規模は長軸 119cm、短軸 84cm、深さ 76cm、SK68 の規模は、長軸 121cm、短軸 81cm、深さ 50cm を測る。堆積土は 2～3 層からなる。

遺物は柱材、瓦等が出土している。SK68 の木柱は年代測定を行い、その結果によると幕末～明治期に伐採された木材を利用している可能性が極めて高い。



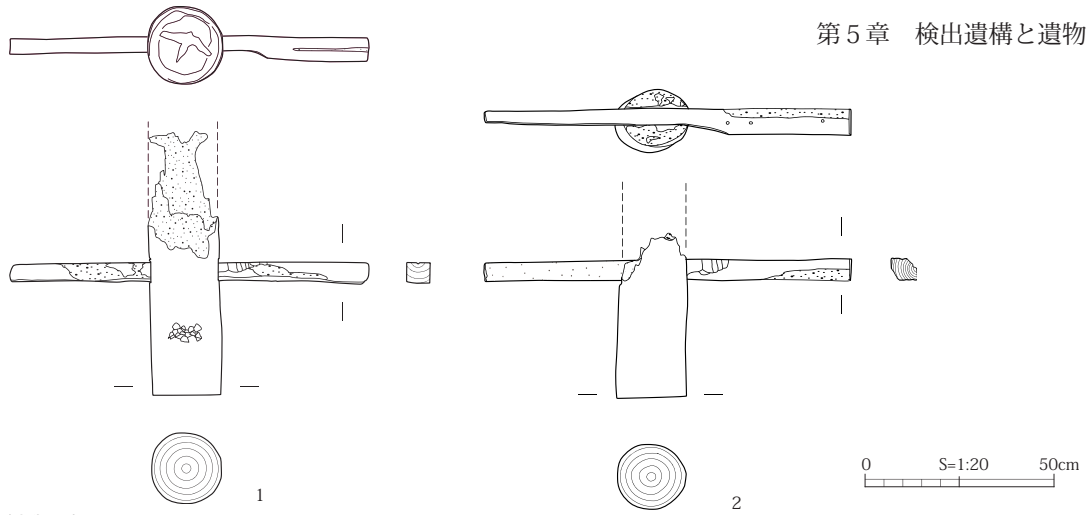
P2 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	10YR4/1	褐灰色	シルト	なし	あり	径 10 cm 以下の礫多量、径 5 cm 以下の黒色土粒やや多量
2	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	なし	
3	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	あり	あり	砂、粗礫多量

SK68 土坑 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	10YR4/1	褐灰色	シルト	なし	あり	径 10 cm 以下の礫多量、径 5 cm 以下の黒色土粒やや多量
2	10YR5/1	褐灰色	粘土質シルト	あり	あり	径 15 cm 以下の礫多量

第 263 図 SK68 土坑・P2 平面図・断面図



P2 出土遺物観察表（木製品）

図版番号	写真図版番号	グリッド	種類	法量 (cm)		備考	登録番号
		遺構・層位		高さ	幅		
264-1	116-15	S2-W60	柱材	(72.0)	20.0	横木長 98.0、厚さ 5.0cm	L-112
		P2					

SK68 土坑 出土遺物観察表（木製品）

図版番号	写真図版番号	グリッド	種類	法量 (cm)		備考	登録番号
		遺構・層位		高さ	幅		
264-2	116-16	S2-W60	柱材	(43.0)	19.0	横木長 97.0、厚さ 5.0cm	L-10
		SK68					

第 264 図 SK68 土坑・P2 出土遺物

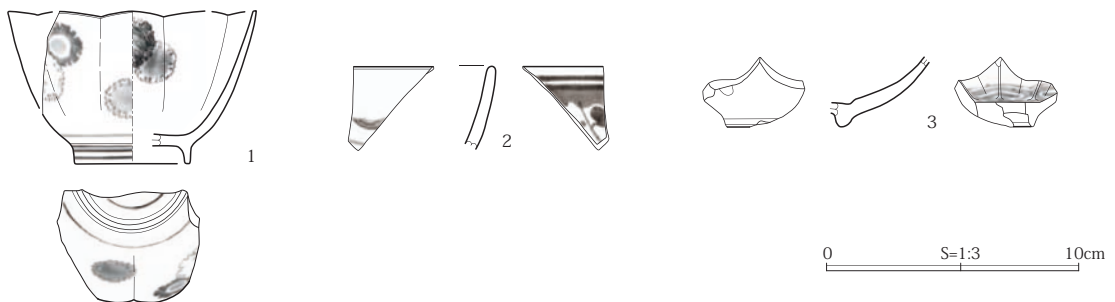
(5) その他の遺構

1) SX3 性格不明遺構（第 265～266 図、図版 77-7～8・78-1～2）

S2-W61・S3-W61 グリッドに位置する。東西方向に広がる締まりの強い硬化面を検出した。部分的な整地跡の可能性もあり、その他の遺構として登録した。

北側は SD3 の南側上端の手前で途切れる。その先には広がらないことから SD3 によって切られるか、または同時期に機能していたものと思われる。西側は 2 号池によって切られ、その先へ続いていた痕跡がないことから途切れるかまたは上位の整地を行う際に削平された可能性も考えられる。南～西側は SD4 と 6 号池を埋め戻した上に載る。確認された範囲は東西 5 m、南北 2.4m で、厚みは最大 17cm を測る。堆積土は硬化した 2 層のシルト質砂、シルトからなる。

遺物は 17 世紀後半～18 世紀前半の肥前産磁器片が 1 層より出土している。

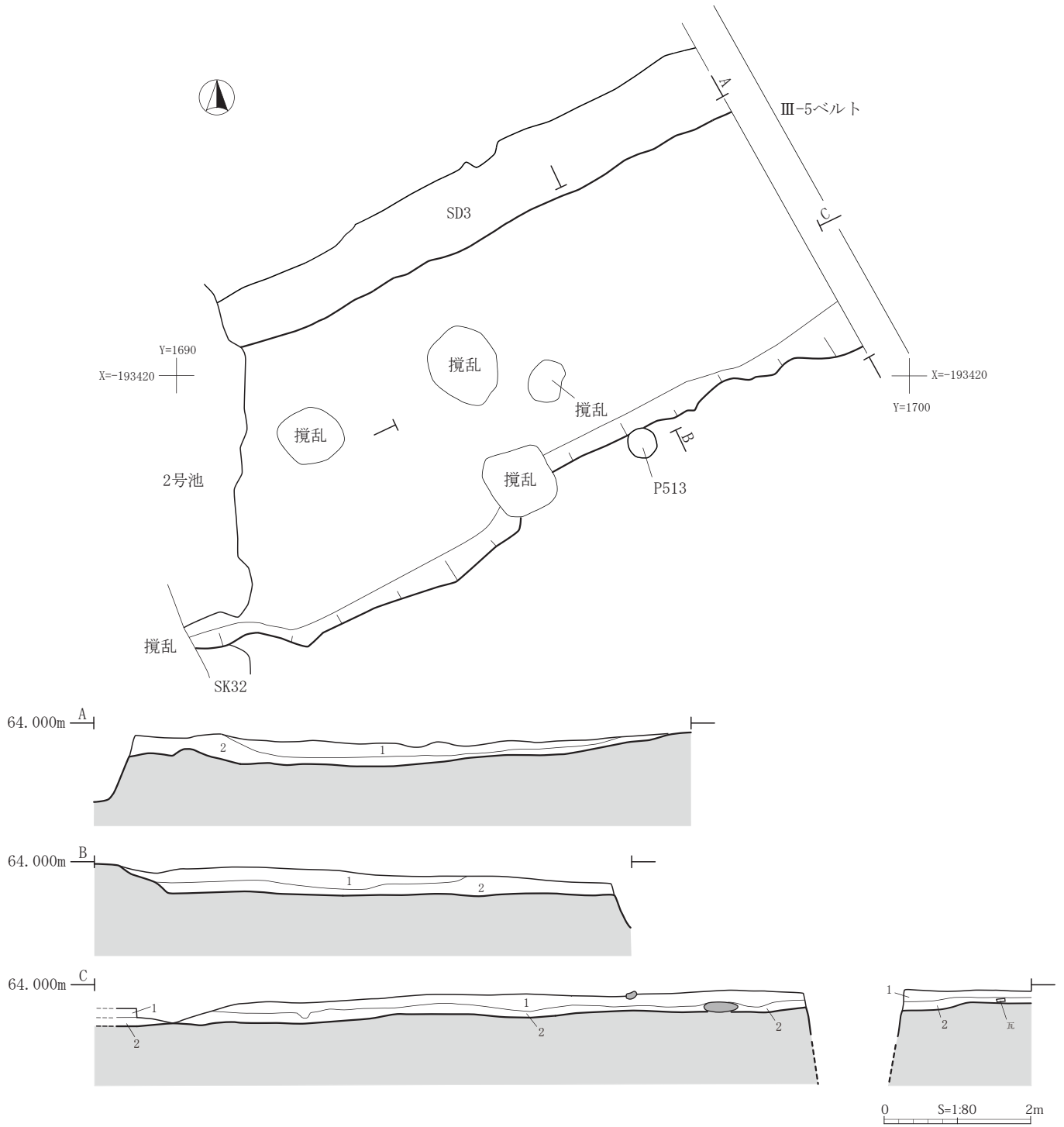


SX3 性格不明遺構 出土遺物観察表（磁器）

図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
		遺構・層位						口径	底径	器高				
265-1	117-1	S2・3-W61 SX3 1層	磁器	輪花鉢	口縁～底部	緻密	染付雪輪文	(9.9)	(4.5)	6.1	肥前	17世紀末～18世紀前半		J-64
265-2	117-2	S2・3-W61 SX3 1層	磁器	皿	口縁～体部	緻密	染付	—	—	(3.4)	肥前	近世		J-65
265-3	117-3	S2・3-W61 SX3 1層	磁器	輪花皿	体部～底部	緻密	染付	—	—	(2.8)	肥前	17世紀代後半		J-66

第 265 図 SX3 性格不明遺構 出土遺物

第3節 III区



SX3 性格不明遺構 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	Na	色				
1	7.5YR3/2	黒褐色	シルト質砂	なし	あり	酸化鉄を層状に多量
2	10YR4/1	褐灰色	シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄・砂やや多量

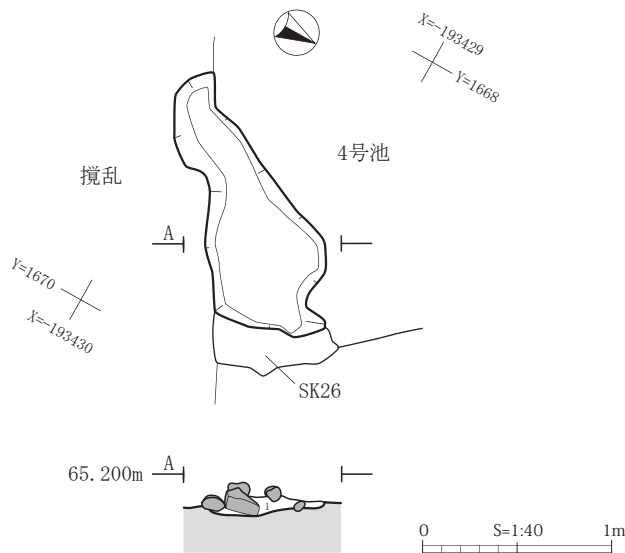
第266図 SX3 性格不明遺構 平面図・断面図

2) SX6 性格不明遺構 (第 267 ~ 268 図、図版 78-3 ~ 4)

S3-W64・S4-W64 グリッドに位置する。4号池の底面に敷かれた玉石と礫を取り除く際に検出した。SK26 を切り、4号池に上部を削平され、南側は攪乱によって壊される。

確認された規模は長軸 1.65m、短軸 24 ~ 62cm、深さ 24cm を測る。平面形は不整形を、断面形は皿状を呈する。堆積土は粘土質シルトの単層で礫を多量に含んでいる。

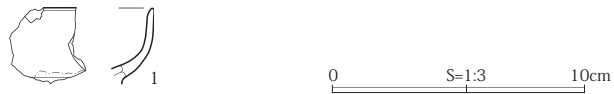
遺物は 18 世紀後半の大堀相馬産小鉢、瓦等が出土している。



SX6 性格不明遺構 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No.	色				
1	10YR3/3	暗褐色	粘土質シルト	ややあり	なし	20 cm以下の礫多量、砂少量

第 267 図 SX6 性格不明遺構 平面図・断面図



SX6 性格不明遺構 出土遺物観察表 (陶器)

図版番号	写真図版番号	グリッド遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
268-1	117-4	S3・4-W64 SX6 1層	陶器	小鉢	口縁～体部	密	白濁釉	—	—	(3.0)	大堀相馬	18世紀後半		I-90

第 268 図 SX6 性格不明遺構 出土遺物

3) 4号木樋 (第 269～270 図、図版 78-5～8・79-1～2)

N1-W58～S3-W60 グリッドに位置する。新旧2時期ある木樋である。木樋と柵の標高差から水は北方向へ流していたものと考えられる。

[新段階] 木樋3条、柵1基が検出された。遺存状態は悪く、木樋の本数は不明である。調査区南壁から北方向 N-27°-W に走る木樋は北側を攪乱によって壊され、3m が残存する。蓋板を留めるのに使われた舟釘が身に打ち込まれた状態で検出され、30cm 前後の間隔で平行に蓋板が留められていたことが窺える。南端から北に6m 走った地点で、樋線を東方向 N-61°-E に変えるが、柵等の接続具は検出されていない。東方向に走る木樋は柵までの距離25m を測り、底部の一部が残存するだけでほとんどが痕跡を残すだけである。

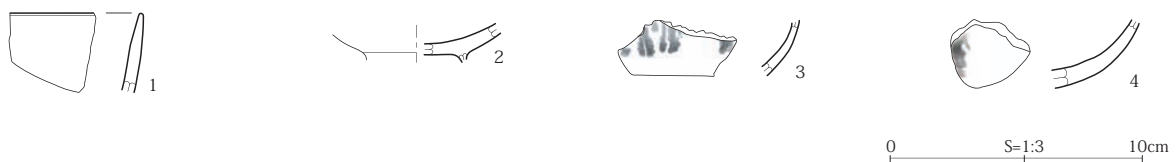
3箇所木樋とは違う木材の痕跡が確認された。西側のものはわずかに木質が残り 27×36cm、高さ16cm を測る角材であったと思われる。中央のものは 34×52cm の痕跡、東側のものは 25×31.5cm の痕跡である。いずれも下部には川原石が置かれている。木樋の下部に敷く枕木か、または継手が推定される。柵から北方向 N-13°-E に走る木樋は9.3m 先で調査区外へ延びる。底部がわずかに残るが、ほとんどは痕跡だけである。柵の北側板から82cm 北で 23×27cm の木材の痕跡が検出された。柵に近いことから木樋の重量が直接柵の差し込み口にかからないように置いた枕木の痕跡と思われる。木樋を設置した掘り方の規模は幅39～66cm、深さ23cm を測る。底面はほぼ平坦で、断面形は開いたU字形を呈する。

柵は底板と4枚の側板からなる。側板の遺存状態は悪く、木樋の差し込み口は検出されなかった。横長の側板には縁より4.8cm 内側にホゾ溝が切れ、もう一方の側板をはめ込んだ外側から和釘で固定している。底板は長さが揃いな2枚の板材からなる。ホゾ溝は切られず、裏から和釘で側板を固定している。見当線はなく、釘を打った際のげんのうの痕跡が多数見られた。柵を設置した掘り方の規模は長軸1.1m、短軸90cm、深さ22cm を測る。平面形は不整形を呈し、断面形は浅い逆台形を呈する。

[古段階] 木樋の痕跡がわずかに検出された。柵から南方向に6.21m 走り、攪乱に分断されて調査区外へ延びる。主軸方向は N-13°-E を示し、柵から北に走る木樋と同一である。もともとは南北方に直線的に繋いだ木樋によって北方向に水を流していたものと考えられる。

木樋を埋設した掘り方の規模は長さ7.4m、幅45～64cm、深さ10～15cm を測る。

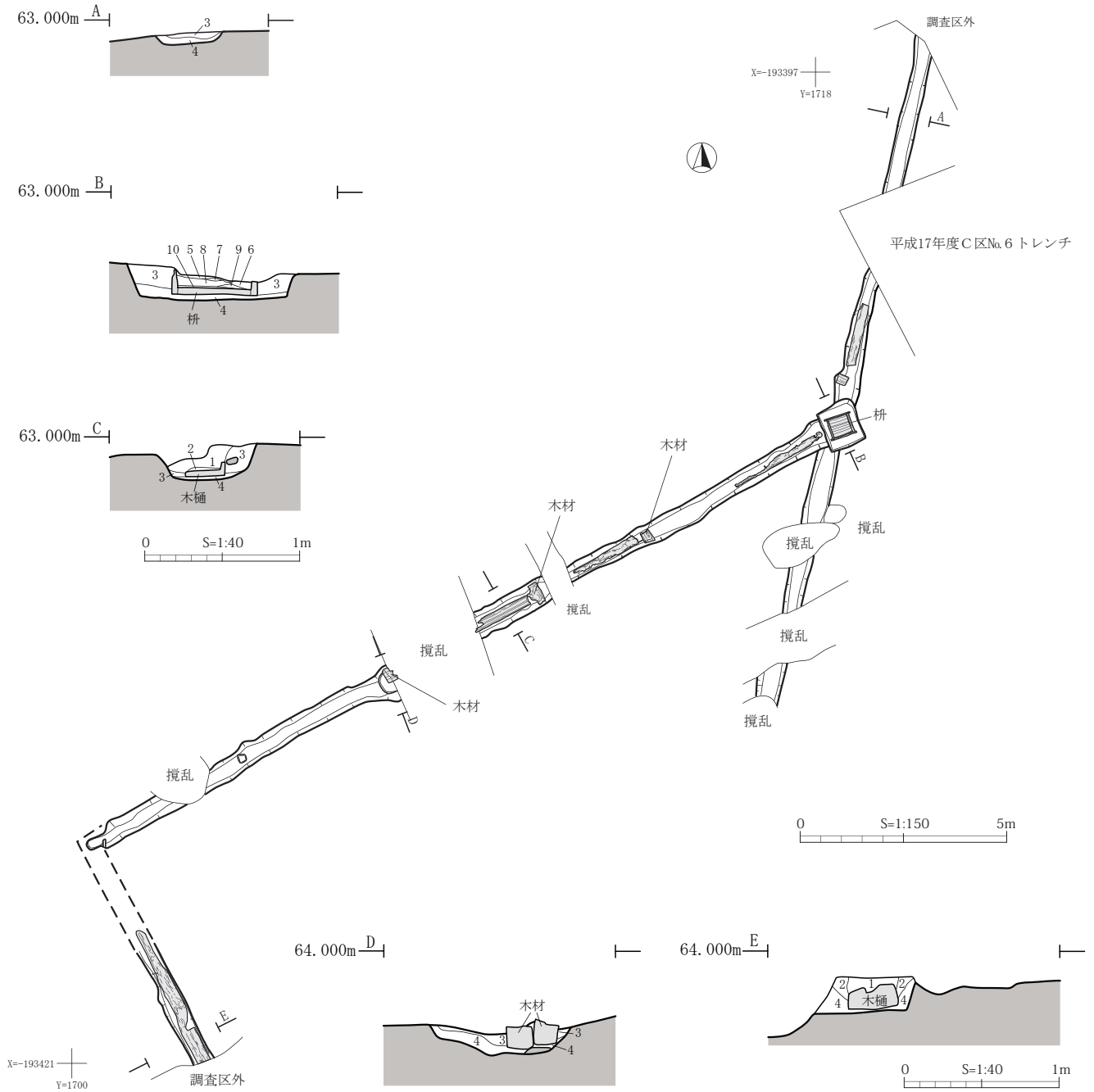
遺物は新段階の木樋の掘り方から18世紀代の大堀相馬産陶器、肥前産陶器、瓦等が出土している。



4号木樋 出土遺物観察表 (陶器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
269-1	117-5	S3-W60	陶器	碗	口縁～体部	密	灰釉	—	—	(3.2)	大堀相馬	18世紀		I-1
		4号木樋 埋土一括												
269-2	117-6	S3-W60	陶器	碗	底部	密	—	—	—	(1.5)	肥前	近世		I-2
		4号木樋 埋土一括												
269-3	117-7	S3-W60	陶器	碗?	体部	密	緑釉流し掛け	—	—	(2.2)	大堀相馬	18世紀		I-3
		4号木樋 埋土一括												
269-4	117-8	S3-W60	陶器	碗?	体部	密	緑釉流し掛け	—	—	(2.4)	大堀相馬	18世紀		I-4
		4号木樋 埋土一括												

第 269 図 4号木樋 出土遺物



4号木樋 土層注記表

部位	層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
		No.	色				
掘り方	1	10R4/4	赤褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径1cm以下の礫少量
	2	10R3/6	暗赤色	砂質シルト	ややあり	ややあり	径2cm以下の礫少量
	3	7.5YR4/1	褐灰色	シルト	あり	あり	径1cmの礫、径5mm以下の炭化物を微量
	4	7.5YR4/1	褐灰色	シルト	あり	あり	径5cm以下の礫多量
桁内堆積土	5	2.5Y3/2	黒褐色	粘土	あり	ややあり	細粒砂微量
	6	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質砂	なし	なし	
	7	7.5YR5/6	明褐色	砂	ややあり	なし	
	8	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	粘土	なし	あり	細粒砂極微量
	9	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	あり	なし	細粒砂微量
	10	2.5Y4/1	黄灰色	粗砂	なし	なし	

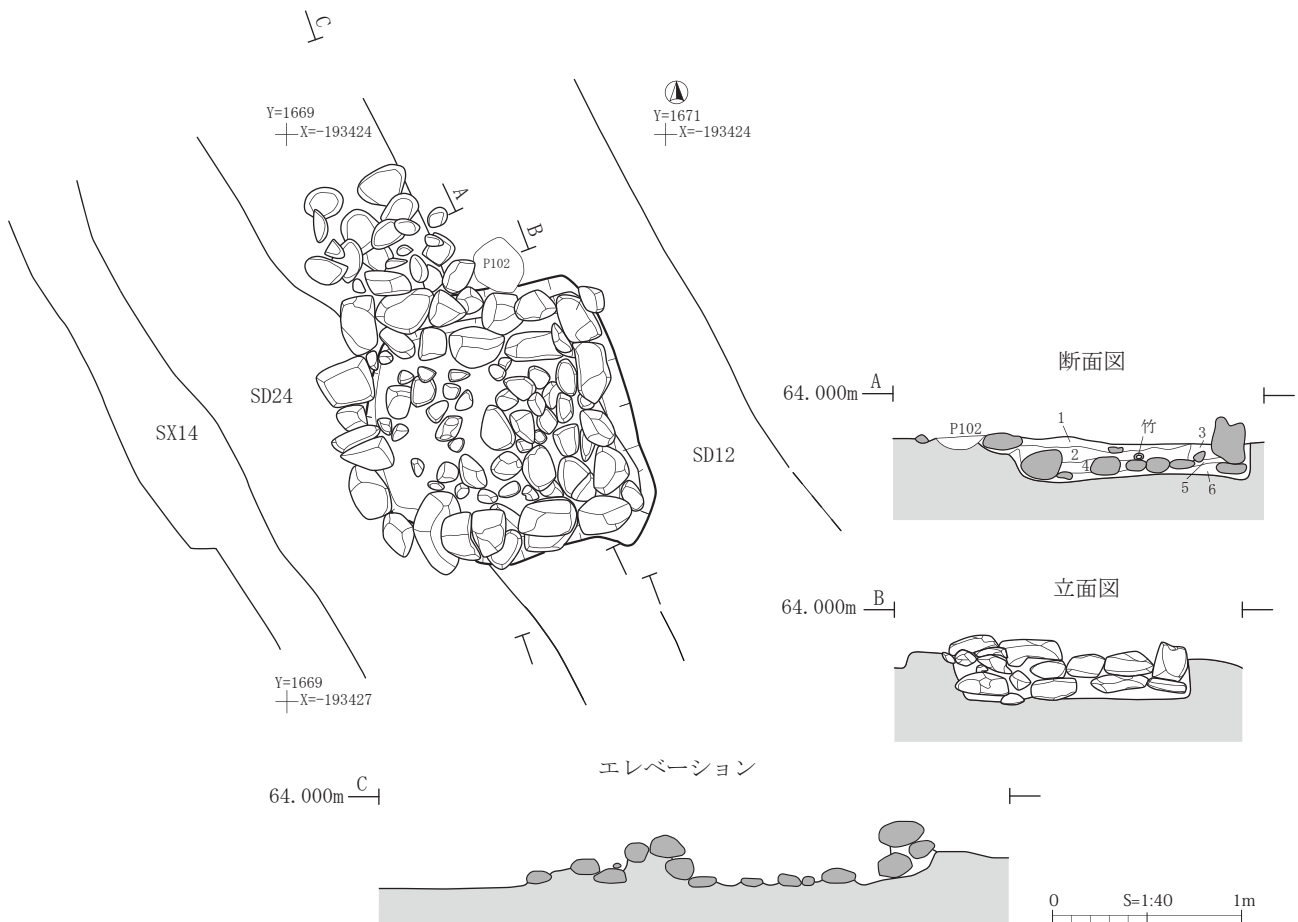
第270図 4号木樋 平面図・断面図

4) 2号柵状遺構 (第 271 ~ 272 図、図版 79-3 ~ 5)

S3-W63 グリッドに位置する。SD12・SD24・SX14 を切る。15×20 cm～26×44 cmの川原石を主に用いて平面形が菱形を呈する側壁を築く。東側壁は3段、南側壁は2段積み、西側壁は1段のみ遺存する。北側壁は段掘りした上に石を載せて2段造り、そこから北方向に緩やかに下り傾斜する長さ 68cm、幅 54cm の石列が検出された。底面には 12～25 cmの扁平な川原石が施されている。東側は密に敷かれ、西側はまばらである。

確認された石組みの規模は側壁の内法が南北 1m、東西 1.02m、石敷き面までの深さは 24cm を測る。掘り方の規模は南北 1.45m、東西 1.36m、深さ 30cm を測り、平面形は不整形を呈す。堆積土は 6 層からなる。

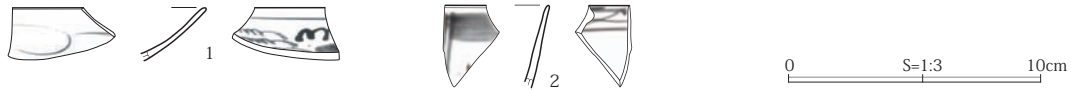
遺物は 19 世紀代の磁器片が底面付近より出土している。



2号柵状遺構 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No.	色				
1	2.5 Y 3/1	黒褐色	砂質シルト	なし	あり	礫少量、砂多量、木片微量に含む
2	2.5 Y 4/3	オリーブ褐色	砂	なし	あり	酸化鉄多量、2.5Y4/2 砂質シルト少量
3	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	なし	砂多量
4	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	あり	2.5Y6/2 灰黄色砂(細砂)を少量、酸化鉄微量
5	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	あり	なし	酸化鉄少量
6	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	ややあり	ややあり	酸化鉄多量

第 271 図 2号柵状遺構 平面図・断面図



2号枡状遺構 出土遺物観察表 (磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
272- 1	117-9	S3-W63	磁器	皿	口縁～体部	緻密	草文・みじん唐草文	—	—	(2.5)	瀬戸・美濃	19世紀中頃	J-83	
		2号枡 5層												
272- 2	117-10	S3-W63	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付	—	—	(3.6)	肥前	19世紀	J-84	
		2号枡 5層												

第272図 2号枡状遺構 出土遺物

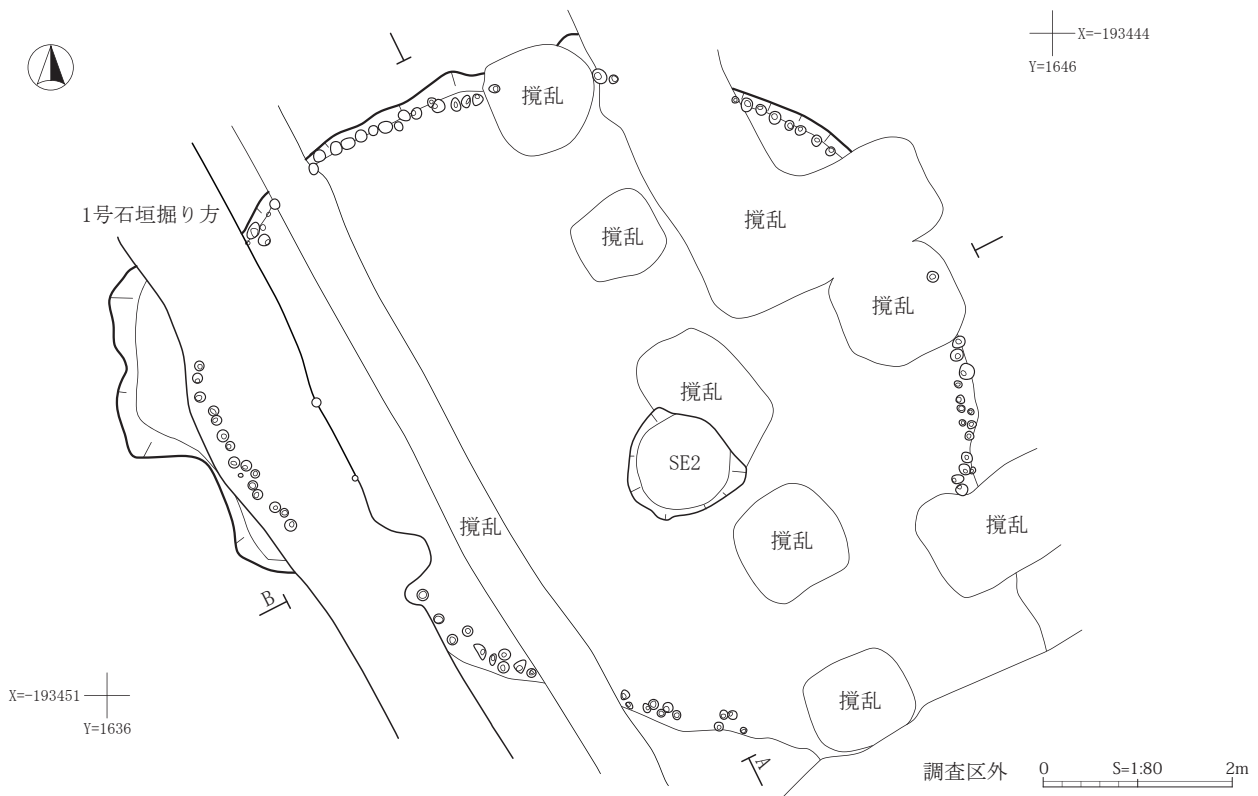
5) 1号池 (第273～276図、図版80-1～3)

S5-W66～S6-W67グリッドに位置する。西側は1号石垣によって壊されるが、石垣の掘り方部分で池の周囲に巡らされた杭列を検出した。東側も石垣造成時に削平を受けているが、池底部が残存しており、形状や規模を推定することができる。さらに南東部は調査区外に及んでいる。

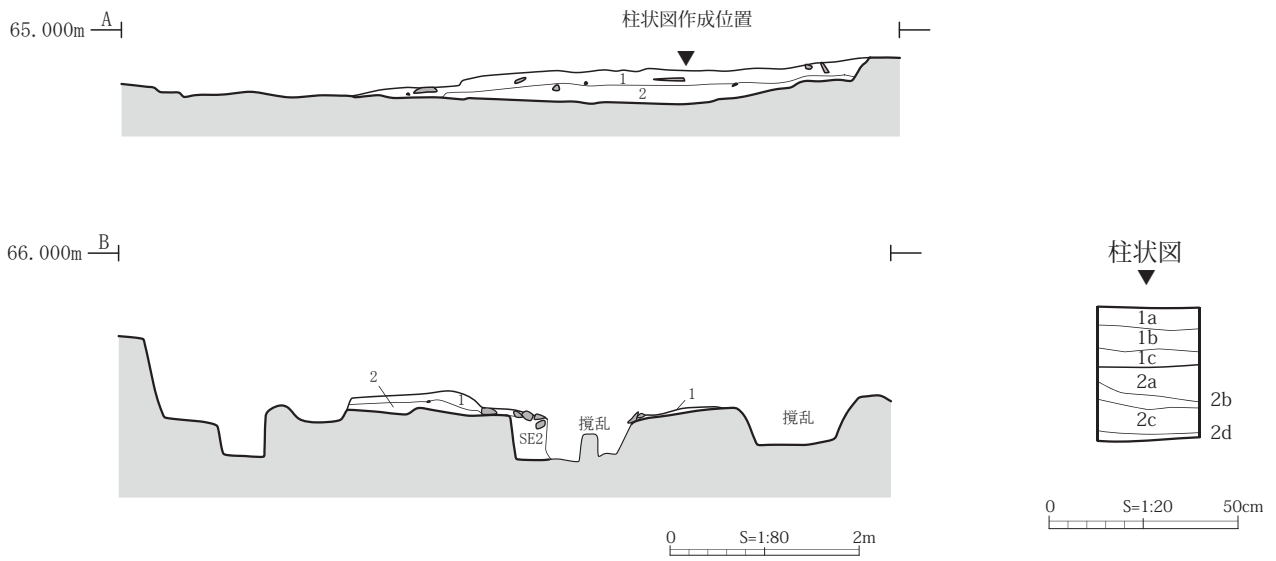
池の平面形は長円形を呈し、周囲に径10～13cmの杭を密に巡らしている。底面に玉石などは見られない。確認された規模は東西8.2m、南北7.2m、最深部は80cm以上である。

堆積土は2層からなり、1層は1a～1cの3層に、2層は2a～2dの4層に細分できる。砂を互層状に多量に含む。

遺物は堆積土中から陶磁器、瓦、木製品、金属製品などが多く出土した。陶磁器は切込産皿、産地不明の鉢など19世紀前半のものが主体を占める。瓦は棟瓦が多く、刻印が施されているものがある。木製品は建築廃材が多く、焼印が押された桶の側板や、墨書がある木札等も出土した。金属製品は引き手などである。



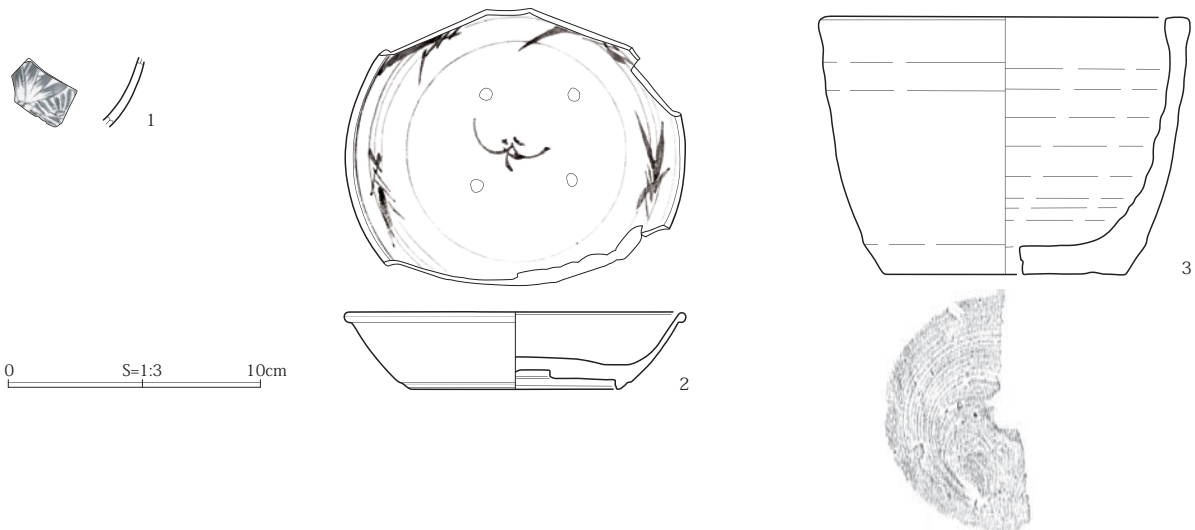
第3節 III区



1号池 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No.	色				
1a	10YR4/4	褐色	シルト	なし	なし	黄褐色土粒多量、径1cm以下の暗褐色土粒少量
1b	10YR3/3	暗褐色	砂	なし	なし	
1c	10YR4/4	褐色	砂	なし	なし	
2a	10YR3/3	暗褐色	砂	なし	なし	
2b	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	なし	なし	径5mm以下の黄褐色土粒少量
2c	10YR5/1	褐灰色	砂	なし	なし	
2d	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	なし	なし	径5mm以下の黄褐色土粒少量

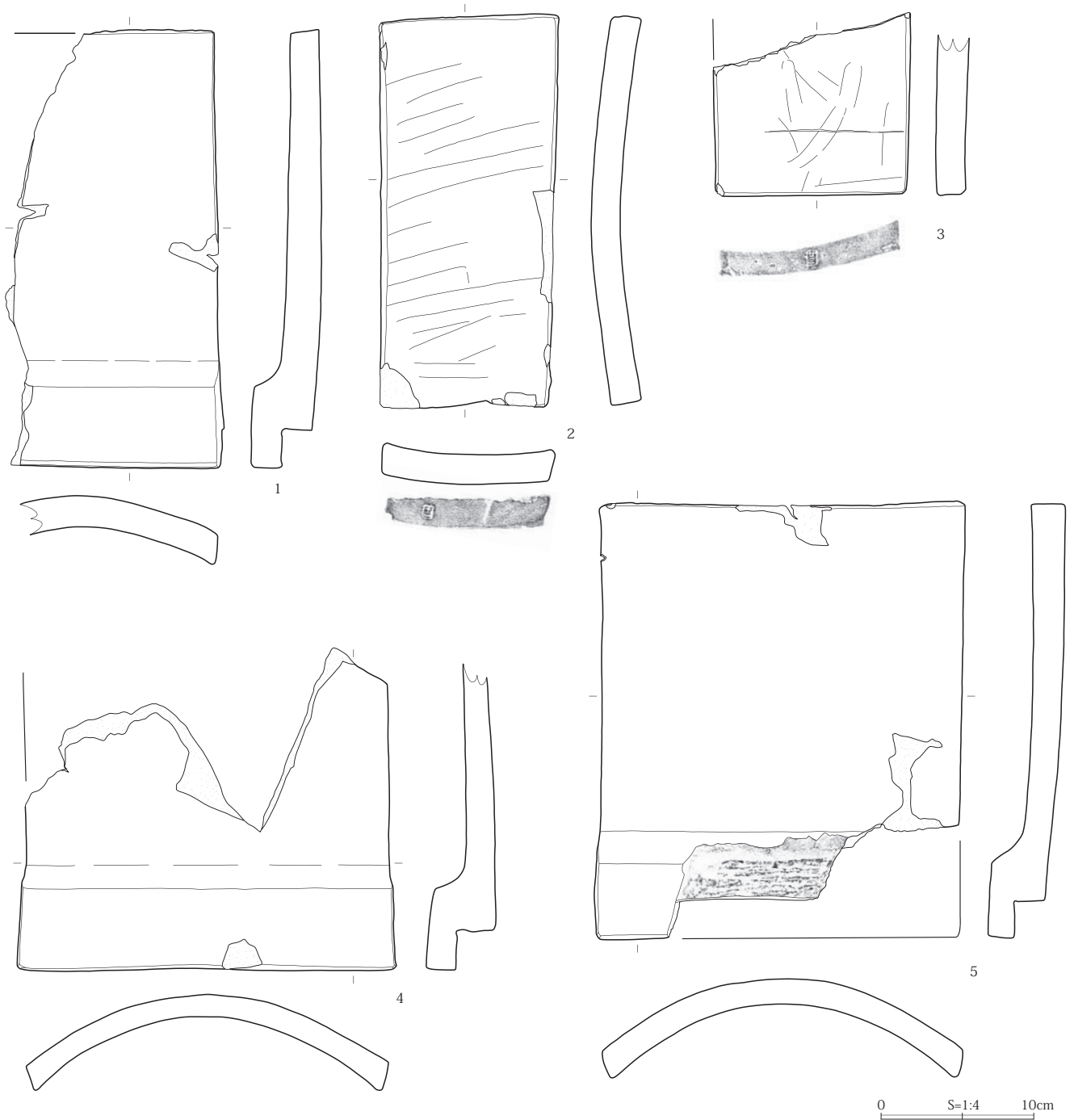
第273図 1号池 平面図・断面図



1号池 出土遺物観察表 (陶磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
274-1	117-12	S5・6-W66・67 1号池 2a層	磁器	碗?	体部	緻密	染付花文	—	—	(2.8)	肥前	19世紀前半		J-31
274-2	117-11	S5・6-W66・67 1号池 2a層	磁器	皿	体部	密	染付笹文	(13.4)	(8.4)	3.1	切込	19世紀前半	蛇の目釉剥目跡あり	J-30
274-3	117-13	S5・6-W66・67 1号池 2a層	土師質土器	鉢	完形	やや粗		14.8	9.6	10.3	在地	近世	底部糸切り	I-221

第274図 1号池 出土遺物

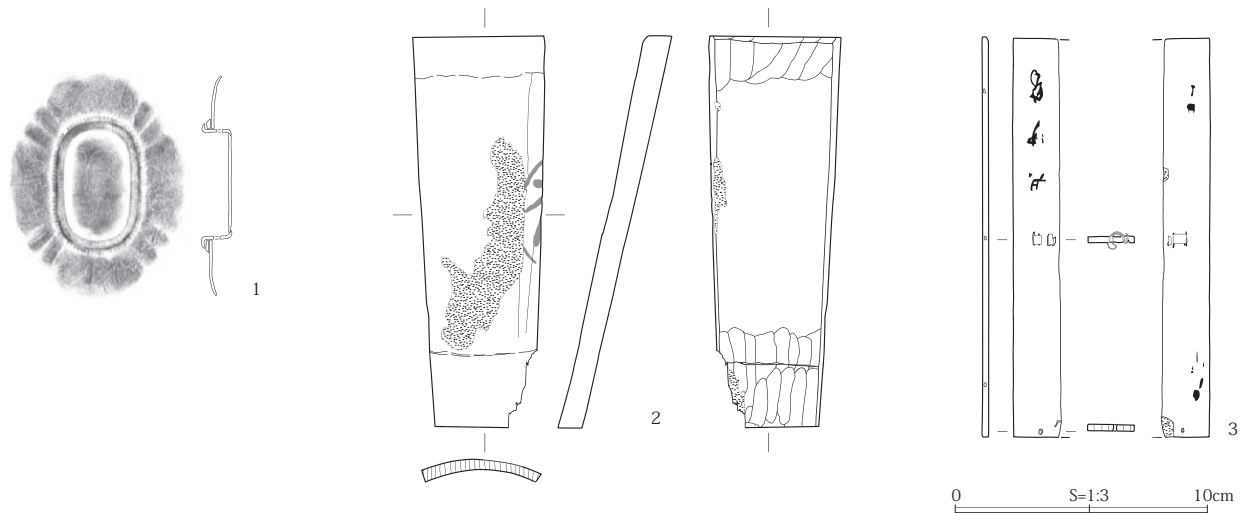


1号池 出土遺物観察表 (瓦)

図版番号	写真図版 番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備 考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
275-1	118-3	S5・6-W66・67 1号池 2a層	棟瓦	28.8	(13.4)	2.4		H-4
275-2	118-6	S5・6-W66・67 1号池 2a層	棟瓦	25.8	11.6	2.0	刻印あり	H-15
275-3	118-5	S5・6-W66・67 1号池 2a層	棟瓦	(12.0)	12.8	2.2	刻印「廿三」	H-14
275-4	118-4	S5・6-W66・67 1号池 2a層	棟瓦	(20.4)	23.8	2.0		H-30
275-5	118-2	S5・6-W66・67 1号池 2a層	棟瓦	28.6	23.6	2.2		H-6

第275図 1号池 出土遺物

第3節 III区



1号池 出土遺物観察表（金属製品）

図版番号	写真図版番号	グリッド		種別	部位	法量 (cm・g)				備考	登録番号
		遺構・層位				長さ	幅	厚さ	重さ		
276-1	118-1	S5・6—W66・67		飾り金具	—	8.8	1.2	0.1	53.74	引き手	N-11
		1号池 2c層									

1号池 出土遺物観察表（木製品）

図版番号	写真図版番号	グリッド		種類	法量 (cm)			備考	登録番号
		遺構・層位			長さ	幅	厚さ		
276-2	117-14	S5・6-W66・67		桶	17.3	5.3	1.8	焼印あり	L-89
		1号池 2a層							
276-3	117-15	S5・6-W66・67		木札	17.5	2.2	0.5	墨書あり	L-91
		1号池 2a層							

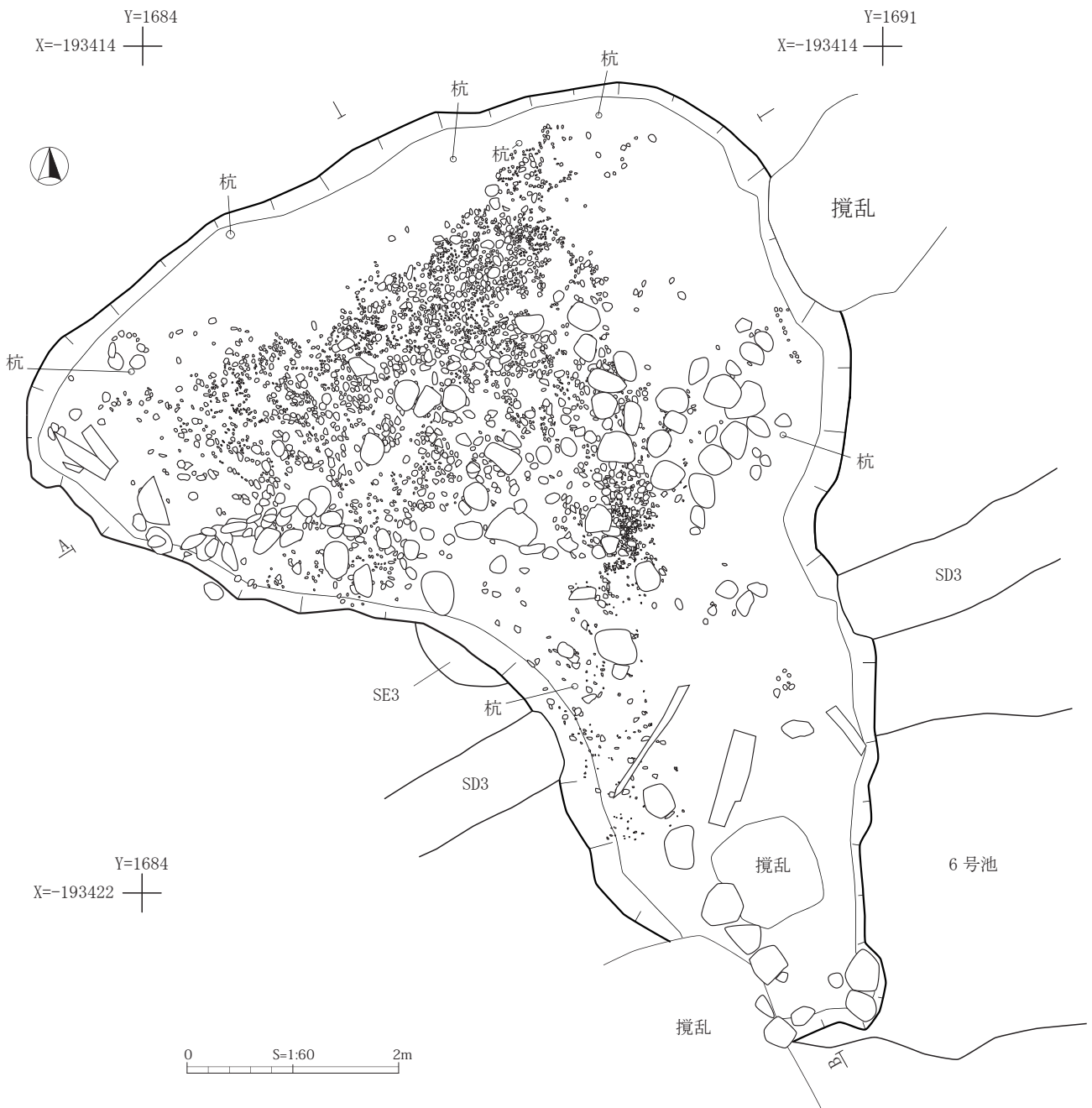
第276図 1号池 出土遺物

6) 2号池 (第277～280図、図版80-4～5・81-1)

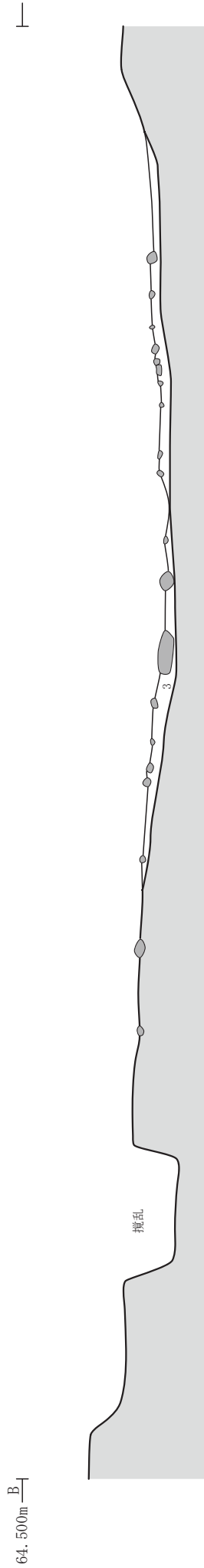
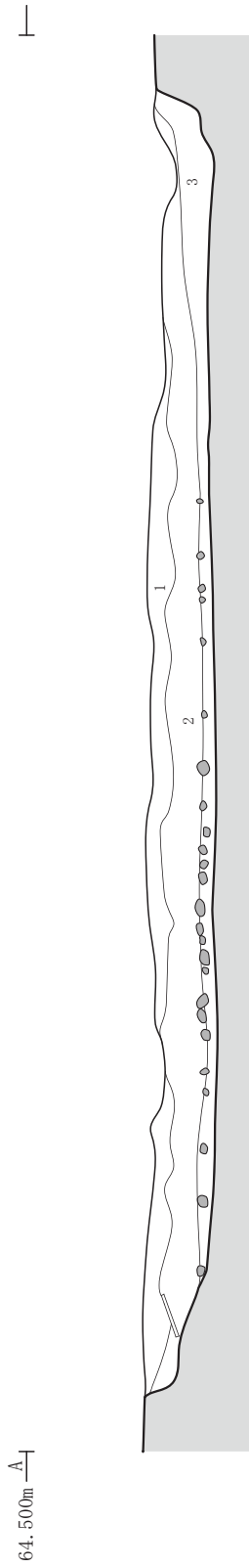
S2・3～W61・62グリッドに位置する。SE3の上面に構築され、南端で6号池を切り、中央付近をSD3によって壊される。

確認された規模は長軸9.4m、短軸3.1～7m、深さ28～35cmを測る。底面は構築時に6～9cmの厚さで粘土を貼り、その上に径1～3cmの玉石を敷く。平面形は北側の幅が広く、南側の幅が狭い瓢箪形を呈する。堆積土は3層からなる。1層は粘性の強いシルトが堆積しており、廃棄後に沈澱した土層と思われる。2層は砂質シルトで埋め戻し土の可能性がある。3層は構築粘土である。

遺物は1～2層より17世紀から19世紀の陶磁器、古銭、煙管等が出土している。構築粘土からの遺物の出土はみられなかった。



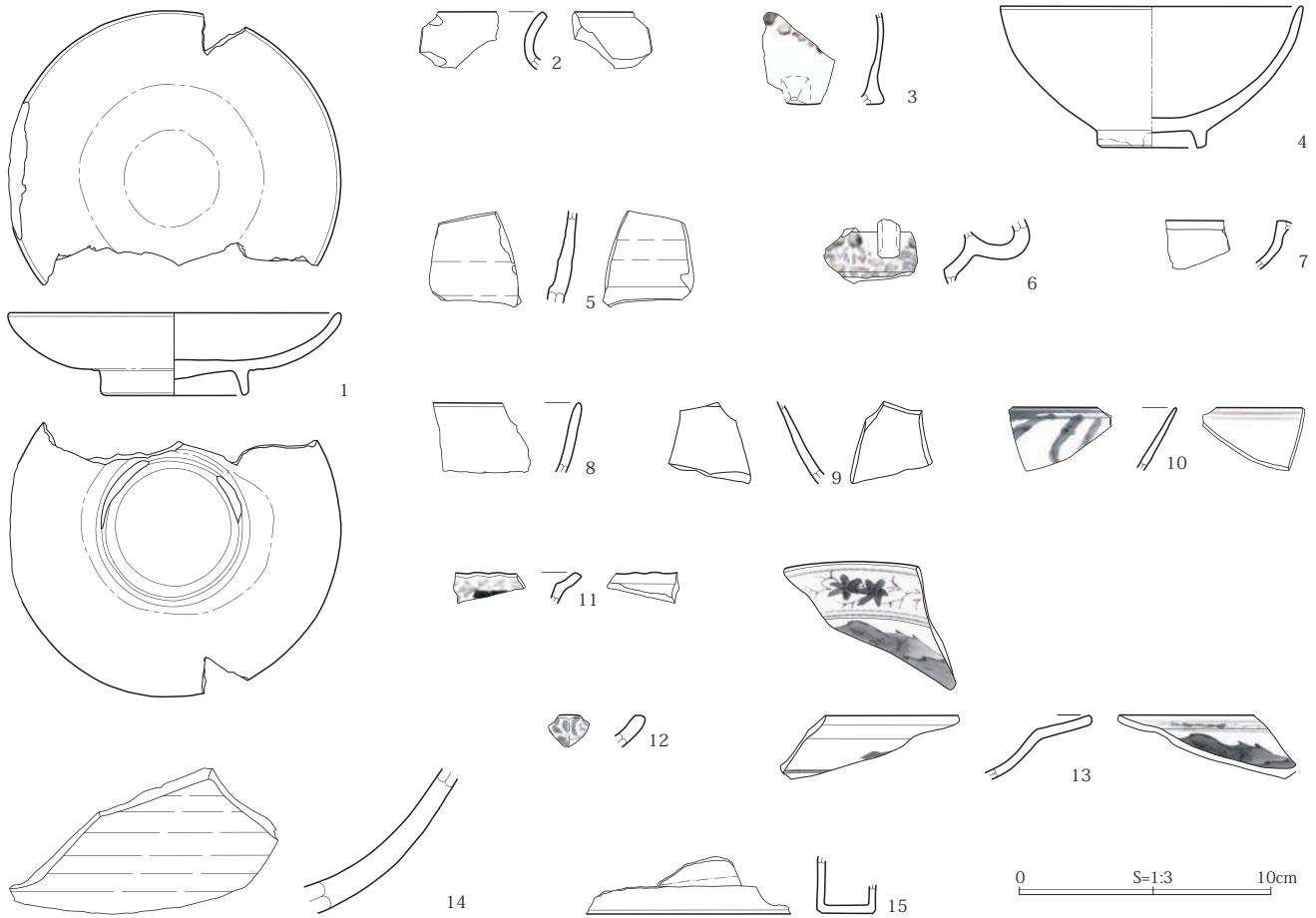
第277図 2号池 平面図



2号池 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No	色				
1	10YR4/4	褐色	粘土質シルト	あり	あり	砂粒少量
2	10YR5/6	にぶい黄褐色	砂質シルト	ややあり	なし	径2～3cmの礫・砂粒多量
3	10YR4/2	灰黄褐色	粘土	あり	あり	構築粘土

第278図 2号池 断面図



2号池 出土遺物観察表 (陶磁器)

図版 番号	写真図版 番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録 番号
								口径	底径	器高				
279-1	119-3	S2・3-W61・62 2号池 2層	磁器	皿	口縁～底部	やや粗	灰釉	(13.2)	(5.7)	3.3	小野相馬	18世紀	蛇の目釉刺	J-35
279-2	118-9	S2・3-W61・62 2号池 2層	磁器	片口	片口	緻密	青磁	—	—	(2.25)	不明	近世		J-34
279-3	118-8	S2・3-W61・62 2号池 2層	陶器	香炉	脚部	密	色絵	—	—	(3.2)	京焼	17世紀後半～18世紀前半		I-55
279-4	118-16	S2・3-W61・62 2号池 2層	陶器	碗	口縁～底部	やや粗	灰釉	(6.05)	(4.0)	5.7	小野相馬	18世紀		I-58
279-5	118-10	S2・3-W61・62 2号池 2層	陶器	鉢?	体部	やや粗	鉄釉	—	—	(3.7)	岸	17世紀以降		I-54
279-6	118-7	S2・3-W61・62 2号池 2層	陶器	香炉	口縁～体部	密	色絵	—	—	(2.45)	京焼	17世紀後半～18世紀前半		I-53
279-7	118-14	S2・3-W61・62 2号池 2層	陶器	皿	口縁～体部	密	灰釉	—	—	(1.95)	大堀相馬	18世紀後半		I-56
279-8	118-17	S2・3-W61・62 2号池 2層	陶器	碗	口縁～体部	密	灰釉	—	—	(2.8)	大堀相馬	19世紀		I-262
279-9	118-12	S2・3-W61・62 2号池 2層	磁器	垂か徳利	体部	緻密	白磁	—	—	(3.0)	肥前	近世		J-33
279-10	118-18	S2・3-W61・62 2号池 2層	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付	—	—	(2.5)	景德鎮	16世紀後半～17世紀前半		J-32
279-11	118-13	S2・3-W61・62 2号池 2層	陶器		口縁	密	色絵	—	—	(1.25)	京焼	17世紀後半～18世紀前半		I-51
279-12	118-11	S2・3-W61・62 2号池 2層	陶器	香炉	口縁	密	色絵	—	—	(1.3)	京焼	18世紀		I-52
279-13	119-1	S2・3-W61・62 2号池 2層	磁器	折縁皿	口縁～体部	緻密	染付山水文	—	—	(2.3)	肥前	17世紀後半		J-36
279-14	119-2	S2・3-W61・62 2号池 2層	陶器	鉢	体部	やや粗	—	—	—	(5.4)	不明	近世		I-57
279-15	118-15	S2・3-W61・62 2号池 2層	陶器	鬚水入	体部～底部	やや粗	—	—	—	(2.3)	瀬戸・美濃	近世		I-50

第279図 2号池 出土遺物



2号池 土遺物観察表 (金属製品)

図版番号	写真図版番号	グリッド	種別	部位	法量 (cm・g)				備考	登録番号
		遺構・層位			長さ	幅	厚さ	重さ		
280-1	119-6	S3・4-W63・64 池2 2層	煙管	雁首	4.05	1.6	0.05	6.21		N-13

2号池 出土遺物観察表 (古銭)

図版番号	写真図版番号	グリッド	銭貨名	初鑄年	法量 (cm・g)			備考	登録番号
		遺構・層位			外径	穿径	重さ		
280-2	119-4	S3・4-W63・64 池2 2層	寛永通宝 (新)	1627年	2.3	0.7	2.17	無背	N-21
280-3	119-5	S3・4-W63・64 池2 2層	寛永通宝 (古)	1626年	2.4	0.6	2.89	無背	N-22

第280図 2号池 出土遺物

7) 4号池・2号木樋 (第281～285図、図版81-2・82-1～8)

[4号池] S3-W63～S4-W64グリッドに位置する。西側は5号池と隣接し、調査区北壁の断面観察によって4号池が5号池を切ることが判明した。東側は2号木樋と接続する。北側は調査区外に広がり、南側は攪乱により壊される。また、SX6、SE4を切る。

確認された規模は南北7.2m、東西8.2m、深さ38cmを測る。底面には構築時に5～10cmの厚さで粘土を貼り、その上に径1～3cmの玉石を敷く。堆積土は6層からなる。1～4層は近代以降の陶磁器片、土管片等を含み、後世の埋め戻し土と思われる。5層は池底面の堆積土、6層は構築粘土である。

遺物は玉石の上面より舟形木製品、17世紀後半～19世紀前半の陶磁器、犬・猪型土製品等が出土している。

[2号木樋] S3-W63・S3-W64グリッドに位置する。東西方向に走る木樋1条と柁1基からなる。東側はSX14に切られる。木樋は柁の西側に遺存し、西端が4号池の中に延びる。先端の両脇には径32cmの川原石が置かれ、木樋を固定したものと考えられる。

主軸方位はN-74°-Eを示す。木樋を埋設した掘り方の規模は長さ80cm、幅40cm、深さ45cmを測る。底面はほぼ平坦で、断面形は開いたU字形を呈する。

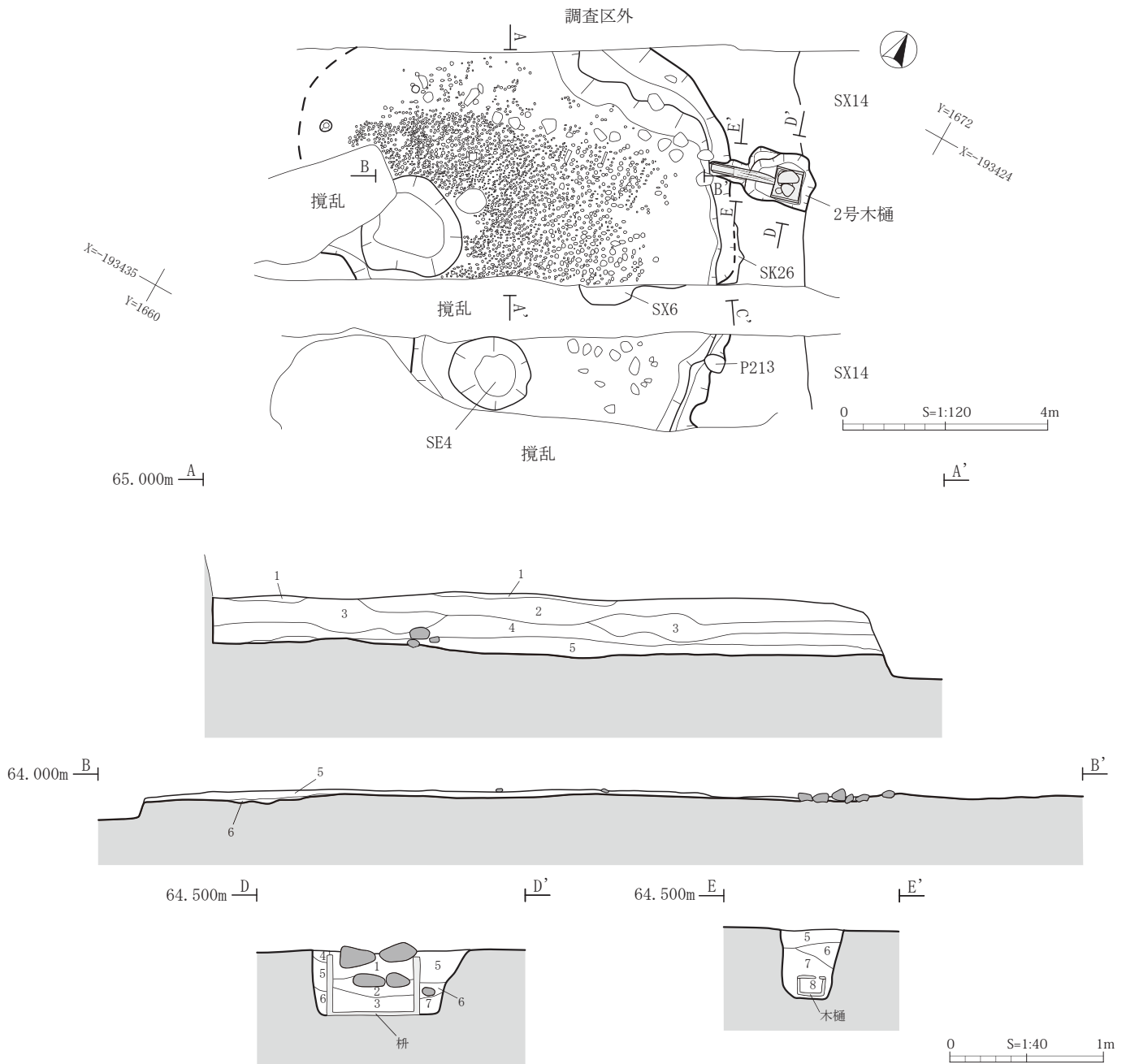
木樋は長さ1.17m、幅16cm、高さ10cmで、幅8.5cm、深さ約7cmの溝を切る。蓋板は長さ84cm、幅16cm、厚みは最大4cmを測る。一木から身と蓋に分けて作られた削り貫き式のものである。東端は蓋板が載らず、開口する。池の水が流れ込みやすくするためであろうか。身は柁近くで削り込んで幅をせばめ、柁の差し込み口に合わせ調整している。釘は検出されず、また痕跡も見られないことから蓋板を固定していたかは不明である。

柁は底板と側板からなる。側板は横長の板を木釘で接合している。東西の側板は縁にホゾ溝を切って南北の側板を組んだ外側から和釘で固定する。また木樋の差し込み口が施され、東側のほうが1cmほど低い位置にある。底板は2枚の横長の板材からなり、裏から和釘で側板を固定している。

柁を設置した掘り方の規模は長軸1.32m、短軸1.04m、深さ40cmを測る。平面形は不整長方形を、断面形は北側が開く長方形を呈する。

堆積土は8層からなる。1～3層は柁内堆積土、4～7層は掘り方埋土、8層は木樋内堆積土である。

木樋・柁以外の遺物は出土していない。



4号池 土層注記表

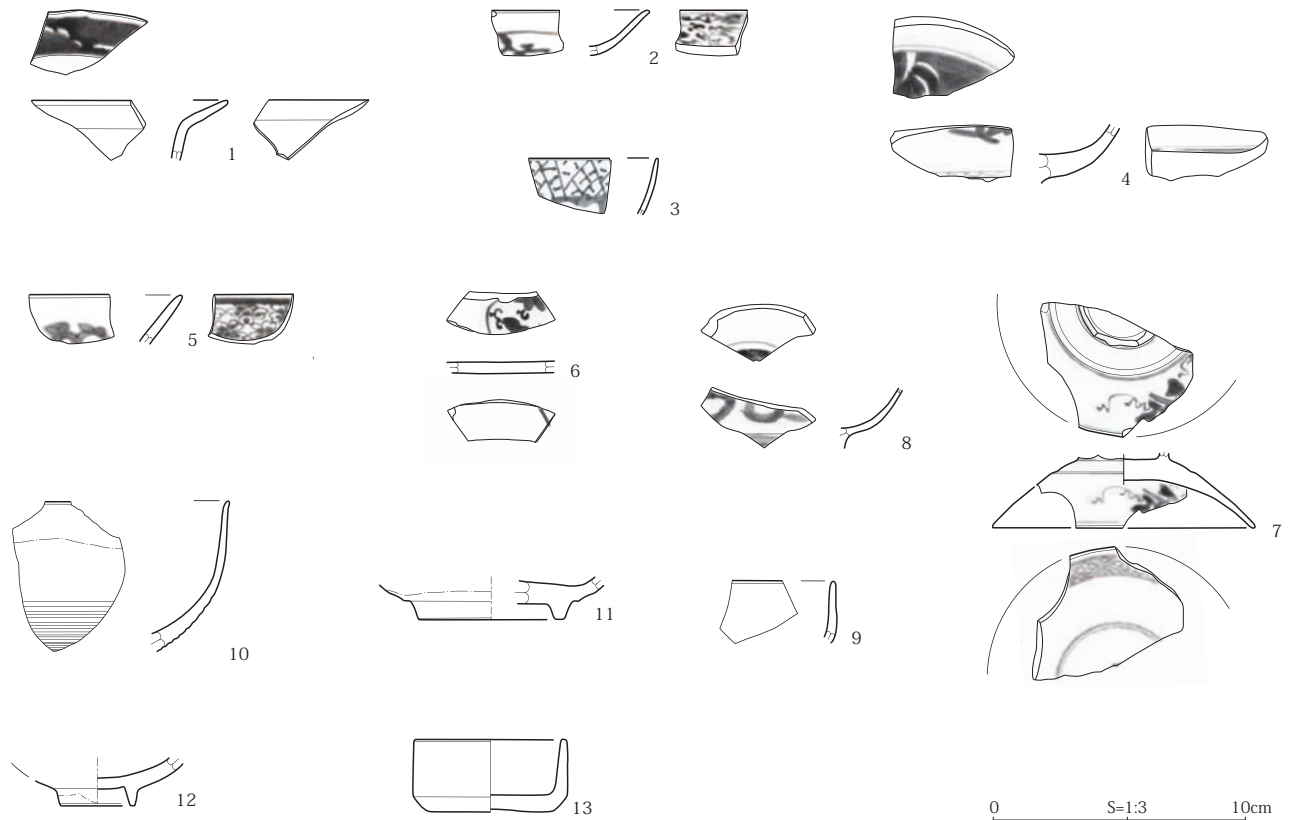
層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No	色				
1	10YR4/4	褐色	シルト	なし	なし	径1cm以下の暗褐色土粒少量 黄褐色土粒多量
2	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	なし	なし	径5mm以下の黄褐色土粒少量
3	10YR6/8	明黄褐色	シルト	ややあり	ややあり	径3cm以下ブロック状多量、褐灰色土少量、混土層
4	10YR4/1	褐灰色	シルト	ややあり	ややあり	径5~10cmの礫・径5mm以下の炭化物粒微量、瓦多量
5	10YR3/4	暗褐色	シルト	あり	あり	砂少量、酸化鉄多量
6	2.5GY4/1	暗オリーブ灰色	粘土	あり	あり	

2号木樋 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No	色				
1	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	ややあり	ややあり	暗褐色砂質シルトブロック少量、酸化鉄微量
2	2.5Y6/3	にぶい黄色	シルト質粘土	あり	あり	2.5Y3/1 黒褐色土粒少量、2.5Y5/2 暗灰黄色土粒少量、酸化鉄多量
3	10YR3/4	暗褐色	シルト	あり	あり	砂少量、酸化鉄多量
4	2.5GY4/1	暗オリーブ灰色	粘土	あり	あり	
5	7.5YR4/4	褐色	粘土質シルト	なし	なし	粗砂から成る 径10cm以下の礫多量
6	2.5Y3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり	なし	径1cm以下の黄色土ブロック少量
7	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	あり	ややあり	酸化鉄微量
8	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	あり	ややあり	酸化鉄微量、2.5GY4/1 暗オリーブ灰色にグライ化する

第281図 4号池・2号木樋 平面図・断面図

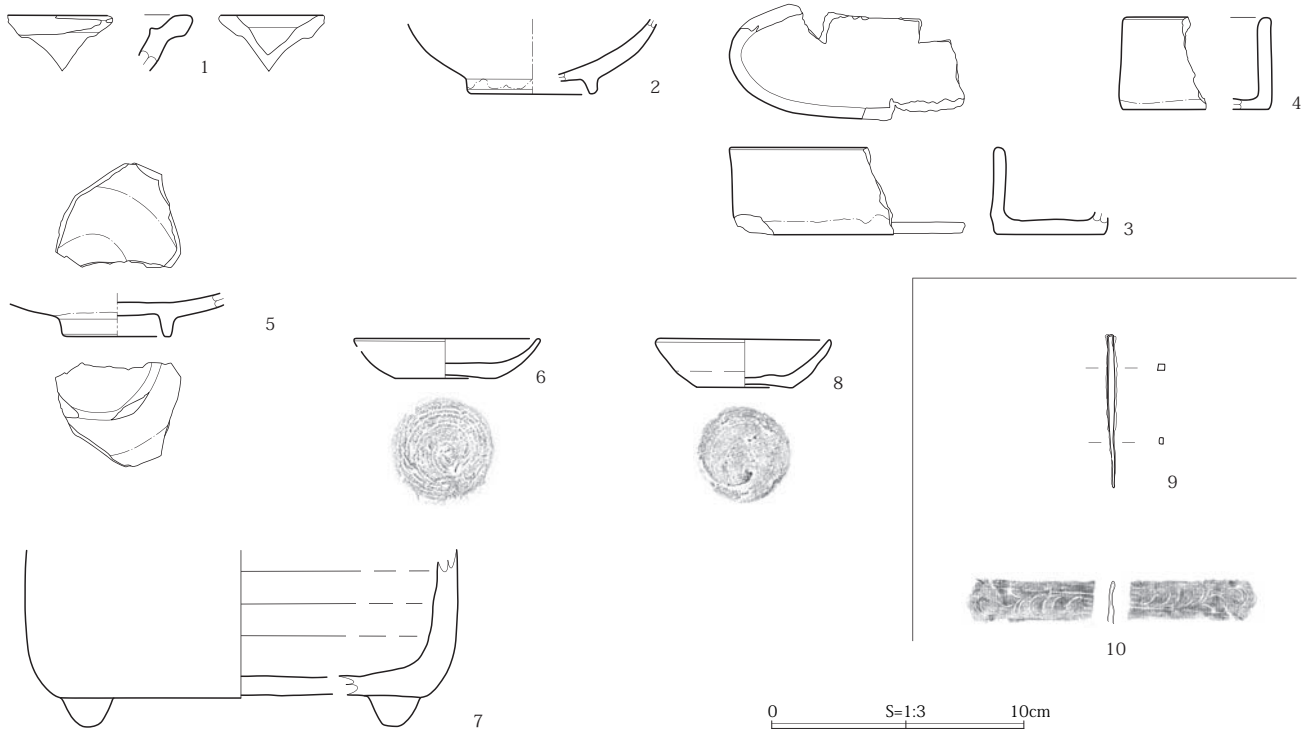
第3節 III区



4号池 出土遺物観察表 (陶磁器)

図版 番号	写真図版 番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録 番号
								口径	底径	器高				
282-1	119-7	S3・4-W64・65 4号池 6層	磁器	折縁皿	口縁	緻密	染付	—	—	(2.4)	肥前	17世紀後半	輪花	J-45
282-2	119-8	S3・4-W64・65 4号池 6層	磁器	皿	口縁～体部	緻密	染付	—	—	(1.8)	肥前	18世紀		J-44
282-3	119-9	S3・4-W64・65 4号池 6層	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付花文・ 氷裂文	—	—	(2.2)	肥前	18世紀前半		J-38
282-4	119-10	S3・4-W64・65 4号池 6層	磁器	皿か鉢	体部	緻密	青磁染付	—	—	(3.3)	肥前	18世紀		J-39
282-5	119-11	S3・4-W64・65 4号池 6層	磁器	中皿	口縁	緻密	染付花文	—	—	(2.0)	肥前	17世紀後半		J-43
282-6	119-12	S3・4-W64・65 4号池 6層	磁器	皿	底部	緻密	染付唐草文	—	—	(1.65)	肥前	18世紀前半 ～中頃		J-40
282-7	119-13	S3・4-W64・65 4号池 6層	磁器	蓋	口縁部	緻密	染付草花文・ 四方禪文	(11.2)	—	(3.0)	肥前	18世紀後半		J-41
282-8	119-14	S3・4-W64・65 4号池 6層	磁器	碗	体部～底部	緻密	染付	—	—	(1.8)	肥前	18世紀		J-42
282-9	120-2	S3・4-W64・65 4号池 6層	陶器	碗	口縁～体部	密	灰釉	—	—	(2.5)	大堀相馬	18世紀		I-65
282-10	120-1	S3・4-W64・65 4号池 6層	陶器	碗	口縁～体部	密	灰釉緑釉掛 分	—	—	(6.0)	大堀相馬	18世紀		I-60
282-11	119-16	S3・4-W64・65 4号池 6層	陶器	碗	体部～底部	やや密	黒釉・高台 鉄化粧	—	(5.8)	(1.2)	肥前			I-68
282-12	119-18	S3・4-W64・65 4号池 6層	陶器	碗	体部～底部	密	緑釉	—	(3.0)	(1.55)	大堀相馬	18世紀		I-63
282-13	119-19	S3・4-W64・65 4号池 6層	陶器	餌入?	体部～底部	粗	鉄釉	6.0	5.0	2.9	堤	19世紀前半		I-59

第282図 4号池 出土遺物



4号池 出土遺物観察表 (陶器)

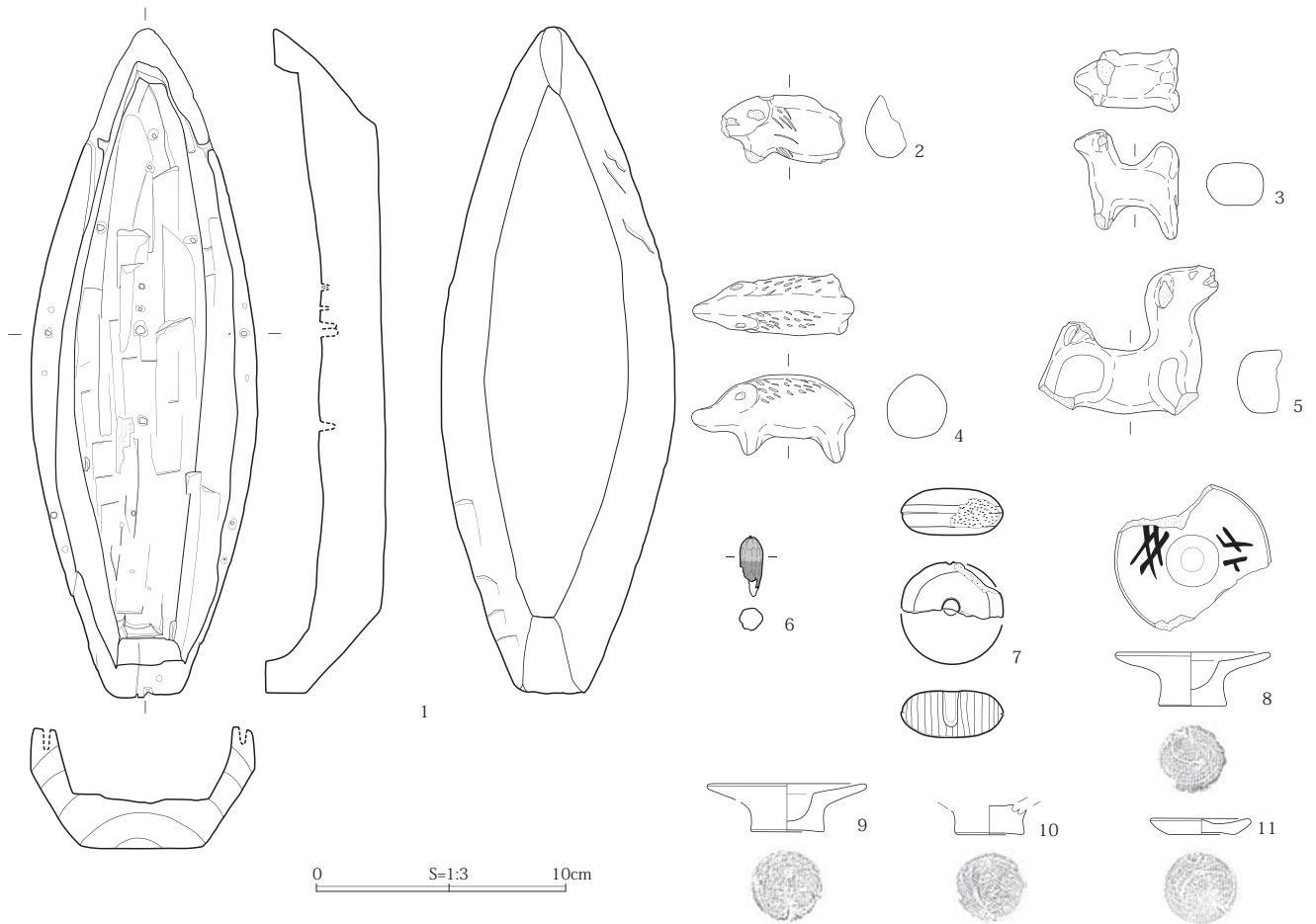
図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
283-1	119-20	S3・4-W64・65 4号池 6層	陶器	折縁皿	口縁～底部	密	灰釉	—	—	(2.2)	瀬戸・美濃	17世紀中頃～後半		I-67
283-2	119-17	S3・4-W64・65 4号池 6層	陶器	碗	体部～底部	密	白濁釉	—	(5.0)	(3.0)	大塚相馬	18世紀後半以降		I-64
283-3	119-21	S3・4-W64・65 4号池 6層	陶器	鬚水入	口縁～底部	やや粗	灰釉	—	—	(3.5)	小野相馬	18世紀		I-61
283-4	120-3	S3・4-W64・65 4号池 6層	陶器	鬚水入	口縁～底部	やや粗	灰釉	—	—	(3.7)	小野相馬	18世紀		I-66
283-5	119-15	S3・4-W64・65 4号池 6層	陶器	皿	底部	やや粗	灰釉	—	(4.1)	(1.7)	小野相馬	18世紀	蛇の目釉剥ぎ	I-62
283-6	120-4	S3・4-W63・64 4号池 6層	土師質土器	皿	口縁～底部	やや粗	—	(7.6)	—	1.6	在地	近世	糸切り	I-220
283-7	120-6	S3・4-W63・64 4号池 6層	瓦質土器	火鉢	体部～底部	やや粗	—	—	15.6	6.6	在地	近世		I-207
283-8	120-5	S3・4-W63・64 4号池 6層	土師質土器	皿	完形	やや粗	—	7.2	—	1.9	在地	近世	糸切り	I-222

4号池 出土遺物観察表 (金属製品)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	部位	法量 (cm・g)				備考	登録番号
					長さ	幅	厚さ	重さ		
283-9	120-12	S3・4-W63・64 4号池 構築粘土	釘	—	6.15	0.3	0.25	2.05	一部欠損	N-15
283-10	120-11	S3・4-W63・64 4号池 上層一拵	飾り金具	—	1.7	0.25	0.05	4.38	陽刻 (唐草文)	N-14

第283図 4号池 出土遺物

第3節 III区



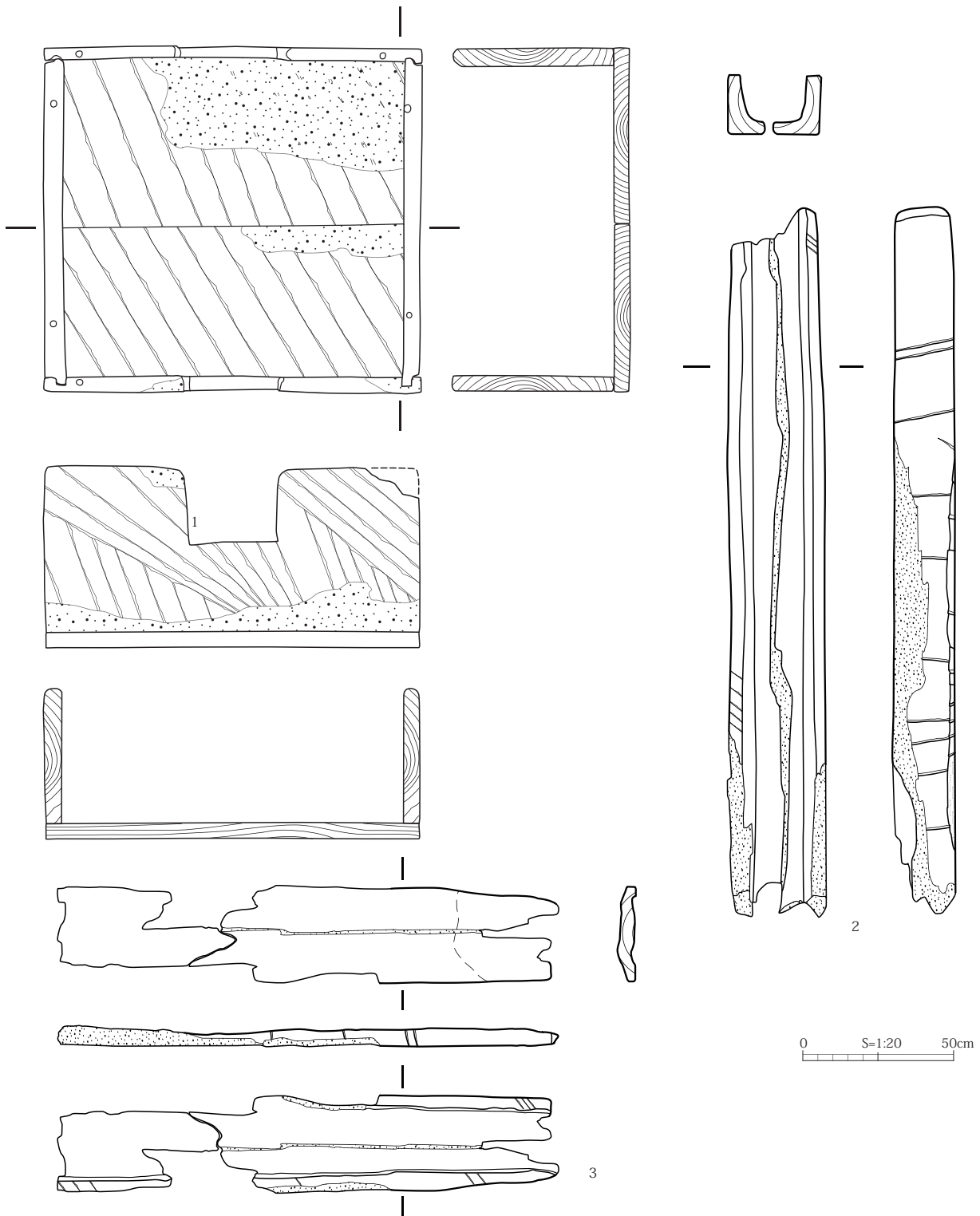
4号池 出土遺物観察表 (木製品・土製品)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
284-1	120-17	S3・4-W64・65 4号池 6層	舟形木製品	29.0	11.6	3.0	内面割裂 孔×18	L-94
284-2	120-13	S3・4-W64・65 4号池 6層	猪形土製品	(5.3)	(1.7)	3.0	型造り	P-12
284-3	120-14	S3・4-W64・65 4号池 6層	犬形土製品	4.0	2.5	(4.5)	型造り	P-7
284-4	120-15	S3・4-W64・65 4号池 6層	猪形土製品	(7.3)	2.6	(3.3)	型造り	P-4
284-5	120-16	S3・4-W64・65 4号池 6層	犬形土製品	6.9	(1.8)	(6.6)	型造り	P-11
284-6	120-18	S3・4-W64・65 4号池 6層	浮き	(4.0)	1.5	—	漆塗り	L-95
284-7	120-19	S3・4-W64・65 4号池 6層	紡錘車	(4.5)	4.6	2.1	孔×1	L-96

4号池 出土遺物観察表 (土師質土器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
							口径	底径	器高				
284-8	120-10	S3・4-W64・65 4号池 6層	土師質土器	受皿	口縁～底部	やや粗	6.9	3.1	4.1	在地	近世	墨書	P-6
284-9	120-7	S3・4-W64・65 4号池 6層	土師質土器	受皿	口縁～底部	やや粗	7.0	3.3	2.1	在地	近世		P-9
284-10	120-8	S3・4-W64・65 4号池 6層	土師質土器	受皿	底部	やや粗	—	3.1	(1.3)	在地	近世		P-5
284-11	120-9	S3・4-W64・65 4号池 6層	土師質土器	皿	口縁～底部	やや粗	2.8	3.0	0.8	在地	近世		P-8

第284図 4号池 出土遺物



2号木桶 出土遺物観察表（木製品）

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備 考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
285- 1	121-1	S3-W64 2号木桶	枅	125.4	114.2	6.0	鋸痕あり 上端に木釘8箇所	L-85
285- 2	121-2	S3-W64 2号木桶	木桶	(234.6)	32.0	4.0		L-84
285- 3	121-3	S3-W64 2号木桶	木桶蓋	(114.60)	(24.30)	(4.0)	残存不良	L-84

第 285 図 2号木桶 出土遺物

8) 6号池・3号木樋 (第286～287図、図版83-1～5・84-1～2)

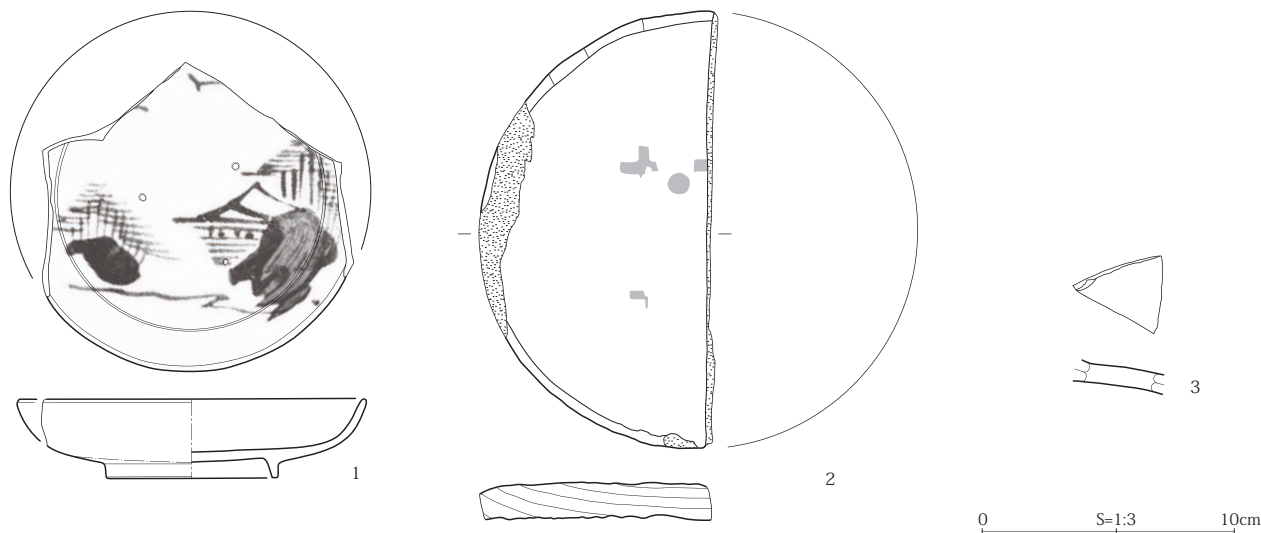
[6号池] S3-W61 グリッドに位置する。SX3を完掘した底面から検出された。北側は2号池に切られる。南側の中央には、4号木樋が接続する。確認された規模は東西4.48m、南北3.1m、深さ30cmを測る。平面形は不整形を呈するが、北西側は水を流すためか溝状にすぼまっている。その西縁には川原石を1段並べたような状況が見られた。用途は判然としないが護岸の可能性も考えられる。SD4の断面観察から6号池と同時期に機能していたことが確認されたため、3号木樋から引き入れた水を、6号池で溜め、SD4に排水するといった利用法が推定される。堆積土は4層の砂を含む粘土質シルトからなる。玉石は敷いていない。

遺物は比較的少なく、19世紀前葉の大堀相馬産鉄絵皿のほか、木製品等が堆積土中より出土している。

[3号木樋] 木樋1条が検出された。南側は調査区外に延びる。確認された木樋の規模は長さ3.1m、幅13～15cmを測り、幅9cmの溝を切る。蓋板は残存しておらず蓋を留めた釘も検出されなかった。一木から身と蓋に分けられたかは不明だが、削り貫き式で作られたものと思われる。掘り方の断面形は逆台形を呈する。

確認された掘り方の規模は長さ2.9m、上幅54～56cm、下幅26～30cm、深さ16～21cmを測る。堆積土は3層からなる。1～2層は崩落土、3層は掘り方埋土である。

遺物は信楽産の壺片が出土している。



6号池 出土遺物観察表 (陶器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
286-1	121-4	S2・3-W61・62 6号池 1層	陶器	皿	口縁～底部	やや密	鉄絵山水文	(13.8)	(6.6)	(3.2)	大堀相馬	19世紀初頭	目跡3箇所	I-78

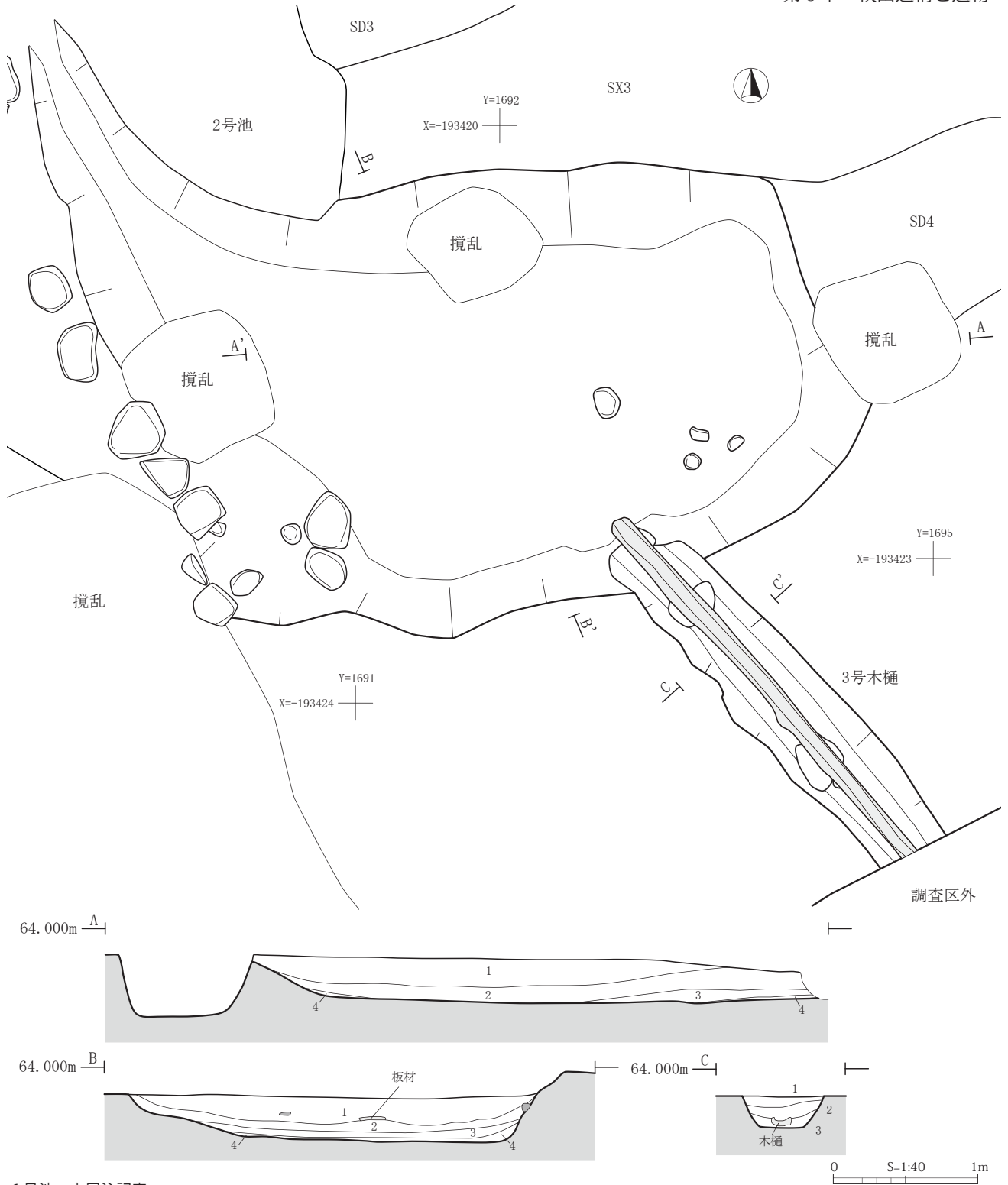
6号池 出土遺物観察表 (木製品)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
286-2	121-5	S2・3-W61・62 6号池 1層	曲物	18.9	(9.9)	1.4	付着物あり	L-106

3号木樋 出土遺物観察表 (陶器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
286-3	121-6	S3-W61 3号木樋 2層	陶器	壺	体部	密	鉄釉	—	—	(1.35)	信楽	18世紀代		I-29

第286図 6号池・3号木樋 出土遺物



6号池 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No	色				
1	2.5Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	ややあり	ややなし	砂粒・酸化鉄少量
2	2.5Y3/2	黒褐色	シルト	ややあり	ややなし	砂粒・酸化鉄少量
3	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	あり		砂粒を層状に多量
4	10YR3/4	暗褐色	粘土質シルト			砂粒を層状に多量

3号木樋 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備考
	No	色				
1	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	なし	あり	砂粒・径3cm以下の礫少量
2	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	あり	砂粒・径3cm以下の礫少量
3	2.5Y3/2	黒褐色	砂質シルト	ややあり	あり	酸化鉄少量、砂粒微量

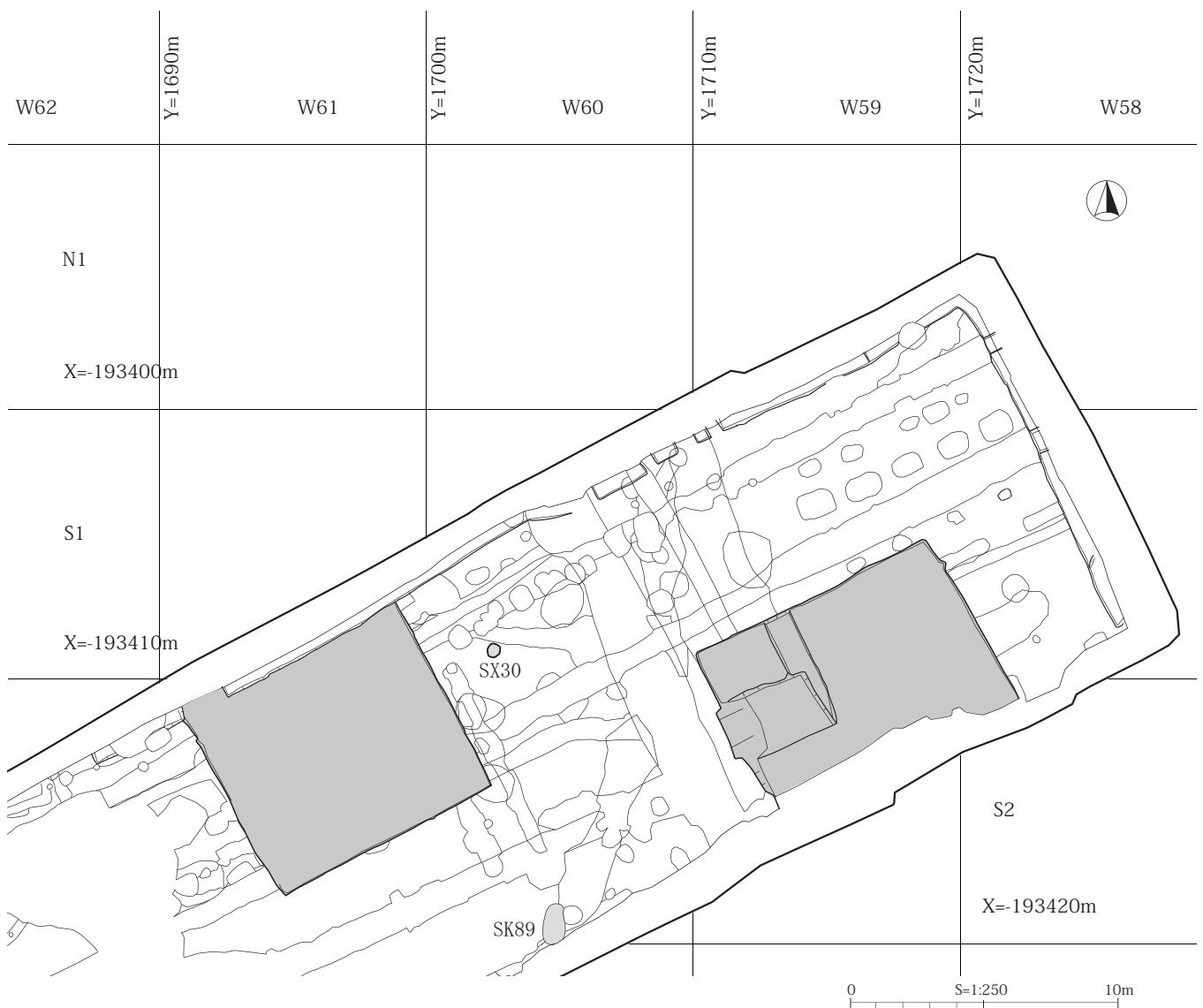
第287図 6号池・3号木樋 平面図・断面図

4 縄文時代の調査（第288～291図、図版84-3～8）

Ⅲ区の東側では、基本層のVI c層に10世紀前半の指標テフラである十和田a火山灰が含まれていることが確認され、その下層から縄文土器が出土したことからトレンチ調査を行なった。

トレンチは2箇所設定した。S1・S2-W59グリッドに75㎡、S1・S2-W61グリッドに75㎡、合計150㎡を深度約1mまで掘り下げた。その結果、縄文土器60点を取り上げたが、古代以前の遺構は検出されなかった。出土した土器のほとんどは文様を観察することが困難なほど磨耗しており、流入土に混入して調査区内に運ばれてきたものと思われる。第292図-1は縄文時代中期の大木8a式、そのほかは後期の南境式である。

また、トレンチ外で十和田a火山灰層下より遺構が2基検出されたが（SK89、SX30）、遺物も出土せず、時期・性格等は不明である。

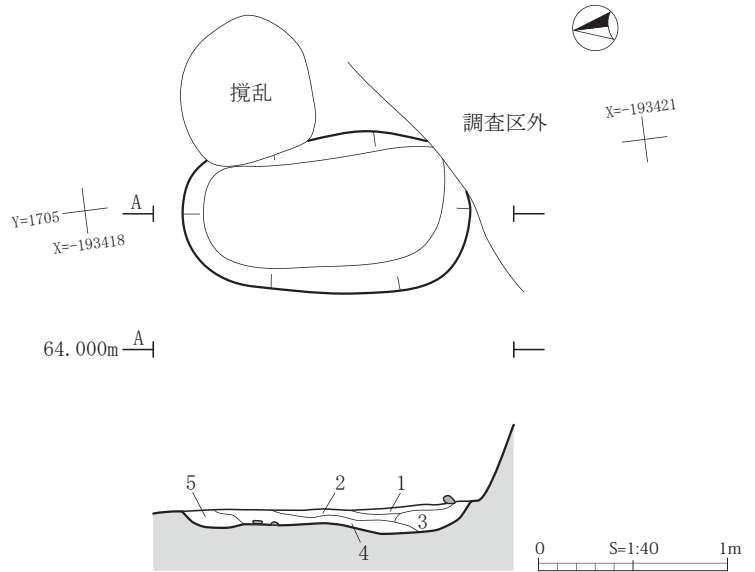


第288図 トレンチ設定図

1) SK89 土坑 (第 289 図、図版 84-5 ~ 6)

S2-W60・S3-W60 グリッドに位置する。北東側を攪乱によって壊され、南東側はわずかに調査区外に広がる。十和田 a 火山灰層の下から検出された。

確認された規模は長軸 1.52m、短軸 0.86m、深さ 0.14m を測る。平面形は楕円形を、断面形は底面の南側が浅く窪んだ皿状を呈する。堆積土は 5 層からなる。



SK89 土坑 土層注記表

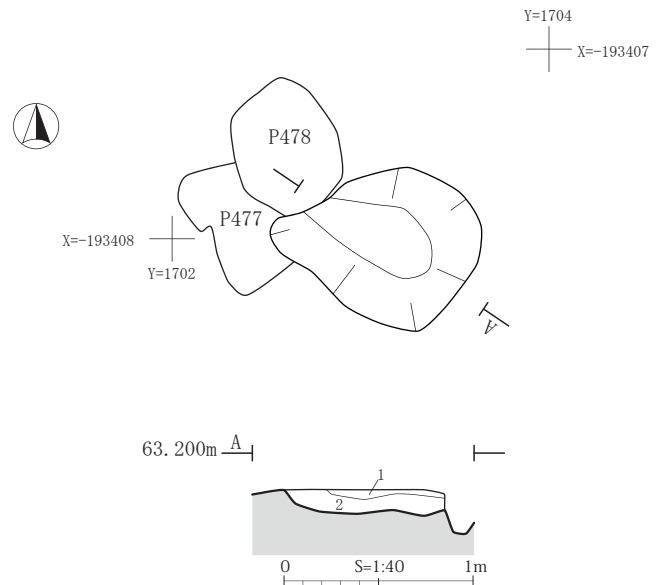
層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	2.5Y3/1	黒褐色	砂質シルト	あり	なし	粗砂少量、径 2 cm の炭化物微量
2	2.5Y3/2	黒褐色	シルト質粘土	あり	あり	細砂少量、径 5 mm のシルトストーン微量
3	2.5Y4/1	黄灰色	シルト質砂	なし	ややあり	粗砂主体に、径 5 mm の礫と径 1 cm の炭化物微量
4	10Y4/1	灰色	シルト質砂	ややあり	あり	粗砂主体に、径 5 cm のシルトストーン微量
5	2.5Y4/1	黄灰色	シルト質砂	なし	ややあり	粗砂主体に、径 5 mm の礫と径 1 cm の炭化物微量 3 層に近似

第 289 図 SK89 土坑 平面図・断面図

2) SX30 性格不明遺構 (第 290 図、図版 84-7 ~ 8)

S1-W60 グリッドに位置する。西側を P477・P478 によって切られる。十和田 a 火山灰層の下から検出された炭化物集中範囲である。浅い掘り込みを伴う。壁面や底面には被熱による変色や変質は見られない。少量ではあるが炭化物は外側にも分布する。

確認された規模は長軸 1.12 m、短軸 82cm、深さ 12cm を測る。平面形は不整楕円形を、断面形は皿状を呈する。堆積土は 2 層からなる。

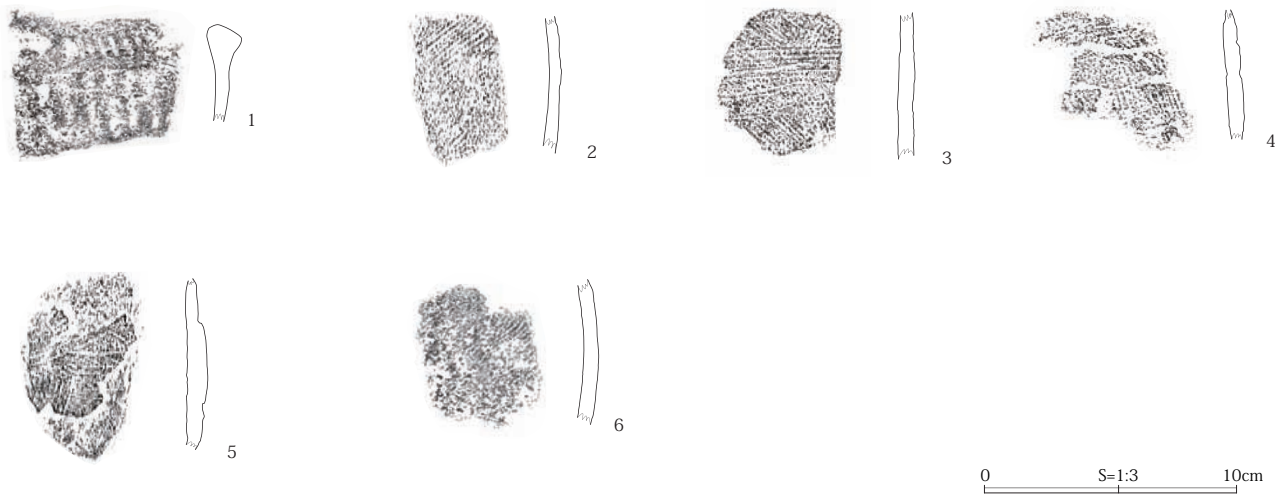


SX30 性格不明遺構 土層注記表

層名	土色		土質	粘性	しまり	備 考
	No.	色				
1	10YR3/1	黒褐色	シルト	あり	なし	砂粒多量、径 1 ~ 2cm の礫少量
2	10YR3/3	暗褐色	シルト質砂	ややあり	なし	砂粒多量、植物遺体少量 水性堆積土

第 290 図 SX30 性格不明遺構 平面図・断面図

第3節 III区



縄文土器観察表

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	器種	部位	法量 (cm)			文様の特徴	登録番号
					口径	底径	器高		
291- 1	121-7	S1-W59	深鉢	口縁部	—	—	(4.0)	LR 側面押圧	A-1
		VI層							
291- 2	121-8	S1-W59	深鉢	胴部	—	—	(5.8)	櫛歯状文 (斜位→横位)	A-2
		VI層							
291- 3	121-9	S2-W61	深鉢	胴部	—	—	(6.0)	櫛歯状文 (斜位→横位)	A-3
		VI層							
291- 4	121-10	S1-W59	深鉢	胴部	—	—	(5.5)	櫛歯状文	A-4
		VI層							
291- 5	121-11	S2-W61	深鉢	胴部	—	—	(7.2)	櫛歯状文	A-5
		VI層							
291- 6	121-12	S2-W61	深鉢	胴部	—	—	(6.2)	櫛歯状文	A-13
		VI層							

第 291 図 トレンチ出土の縄文土器

5 遺構外出土遺物

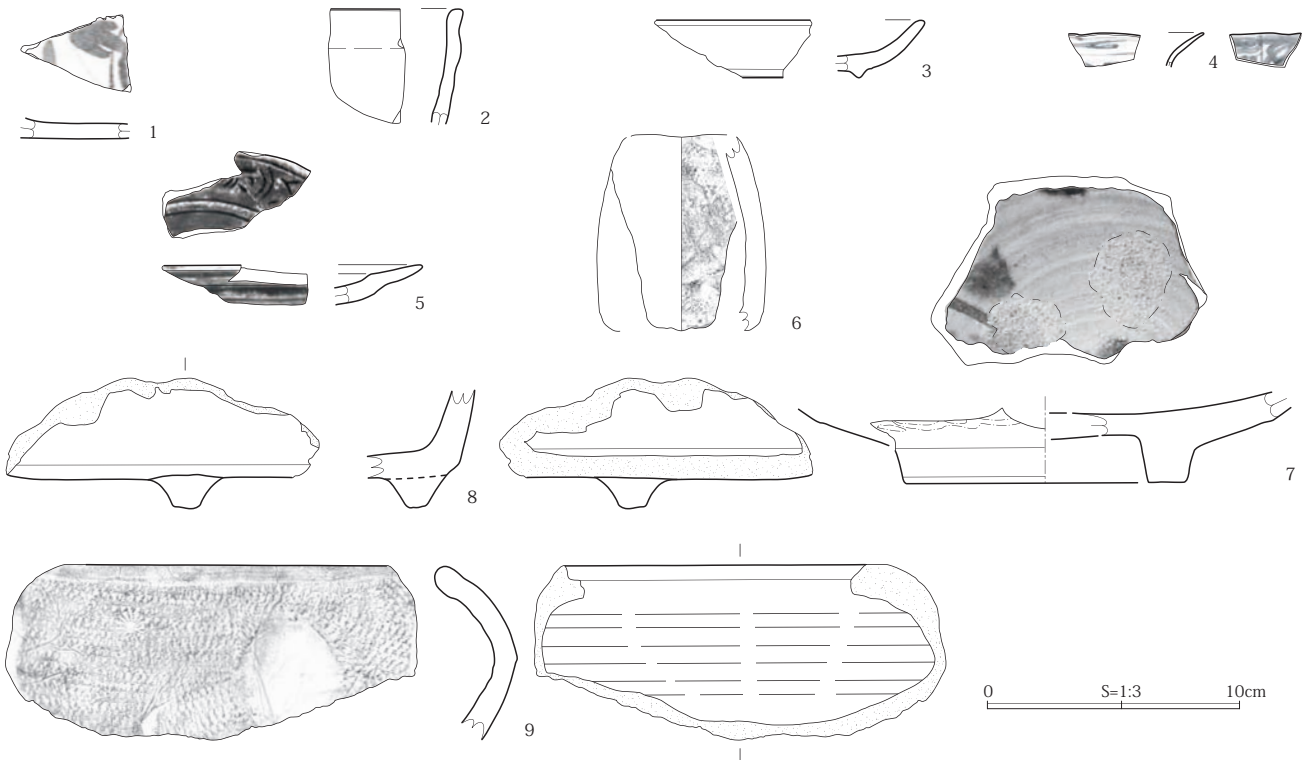
Ⅲ区の出土遺物の総量は 2965 点、

そのうち遺構外出土のものは 2003 点で、

内訳は瓦 864 点、陶器 89 点、瓦質土器 17 点、土師質土器 196 点、磁器 122 点、石器・石製品 37 点、木製品類 553 点、金属製品 24 点、その他 101 点である。近世の陶磁器の内訳はⅤ層 34 点、Ⅳ層 46 点、Ⅲ層 71 点、Ⅰ・Ⅱ層 137 点、攪乱 95 点を数える。以下、層別に実測図と観察表を掲載する。

(1) Ⅴ層出土遺物 (第 292 図、図版 122-1～9)

Ⅴ層からは 17 世紀を中心とした陶磁器、瓦質土器等が出土している。



Ⅴ層 出土遺物観察表 (陶磁器)

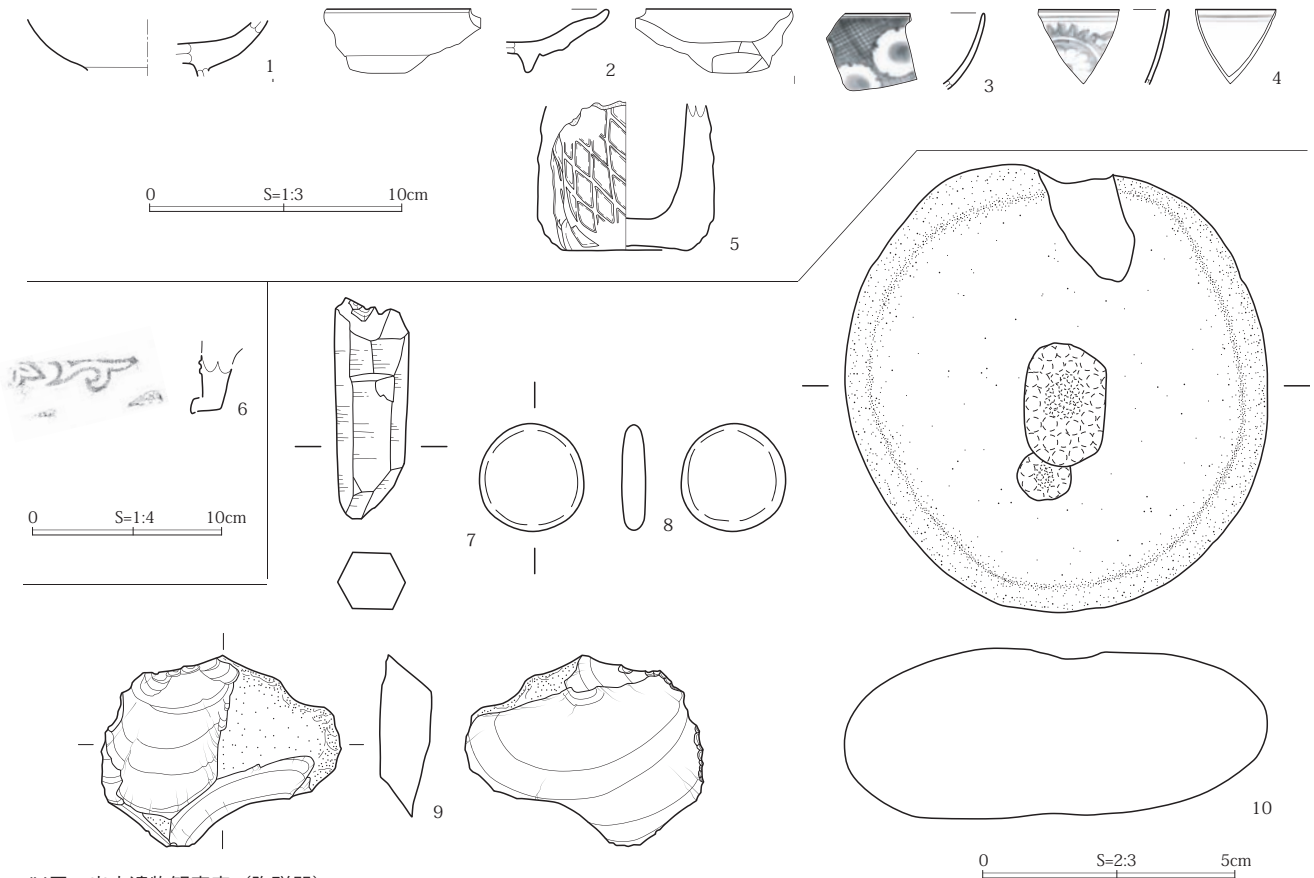
図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
282-1	122-1	Ⅲ区 Ⅴ層	陶器	皿?	底部	やや粗	鉄絵	—	—	(3.0)	唐津?	17世紀		I-136
282-2	122-2	Ⅲ区 Ⅴ層	陶器	碗	口縁～体部	やや粗	長石釉	—	—	(4.6)	志野	17世紀前半		I-139
282-3	122-3	Ⅲ区 Ⅴ層	陶器	皿	口縁～底部	やや粗	長石釉	—	—	(2.3)	志野	17世紀前半		I-138
282-4	122-4	Ⅲ区 Ⅴ層	磁器	輪花皿	口縁	緻密	染付	—	—	(1.4)	中国(景德鎮)	17世紀前半		J-246
282-5	122-5	Ⅲ区 Ⅴ層	陶器	皿	口縁～体部	やや密	織部釉	—	—	(1.6)	美濃織部	17世紀	口縁部陰刻文様あり	I-137
282-6	122-7	Ⅲ区 Ⅴ層	土師質土器	焼塩壺	胴部	粗	—	—	—	(7.5)	在地	近世		P-10
282-7	122-8	Ⅲ区 Ⅴ層	陶器	皿	底部	やや密	織部釉	—	(11.2)	(3.6)	美濃織部	17世紀前半	砂目	I-130
282-8	122-9	Ⅲ区 Ⅴ層	瓦質土器	火鉢	底部	やや粗	—	—	—	(5.3)	在地	近世		I-212
282-9	122-6	Ⅲ区 Ⅴ層	瓦質土器	火鉢	口縁部	やや粗	—	—	—	(7.6)	在地	近世		I-215

第 292 図 Ⅲ区Ⅴ層 出土遺物

第3節 III区

(2) IV層出土遺物 (第293図、図版122-10～19)

IV層からは17世紀～18世紀の陶磁器、瓦、石器等が出土している。



IV層 出土遺物観察表 (陶磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
293- 1	122-10	III区 IV層	陶器	碗?	体部	やや密	—	—	—	(3.0)	不明	近世		I-142
293- 2	122-11	III区 IV層	陶器	皿	口縁～底部	やや粗	長石釉	—	—	(5.1)	志野	16世紀末～ 17世紀初頭		I-145
293- 3	122-12	III区 IV層	磁器	碗	口部～体部	緻密	染付雪輪文	—	—	(3.1)	肥前	18世紀前半		J-249
293- 4	122-13	III区 IV層	磁器	碗	口部～体部	緻密	染付流水文	—	—	(3.0)	中国 (景德 鎮)	17世紀前半		J-248
293- 5	122-14	III区 IV層	土師質土器	焼塩壺	胴部～底部	粗	—	—	—	(6.3)	在地	近世	外) 格子 叩き	P-1

IV層 出土遺物観察表 (瓦)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
293- 6	122-15	III区 IV層	軒平瓦	(2.4)	(7.5)	2.5	三枚笹+唐草	G-14

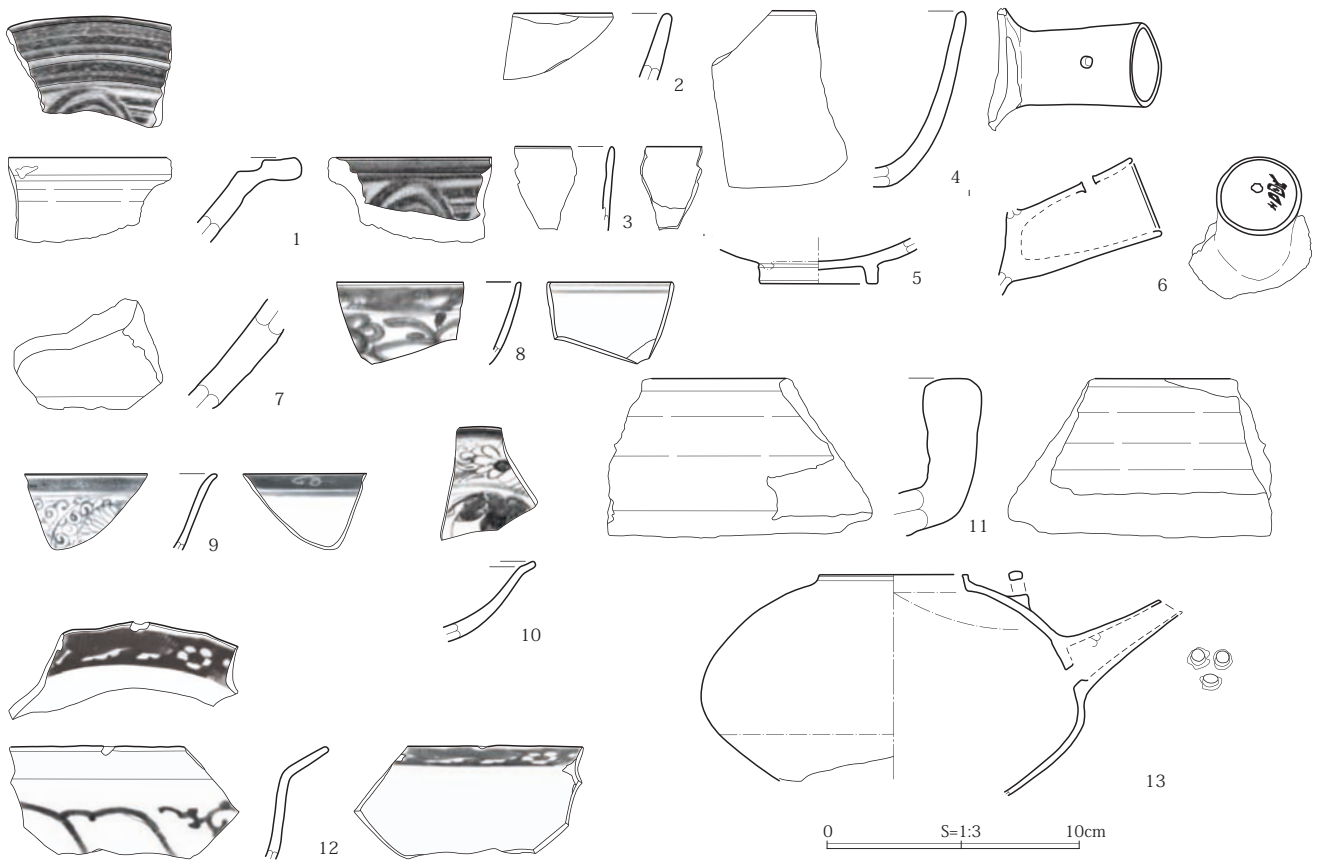
IV層 出土遺物観察表 (石器・石製品)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	石材	法量 (cm・g)				備考	登録番号
					長さ	幅	厚さ	重さ		
293- 7	122-17	III区 IV層	—	水晶	(4.3)	1.45	1.1	10.14		K-1
293- 8	122-16	III区 IV層	碁石	粘板岩	2.1	2.1	4.5	3.44		K-5
293- 9	122-19	III区 IV層	フレーク	珪質頁岩	2.9	4.7	1	16.51		K-6
293-10	122-18	III区 IV層	磨石	安山岩	8.9	8.4	3.4	342.36		K-8

第293図 III区IV層 出土遺物

(3) III層出土遺物 (第294～295図、図版123-1～20・124-1～4)

III層からは18世紀代を中心とした陶磁器、瓦、瓦質土器等が出土している。

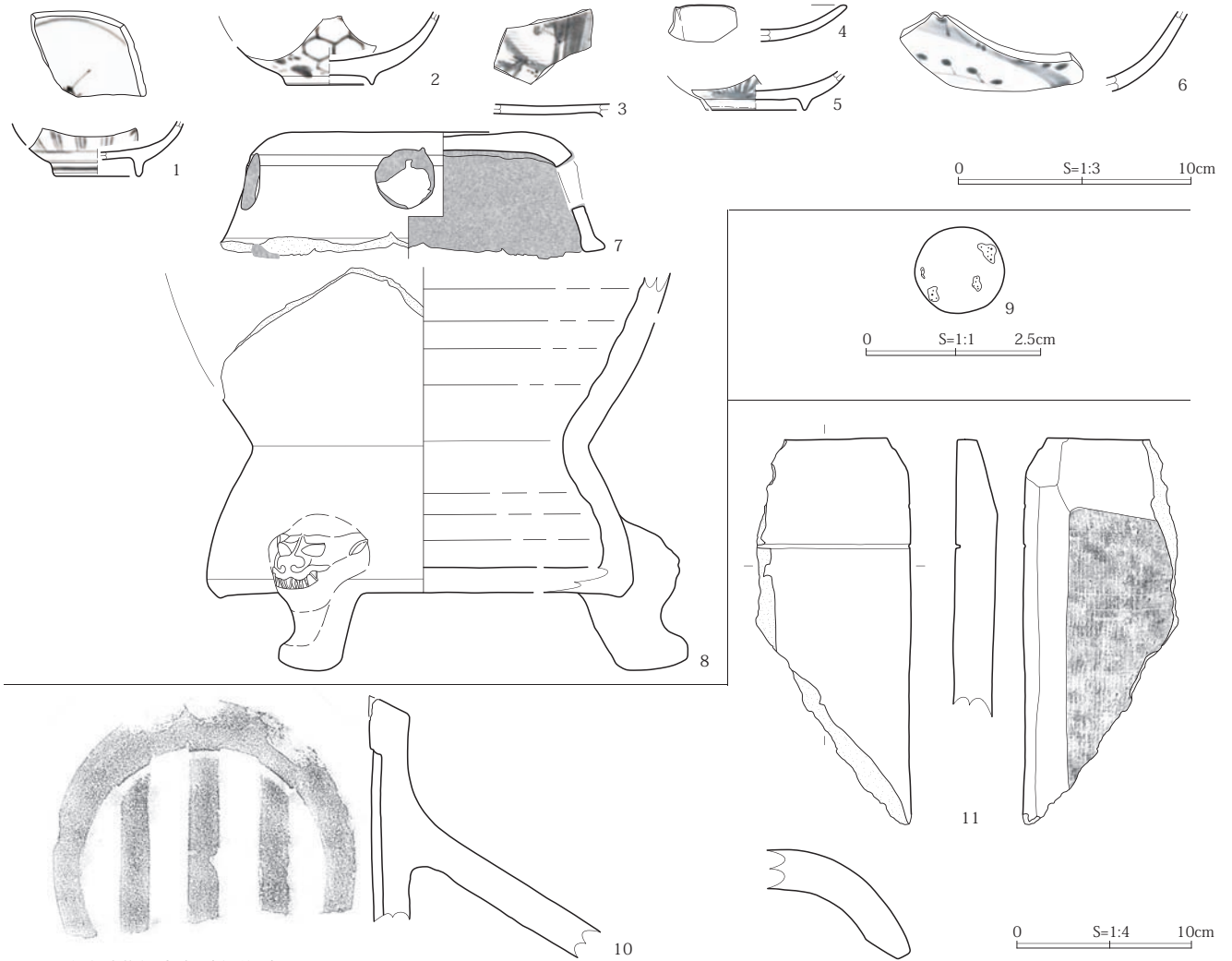


III層 出土遺物観察表(陶磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
294-1	123-1	III区 III層	陶器	皿	口縁～体部	やや粗	刷毛目	—	—	(3.4)	唐津	18世紀		I-115
294-2	123-2	III区 III層	陶器	碗	口縁	密	—	—	—	(2.6)	大堀相馬	18世紀～19世紀		I-114
294-3	123-3	III区 III層	陶器	碗	口縁～体部	密	—	—	—	(3.35)	大堀相馬	18世紀～19世紀		I-113
294-4	123-6	III区 III層	陶器	碗	口縁～体部	やや密	—	—	—	(7.05)	肥前?	18世紀?		I-108
294-5	123-9	III区 III層	陶器	碗	底部	やや粗	—	—	(4.6)	(1.85)	不明	近世		I-102
294-6	123-4	III区 III層	陶器	焙烙	把手	やや粗	—	—	—	(5.4)	堤	19世紀前半	「吉田長」墨書	I-98
294-7	123-8	III区 III層	陶器	鉢?	体部	粗	—	—	—	(4.45)	堤?	近世		I-109
294-8	123-13	III区 III層	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付草文	—	—	(3.3)	肥前	18世紀		J-88
294-9	123-11	III区 III層	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付唐草文	—	—	(3.0)	肥前	18世紀後半～19世紀		J-96
294-10	123-12	III区 III層	磁器	皿	口縁～体部	緻密	染付草花文	—	—	(3.2)	肥前	18世紀		J-97
294-11	123-5	III区 III層	陶器	鉢	口縁～体部	やや粗	—	—	—	(6.4)	不明	近世		I-110
294-12	123-7	III区 III層	磁器	罎皿	口縁～体部	緻密	染付草文・花文帯	—	—	(4.5)	肥前	18世紀中頃	輪花	J-243
294-13	123-10	III区 III層	陶器	土瓶	口縁～体部	密	—	—	—	(3.6)	大堀相馬	19世紀中頃	3穴	I-99

第294図 III区III層 出土遺物

第3節 III区



III層 出土遺物観察表 (陶磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
295-1	123-17	I区 III層	磁器	碗	体部~底部	緻密	染付	—	(3.6)	(2.1)	肥前	18世紀~19世紀		J-89
295-2	123-14	I区 III層	磁器	碗	体部~底部	緻密	染付亀甲文	—	(3.7)	(3.0)	肥前	18世紀~19世紀		J-90
295-3	123-16	I区 III層	磁器	皿	底部	緻密	染付山水文	—	—	(2.6)	肥前	18世紀~19世紀		J-85
295-4	123-15	I区 III層	磁器	菊皿	口縁~体部	緻密	白磁・型押	—	—	(1.6)	肥前	18世紀		J-242
295-5	123-18	I区 III層	磁器	碗	体部~底部	緻密	染付草文	—	(4.3)	(1.7)	肥前	18世紀後半~19世紀初頭		J-241
295-6	123-19	I区 III層	磁器	鉢	体部	緻密	染付草花文	—	—	(3.5)	肥前	18世紀後半~19世紀初頭		J-244
295-7	124-1	I区 III層	瓦質土器	蚊遣り・蓋	天井~縁部	粗	—	17.8	—	5.5	在地	近世	媒付着	I-205
295-8	124-2	I区 III層	瓦質土器	蚊遣り・身	胴部~脚部	粗	—	—	18.4	(18.8)	在地	近世	媒付着	I-204

III層 出土遺物観察表 (金属製品)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	部位	法量 (cm・g)				備考	登録番号
					長さ	幅	厚さ	重さ		
295-9	123-20	I区 III層	弾	—	1.3	—	—	11.66	一部剥落	N-18

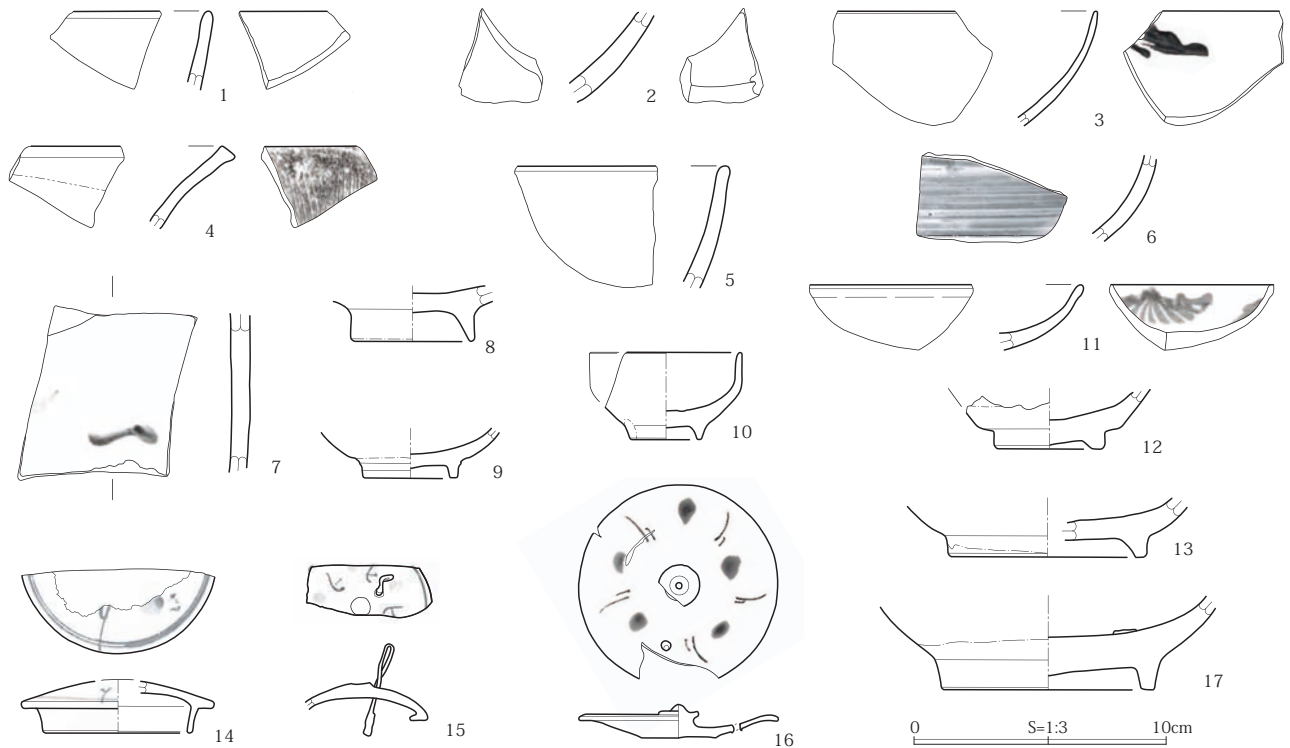
III層 出土遺物観察表 (瓦)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
295-10	124-4	I区 III層	鳥伏間	(12.0)	16.8	2.1	三引両文	H-1
295-11	124-3	I区 III層	丸瓦	(22.0)	(8.0)	2.4	外) 溝あり	F-5

第295図 III区III層 出土遺物

(4) I層・II層・攪乱出土遺物 (第296～299図、図版124-5～17・125-1～20・126-1～14・127-1～7)

I層・II層・攪乱からは近代を主体とした陶磁器、瓦等が出土している。その中で近世に相当する遺物を中心に実測・図化を行っている。

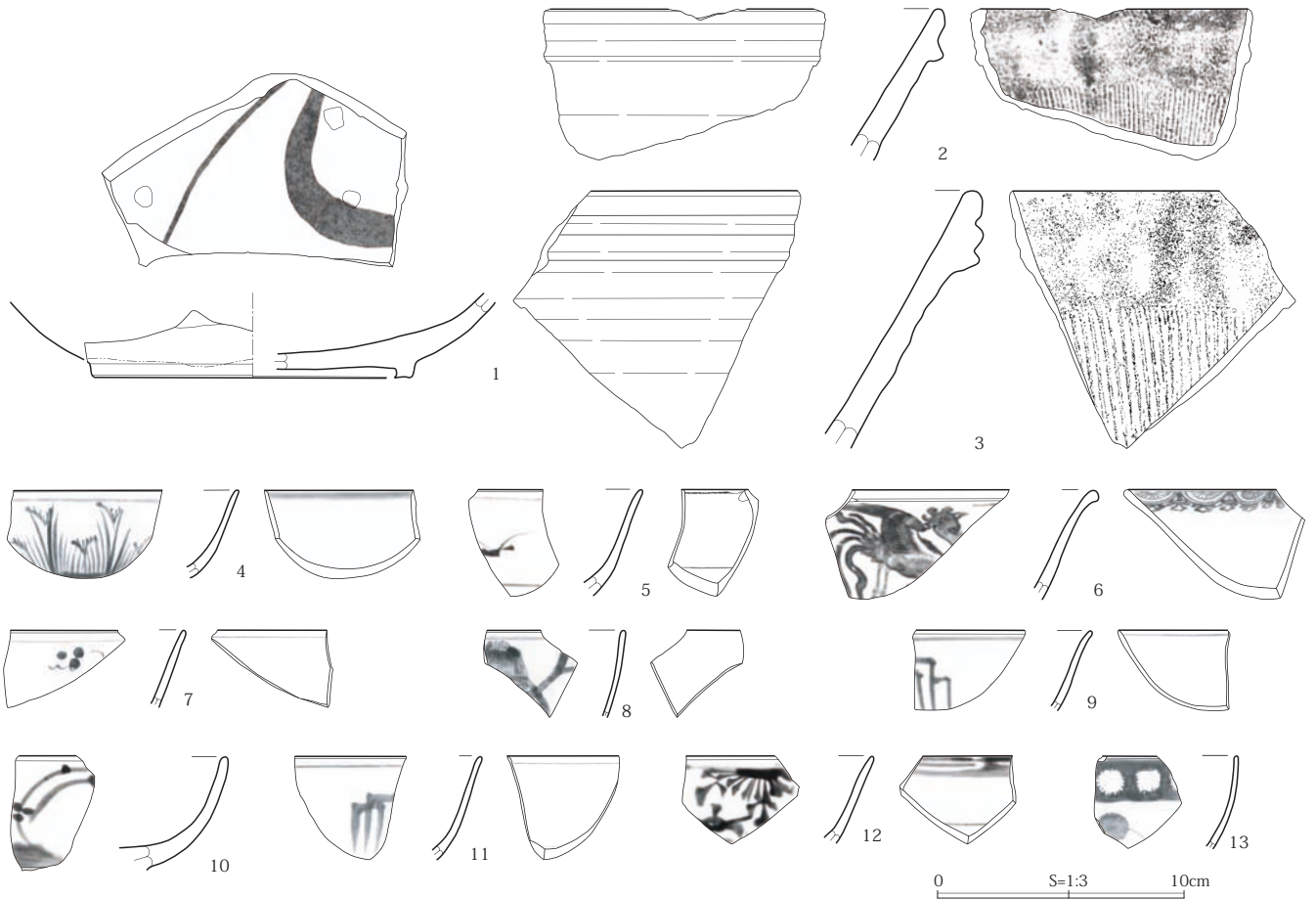


I層・II層 出土遺物観察表 (陶器)

図版番号	写真図版番号	グリッド遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号		
								口径	底径	器高						
296-1	124-5	Ⅲ区 I層	陶器	碗	口縁～体部	密	—	—	—	(3.1)	大塚相馬	18世紀～19世紀		I-107		
296-2	124-6	Ⅲ区 I層	陶器	碗	体部	密	—	—	—	(3.75)	大塚相馬	18世紀～19世紀		I-106		
296-3	124-7	Ⅲ区 II層	陶器	碗	口縁～体部	密	—	—	—	(4.6)	大塚相馬	18世紀～19世紀		I-140		
296-4	124-8	Ⅲ区 I層	陶器	搦鉢	口縁	密	—	—	—	(3.25)	不明	近世		I-134		
296-5	124-9	Ⅲ区 I層	陶器	碗	口縁～体部	密	—	—	—	(4.9)	大塚相馬	18世紀～19世紀		I-111		
296-6	124-10	Ⅲ区 I層	陶器	鉢	体部	やや密	刷毛目	—	—	(3.4)	唐津	18世紀		I-112		
296-7	124-12	Ⅲ区 I層	陶器	瓶?	底部	密	鉄絵	—	—	(6.8)	大塚相馬	18世紀～19世紀	「一」	I-104		
296-8	124-13	Ⅲ区 I層	陶器	碗	底部	密	—	—	—	(2.35)	(2.2)	大塚相馬	18世紀～19世紀		I-144	
296-9	124-16	Ⅲ区 II層	陶器	碗	底部	密	—	—	—	(3.7)	(2.0)	大塚相馬	18世紀～19世紀		I-146	
296-10	124-14	Ⅲ区 II層	陶器	碗	口縁～底部	密	—	—	—	(6.0)	(2.8)	(3.6)	大塚相馬	18世紀～19世紀		I-103
296-11	124-11	Ⅲ区 II層	陶器	皿	口縁～体部	密	呉須絵草文	—	—	(2.6)		大塚相馬	18世紀～19世紀		I-105	
296-12	124-15	Ⅲ区 II層	陶器	碗	底部	密	—	—	—	(4.2)	(2.4)	大塚相馬	18世紀～19世紀		I-143	
296-13	124-17	Ⅲ区 II層	陶器	鉢	底部	密	—	—	—	(7.7)	(2.4)	大塚相馬	18世紀～19世紀		I-141	
296-14	125-5	Ⅲ区 I層	陶器	蓋	体部～縁部	密	色絵花文	(6.6)	—	(2.15)		大塚相馬	19世紀前葉～中葉		I-97	
296-15	125-2	Ⅲ区 I層	陶器	蓋	天井部～縁部	密	色絵花文	—	—	(1.6)		大塚相馬	19世紀前葉～中葉	鉄紐残存	I-131	
296-16	125-1	Ⅲ区 I層	陶器	蓋	紐～縁部	密	色絵花文	(7.4)	(3.0)	1.3		大塚相馬	19世紀前葉～中葉		I-101	
296-17	125-4	Ⅲ区 II層	陶器	鉢	底部	やや粗	—	—	—	(8.4)	(3.8)	堤	19世紀	目跡	I-133	

第296図 Ⅲ区I層・II層 出土遺物

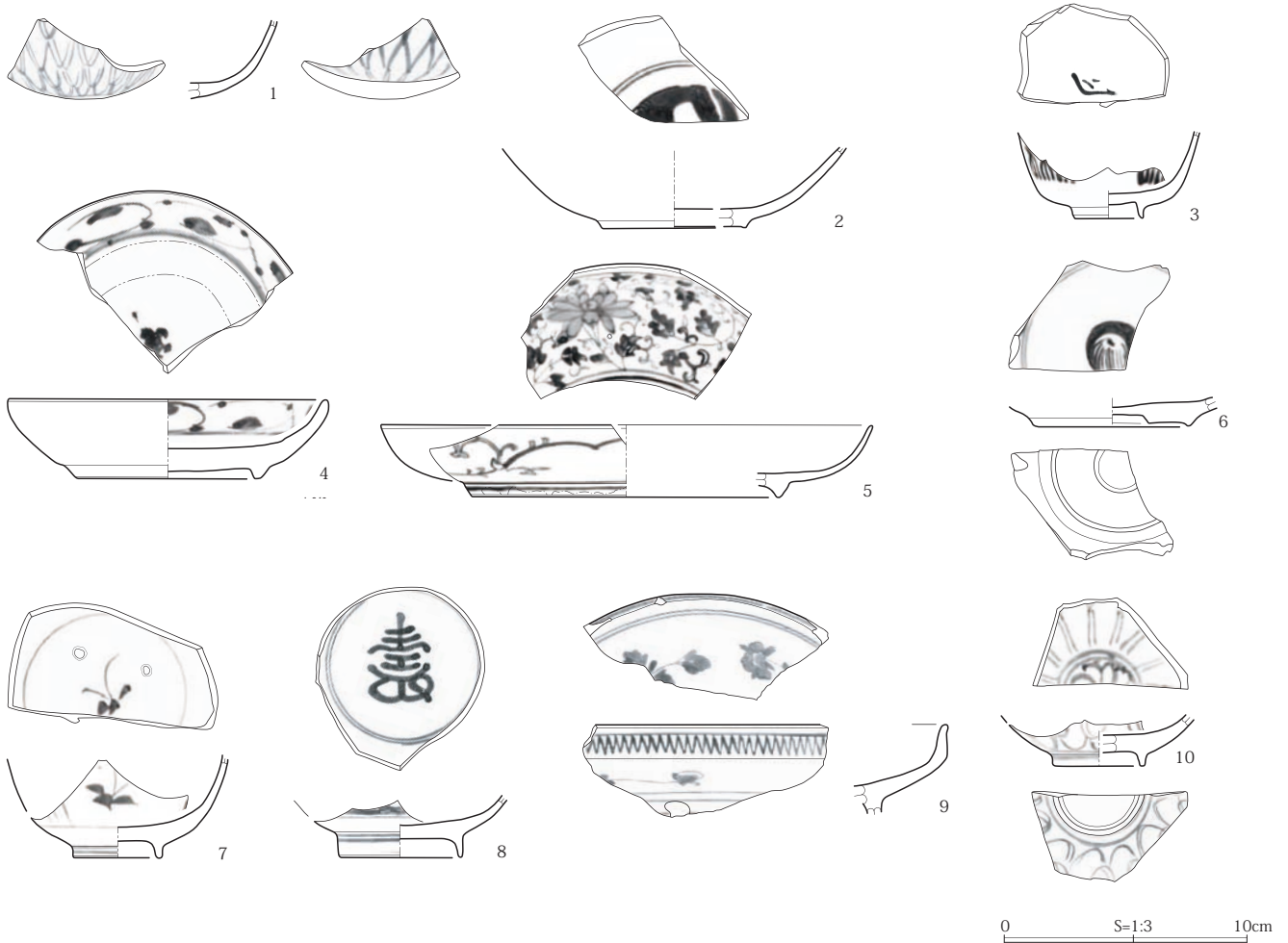
第3節 III区



I層・II層・攪乱 出土遺物観察表 (陶磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
297-1	125-6	III区	陶器	甕	底部	やや密	鉄絵	—	(6.5)	(3.5)	唐津	18世紀	目跡×3	I-100
297-2	125-9	III区	陶器	播鉢	口縁	やや粗	—	—	—	(6.2)	不明	近世		I-147
297-3	125-3	III区	陶器	播鉢	口縁～体部	やや粗	—	—	—	(10.6)	不明	近世		I-135
297-4	125-7	II層	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付草文	—	—	(7.05)	肥前	19世紀前半		J-108
297-5	125-8	III区	磁器	碗	底部	緻密	染付草文	—	(4.6)	(1.85)	肥前	18世紀～19世紀		J-102
297-6	125-10	III区	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付鳳凰文・瓔珞文帯	—	—	(4.5)	肥前	18世紀後半		J-95
297-7	125-11	I層	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付草文	—	—	(3.2)	肥前	18世紀		J-105
297-8	125-12	III区	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付	—	—	(3.05)	肥前	18世紀		J-104
297-9	125-13	III区	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付	—	—	(3.3)	肥前	18世紀		J-235
297-10	125-16	I層	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付草花文	—	—	(4.7)	肥前(波佐見)	18世紀	くらわんか	J-237
297-11	125-15	III区	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付	—	—	(4.2)	肥前	18世紀		J-94
297-12	125-14	I層	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付草文	—	—	(3.6)	肥前	18世紀後半～19世紀		J-99
297-13	125-18	I層	磁器	碗	口縁～体部	緻密	染付雪輪文	—	—	(3.8)	肥前	18世紀後半		J-109

第297図 III区 I層・II層・攪乱 出土遺物

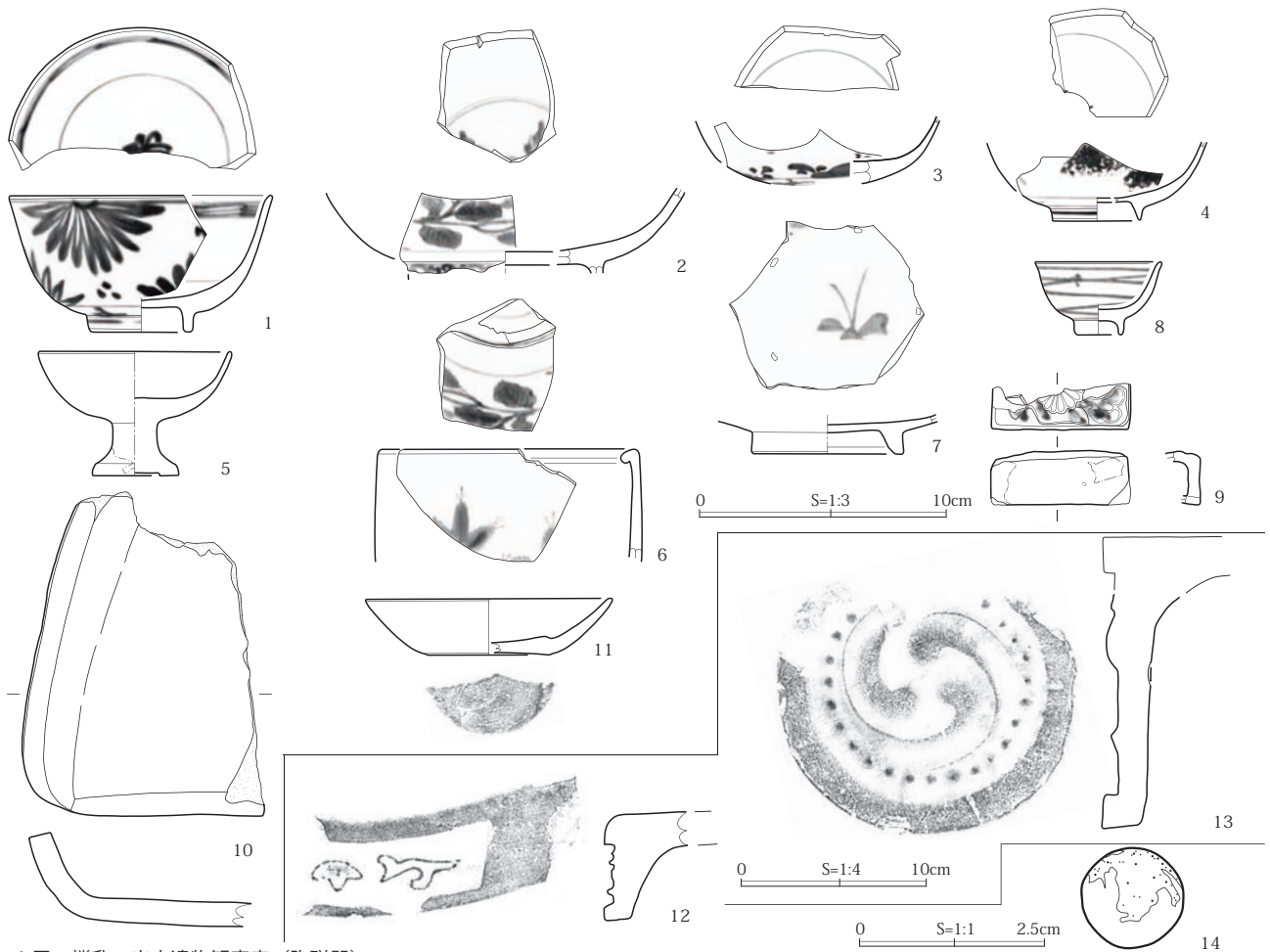


Ⅰ層・Ⅱ層・攪乱 出土遺物観察表 (磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
298-1	125-17	Ⅲ区 Ⅰ層	磁器	碗	体部	緻密	染付網目文	—	—	(3.3)	肥前	18世紀		J-236
298-2	125-20	Ⅲ区 Ⅰ層	磁器	碗	体部～底部	緻密	染付	—	(5.95)	(3.3)	瀬戸・美濃	19世紀		J-100
298-3	125-19	Ⅲ区 Ⅰ層	磁器	碗	体部～底部	緻密	染付源氏香文	—	(2.8)	(2.1)	瀬戸・美濃	19世紀		J-107
298-4	126-1	Ⅲ区 Ⅰ層	磁器	皿	口縁～底部	緻密	染付五弁花・草文	(13.4)	(7.4)	3.3	肥前(波佐見)	18世紀後半	内底) 蛇の目 釉剥ぎ	J-240
298-5	126-3	Ⅲ区 攪乱	磁器	皿	口部～底部	緻密	染付草文・花 唐草文	(20.4)	(12.7)	(3.0)	肥前	18世紀前半		J-239
298-6	126-4	Ⅲ区 Ⅰ層	磁器	皿	底部	緻密	染付	—	(6.4)	(1.2)	瀬戸・美濃	19世紀		J-111
298-7	126-2	Ⅲ区 Ⅰ層	磁器	碗	体部～底部	緻密	染付草花文	—	(3.6)	(4.0)	瀬戸・美濃	19世紀	目跡×2	J-98
298-8	126-6	Ⅲ区 Ⅱ層	磁器	碗	体部～底部	緻密	染付	—	(5.0)	(2.6)	瀬戸・美濃	19世紀	見込み「寿」	J-238
298-9	126-7	Ⅲ区 Ⅰ層	磁器	皿	口縁～体部	緻密	染付草花文・ 鋸歯文帯	—	—	(3.7)	肥前	17世紀末～ 18世紀前半		J-245
298-10	126-11	Ⅲ区 Ⅱ層	磁器	碗	体部～底部	緻密	染付網目文	—	(3.6)	(1.9)	肥前	17世紀後半 ～18世紀		J-110

第298図 Ⅲ区Ⅰ層・Ⅱ層・攪乱 出土遺物

第3節 III区



I層・攪乱 出土遺物観察表 (陶磁器)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	器種	部位	胎土	文様等	法量 (cm)			産地	時期	備考	登録番号
								口径	底径	器高				
299-1	126-13	III区 攪乱	磁器	碗	口縁~底部	緻密	染付草花文	(10.7)	(4.0)	(5.6)	瀬戸・美濃	19世紀中頃		J-101
299-2	126-10	III区 攪乱	磁器	碗	体部~底部	緻密	染付草文	—	—	(3.5)	肥前	18世紀		J-112
299-3	126-8	III区 攪乱	磁器	碗	体部	緻密	染付草文	—	—	(2.2)	肥前	18世紀		J-103
299-4	126-9	III区 I層	磁器	碗	体部~底部	緻密	染付	—	(3.6)	(3.2)	瀬戸・美濃	19世紀		J-93
299-5	126-12	III区 I層	磁器	仏飯器	口縁部~底部	緻密	白磁	(7.8)	(3.5)	5.1	肥前	近世		J-86
299-6	127-1	III区 I層	磁器	香炉	口縁~体部	緻密	染付	—	—	(4.6)	肥前	18世紀~19世紀		J-91
299-7	126-14	III区 攪乱	磁器	皿	底部	緻密	染付	—	(6.1)	(1.6)	肥前	18世紀~19世紀	目跡×4	J-87
299-8	126-5	III区 I層	磁器	碗	口縁~底部	緻密	染付線文	5.1	1.8	3.0	瀬戸・美濃	19世紀		J-106
299-9	127-2	III区 I層	磁器	水滴	体部~底部	緻密	染付・型押菊文	—	—	(1.9)	肥前	近世	内)布目	J-92
299-10	127-5	III区 攪乱	瓦質土器	盤?	口縁部~底部	やや粗	—	—	—	(3.6)	在地	近世		I-206
299-11	127-3	III区 攪乱	土師質土器	皿	口縁部~底部	やや密	—	11.0	5.9	2.5	在地	近世		I-219

攪乱 出土遺物観察表 (瓦)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種類	法量 (cm)			備考	登録番号
				長さ	幅	厚さ		
299-12	127-6	III区 攪乱	軒平瓦	(4.4)	(14.0)	1.9	三枚笹+唐草文	G-13
299-13	127-4	III区 攪乱	軒丸瓦	(6.5)	16.1	2.2	三巴文+連珠文	F-6

I層 出土遺物観察表 (金属製品)

図版番号	写真図版番号	グリッド 遺構・層位	種別	部位	法量 (cm・g)				備考	登録番号
					長さ	幅	厚さ	重さ		
299-14	127-7	III区 I層	弾	—	1.5	—	—	14.78	一部剥落	N-17

第299図 III区I層・攪乱 出土遺物

第6章 自然科学分析

第1節 樹種調査

中尾七重（武蔵大学総合研究所）

1. はじめに

仙台城跡（亀岡トンネル開削部）から出土した木製品 40 点について樹種調査を行った。

2. 調査方法

1) 出土部材から剃刀を使用して、木材組織切片を木口面（図版 a）・板目面（図版 b）・柁目面（図版 c）の 3 面を作成し、生物顕微鏡観察により樹種名を同定した。樹種名の同定にあたっては、島地謙・伊藤隆夫 1982 図説木材組織 地球社、伊藤隆夫 1995 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ 木材研究・資料第 31 号 京都大学木質科学研究所、伊藤隆夫 1996 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ 木材研究・資料第 32 号 京都大学木質科学研究所、伊藤隆夫 1997 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ 木材研究・資料第 33 号 京都大学木質科学研究所、伊藤隆夫 1998 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ 木材研究・資料第 34 号 京都大学木質科学研究所、IAWA 委員会・E.A.Wheeler・P.Baas・P.E.Gasson 1998 広葉樹材の識別 海青社、独立行政法人森林総合研究所木材データベース を参考にし、筆者が所持しているプレパラートと比較して、確認した。

2) 同定の根拠 樹種名を同定した根拠について簡単に述べる。

二葉松類 *Pinus*(*Diploxylon*) sp.

道管はない。樹脂道を持ち、分野壁孔は窓状、放射仮道管の内壁は、鋸歯状に不規則に突出している。

スギ *Cryptomeria japonica* D.Don

道管はない。晩材の幅が広く、早材と晩材の硬さの違いが大きい。樹脂細胞は年輪外側に接線状に散在する。

分野壁孔は典型的なスギ型で、1 分野に 1～3 個、通常は 2 個存在する。日本特産で 1 属 1 種。

クリ *Castanea crenata* SIEB. et ZUCC.

環孔材。孔圏部は 3～4 列、孔圏外は急に大きさを減じて、複合して火炎状に配列。放射組織は単列同性。道管を囲む、振れ絡みあう周囲仮道管が特徴的。

ナラ類 *Sect. Prinus Loudon syn. Diversipilosae, Dentatae*

環孔材。孔圏部 1～3 列の大道管は円形で単独、孔圏外で急に大きさを減じた小道管は単独あるいは 2～3 個かたまって火炎状に配列。放射組織は単列同性と複合型広放射組織の 2 種類からなり、全て平伏細胞。

クマシデ属 *Carpinus* L.

散孔材。年輪界は波状を呈する。道管は単独ないし放射方向に数個複合する。道管は単穿孔を有し、内壁には不鮮明ならせん肥厚が見られる。放射組織は 1-4 列で、集合放射組織を有し、結晶細胞が存在する。

3. 調査結果

柱はスギ、クリ、ニヨウマツが、杭はスギ、クリ、ナラ類、クマシデ属が、木樋はニヨウマツが用いられていた。マツ科マツ属は、ニヨウマツ（複維管束亜属）とゴヨウマツ（単維管束亜属）に分類され、日本で代表的なニヨウマツはアカマツとクロマツである。アカマツとクロマツは顕微鏡観察では識別は困難である。ナラ類とは、ブナ科コナラ亜科コナラ属コナラ亜属コナラ節に属するコナラ、ミズナラ、カシワなどの呼称である。コナラ、ミズナラ、カシワは顕微鏡観察では識別は困難である。カバノキ科クマシデ属にはサワシバ、クマシデ、イヌシデ、アカシデ、イワシデが属するが、No. 21 はクマシデ、イヌシデ、アカシデ、イワシデのいずれかであり、これらは顕微鏡観察では識別は困難である。

第1節 樹種調査

通しNo.	出土遺構	種類	樹種	C14 年代No.	遺物No.	登録No.
1	1号木樋	木樋台	スギ		1339	L-39
2	1号木樋	木樋	マツ		1546	L-41
3	1号木樋	木樋	マツ		1546-2	L-41
4	1号木樋	木樋	マツ		1545	
5	1号木樋	蓋板	マツ		1546	L-41
6	2号竹樋 -P4	杭	スギ		369	L-31
7	2号竹樋 -P4	杭	スギ		368	L-30
8	1号池 - 杭 6	杭	クリ		510	
9	1号池 - 杭 16	杭	クリ	K9	520	L-92
10	1号池 - 杭 10	杭	クリ		514	
11	1号池 - 杭 42	杭	マツ	K18	546	
12	1号池	建築部材	スギ		440	L-88
13	1号石垣	杭	スギ		495	L-111
14	1号柵状遺構 - 杭 1	杭	スギ	K16	551	
15	SA1-P25	柱材	マツ	K22	220	
16	SA1-P24	柱材	マツ		219	
17	SA6-P3	柱材	スギ		1875	
18	SA5a-P1	柱材	クリ		2229	
19	SA5b	柱材	クリ	K20	2236	
20	SA8	柱材	ナラ類	K2	2124	L-107
21	SA8	柱材	クマシデ類		2126	L-108
22	SA9	杭	スギ		2197	L-110
23	SA9	杭	スギ	K4	2199	L-109
24	SA17-P2	柱材	スギ		2051	L-43
25	SA18-P2	柱材	スギ	K17	2273	
26	SA19-P2	柱材	クリ		2310	
27	SA21-P2	柱材	クリ	K12	2548	
28	SA21-P1	柱材	クリ	K13	2549	
29	SA23-P3	柱材	クリ		502	L-1
30	SA23-P4	柱材	スギ		503	L-2
31	SA23-P5	柱材	スギ		504	L-3
32	SD54	杭	スギ		2696	L-51
33	SE1	側板	スギ		2159	L-4
34	SE1	側板	マツ		2167	L-5
35	SE1	柱材	スギ	K19	2611	
36	SK68	柱材	マツ	K1	2241	L-10
37	SK68	横木	スギ		2241	L-10
38	P2	柱材	マツ		971	L-112
39	P2	横木	スギ		971	L-112
40	SK72	柱材	スギ		2239	L-27

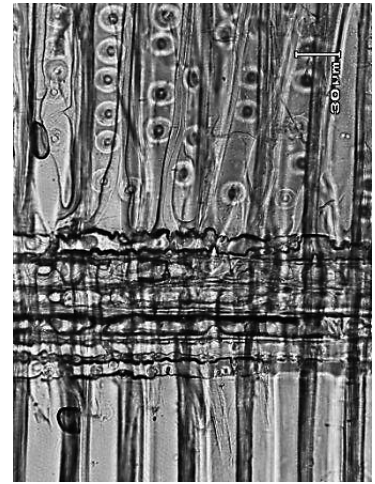
第3表 樹種一覧



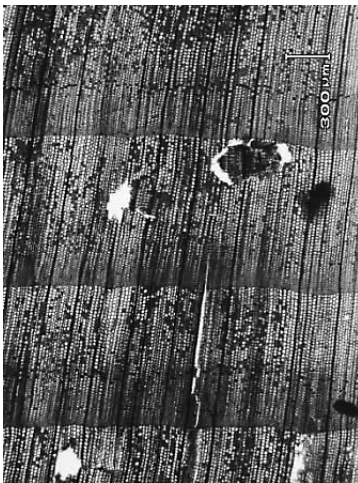
1. ニヨウマツ木口



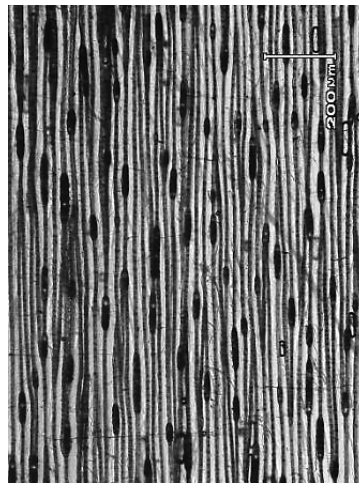
2. ニヨウマツ板目



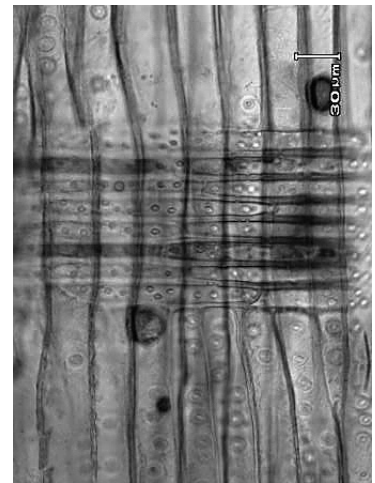
3. ニヨウマツ柁目



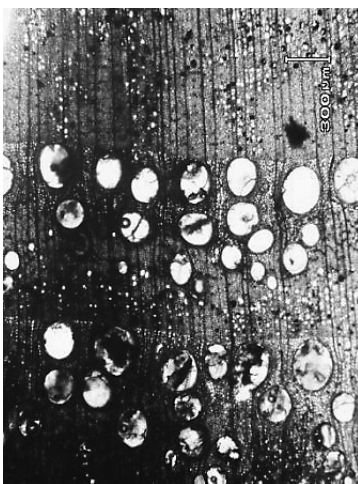
4. スギ木口



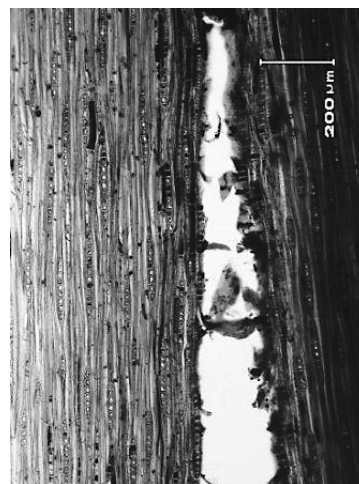
5. スギ板目



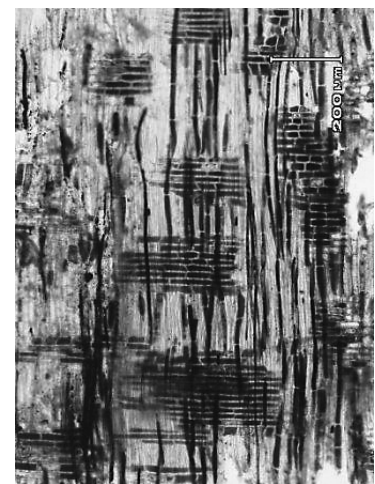
6. スギ柁目



7. クリ木口



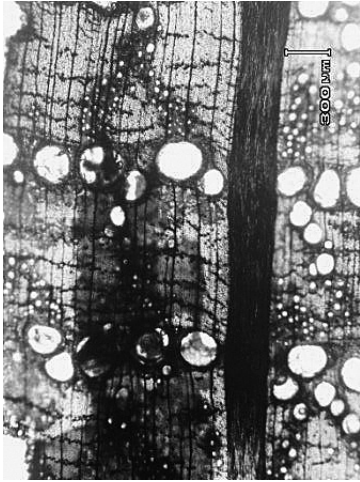
8. クリ板目



9. クリ柁目

第 300 図 仙台城跡（亀岡トンネル開削部）出土木製品の顕微鏡写真

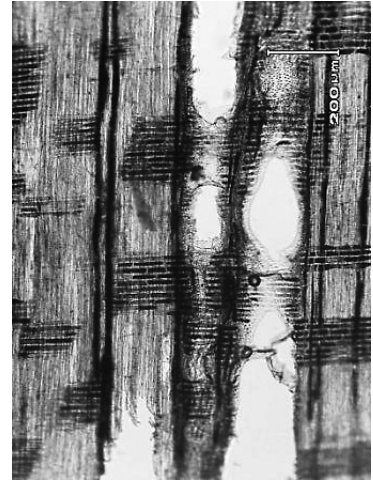
第1節 樹種調査



10. ナラ木口



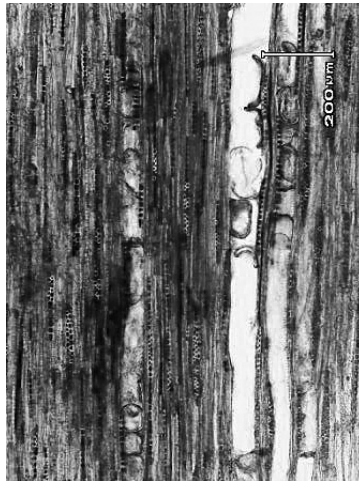
11. ナラ板目



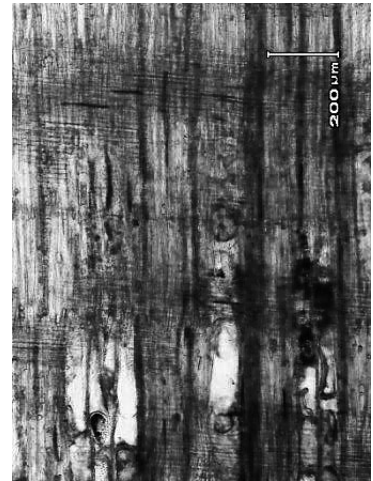
12. ナラ柱目



13. クマシデ木口



14. クマシデ板目



15. クマシデ柱目

第301図 仙台城跡（亀岡トンネル開削部）出土木製品の顕微鏡写真

第2節 放射性炭素年代測定調査

中尾七重（武蔵大学総合研究所）

1. はじめに

仙台城跡（亀岡トンネル開削部）から出土した木製品 12 点について、放射性炭素年代測定を行った。12 点の木製品のうち、20 年輪以上が確認された 10 点の木製品についてはウィグルマッチ法を用いた。

2. 調査方法

1) 試料採取

2008 年 9 月 23 日、保管中の出土木製品群から、遺構面の年代に対応する遺物であること、樹木の伐採年代を知るために必要な樹皮隣接層や辺材部が存在すること、ウィグルマッチ法の適用可能な年輪数が確保できること、の 3 点に注目して選定を行った。その結果、K1/ No. 36(2241)、K2/ No. 34(L-107)、K4/ No. 19(L-109)、K9/ No. 8 (L-92)、K12/ No. 3(2548)、K13/ No. 6(2549)、K16/ No. 29(551)、K17/ No. 28(2273)、K18/ No. 31(546)、K19/ No. 30(2611)、K20/ No. 27(2236)、K 22/ No. 4(220) の 12 木製品を選定し、放射性炭素年代測定対象とした。それぞれ写真撮影等の記録を行い、6 年輪の K4 および K16 は 1 点の試料採取、その他の 10 木製品については放射性炭素 14 ウィグルマッチ用に複数の年輪試料を採取した。それぞれ最外層からの年輪位置を記録し、最外年輪を第一年輪として数十ミリグラムの年代測定試料の採取を行った。

2) 試料処理および炭素 14 測定

分析試料として十数ミリグラムを分取し、標準的な酸・アルカリ・酸による洗浄処理（AAA 処理）、化学洗浄した試料の二酸化炭素への変換、二酸化炭素のグラファイト化、ならびに放射性炭素 14（ ^{14}C ）の加速器質量分析を一括してパレオ・ラボ社に委託した。

3) 炭素 14 測定について

得られた炭素 14 測定の測定結果を表 1 に示す。炭素 13 同位体比は、炭素 13 の炭素 12 に対する同位体比の標準資料に対する偏差で、千分率で表される。炭素 14 年代は、炭素 14 濃度（ $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比）の測定によって得られた値を炭素 14 年代に換算した値で示されている。炭素 14 年代値には測定施設のラボ番号が付される。

炭素 14 年代値は、西暦 1950 年に相当する大気炭素 14 濃度基準値に対する試料の濃度比から計算されるモデル年代で、 $\delta^{13}\text{C}$ の同位体効果補正（-25‰に規格化）を行った値である。通常は BP 又は yrBP で示されることが多いが、ここでは炭素 14 年代値であることを明確にするため、 ^{14}C BP を使用している。表の炭素 14 年代につけられた誤差は、測定における統計誤差（1 標準偏差、68%信頼限界）である。暦年値に換算するには、後述するように、校正曲線を用いて実年代（暦年代）に変換する必要があるが、基本的には、測定試料の炭素 14 濃度と、過去の大気の炭素 14 濃度曲線（校正曲線）との比較から年代が得られる。実際には濃度を炭素年代に換算した値（モデル年代）で解析する。

4) 測定結果の解析・・・ウィグルマッチ法による年代解析

木材がもつそれぞれの年輪の炭素 14 濃度（同位体組成）は、ミクロ的には木材繊維（セルロース）が形成された年代の大気二酸化炭素の炭素 14 濃度（同位体組成）×経過時間による壊変減衰率、となっている。年輪中の炭素 14 濃度は全体としては、時間の経過による放射壊変減衰のため、過去に遡るほど少なくなっているが、詳細に見るとそれぞれの年の大気中炭素 14 濃度の変動によって凸凹の特性を持っている。すなわち暦年校正曲線は凸凹（wiggle）をもっているため、測定値はしばしば複数の年代に対応することになる。この問題を解決するため、年代間隔のわかった複数試料で炭素 14 測定値を得て、暦年校正曲線の凸凹の特性と照合解析し年代推定誤差を小さく

第2節 放射性炭素年代測定調査

くする方法（ウィグルマッチ法）が、近年の暦年較正曲線の整備や年代測定精度の向上に伴って注目されるようになった。年輪に沿って多数の測定値がある場合には、全体のデータのパターンを満たす条件は極めて限られ、高精度に年代が決定される。ここでは、ウィグルマッチ法のための歴博製解析プログラム RHC3.2w で計算した。プログラムは現在国際的に広く用いられているベイズ統計の方法を用いるもので、通常 95%の信頼限度で推定年代範囲を算出した。数値は最外年輪の較正年代を cal AD で表した。年代の計算値は用いる基準データ（暦年較正データベース）や計算法で一桁台は変わりうるもので、細かな数字の違いを議論することは意味がない。暦年較正データベースは IntCal04 を用いている。

放射性炭素年代測定結果 仙台城跡（亀岡トンネル開削部）出土木製品

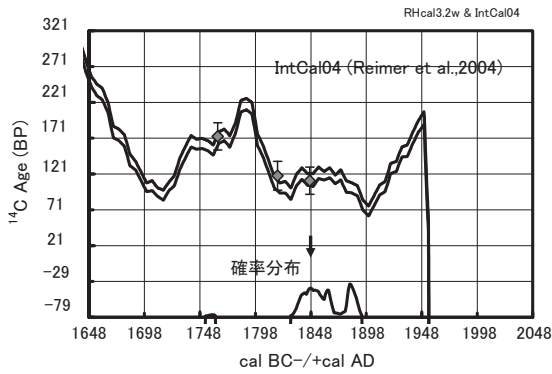
試料No.	年代測定資料No.	遺物番号	出土地点	種類	年輪層 / 総年輪数	最外部	炭素 13 同位体比* $\delta^{13}C$ (‰)	14C 年代 (14CBP $\pm 1\sigma$)	測定番号	較正した 暦年代範囲
1	K1	L-10	SK68	柱材	1/84		-27.32 \pm 0.16	110 \pm 20	PLD-11516	1833-1871 1876-1893
2	1	L-10			30/84		-27.69 \pm 0.13	120 \pm 20	PLD-11517	
3	1	L-10			84/84		-28.11 \pm 0.13	175 \pm 20	PLD-11518	
4	K2	L-107	SA8	柱材	1/34		-28.82 \pm 0.12	345 \pm 20	PLD-11519	1557-1634
5	2	L-107			22/34		-30.94 \pm 0.16	345 \pm 20	PLD-11520	
6	2	L-107			34/34		-30.11 \pm 0.20	310 \pm 20	PLD-11521	
7	K4	L-109	SA9	杭	3/6		-24.28 \pm 0.19	135 \pm 25	PLD-11522	1680-1717 1719-1790 1803-1894 1911-1943
8	K9	L-92	1号池	杭	1/20	皮つき	-28.27 \pm 0.12	90 \pm 20	PLD-11523	1710-1731 1830-1856 1878-1926
9	9	L-92			10/20		-30.03 \pm 0.12	95 \pm 20	PLD-11524	
10	9	L-92			19/20		-31.15 \pm 0.11	85 \pm 20	PLD-11525	
11	K12	2548	SA21-P2	柱材	1/20		-29.67 \pm 0.13	195 \pm 20	PLD-11526	1762-1794
12	12	2548			10/20		-27.95 \pm 0.22	180 \pm 20	PLD-11527	
13	12	2548			20/20		-28.10 \pm 0.13	145 \pm 20	PLD-11528	
14	K13	2549	SA21-P1	柱材	1/23		-29.35 \pm 0.10	120 \pm 20	PLD-11529	1690-1714 1815-1835
15	13	2549			10/23		-27.73 \pm 0.14	135 \pm 20	PLD-11530	
16	13	2549			23/23		-27.73 \pm 0.12	165 \pm 20	PLD-11531	
17	K16	551	1号柵状遺構	杭	3/6		-27.02 \pm 0.11	85 \pm 20	PLD-11532	1697-1730 1816-1857 1869-1921
18	K17	2273	SA18	柱材	1/89		-24.80 \pm 0.12	285 \pm 20	PLD-11533	1629-1662
19	17	2273			89/89		-25.41 \pm 0.13	345 \pm 20	PLD-11534	
20	K18	546	1号池	杭	1/48		-29.16 \pm 0.12	60 \pm 20	PLD-11535	1892-1921
21	18	546			20/48		-27.58 \pm 0.11	55 \pm 20	PLD-11536	
22	18	546			48/48		-28.45 \pm 0.14	140 \pm 20	PLD-11537	
23	K19	2611	SE1	杭	1/74	皮つき	-23.62 \pm 0.21	280 \pm 20	PLD-11538	1633-1656
24	19	2611			40/74		-24.06 \pm 0.12	370 \pm 20	PLD-11539	
25	19	2611			74/74		-24.57 \pm 0.15	315 \pm 20	PLD-11540	
26	K20	2236	SA5b	柱材	1/24		-28.09 \pm 0.22	160 \pm 20	PLD-11541	1733-1757 1927-1949
27	20	2236			10/24		-26.87 \pm 0.13	165 \pm 20	PLD-11542	
28	20	2236			24/24		-28.91 \pm 0.19	85 \pm 20	PLD-11543	
29	K22	220	SA1-P25	柱材	1/36	皮つき	-30.10 \pm 0.11	105 \pm 20	PLD-11544	1904-1937
30	22	220			20/36		-28.97 \pm 0.17	70 \pm 20	PLD-11545	
31	22	220			36/36		-27.29 \pm 0.14	65 \pm 20	PLD-11546	

*) 炭素 13 の炭素 12 に対する同位体比の標準試料に対する偏差を千分率で表示したもので、AMS による測定で参考値。炭素 14 濃度 (14C/12C) の同位体効果の補正に用いられる指標。

第4表 仙台城跡（亀岡トンネル開削部）出土木製品の炭素 14 年代測定結果

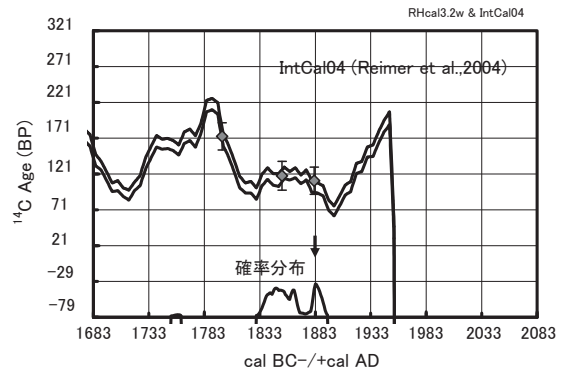
3. 年代解析結果

K1(L-10)



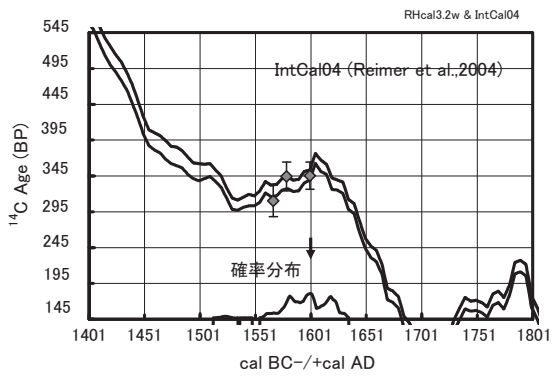
Result of Analysis:		95% confidence limit	
1833	cal AD ~	1871	cal AD (68%)
1876	cal AD ~	1893	cal AD (27%)

K1(L-10)



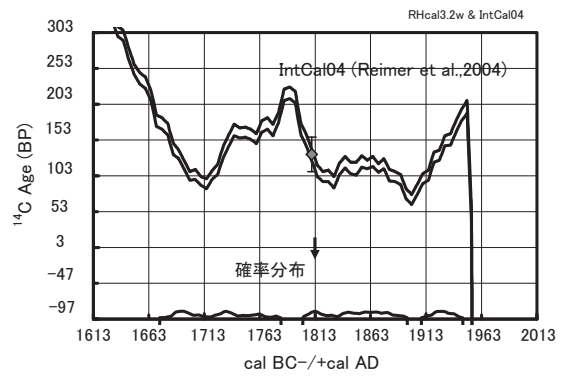
Result of Analysis:		95% confidence limit	
1833	cal AD ~	1871	cal AD (68%)
1876	cal AD ~	1893	cal AD (27%)

K2(L-107)



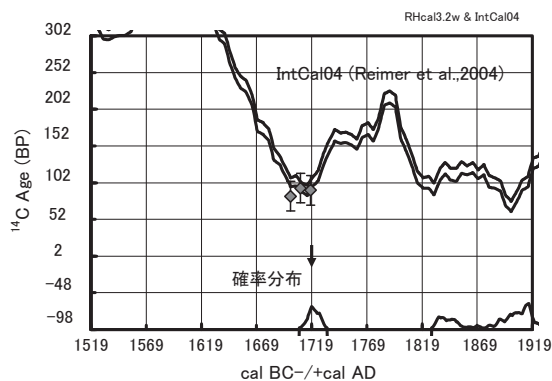
Result of Analysis:		95% confidence limit	
1519	cal AD ~	1528	cal AD (2%)
1557	cal AD ~	1634	cal AD (93%)

K4(L-109)



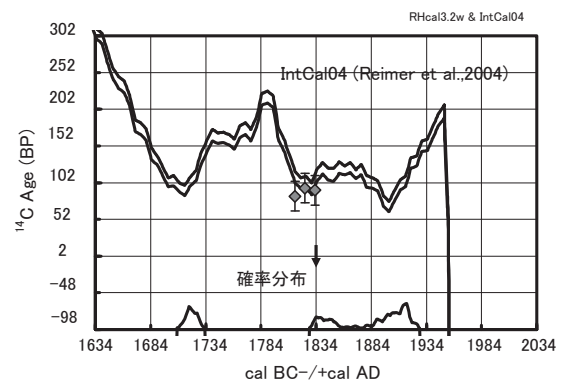
Result of Analysis:		95% confidence limit	
1680	cal AD ~	1717	cal AD (16%)
1719	cal AD ~	1770	cal AD (20%)
1775	cal AD ~	1779	cal AD (1%)
1803	cal AD ~	1894	cal AD (43%)
1911	cal AD ~	1943	cal AD (15%)

K9(L-92)



Result of Analysis:		95% confidence limit	
1710	cal AD ~	1731	cal AD (24%)
1830	cal AD ~	1856	cal AD (20%)
1861	cal AD ~	1862	cal AD (0%)
1868	cal AD ~	1871	cal AD (1%)
1878	cal AD ~	1926	cal AD (50%)

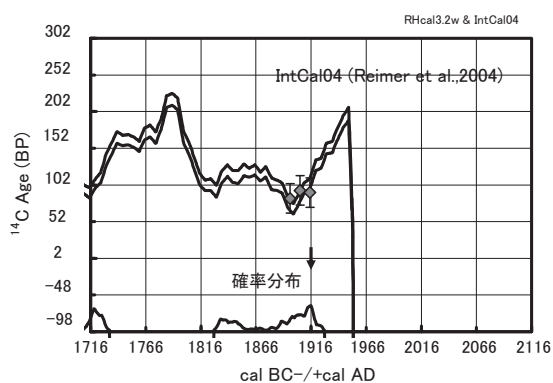
K9(L-92)



Result of Analysis:		95% confidence limit	
1710	cal AD ~	1731	cal AD (24%)
1830	cal AD ~	1856	cal AD (20%)
1861	cal AD ~	1862	cal AD (0%)
1868	cal AD ~	1871	cal AD (1%)
1878	cal AD ~	1926	cal AD (50%)

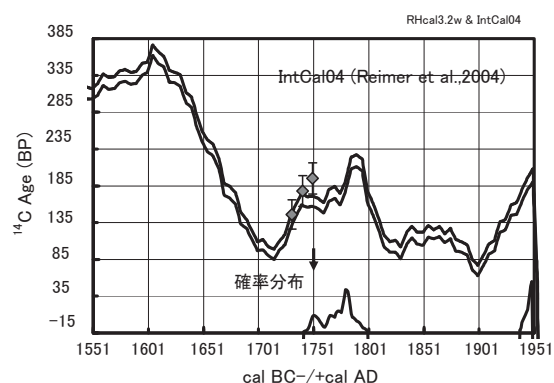
第2節 放射性炭素年代測定調査

K9(L-92)



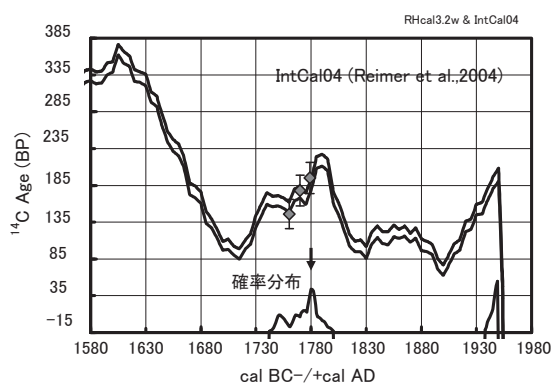
Result of Analysis:		95% confidence limit	
1710	cal AD	~ 1731	cal AD (24%)
1830	cal AD	~ 1856	cal AD (20%)
1861	cal AD	~ 1862	cal AD (0%)
1868	cal AD	~ 1871	cal AD (1%)
1878	cal AD	~ 1926	cal AD (50%)

K12(2548)



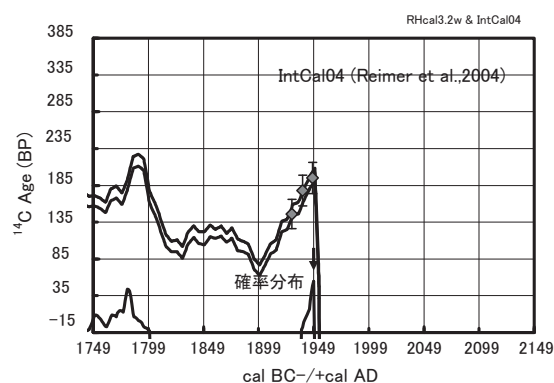
Result of Analysis:		95% confidence limit	
1747	cal AD	~ 1760	cal AD (15%)
1762	cal AD	~ 1794	cal AD (57%)
1940	cal AD	~ 1949	cal AD (23%)

K12(2548)



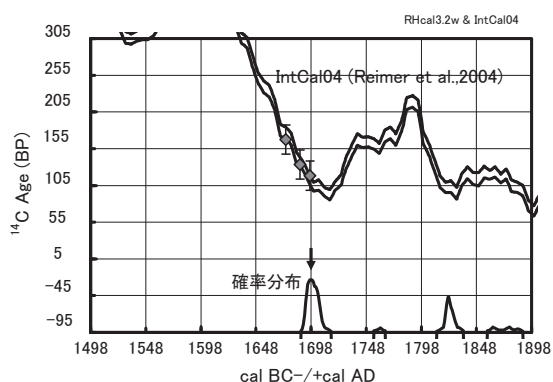
Result of Analysis:		95% confidence limit	
1747	cal AD	~ 1760	cal AD (15%)
1762	cal AD	~ 1794	cal AD (57%)
1940	cal AD	~ 1949	cal AD (23%)

K12(2548)



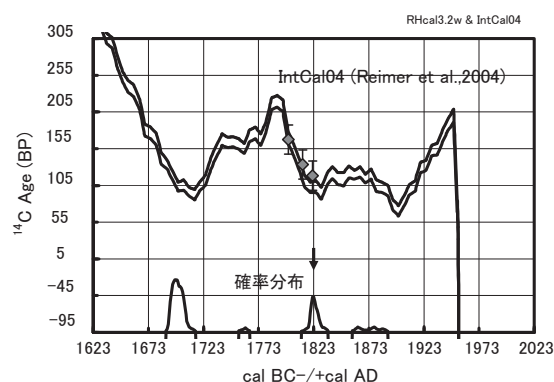
Result of Analysis:		95% confidence limit	
1747	cal AD	~ 1760	cal AD (15%)
1762	cal AD	~ 1794	cal AD (57%)
1940	cal AD	~ 1949	cal AD (23%)

K13(2549)

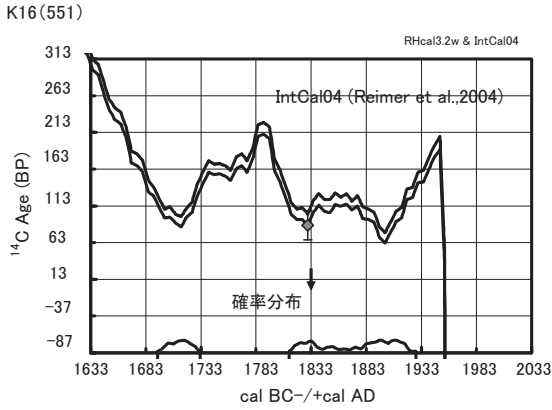


Result of Analysis:		95% confidence limit	
1690	cal AD	~ 1714	cal AD (60%)
1757	cal AD	~ 1764	cal AD (2%)
1815	cal AD	~ 1835	cal AD (25%)
1859	cal AD	~ 1888	cal AD (9%)

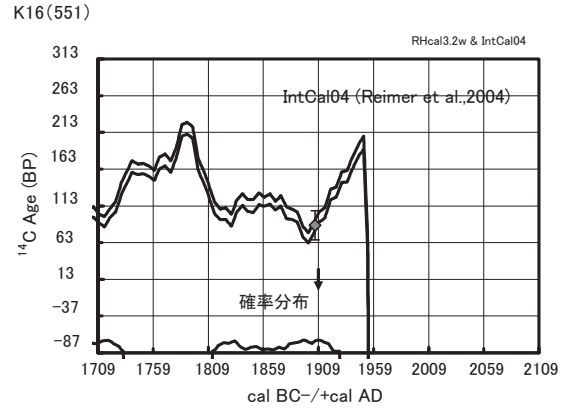
K13(2549)



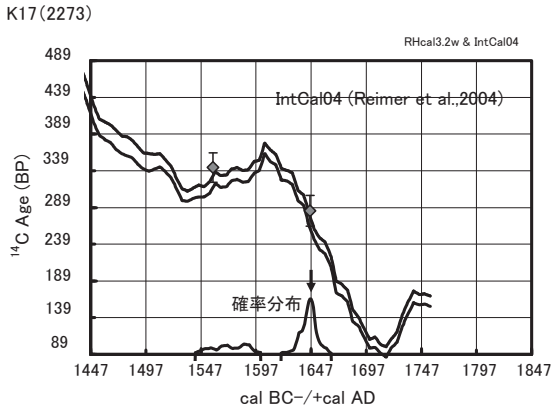
Result of Analysis:		95% confidence limit	
1690	cal AD	~ 1714	cal AD (60%)
1757	cal AD	~ 1764	cal AD (2%)
1815	cal AD	~ 1835	cal AD (25%)
1859	cal AD	~ 1888	cal AD (9%)



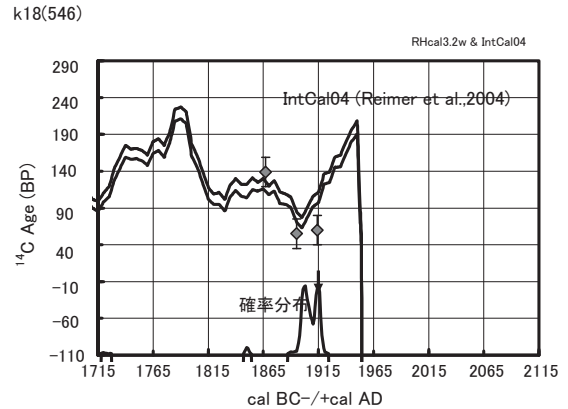
Result of Analysis:		95% confidence limit	
1697	cal AD	~ 1730	cal AD (26%)
1816	cal AD	~ 1857	cal AD (26%)
1860	cal AD	~ 1866	cal AD (2%)
1869	cal AD	~ 1921	cal AD (41%)



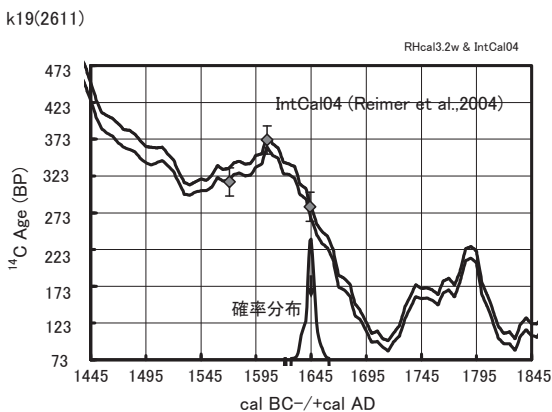
Result of Analysis:		95% confidence limit	
1697	cal AD	~ 1730	cal AD (26%)
1816	cal AD	~ 1857	cal AD (26%)
1860	cal AD	~ 1866	cal AD (2%)
1869	cal AD	~ 1921	cal AD (41%)



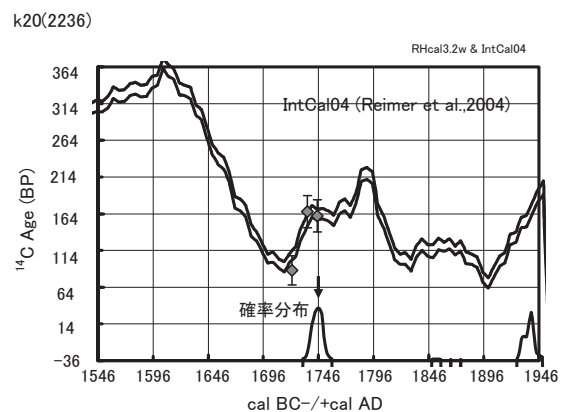
Result of Analysis:		95% confidence limit	
1545	cal AD	~ 1595	cal AD (29%)
1629	cal AD	~ 1662	cal AD (66%)



Result of Analysis:		95% confidence limit	
1848	cal AD	~ 1852	cal AD (2%)
1890	cal AD	~ 1890	cal AD (0%)
1892	cal AD	~ 1921	cal AD (93%)

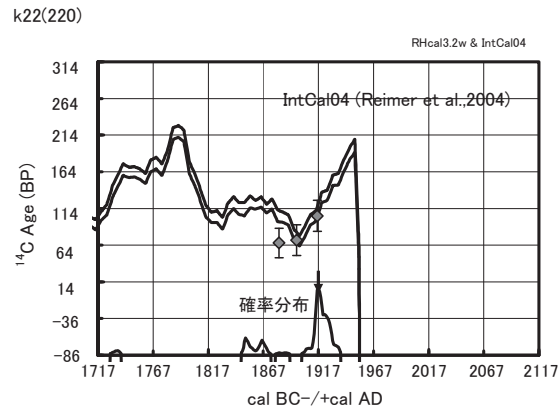


Result of Analysis:		95% confidence limit	
1633	cal AD	~ 1656	cal AD (95%)



Result of Analysis:		95% confidence limit	
1733	cal AD	~ 1757	cal AD (56%)
1927	cal AD	~ 1949	cal AD (39%)

第2節 放射性炭素年代測定調査



Result of Analysis:		95% confidence limit	
1730	cal AD	~	1737 cal AD (2%)
1847	cal AD	~	1872 cal AD (20%)
1881	cal AD	~	1882 cal AD (0%)
1886	cal AD	~	1887 cal AD (0%)
1904	cal AD	~	1937 cal AD (73%)

謝辞：パレオ・ラボ（株）の AMS 測定スタッフの方々の高精度炭素 14 測定のためのご協力に感謝する。

i 放射性炭素年代測定番号 / 木製品リスト通しNo. (遺物番号)

ii 今村峯雄 (2007) 「炭素 14 年代較正ソフト RHC3.2 について」『国立歴史民俗博物館研究報告』第 137 集, pp.79-88

iii Reimer PJ, MGL Baillie, E Bard, A Bayliss, JW Beck, C Bertrand, PG Blackwell, CE Buck, G Burr, KB Cutler, PE Damon, RL Edwards, RG Fairbanks, M Friedrich, TP Guilderson, KA Hughen, B Kromer, FG McCormac, S Manning, C Bronk Ramsey, RW Reimer, S Remmele, JR Southon, M Stuiver, S Talamo, FW Taylor, J van der Plicht, and CE Weyhenmeyer. (2004) Radiocarbon 46, pp.1029-1058.

第3節 寄生虫卵分析

株式会社古環境研究所

1. はじめに

人や動物などに寄生する寄生虫の卵殻は、花粉と同様の条件下で堆積物中に残存しており、人の居住域では寄生虫卵による汚染度が高くなる。寄生虫卵分析を用いてトイレ遺構の確認や人糞施肥の有無の確認が可能であり、寄生虫卵の種類から、摂取された食物の種類や、そこに生息していた動物種を推定することも可能である。

2. 試料

分析試料は、仙名城跡（亀岡トンネル開削部）の調査区北壁短弁から採取されたⅢ層（試料 110）、Ⅳ a 層（試料 111）、Ⅴ a 層（試料 112）、Ⅴ b 層（試料 113）、Ⅵ a 層（試料 114）、Ⅵ b 層（試料 115）、Ⅵ c 層（試料 116）、Ⅵ d 層（試料 117）、Ⅵ e 層（試料 125）の 9 点、調査区南壁断面から採取されたⅡ層（試料 118）、Ⅲ層（試料 119）、Ⅳ a 層（試料 120）、Ⅴ c 層（試料 121）、Ⅵ d 層（試料 122）、Ⅵ e 層（試料 123）の 6 点の計 15 点である。

3. 方法

微化石分析法を基本に以下のように行った。

- 1) 試料から 1 cm³ を採量
- 2) 0.5%リン酸三ナトリウム（12 水）溶液を加え 15 分間湯煎
- 3) 篩別により大きな砂粒や木片等を除去し、沈澱法を施す
- 4) 25%フッ化水素酸を加え 30 分静置（2・3 度混和）
- 5) 水洗後サンプルを 2 分
- 6) 2 分したサンプルの一方にアセトリシス処理を施す
- 7) 両方のサンプルを染色後グリセリンゼリーで封入しそれぞれ標本を作製
- 8) 検鏡はプレパラート作製後直ちに、生物顕微鏡によって 300～1000 倍で行う

以上の物理・化学の各処理間の水洗は、1500rpm、2 分間の遠心分離を行った後、上澄みを捨てるという操作を 3 回繰り返して行った。

4. 結果

調査区北壁短弁、調査区南壁断面ともに、いずれの試料からも寄生虫卵および明らかな消化残渣は検出されず、花粉密度も極めて低い。

5. 考察とまとめ

仙名城跡（亀岡トンネル開削部）の調査区北壁短弁のⅢ層、Ⅳ a 層、Ⅴ a 層、Ⅴ b 層、Ⅵ a 層、Ⅵ b 層、Ⅵ c 層、Ⅵ d 層、Ⅵ e 層、調査区南壁断面のⅡ層、Ⅲ層、Ⅳ a 層、Ⅴ c 層、Ⅵ d 層、Ⅵ e 層において寄生虫卵分析を行ったが、いずれの層準からも寄生虫卵は検出されず、花粉密度も低かった。寄生虫卵や花粉などの有機質遺体が分解されたか、分別作用により堆積されなかったと考えられる。

以上のように、寄生虫卵や花粉の遺体群集から環境を知ることはできなかった。分析に用いた試料は、砂～礫混じりであり、水流などの分別作用により、寄生虫卵や花粉などを含む細粒は分別淘汰された可能性が考えられ、また堆積時間が速かったことも考えられる。

第4節 植物珪酸体分析

分類群		調査区北壁短弁									調査区南壁断面					
学名	和名	110	111	112	113	114	115	116	117	125	118	119	120	121	122	123
		Ⅲ層	Ⅳa層	Ⅴa層	Ⅴb層	Ⅵa層	Ⅵb層	Ⅵc層	Ⅵd層	Ⅵe層	Ⅱ層	Ⅲ層	Ⅳa層	Ⅴc層	Ⅵd層	Ⅵe層
Helminth eggs	寄生虫卵	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
Digestion rimeins	明らかな消化残渣	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
Pollen frequencies of 1cm ³	試料 1cm ³ 中の花粉密度	200 ↓	200 ↓	200 ↓	200 ↓	200 ↓	200 ↓	200 ↓	200 ↓	200 ↓	3.6	200 ↓	200 ↓	200 ↓	200 ↓	200 ↓
											× 10 ³					

第5表 仙台城跡（亀岡トンネル開削部）における寄生虫卵分析結果

[参考文献]

Peter J.Warnock and Karl J.Reinhard (1992) Methods for Extraxting Pollen and Parasite Eggs from Latrine Soils.Journal of Archaeological Science, 19, p.231-245.

金原正明(1999) 寄生虫. 考古学と動物学, 考古学と自然科学, 2, 同成社, p.151-158.

第4節 植物珪酸体分析

株式会社古環境研究所

1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸（SiO₂）が蓄積したもので、植物が枯れたあともガラス質の微化石（プラント・オパール）となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山，2000）。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である（藤原・杉山，1984）。

2. 試料

分析試料は、仙台城跡（亀岡トンネル開削部）の調査区北壁および調査区南壁の2地点から採取された計15点である。いずれも寄生虫卵分析試料と同一のものである。試料採取箇所を分析結果の模式柱状図に示す。

3. 分析方法

植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスビーズ法（藤原，1976）を用いて、次の手順で行った。

- 1) 試料を 105℃で 24 時間乾燥（絶乾）
- 2) 試料約 1g に対し直径約 40 μm のガラスビーズを約 0.02g 添加（0.1mg の精度で秤量）
- 3) 電気炉灰化法（550℃・6時間）による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射（300W・42KHz・10分間）による分散
- 5) 沈底法による 20 μm 以下の微粒子除去
- 6) 封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

同定は、400 倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が 400 以上になるまで行った。これはほぼプレパラート 1 枚分の精査に相当する。試料 1

gあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重(1.0と仮定)と各植物の換算係数(機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位:10-5g)をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる(杉山, 2000)。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

4. 分析結果

検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を表1および図1、図2に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

[イネ科]

イネ、ムギ類(穎の表皮細胞)、キビ族型、ヨシ属、ススキ属型(おもにススキ属)、ウシクサ族A(チガヤ属など)

[イネ科-タケ亜科]

メダケ節型(メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節、ヤダケ属)、ネザサ節型(おもにメダケ属ネザサ節)、チマキザサ節型(ササ属チマキザサ節・チシマザサ節など)、ミヤコザサ節型(ササ属ミヤコザサ節など)、未分類等

[イネ科-その他]

表皮毛起源、棒状珪酸体(おもに結合組織細胞由来)、未分類等

[樹木]

その他

5. 考察

(1) 稲作跡の検討

水田跡(稲作跡)の検証や探査を行う場合、一般にイネの植物珪酸体(プラント・オパール)が試料1gあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している(杉山, 2000)。なお、密度が3,000個/g程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして検討を行った。

1) 調査区北壁

Ⅲ層(試料110)からⅥe層(試料125)までの層準について分析を行った。その結果、Ⅲ層(試料110)からⅤb層(試料113)までの各層からイネが検出された。このうち、Ⅲ層(試料110)とⅤb層(試料113)では密度が3,500個/gおよび4,600個/gと比較的高い値である。したがって、これらの層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

Ⅳa層(試料111)とⅤa層(試料112)では、密度が1,400個/gおよび2,800個/gと比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、および上層や他所からの混入などが考えられる。

2) 調査区南壁

Ⅱ層(試料118)からⅥe層(試料123)までの層準について分析を行った。その結果、これらのすべての層からイネが検出された。このうち、Ⅱ層(試料118)、Ⅲ層(試料119)、Ⅳa層(試料120)の各層では密度が3,300~4,200個/gと比較的高い値である。したがって、これらの層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

その他の層では、密度が700~2,300個/gと比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、前述のよ

第4節 植物珪酸体分析

うなことが考えられる。

(2) イネ科栽培植物の検討

植物珪酸体分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれるものには、イネ以外にもムギ類、ヒエ属型（ヒエが含まれる）、エノコログサ属型（アワが含まれる）、キビ属型（キビが含まれる）、ジュズダマ属（ハトムギが含まれる）、オヒシバ属（シコクビエが含まれる）、モロコシ属型、トウモロコシ属型などがある。このうち、本遺跡の試料からはムギ類が検出された。

ムギ類（穎の表皮細胞）は、調査区北壁のV b層（試料113）から検出された。密度は700個/gと低い値であるが、穎（籾殻）が栽培地に残される確率は低いことから、少量が検出された場合でもかなり過大に評価する必要がある。したがって、同層準の時期に調査地点もしくはその近辺でムギ類が栽培されていた可能性が考えられる。

イネ科栽培植物の中には未検討のものもあるため、その他の分類群の中にも栽培種に由来するものが含まれている可能性が考えられる。これらの分類群の給源植物の究明については今後の課題としたい。なお、植物珪酸体分析で同定される分類群は主にイネ科植物に限定されるため、根菜類などの畑作物は分析の対象外となっている。

(3) 植物珪酸体分析から推定される植生と環境

上記以外の分類群の検出状況と、そこから推定される植生・環境について検討を行った。

1) 調査区北壁

下位のVI e層からVI c層にかけては、ネザサ節型が多量に検出され、ミヤコザサ節型も比較的多く検出された。また、ヨシ属、ススキ属型、ウシクサ族A、メダケ節型、チマキザサ節型なども認められた。VI b層からVI a層にかけては、ネザサ節型が減少傾向を示し、V b層からIV a層にかけてはさらに減少しているが、III層ではやや増加している。おもな分類群の推定生産量によると、おおむねネザサ節型が優勢であり、とくに下位のVI c層～VI e層で多くなっている。また、III層やV b層ではイネも多くなっている。

以上の結果から、下位のVI e層からVI a層にかけては、メダケ属（おもにネザサ節）やササ属（おもにミヤコザサ節）などの竹笹類を主体として、ススキ属、ウシクサ族なども生育する日当たりの良い比較的乾燥した環境であったと考えられ、とくにVI d層～VI c層ではメダケ属（おもにネザサ節）が多く生育していたと推定される。また、部分的にヨシ属などが生育する湿地的なところも分布していたと考えられる。

V b層からIII層にかけては、調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていたと考えられ、周辺の比較的乾燥したところにはメダケ属（おもにネザサ節）やササ属（おもにミヤコザサ節）などの竹笹類が分布していたと推定される。

2) 調査区南壁

下位のVI e層では、ネザサ節型が多量に検出され、キビ族型、ヨシ属、ススキ属型、ウシクサ族A、メダケ節型、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型なども認められた。VI d層からII層にかけても、おおむね同様の結果であるが、ネザサ節型は減少している。おもな分類群の推定生産量によると、おおむねネザサ節型が優勢であり、とくに下位のVI e層で多くなっている。また、II層～IV a層ではイネも多くなっている。

以上の結果から、VI e層からII層にかけては、調査地点もしくはその近辺で継続的に稲作が行われていたと考えられ、周辺の比較的乾燥したところにはメダケ属（おもにネザサ節）やササ属（おもにミヤコザサ節）などの竹笹類、およびキビ族、ススキ属、ウシクサ族などが生育していたと推定される。また、部分的にヨシ属などが生育する湿地的なところも分布していたと考えられる。

6. まとめ

植物珪酸体分析の結果、調査区北壁のⅢ層とⅤb層および調査区南壁のⅡ層～Ⅳa層では、イネが多量に検出され、稲作が行われていた可能性が高いと判断された。調査区では水田土壌は検出されておらず、隣接する東北大学の調査成果等から、畑作による稲栽培の可能性が想定される。また、調査区北壁のⅣa層とⅤa層および調査区南壁のⅣc層～Ⅵe層でも、稲作が行われていた可能性が認められた。さらに、調査区北壁のⅤb層ではムギ類が栽培されていた可能性も認められた。

各層準の堆積当時は、おおむねメダケ属（おもにネザサ節）やササ属（おもにミヤコザサ節）などの竹笹類を主体として、ススキ属、ウシクサ族なども生育する日当たりの良い比較的乾燥した環境であったと考えられ、部分的にヨシ属などが生育する湿地的なところも分布していたと推定される。

[文献]

杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オパール）. 考古学と植物学. 同成社, p.189-213.

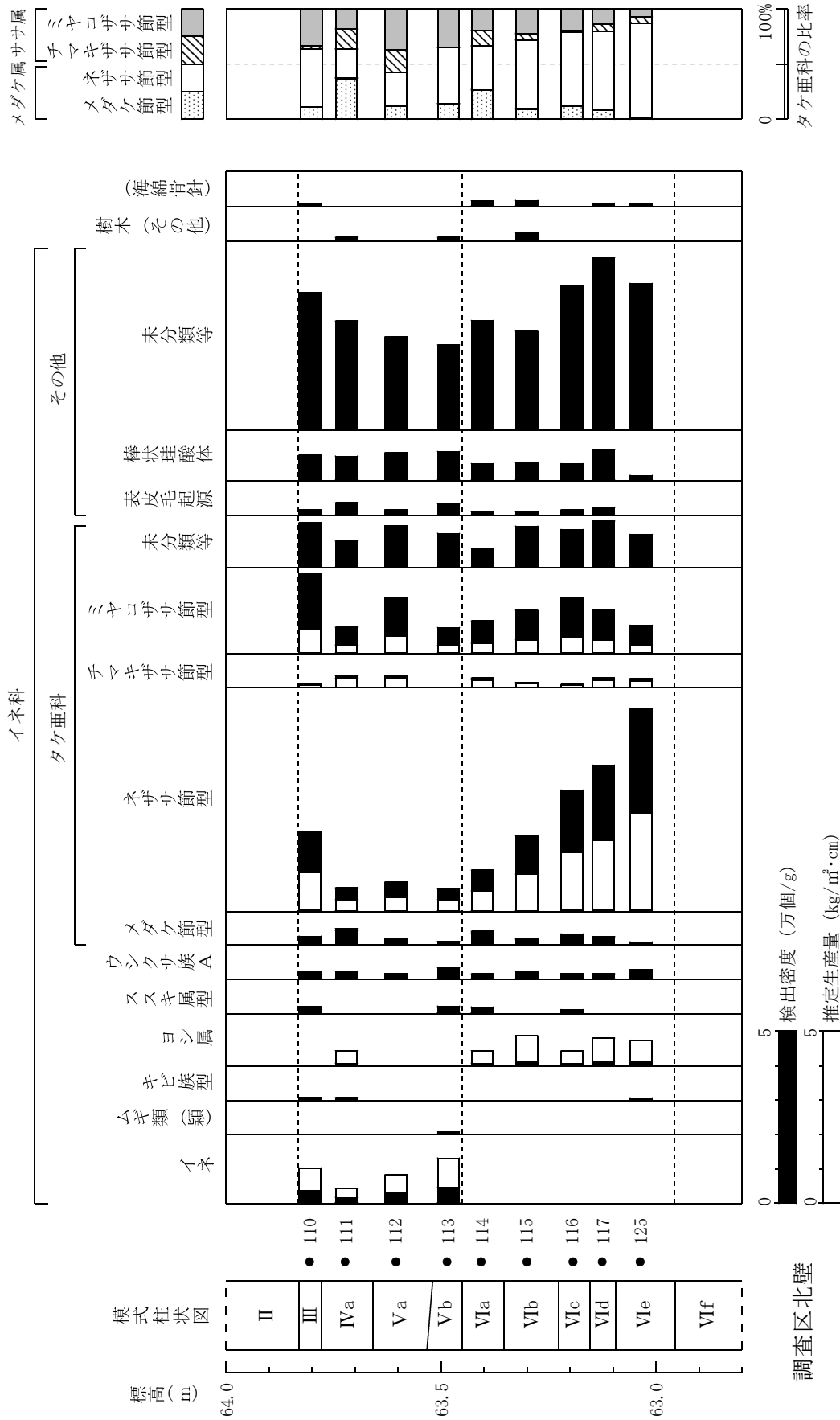
藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究(1) 一 数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法一. 考古学と自然科学, 9, p.15-29.

藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究(5) 一 プラント・オパール分析による水田址の探査一. 考古学と自然科学, 17, p.73-85.

第4節 植物珪酸体分析

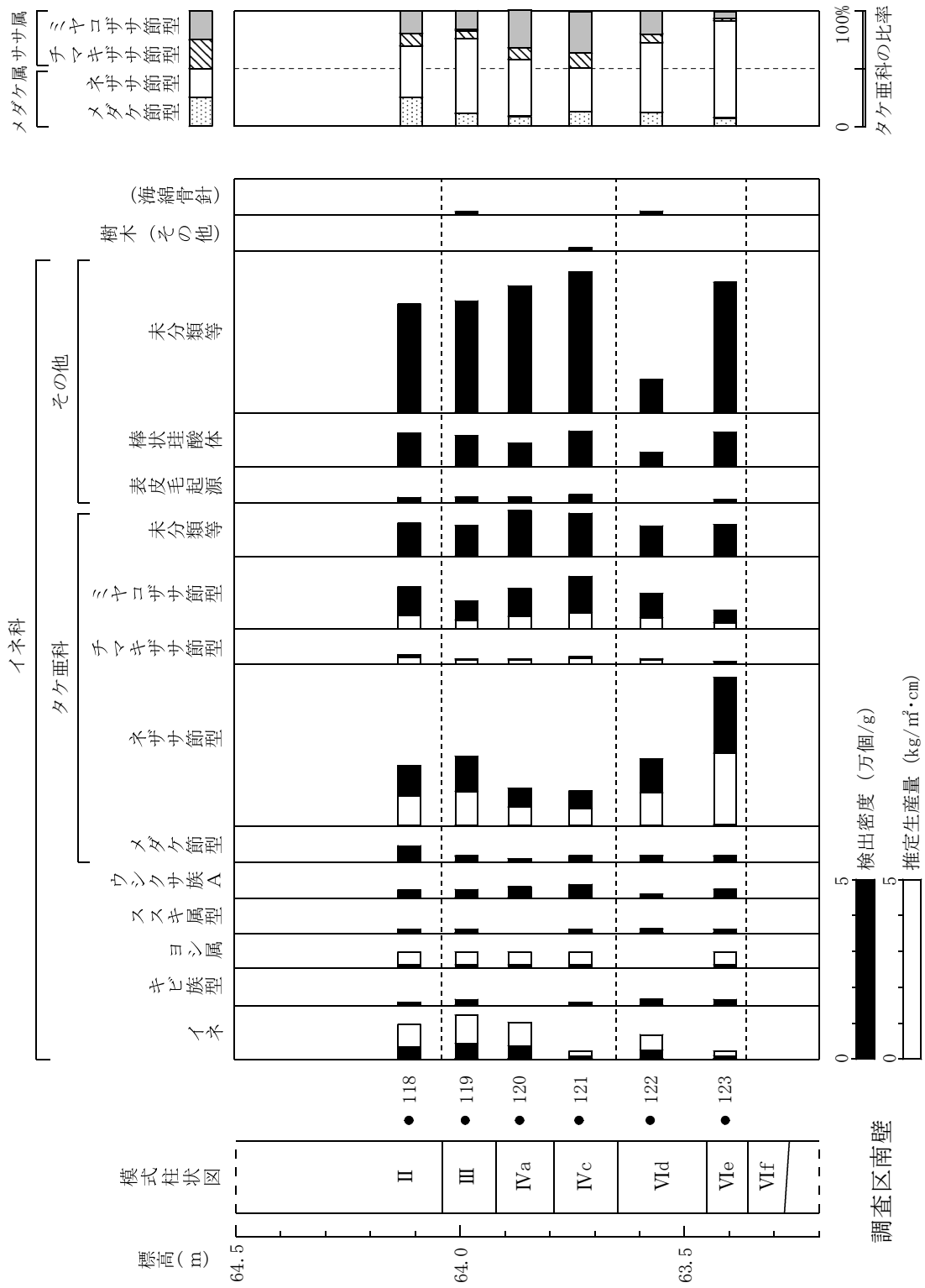
検出密度 (単位: ×100 個/g)	調査区北壁										調査区南壁						
	110	111	112	113	114	115	116	117	125	118	119	120	121	122	123		
分類群	地点・試料																
イネ科	学名																
イネ	35	14	28	45													
ムギ類 (穎の表皮細胞)																	
キビ族型	7	7		7					6								
ヨシ属																	
ススキ属型	14	7															
ウシクサ族 A	21	21	14	30	13	21	14	13	25	20	21	28	35	8	22		
タケ亜科	Bambusoideae																
メダケ節型	21	41	14	7	34	14	27	20	6	39	14	7	14	15	14		
ネサザ節型	234	68	85	67	121	222	358	432	599	169	196	105	97	188	419		
チマキザサ節型	7	34	35		27	14	7	27	25	26	14	14	21	15	7		
ミヤコザサ節型	234	75	163	74	94	125	162	126	81	117	77	112	146	98	51		
未分類等	128	75	120	97	54	118	108	133	94	91	84	126	118	83	87		
その他のイネ科	Others																
表皮毛起源	14	34	14	30	7	7	14	20		13	14	14	21		7		
棒状珪酸体	71	68	78	82	47	49	47	86	12	91	84	63	97	38	94		
未分類等	397	315	268	245	316	285	419	499	424	300	309	351	390	90	361		
樹木起源	Arboreal																
その他	Others																
(海綿骨針)	7	7		7		21									7		
植物珪酸体総数	1185	766	820	706	732	888	1170	1369	1285	919	884	863	974	580	1098		
おもな分類群の推定生産量 (単位: kg/m ² ・cm): 試料の仮比重を 1.0 と仮定して算出																	
イネ	1.04	0.40	0.83	1.31						0.96	1.24	1.03	0.20	0.66	0.21		
ヨシ属																	
ススキ属型	0.18	0.43		0.42	0.88	0.43	0.43	0.84	0.79	0.41	0.44	0.44	0.44	0.46	0.46		
メダケ節型	0.25	0.48	0.16	0.09	0.39	0.16	0.31	0.23	0.07	0.08	0.09	0.09	0.09	0.09	0.09		
ネサザ節型	1.12	0.33	0.41	0.32	0.58	1.07	1.72	2.07	2.88	0.81	0.94	0.51	0.47	0.90	2.01		
チマキザサ節型	0.05	0.26	0.26	0.20	0.20	0.10	0.05	0.20	0.19	0.20	0.11	0.11	0.16	0.11	0.05		
ミヤコザサ節型	0.70	0.23	0.49	0.22	0.28	0.37	0.49	0.38	0.24	0.35	0.23	0.34	0.44	0.29	0.15		
タケ亜科の比率 (%)																	
メダケ節型	12	37	12	14	27	9	12	8	2	25	11	8	13	12	7		
ネサザ節型	53	26	31	51	40	62	67	72	85	45	65	49	38	61	84		
チマキザサ節型	3	20	20		14	6	2	7	6	11	7	10	13	8	2		
ミヤコザサ節型	33	18	37	35	19	22	19	13	7	19	16	33	36	20	6		
メダケ率	64	63	43	65	67	72	79	80	87	70	77	57	51	73	91		

第6表 仙台城跡 (亀岡トンネル開削部) における植物珪酸体分析結果

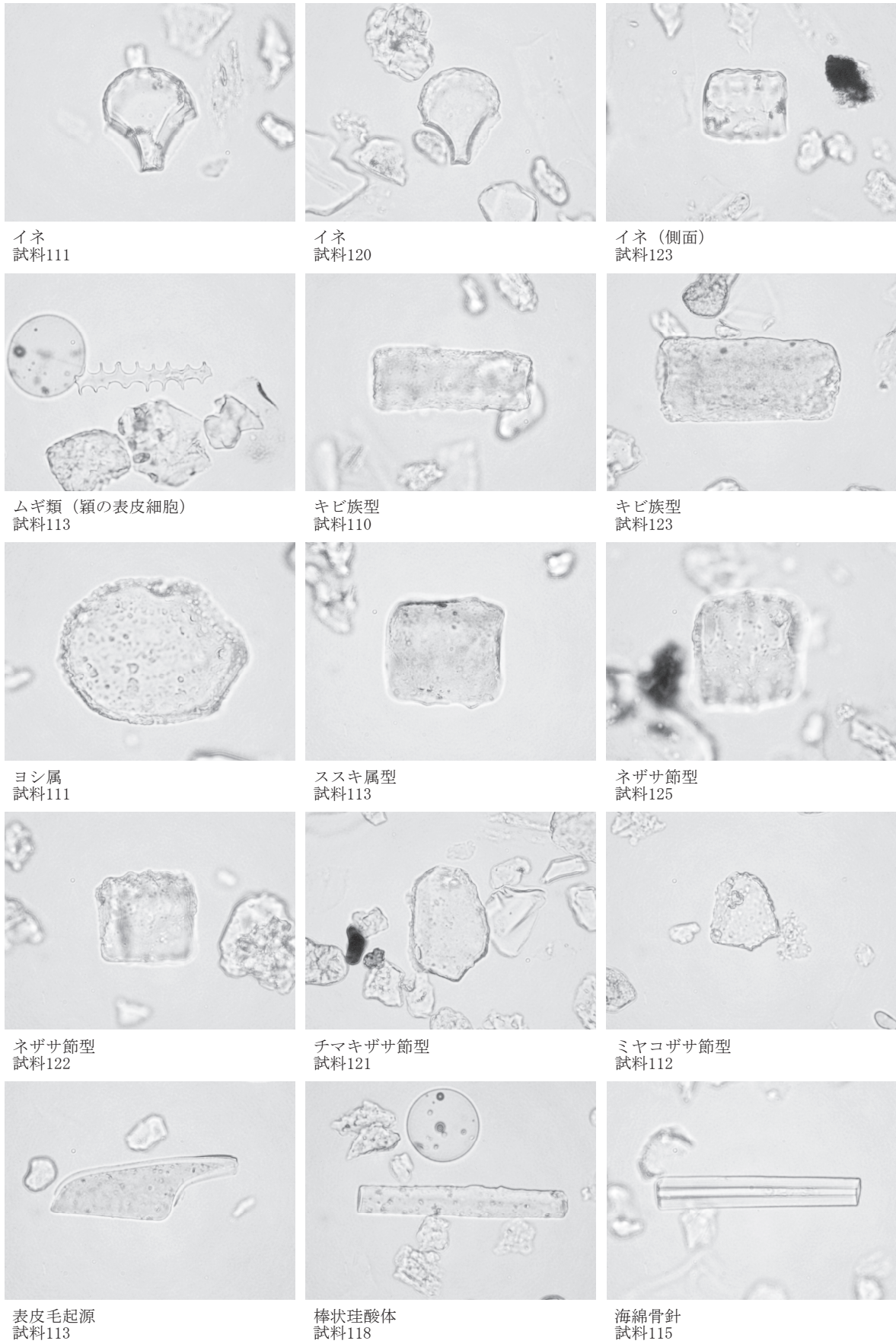


第302図 仙台城跡(亀岡トンネル開削部)における植物珪酸体分析結果

第4節 植物珪酸体分析



第 303 図 仙台城跡 (亀岡トンネル開削部) における植物珪酸体分析結果



第 304 図 仙台城跡 (亀岡トンネル開削部) の植物珪酸体 (プラント・オパール) 50 μ m

第5節 石材鑑定

株式会社古環境研究所

仙台城跡（亀岡トンネル開削部）で出土した石器等 12 点について、肉眼および双眼実体顕微鏡（20 倍）を用い、岩石表面に現れている組織や構成鉱物を中心に石材の岩石種判定を実施した。鑑定結果を表 7 に示し、鑑定の基準となった特徴を以下に示す。

試料 1：水晶

6 ヶの錐面と 6 ヶの柱面の発達した透明な石英の結晶。

試料 2：珩質頁岩

光沢のある灰褐色を呈する。いわゆる硬質頁岩である。山形県や秋田県の盆地地域で採取可能な石材で、東北日本において旧石器時代以来鋭さを有する石器の石材として最も良く用いられている。

試料 3：粘板岩

雄勝石と推定される。石巻市雄勝町に分布する、古生代ペルム紀登米層の薄く平に剥がれる性質の明瞭な粘板岩。雄勝硯として中世・近世・近代・現代と広く流通している。

試料 4：流紋岩

遺物は黒い煤状のものが付着しているが、本来は淡帯緑灰色の石材。緑色凝灰岩地帯に分布する流紋岩と推定される。

試料 5：粘板岩

黒く極めて細粒で粒子が確認できない。頁岩との判別は難しいが、形状から剥がれる性質が顕著と判断し、粘板岩とした。

試料 6：珩質頁岩

いわゆる硬質頁岩に比べ、光沢が無く泥質感が強い。いわゆる硬質頁岩の範疇に入るが、泥質感の強いものである可能性は否定できない。

試料 7：流紋岩

小さな石英の斑晶が少量認められるため流紋岩と判定した。流紋岩の中でもガラス質なものである。

試料 8：安山岩

有色鉱物の斑晶が認められ、斑状組織が明瞭。多孔質で摩擦の多い安山岩であり、磨石には良く用いられる物性を有している。

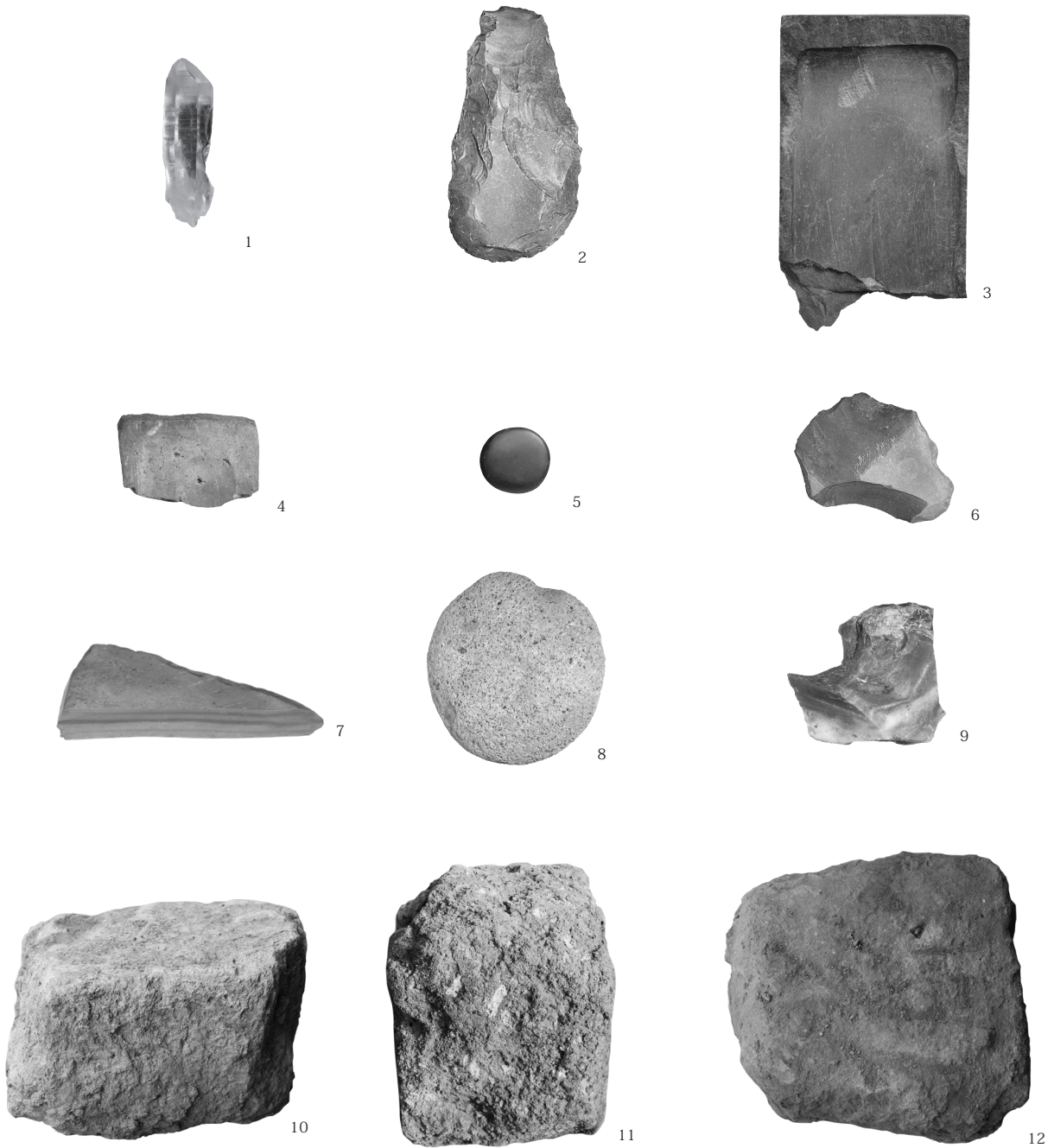
試料 9：メノウ

赤色部分と乳白色部分が認められる。メノウとしては赤色部分の面積が広いため赤玉石（赤色碧玉）との判別が難しいが、赤玉石に特有の赤いコロイド状の様子が認められないため、メノウの一部が何らかの原因で赤色化したものと判断した。

試料 10. 11. 12：砂質凝灰岩（注 1）

軟質で固結度の弱い石材である。火山礫・軽石を含む。調査区周辺に分布する亀岡層もしくは向山層起源の石材と判断された。

（注 1）仙台市科学館 斎藤弘明氏のご教示による。



出土石材観察表

通し No	遺物 No	登録 No	出土地点	出土地点	石 材	備 考
1	279	K-1	IV層	Ⅲ区	水晶	石英
2	618	K-2	IV層	Ⅱ区	珪質頁岩	いわゆる硬質頁岩
3	1010	K-3	IV層	I区	粘板岩	雄勝石
4	1147	K-4	IV層	I区	流紋岩	被熱?
5	2249	K-5	攪乱	I区	粘板岩	
6	2519	K-6	IV層	Ⅲ区	珪質頁岩	
7	2629	K-7	IV層	Ⅲ区	流紋岩	ガラス質
8	2653	K-8	IV層	Ⅲ区	安山岩	やや多孔質
9	2654	K-9	下層トレンチ	Ⅲ区	メノウ	赤色部分多い
10	2079		SE1	Ⅲ区	砂質凝灰岩	火山礫・軽石含む
11	2080		SE1	Ⅲ区	砂質凝灰岩	火山礫・軽石含む
12	2081		SE1	Ⅲ区	砂質凝灰岩	火山礫・軽石含む

第 305 図 仙台城跡（亀岡トンネル開削部）出土石材

第7章 出土遺物と検出遺構について

第1節 出土遺物について

本遺跡では縄文土器、陶器、磁器、土師質土器、瓦質土器、瓦、剥片石器、石製品、古銭、金属製品、木製品等、合計 5277 点が出土している。多くは小さな破片資料であり、全体の約 43% を陶磁器が、次いで瓦が約 29% を占める。遺跡から出土した陶磁器は総数 2287 点を数え、近代以降の所産と見られるものを除くと 2093 点が出土している。これらの多くは破片資料であるが、可能な限り産地・年代の同定を行った。本節では陶器・磁器を中心として瓦、古銭、木製品、土製品等について述べる。

(1) 出土した陶磁器について

① I 区の様相

I 区では、1095 点の陶磁器が出土している。全体の 53% がⅢ層から出土しており、次いで遺構から出土しているものが 19.5% を数える（第 306 図）。

出土した陶磁器の中で、年代の判明している 712 点について、産地の割合を示したものが第 307 図である。出土した陶磁器は少量ながらも 16 世紀代～17 世紀前半のものを含み、唐津、志野、景德鎮などが認められる。17 世紀中頃以降の製品はやや増加傾向にあり、岸窯系陶器、肥前産磁器が一定量認められるようになる。瀬戸・美濃産陶器や少量だが備前、唐津なども出土している。

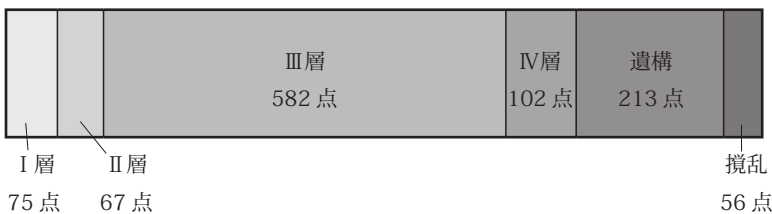
18 世紀以降になると、唐津、瀬戸・美濃系陶器にかわって大堀相馬産陶器がみられ、この時期において全体の 86% を占める。また、小野相馬産陶器も全体の 7% の量が出土している。近隣の産地からの流通が盛んになる時期である。また、少量ではあるが、堤産陶器、京・信楽系陶器も認められる。磁器は肥前産が大半を占める。19 世紀代になると、陶器では大堀相馬産陶器と堤産陶器の割合が多くなる。磁器では肥前に替わって瀬戸・美濃、切込

やそのほか地方窯の製品が増加する。I 区では、16 世紀から 17 世紀の遺物の出土量が少なく、美濃・志野や唐津などといった近世初期の製品は非常に少ない。その一方で 18 世紀以降の遺物量は増加する傾向にある。

層別の陶磁器出土量を第 308 図に示した。Ⅲ層が全体の 70% を占めている。Ⅴ層・Ⅵ層からの遺物の出土は見られなかった。

陶器では、Ⅰ～Ⅲ層においては、大堀相馬の割合が高く、少量ながら唐津、岸窯系、丹波、備前などが混入する状況である。磁器では肥前の割合が高いが、瀬戸・美濃ほか地方窯の製品も一定量が認められる。Ⅲ層以上は近代以降の整地層と考えられるため、これらの近世陶磁器類は整地の際に流入したものと考えられる。以上の状況は、

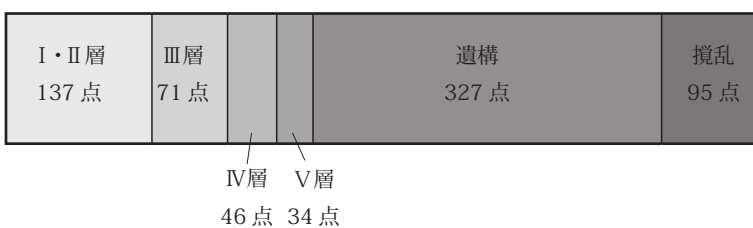
I 区（総点数 1095 点）



II 区（総点数 288 点）



III 区（総点数 710 点）

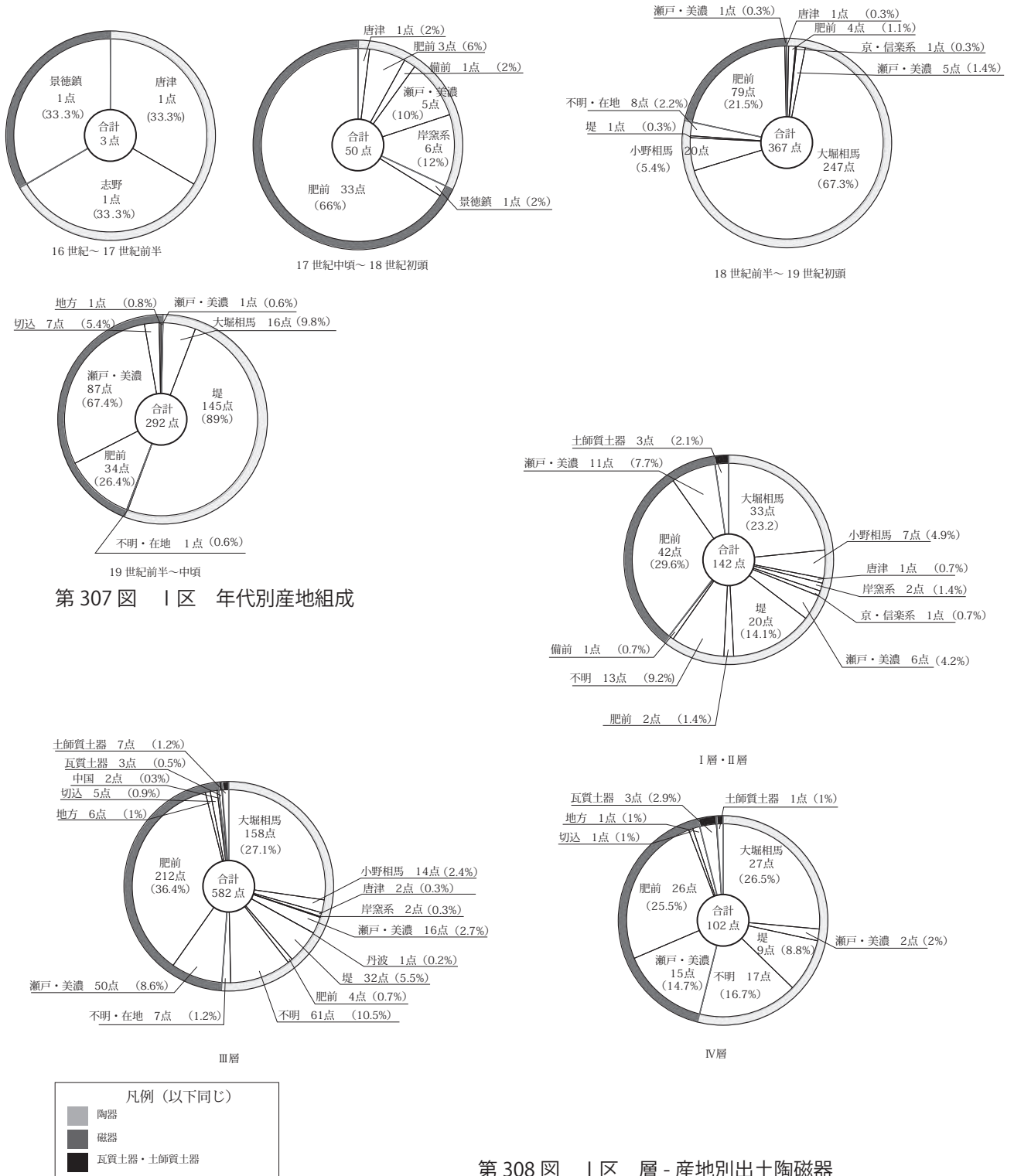


第 306 図 各区出土陶磁器数量

当遺跡の性格を端的に示すものではないが、当遺跡付近の消費の傾向をある程度あらわしているものと思われる。

Ⅳ層は近世の整地層と見られるが、出土遺物の割合では、Ⅰ～Ⅲ層と類似している。また、Ⅰ区の特徴として、土師質土器、瓦質土器の量がⅡ区・Ⅲ区と比べて少ないことがあげられる。また、細片のため図化・掲載は行っていないが、Ⅰ層～Ⅲ層出土のもので、柑塙と考えられる融解金属の付着した碗片が21点出土している。

Ⅰ区の陶磁器は18世紀代以降の製品にピークがあり、それらの大半は近代以降の整地土から出土している。

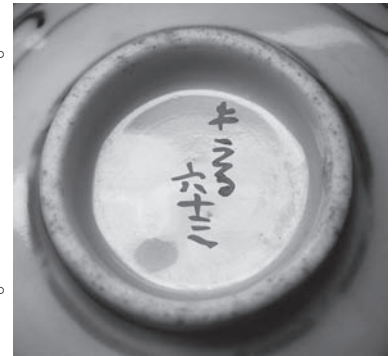


第308図 Ⅰ区 層 - 産地別出土陶磁器

② II区の様相

II区では、288点の陶磁器が出土している。全体の48%が攪乱から出土しており、次いで遺構から出土しているものが27.7%を数える(第306図)。II区では大部分が攪乱されているため、このような状況になっており、III層からの出土が認められない状況であった。

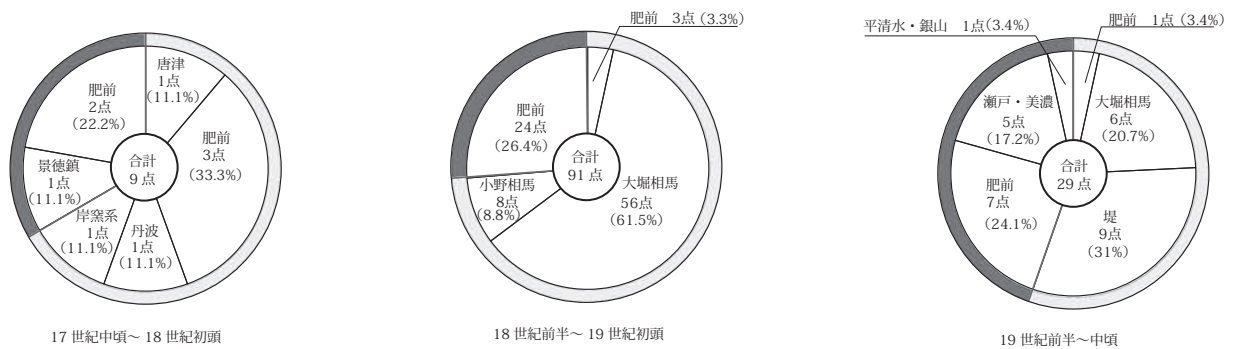
出土した陶磁器の中で、年代の判明している129点について、産地の割合を算出したものが第310図である。出土した陶磁器は18世紀初頭までのものは出土量が少なく、大部分は18世紀前半から19世紀中頃までのものである。陶器では大堀相馬、小野相馬、堤、磁器では肥前、瀬戸・美濃、平清水のものが出土している。



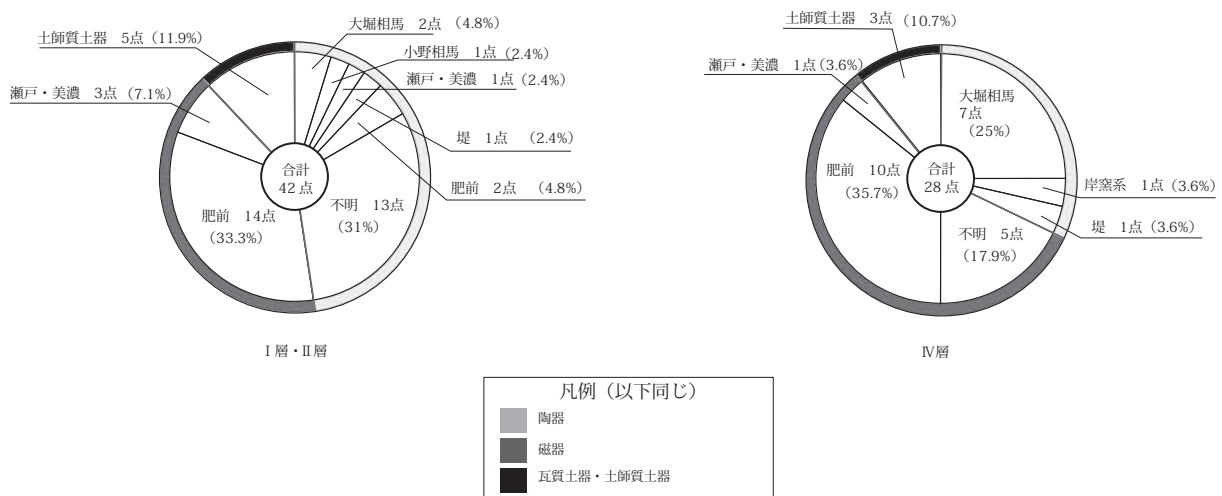
第309図 外底部漆書

層別では(第311図)、IV層で大堀相馬産陶器、肥前産磁器の量が比較的多くみられるが、全体の出土量が少なく、明確な傾向は認められない。III層からの出土はない。また、I区に比べて土師質土器の量が多い。そのほか、補修痕の残るもので、高台外底部に赤漆で文字が記されているものが確認された(第309図)。「キ之奈(もしくはキ之馬)」と書かれており武家屋敷での管理番号、焼継師の注文番号などの可能性が考えられる。現段階では類例を確認することができず、今後の資料の蓄積に期待したい。

II区の陶磁器は18世紀代以降のものが多くみられ、それらの大半は攪乱から出土している。



第310図 II区 年代別産地組成



第311図 II区 層 - 産地別出土陶磁器

③ III区の様相

III区では、710点の陶磁器が出土している。全体の46%が遺構から出土しており、次いでI・II層から出土しているものが19.3%である(第306図)。

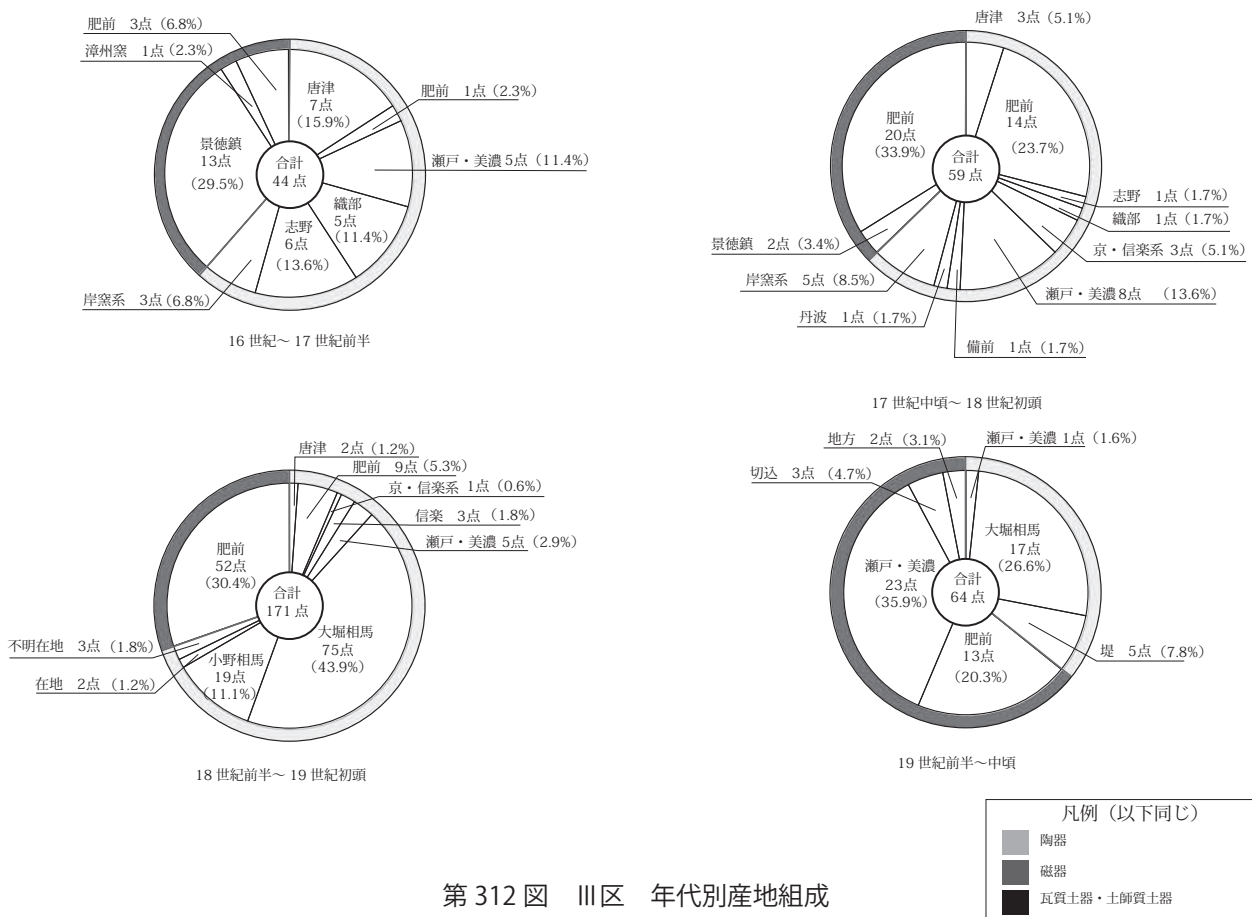
出土した陶磁器の中で、年代の判明している338点について、産地の割合を算出したものが第312図である。I区II区と比べて17世紀代にかかる遺物の量が多い。

陶器では唐津、志野・織部等の美濃系陶器、岸窯系陶器、丹波、京焼が一定量認められる。18世紀代以降になると、瀬戸・美濃産が減少し、代わり大堀相馬産が多くなり、19世紀代には堤産がこれに加わる傾向にある。

磁器では、肥前産に次いで景德鎮産のものが一定量出土している。18世紀代までは肥前産が占めるが、19世紀代に入り瀬戸・美濃産ほか地方窯の製品が多く出土するようになる。

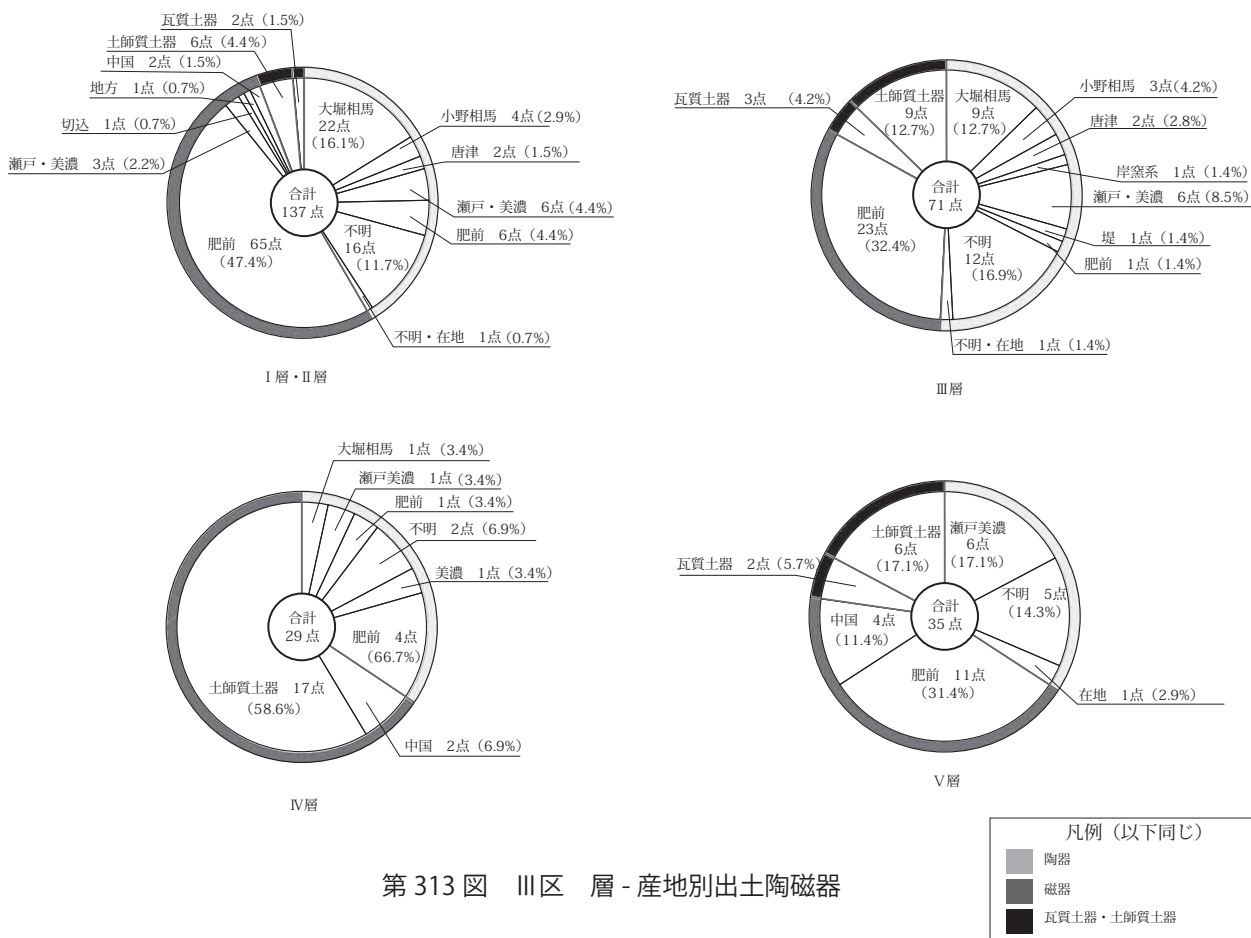
層別では(第313図)、I～III層まで陶器では大堀相馬、磁器では肥前が多く出土している。他の区に比べ、瀬戸・美濃産磁器の量が少ないのが特徴的である。IV層では陶器は出土量が少なく判然としないが、磁器では肥前産と景德鎮産ほか中国磁器が出土している。V層もIV層と同じような状況であるが、織部、志野などの美濃系陶器の出土がある程度の割合を占めることが特徴的である。

III区の陶磁器は16世紀末以降のものがみられ、18世紀前半～19世紀初頭にピークがある。



第312図 III区 年代別産地組成

第1節 出土遺物について



④ 出土陶磁器の組成について

当遺跡から出土した陶磁器を、機能別に数量計測を行ったのが第314図である。I区では、道路状遺構・柱列跡などの区画施設が検出され、II・III区とは機能差が予想される点、II区遺物出土量が少なく、III区と同列に扱ったほうが良いと考えられる点の2観点から、I区 / II・III区での比較を行っている。また、機能が判明した遺物総数が少なく、傾向把握が困難なため、出土層別での検討は行いえなかった。以下にI区およびII区・III区の出土陶磁器の組成割合について検討を加える。

機能については食膳具（碗、皿、鉢、坏、向付等）、飲酒具（瓶類）、喫茶具（土瓶等）、煮炊具（焙烙等）、調理具（播鉢、捏鉢等）、貯蔵具（壺、甕類）、信仰具（香炉、御神酒徳利等）、灯明具（灯明皿、秉燭等）、暖火具（火鉢等）、文房具（水滴等）、化粧具（合子、紅皿等）、喫煙具（灰落、灰吹等）、遊戯具（ミニチュア、人形等）、保健・衛生具（蚊遣り等）、植栽具（植木鉢等）、花瓶・花入、飼育具（餌入等）に分類して行った。

I区では食膳具が592点（61.7%）出土しており、次いで貯蔵具120点、飲酒具74点、喫茶具71点、調理具43点と続く。

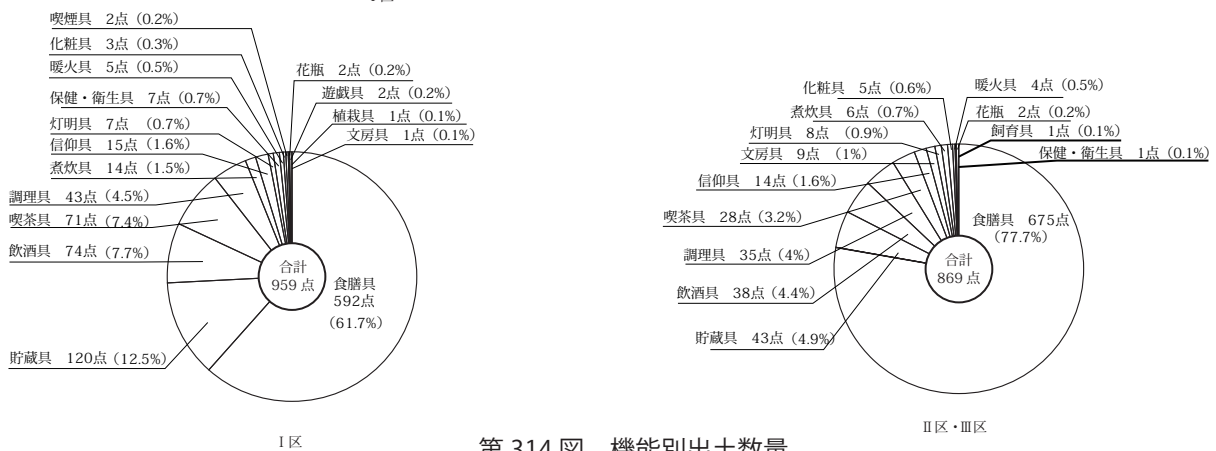
II区・III区では食膳具が675点（77.8%）出土しており、次いで貯蔵具43点、飲酒具38点、調理具35点と続く。

全体で食膳具、貯蔵具、飲酒具の割合が高く認められ、I区～III区を通してその傾向は変わらない。調理具、喫茶具については、I区とII区、III区で数量が逆転しており、I区での土瓶の出土が多くあることが要因と思われる。調理具、喫茶具の次に信仰具があるのも同じである。文房具はII区・III区で多く見られ、蚊遣り等の保健・衛生具はI区の方が多く出土している。飼育具、植栽具はそれぞれ点数が少なく傾向は判然としないが、I区で見られる植栽具がII、III区にはなく、II区、III区にある飼育具はI区では出土していない。

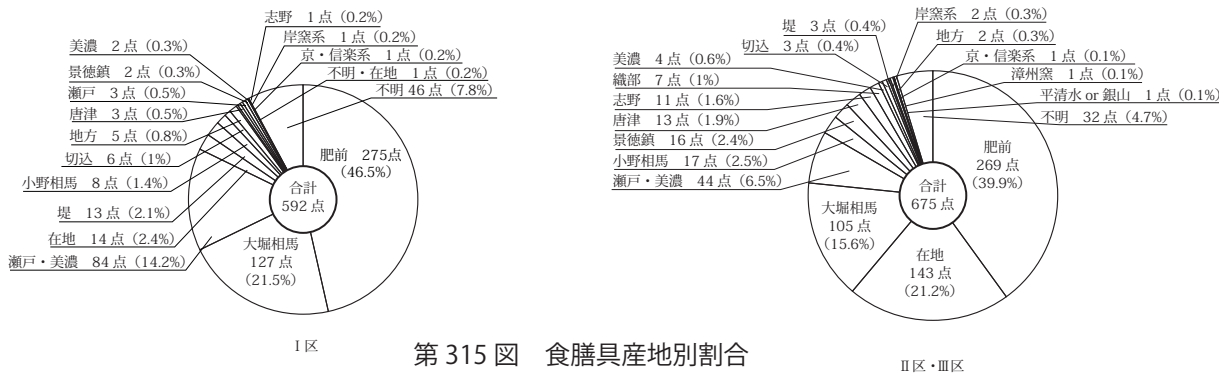
以上をまとめると、

- ・全区を通して食膳具、貯蔵具、飲酒具の割合が高い。次いで割合は異なるが、調理具、信仰具と続く。
 - ・I区はII区、III区に比べて蚊遣りの割合が高い。また、植栽具はI区でのみ出土が認められる。
 - ・II区、III区はI区に比べて文房具の割合が高い。また、飼育具はII区・III区でのみ出土が認められる。
- となる。

次に食膳具の産地別組成をまとめたのが第315図である。I区は肥前産が最も多く、次いで大堀相馬、瀬戸・美濃がみられる。一方II区・III区では肥前の次に土師質土器の皿が多く出土しており、大堀相馬、瀬戸・美濃と続く。I区では堤、切込が比較的上位にあるのに対し、II区・III区では堤、切込等は少なく、かわりに景德鎮、志野・織部等美濃産陶器の出土が一定量認められる。このような差異が生じた理由は、I区とII区・III区の土地利用の性質が異なることが要因と考えられる。



第314図 機能別出土数量



⑥ 陶磁器のまとめ

陶磁器について、出土状況の傾向について述べる。17世紀代ではⅢ区における出土陶磁器は、中国産磁器、織部・志野などの美濃産陶器、岸窯系陶器唐津などであり、17世紀中頃以降は肥前産磁器が見られるようになる。海外貿易を背景に、遠方からの流通が認められる。

18世紀代は各区とも出土量が増加傾向にあり、特にⅠ区では大量の陶磁器片が出土している。肥前産磁器の最盛期にあたり、陶器では大堀相馬が出土するようになる。中国産磁器、美濃産陶器、唐津等は減少する。

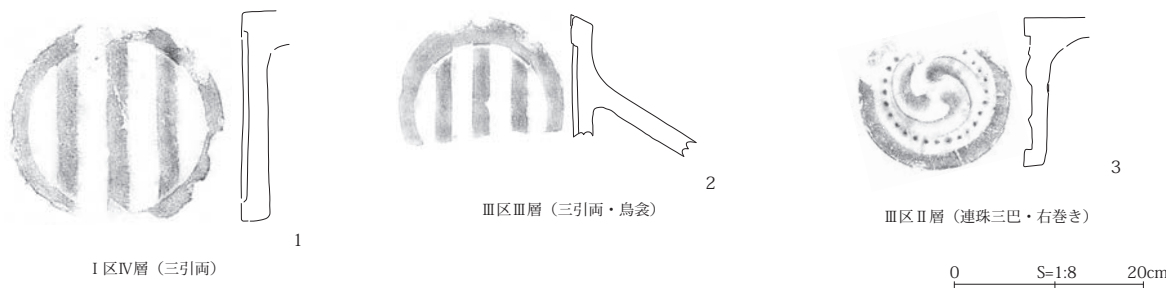
19世紀代はⅠ区、Ⅱ区の出土状況からみると、陶器では大堀相馬に加えて堤産のものが加わり、小野相馬がそれに続く。時期では肥前にかわって瀬戸・美濃、切込、平清水、そのほか地方窯の製品が多く流通するようになる。18世紀代に比べて比較的狭い範囲での近隣流通の時期にあたる。また、Ⅰ区では埴塙が多く認められ、Ⅰ区とⅡ区・Ⅲ区では出土陶磁器の傾向に差異が認められた。

出土した陶磁器の量の推移は生産地の動向に対応して変化しているものと思われる。磁器は中国磁器から肥前、19世紀代に至り肥前以外の地方窯の製品が多く出土し、陶器では美濃・岸窯系陶器・唐津の時代から、18世紀代に大堀相馬が出土するようになり、19世紀には堤産陶器も見られるようになる。

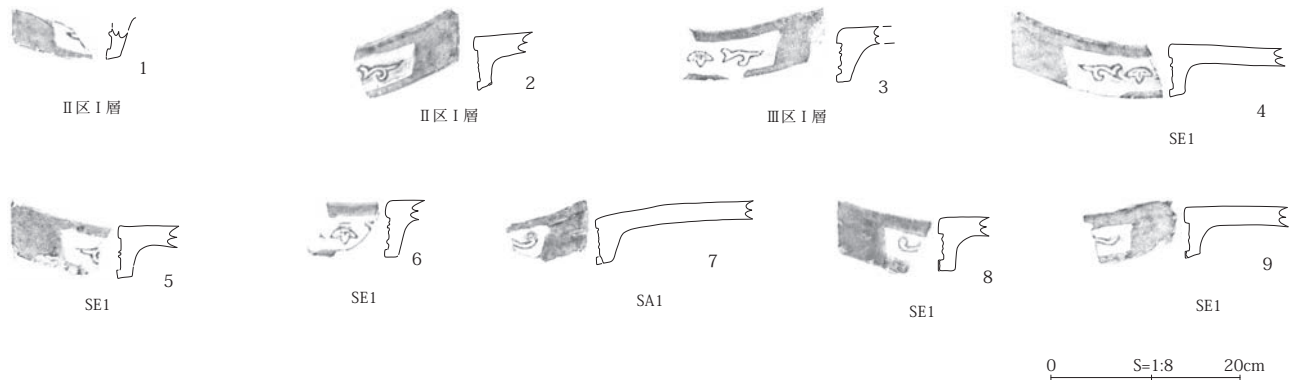
(2) 瓦

瓦は1527点出土している。丸瓦・軒丸瓦158点、平瓦・軒平瓦1026点、その他の瓦343点を数える。丸瓦、軒丸瓦、平瓦、軒平瓦、板塙瓦、棧瓦、鬼瓦等が出土している。このうち軒丸瓦、軒平瓦の文様について述べる。

軒丸瓦には三引両と連珠三巴文が見られる。二の丸・三の丸の調査成果等から、巴文系から家紋系への変遷が想定されており、Ⅰ区Ⅳ層出土の三引両文軒丸瓦(第316図-1)もその年代観と符合する。また、連珠三巴文軒丸瓦(第316図-3)は連珠の数が22個確認でき、復元すると27個の連珠が巡っていたと思われる。



第316図 軒丸瓦



第317図 軒平瓦

軒平瓦については、文様の種類に中央に雪持ち笹もしくは三枚笹のものが見られ、唐草には2種類が確認された(第317図)。笹の葉脈は3枚独立するもの(第317図-4)とT字になるもの(第317図-6)の2種類がある。軒平瓦は軒丸瓦に比べて点数も多く出土しているが、種類がさほど多くなく、18世紀以降の層・遺構に含まれる例が多い。

また、珍しいものとして表採資料ではあるが桃瓦1点が確認されている(第318図)。大阪城、和歌山城、岡山城、犬山城など各地の城郭で鬼瓦として用いられている例がある。採集した桃瓦は外面にいぶし等の調整は施されず、身は中空になっている。残存する高さは14cmである。



(3) 金属製品

金属製品は262点が出土している。大半は古銭で、そのほか釘、鏝、飾り金具、煙管等が出土している。以下古銭について述べる。

中国銭は大半がⅢ区SN1から出土しており、内訳は開元通宝(621年:唐)4点、宋通元宝(960年:北宋)1点、太平通宝(976年:北宋)1点、淳化元宝(990年:北宋)2点、至道元宝(995年:北宋)2点、咸平元宝(998年:北宋)1点、祥符元宝(1008年:北宋)3点、祥符通宝(1009年:北宋)2点、天禧通宝(1017年:北宋)2点、天聖元宝(1023年:北宋)2点、天聖元宝(1032年:北宋)5点、景〇元宝(1034年:北宋)1点、皇宋通宝(1039年:北宋)5点、嘉祐元宝(1056年:北宋)2点、治平通宝(1064年:北宋)2点、熙寧元宝(1068年:北宋)9点、元豊通宝(1078年:北宋)4点、元祐通宝(1086年:北宋)7点、紹聖元宝(1094年:北宋)4点、元符通宝(1098年:北宋)1点、聖宋元宝(1101年:北宋)3点、政和通宝(1111年:北宋)2点、宣和通宝?(1119年:北宋)1点である。そのほか、Ⅲ区Ⅳ層から天聖元宝(1032年:北宋)1点、SK62から永楽通宝(1587年:明)1点が出土している。

これらは寛永通宝鑄造前、近世初頭に流通していた貨幣と考えられる。特に、SN1からは、寛永通宝の出土が認められないことから、寛永通宝鑄造以前の遺構の可能性が極めて高い。

寛永通宝は古寛永が7点、新寛永が12点出土している。出土地点は2号池、SX14、Ⅰ区Ⅰ層、Ⅱ区Ⅳ層である。幕末の貨幣である文久永宝も2点出土している。地点はⅠ区Ⅲ層およびⅣ層である。Ⅰ区は文久永宝の出土から、Ⅳ層まで幕末頃の整地層と推察される。本遺跡の出土銭はSN1で多量の出土が認められたが、寛永通宝などの国産流通銭は比較的少なく、年代の根拠となりえるものは少ない。

(4) 木製品

木製品は908点が出土している。漆器、桶、曲物、箸、下駄、木樋、木樋台、継手、舟形木製品、浮き、杭、柱材、楔などがある。以下、主要な木製品について概略を記す。

[漆器] 椀、皿、蓋等が見られ、中には金彩を施しているものもある(SK62出土遺物)。全体に腐食が著しく器種分類等はできなかった。文様については、三引両文(SD54出土)、木の葉文(SD54、SK63出土)、無文(SX14出土)などが見られる。SX14出土の無文椀2点については、SX14の年代が17世紀中葉に求められることから当該期の一括資料として有用と思われる。

[木樋・枅] 舟釘の使用の有無で2大別できる。

(A類) 舟釘を使用するもので、1号木樋、4号木樋で確認できる。木樋は一木から削り貫きで作られ、蓋を舟釘で止めている。釘の頸部分には棕櫚と見られる繊維が巻きつけてあるのが確認できる(1号木樋)。枅は4号木樋で確認できるが、2枚の板を合わせて底とし、側面は長い板を分断して組み合わせて使っている。木樋との接続

第318図 桃瓦

第1節 出土遺物について

部分は残存しておらず確認できない。同様の構造の枅は、5号池の底面で出土した枅にも見られる。

(B類) 舟釘を使用しない。木樋はAと同じく一木からの削り貫きで作られる。枅は一枚板を底面とし、横板は上位で木釘により部材を繋いでいる。木樋との接続部分は木樋の形に切り取って角形になっている。同様の構造の枅は1号、2号竹樋でも確認できる。こちらは、接合部分は竹の形に合わせて丸くしている。また、竹樋の継手は2点出土しているが、そのうち1点は柱材の転用と見られる。

A類は近代(1号木樋)および幕末～近代初頭(4号木樋)に見られ、B類は近世の遺構(1号・2号竹樋、2号・3号木樋)にあることから、枅の構造、舟釘の使用については時期差を示していると思われる。

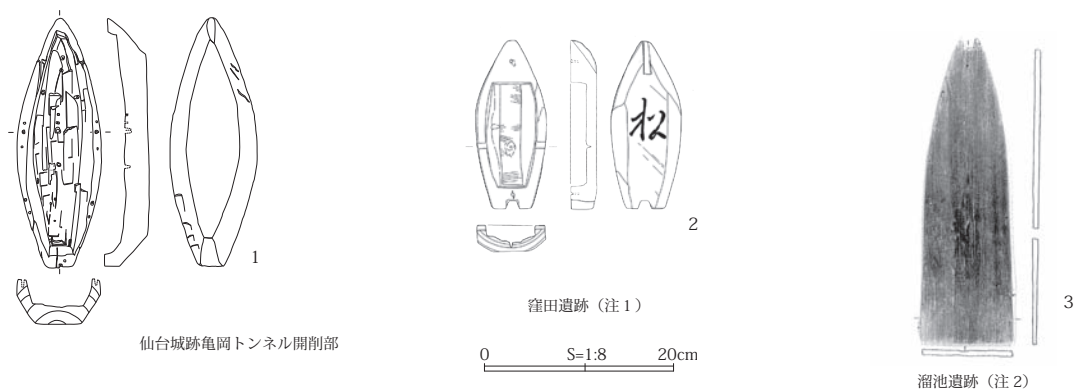
[舟形木製品] 4号池から出土した舟形木製品は縁部に帆立のための孔があいており、上に帆をたてて池に浮かべたものと思われる。近世の類例は少なく、窪田遺跡と溜池遺跡の出土例を提示した(第319図)。窪田遺跡の例は流路から出土しており、「松」字の墨書がある。中軸線上に帆立のための孔があげられている。溜池遺跡の出土資料は、上面形が舟形を呈する板状木製品で、古代以来の水辺の祭祀に使われたものと同じ系譜にあるものと推測される。前2例と異なり、実際に水面に浮かべて使用されるものではない。本遺跡出土の舟形木製品は窪田遺跡のものと類似しており、池の周辺で祭祀の際に使われた可能性がある。舟形木製品の出土した4号池からはそのほか犬形土製品、猪形土製品なども出土している。

[曲物] 曲物の底部の大きさは、直径19.5cm(SE5出土:6寸4分)、16.5cm(池6、SK62出土:5寸4分)、13.9cm(SX14出土:4寸5分)、11.5cm(SE4、SX14出土:3寸8分)、9.75cm(SX14出土:3寸2分)の5種類が見られる。中央に孔をあける蓋と思われるものについては、直径23cm(池5出土:7寸5分)、8.7cm(池5、SE5出土:2寸8分)の2種類が見られた。点数が十分でなく、大きさに年代差があるかどうかは不明であるが、概ね2寸8分、3寸2分、3寸8分、4寸5分、5寸5分、6寸5分、7寸5分といった規格が存在したものと思われる。

[下駄] 下駄はSD54から4点出土した。すべて白木で漆塗りのものはない。一木から台部と歯を切り出した連歯下駄が1点、台部のホゾに別材で作った歯をはめ込む差歯下駄が3点で、差歯下駄はいずれも台部の表にホゾ穴が貫通する露卯差歯下駄である。台部の平面形は角形を呈する。

点数も少なく、出土地点に限られることから全体の様相、変遷は検討できなかった。

[箸] 箸は31本が出土している。白木を加工してそのまま使うもので、漆等の塗装がされているものは見られなかった。こちらもほとんどがSD54からの出土で、一時期に大量廃棄されたものと考えられる。



第319図 舟形木製品

注1)「窪田遺跡I」新潟県教育委員会 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 2007

注2)「溜池遺跡」帝都高速度交通営団 地下鉄7号線溜池・駒込間遺跡調査会 1997

(5) 出土遺物のまとめ

本遺跡では、近世初頭から幕末まで、各年代を通して遺物が出土している。出土陶磁器については17世紀から19世紀までの消費動向を確認できた。

17世紀初頭には景德鎮、志野、織部などが流入しており、次の時期には唐津、初期伊万里、岸窯系陶器が認められる。SN1からは多量の中国銭、土師質土器が出土した。出土した30点の土師質土器は製作技法・法量がほぼ同じもので、17世紀初頭の土師質土器の一端をあらわしているものと思われる。また、SX14は出土した古銭の分析から、SN1の次の段階に相当するものであり、17世紀中葉の年代が想定される。SX14からは漳州窯磁器、無文漆器碗が共伴しており、一括性の高い資料である。SD54は切り合い関係から17世紀中葉から後半に位置づけられ、出土した大量の木製品類は当該期の一括資料として重要である。

18世紀代には肥前産磁器の最盛期となり、大堀相馬、小野相馬が出土するようになり、少量ではあるが京・信楽系の色絵陶器も見られた。特に大堀相馬産陶器はI区を中心に18世紀代のものが多量に出土している。大堀相馬と小野相馬の出土点数の割合は423点：49点（88.9%：9.1%）で、相馬系陶器の様相を示しているものと思われる。II区では上水関係の遺構（竹樋・枅状遺構）が検出され、継手には柱材を転用したのが見受けられた。

19世紀に至ると瀬戸・美濃産や切込などの地方産磁器、堤産陶器などが流通するようになる。大堀相馬は少なくなり代わりに堤産陶器の量が増える。また、特殊な例として漆塗りのパレットとして使われたI区SK55出土肥前産染付碗や、高台内に漆書きで文字の書かれた瀬戸・美濃産磁器片などが確認された。そのほか、19世紀代は池が多く造られ、舟形木製品や犬・猪形土製品などの祭祀用と見られる遺物が出土した。

遺物の出土状況からは17世紀代初頭にはすでに消費地としてのモノの流入が認められる。18世紀代の遺物量が最も多く、19世紀代も比較的量は多いものの、出土量の減少傾向がみられた。

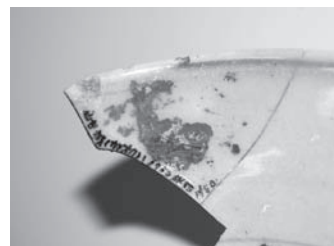
第2節 検出遺構について

本遺跡では、近世～近代の遺構が検出された。第2節では、各区の遺構の検出状況について述べる。

(1) I区

I区の遺構は柱列跡3条、溝跡5条、井戸跡1基、土坑4基、ピット1基、性格不明遺構8基、木樋1条、道路状遺構1基、土手状遺構1条、埋甕1基、石垣1基が検出されている。17世紀代にさかのぼる遺構は見られず、整地層に含まれる遺物も18世紀代以降のものが主体である。

Ⅳ層上面検出のSK55からは、漆漉し布と、パレットとして利用したと推測される漆が付着した染付碗が共伴している(第320図)。染付碗の年代からは18世紀代が想定されるが、共伴する堤産の秉燭は19世紀前半代の年代のため、最終廃棄年代は19世紀代に至る。周辺では漆塗り作業が行われていたと思われる、それに伴う廃棄土坑と考えられる。漆塗りが行われたのは18世紀代から19世紀前半にかけてのことと想定される。



第320図 漆付着状況

Ⅴ層では柱列が3条検出された。規模こそ異なるが、方位は近似しており、同じ目的で設営された柱列の建て替えの痕跡と思われる。年代は19世紀代前半と思われる、I区の東側に存在した亀岡御殿に関わる裏手の塀の可能性もある。また、Ⅲ層上面で検出された土手状遺構は、柱列跡のほぼ直上に作られており、同じ機能を持っていたことが窺われる。Ⅲ層上面の年代は近代初頭から、1888年に陸軍第二師団が当地に入場する以前と考えられるため、19世紀後半までは近世と同じ道路、塀、土手などが設置されていたと思われる。これについては歴史的環境でも触れているが、第321図に道路筋が変更になる前の、明治15年の地図と調査区及びI区1号道路状遺構、1号土手状遺構、2号石垣の位置を重ねたものを示した。1号道路状遺構は川内山屋敷と川内の武家屋敷の境となる道路に相当し、この道筋は近世から引き継がれたものである。Ⅴ層上面の柱列跡も、この道路境を示す区画施設と言える。

また、Ⅱ層上面検出の2号石垣については、調査区の西側を北方向に走り広瀬川に流れる沢の護岸石垣であると考えられる。2号石垣は近代のものだが、近世にも護岸の役割を果たす施設があった可能性もある。同じⅡ層上面検出の1号埋甕は、上部に自生していた樹木の年輪数から1930年代より古いものと判断される。便槽の痕跡は見られず、用途は不明である。



第321図 I区近代地図と遺構配置(任意縮尺)

明治15年(1882)「備臺區及近傍村落之圖」 仙台市博物館 所蔵

(2) II区

Ⅱ区の遺構は柱列跡1条、溝6条、土坑4基、ピット18基、性格不明遺構3基、竹樋2条、枡状遺構1基、石垣1基が検出されている。I区と同様に17世紀代にさかのぼる遺構は見られず、全て18世紀以降のものである。

Ⅳ層上面では竹樋、枡状遺構等の水道関係の遺構が多く検出された。1号竹樋と2号竹樋はそれぞれ2回以上の作りかえが行われており、合計で4回以上竹樋の付け替えが推定される。これらは18世紀代の遺構と考えられる。また、1号枡状遺構は1号・2号竹樋を切るため、次の段階の上水施設と考えられるが、関連する遺構は検出され

ていない。

Ⅲ層上面ではⅢ区1号池に水を供給していた可能性のあるSD18と、それと同じ方向性を持つSA1が検出されている。柱列の南側に給水溝と池が存在しており、当時の区画と土地利用を示す好資料である。また、飛び石が検出されているため周辺に庭園などの施設があった可能性がある。これらⅢ層上面検出遺構は19世紀代と考えられるので、当地に亀岡御殿があった時期に相当する。

Ⅱ区は遺構・遺物は少ないものの、18世紀代の水道遺構、19世紀代の庭園、武家屋敷の区画関係の遺構が検出され、土地利用の変遷を窺うことができる。

(3) Ⅲ区

Ⅲ区の遺構は柱列跡20条、溝跡31条、井戸跡5基、土坑44基、ピット238基、その他の遺構5基、木樋3条、枡状遺構1基、池跡5基、祭祀遺構1基が検出されている。Ⅲ区はⅠ区・Ⅱ区に比べて整地層の残りがよく、17世紀代の遺構が検出されている。遺物量から見ると、Ⅲ区の主体は17世紀後半から18世紀代である。

V層上面では大溝2条と、布掘りによる柱列、掘立柱による柱列、地鎮遺構等が検出された。大溝、柱列は17世紀代の区画を示しており、切り合い関係から先に大溝による区画が作られ(SD39・55)、その後柱列による区画に替わっている様子が窺える。また、大溝に切られる歪曲する溝が2条確認されており(SD63・64)、近世の遺構では最も古い段階に相当するものと思われるが、区画施設・屋敷境といった性格は考えにくい。

SN1は、出土した土師器の技法が17世紀前半の様相を呈し、出土した古銭に寛永通宝が含まれないことから17世紀初頭～前半に年代が限定される。地鎮を行い、大区画を切り、当地の利用を開始したものと思われる。また、同じく古銭を出土したSX14は、古寛永と新寛永の古段階のものしか含まれず、17世紀中頃に年代を求めることができる。SX14の堆積土は池の沈澱堆積土に似た黒褐色の粘土質シルトを主体としているため、堀のような機能を持っていた可能性がある。

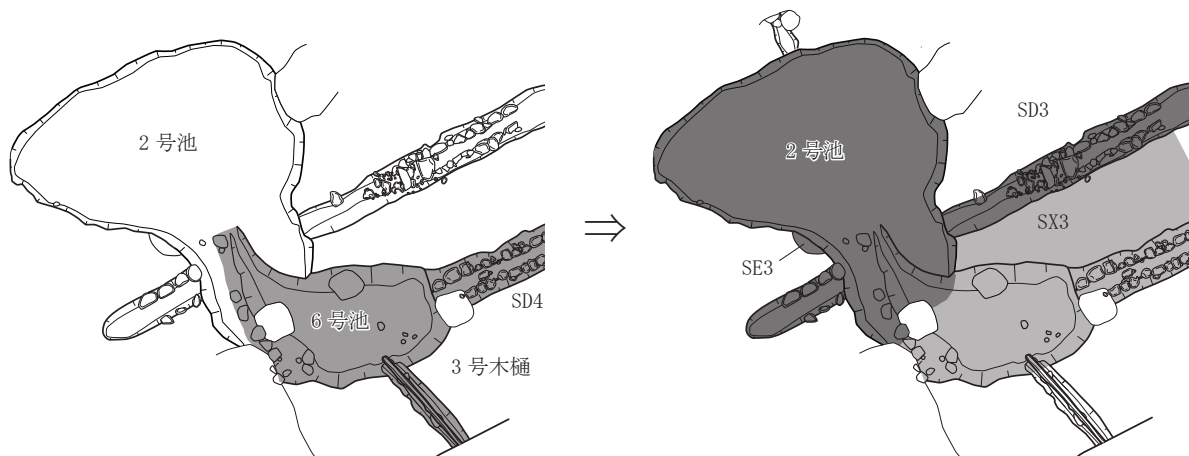
Ⅳ層上面では掘立柱による柱列、池等が検出された。17世紀代の区画溝SD39を埋め戻した上に、18世紀代に柱列SA25を構築している。柱間寸法もまばらで、数度の作り変えを行っていたようで、簡易的に塀を作っていたものと思われる。これに対して、最南端に位置するSA2とSA21は同じ線上にあり、これを結ぶと50mの区画施設となる。この時期には区画はやや南よりに変わっている可能性がある。

5号池は玉石を敷き、庭園の一部を成していたものと思われる。また、部分的に石組を持つ溝が検出された(SD23)。調査区の東端でT字に分岐する溝で、分岐の周辺のみ石組を持ち、そのほかの部分では抜き取りなどの痕跡も見られなかった。同じ方向性を持つSD22は敷石の溝で、SD23と同じ方向性を持つため同時期に機能した小区画を示すものと思われる。SD23と同様に部分的に石組を構築する例はⅢ層上面検出のSD3、SD4にもみられる。

Ⅲ層上面では石組溝、池、木樋等が検出された。池は玉石を伴うものが2基、玉石を伴わないものが2基、合計4基が検出された。これらは19世紀代の年代と推定され、亀岡御殿が営まれた時期に相当する。

Ⅲ区中央南側で検出された6号池とSD4は土層観察により同時期とみられ、さらに南から6号池につながる3号木樋があり、給水、貯水、排水の一連の機能が復元できる(第322図)。

Ⅲ区で検出された池は計5基に上るが、6号池を除く4基は底面に井戸状の遺構がみられた。1号池にSE2、2号池にSE3、4号池にSE4、5号池にSE5がそれぞれ構築されており、池との関連が窺われる。これらは池の機能の一部をなす、集水井戸の可能性はある。SE3については池の構築粘土の下から検出されていることから、はじめはSE3と2号池が同時に存在しており、その後底面の粘土層を貼り直して玉石を敷き、2号池のみ機能していたと思われる。



第322図 III区 池と溝の変遷

(4) 区画施設について

本遺跡では、柱列跡、溝跡等による区画が複数確認された。明確な建物跡は確認されなかったが、歴史的環境で触れたように当調査区は屋敷境に近い場所であったと思われる、そのため区画施設が多く検出されたと考えられる。以下、時期別に区画施設の変遷を述べる。

① 17世紀

17世紀代の区画施設はⅢ区でのみ確認されている。Ⅲ区の概要で示したように大溝SD39とSD55が最初の区画と思われ、その方向は、両溝ともN-62°-Eを示す。次にSA14～16・27が大溝付近に建てられたと推定されるが、こちらの方位はN-65°-Eを示し、前段階に比べてわずかに南にふれている。SA13もほぼ同じ方向性を持つため、同時期の遺構と思われる。

SA17、SA18は調査区を南北方向に区切る柱列で、方向はN-27°-Wを示す。SD39と直交し、SA13～16・27との関係もほぼ直交、92°の角度である。SD56はSD55に切られ、同じく92°角を示している。

そのほかの溝ではSD41がSD39・55に近い方向を持ち、切り合い関係からも古い段階のものと思われる。

遺構の年代について、切り合いから考えると、17世紀前葉にはSD63・64などの区画とは考えにくい遺構のほか地鎮遺構があり(1期)、

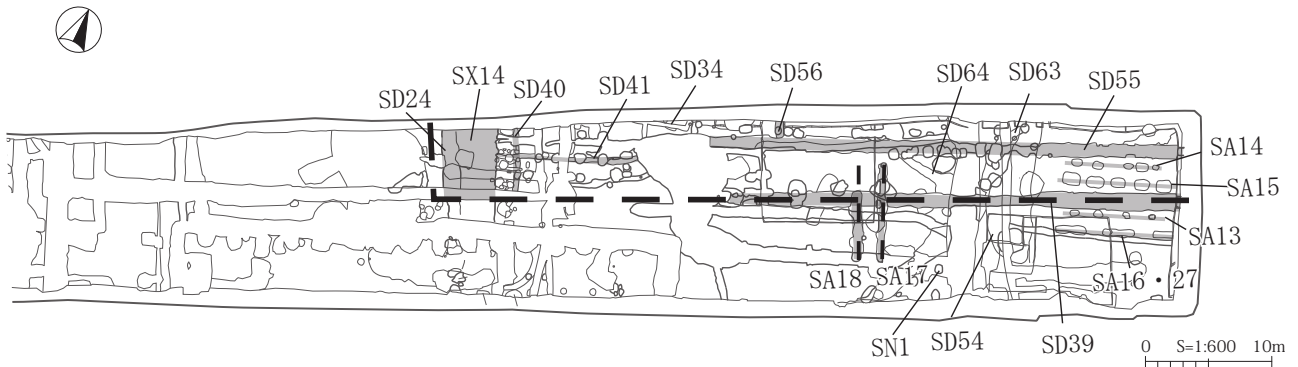
17世紀中葉はSD39・55による大溝区画(2期)、17世紀後葉ではSA13～18・27等の柱列による区画(3期)と変遷しているものと考えられる。また、先に触れたSX14については、17世紀中頃に時期が限定される。

まとめると以下ようになる。

- [1期] 地鎮遺構、SD63・64。本格的な区割り整備前の段階
- [2期] 大溝区画、SX14に見られる堀?跡
- [3期] 柱列による区画

調査区	検出面	遺構名・部位	方位
Ⅲ区	V層	SA13	N - 64.0 - E
		SA14	N - 65.0 - E
		SA15	N - 65.0 - E
		SA16	N - 65.0 - E
		SA27	N - 65.0 - E
		SA17	N - 27.0 - W
		SA18	N - 27.0 - W
		SD24	N - 32.5 - W
		SX14	N - 32.5 - W
		SD34 東西	N - 71.0 - E
		SD34 南北(北)	N - 6.0 - W
		SD34 南北(南)	N - 20.0 - W
		SD39	N - 62.0 - E
		SD40	N - 23.0 - E
		SD41	N - 63.0 - E
		SD49	N - 45.0 - E
		SD54	N - 20.0 - W
		SD55	N - 62.0 - E
		SD56	N - 27.0 - W
		SD63	N - 11.0 - E
SD64	N - 88.0 - W		
SD65	N - 58.0 - E		
SD66	N - 3.5 - W		

第7表 III区 V層遺構方位



第 323 図 17 世紀の区画

② 18世紀

18 世紀代の区画施設はⅡ区、Ⅲ区で確認されている。時期がある程度推定できるⅢ区について述べる。Ⅲ区では SD23 の底面で検出された SA22、SD39 堆積土の上面から掘り込まれている SA25 が最も古い段階に位置づけられる。方向は N-63 ~ 65°-E を示す。切り合い関係から遺構の変遷を追うと以下ようになる。

[4期] SA2、SA5b、SA7、SA11、SA12、SA21 ~ 25、SD5・6

[5期] SD22、23、31、32、38

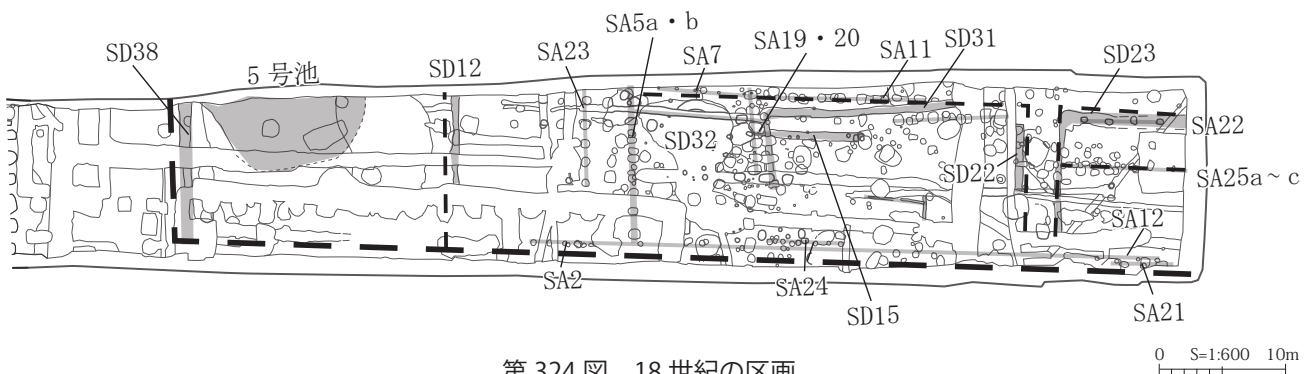
[6期] SA20、SA26、SD12

[7期] SA5a、SA19

18 世紀のはじめに大部分の柱列を整備している状況が推定される。その後石敷きを伴う石組溝の SD22、部分石組の溝である SD23 等が作られ、18 世紀半ばから 18 世紀後半は部分的な改修が行われていたと推定される。SD12 は下層の SD24、SX14 の規模を縮小し、前代と同じ区画を踏襲しているものと思われる。7 期にあたる SA5a、SA19 は同じ場所での柱列のつくりかえと思われる。

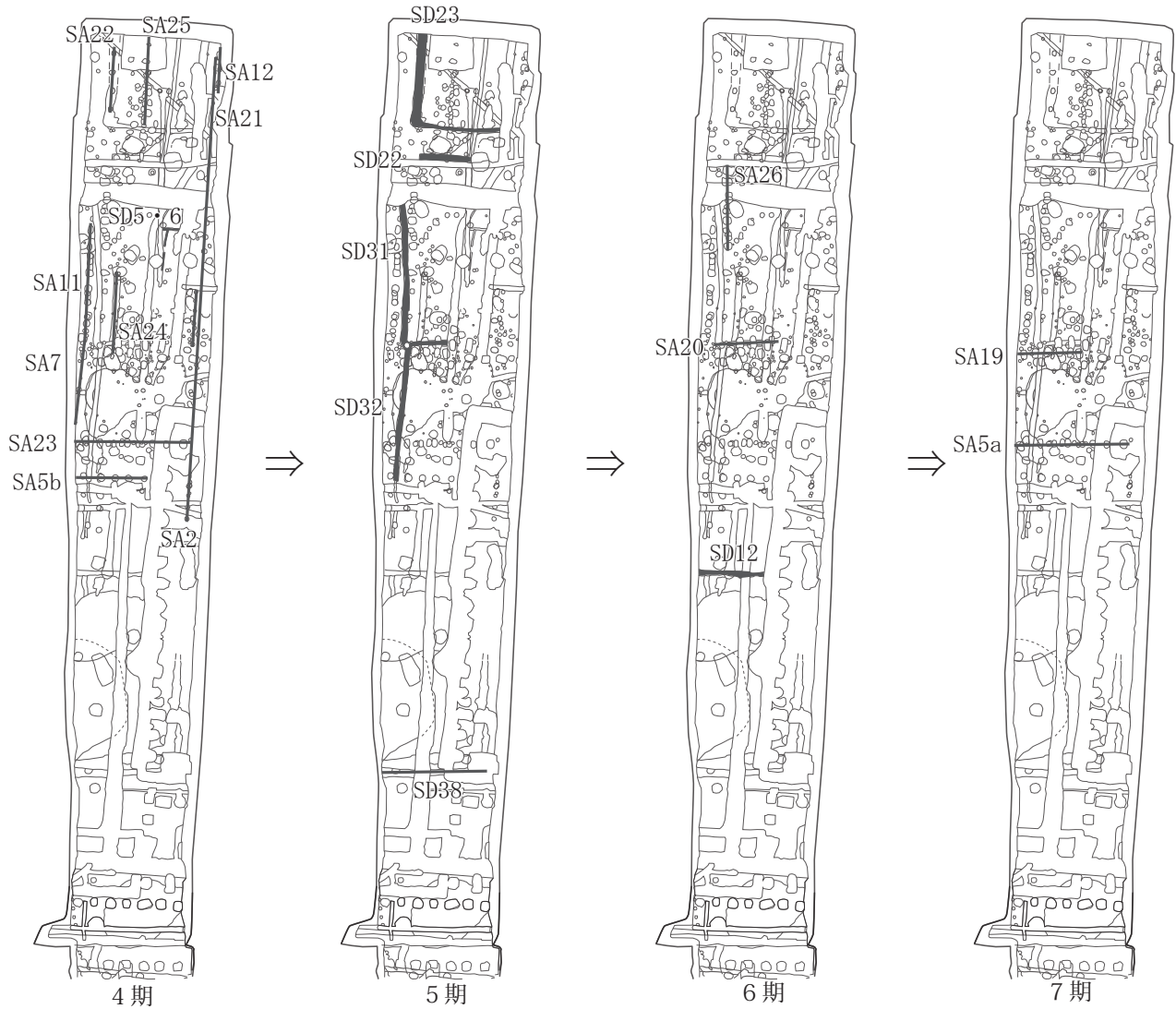
調査区	検出面	遺構名・部位	方位
Ⅲ区	Ⅳ層	SA2	N - 63.0 - E
		SA5a	N - 30.0 - W
		SA5b	N - 28.0 - W
		SA7	N - 66.0 - E
		SA11	N - 62.0 - E
		SA12	N - 64.0 - E
		SA19	N - 32.6 - W
		SA20	N - 29.4 - W
		SA21	N - 64.0 - E
		SA22	N - 64.0 - E
		SA23	N - 28.0 - W
		SA24	N - 62.0 - E
		SA25a	N - 65.0 - E
		SA25b	N - 63.0 - E
		SA25c	N - 63.0 - E
		SA26	N - 59.0 - E
		SD5	N - 27.0 - W
		SD6	N - 67.0 - E
		SD9	N - 54.0 - E
		SD12	N - 27.0 - W
		SD15	N - 65.0 - E
		SD22	N - 23.0 - W
		SD23 東西	N - 67.0 - E
SD23 南北	N - 26.0 - W		
SD31	N - 59.0 - E		
SD32	N - 32.0 - W		
SD38	N - 33.0 - W		
SD47	N - 65.0 - E		
SD61	N - 63.0 - W		

第 8 表 Ⅲ区 Ⅳ層遺構方位



第 324 図 18 世紀の区画

第2節 検出遺構について



第 325 図 III区 IV層の区画変遷

③ 19世紀

19世紀代の区画施設はⅠ～Ⅲ区で確認されている。Ⅰ区ではSA3、4、6が検出され、方位はN-39～41°-Wを示す。近代の土手状遺構、道路状遺構も同じ方位を示しており、これらの近代に相当する遺構は、近世の柱列の方向性を踏襲していることが分かる。Ⅱ区はSA1が区画施設としてあげられる。SA1はSD18と近い方向性を示すが、そのほかの遺構には規格性が見られない。Ⅲ区では柱列は検出されておらず、池に伴う溝が区画の代わりをしていたと推定される。あるいは、18世紀代の区画施設をそのまま修復しつつ利用していた可能性もある。

調査区	検出面	遺構名・部位	方位	調査区	検出面	遺構名・部位	方位	調査区	検出面	遺構名・部位	方位
Ⅰ区	Ⅱ層	SD28	N - 43.0 - W	Ⅱ区	Ⅲ層	SA1	N - 51.0 - E	Ⅲ区	Ⅲ層	SD3 西	N - 63.0 - E
		1号木樋	N - 42.0 - W			SD7	N - 32.0 - W			SD3 東	N - 176.5 - E
	SD29	N - 41.0 - W	SD18			N - 53.0 - E	SD4			N - 65.0 - E	
	Ⅲ層	1号道路	N - 41.0 - W			SD19	N - 68.0 - E			SD10	N - 67.0 - E
		1号土手	N - 41.0 - W			SD33	N - 19.0 - E			SD14 南北	N - 38.0 - W
	Ⅳ層	SD43	N - 40.0 - W			SD27	N - 60.0 - E			SD14 東西	N - 64.0 - E
		Ⅴ層	SA3	N - 41.0 - W	1号竹樋新	N - 67.5 - W	SD30			N - 23.0 - W	
			SA4	N - 39.0 - W	1号竹樋古	N - 25.0 - W					
			SA6	N - 41.0 - W	2号竹樋新	N - 11.5 - E					
	SD45		N - 33.0 - W	2号竹樋古	N - 34.0 - W						
		SD51	N - 37.0 - W								

第9表 Ⅰ～Ⅲ区 主要遺構方位



1. 寛文4年(1664)「仙台下絵図」
宮城県図書館所蔵



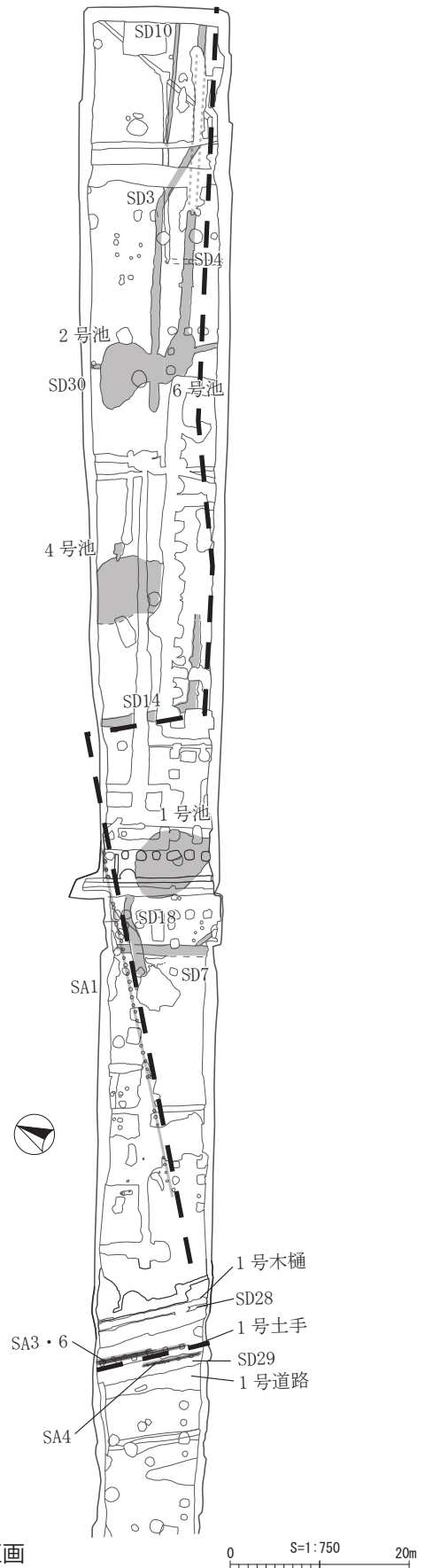
2. 元禄4・5年(1691・1692)「仙台下五疊掛絵図」
齋藤報恩会所蔵



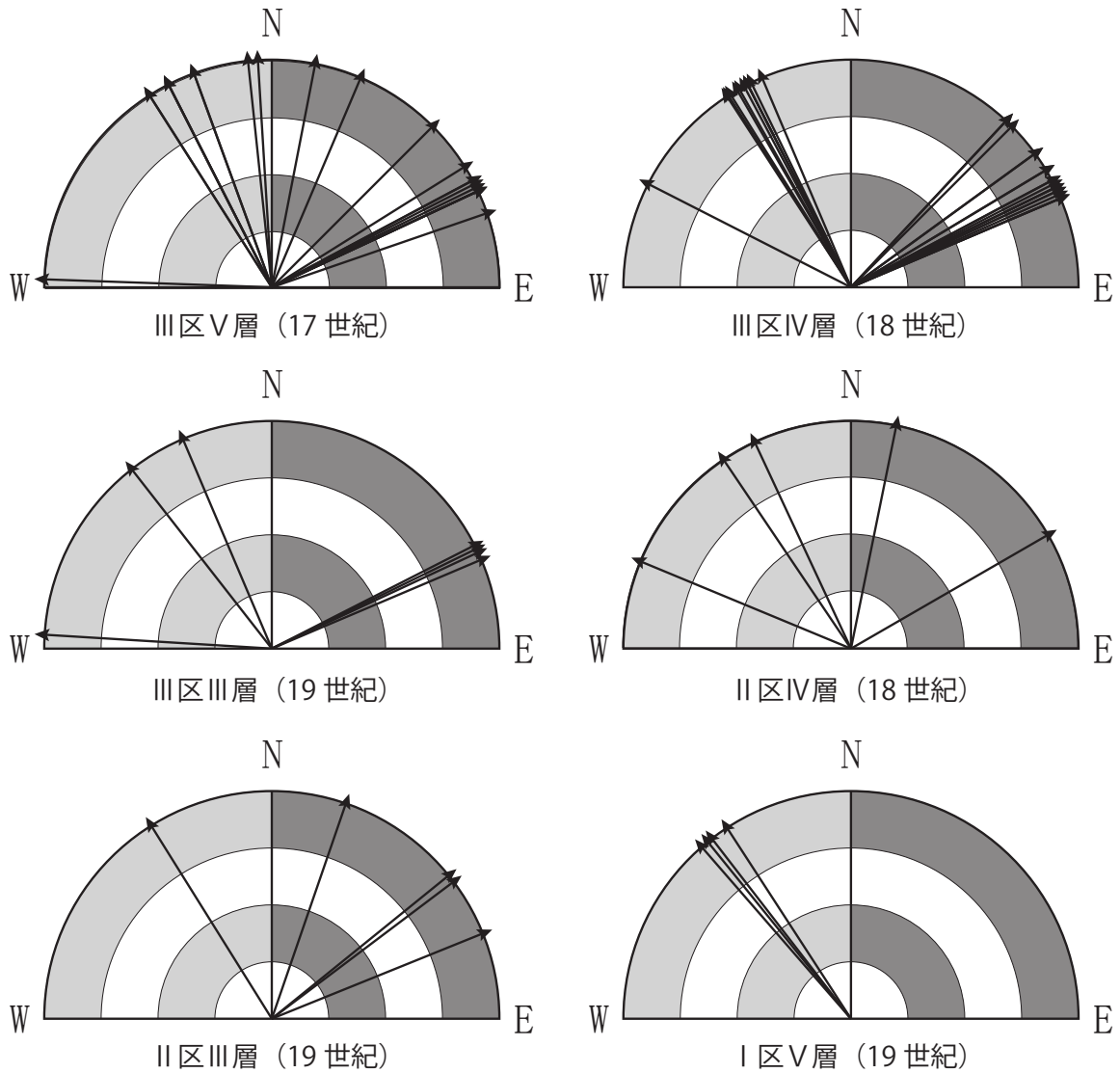
3. 宝暦・明和年間(1751~1772)「仙台下絵図」
齋藤報恩会所蔵



4. 天明6年~寛政元年(1786~1789)「仙台下絵図」
仙台市博物館所蔵



第326図 19世紀の区画



第 327 図 各区・層別の遺構方位

図の上が北。N-30°-Eの遺構の場合、右に30°傾いた矢印がその遺構の方位を表している。

④ 区画施設についてのまとめ

表に示した柱列・溝の方位を図で表したのが第 327 図で、北を軸に東西に何度傾くかを、円の中心から延びる矢印で表している。Ⅲ区は、17 世紀代は大溝は計画的に作られているが、そのほかの溝に統一性があまり見られず、全体としてまばらな状況になっている。18 世紀代では柱列・溝はある程度規格性が窺われる。これは、この時期において計画的な整備が行われた可能性を示唆している。19 世紀は対象となる遺構が少ないため傾向を見ることはできないが、ある程度前代の状況を踏まえて遺構がつくられているものと思われる。Ⅱ区は竹樋についてもグラフに表示しているが、遺構の数が少なく傾向は読み取れない。Ⅰ区は全て同じ方向を向いており、検出された区画施設が同じ性格を持って機能していたかもしれない。先にも述べたが、Ⅰ区の土手状遺構などは全て 19 世紀代のものであり、亀岡御殿との屋敷境となっていたと思われる。

各時代を通してⅢ区の西側で南北に伸びる区画があることが分かる（第 323 図～第 326 図）。17 世紀代は SX14 で、堀の可能性があり、その形を踏襲して作られた SD24、18 世紀代にはこれが SD12 へと変遷している。18 世紀代はさらに西側に SD38 があり、19 世紀代は SD38 と同じ場所に SD14 が作られている。調査区を南北に区切る区画も多く検出されており、第 323 図に示した階段状の区画の一部を示している可能性がある。

(5) 検出遺構のまとめ

当遺跡の主要な検出遺構は、Ⅰ区の区画施設、Ⅱ区の柱列・水道関連遺構、Ⅲ区の区画施設・池などである。

Ⅰ区では19世紀以降のものが主体で、近世に作られていた区画施設がそのまま踏襲され、近代における土手状遺構に変遷している様子が窺える。道路状遺構については近世の面は検出されなかったが、古い段階の道路を踏襲している可能性は高い。

Ⅱ区では18世紀代に竹樋の作り替えが4回以上行われた。19世紀代には60m近い柱列と、Ⅲ区の1号池に給水する溝が検出され、さらに飛び石などもみられ、庭園施設が近くにあったと思われる。

Ⅲ区では17世紀初頭に地鎮(SN1)を行ってから、17世紀中葉に大溝区画・SX14が作られている。SN1とSX14の年代差は出土した古銭から推定できる。SX14が堀として機能するものであれば、大溝区画がSX14付近で途切れることも理解できる。その後、SX14は石組溝SD24へと変遷し、大溝区画の周辺に柱列による区画が作られる。18世紀代には17世紀後半段階の柱列による区画を踏襲する形で、SA2～SA21へとつながる推定50m以上の区画が出現する。18世紀後半以降の柱列は部分的な建て替えが行われるのみで、19世紀代に新しく作られた柱列跡は確認できなかった。一方で19世紀段階には池が複数作られている。18世紀後半から19世紀にかけて遺跡の周辺が区画施設から庭園の景観に変化していったことが窺われる。

亀岡御殿に相当する建物跡は検出されなかったが、おそらく18世紀後半に5号池が造られ、19世紀代に至り飛び石、1号池、2号池、4号池、6号池等が構築されたと考えられる。18世紀中頃以前は当遺跡の場所は屋敷境にあたっており、南北、東西に縦横に走る柱列が、絵図に見られる階段状区画の一部であると考えられる。柱列の整備が進んだのは17世紀後半から18世紀前半にかけてと考えられ、特に18世紀代には方位が一定方向にまとまる傾向にあるため、この時期に整備されたとみられる。

Ⅲ区の遺構は17世紀前半～中頃、17世紀後半～18世紀中頃、18世紀後半～19世紀中頃に時期区分が可能である。

17世紀前半から中頃(Ⅰ期)は地鎮や大型区画などがあり、17世紀後半～18世紀中頃(Ⅱ期)は柱列などの区画施設が複数作られ、前段階の区画を踏襲しつつ再整備が行われているようである。18世紀後半～19世紀中頃には池等の庭園関係と思われる施設が作られている。

Ⅲ区の成果から当遺跡の年代区分を再度まとめると以下ようになる。

Ⅰ期：SN1・大区画から柱列への切り替え時期 17世紀前半～17世紀中頃(SN1、SX14の時期)。

Ⅱ期：柱列の整備段階 17世紀後半～18世紀中頃。

Ⅲ期：庭園の景観を呈する時期 18世紀後半～19世紀中頃

以上のように当遺跡の遺構は時期ごとに性格を変えて変遷している。

第8章 まとめ

1. 本遺跡では柱列跡 24 条、溝跡 42 条、井戸跡 6 基、土坑 52 基、ピット 257 基、性格不明遺構 16 基、池跡 5 基、木樋 4 条、竹樋 2 条、枡状遺構 2 基、土手状遺構 1 条、道路状遺構 1 条、石垣 2 基、埋甕 1 基、祭祀遺構 1 基が確認された。また、十和田 a 火山灰下より 2 基の遺構が確認され、遺構総数は 418 基を数える。

2. 出土遺物の総数は 5277 点である。遺物は縄文土器、瓦、陶器、土師質土器、瓦質土器、磁器、石製品、石器、木製品、金属製品、古銭、土製品等がみられた。産地は、磁器は景德鎮、漳州窯、肥前、瀬戸・美濃、切込、平清水等を、陶器は志野、織部、岸窯系、肥前系（唐津を含む）、瀬戸・美濃、京・信楽系、丹波、大堀相馬、小野相馬、堤を確認した。産地不明の在地産と見られる播鉢等も複数確認している。

3. I 区は 19 世紀代に柱列が作られ、その後同じ場所に近代初頭の土手状遺構が築かれた。整地層からの遺物の出土量が多く、周辺に武家屋敷があったことが窺われる。また、近世～近代を通して道路、区画に相当する地区であるが、絵図によると荒地のように描かれている時期もある。

4. II 区は 18 世紀代に水道関係の遺構が整備され、19 世紀代には柱列、飛び石、1 号池に対する給水溝などが作られている。遺物の出土量は少ないが、平清水産か銀山畑山焼の可能性のある皿が出土した。

5. III 区の遺構は 3 時期の変遷が窺える。17 世紀前半は、当遺跡で確認されている近世の一番古い段階のもので、地鎮、大溝区画が作られた時期、17 世紀後半から 18 世紀中頃は屋敷境の柱列が構築・整備された時期、18 世紀後半～19 世紀前半は庭園として整備された時期と、性格をかえている。

6. 自然科学分析では、以下のことが判明した。(1) 樹種同定の結果、柱はスギ・クリ・ニヨウマツが、杭はスギ・クリ・ナラ類・クマシデ属、木樋はニヨウマツが用いられていた。(2) 出土木製品の年代測定では、III 区 III 層上面検出の SA8 出土杭は 17 世紀前半の年代であり、遺構よりも古い年代の木材である。また、III 区 IV 層検出の SE1 出土坑も 17 世紀の年代となっており、同様に遺構との年代差がある。III 区 V 層検出の SA18、III 区 IV 層検出の SA5b 出土木材等は、ほぼ遺構の年代と近い 18 世紀中ごろの年代となっている。(3) 土壌分析において稲作の可能性が指摘されたが、周辺の調査では畑の畝跡が検出されており、畝間に藁を敷いて耕作を行っていた可能性がある。本遺跡も同様に藁を使用した畑作が行われたと考えられる。

参考文献

- 江戸遺跡研究会編 2001 『図説 江戸考古学研究事典』 柏書房
- 追川吉生 2007 『江戸のなりたち 2 武家屋敷・町屋』 新泉社
- 大橋康二・西田宏子監修 1988 『古伊万里』 平凡社
- 大橋康二 1994 『古伊万里の文様 初期肥前磁器を中心に』 理工学社
- 大橋康二構成 2002 『そば猪口事典』 平凡社
- 角川書店 1994 『宮城県姓氏家系大辞典』
- 鐘方正樹 2006 『井戸の考古学 ものが語る歴史シリーズ⑧』 同成社
- 九州近世陶磁学会 2000 『九州陶磁の編年』
- 九州近世陶磁学会 2002 『国内出土の肥前陶磁 西日本の流通を探る 第1分冊』
- 九州近世陶磁学会 2002 『国内出土の肥前陶磁 西日本の流通を探る 第2分冊』
- 坂田啓編 1995 『私本仙台藩士事典』 創栄出版
- 汐留地区遺跡調査会 1996 『汐留遺跡』
- 新宿区遺跡調査会 1997 『住吉町西遺跡 I - 新宿区菅住吉町コーポラス等の建設に伴う緊急発掘調査報告書 -』
- 新宿区市谷加賀町一丁目遺跡調査団 1996 『東京都新宿区市谷加賀町一丁目遺跡 I (仮称) 日本電信電話株式会社市ヶ谷加賀町社宅の新築工事に伴う緊急発掘調査報告書』
- 新宿区内藤町遺跡調査会 1992 『内藤町遺跡 - 放射 5 号線整備事業に伴う緊急発掘調査報告書 -』
- 新宿区南山伏町遺跡調査団 1997 『東京都新宿区南山伏町遺跡 警視庁牛込警察署改築に伴う緊急発掘報告書』
- 芹沢長介ほか編 1981 『日本やきもの集成 1 北海道 東北 関東』 平凡社
- 仙台市教育委員会 1985 『仙台城三ノ丸跡』 仙台市文化財調査報告書第 76 集
- 仙台市教育委員会 1986 『柳生』 仙台市文化財調査報告書第 95 集
- 仙台市教育委員会 1997 『養種園遺跡』 仙台市文化財調査報告書第 214 集
- 仙台市教育委員会 2000 『沼向遺跡第 1 ～ 3 次調査』 仙台市文化財調査報告書第 241 集
- 仙台市教育委員会 2002 『仙台城跡 1 - 平成 13 年度調査報告書 -』 仙台市文化財調査報告書第 259 集
- 仙台市教育委員会 2003 『仙台城跡 2 - 平成 14 年度調査報告書 -』 仙台市文化財調査報告書第 264 集
- 仙台市教育委員会 2004 『仙台城跡 3 - 平成 15 年度調査報告書 -』 仙台市文化財調査報告書第 270 集
- 仙台市教育委員会 2004 『仙台城跡 4 - 平成 15 年度調査報告書 -』 仙台市文化財調査報告書第 271 集
- 仙台市教育委員会 2005 『仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査 (1) 概要報告書』 仙台市文化財調査報告書第 289 集
- 仙台市教育委員会 2006 『仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査 (2) 概要報告書』 仙台市文化財調査報告書第 302 集
- 仙台市教育委員会 2007 『仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査 (3) 概要報告書』 仙台市文化財調査報告書第 316 集
- 仙台市教育委員会 2007 『川内 A 遺跡 - 仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書 I -』 仙台市文化財 調査報告書第 312 集
- 仙台市環境計画課編・松本秀明監修 2001 『せんだい空中写真集～杜の都いま むかし』 仙台市環境計画課
- 仙台市史編さん委員会 1994 『仙台市史 特別編 1 自然』
- 仙台市史編さん委員会 1995 『仙台市史 特別編 2 考古資料』

参考文献

- 仙台市史編さん委員会 2004 『仙台市史 通史編 5 近世 3』
- 仙台市史編さん委員会 2006 『仙台市史 特別編 7 城館』
- 高倉淳ほか編 1994 『絵図・地図で見る仙台第一輯』 今野印刷株式会社
- 高倉淳ほか編 2005 『絵図・地図で見る仙台第二輯』 今野印刷株式会社
- 地下鉄 7 号線溜池・駒込間遺跡調査会 1997 『溜池遺跡第 1 分冊 - 地下鉄 7 号線溜池・駒込間遺跡発掘調査報告書 7-1-』
- 中央区教育委員会事務局 2004 『日本橋蛸殻町一丁目遺跡Ⅱ - 中央区日本橋蛸殻町一丁目 36 番 集合住宅 建設に伴う緊急発掘調査報告書 -』
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 1993 『東北大学埋蔵文化財調査年報 6』
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 1994 『東北大学埋蔵文化財調査年報 7』
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 1997 『東北大学埋蔵文化財調査年報 8』
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 1999 『東北大学埋蔵文化財調査年報 11』
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 2000 『東北大学埋蔵文化財調査年報 13』
- 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 2005 『東北大学埋蔵文化財調査年報 18』
- 中川久夫他 1960 『仙台付近の第四系および地形 (1)』 第四期研究 1
- 新潟県教育委員会・財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団 2007 『窪田遺跡Ⅰ 日本海沿岸東北自動車道関係発掘報告書 XXⅢ』 新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 176 集
- 兵庫埋蔵銭調査会 1996 『日本出土銭総覧』
- 満岡忠成ほか編 1981 『日本やきもの集成 6 近畿 (Ⅱ)』 平凡社
- 宮城県文化財保護協会 1990 『切込窯跡』 宮崎町文化財調査報告書第 3 集

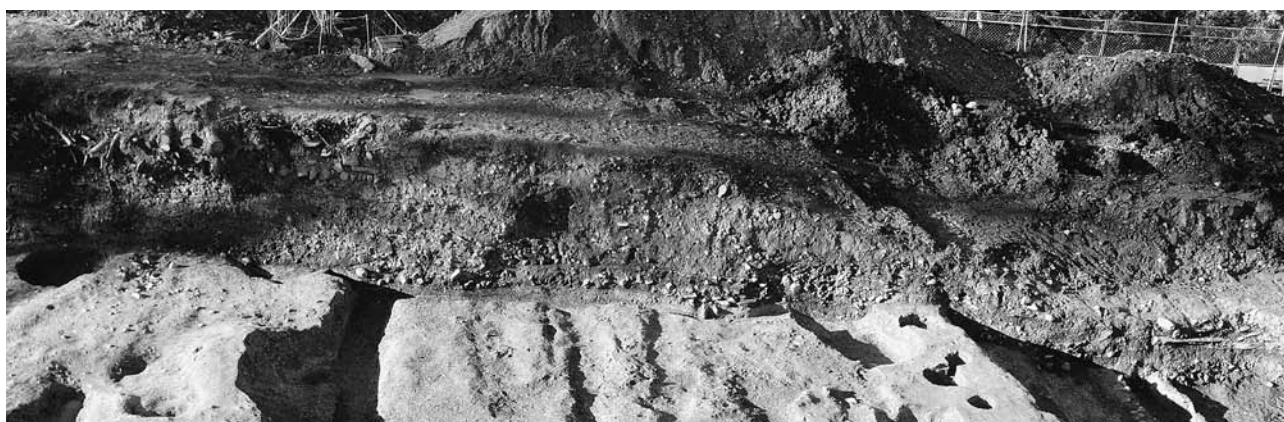
写真図版



1. I区西壁面 (東から)



2. I区北壁面1 (南から)



3. I区北壁面2 (南から)



4. I区南壁面1 (北から)

図版1 I区壁面(1)



1. I区南壁面2 (北から)



2. I区南壁面3 (北から)



3. II区北壁面1 (南から)



4. II区北壁面2 (南から)

図版2 I区壁面(2)・II区壁面(1)



1. II区北壁面3 (南から)



2. II区北壁面4 (南から)



3. II区北壁面5 (南から)



4. II区北壁面6 (南から)



5. II区北壁面7 (南から)

図版3 II区壁面(2)



1. II区北壁面8 (南から)



2. II区南壁面1 (北から)



3. II区南壁面2 (北から)



4. II区南壁面3 (北から)



5. II区南壁面4 (北から)

図版4 II区壁面(3)



1. II区南壁面5 (北から)



2. III区北壁面1 (南から)



3. III区北壁面2 (南から)



4. III区北壁面3 (南から)



5. III区北壁面4 (南から)



6. III区北壁面5 (南から)



7. III区北壁面6 (南から)



8. III区北壁面7 (南から)



9. III区北壁面8 (南から)

図版5 II区壁面(4)・III区壁面(1)



1. III区北壁面9 (南から)



2. III区北壁面10 (南から)



3. III区北壁面11 (南から)



4. III区北壁面12 (南から)



5. III区北壁面13 (南から)



6. III区北壁面14 (南から)



7. III区北壁面15 (南から)



8. III区北壁面16 (南から)

図版6 III区壁面(2)



1. III区北壁面 17 (南から)



2. III区北壁面 18 (南から)



3. III区北壁面 19 (南から)



4. III区北壁面 20 (南から)



5. III区北壁面 21 (南から)



6. III区北壁面 22 (南から)



7. III区北壁面 23 (南から)



8. III区北壁面 24 (南から)

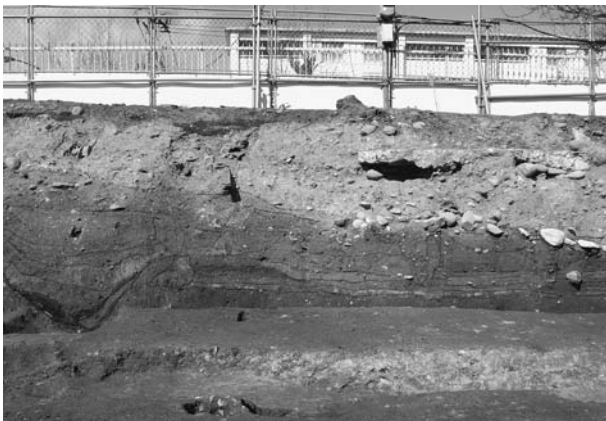
図版7 III区壁面 (3)



1. III区北壁面 25 (南から)



2. III区北壁面 26 (南から)



3. III区北壁面 27 (南から)



4. III区北壁面 28 (南から)



5. III区北壁面 29 (南から)



6. III区南壁面 1 (北から)



7. III区南壁面 2 (北から)



8. III区南壁面 3 (北から)

図版 8 III区壁面 (4)



1. III区南壁面4 (北から)



2. III区南壁面5 (北から)



3. III区南壁面6 (北から)



4. III区南壁面7 (北から)



5. III区南壁面8 (北から)



6. III区南壁面9 (北から)



7. III区壁南壁面10 (北から)



8. III区南壁面11 (北から)

図版9 III区壁面 (5)



1. III区南壁面12 (北から)



2. III区南壁面13 (北から)



3. III区南壁面14 (北から)



4. III区南壁面15 (北から)



5. III区南壁面16 (北から)



6. III区南壁面17 (北から)



7. III区南壁面18 (北から)



8. III区南壁面19 (北から)

図版10 III区壁面(6)



1. III区南壁面 20 (北から)



2. III区南壁面 21 (北から)



3. III区南壁面 22 (北から)



4. III区南壁面 23 (北から)



5. III区南壁面 24 (北から)



6. III区南壁面 25 (北から)



7. III区南壁面 26 (北から)

図版 11 III区壁面 (7)



1. III区南壁面 27 (北から)



2. III区南壁面 28 (北から)



3. III区南壁面 29 (北から)



4. III区東壁面 (北から)

図版 12 III区壁面 (8)



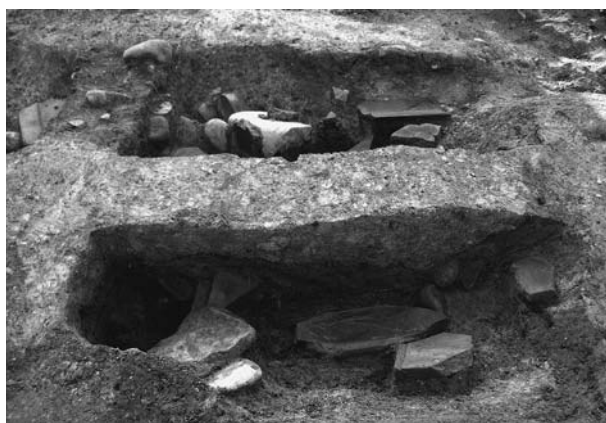
1. SK55 土坑完掘 (東から)



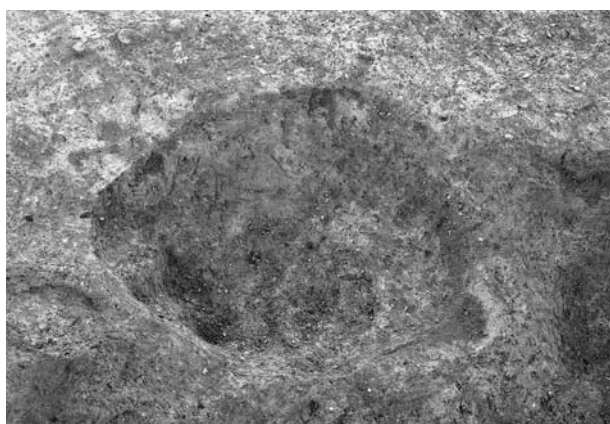
2. SK55 土坑断面 (南から)



3. SK55 土坑断面 (東から)



4. SK55 土坑断面 (東から)



5. SK61 土坑完掘 (東から)



6. SK61 土坑断面 (東から)

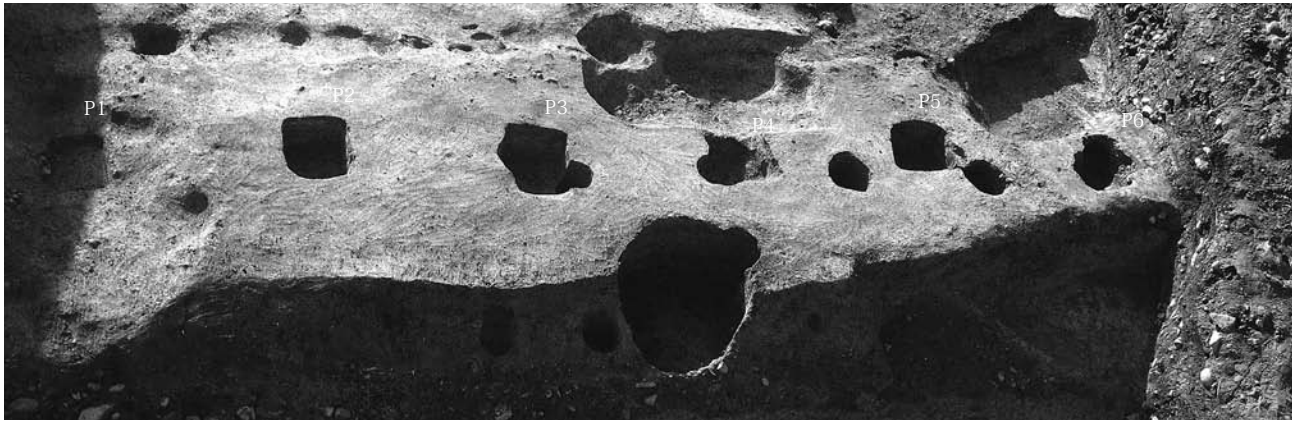


7. SX23 性格不明遺構完掘 (南から)



8. SX23 性格不明遺構断面 (南から)

図版 13 I 区 VI 層



1. SA3 柱列跡完掘 (東から)



2. SA3 柱列跡 P1 断面 (東から)



3. SA3 柱列跡 P2 断面 (東から)



4. SA3 柱列跡 P3 断面 (東から)



5. SA3 柱列跡 P4 断面 (東から)



6. SA3 柱列跡 P5 断面 (東から)



7. SA3 柱列跡 P6 断面 (東から)

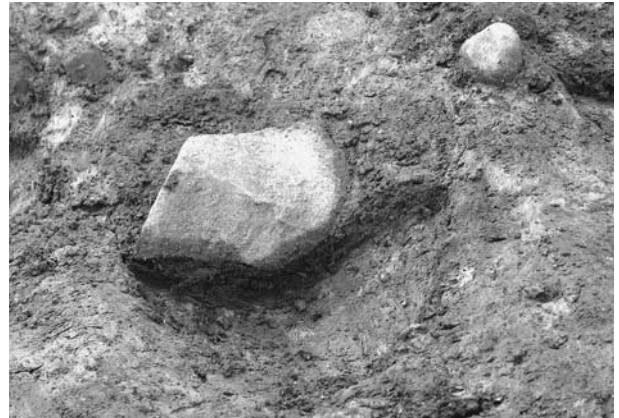
図版 14 I 区 V 層 (1)



1. SA4 柱列跡完掘 (南から)



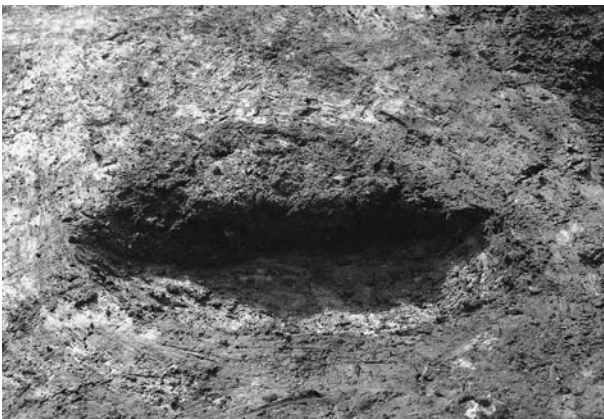
2. SA4 柱列跡 P3 断面 (東から)



3. SA4 柱列跡 P4 断面 (東から)



4. SA4 柱列跡 P5 断面 (東から)



5. SA4 柱列跡 P6 断面 (東から)



6. SA3・4・6 柱列跡完掘 (南から)

図版 15 I 区 V 層 (2)



1. SA6 柱列跡 P1 断面 (東から)



2. SA6 柱列跡 P2 断面 (北から)



3. SA6 柱列跡 P3 柱材検出 (東から)



4. SA6 柱列跡 P4 断面 (東から)



5. SD45・51 溝跡完掘 (南から)



6. SD45 溝跡断面 (北から)



7. SD51 溝跡断面 (北から)



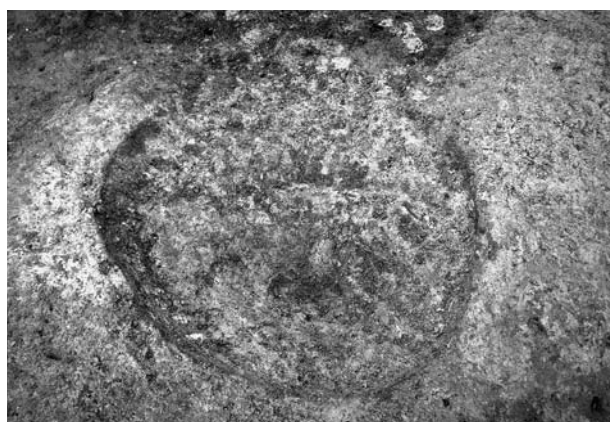
1. SE6 井戸跡完掘 (南から)



2. SE6 井戸跡断面 (南から)



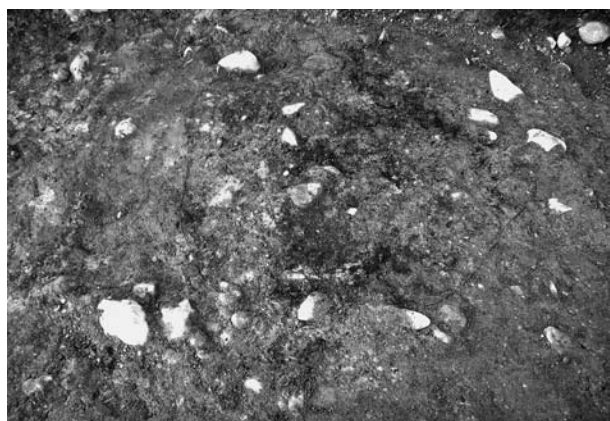
3. SE6 井戸跡断面 (南から)



4. SK34 土坑完掘 (南から)



5. SK34 土坑断面 (南から)

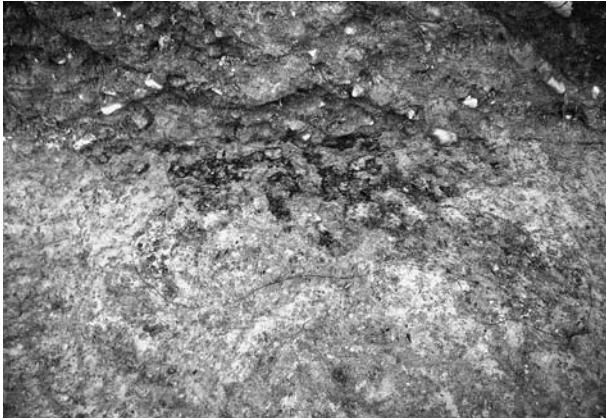


6. SX11 性格不明遺構 炭化物検出 (南から)

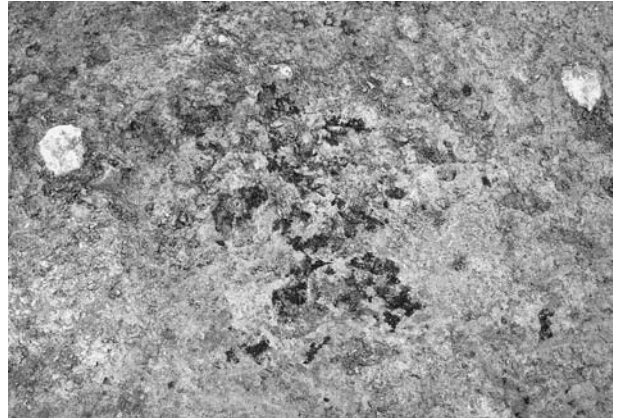


7. SX12 (左)・13 (右) 性格不明遺構 炭化物検出 (西から)

図版 17 I 区 V 層 (4)



1. SX16 性格不明遺構 炭化物検出 (東から)



2. SX18 性格不明遺構 炭化物検出 (北から)



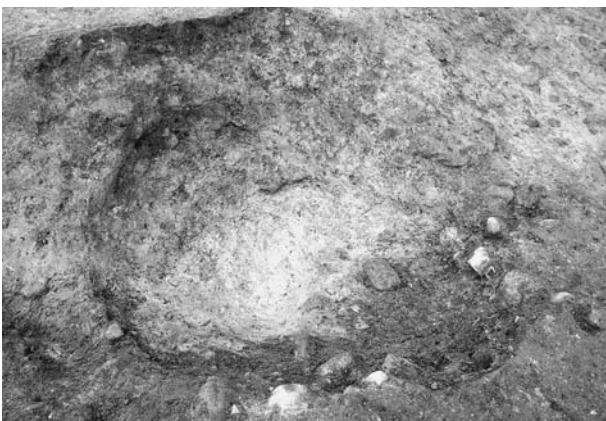
3. SX21 性格不明遺構 炭化物検出 (南から)



4. SD43 溝跡断面 炭化物検出 (北から)



5. SD43 溝跡完掘 (北から)



6. SK36 土坑完掘 (東から)



7. SK36 土坑断面 (東から)



1. SD29 溝跡・1号道路状遺構・1号土手状遺構全景（南から）



2. SD29 溝跡完掘（北から）



3. SD29 溝跡断面（北から）



4. SD29 溝跡断面（北から）

図版 19 I 区 III 層



1. SD28 溝跡石組検出 (南から)



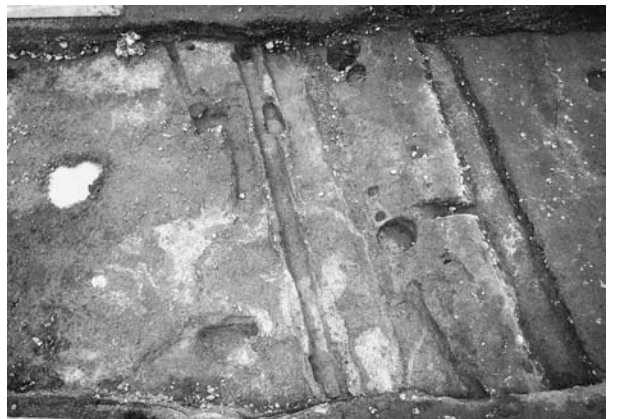
2. SD28 溝跡断面 (北から)



3. SD28 溝跡断面 (北から)



4. 1号木樋全景 (南から)



5. 1号木樋掘り方完掘 (北から)



6. 1号木樋断面 (北から)



1. 2号石垣掘り方完掘 (南から)



2. 2号石垣石組検出 (北から)



3. 2号石垣断面 (東から)



4. 1号埋甕掘り方完掘 (南から)



5. 1号埋甕検出 (南から)



6. SX17 性格不明遺構完掘 (東から)

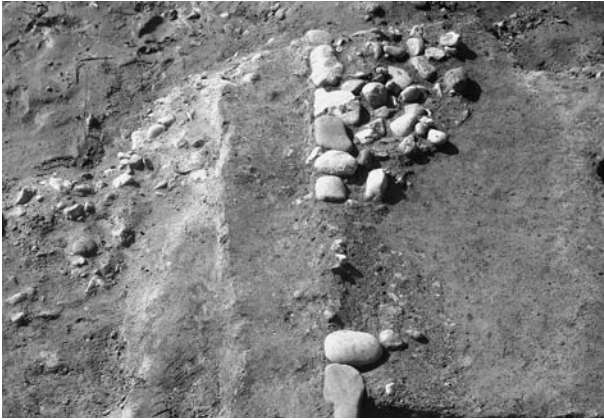


7. SX17 性格不明遺構断面 (南から)



8. 建物(病馬廄)跡検出 (南東から)

図版 21 I 区 II 層 (2)



1. SD27 溝跡完掘 (東から)



2. SD27 溝跡断面図 (東から)



3. SK4 土坑完掘 (南から)



4. SK4 土坑断面 (東から)



5. SK5 土坑完掘 (東から)



6. SK5 土坑・SD19 溝跡断面 (東から)



7. 1号竹樋 枅検出 (西から)



8. 1号竹樋 枅検出 (南西から)

図版 22 II 区IV層 (1)



1. 1号竹樋全景 (南から)



2. 1号竹樋掘り方完掘 (南東から)



3. 1号竹樋 継手検出 (南から)



4. 2号竹樋検出 (南から)



5. 2号竹樋検出 (南から)

図版 23 II区IV層(2)



1. 2号竹樋全景 (北東から)



2. 2号竹樋 枅検出 (南から)



3. 2号竹樋 継手検出 (南から)



4. 1号枅状遺構掘り方完掘 (南から)



5. 1号枅状遺構遺物出土 (南から)

図版 24 II区IV層(3)



1. 1号柝状遺構全景（東から）



2. 1号柝状遺構断面（西から）

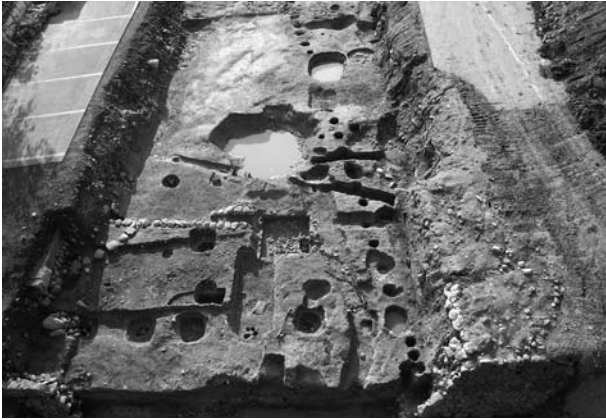


3. 1号柝状遺構断面（南から）



4. SA1柱列跡全景（東から）

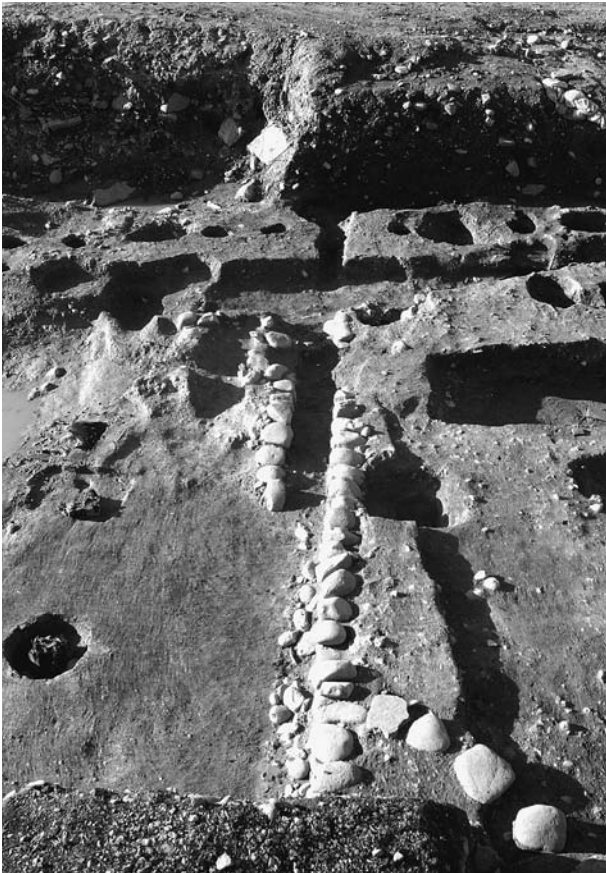
図版 25 II区IV層(4)・III層(1)



1. SA1 柱列跡完掘 (東から)



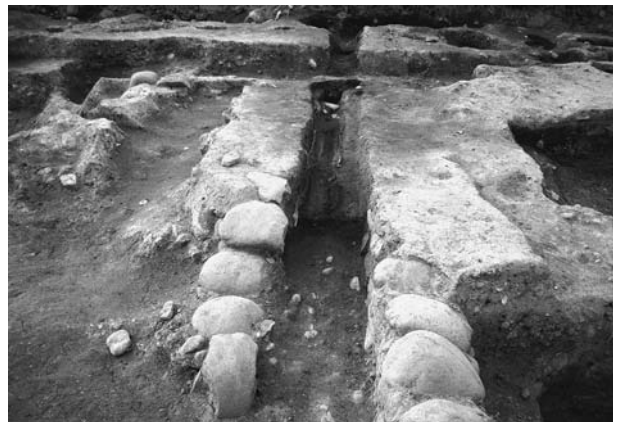
2. SA1 柱列跡完掘 (北から)



3. SD7 溝跡石組全景 (南から)



4. SD7 溝跡掘り方完掘 (南から)



5. SD7 溝跡石組検出 (南から)



6. SD7 溝跡断面 (北から)



7. SD7 溝跡断面 (南から)

図版 26 II 区 III 層 (2)



1. SD7 溝跡木材検出 (東から)



2. SD18 溝跡完掘 (東から)



3. SD18 溝跡断面 (東から)



4. SD18 溝跡断面 (東から)



5. SD19 溝跡完掘 (東から)



6. SD19 溝跡断面 (南から)

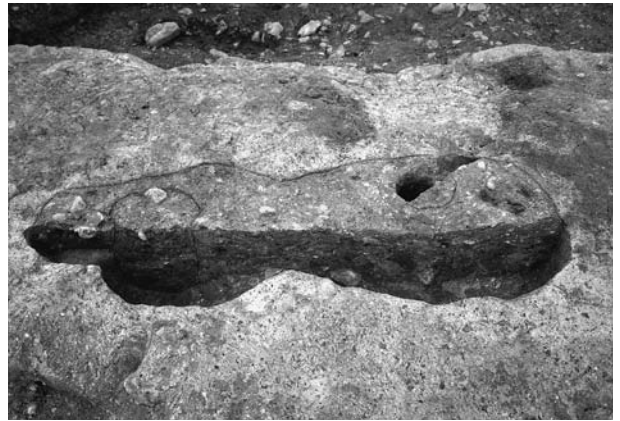


7. SD33 溝跡完掘 (西から)

図版 27 II 区 III 層 (3)



1. SK2 土坑完掘 (西から)



2. SK2 土坑断面 (西から)



3. SK3 土坑完掘 (東から)



4. SK3 土坑断面 (南から)



5. SX2 性格不明遺構完掘 (南から)



6. SX2 性格不明遺構遺物出土 (南から)



7. SX9 性格不明遺構完掘 (北から)



8. SX9 性格不明遺構遺物出土 (北から)

図版 28 II 区 III 層 (4)



1. 1号飛び石検出 (東から)



2. 1号飛び石断面 (東から)



3. 1号石垣全景 (東から)



4. 1号石垣掘り方検出 (東から)



5. 1号石垣掘り方下部断面 (南から)



6. 1号石垣断面 (北から)



7. 1号石垣断面 (南から)

図版 29 II区III層(5)・II層



1. SA13～16 柱列跡全景 (南から)



2. SA13 柱列跡 P1 断面 (南から)



3. SA13 柱列跡 P2 断面 (南から)



4. SA13 柱列跡 P3 断面 (西から)



5. SA13 柱列跡 P4 断面 (南から)

図版 30 III区V層 (1)



1. SA14 柱列跡 P1 完掘 (北から)



2. SA14 柱列跡 P2 完掘 (北から)



3. SA14 柱列跡 P3 完掘 (北から)



4. SA14 柱列跡 P4 完掘 (北から)



5. SA15 柱列跡全景 (東から)

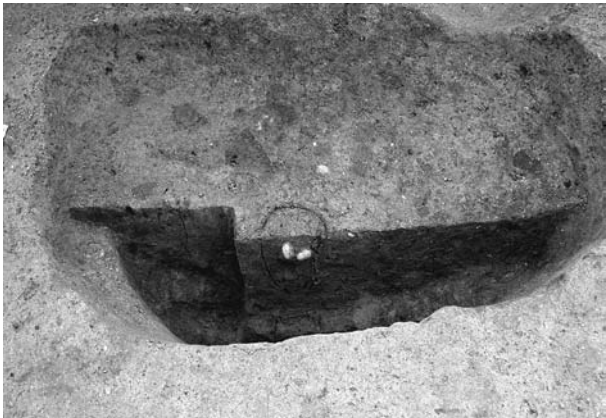
図版 31 III区V層 (2)



1. SA15 柱列跡 P1 断面 (北から)



2. SA15 柱列跡 P2 断面 (北から)



3. SA15 柱列跡 P3 断面 (北から)



4. SA15 柱列跡 P4 断面 (北から)



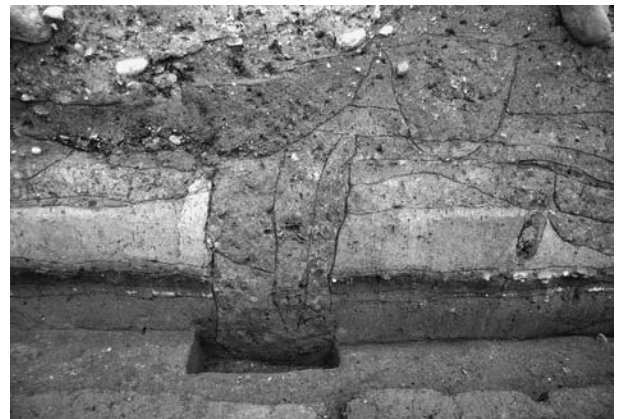
5. SA15 柱列跡 P5 断面 (北から)



6. SA16 柱列跡 溝1 断面 (南から)

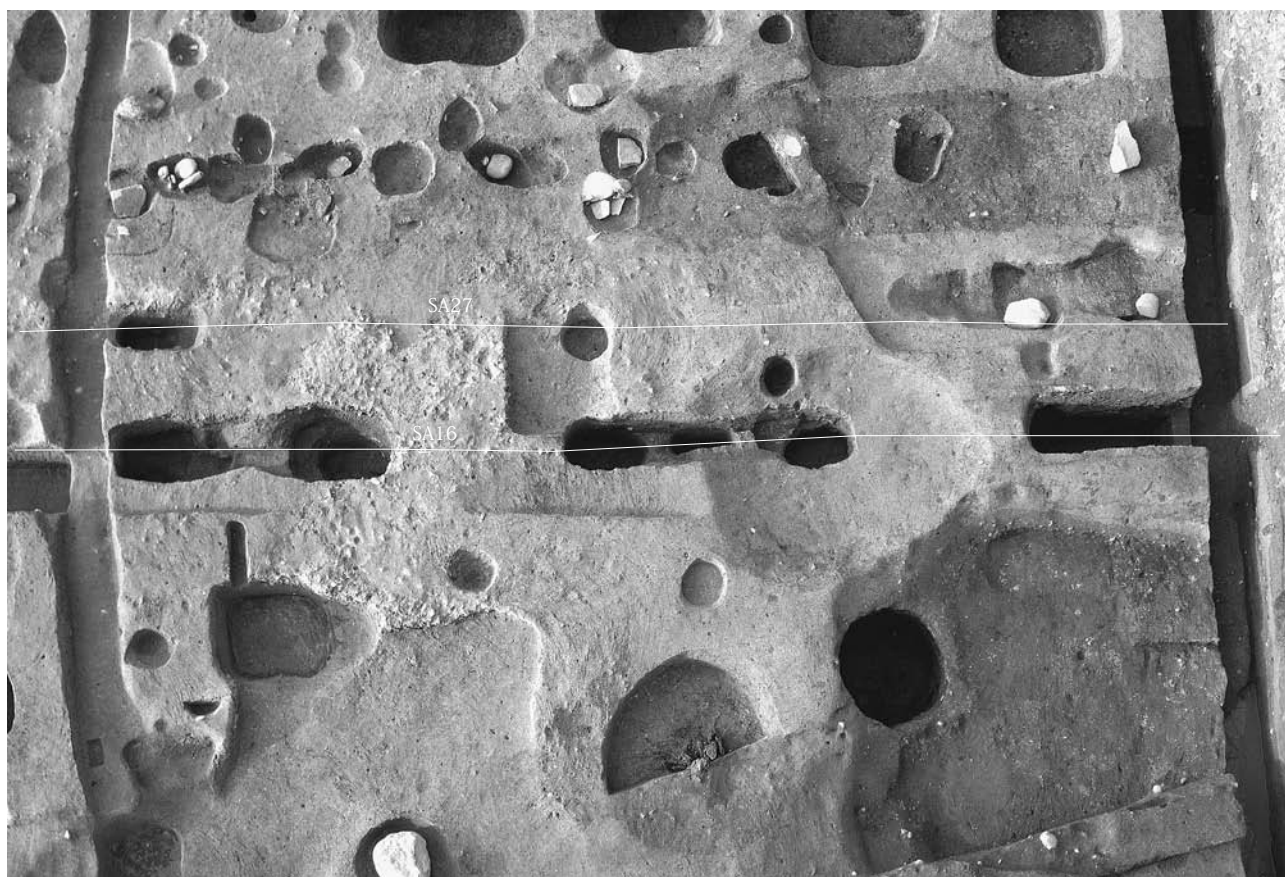


7. SA16 柱列跡 溝2 断面 (北から)



8. SA16 柱列跡 溝3 断面 (西から)

図版 32 III区V層 (3)



1. SA16・27 柱列跡全景 (南から)



2. SA27 柱列跡 溝1断面 (西から)



3. SA27 柱列跡 P1断面 (北から)



4. SA27 柱列跡 P2断面 (東から)



5. SA17 柱列跡 柱I断面 (南から)

図版 33 III区V層 (4)



1. SA17・18 柱列跡全景 (南から)



2. SA17 柱列跡 柱2 断面 (南から)



3. SA18 柱列跡 柱1 柱材・礎板石検出 (北から)



4. SA18 柱列跡 柱2 柱材・礎板石検出 (北から)



5. SA18 柱列跡 柱2 断面 (南から)



6. SD24 溝跡堀り方完掘 (南から)



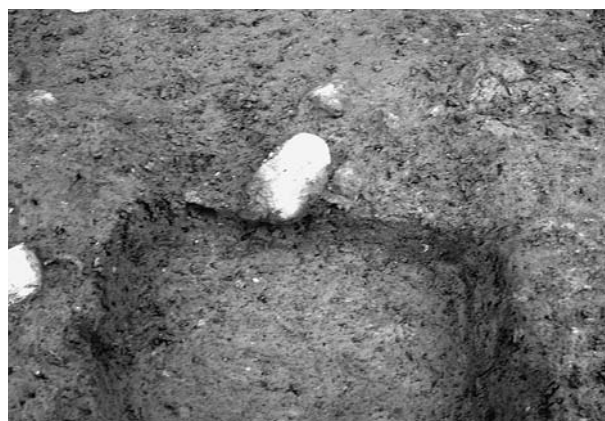
1. SD24 溝跡石組検出 (南東から)



2. SD24 溝跡断面 (南から)



3. SD34 溝跡完掘 (北から)



4. SD34 溝跡断面 (南から)



5. SD34 溝跡断面 (西から)



6. SD39 溝跡断面 (西から)



7. SD39 溝跡完掘 (東から)

図版 35 III区V層(6)



1. SD39 溝跡完掘全景 (北から)



2. SD40 溝跡完掘 (北から)



3. SD40 溝跡断面 (南から)

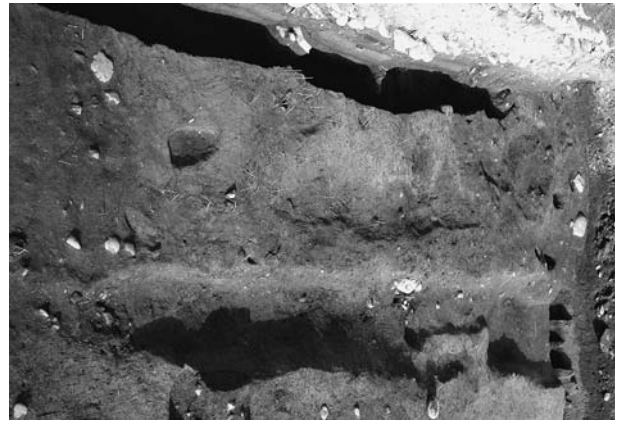


4. SD41 溝跡完掘 (西から)

図版 36 III区V層(7)



1. SD22・23・49 溝跡全景 (西から)



2. SD49 溝跡完掘 (南から)



3. SD49 溝跡石組検出 (南から)



4. SD54 溝跡完掘 (北から)



5. SD54 溝跡断面 (北から)



6. SD54 溝跡遺物出土状況 (北から)

図版 37 III区V層(8)



1. SD39・55 溝跡完掘 (東から)



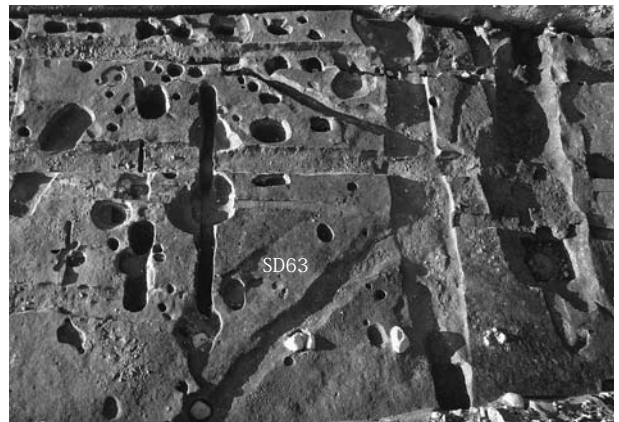
2. SD55 溝跡断面 (西から)



3. SD56 溝跡完掘 (東から)



4. SD56 溝跡断面 (南から)



5. SD63 溝跡全景 (南から)



6. SD63 溝跡完掘 (東から)



7. SD63 溝跡断面 (北から)

図版 38 III区V層(9)



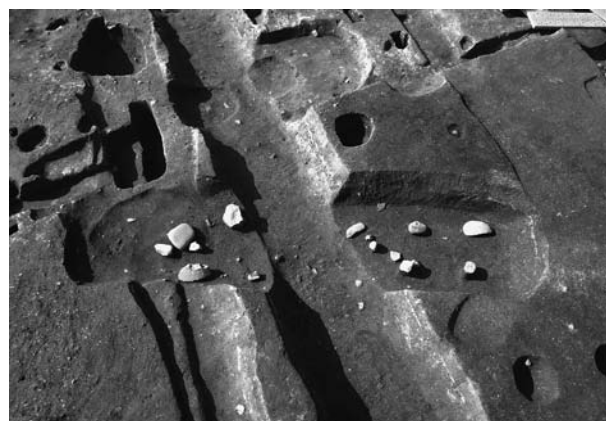
1. SD64 溝跡完掘 (北から)



2. SD64 溝跡断面 (西から)



3. SD65 溝跡完掘 (東から)



4. SD66 溝跡完掘 (東から)



5. SD66 溝跡断面 (東から)



6. SD66 溝跡断面 (東から)



7. SK12 土坑完掘 (西から)



8. SK12 土坑断面 (西から)

図版 39 III区V層 (10)



1. SK13 土坑完掘 (北西から)



2. SK13 土坑断面 (西から)



3. SK14 土坑完掘 (南から)



4. SK14 土坑断面 (南から)



5. SK18 土坑完掘 (東から)



6. SK18 土坑断面 (西から)



7. SK20 土坑完掘 (東から)

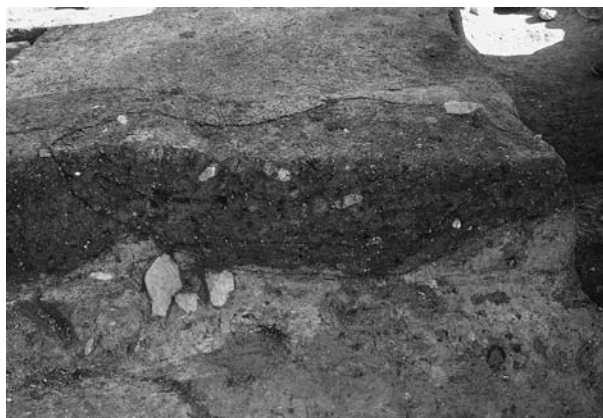


8. SK20 土坑断面 (東から)

図版 40 III区V層(11)



1. SK26 土坑完掘 (西から)



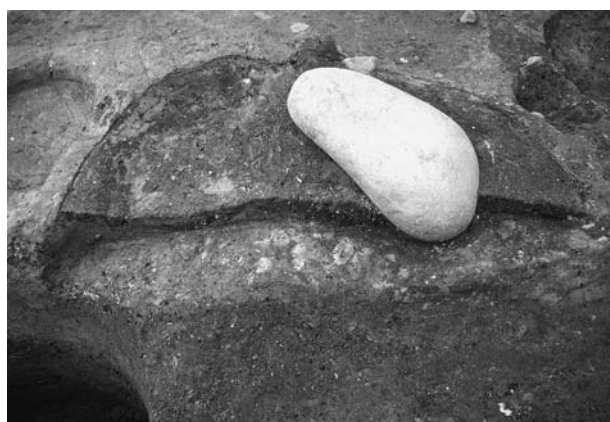
2. SK26 土坑断面 (西から)



3. SK42 土坑完掘・断面 (南から)



4. SK49 土坑完掘 (南から)



5. SK49 土坑断面 (南から)



6. SK50 土坑完掘 (北西から)

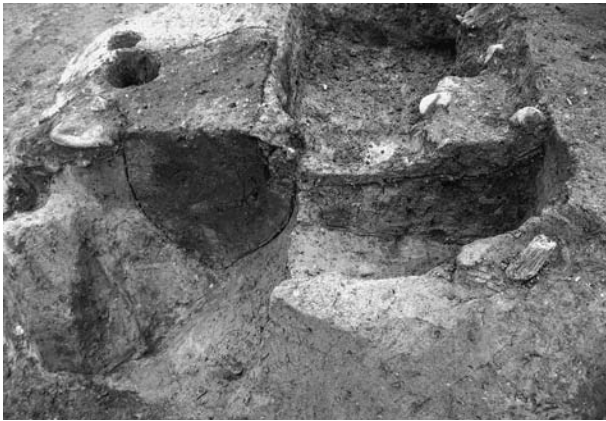


7. SK50 土坑断面 (北東から)



8. SK56・57 土坑完掘 (西から)

図版 41 III区V層 (12)



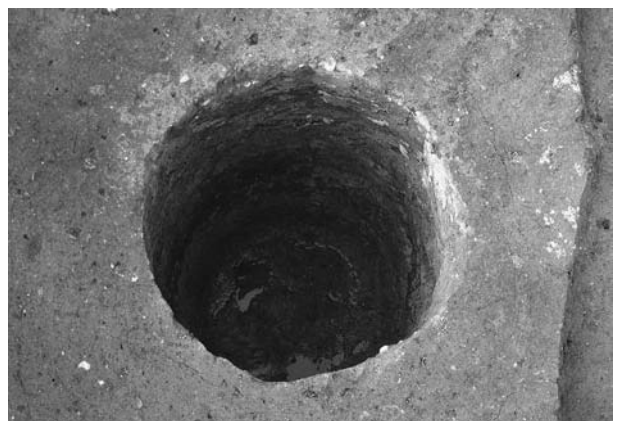
1. SK56・57 土坑断面 (西から)



2. SK58 土坑完掘・断面 (北から)



3. SK60 土坑完掘・断面 (南から)



4. SK62 土坑完掘 (南から)



5. SK62 土坑断面 (北から)



6. SK64 土坑完掘 (南から)



7. SX10 性格不明遺構完掘 (南東から)



8. SX10 性格不明遺構断面 (南から)

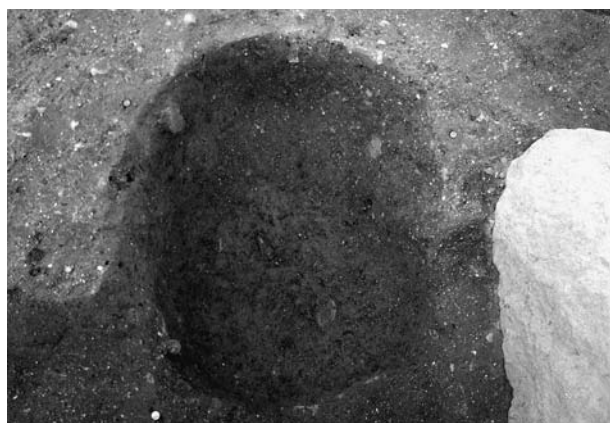
図版 42 III区V層 (13)



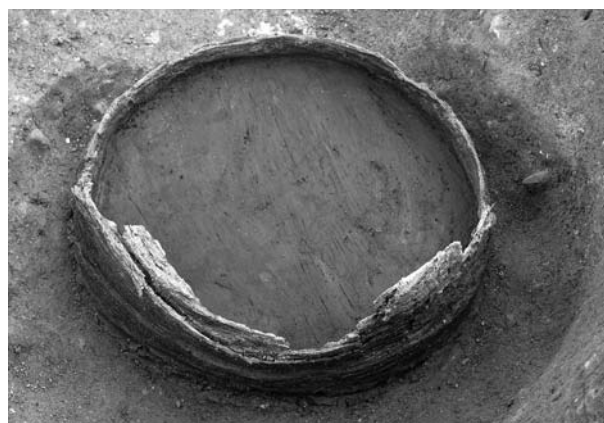
1. SX15 性格不明遺構完掘 (北西から)



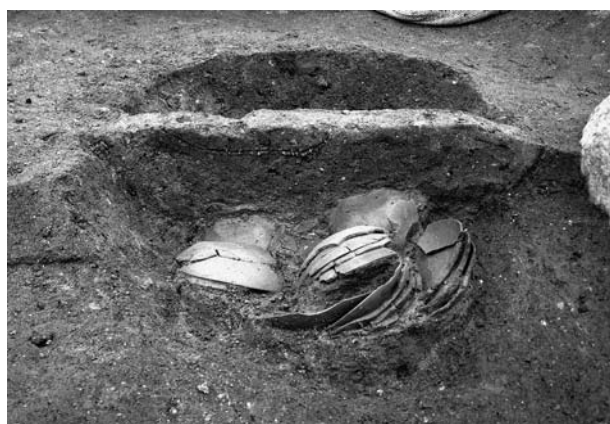
2. SK15 性格不明遺構断面 (東から)



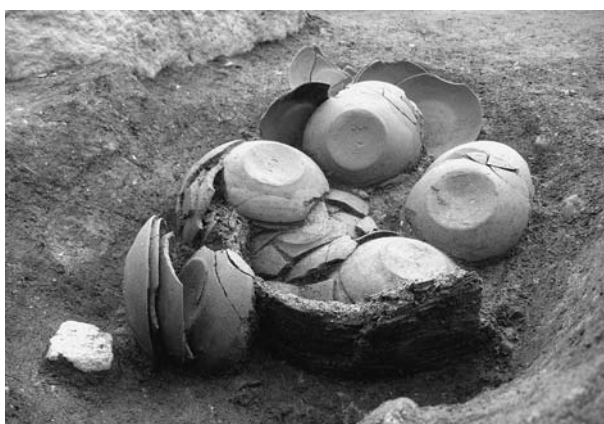
3. SN1 祭祀遺構掘り方完掘 (南から)



4. SN1 祭祀遺構桶内完掘 (北から)



5. SN1 祭祀遺構断面 (南から)



6. SN1 祭祀遺構遺物出土 (北から)



7. SN1 祭祀遺構遺物・桶出土 (南から)



8. SN1 祭祀遺構古銭出土 (西から)

図版 43 III区V層 (14)



1. SA2 柱列跡全景 (南から)



2. SA2 柱列跡 P1 断面 (南から)



3. SA2 柱列跡 P2 完掘 (南から)



4. SA2 柱列跡 P3 断面 (南から)



5. SA2 柱列跡 P4 礎板石出土 (南から)

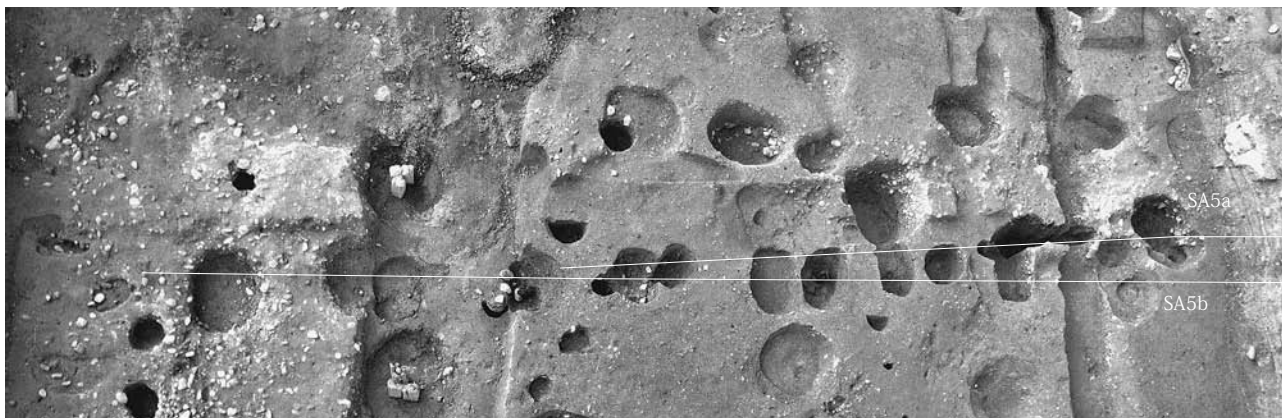


6. SA2 柱列跡 P5 断面 (南から)



7. SA2 柱列跡 P6・7 断面 (南から)

図版 44 III区IV層 (1)



1. SA5 柱列跡全景 (東から)



2. SA5a 柱列跡 P1 完掘 (南西から)



3. SA5a 柱列跡 P2 断面 (東から)



4. SA5a 柱列跡 P3 柱材検出 (南から)



5. SA5a 柱列跡 P4 断面 (東から)

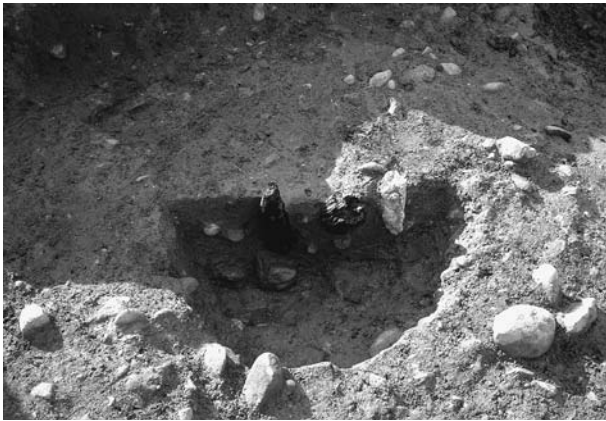


6. SA5a 柱列跡 P5 柱材検出 (西から)



7. SA5a 柱列跡 P6 断面 (東から)

図版 45 III区IV層(2)



1. SA5a 柱列跡 P7 断面 (東から)



2. SA5b 柱列跡 P1 断面 (南西から)



3. SA5b 柱列跡 P2 断面 (西から)



4. SA5b 柱列跡 P3 断面 (南西から)



5. SA5b 柱列跡 P4 断面 (南西から)



6. SA5b 柱列跡 P5 断面 (東から)



7. SA7 柱列跡完掘 (南から)

図版 46 III区IV層 (3)



1. SA7 柱列跡 P1 断面 (南から)



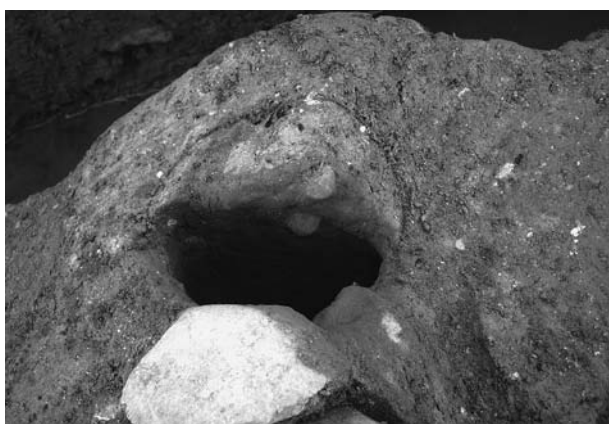
2. SA7 柱列跡 P2 断面 (南から)



3. SA7 柱列跡 P3 柱痕完掘 (南から)



4. SA7 柱列跡 P4 断面 (南から)



5. SA7 柱列跡 P5 断面 (南から)



6. SA7 柱列跡 P6 断面 (南から)



7. SA11 柱列跡完掘 (西から)



8. SA11 柱列跡 P1 断面 (南から)

図版 47 III区IV層(4)



1. SA11 柱列跡 P2 断面 (北から)



2. SA11 柱列跡 P3 断面 (北から)



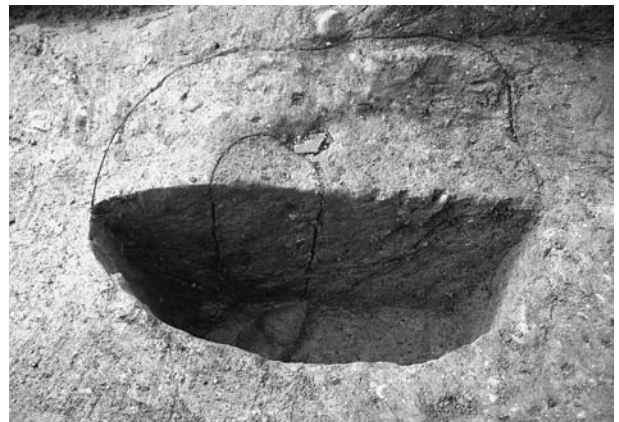
3. SA11 柱列跡 P5 断面 (東から)



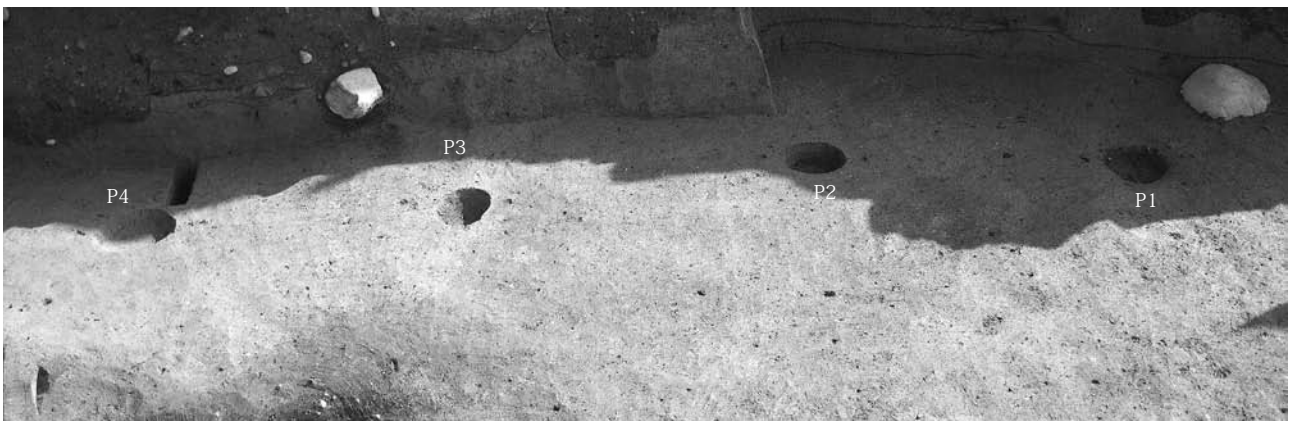
4. SA11 柱列跡 P6 断面 (東から)



5. SA11 柱列跡 P7 断面 (南から)

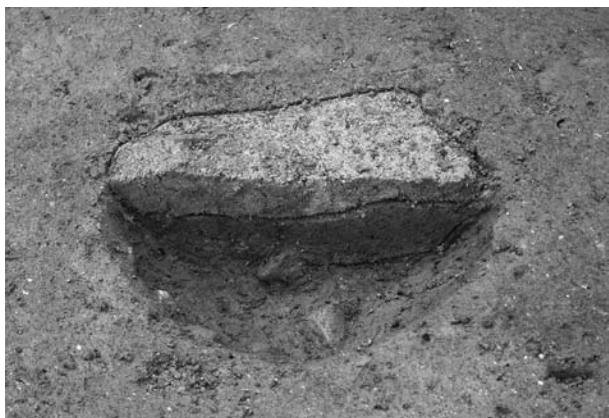


6. SA11 柱列跡 P8 断面 (東から)



7. SA12 柱列跡全景 (北から)

図版 48 III区IV層 (5)



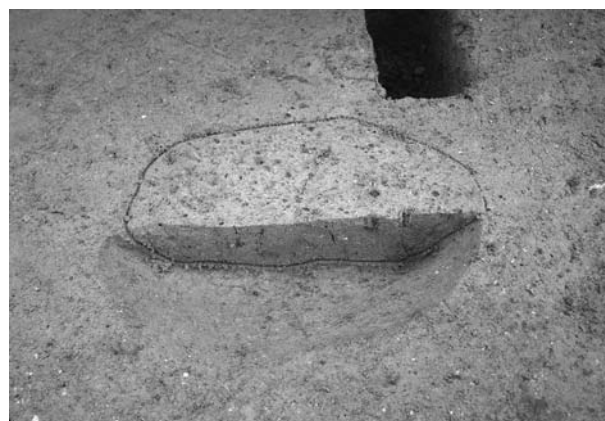
1. SA12 柱列跡 P1 断面 (北から)



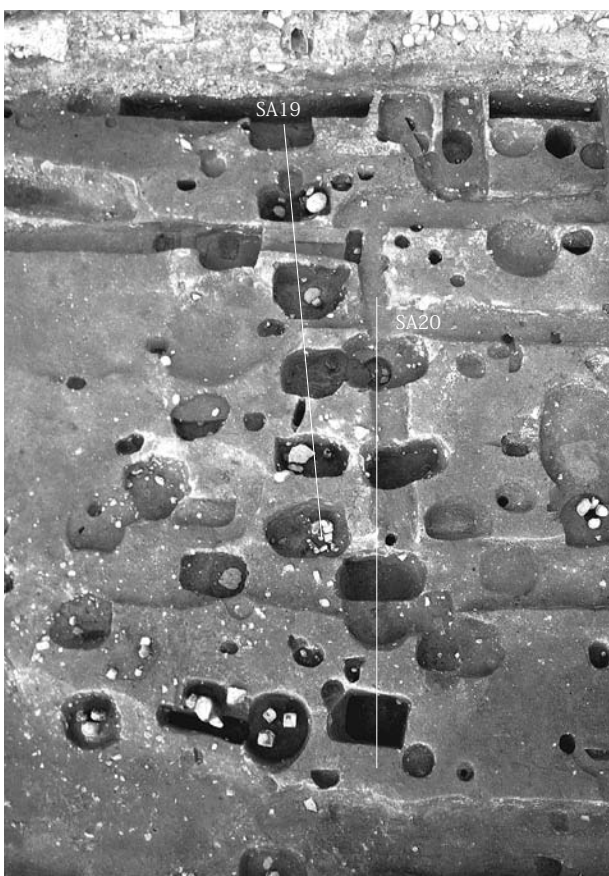
2. SA12 柱列跡 P2 断面 (北から)



3. SA12 柱列跡 P3 断面 (北から)



4. SA12 柱列跡 P4 断面 (北から)



5. SA19・20 柱列跡全景 (南から)



6. SA19 柱列跡 P1 完掘 (南から)



7. SA19 柱列跡 P2 断面 (南から)

図版 49 III区IV層 (6)



1. SA19 柱列跡 P3 完掘 (南から)



2. SA19 柱列跡 P4 断面 (東から)



3. SA19 柱列跡 P5 柱材検出 (南から)



4. SA19 柱列跡 P6 根固め石検出 (南から)



5. SA20 柱列跡 P1 断面 (南から)



6. SA20 柱列跡 P2 断面 (北から)



7. SA20 柱列跡 P3 柱材検出 (南から)



8. SA20 柱列跡 P4 断面 (南から)

図版 50 III区IV層 (7)



1. SA21 柱列跡 P1 柱材検出 (北から)



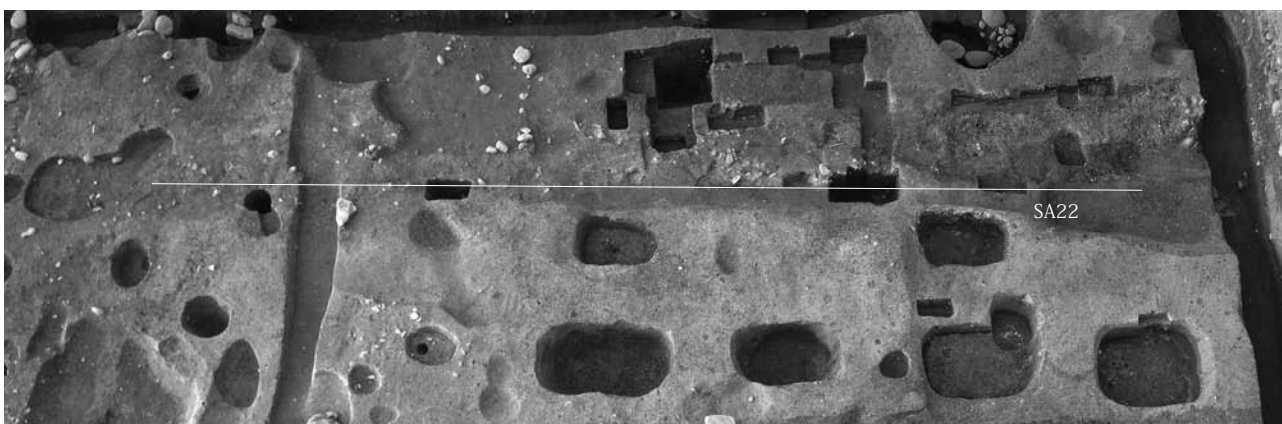
2. SA21 柱列跡 P2 柱材検出 (北から)



3. SA21 柱列跡 P3 礎板石出土 (北から)



4. SA21 柱列跡断面 (北から)



5. SA22 柱列跡全景 (南から)



6. SA22 柱列跡 P1 断面 (東から)



7. SA22 柱列跡 P5 断面 (北から)

図版 51 III区IV層(8)



1. SA23 柱列跡全景 (北から)



2. SA23 柱列跡 P1 断面 (南から)



3. SA23 柱列跡 P2 断面 (西から)



4. SA23 柱列跡 P3 断面 (東から)

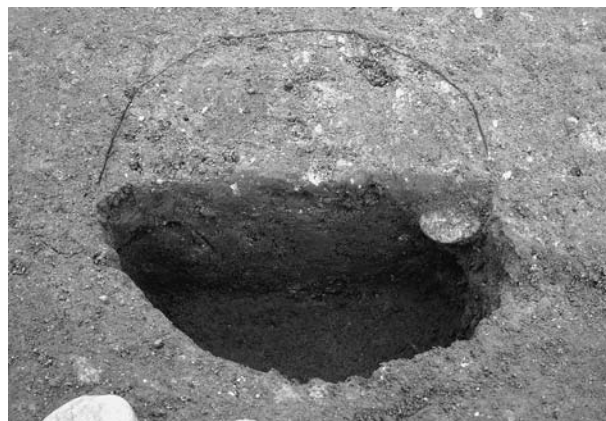


5. SA23 柱列跡 P4 断面 (東から)

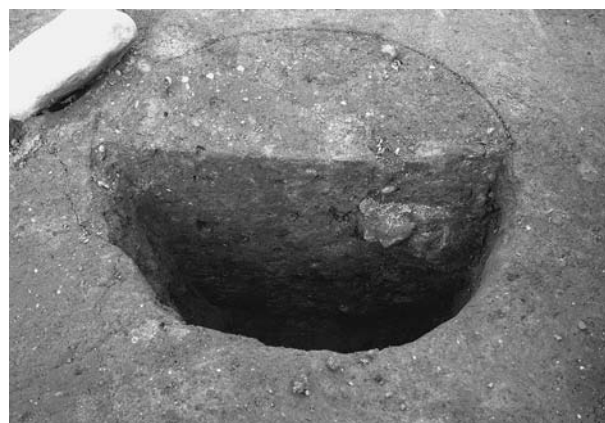
図版 52 III区IV層 (9)



1. SA24 柱列跡全景 (東から)



2. SA24 柱列跡 P1 断面 (南から)



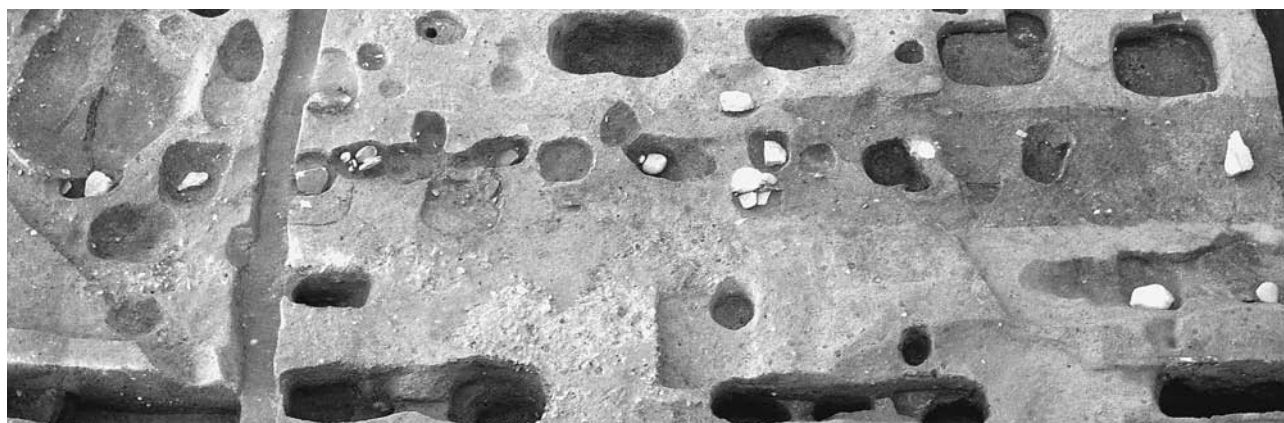
3. SA24 柱列跡 P2 断面 (南から)



4. SA24 柱列跡 P3 断面 (南から)



5. SA24 柱列跡 P6 断面 (東から)



6. SA25 柱列跡全景 (南から)

図版 53 III 区 IV 層 (10)



1. SA25 柱列跡全景 (東から)



2. SA25a 柱列跡 P1 礎板石出土 (西から)



3. SA25a 柱列跡 P2 完掘 (南から)



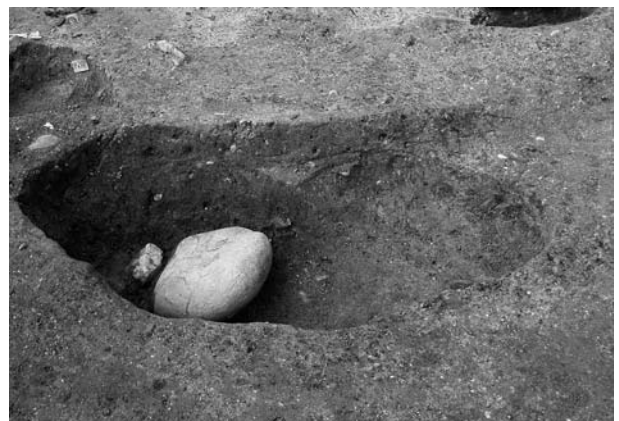
4. SA25a 柱列跡 P2 完掘 (西から)



5. SA25b 柱列跡 P1 完掘 (北から)



6. SA25b 柱列跡 P3 断面 (北から)



7. SA25b 柱列跡 P5 完掘 (南から)

図版 54 III区IV層 (11)



1. SA25b 柱列跡 P7 完掘 (西から)



2. SA25c 柱列跡 P1 断面 (北から)



3. SA25c 柱列跡 P2 断面 (南から)



4. SA25c 柱列跡 P2 完掘 (北から)



5. SA25c 柱列跡 P3 柱材検出 (東から)



6. SA25c 柱列跡 P4 完掘 (南から)



7. SA25c 柱列跡 P25 断面 (南から)



8. SA25c 柱列跡 P6 完掘 (南から)

図版 55 III区IV層 (12)



1. SA26 柱列跡全景 (北から)



2. SA26 柱列跡 P1 完掘 (南から)



3. SA26 柱列跡 P2 完掘 (北から)



4. SA26 柱列跡 P3 断面 (西から)



5. SA26 柱列跡 P4 完掘 (北から)



6. SA26 柱列跡 P5 瓦出土 (北から)



7. SA26 柱列跡 P6 完掘 (南から)



8. SA26 柱列跡 P7 完掘 (南から)

図版 56 III区IV層 (13)



1. SD5・6 溝跡完掘 (南西から)



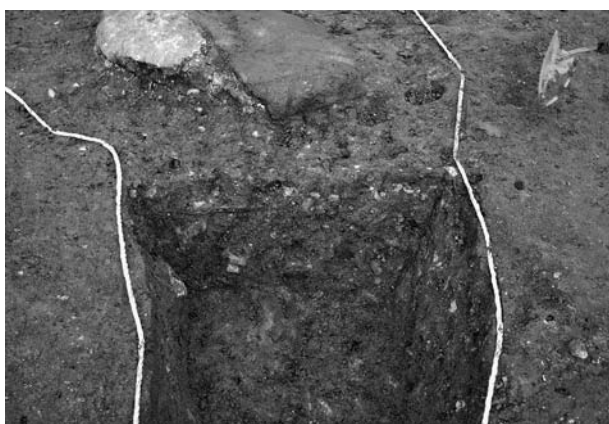
2. SD5 溝跡断面 (南から)



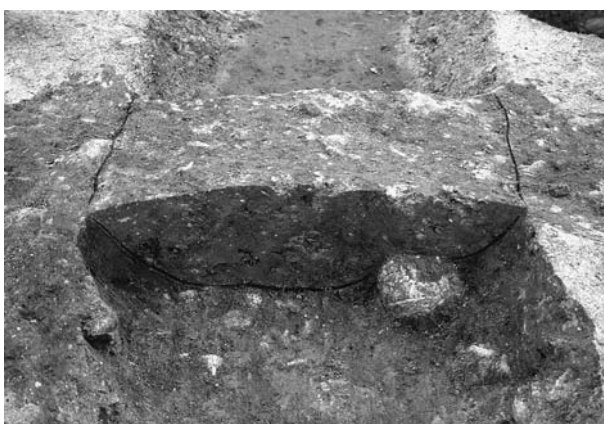
3. SD6 溝跡断面 (西から)



4. SD9 溝跡完掘 (西から)



5. SD9 溝跡断面 (西から)



6. SD9 溝跡断面 (南から)



7. SD12 溝跡完掘 (南から)



8. SD12 溝跡断面 (南から)

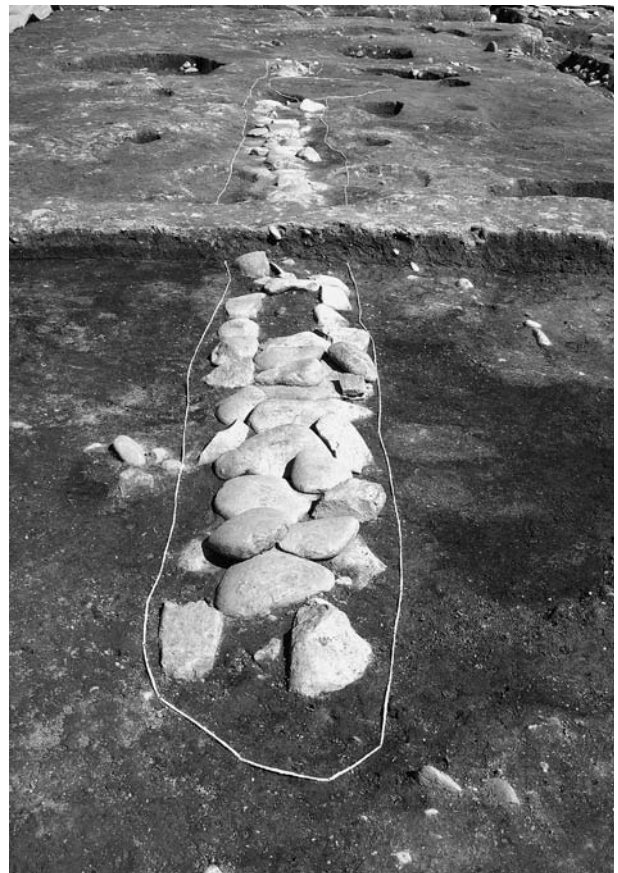
図版 57 III区IV層 (14)



1. SD12 溝跡掘り方完掘 (南から)

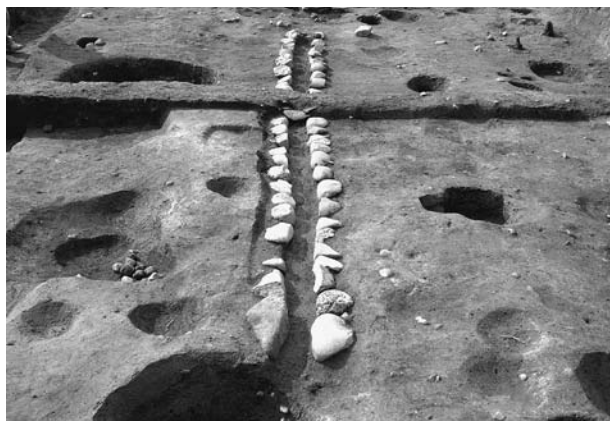


2. SD3・4・15 溝跡全景 (東から)



3. SD15 溝跡石組検出 (西から)

図版 58 III区IV層 (15)



1. SD15 溝跡完掘 (東から)



2. SD15 溝跡断面 (東から)



3. SD22・23 溝跡全景 (東から)



4. SD22 溝跡完掘 (東から)

図版 59 III区IV層 (16)



1. SD22 溝跡断面 (北から)



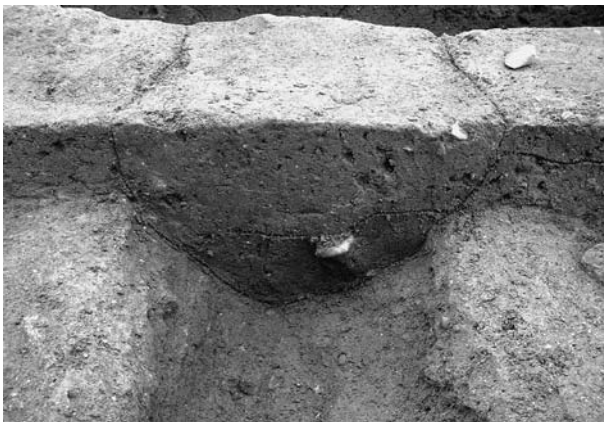
2. SD22 溝跡断面 (北から)



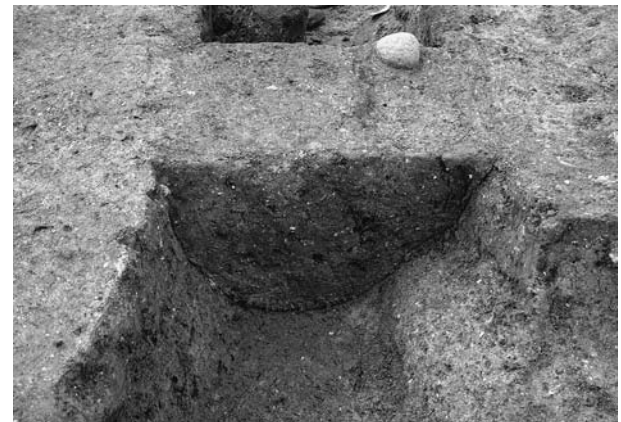
3. SD23 溝跡検出 (西から)



4. DS23 溝跡断面 (東から)



5. SD23 溝跡断面 (北から)



6. SD23 溝跡断面 (南から)



7. SD31 溝跡全景 (南から)



1. SD31 溝跡断面 (北東から)



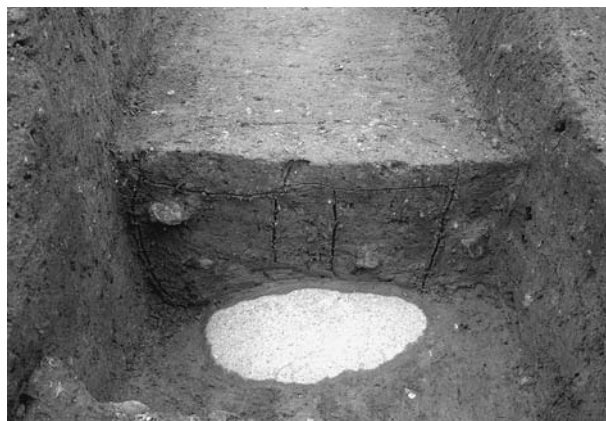
2. SD32 溝跡完掘 (西から)



3. SD32 溝跡全景 (東から)



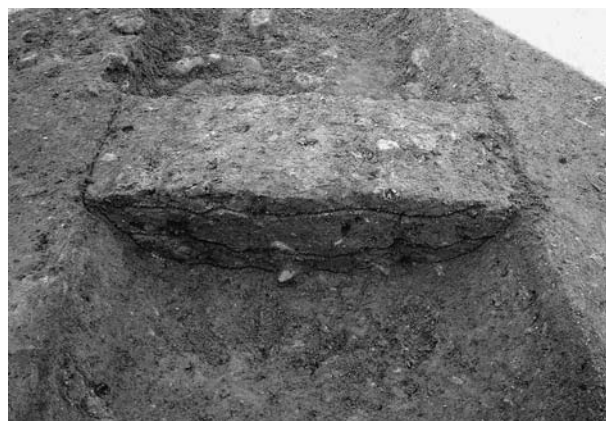
4. SD32 溝跡断面 (東から)



5. SD32 溝跡断面 (西から)



6. SD38 溝跡完掘 (北から)



7. SD38 溝跡断面 (南から)

図版 61 III区IV層 (18)



1. SD41・47 溝跡完掘 (北から)



2. SD47 溝跡断面 (東から)



3. SD47 溝跡遺物出土 (南から)



4. SD61 溝跡完掘 (南東から)



5. SD61 溝跡断面 (北から)



6. SD61 溝跡断面 (北から)



7. SE1 井戸跡杭検出 (東から)



8. SE1 井戸跡断面 (南から)

図版 62 III区IV層 (19)



1. SE1 井戸跡石組検出 (東から)



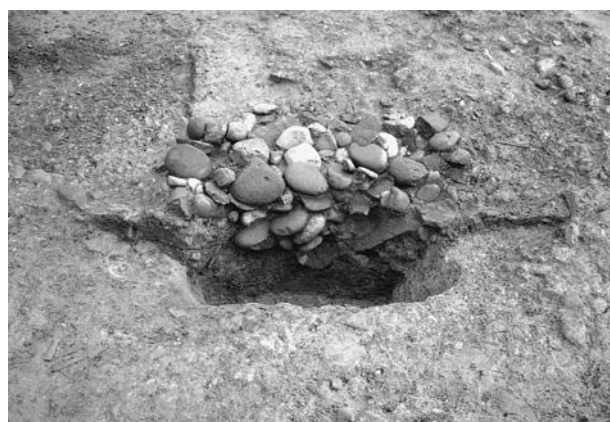
2. SE1 井戸跡石組検出 (東から)



3. SE1 井戸跡断面 (南から)



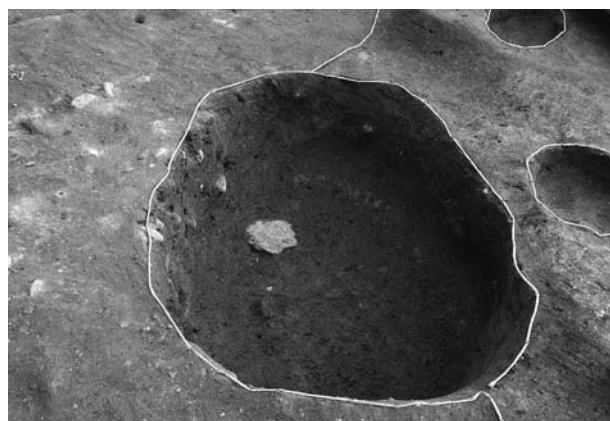
4. SE5 井戸跡完掘 (北から)



5. SE5 井戸跡断面 (西から)



6. SE5 井戸跡検出 (南から)

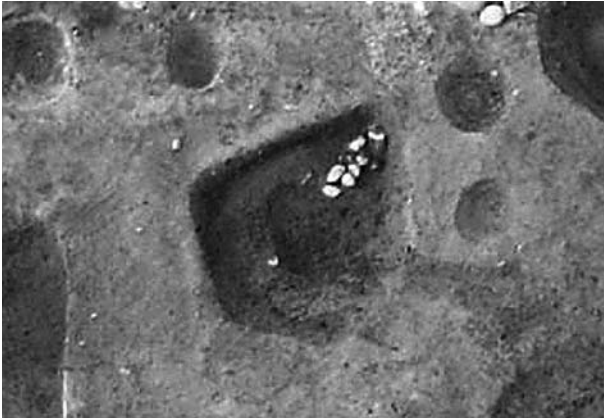


7. SK1 土坑完掘 (北から)



8. SK1 土坑断面 (北から)

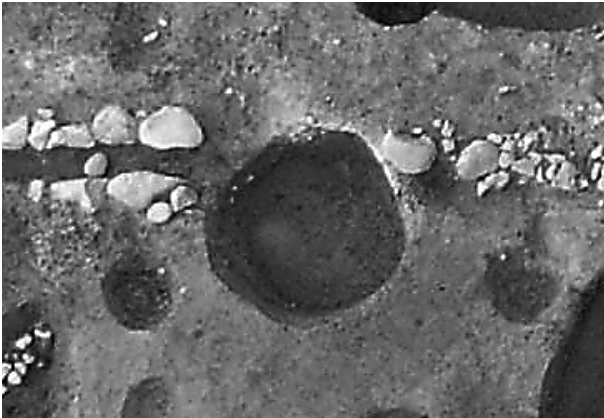
図版 63 III区IV層 (20)



1. SK6 土坑完掘 (南から)



2. SK6 土坑断面 (南から)



3. SK7 土坑完掘 (南から)



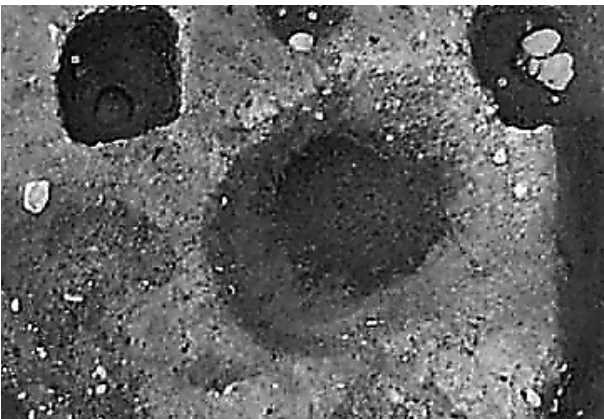
4. SK7 土坑断面 (南から)



5. SK8 土坑完掘 (西から)



6. SK8 土坑断面 (西から)



7. SK9 土坑完掘 (南から)



8. SK9 土坑断面 (西から)

図版 64 III区IV層 (21)



1. SK10 土坑完掘 (東から)



2. SK10 土坑断面 (東から)



3. SK16 土坑完掘 (南西から)



4. SK16 土坑断面 (南から)



5. SK17 土坑完掘 (南から)



6. SK17 土坑断面 (南から)

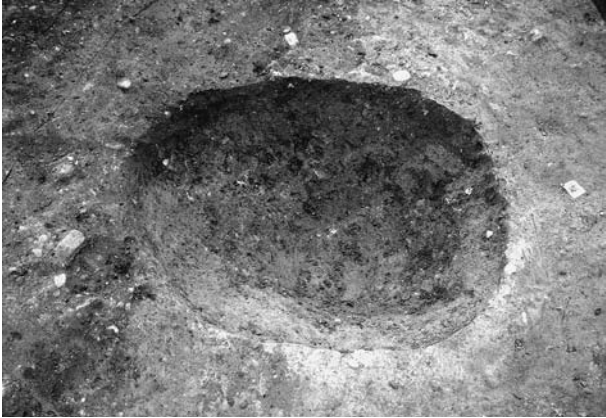


7. SK19 土坑完掘 (南から)



8. SK19 土坑断面 (東から)

図版 65 III区IV層 (22)



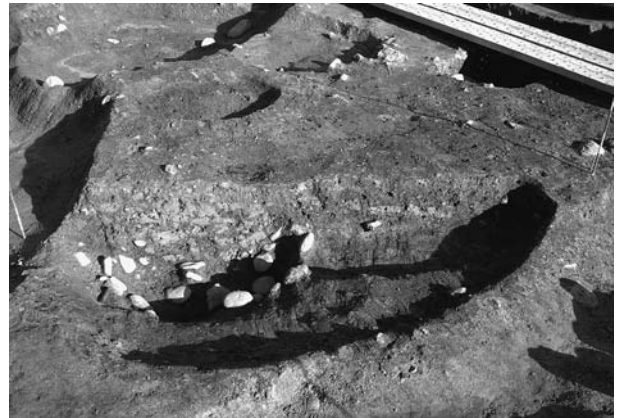
1. SK25 土坑完掘 (東から)



2. SK25 土坑断面 (東から)



3. SK27 土坑完掘 (南から)



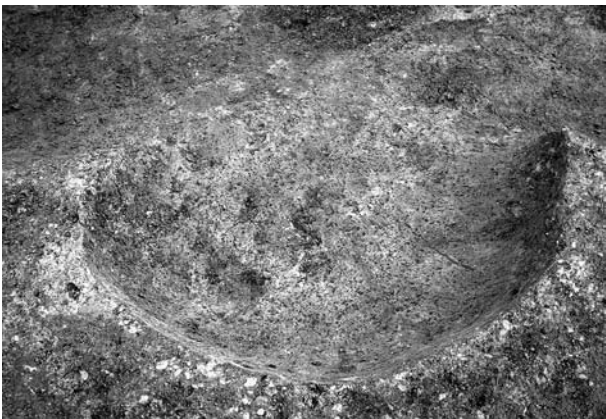
4. SK27 土坑断面 (南から)



5. SK28 土坑完掘 (東から)



6. SK28 土坑断面 (東から)



7. SK31 土坑完掘 (北から)



8. SK31 土坑断面 (北から)

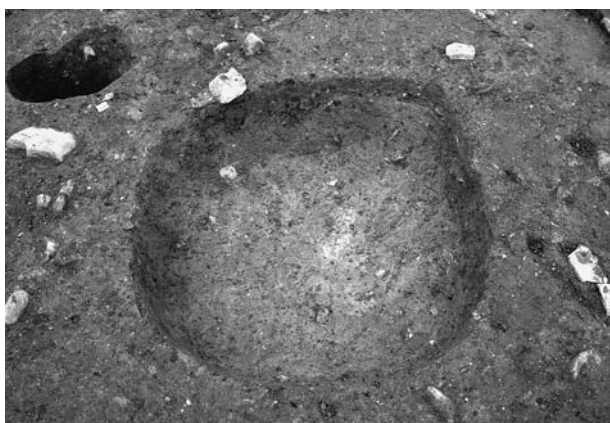
図版 66 III区IV層 (23)



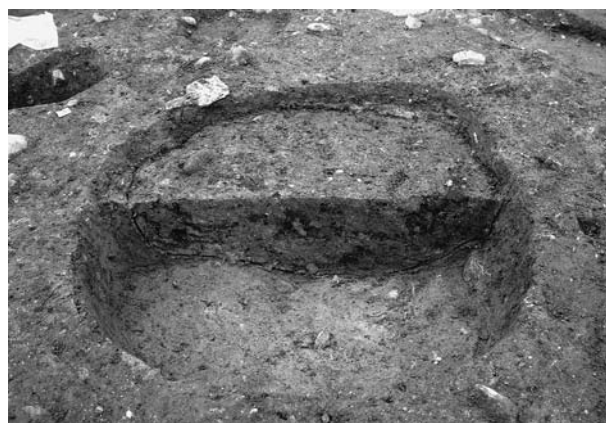
1. SK32 土坑完掘 (南から)



2. SK32 土坑断面 (南から)



3. SK37 土坑完掘 (南東から)



4. SK37 土坑断面 (南東から)



5. SK47 土坑完掘 (南から)



6. SK47 土坑断面 (西から)

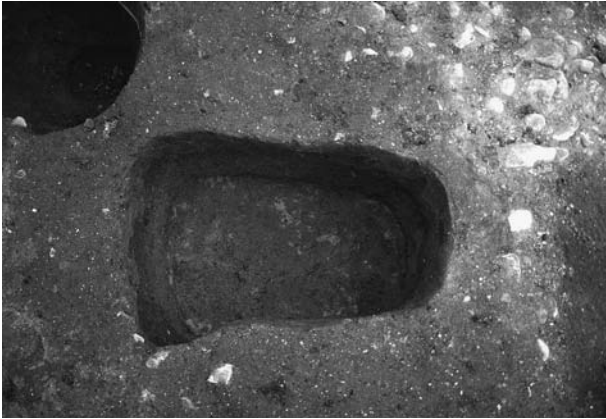


7. SK59 土坑完掘 (西から)



8. SK59 土坑断面 (西から)

図版 67 III区IV層 (24)



1. SK69 土坑完掘 (南から)



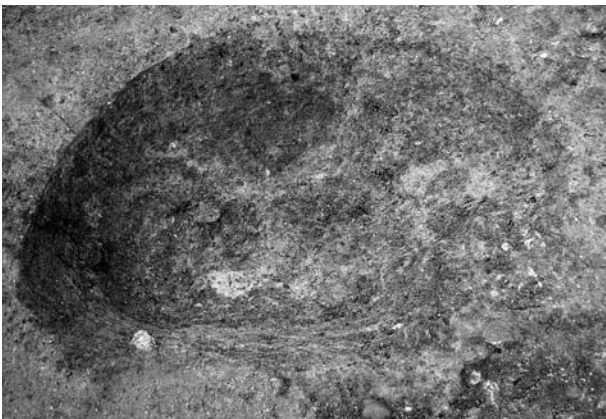
2. SK69 土坑断面 (南から)



3. SK70 土坑完掘 (東から)



4. SK70 土坑断面 (東から)



5. SK71 土坑完掘 (南から)



6. SK71 土坑断面 (南から)

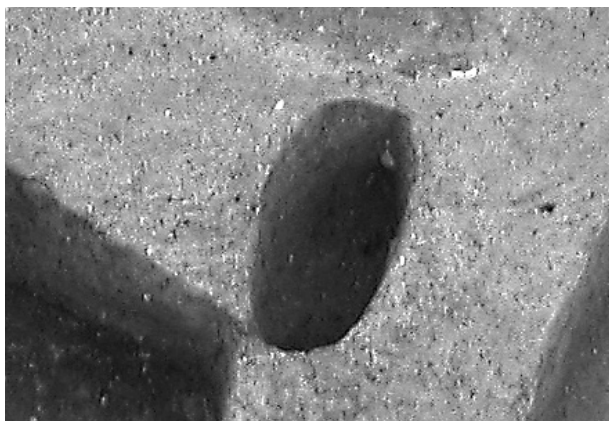


7. SK72 土坑完掘 (南から)

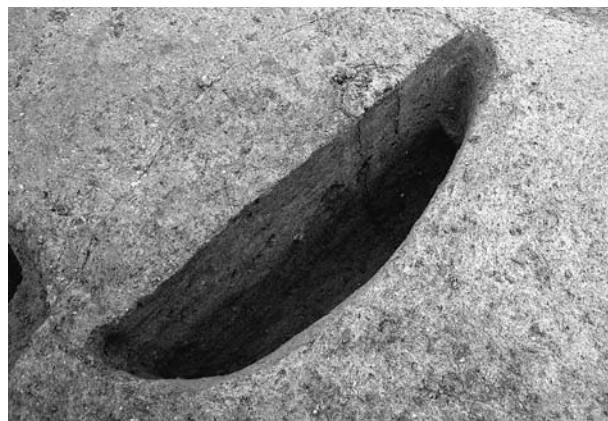


8. SK72 土坑断面 (東から)

図版 68 III区IV層 (25)



1. SK73 土坑完掘 (東から)



2. SK73 土坑断面 (東から)



3. SK74 土坑完掘 (南から)



4. SK74 土坑断面 (東から)



5. SK78 土坑完掘 (北から)



6. SK81 土坑完掘 (東から)



7. SK81 土坑断面 (南から)



8. SK82 土坑断面 (北から)

図版 69 III区IV層 (26)



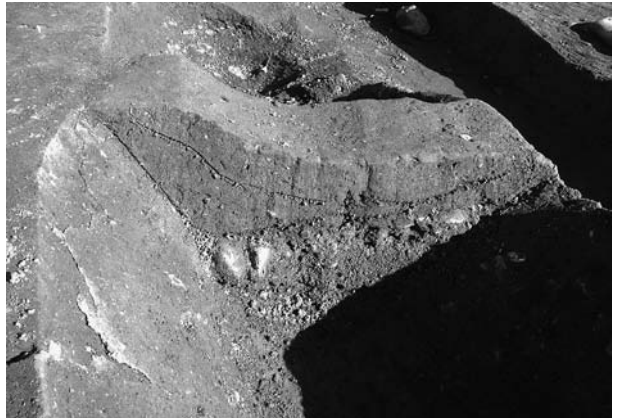
1. SK84 土坑完掘 (北から)



2. SK84 土坑断面 (北から)



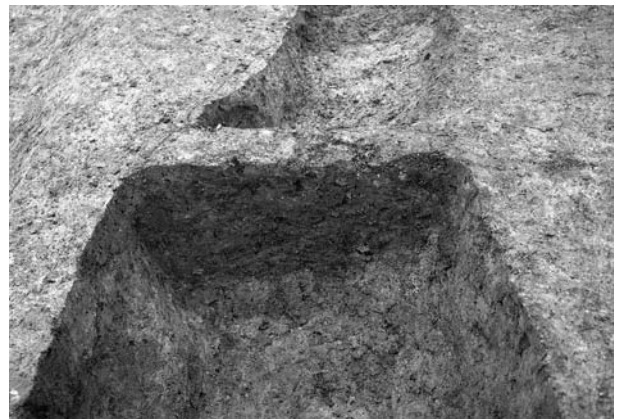
3. SX8 性格不明遺構完掘 (東から)



4. SX8 性格不明遺構断面 (西から)



5. SX20 性格不明遺構完掘 (東から)



6. SX20 性格不明遺構断面 (東から)



7. 5号池断面 (南から)

図版 70 III区IV層 (27)



1. 5号池全景 (南西から)



2. 5号池完掘 (南西から)



3. 5号池構築粘土断面 (北から)



4. 5号池遺物出土 (西から)



5. 5号池遺物出土 (西から)

図版 71 III区IV層 (28)



1. SA8 柱列跡 P1 断面 (南から)



2. SA8 柱列跡 P2 断面 (東から)



3. SD3 溝跡石蓋検出 (東から)



4. SD3 溝跡石組検出 (東から)



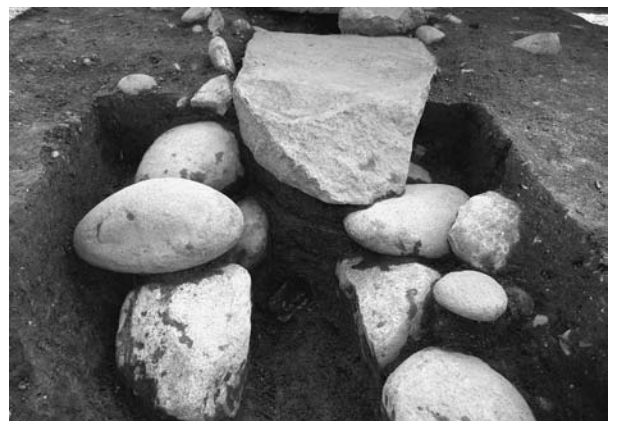
5. SD3 溝跡完掘 (西から)



6. SD3 溝跡断面 (東から)



7. SD3 溝跡断面 (西から)

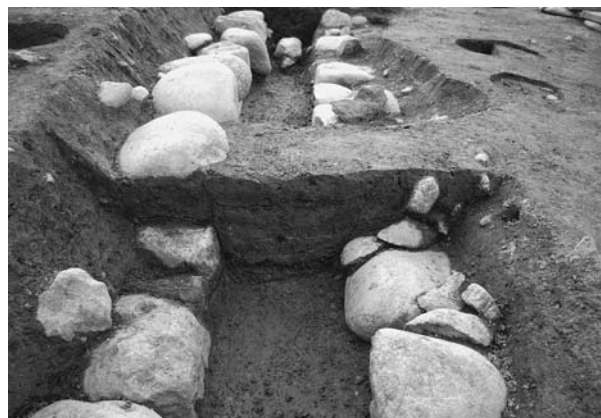


8. SD3 溝跡断面 (東から)

図版 72 III区III層 (1)



1. SD4 溝跡石組検出 (西から)



2. SD4 溝跡断面 (東から)

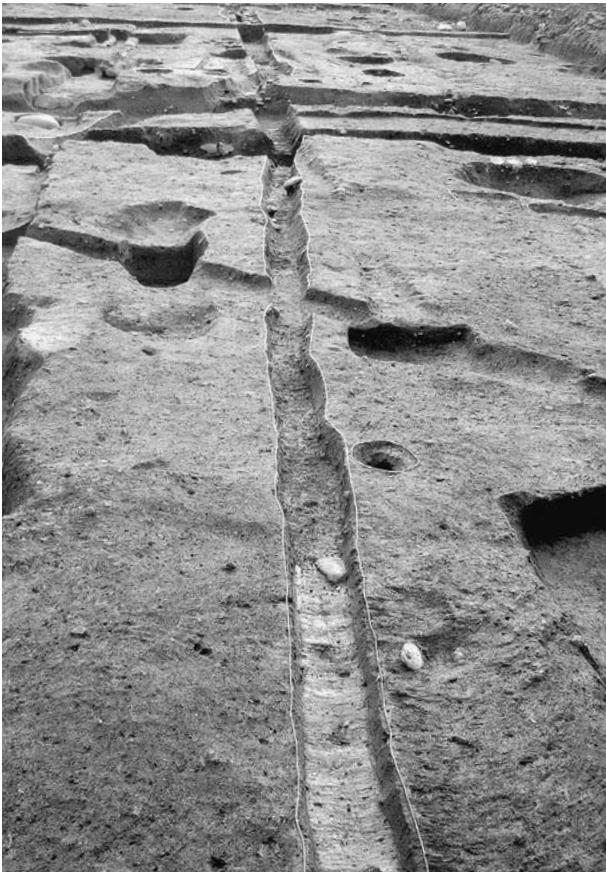


3. SD4 溝跡断面 (南から)



4. SD4 溝跡・6号池全景 (南から)

図版 73 III区III層 (2)



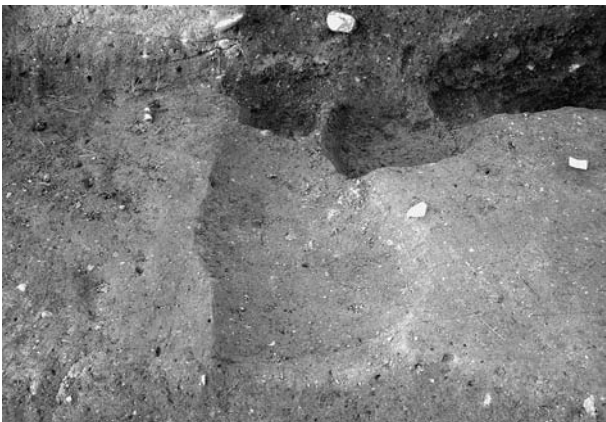
1. SD10 溝跡完掘 (東から)



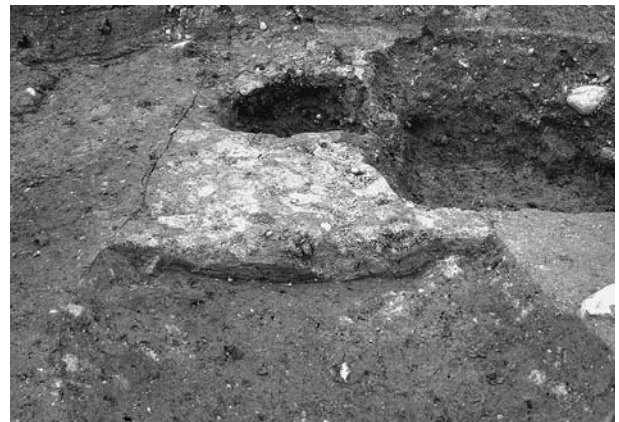
2. SD10 溝跡断面 (東から)



3. SD10 溝跡断面 (東から)



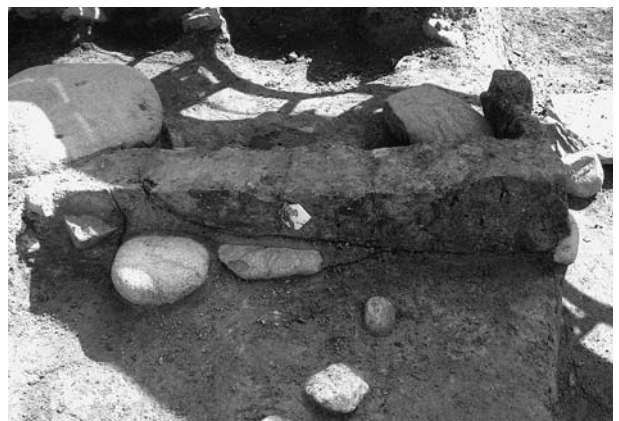
4. SD30 溝跡完掘 (南から)



5. SD30 溝跡断面 (南から)



6. SD14 溝跡断面 (南から)



7. SD14 溝跡断面 (北から)

図版 74 III区III層 (3)



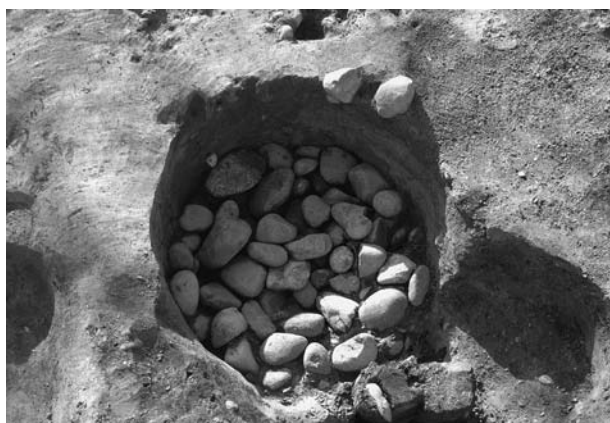
1. SD14 溝跡石組検出 (西から)



2. SE2 井戸跡完掘 (南から)



3. SE2 井戸跡断面 (東から)

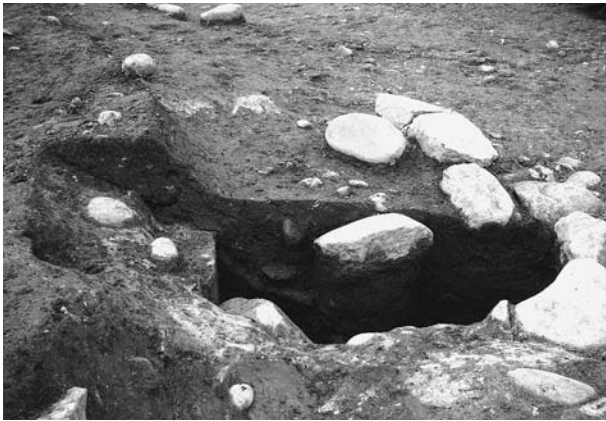


4. SE2 井戸跡礫検出 (東から)



5. SE3 井戸跡完掘 (南から)

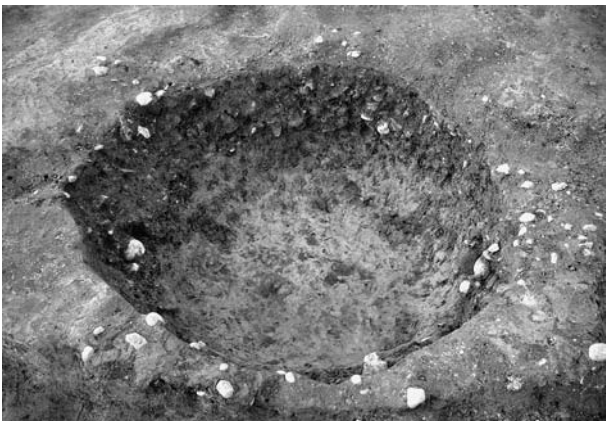
図版 75 III区III層(4)



1. SE3 井戸跡断面 (南から)



2. SE3 井戸跡石組検出 (南から)



3. SE4 井戸跡完掘 (南から)



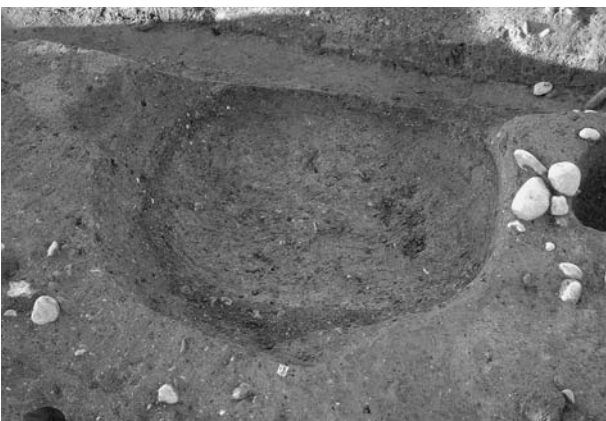
4. SE4 井戸跡断面 (南から)



5. SK33 土坑完掘 (東から)



6. SK33 土坑断面 (東から)



7. SK44 土坑完掘 (東から)



8. SK44 土坑断面 (南から)

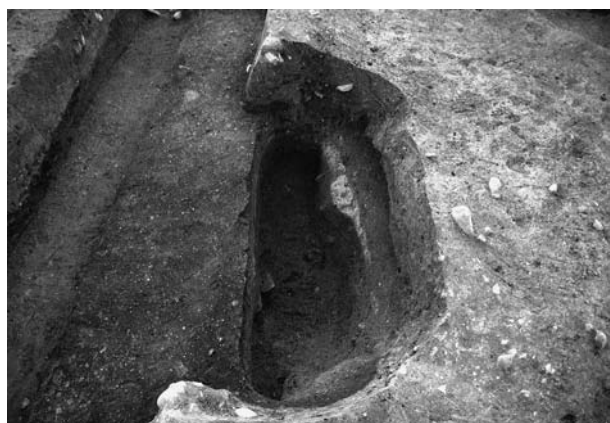
図版 76 III区III層(5)



1. SK63 土坑完掘 (南から)



2. SK63 土坑断面 (西から)



3. SK68 土坑完掘 (東から)



4. SK68 土坑断面 (南から)



5. P2 完掘 (東から)



6. P2 断面 (南から)

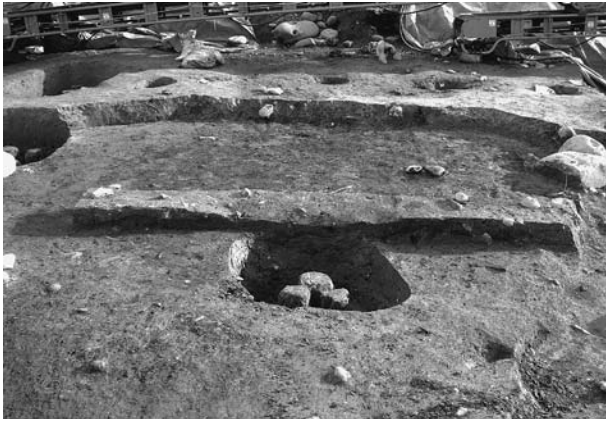


7. SX3 性格不明遺構 (硬化面) 検出 (西から)



8. SX3 性格不明遺構完掘 (東から)

図版 77 III区III層(6)



1. SX3 性格不明遺構断面 (北から)



2. SX3 性格不明遺構断面 (東から)



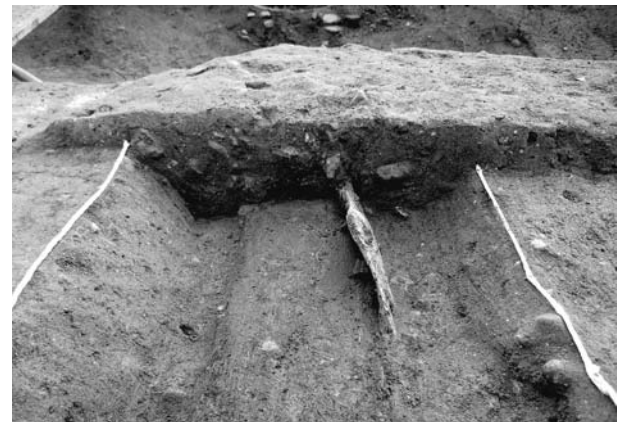
3. SX6 性格不明遺構完掘 (南から)



4. SX6 性格不明遺構断面 (東から)



5. 4号木樋完掘 (南西から)



6. 4号木樋断面 (東から)



7. 4号木樋調査区南壁断面 (北から)

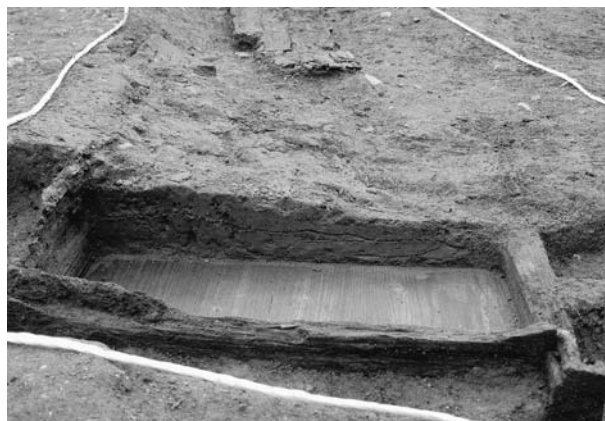


8. 4号木樋検出 (北から)

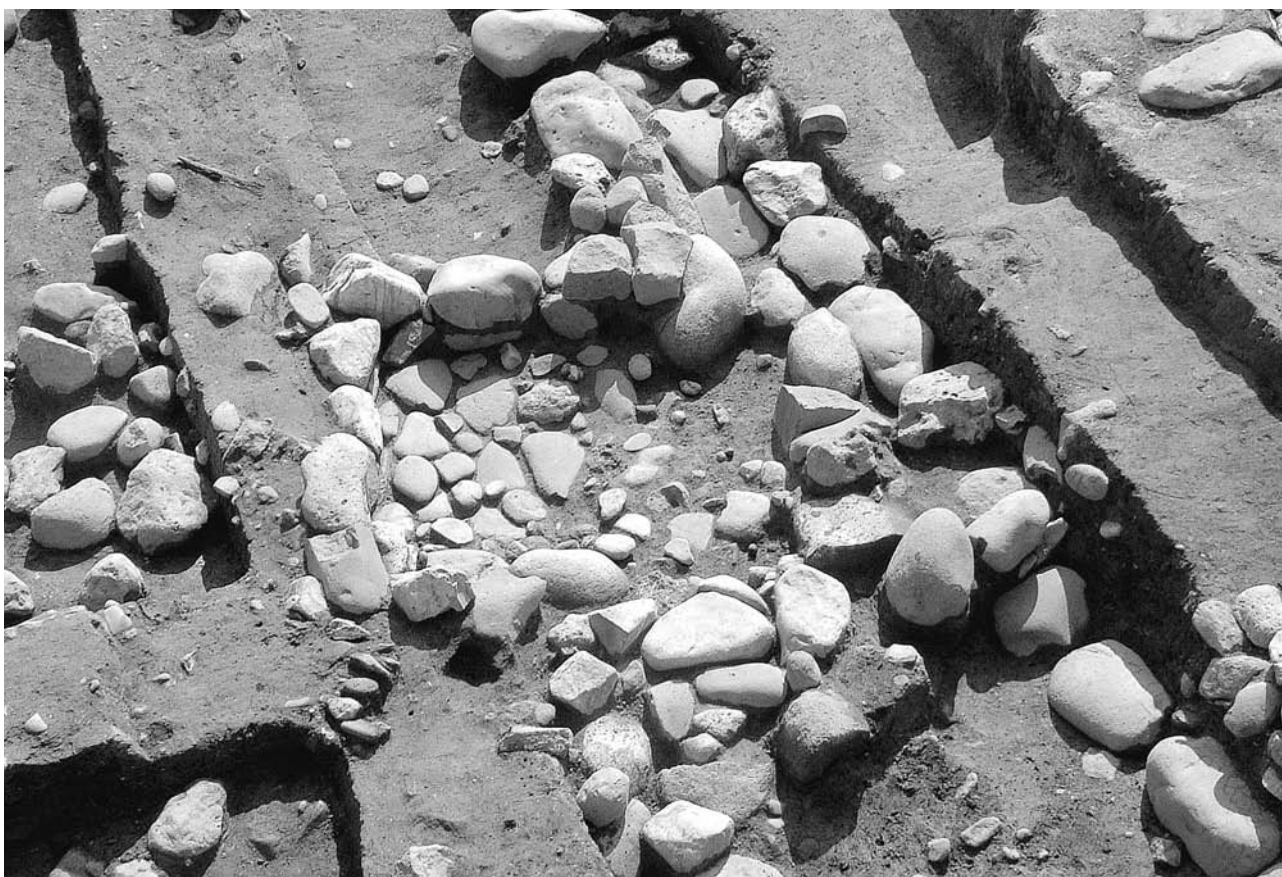
図版 78 III区III層(7)



1. 4号木樋 桁検出 (北から)



2. 4号木樋 桁断面 (北東から)



3. 2号枡状遺構検出 (北から)



4. 2号枡状遺構断面 (西から)



5. 2号枡状遺構堀り方完掘 (北から)

図版 79 III区III層 (8)



1. 1号池全景 (南東から)



2. 1号池遺物出土 (西から)



3. 1号池断面 (北から)



4. 2号池完掘 (南東から)



5. 2号池断面 (南から)

図版 80 III区III層 (9)



1. 2号池玉石検出 (西から)

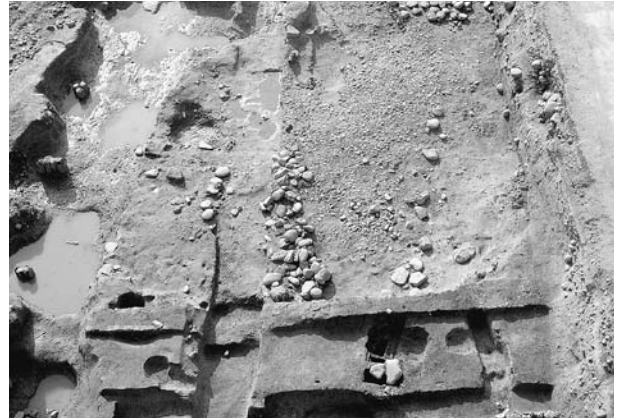


2. 4号池・2号木樋全景 (北から)

図版 81 III区III層 (10)



1. 4号池断面 (西から)



2. 4号池玉石検出 (東から)



3. 4号池遺物出土 (猪型土製品) (北から)



4. 4号池遺物出土 (犬型土製品) (東から)



5. 4号池遺物出土 (舟形木製品) (北から)



6. 2号木樋・枅検出 (南から)



7. 2号木樋断面 (西から)



8. 2号木樋 枅断面 (東から)

図版 82 III区III層 (11)



1. 6号池・3号木樋全景（北から）



2. 6号池断面（東から）



3. 6号池断面（東から）

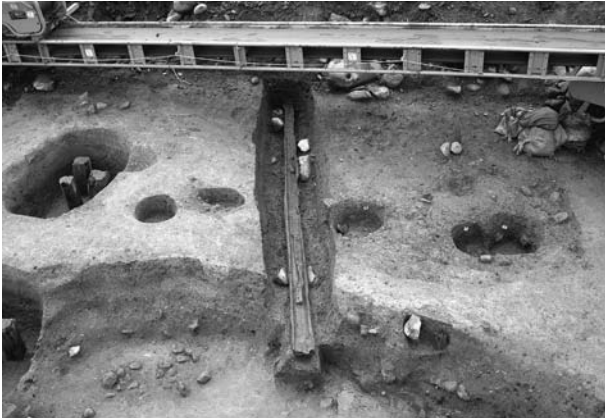


4. 6号池遺物出土（北西から）

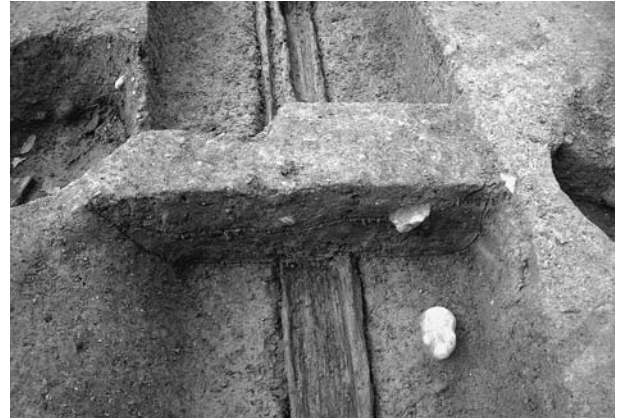


5. 6号池遺物出土（北から）

図版 83 III区III層(12)



1. 3号木樋検出 (北から)



2. 3号木樋断面 (南から)



3. 縄文土器出土 (東から)



4. 縄文土器出土 (南から)



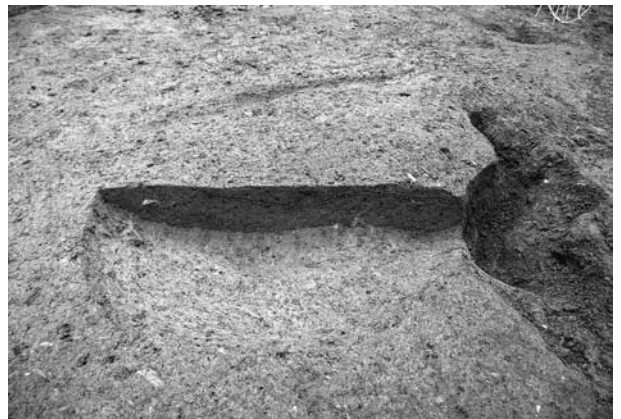
5. SK89 土坑完掘 (西から)



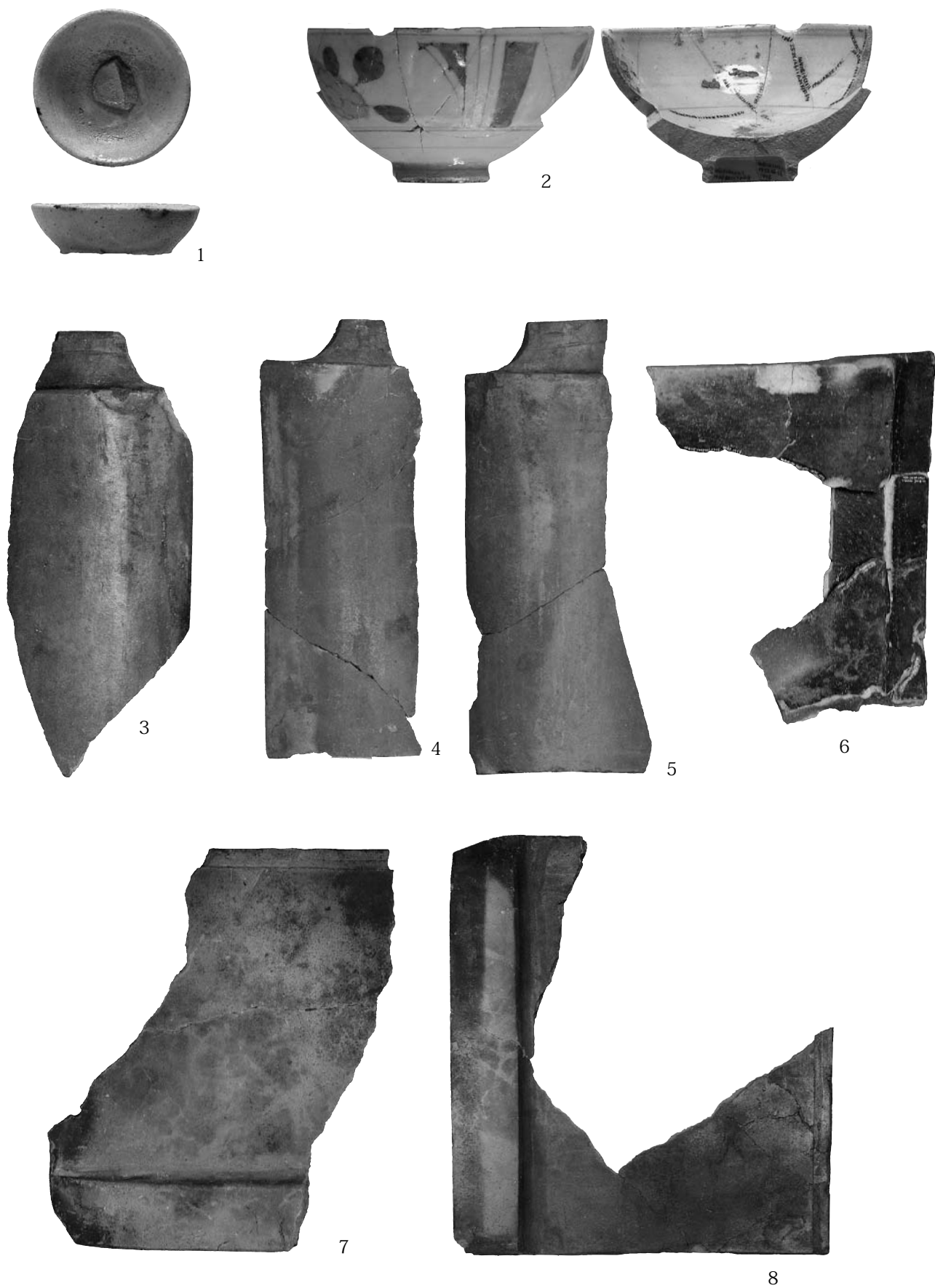
6. SK89 土坑断面 (西から)



7. SX30 性格不明遺構完掘 (東から)



8. SX30 性格不明遺構断面 (東から)

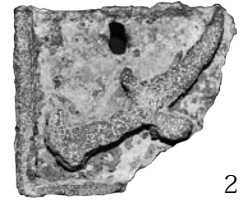


SK55

图版 85 I 区出土遗物



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



12



13

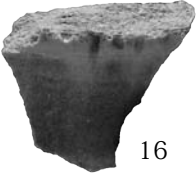


14

SK55



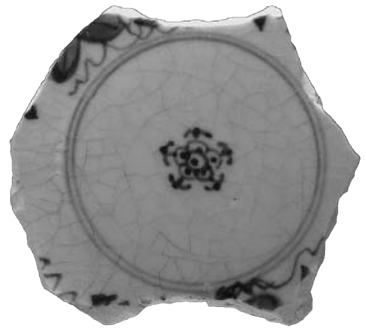
15



16



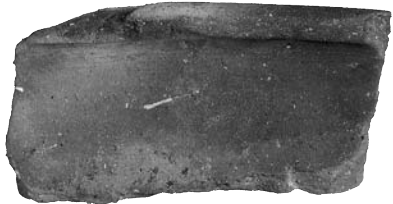
17



18



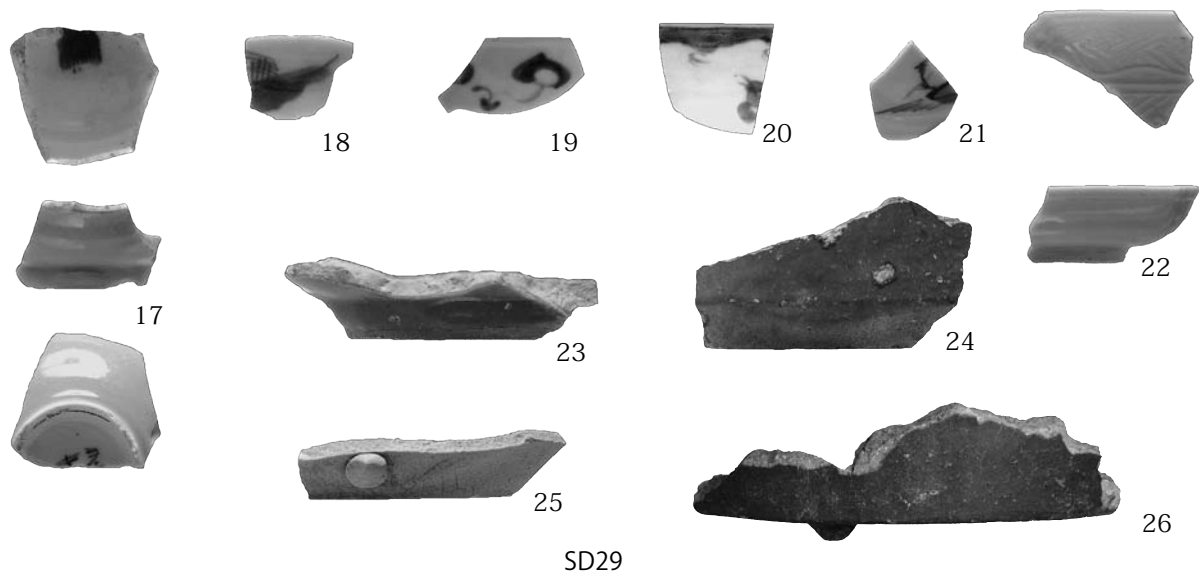
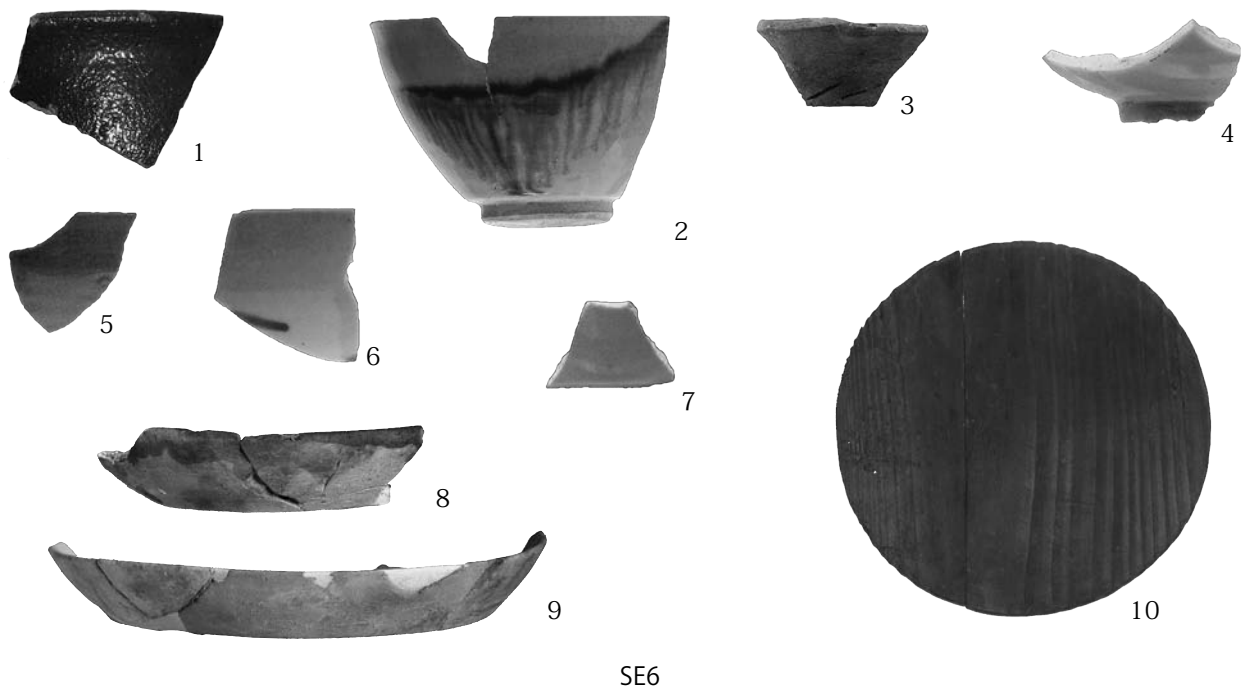
19



20

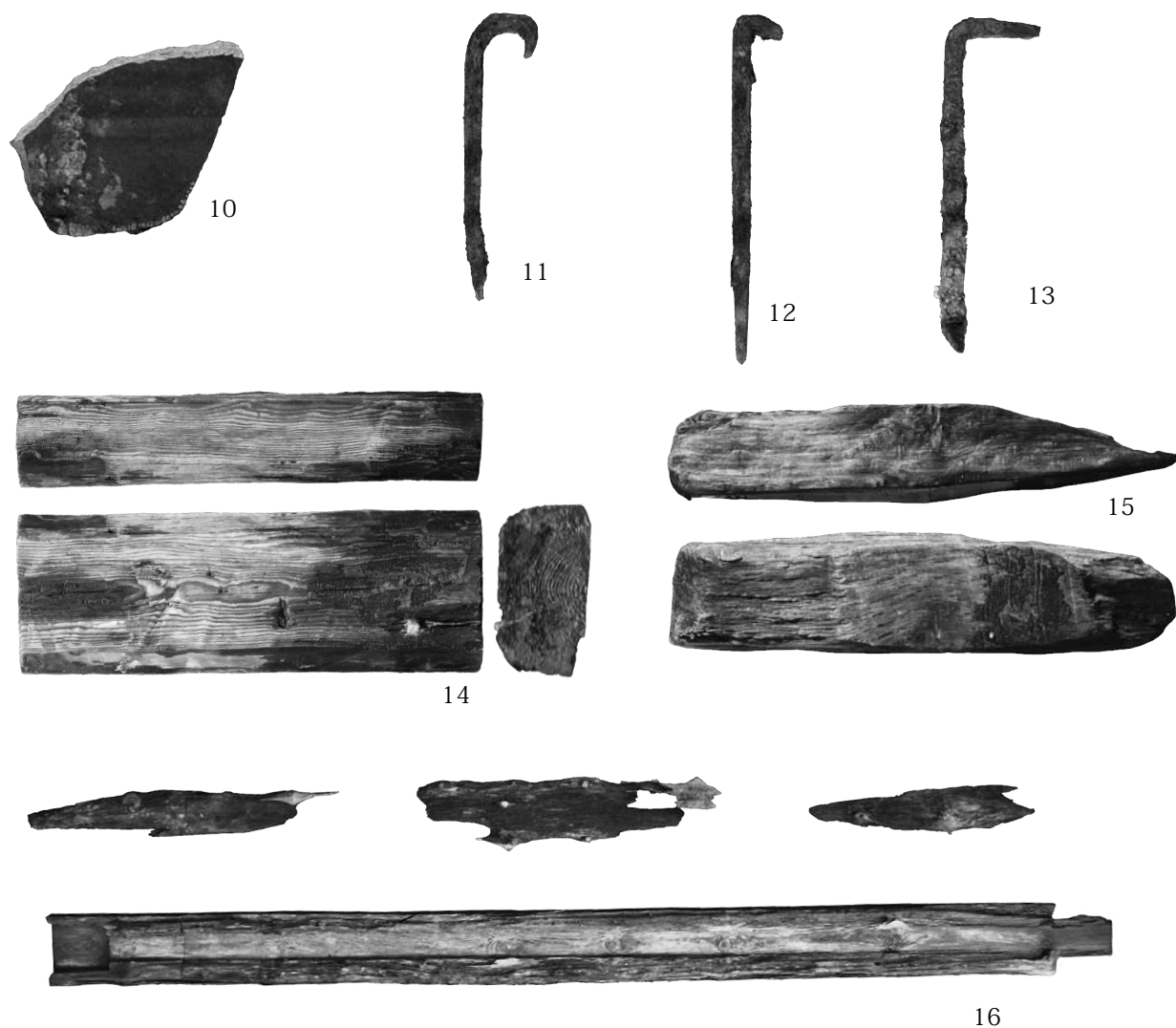
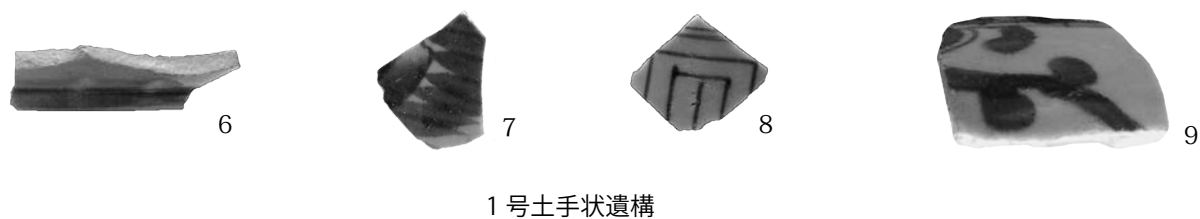
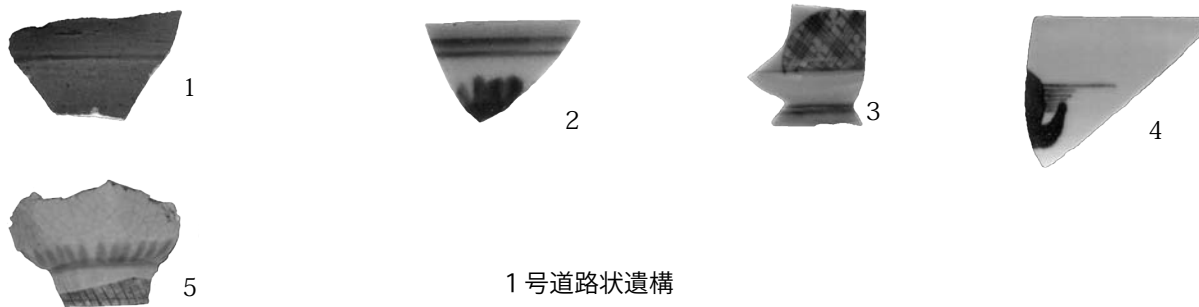
SD51

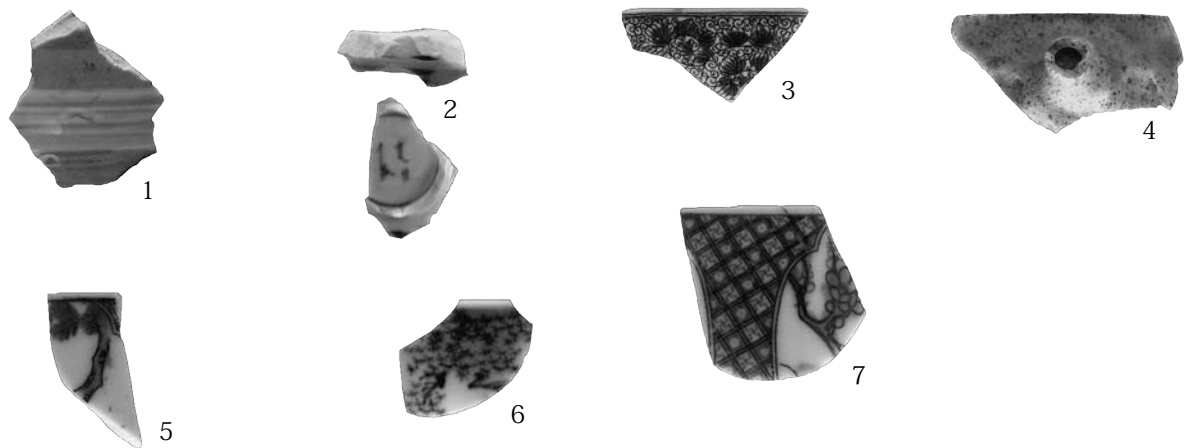
図版 86 I 区出土遺物



图版 87 I 区出土遺物

出土遺物写真

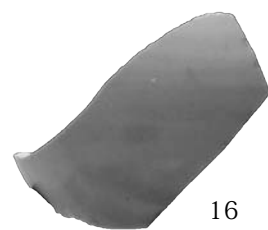
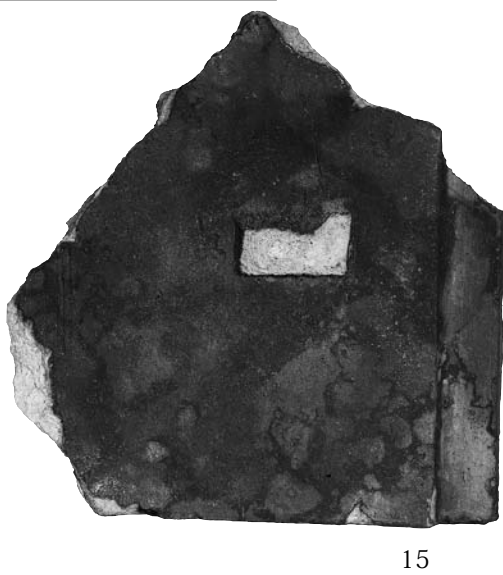
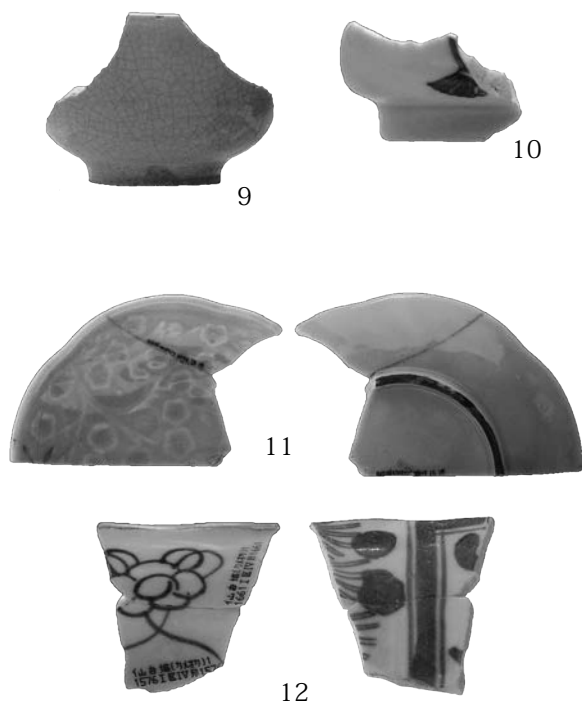




2号石垣

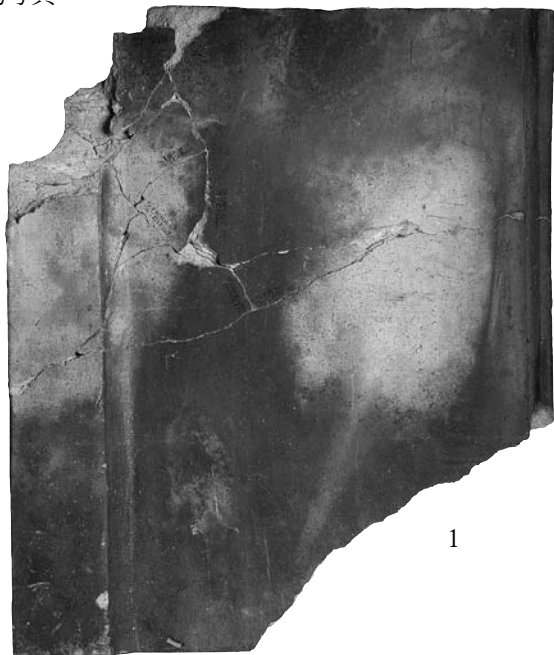


1号埋甕



IV層

图版 89 I区出土遺物



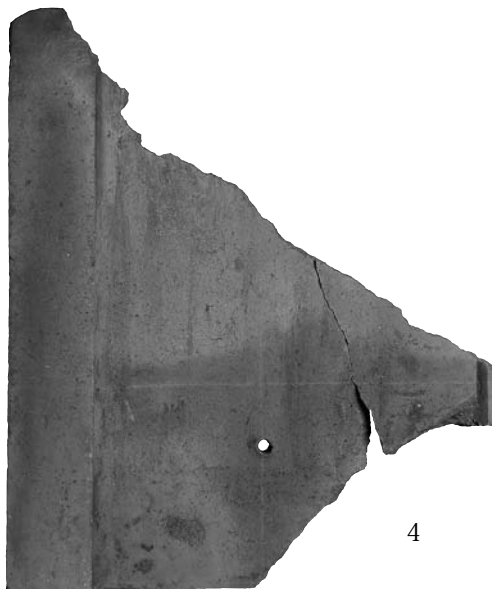
1



2



3



4



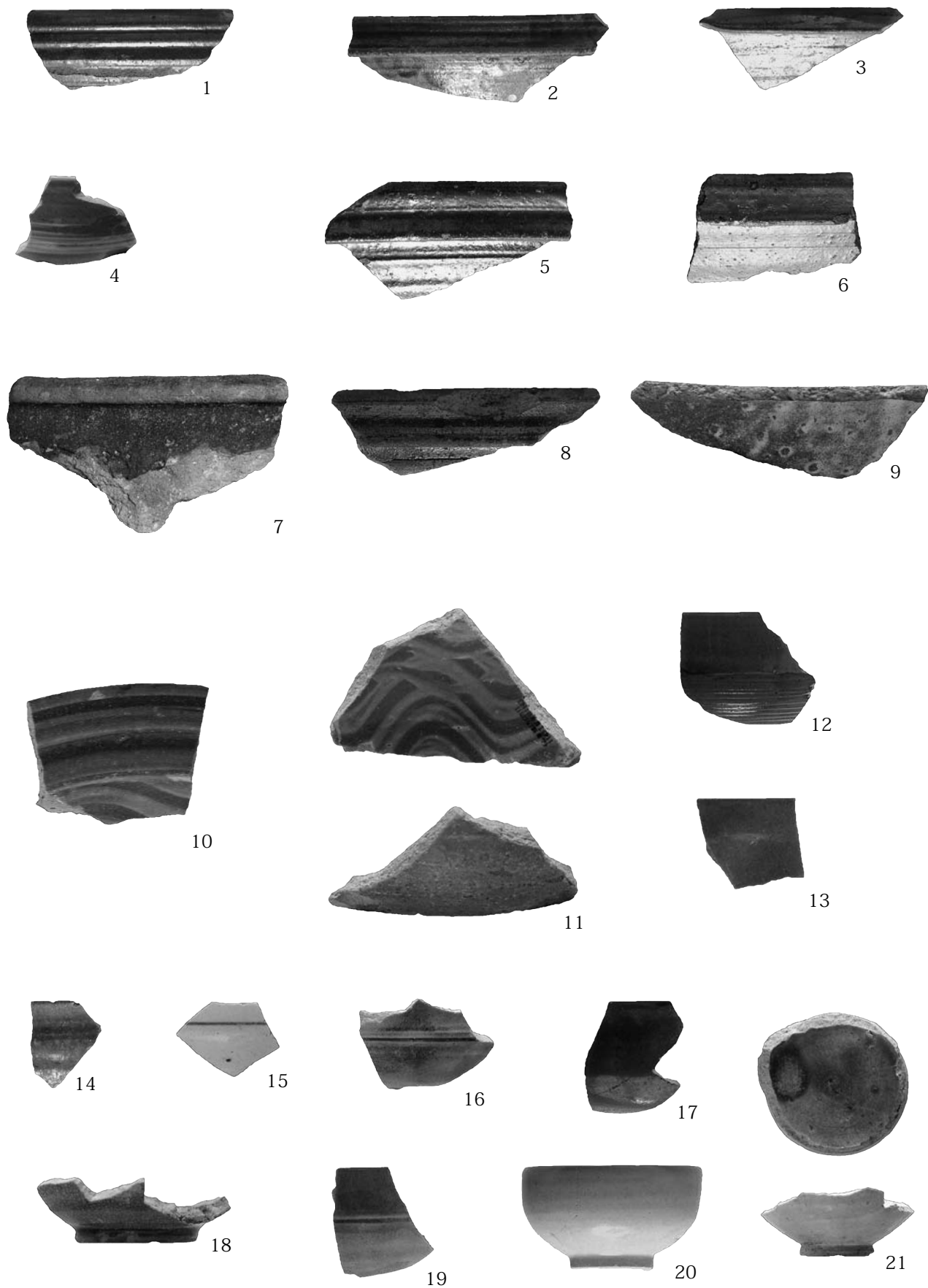
5



6

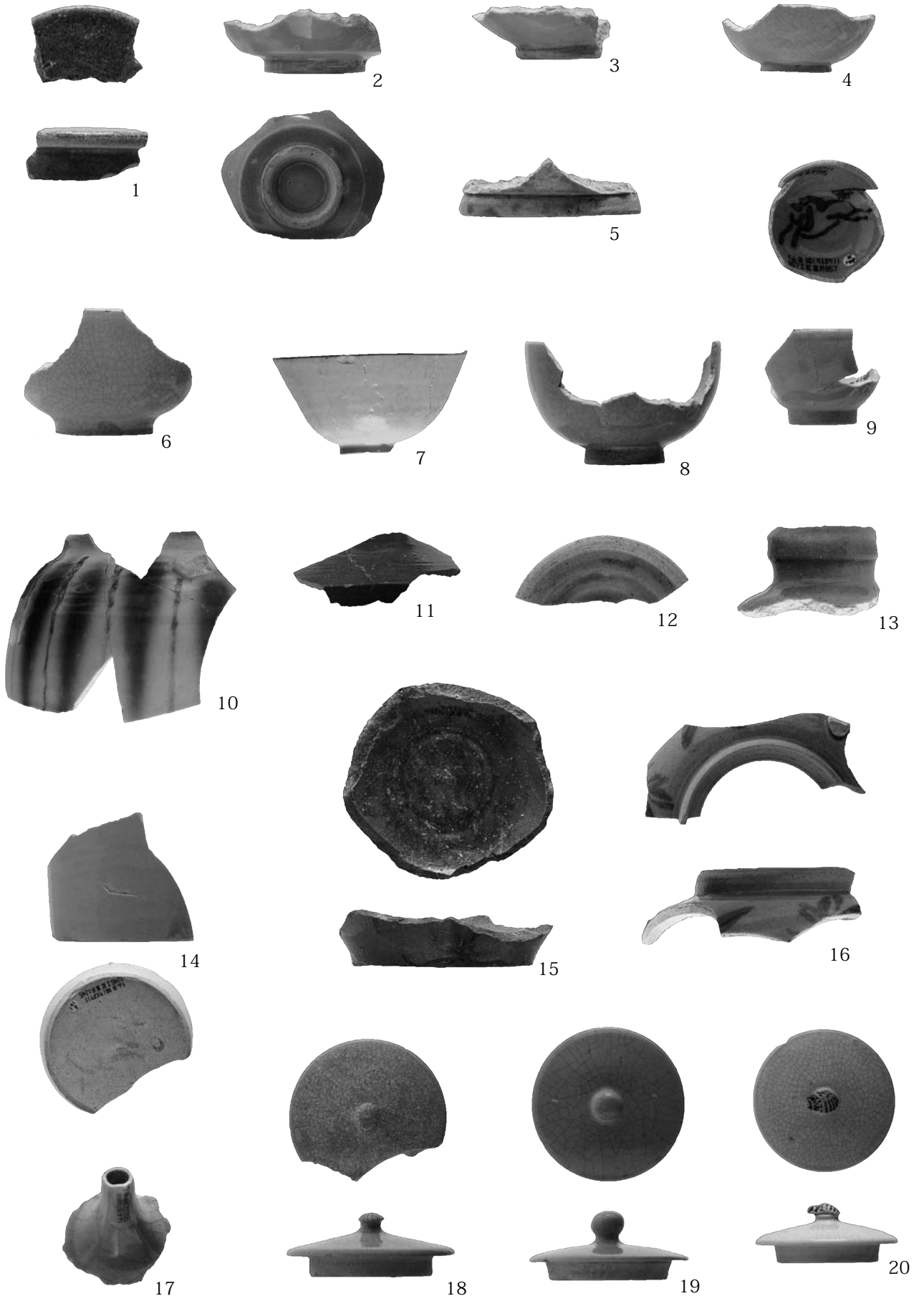
IV層

図版 90 I 区出土遺物



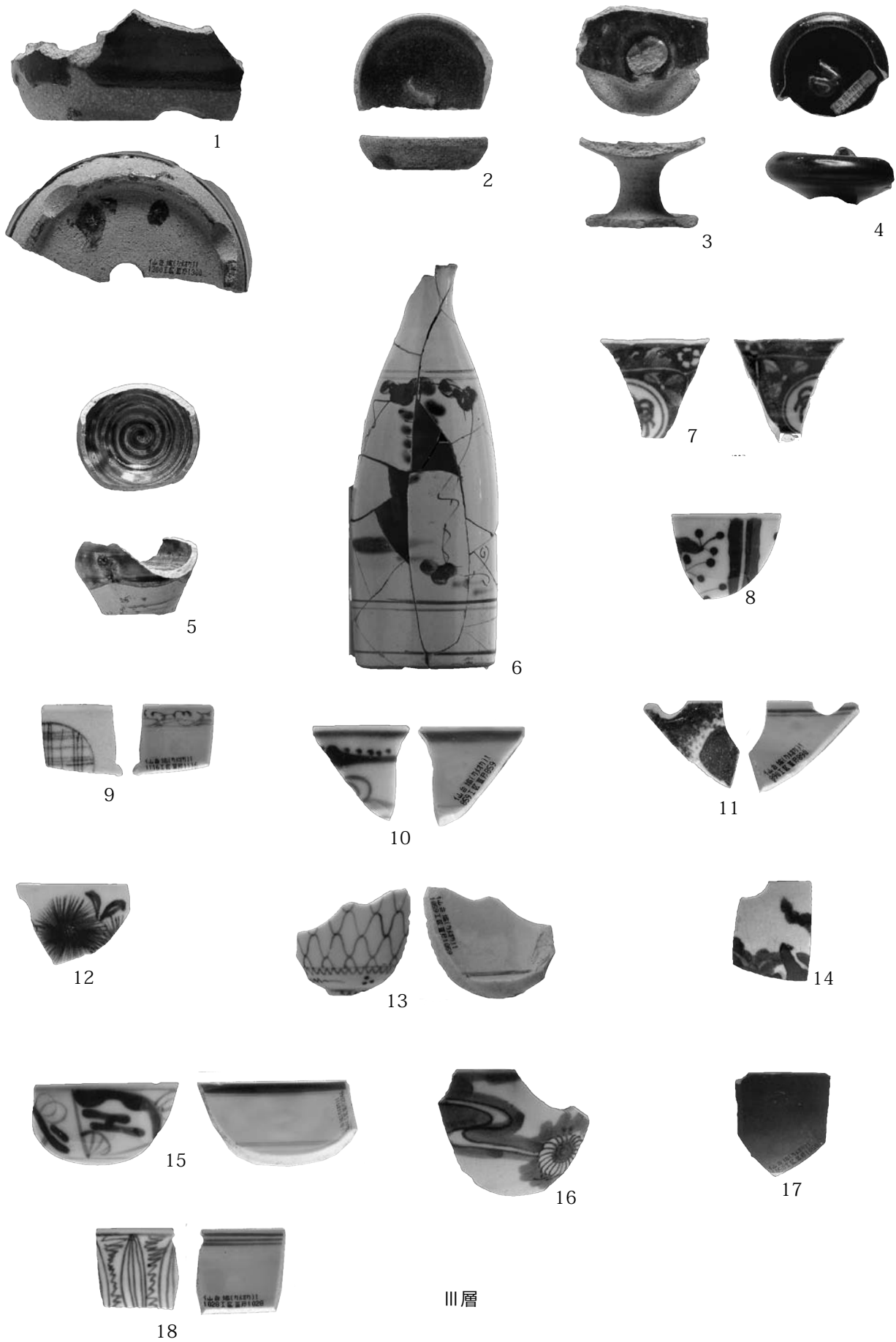
III層

图版 91 I 区出土遺物



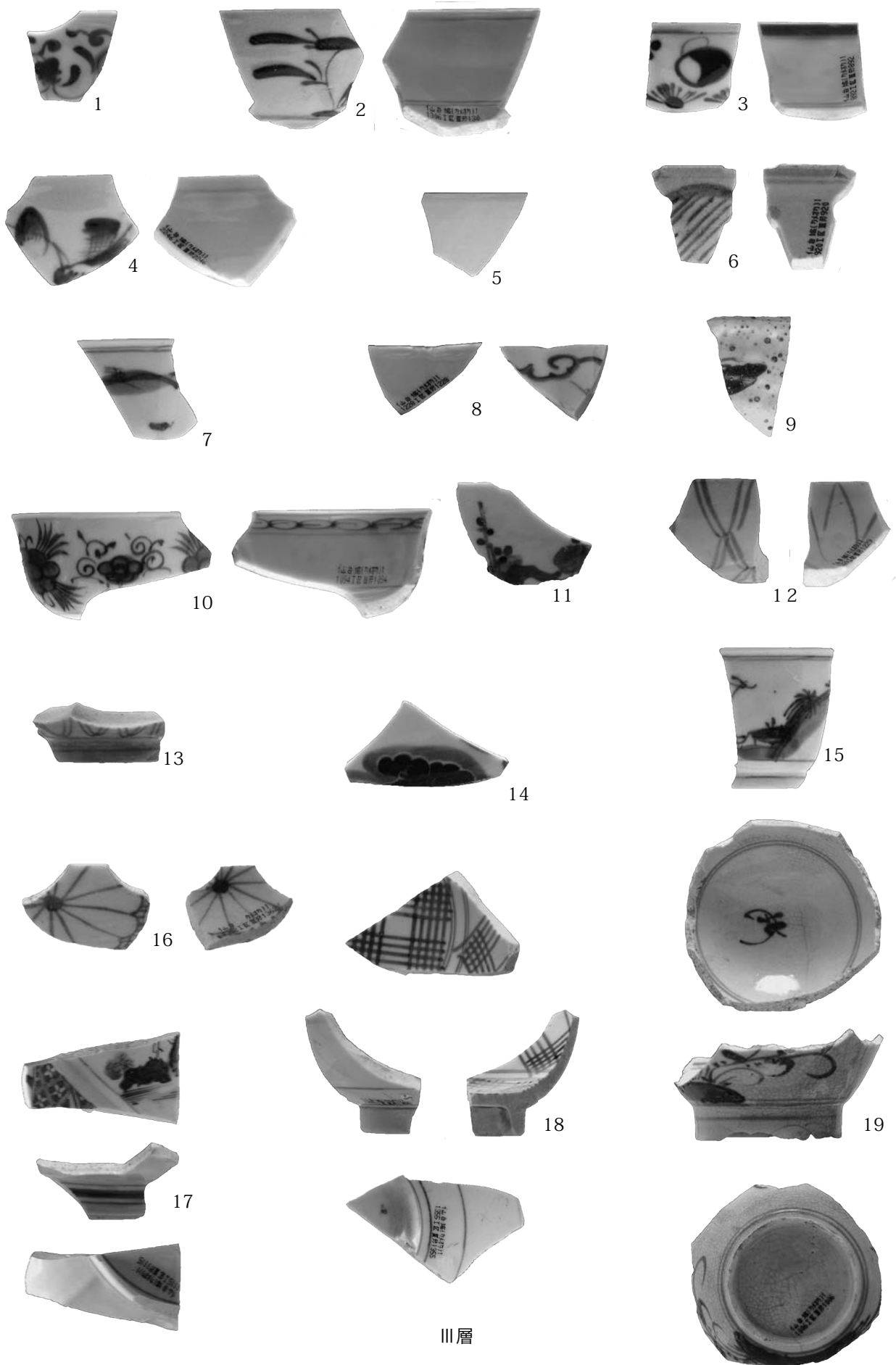
III層

图版 92 I 区出土遺物



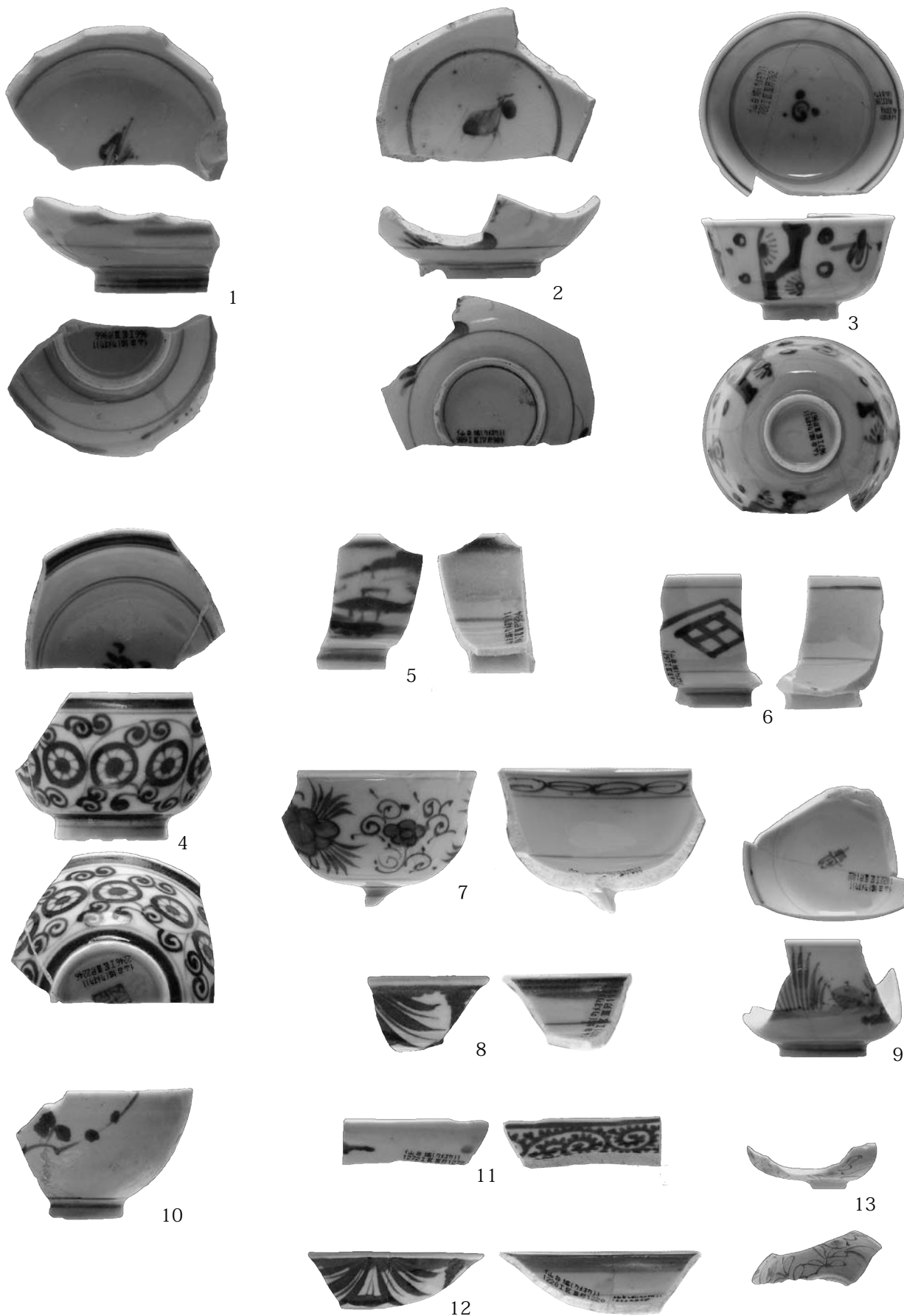
III層

图版 93 I 区出土遺物



III層

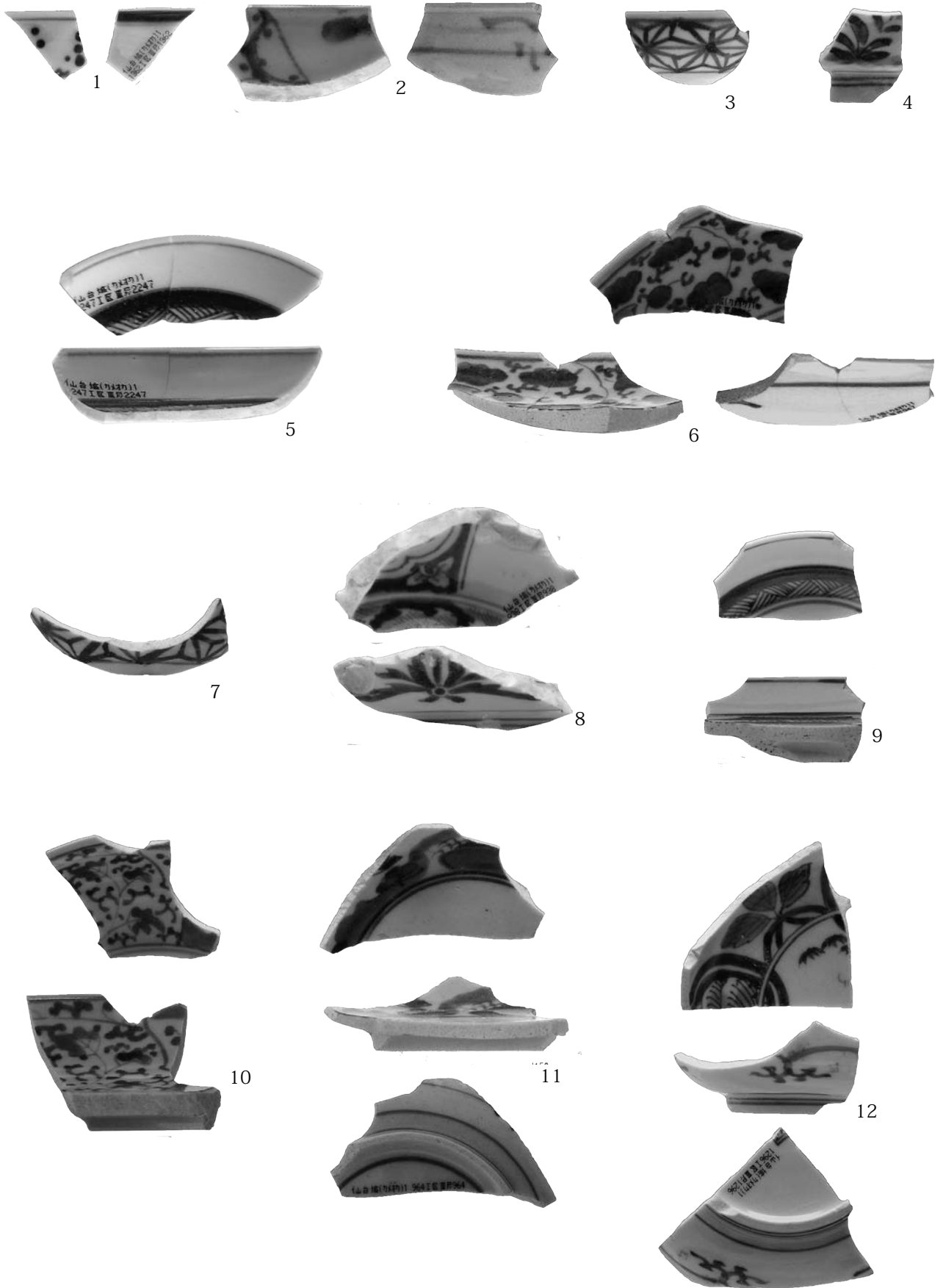
图版 94 I 区出土遺物



III層

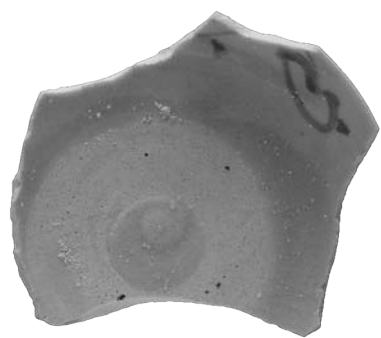
図版 95 I区出土遺物

出土遺物写真

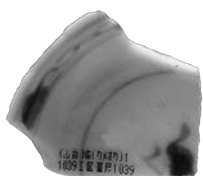


III層

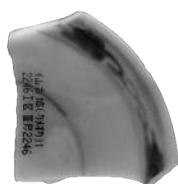
図版 96 I区出土遺物



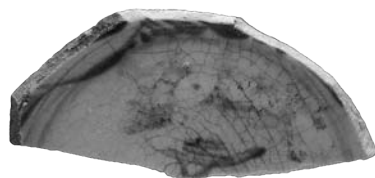
1



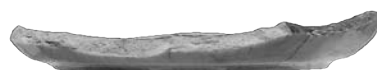
2



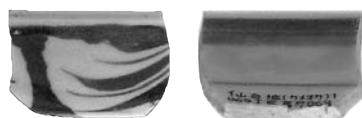
4



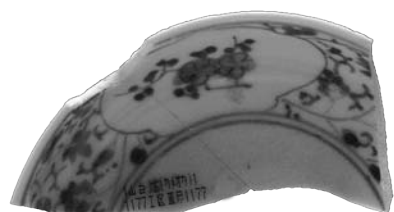
3



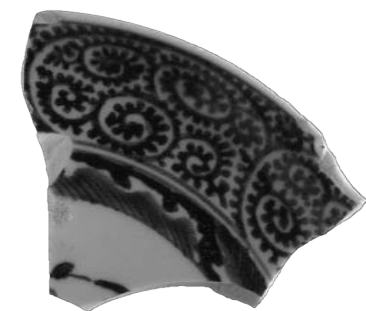
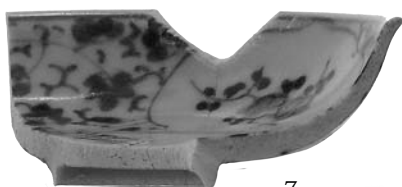
5



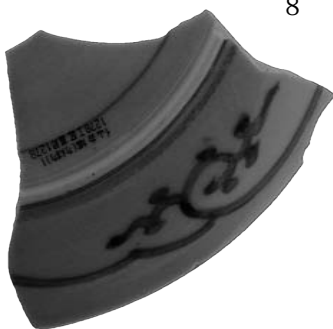
6



7



8

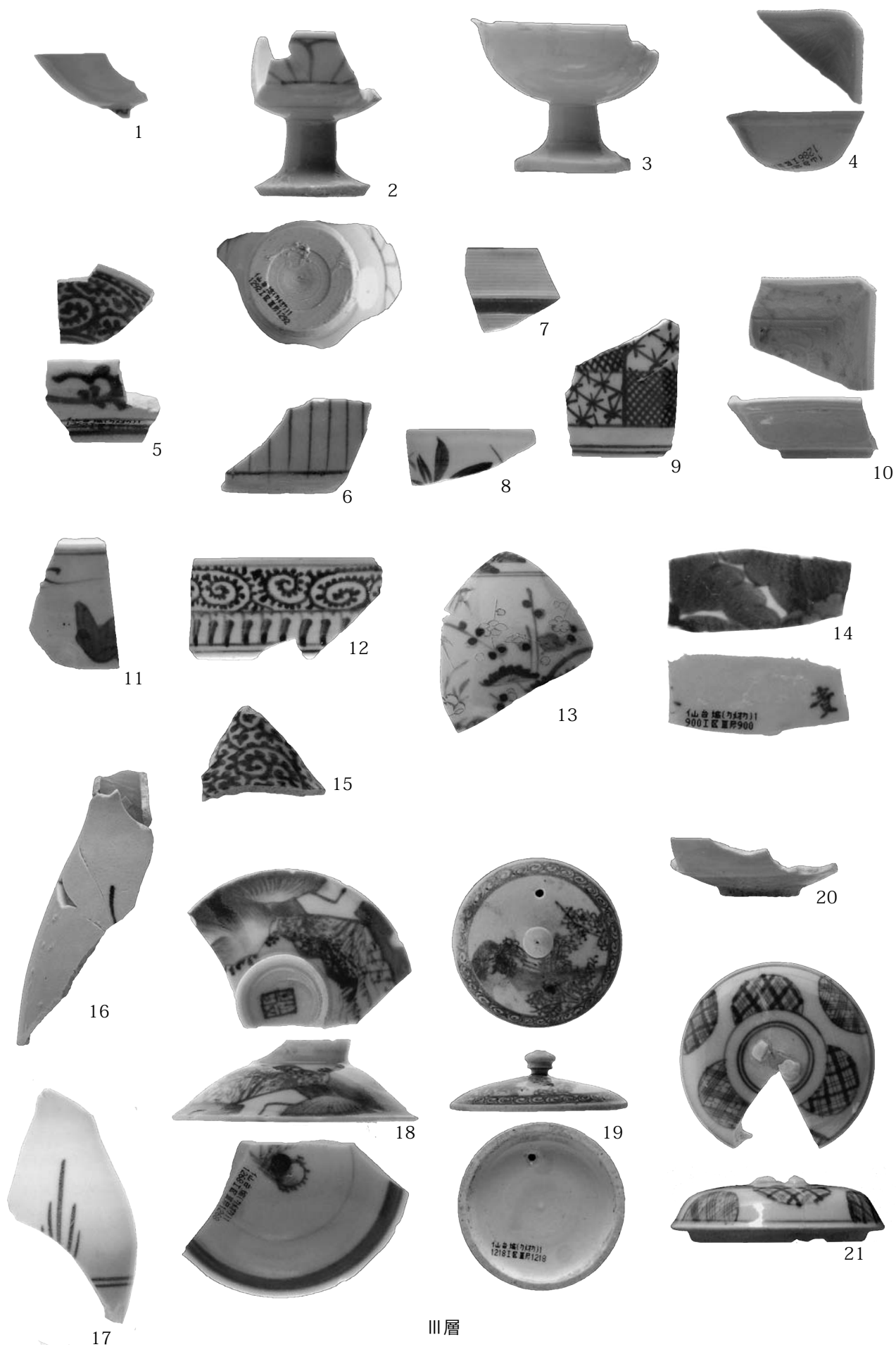


9



III層

图版 97 I 区出土遺物

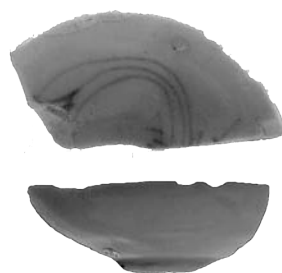
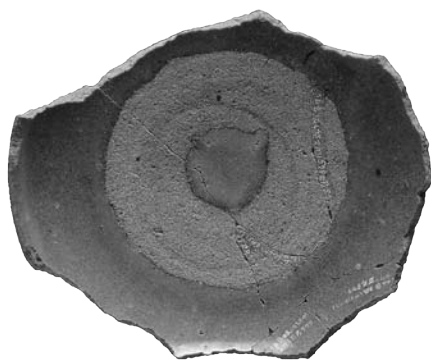


III層

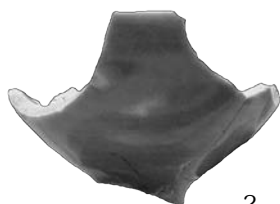
図版 98 I区出土遺物



1



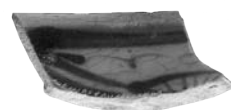
4



2



3



5



6



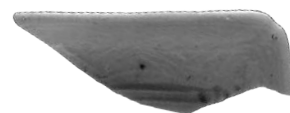
7



8



9



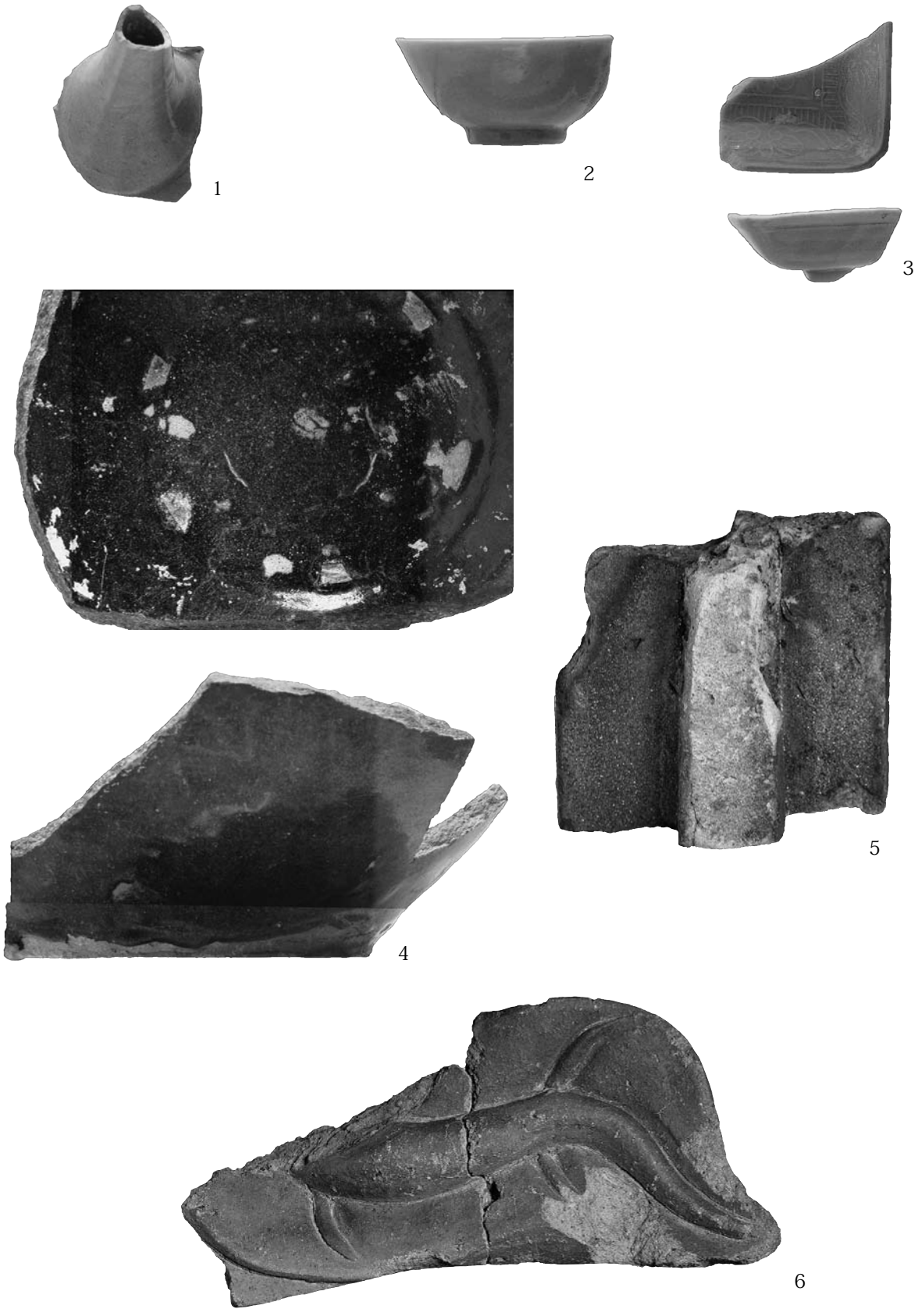
10



11

I層・II層・攪乱

图版 99 I区出土遺物

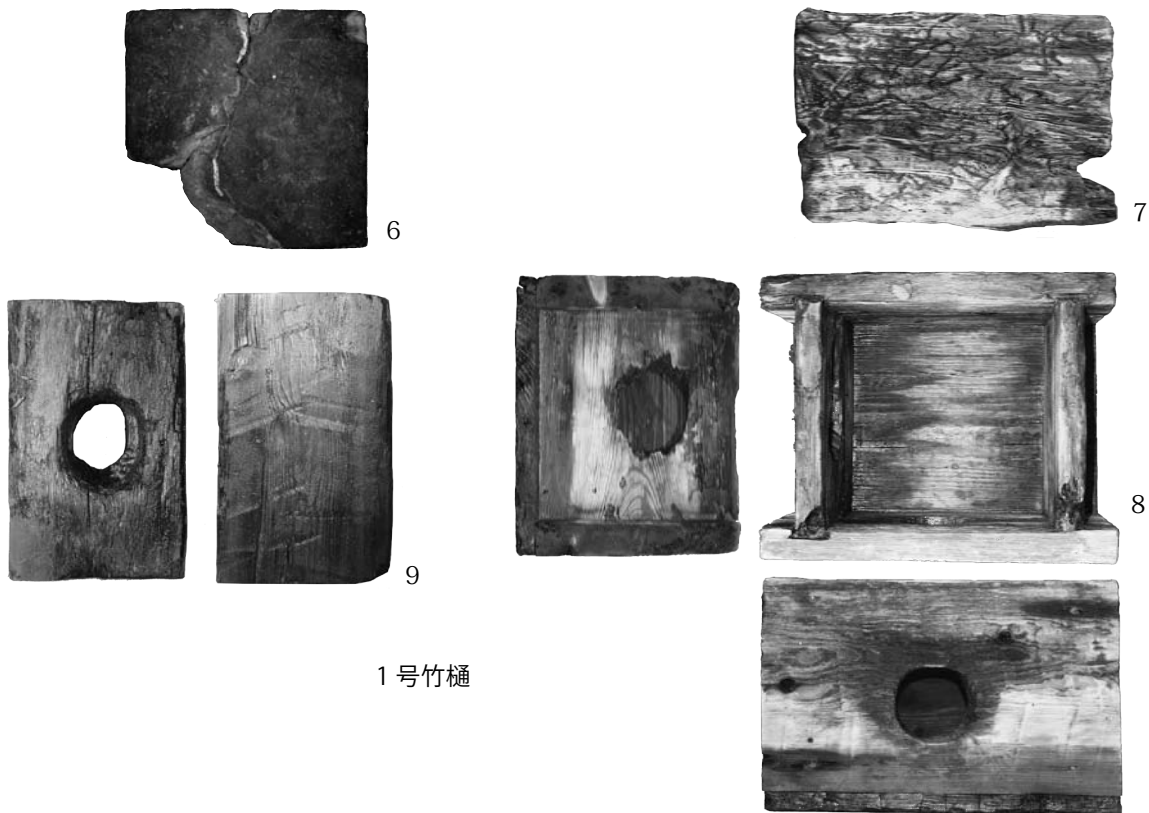


I層・攪乱

図版 100 I区出土遺物



SK4



1号竹樋

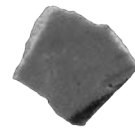
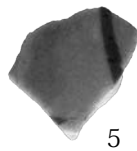
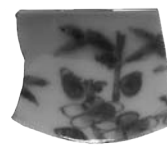
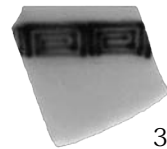
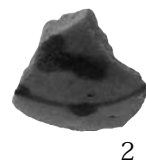


2号竹樋

图版 101 II区出土遺物



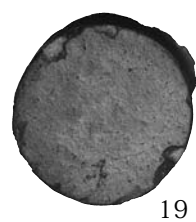
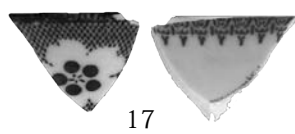
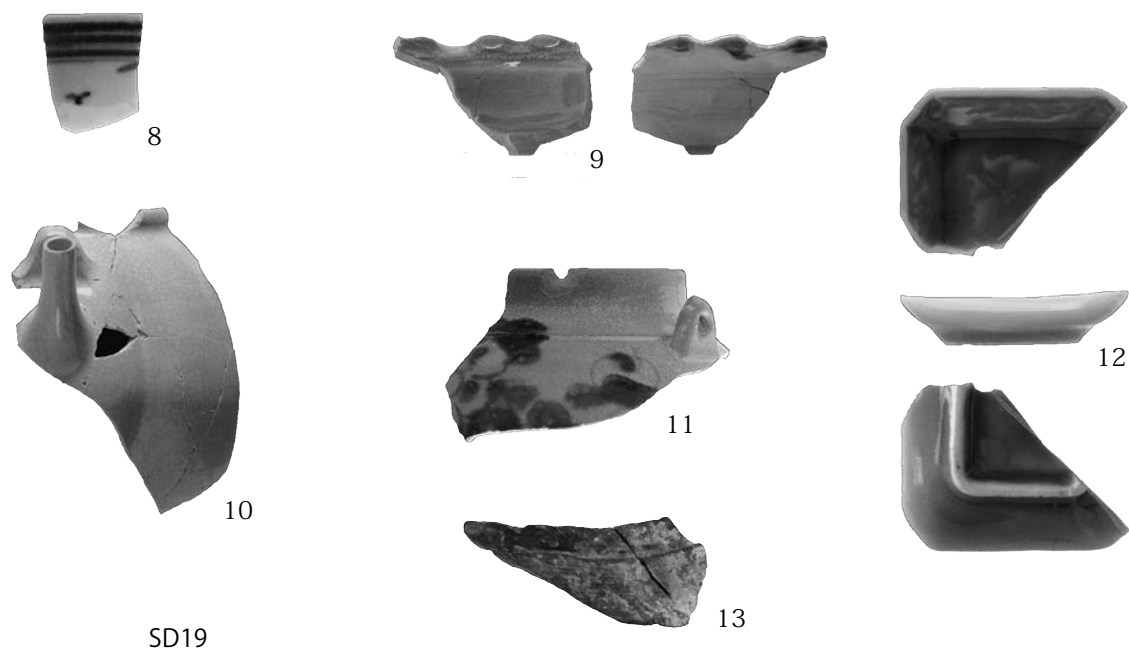
SX9



1号柞状遺構



SA1



1号石垣

图版 103 II区出土遗物



1



2



3



4

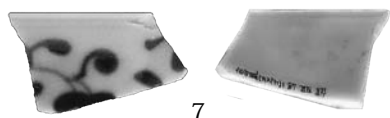


5

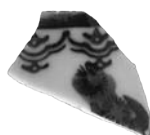


6

IV層



7



8



9



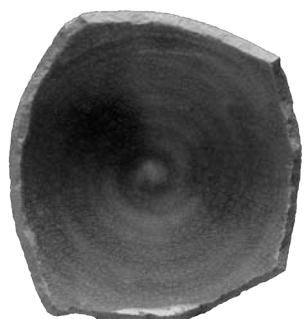
10



12



13

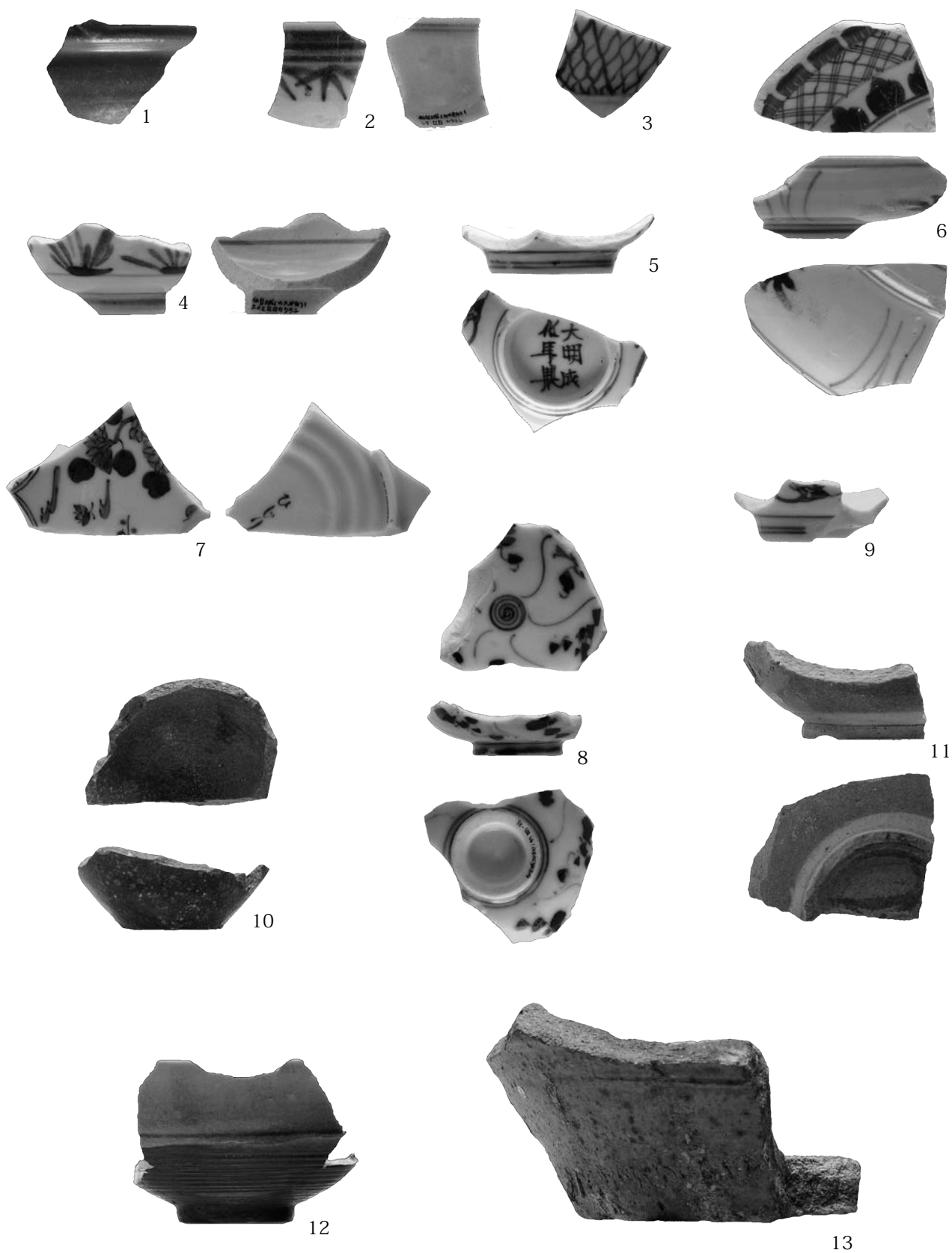


11



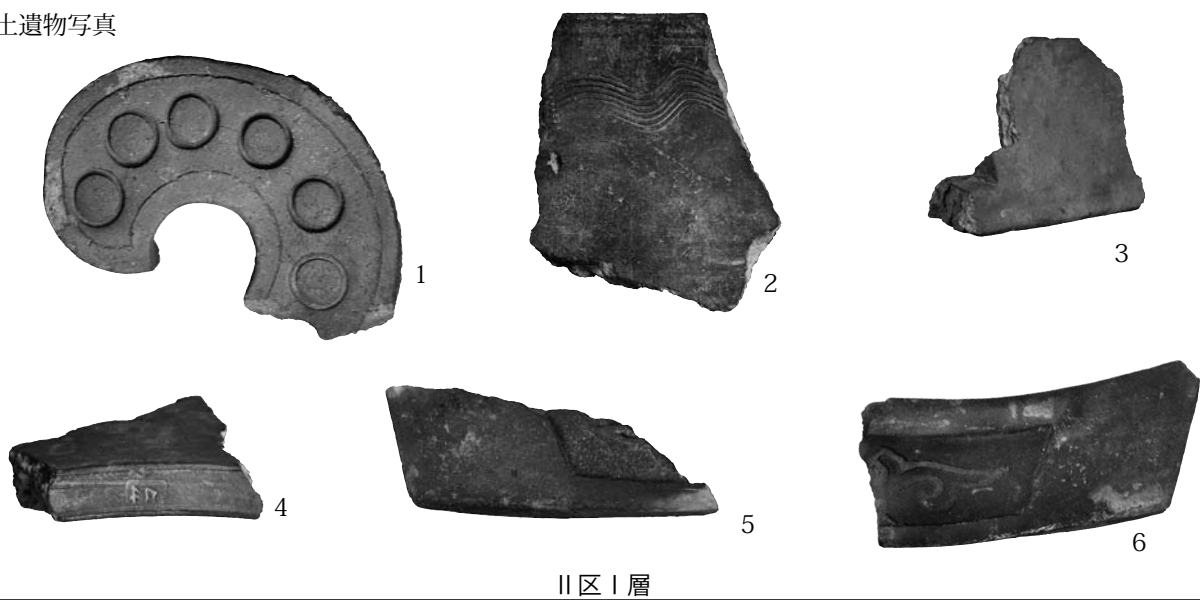
II層

図版 104 II区出土遺物



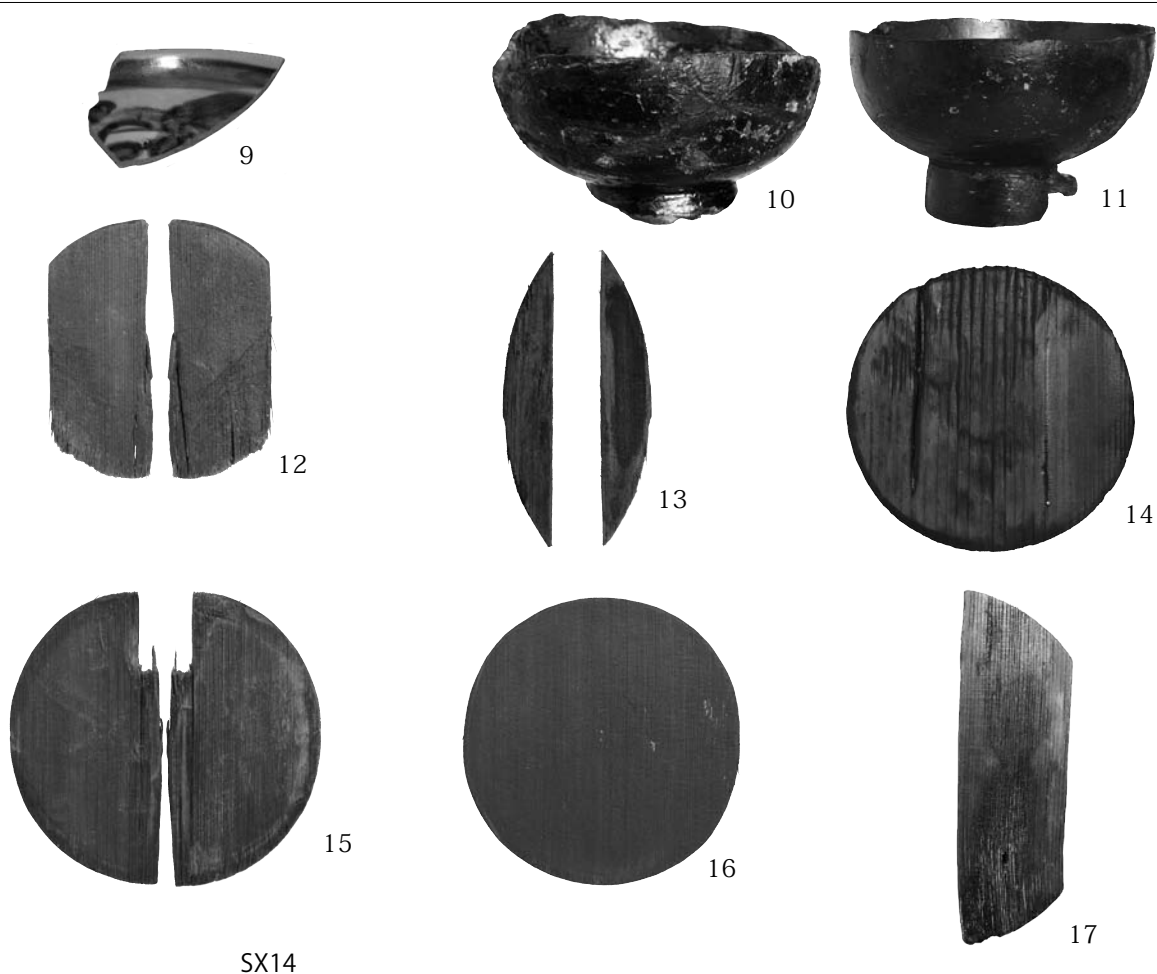
I層

图版 105 II区出土遺物

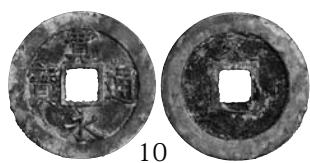


SA16

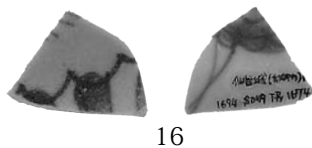
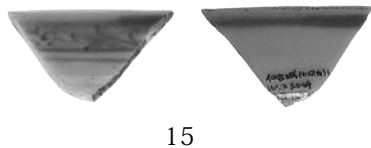
SD24



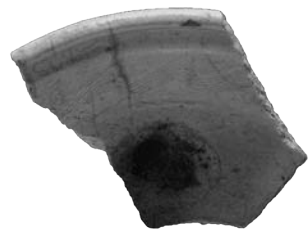
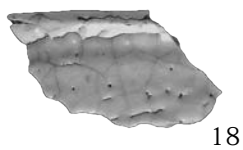
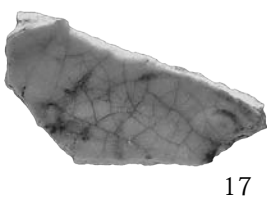
图版 106 II区·III区出土遺物



SX14



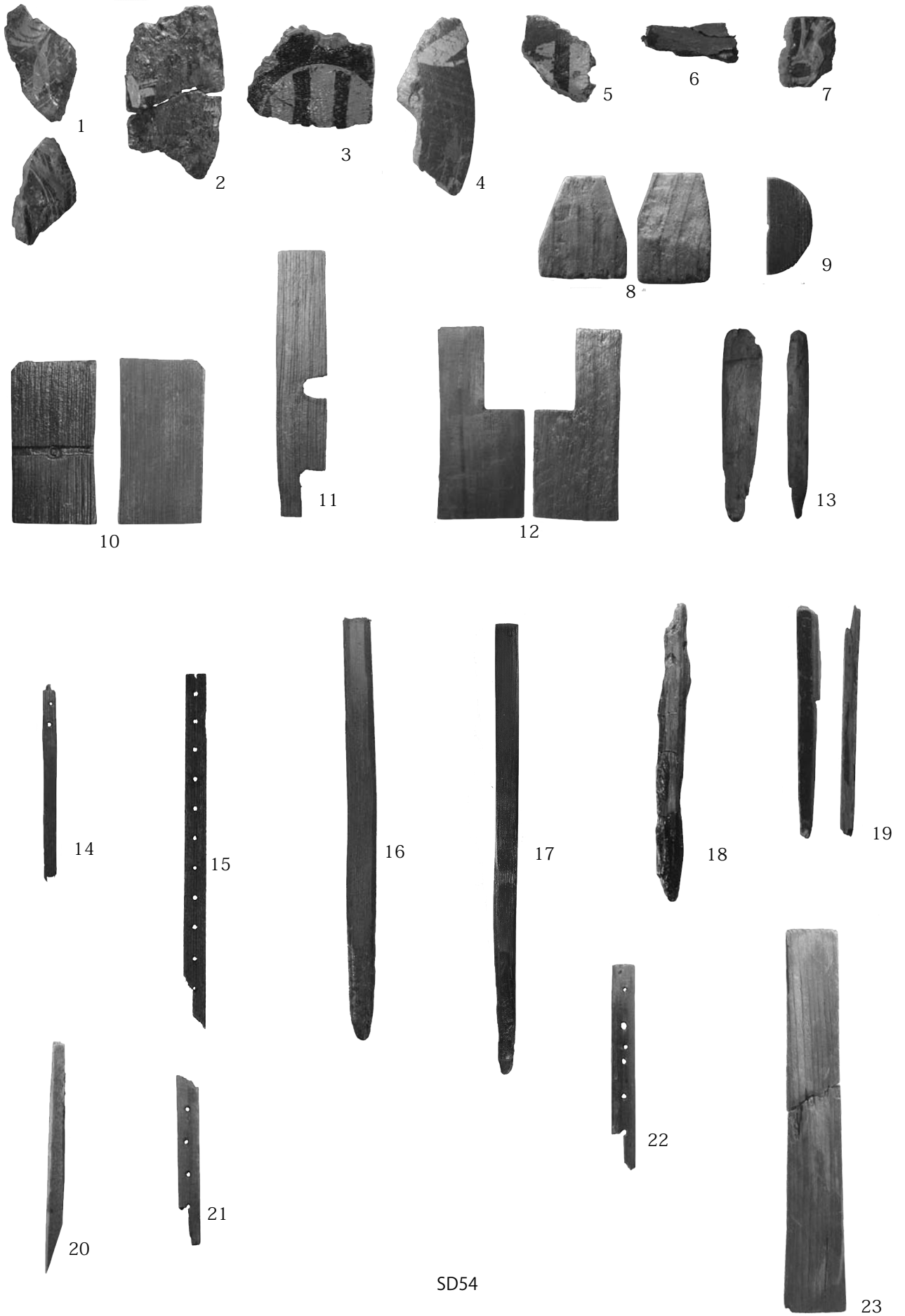
SD49



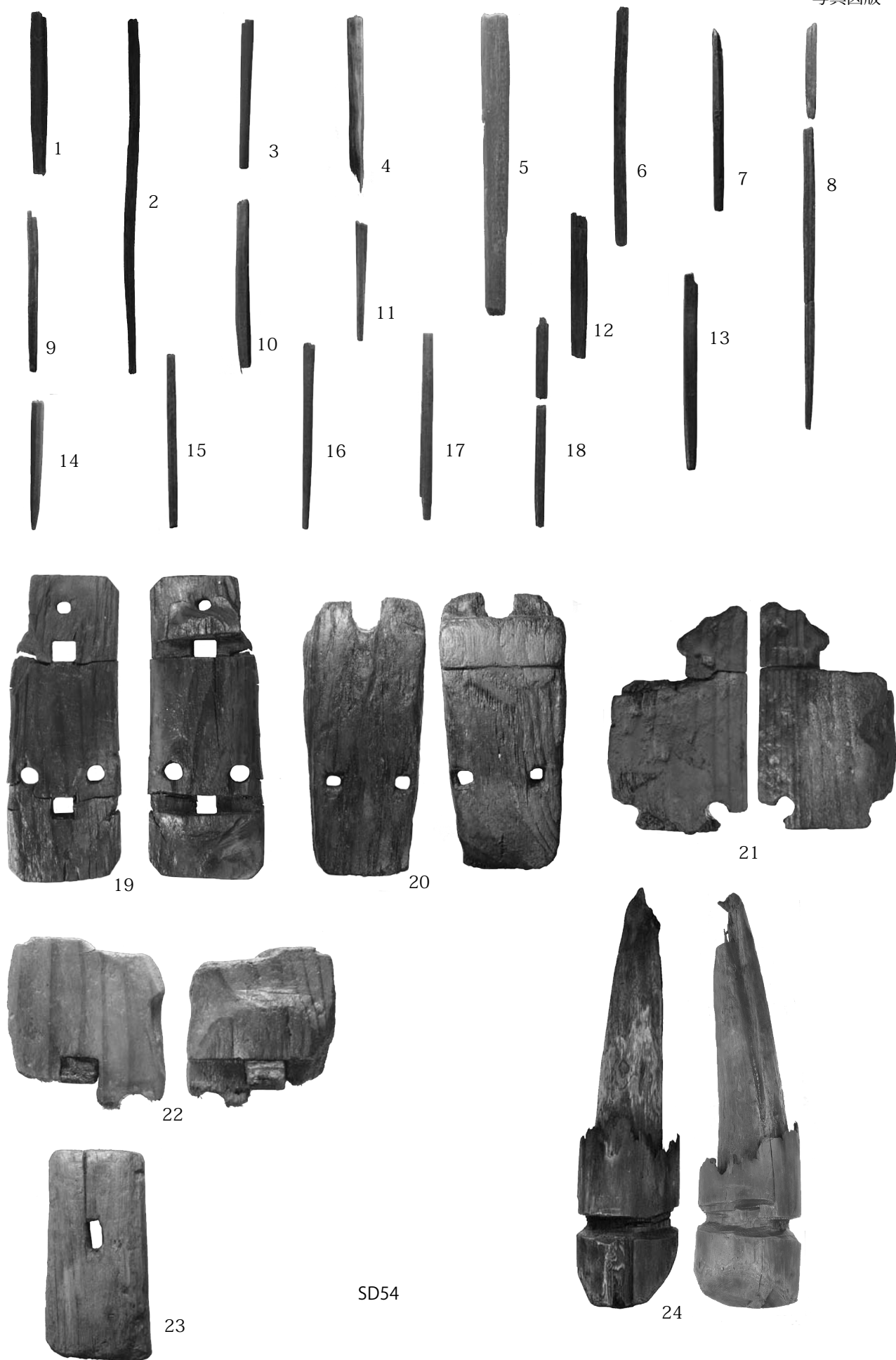
SD54

图版 107 III区出土遗物

出土遺物写真



图版 108 III区出土遺物



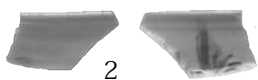
SD54

图版 109 III区出土遺物



1

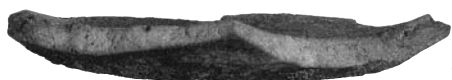
SD55



2



3



4

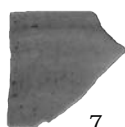
SD65



5



6



7



8



11



12



13



9

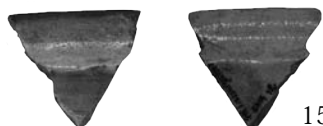


10



14

SK62



15

SK14



16

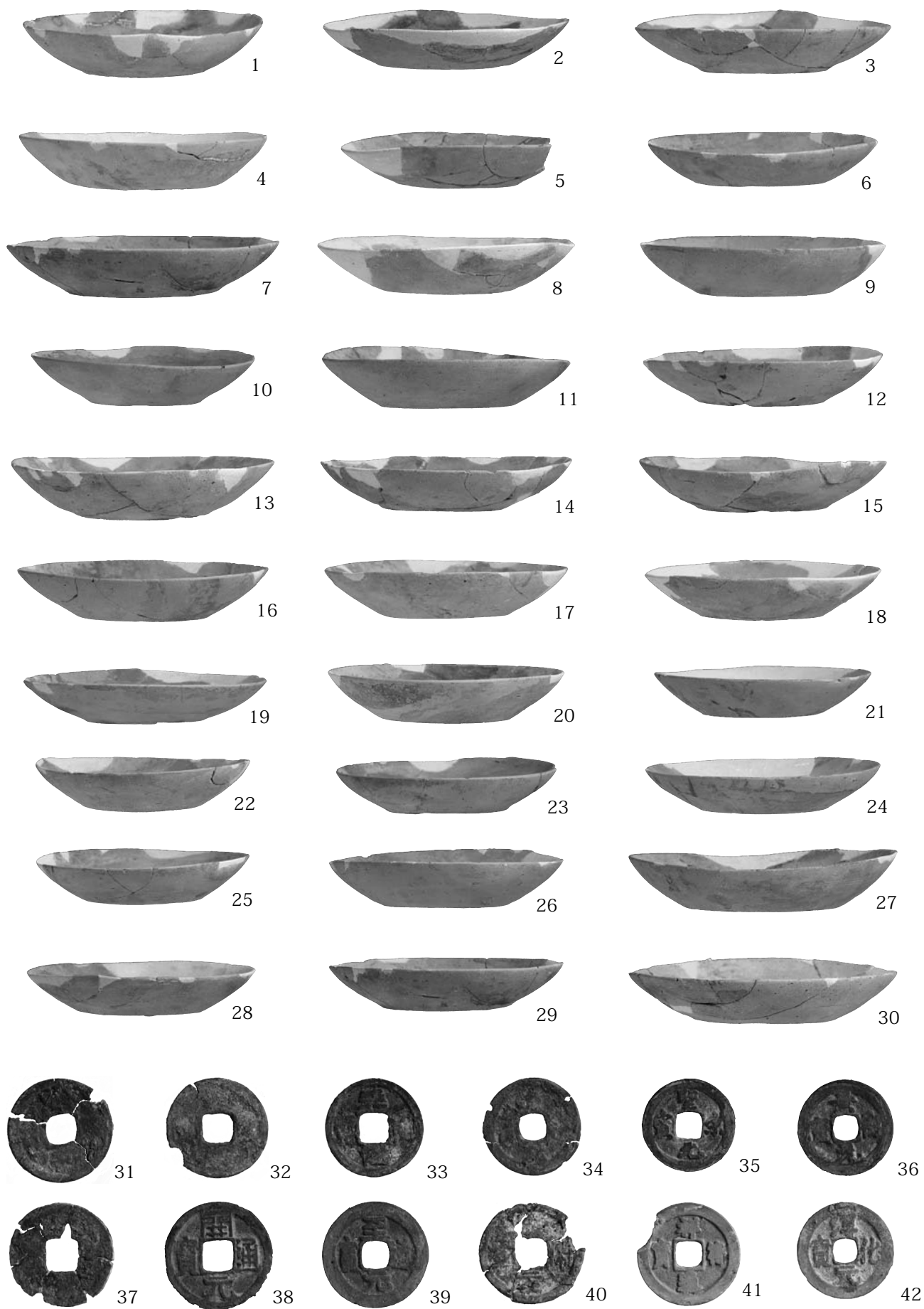
SK64



17

SX10

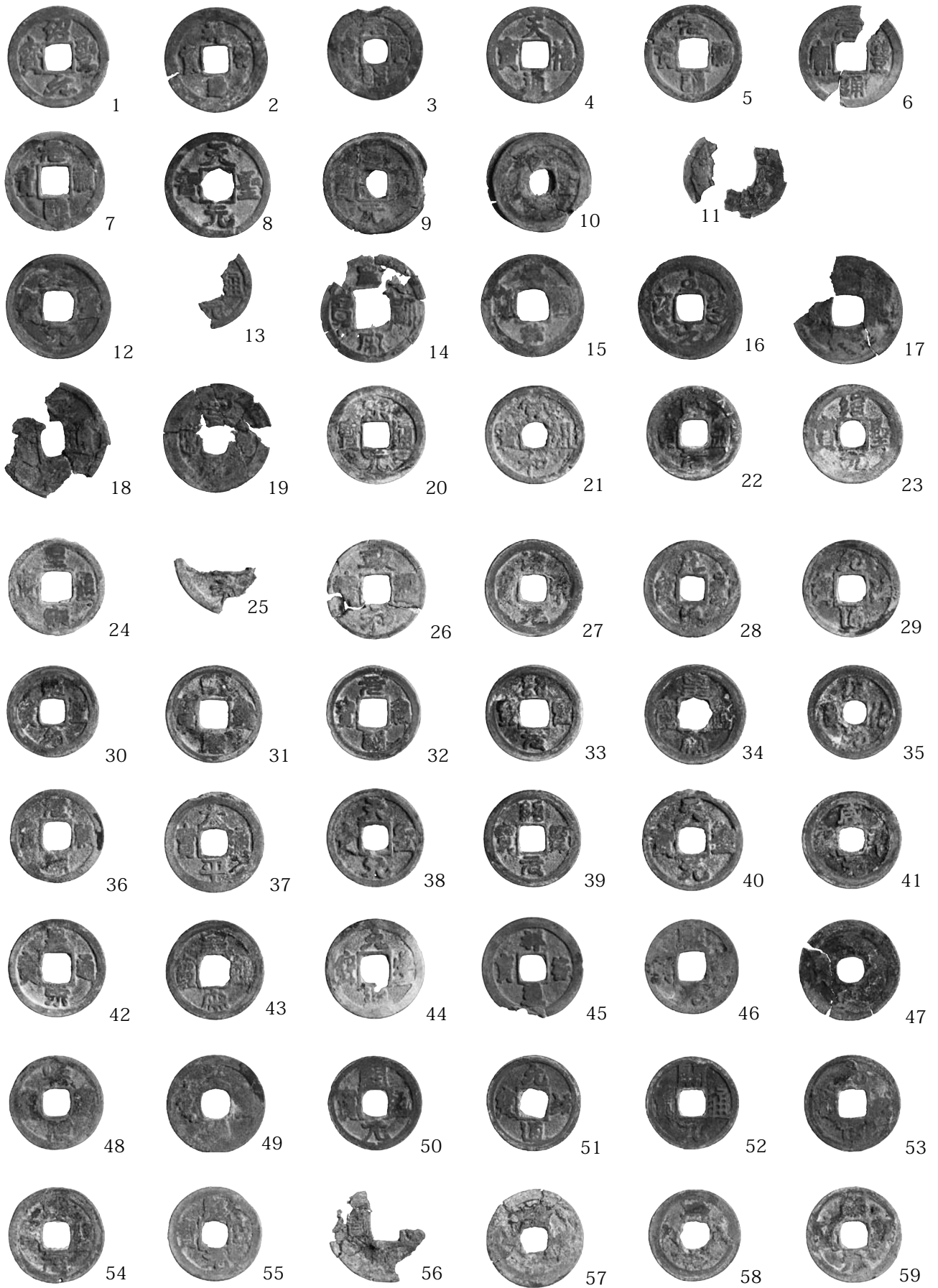
图版 110 III区出土遺物



SN1

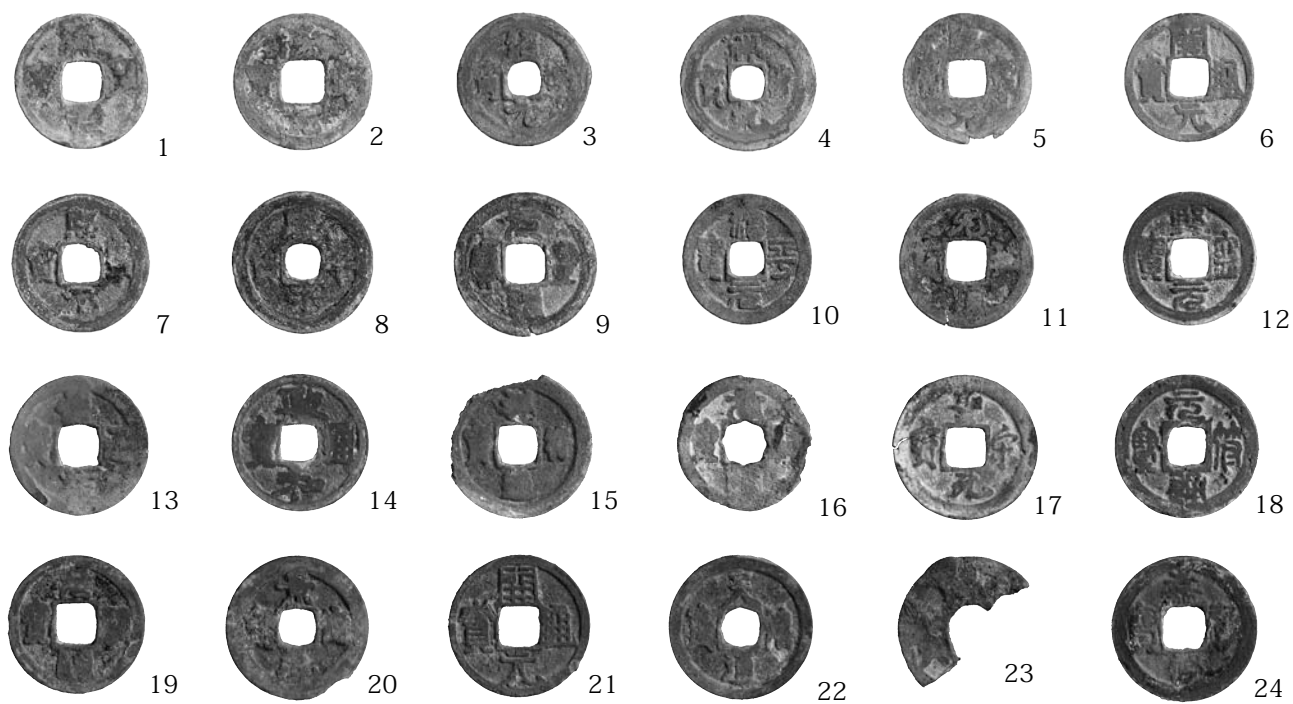
图版 111 III区出土遗物

出土遺物写真

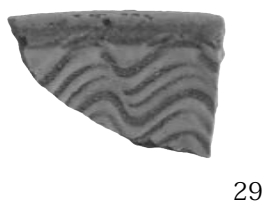


SN1

图版 112 III区出土遺物

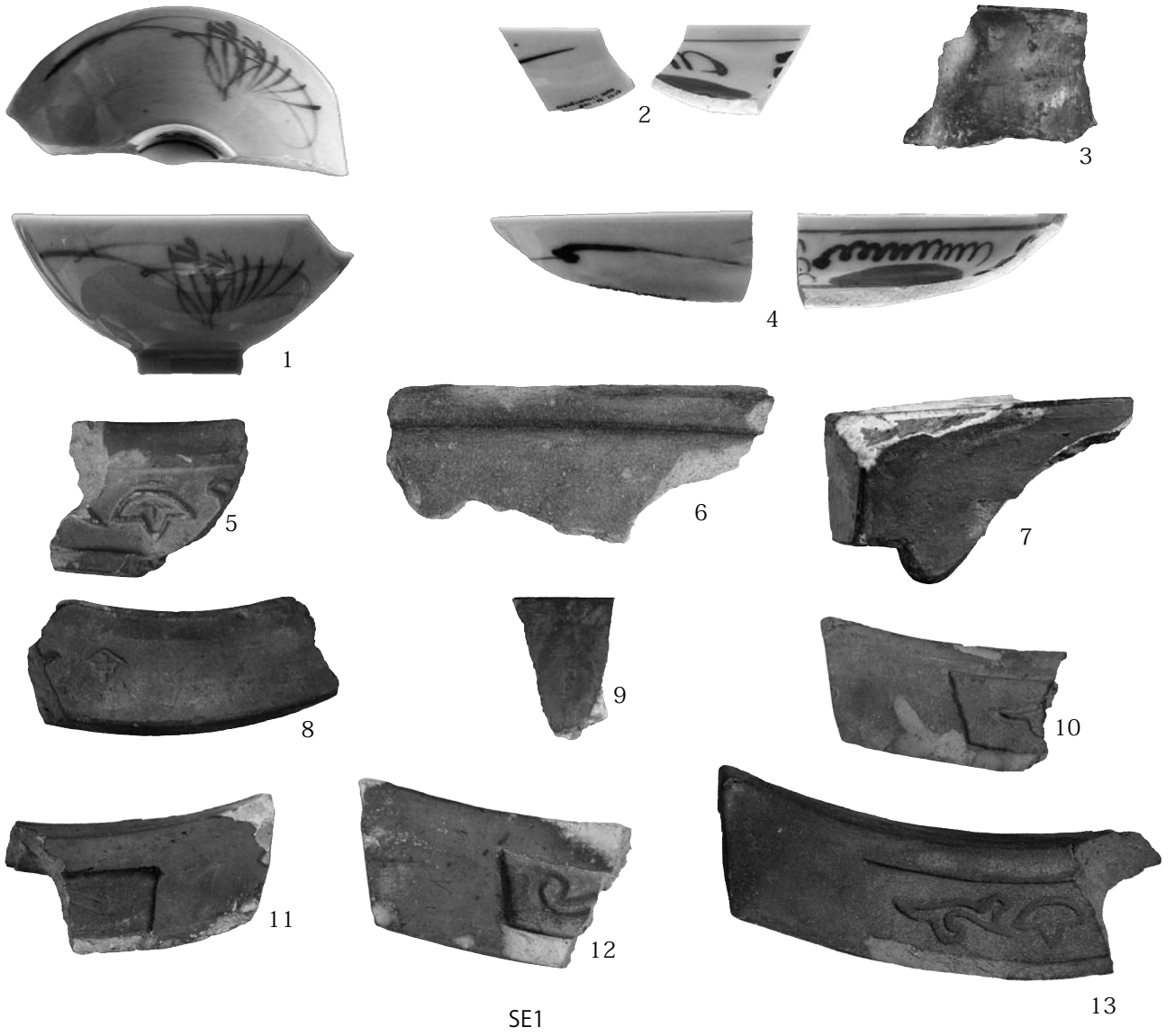


SN1



SD32

图版 113 III区出土遗物



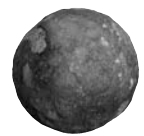
SE5



SK19

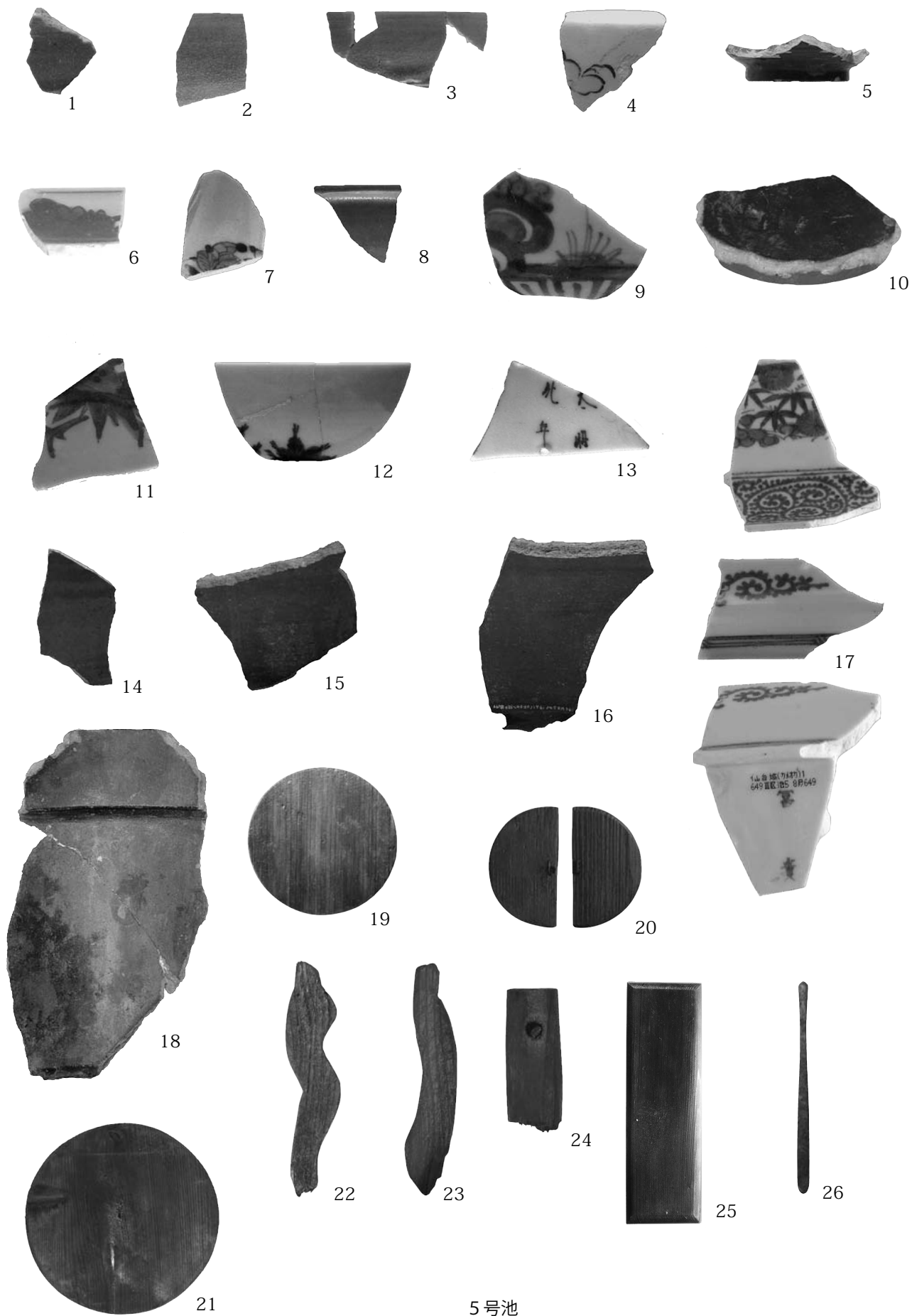


SK47



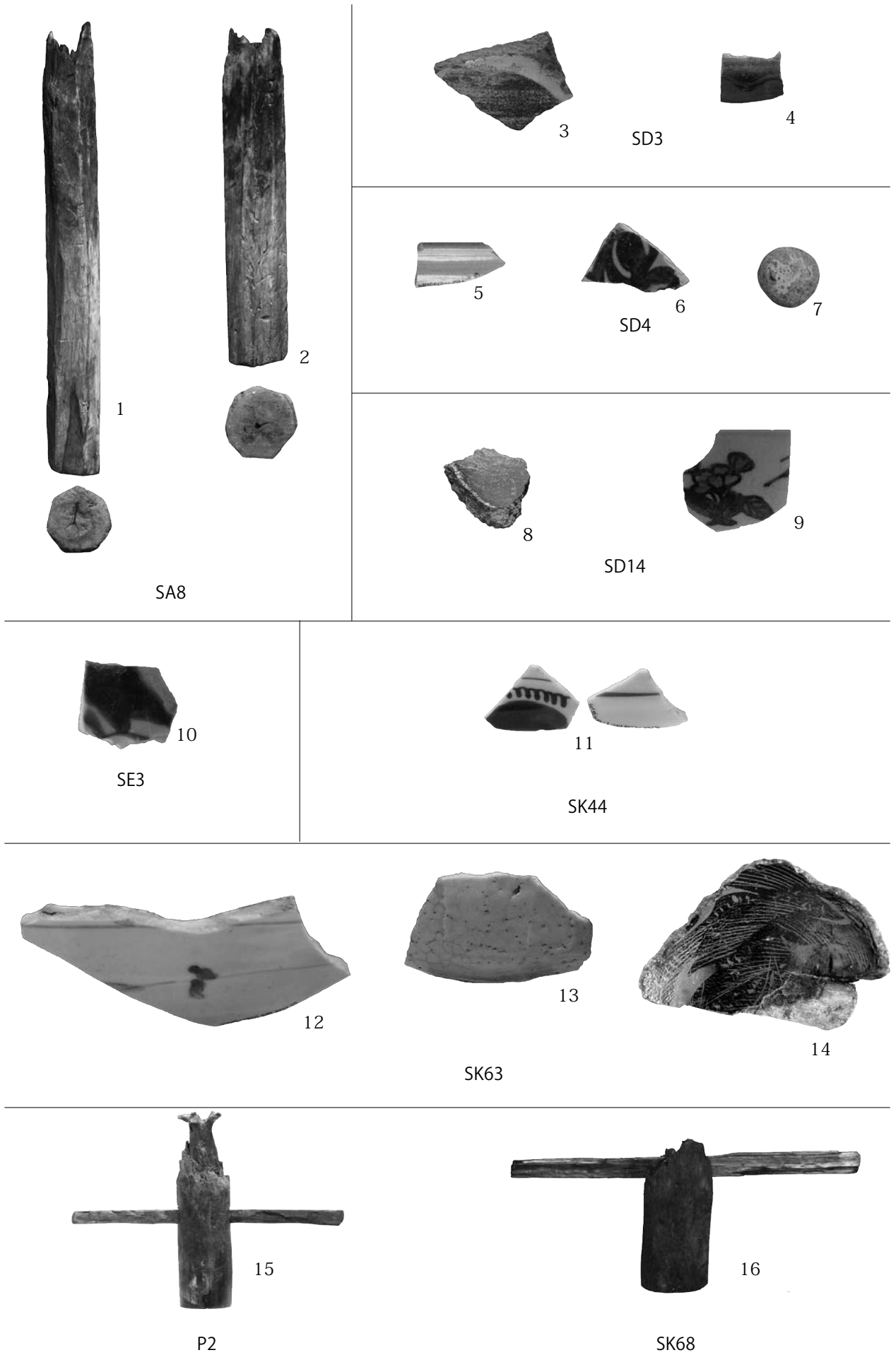
SK78

图版 114 III区出土遺物



5号池

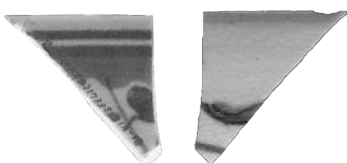
图版 115 III区出土遗物



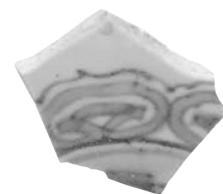
図版 116 III区出土遺物



1



2



3



SX3



4

SX6



5



6

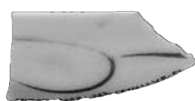


7

4号木樋



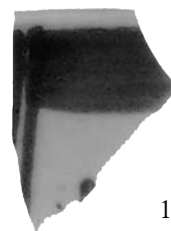
8



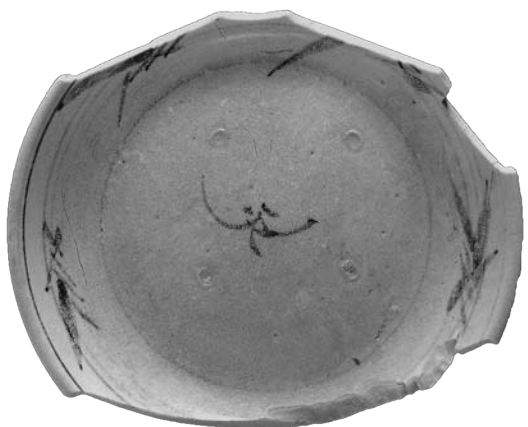
9



2号枡状遺構



10



11



12



13



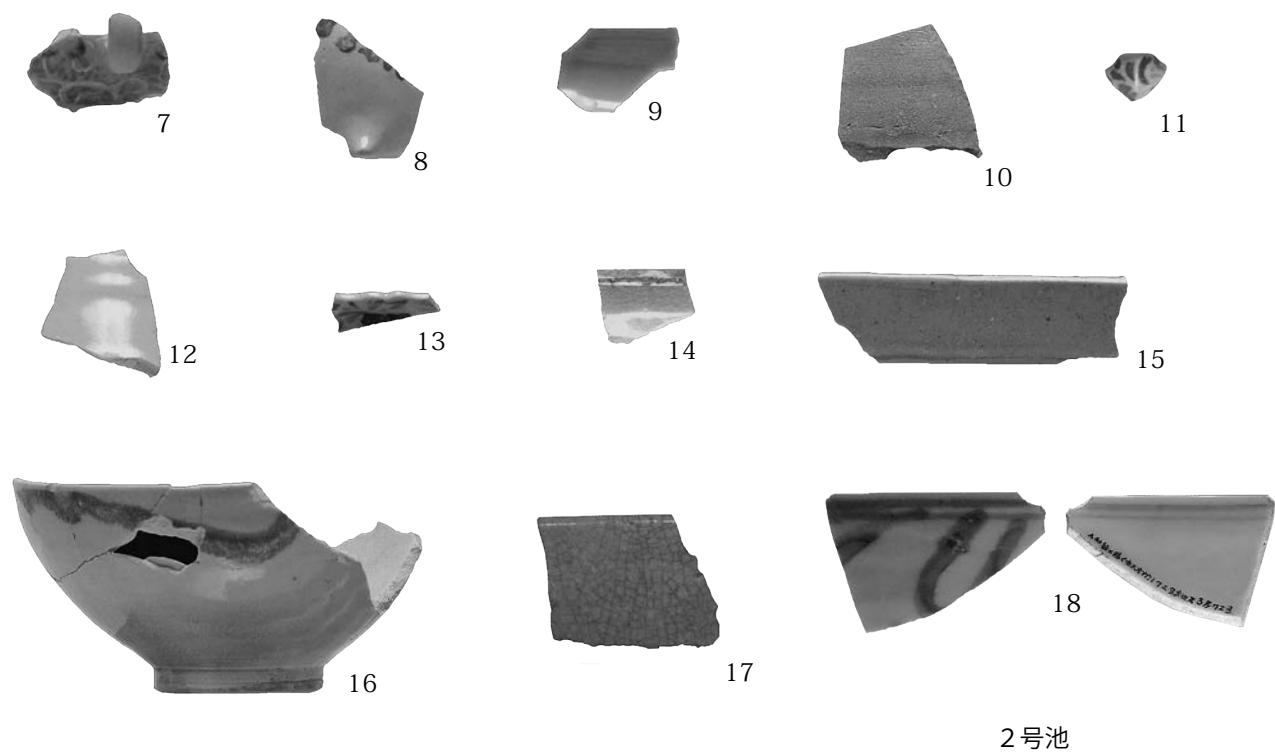
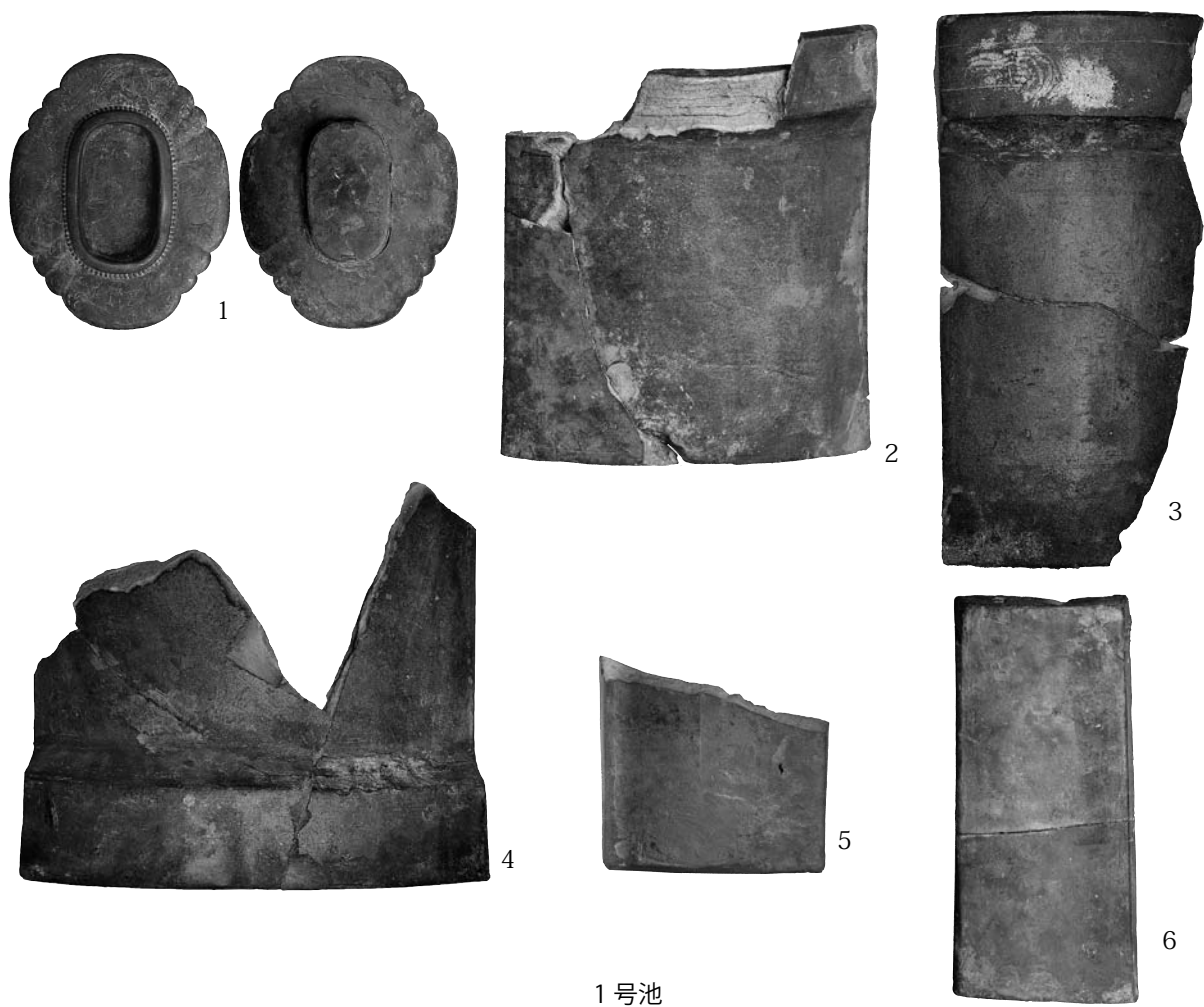
14



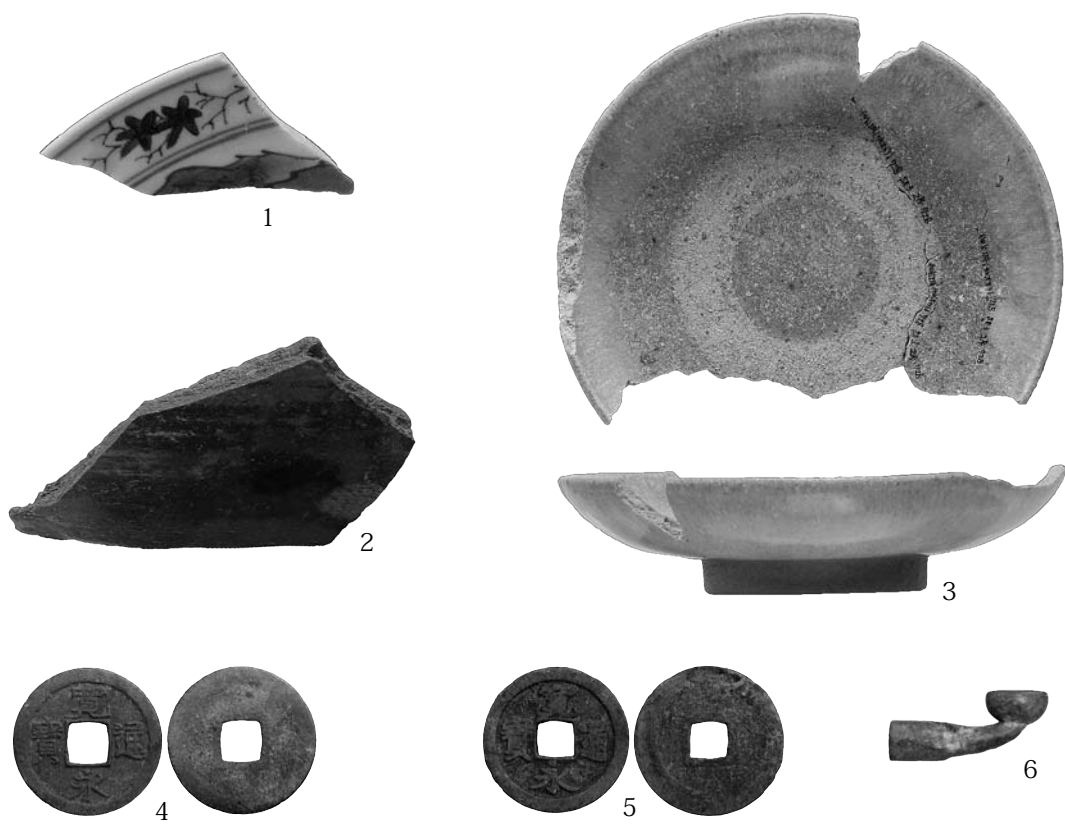
15

1号池

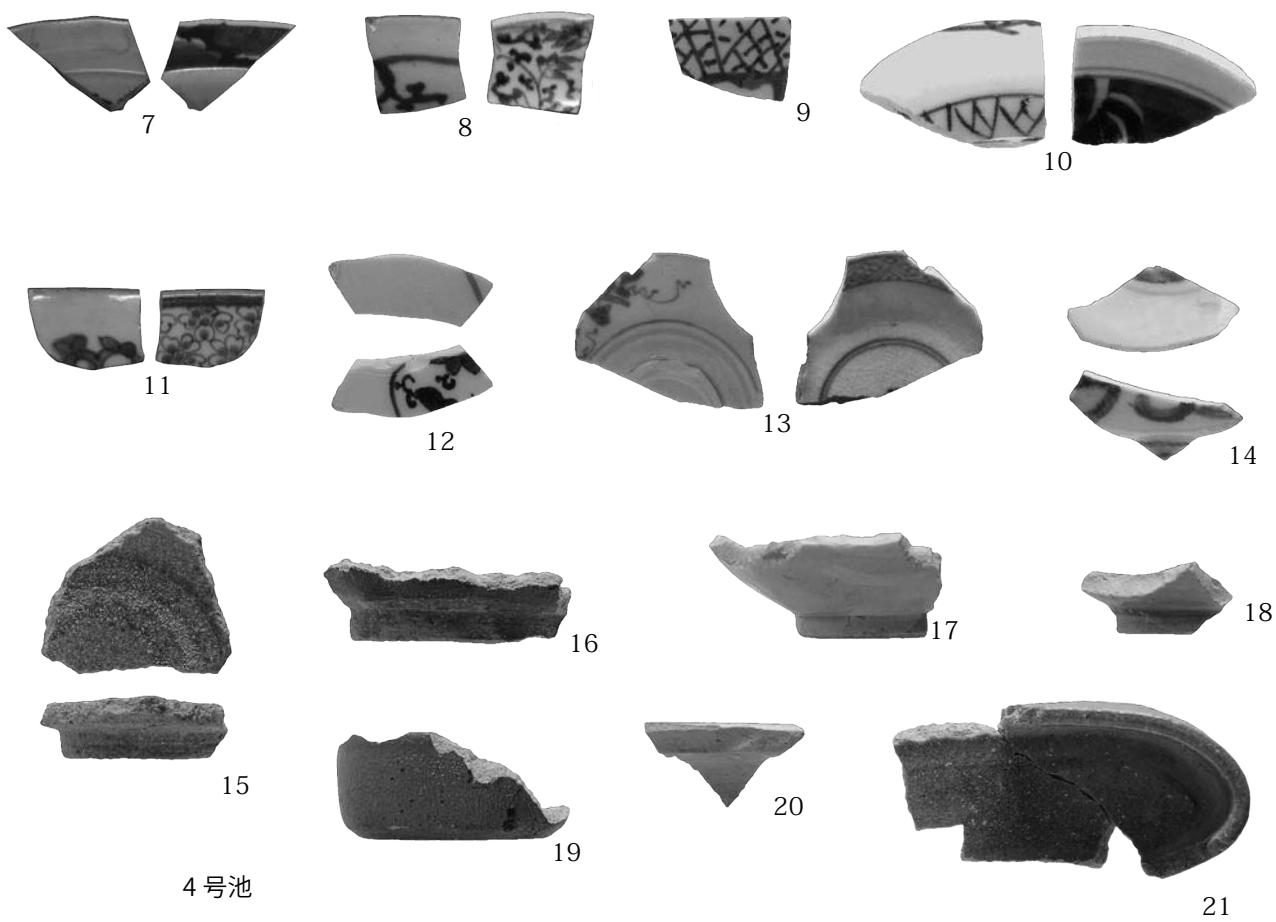
图版 117 III区出土遺物



图版 118 III区出土遺物

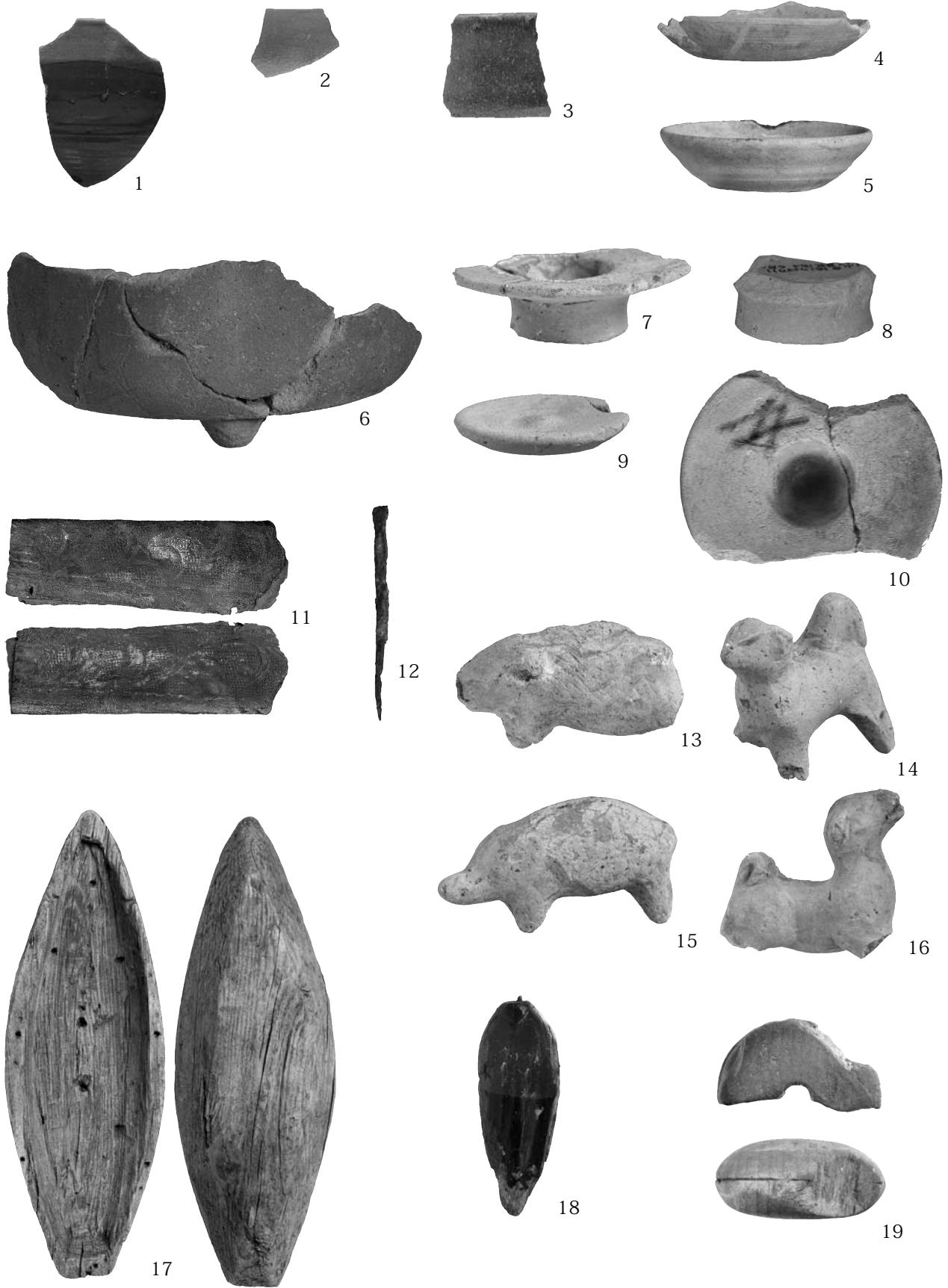


2号池



4号池

图版 119 III区出土遗物

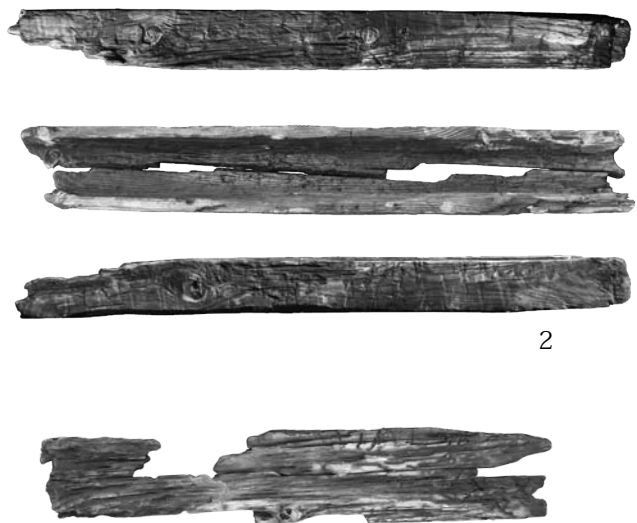


4号池

图版 120 III区出土遺物



1



2

3

2号木樋

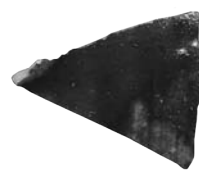


4



5

6号池

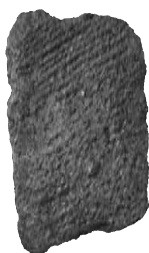


6

3号木樋



7



8



9



10



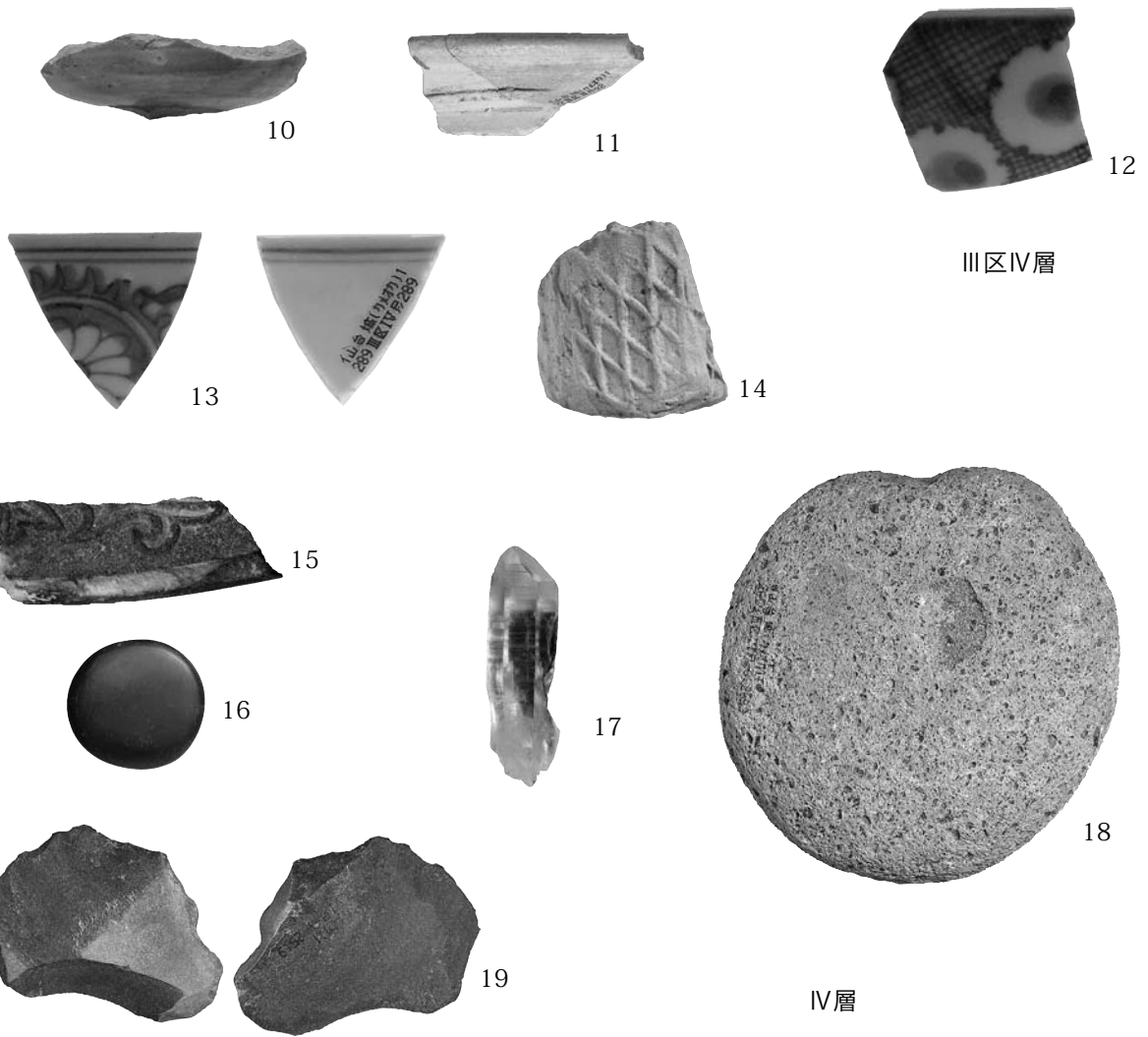
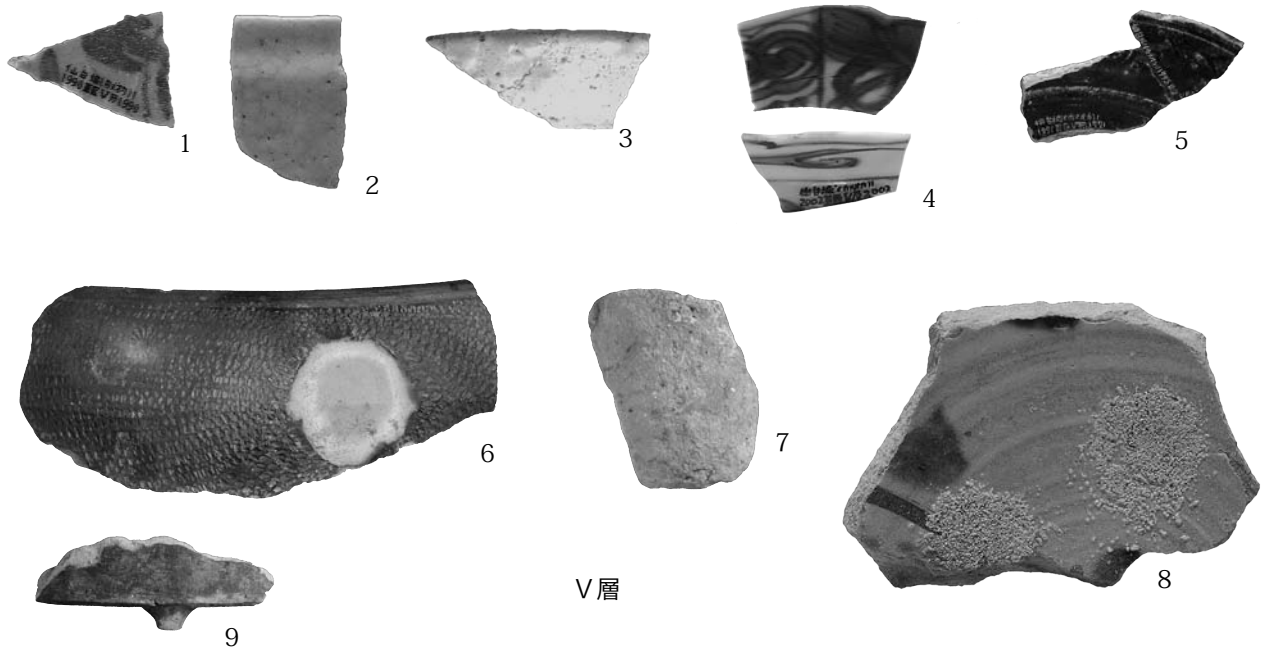
11



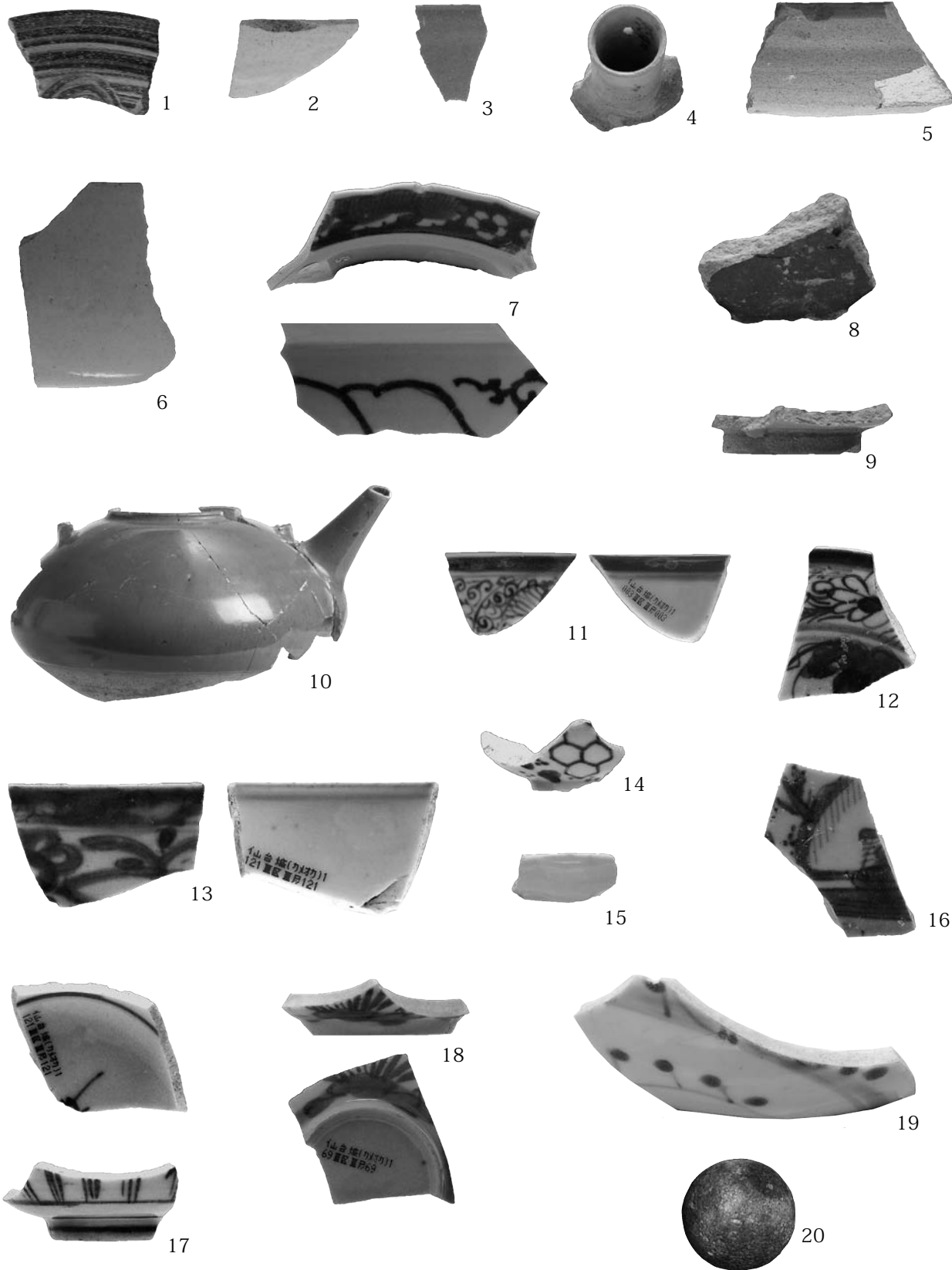
12

縄文時代の調査

出土遺物写真



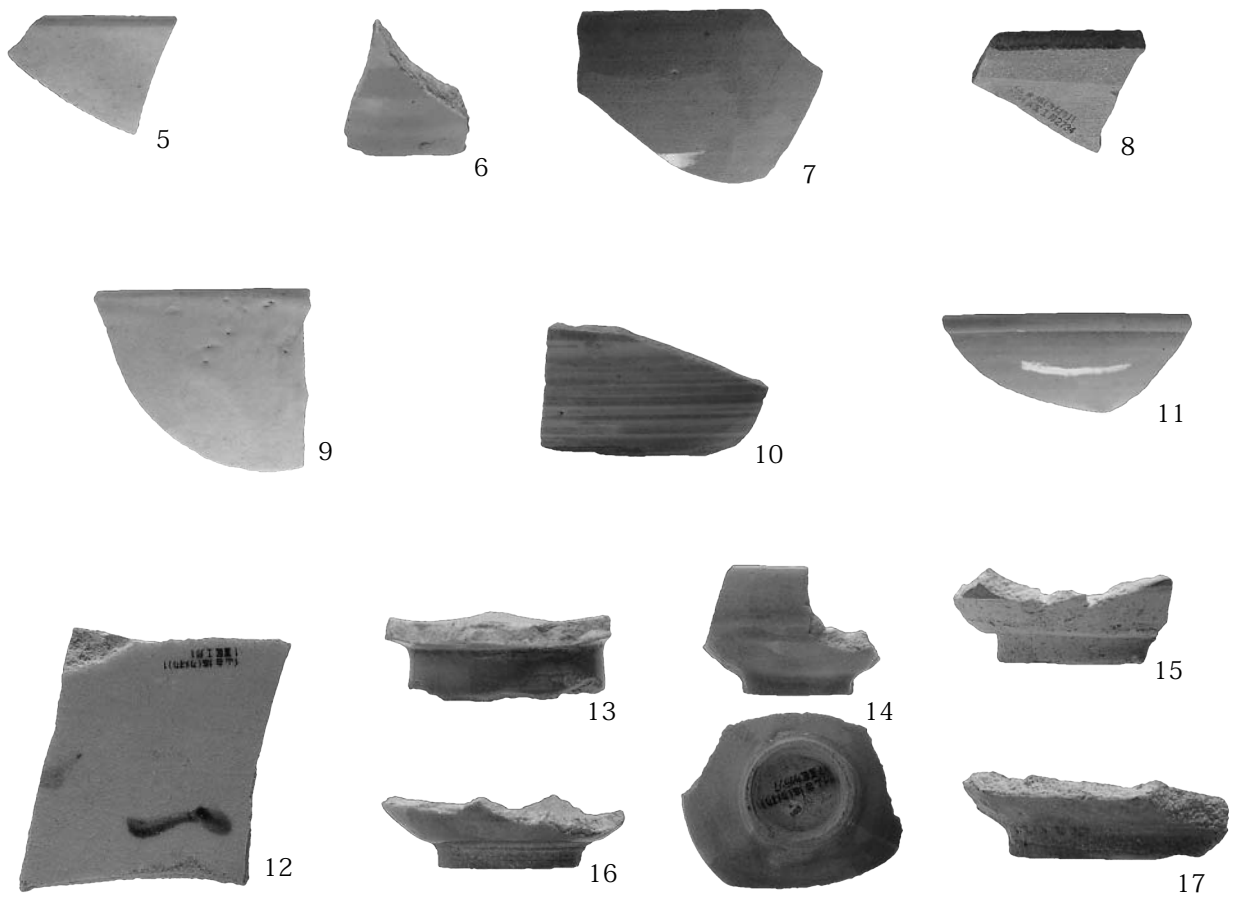
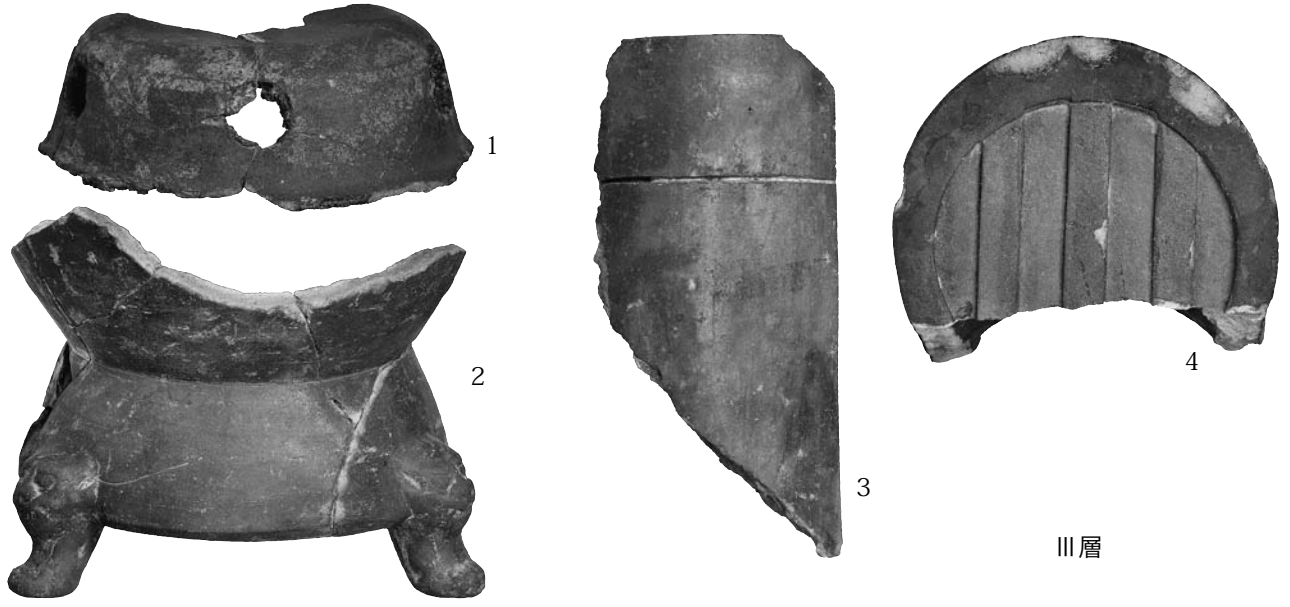
图版 122 III区出土遺物



III層

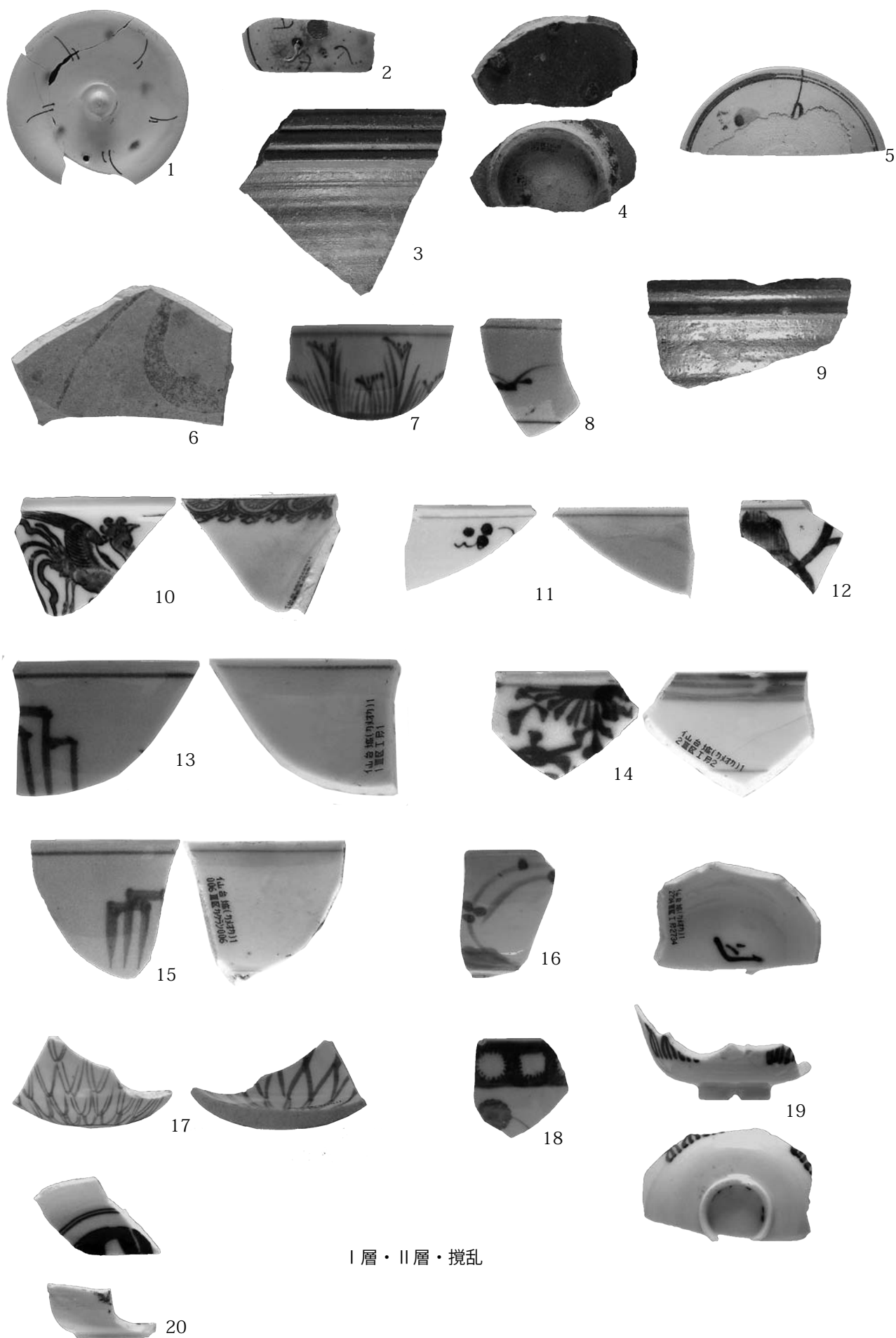
図版 123 III区出土遺物

出土遺物写真



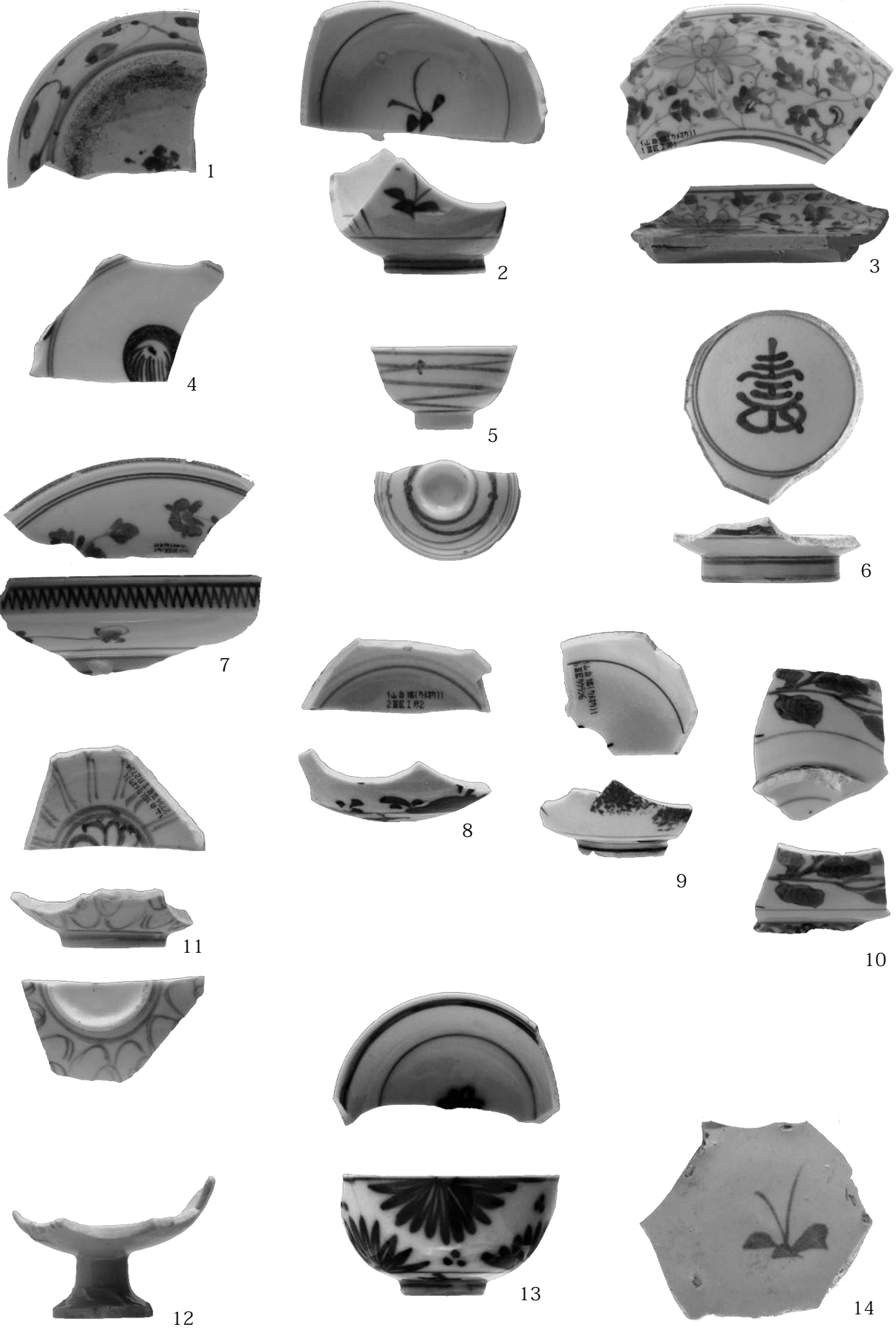
I層・II層

図版 124 III区出土遺物



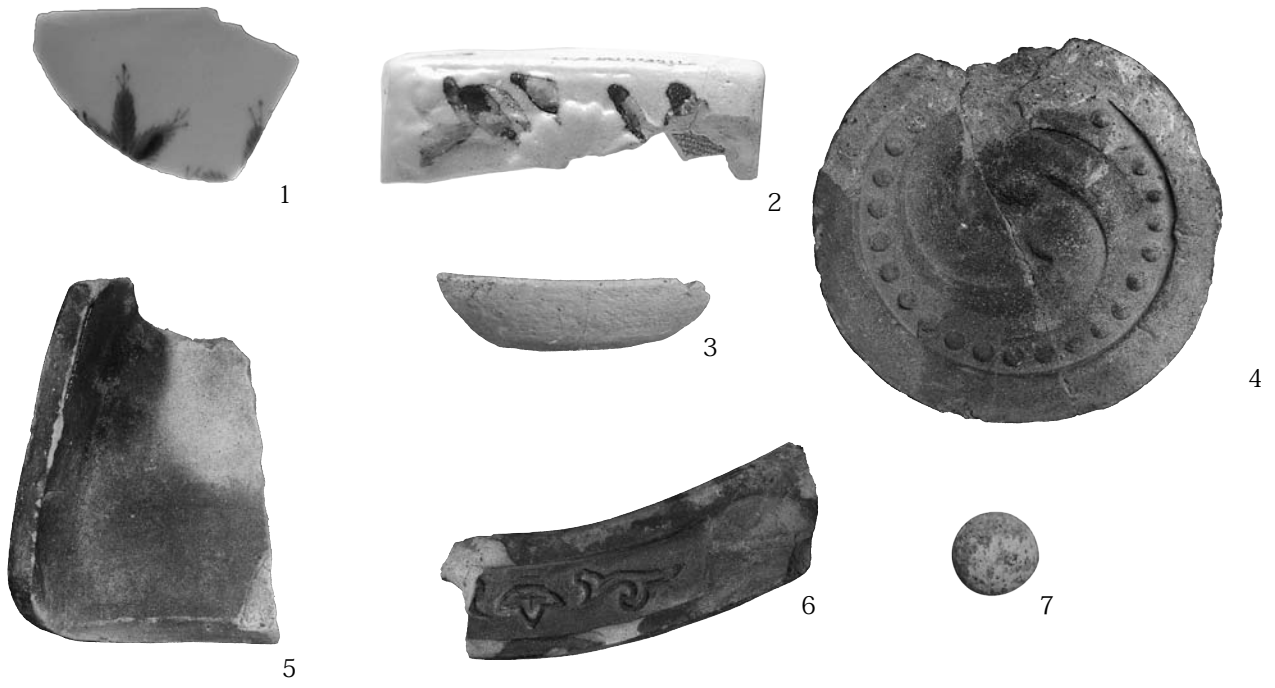
I層・II層・攪乱

図版 125 III区出土遺物



I層・II層・攪乱

图版 126 III区出土遺物



I層・攪乱

報告書抄録

ふりがな	せんだいじょうあと ―せんだいしこうそくてつどうとうざいせんかんけいいせきはつちょうさほうこくしょⅡ―					
書名	仙台城跡 ―仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書Ⅱ―					
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書					
シリーズ番	第 342 集					
編著者名	原河英二・志賀雄一・大久保弥生・土橋尚起・関美男・福井流星					
編集機関	仙台市教育委員会					
所在地	〒 980-8671 宮城県仙台市青葉区国分町三丁目 7 番 1 号 TEL022 (214) 8893 ~ 8894					
発行年月日	2009 年 3 月					
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号			
		4100	1033			
		北緯	東経			
せんだいじょうあと 仙台城跡	みやぎけんせんだいし 宮城県仙台市 あおぼくかわうちちない 青葉区川内地内	38° 15' 37"	140° 50' 55"	2006.6.5 ~ 2007.2.26	2000m ²	仙台市高速鉄道東西線建設事業に伴う発掘調査
	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
	散布地 武家屋敷	縄文時代 江戸時代	柱列跡 溝跡・井戸跡 土坑 道路状遺構 土手状遺構 池跡・石垣 祭祀遺構 埋甕	縄文土器 石器・陶磁器 瓦 金属製品 木製品 土製品		

仙台市文化財調査報告書 第342集

仙台城跡

—仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書Ⅱ—

2009年3月

発行 仙台市教育委員会
宮城県仙台市青葉区国分町三丁目7番1号
文化財課 022(214)8893～8894

印刷 八幡印刷株式会社
本社 福島県いわき市平字田町82-13
TEL 0246(23)1471
工場 福島県いわき市内郷町桜本135-2